（様式４）

一般社団法人　薬学教育評価機構

（　調　書　）

薬学教育評価　基礎資料

（平成２６年５月１日現在）

東京薬科大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

１　記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。平成27年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成26年5月1日となります。

２　記述に際し、各シートの[注]を確認し、作成してください。

３　各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]は消去しないでください。

４　各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第２位を四捨五入して小数点第１位まで表示してください。

５　説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。

６　提出形態について

・基本的にＡ４判で作成してください。

・表紙および目次を作成し、全体に通しページを付してください。

・両面印刷して加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。

・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。

・PDFファイルに変換したデータを自己点検・評価書と同じCD-Rに保存してください。

薬学教育評価　基礎資料

（目次）

	資料概要	ページ
基礎資料１	学年別授業科目	1～7
基礎資料２	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	8～10
基礎資料３	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のＳＢＯs に該当する科目	11～75
基礎資料４	カリキュラムマップ	76～86
基礎資料５	語学教育の要素	87
基礎資料６	４年次の実務実習事前学習スケジュール	88～92
基礎資料７	学生受入状況について	93
基礎資料８	教員・事務職員数	94
基礎資料９	専任教員年齢構成	95
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	96～118
基礎資料11	卒業研究の配属状況	119
基礎資料12	講義室等の数と面積	120
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	121
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	122
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	123～559

（基礎資料１－１）学年別授業科目

※前期科目、通年科目は5月1日現在の履修者数。後期科目は10/1現在の履修者数。
※（）内は履修者数のうち1年生以外の履修者の数

	1　年　次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	数学	前期・後期(通年)	102	4	409 (3)	コ			2
	情報リテラシーⅠ	前期	101	4	403 (1)	コ			1
	情報リテラシー演習	前期	50	8	401	コ			1
	薬学入門								
	薬学入門	前期	400	1	400	コ			1
	薬学入門								
	薬学入門演習Ⅰ（※SGDは100クラス）	前期	200	2	400	演	S		1
	薬学入門演習Ⅱ	後期	33	12	395	演	S		1
	(択)健康科学（1年選択）	前期・後期	57	3	172	コ			(各期)1
	(択)地球環境概論（1年選択）	前期・後期	181	2	361	コ			(各期)1
	(択)芸能・文化（1年選択）	前期	40	2	80	コ			1
	(択)芸能・文化（1年選択）								
	(択)健康スポーツ（1年選択）	前期	38	7	268	コ			1
	(択)コミュニケーション論（1年選択）								
	(択)コミュニケーション論（1年選択）	後期	12	4	49	コ			1
	(択)コミュニケーション論（1年選択）								
	(択)情報リテラシーⅡ（1年選択）	後期	27	4	106	コ			1
	(択)哲学（1・2年選択）	後期	92	1	92 (5)	コ			1
	(択)現代経済論（1・2年選択）	前期	54	1	54 (2)	コ			1
	(択)国際関係論（1・2年選択）	後期	18	1	18	コ			1
	(択)美術・イラストレーション（1・2年選択）	前期	80	1	80 (8)	コ			1
	(択)文章表現（1・2年選択）								
	(択)文章表現（1・2年選択）	前期・後期	23	4	90 (10)	コ			(各期)1
	(択)法学（1・2年選択）	前期・後期	75	4	298 (10)	コ			(各期)1
	英語（講読）	前期・後期(通年)	34	12	411 (4)	コ			2
	英語（コミュニケーション）								
	英語（コミュニケーション）	前期・後期(通年)	35	12	416 (9)	コ			2
	(択)英語検定Ⅰ（1・2年選択）	前期	28	6	169 (9)	コ			1
	(択)英会話Ⅰ（1・2年選択）	前期	30	4	118 (2)	コ			1
	(択)ドイツ語Ⅰ（1・2年選択）	前期	31	3	94 (6)	コ			1
	(択)中国語Ⅰ（1・2年選択）	前期	12	2	24	コ			1
	(択)フランス語Ⅰ（1・2年選択）	前期	14	1	14	コ			1
	(択)英語検定Ⅱ（1・2年選択）	後期	39	4	157 (4)	コ			1
	(択)英会話Ⅱ（1・2年選択）	後期	23	5	113 (1)	コ			1
	(択)ドイツ語Ⅱ（1・2年選択）	後期	28	3	84 (1)	コ			1
	(択)中国語Ⅱ（1・2年選択）	後期	12	2	24	コ			1
	(択)フランス語Ⅱ（1・2年選択）	後期	13	1	13	コ			1
薬学専門教育	物理学	前期	101	4	405 (2)	コ			1
	化学結合論	前期	107	4	429 (17)	コ			1
	化学平衡論	前期	102	4	409 (5)	コ			1
	有機化学Ⅰ	前期	115	4	461 (46)	コ			1
	有機化学演習Ⅰ	前期	112	4	447 (34)	演			1
	機能形態学Ⅰ	前期	105	4	418 (8)	コ			1
	生物学	前期	104	4	414 (6)	コ			1
	細胞生物学	前期	101	4	402	コ			1
	分子物理化学	後期	159	4	635 (221)	コ			1
	分析化学	後期	101	4	404 (3)	コ			1
	無機化学	後期	103	4	410 (6)	コ			1
	有機化学Ⅱ	後期	119	4	476 (65)	コ			1
	有機化学演習Ⅱ	後期	131	4	523 (109)	演			1
	機能形態学Ⅱ	後期	107	4	429 (21)	コ			1
	生化学Ⅰ	後期	107	4	426 (20)	コ			1
	生化学演習	後期	104	4	417 (13)	演			1
	微生物学Ⅰ	後期	101	4	404 (2)	コ			1
	医療倫理	後期	101	4	402 (3)	コ			1
自由科目	(択)基礎物理学集中講義	前期	398	1	398	コ			0.5
	(択)基礎生物学集中講義	前期	199	2	398	演	S		0.5
実習	生物系実習Ⅰ(基礎生物学実習)（1班2名で実施）	後期	132	3	395	実			1.5
	化学系実習Ⅰ(基礎有機化学実習)（1班2名で実施）	後期	132	3	395	実			1.5
演習	(択)ゼミナール	後期	21	19	395	演	S		1
	(択)物理系ゼミナール	後期		3	58		S		
	(択)化学系セミナール	後期		5	110		S		
	(択)生物系ゼミナール	後期		4	88		S		
	(択)総合ゼミナール	後期		7	139		S		
単位数の合計									（必須科目） 32
									（選択科目） 24
									合計 56

（凡例）
講義＝コ、PBL/SGD＝S、実習＝実、演習=演

［注］　1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S

6　行は適宜加除し、記入してください。

※1・2年選択の文章表現、英語検定Ⅰの履修者に3年次生1名を含む

（基礎資料１－２）学年別授業科目

※前期科目、通年科目は5月1日現在の履修者数。後期科目は10/1現在の履修者数。
※（）内は履修者数のうち2年生以外の履修者の数

	２　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(択)哲学（1・2年選択）	後期	92	1	92 (87)	コ			1
	(択)現代経済論（1・2年選択）	前期	54	1	54 (52)	コ			1
	(択)国際関係論（1・2年選択）	後期	18	1	18 (18)	コ			1
	(択)美術・イラストレーション（1・2年選択）	前期	80	1	80 (72)	コ			1
	(択)文章表現（1・2年選択）	前期・後期	23	4	90 (81)	コ			1
	(択)法学（1・2年選択）	前期・後期	75	4	298 (288)	コ			1
	薬学英語	前期・後期(通年)	42	12	503 (1)	コ			2
	(択)英語検定Ⅰ（1・2年選択）	前期	28	6	169 (161)	コ			1
	(択)英会話Ⅰ（1・2年選択）	前期	30	4	118 (116)	コ			1
	(択)ドイツ語Ⅰ（1・2年選択）	前期	31	3	94 (88)	コ			1
	(択)中国語Ⅰ（1・2年選択）	前期	12	2	24 (24)	コ			1
	(択)フランス語Ⅰ（1・2年選択）	前期	14	1	14 (14)	コ			1
	(択)英語検定Ⅱ（1・2年選択）	後期	39	4	157 (153)	コ			1
	(択)英会話Ⅱ（1・2年選択）	後期	23	5	113 (112)	コ			1
	(択)ドイツ語Ⅱ（1・2年選択）	後期	28	3	84 (83)	コ			1
	(択)中国語Ⅱ（1・2年選択）	後期	12	2	24 (24)	コ			1
	(択)フランス語Ⅱ（1・2年選択）	後期	13	1	13 (13)	コ			1
薬学専門教育	物理的平衡論	前期	126	4	503 (2)	コ			1
	機器分析学	前期	125	4	501 (1)	コ			1
	臨床分析化学	前期	126	4	502 (1)	コ			1
	熱力学・反応速度論	後期	143	4	570 (46)	コ			1
	放射化学	後期	131	4	523 (10)	コ			1
	有機化学Ⅲ	前期	139	4	557 (45)	コ			1
	機器スペクトル演習	前期	138	4	551 (31)	演			1
	植物薬品学	前期	129	4	516 (9)	コ			1
	有機化学Ⅳ	後期	148	4	591 (70)	コ			1
	生物有機化学	後期	136	4	544 (25)	コ			1
	漢方薬物学	後期	128	4	512 (4)	コ			1
	機能形態学Ⅲ	前期	132	4	526 (14)	コ			1
	生化学Ⅱ	前期	129	4	516 (6)	コ			1
	微生物学Ⅱ	前期	127	4	508 (4)	コ			1
	生化学Ⅲ	後期	128	4	512	コ			1
	免疫学	後期	129	4	515 (9)	コ			1
	健康保持と疾病予防	後期	126	4	505	コ			1
	物理薬剤学	前期	126	4	505 (2)	コ			1
	応用統計学	前期	126	4	502	コ			1
	生物薬剤学	後期	130	4	521 (8)	コ			1
	医療心理	前期	125	4	500	コ			1
	医療心理								
	生理活性物質概論	前期	129	4	515 (9)	コ			1
	薬の効き方Ⅰ	後期	131	4	523 (14)	コ			1
	疾病と薬物治療Ⅰ	後期	132	4	527 (11)	コ			1
	疾病と薬物治療Ⅱ	後期	126	4	502	コ			1
	薬学と社会	後期	128	4	511 (3)	コ			1
	薬学と社会								
実習	物理系実習Ⅰ（分析化学実習） （実習内容により1班4～8名で実施）	前期	125	4	499	実	S		1.5
	化学系実習Ⅱ（有機化学・漢方薬物学実習） （有機化学は2名1班で実施、 漢方薬物は個人未知検）	前期	125	4	499	実			1.5
	物理系実習Ⅱ（物理化学・分析化学実習） （実習内容により1班2～3名で実施）	後期	126	4	505	実			1.5
	生物系実習Ⅱ（微生物・免疫学実習） （1班3～4名で実施）	後期	125	4	500	実	S		1.5
演習	(択)ゼミナール（前期）	前期	24	21	499	演	S		1
	(択)ゼミナール（後期）	後期	21	24	499	演	S		1
	(択)物理系ゼミナール	前期		4	93		S		
	(択)化学系セミナール	前期・後期		4・4	208		S		
	(択)生物系ゼミナール	前期・後期		4・4	170		S		
	(択)薬・疾病ゼミナール	後期		4	83		S		
	(択)総合系ゼミナール	前期・後期		9・12	444		S		
単位数の合計						（必須科目）			34
						（選択科目）			18
						合計			52

（凡例）
講義＝コ、PBL/SGD＝Ｓ、実習＝実、演習=演

［注］
１　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
２　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

３　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
４　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
５　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ
６　行は適宜加除し、記入してください。

※1・2年選択の文章表現、英語検定Ⅰの履修者に3年次生1名を含む

（基礎資料１－３）学年別授業科目

※前期科目、通年科目は5月1日現在の履修者数。後期科目は10/1現在の履修者数。
※（）内は履修者数のうち3年生以外の履修者の数

	３　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	実用薬学英語	前期・後期(通年)	105	4	420	コ			2
薬学専門教育	医薬品化学Ⅰ	前期	107	4	429 (7)	コ			1
	天然医薬品化学	前期	108	4	432 (8)	コ			1
	医薬品化学Ⅱ	後期	108	4	432 (8)	コ			1
	病原微生物学	前期	104	4	417	コ			1
	バイオ医薬品とゲノム情報	前期	106	4	423 (3)	コ			1
	臨床免疫学	前期	106	4	422 (3)	コ			1
	生活環境と健康	前期	105	4	419 (1)	コ			1
	栄養素の化学	前期	105	4	419	コ			1
	化学物質と生体影響	後期	111	4	443 (20)	コ			1
	食品と健康	後期	105	4	421 (1)	コ			1
	製剤工学	前期	106	4	424 (4)	コ			1
	薬物送達学	後期	104	4	415	コ			1
	薬の効き方Ⅱ	前期	107	4	429 (8)	コ			1
	疾病と薬物治療Ⅲ	前期	106	4	423 (4)	コ			1
	疾病と薬物治療Ⅳ	前期	106	4	423 (4)	コ			1
	医療情報	前期	104	4	417	コ			1
	医療情報								
	テーラーメイド医療	後期	112	4	446 (22)	コ			1
	薬の効き方Ⅲ	後期	129	4	517 (91)	コ			1
	疾病と薬物治療Ⅴ	後期	104	4	415	コ			1
	疾病と薬物治療Ⅵ	後期	105	4	419 (1)	コ			1
	疾病と薬物治療Ⅶ	後期	108	4	433 (8)	コ			1
	一般用医薬品学	後期	112	4	446 (24)	コ			1
	調剤学	後期	104	4	415	コ			1
	薬事関連法規と制度Ⅰ	後期	108	4	430 (9)	コ			1
	薬事関連法規と制度Ⅰ								
	(択)病理組織学	前期	188	2	376	コ			1
	(択)臨床医学概論	前期	160	2	320 (1)	コ			1
	(択)薬局管理学	後期	47	2	94	コ			1
	(択)構造有機化学	前期	39	2	78	コ			1
	(択)医薬品開発	前期	156	2	312	コ			1
	(択)反応有機化学	後期	12	2	24	コ			1
	(択)細胞工学	前期	76	2	151	コ			1
	(択)香粧品科学	前期	63	2	126 (2)	コ			1
	(択)東洋医学概論	後期	88	2	175	コ			1
	(択)薬剤経済学	後期	8	1	8	コ			1
	(択)多変量解析	前期	67	1	67 (1)	コ			1
自由科目	(択)インターンシップ（3・4・5選択科目）	前期（8月）			56 (55)	演			1
	（履修者内訳：3年1名、4年19名、5年36名　計56名）								
実習	化学系実習Ⅲ（天然医薬品化学・医薬品合成実習） （天然医薬品化学は個人未知検、	前期	139	3	417	実			1.5
	生物系実習Ⅲ（生化学実習） （実習内容により2～8名で実施）	前期	138	3	415	実	S		1.5
	医療系実習Ⅰ（病態生理学・薬物安全性学実習） （実習内容により2～8名で実施）	後期	138	3	414	実	S		1.5
	創薬系実習（薬剤学実習） （実験内容により2名～8名で実施）	後期	138	3	414	実	S		1.5
	薬・疾病系実習（医療情報実習）	後期	138	3	414	実			1
演習	(択)ゼミナール（前期）	前期	21	20	416	演	S		1
	(択)ゼミナール（後期）	後期	22	19	414	演	S		1
	(択)健康・環境セミナール	前期・後期		4・4	185		S		
	(択)薬・疾病ゼミナール	前期・後期		4・4	173		S		
	(択)創薬ゼミナール	前期・後期		4・4	199		S		
	(択)総合系ゼミナール	前期・後期		8・7	273		S		
							S		
単位数の合計							（必須科目）		33
							（選択科目）		14
							合計		47

（凡例）
講義＝コ、PBL/SGD＝Ｓ、実習＝実、演習=演

［注］
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－４）学年別授業科目

※前期科目、通年科目は5月1日現在の履修者数。後期科目は10/1現在の履修者数。
※（）内は履修者数のうち4年生以外の履修者の数

	４　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	薬局方総論	前期	136	3	408	コ			1
	健康と環境Ⅰ	前期	136	3	407	コ			1
	健康と環境Ⅱ	前期	136	3	408	コ			1
	薬の効き方Ⅳ	前期	135	3	406	コ	S		1
	薬の効き方Ⅳ								
	疾病と薬物治療Ⅷ	前期	136	3	408	コ			1
	薬事関連法規と制度Ⅱ	前期	136	3	409	コ			1
	薬事関連法規と制度Ⅱ								
自由科目	(択)インターンシップ（3・4・5選択科目）	前期（8月）			56　(37)	演			1
	（履修者内訳：3年1名、4年19名、5年36名　計56名）								
実習	医療系実習Ⅱ（薬理学実習） （1班4～5名で実施）	前期	135	3	406	実		S	1.5
	健康・環境実習（衛生化学・公衆衛生学実習） （1班4～5名で実施）	前期	136	3	407	実		S	1.5
	事前実務実習								
	事前実務実習	前期	45	9	407	実		S	5
	事前実務実習								
	課題研究	前期・後期(通年)	1～17	45	1285　(861)	実	演	S	(14)
	課題研究（実験研究コース）					実	演	S	
	課題研究（調査研究コース）						演	S	
演習	科別特論-ⅰ	前期	135	3	406	コ			1
	科別特論-ⅱ	前期	135	3	406	コ			1
	医療薬学特論-ⅰ 臨床で活躍する薬剤師を目指して			1	141	コ			
	医療薬学特論-ⅱ 医薬品開発と臨床試験			1	141	コ			
	医療薬物薬学特論-ⅰ 創薬概論			1	122	コ			
	医療薬物薬学特論-ⅱ データ解析集中講座			1	122	コ			
	医療衛生薬学特論-ⅰ 薬剤師の職能と自己将来展望			1	143	コ			
	医療衛生薬学特論-ⅱ 先端香粧品科学			1	143	コ			
	科別演習Ⅰ-ⅰ	前期	68	6	406	演	S		1
	科別演習Ⅰ-ⅱ	前期	68	6	407	演	S		1
	医療薬学演習Ⅰ-ⅰ 臨床で活躍する薬剤師を目指して		141	1	141	演	S		
	医療薬学演習Ⅰ-ⅱ 医薬品開発と臨床試験		141	1	141	演			
	医療薬物薬学演習Ⅰ-ⅰ 医薬品創薬と基礎（物理系・化学系）		122	1	122	演			
	医療薬物薬学演習Ⅰ-ⅱ 医薬品創薬と基礎（生物系・医療薬学系）		122	1	122	演			
	医療衛生薬学演習Ⅰ-ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり		36	4	143	演	S		
	医療衛生薬学演習Ⅰ-ⅱ 臨床応用薬学への課題研究チュートリアル		36	4	144	演	S		
	総合化学演習	前期	136	3	409	演			0.5
	総合生物演習	前期	136	3	408	演			0.5
	総合創薬演習	前期	136	3	408	演			0.5
	総合物理演習	後期	211	2	421	演			0.5
	総合衛生演習	後期	211	2	421	演			0.5
	総合薬・疾病演習	後期	211	2	421	演			0.5
	総合法規演習	後期	211	2	421	演			0.5
	科別英語特論	前期	9	44	406	演			1
	事前実務学習	後期	211	2	422	演			3
	事前実務学習								
単位数の合計						（必須科目）			25.5
						（選択科目）			1
						合計			26.5

（凡例）
講義＝コ、PBL/SGD＝Ｓ、実習＝実、演習=演

［注］　１　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

２　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

３　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

４　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

５　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで
　　記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して
　　作成してください。

　　「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝

６　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－５）学年別授業科目

※前期科目、通年科目は5月1日現在の履修者数。後期科目は10/1現在の履修者数。
※（）内は履修者数のうち5年生以外の履修者の数

	５　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	アドバンス英語	前期・後期(通年)	9	43	397	コ	演		1
薬学専門教育	特許・レギュラトリアルサイエンス	前期・後期	379	1	379	コ			1
	(択)医療経済学特論（5・6年選択）	前期	164	1	164 (19)	コ			1
	(択)治験の実際（5・6年選択）	前期	165	1	165 (63)	コ			1
	(択)医薬品開発特論Ⅰ（5・6年選択）	前期	164	1	164 (48)	コ			1
	(択)医薬品開発特論II（5・6年選択）	前期	113	1	113 (29)	コ			1
	(択)バイオスタティスティクスⅠ（5・6年選択）	前期	165	1	165 (16)	コ			1
	(択)医薬品マーケティングの基礎（5・6年選択）	前期	165	1	165 (18)	コ			1
自由科目	(択)インターンシップ（3・4・5選択科目）	前期（8月）			56 (20)	演			1
	（履修者内訳：3年1名、4年19名、5年36名　計56名）								
実習	実務実習	前期・後期(通年)	132	3	397	実			20
	課題研究	前期・後期(通年)	1～15	45	1285 (888)	実	演	S	(14)
	課題研究（実験研究コース）					実	演	S	
	課題研究（調査研究コース）						演	S	
演習	科別演習Ⅱ－ｉ	前期・後期	33	12	397	演		S	(1)
	医療薬学演習Ⅱ－ｉラボラトリー演習(1)	前期・後期	11	13	138	演		S	
	医療薬物薬学演習Ⅱ－ｉラボラトリー演習	前期・後期	10	12	123	演		S	
	医療衛生薬学演習Ⅱ－ｉラボラトリー演習(1)	前期・後期	8	18	136	演		S	
単位数の合計						（必須科目）			22
						（選択科目）			7
						合計			29

（凡例）
講義＝コ、PBL/SGD＝Ｓ、実習＝実、演習=演

［注］　１　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

２　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

３　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

４　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

５　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ

６　行は適宜加除し、記入してください。

※ 科別演習Ⅱ－ⅱ（1単位）はカリキュラム変更により平成26年度5年次より医療情報実習（1単位）へ移行。6年次必須科目の合計単位数は19.5となる。

（基礎資料１－６）学年別授業科目

※前期科目、通年科目は5月1日現在の履修者数。後期科目は10/1現在の履修者数。

※（）内は履修者数のうち6年生以外の履修者の数

	６　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択)医療経済学特論（5・6年選択）	前期	164	1	164 (145)	コ			1
	(択)治験の実際（5・6年選択）	前期	165	1	165 (102)	コ			1
	(択)医薬品開発特論Ⅰ（5・6年選択）	前期	164	1	164 (116)	コ			1
	(択)医薬品開発特論II（5・6年選択）	前期	113	1	113 (84)	コ			1
	(択)バイオスタティスティクスⅠ（5・6年選択	前期	165	1	165 (149)	コ			1
	(択)医薬品マーケティングの基礎（5・6年選択	前期	165	1	165 (147)	コ			1
	(択)バイオスタティスティクスⅡ（6年選択）	前期	91	1	91	コ			1
	(択)医薬品マーケティング演習（6年選択）	前期	43	1	43	コ			1
	(択)マーケティングⅡ（6年選択）	前期	20	1	20	コ			1
	(択)医薬品生産特論（6年選択）	前期	81	1	81	コ			1
	(択)感染制御学特論（6年選択）	前期	29	1	29	コ			1
	(択)緩和医療の最前線（6年選択）	前期	149	1	149	コ			1
	(択)高齢者医療（6年選択）	前期	29	1	29	コ			1
	(択)病態生理学特論（6年選択）	前期	154	1	154	コ			1
	(択)臨床薬理学特論（6年選択）	前期	165	1	165	コ			1
	(択)病理解剖学特論（6年選択）	後期	149	1	149	コ			1
	(択)臨床薬物動態学特論（6年選択）	後期	149	1	149	コ			1
	(択)定量的構造活性相関（6年選択）	後期	132	1	132	コ			1
	(択)リード化合物の創製と最適化（6年選択）	後期	132	1	132	コ			1
	(択)病原微生物学特論（6年選択）	後期	154	1	154	コ			1
	(択)ゲノム情報特論（6年選択）	後期	154	1	154	コ			1
実習	課題研究	前期・後期(通年)	1～17	45	1285 (821)	実	演	S	14
	課題研究（実験研究コース）					実	演	S	
	課題研究（調査研究コース）						演	S	
演習	アドバンス法規演習	前期	146	3	437	演		S	0.5
	アドバンス化学演習	後期	451	1	451	演			0.5
	アドバンス物理演習	後期	451	1	451	演			0.5
	アドバンス生物演習	後期	451	1	451	演			0.5
	アドバンス健康・環境演習	後期	436	1	436	演			0.5
	アドバンス創薬演習	後期	436	1	436	演			0.5
	アドバンス薬・疾病演習	後期	436	1	436	演			0.5
	科別演習Ⅱ－ⅰ	前期・後期(通年)	10	44	438	演		S	1
	科別演習Ⅱ－ⅱ	前期・後期(通年)	10	44	438	演		S	1
	医療薬学演習Ⅱ－ⅰラボラトリー演習(1)	前期・後期(通年)	11	14	150	演		S	
	医療薬学演習Ⅱ－ⅱラボラトリー演習(2)	前期・後期(通年)	11	14	150	演		S	
	医療薬物薬学演習Ⅱ－ⅰラボラトリー演習	前期・後期(通年)	11	12	133	演		S	
	医療薬物薬学演習Ⅱ－ⅱ学術論文演習	前期・後期(通年)	11	12	133	演		S	
	医療衛生薬学演習Ⅱ－ⅰラボラトリー演習(1)	前期・後期(通年)	9	18	155	演		S	
	医療衛生薬学演習Ⅱ－ⅱラボラトリー演習(2)	前期・後期(通年)	9	18	155	演		S	
	科別演習Ⅱ－ⅲ	後期	150	3	451	演			1
	医療薬学演習Ⅱ－ⅲ	後期	154	1	154	演			
	医療薬物薬学演習Ⅱ－ⅲ	後期	138	1	138	演			
	医療衛生薬学演習Ⅱ－ⅲ	後期	159	1	159	演			
単位数の合計							（必須科目）		20.5
							（選択科目）		21
							合計		41.5

（凡例）

講義＝コ、PBL/SGD＝Ｓ、実習＝実、演習=演

［注］ １　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

２　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

３　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

４　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

５　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ

６　行は適宜加除し、記入してください。

※ 科別演習Ⅱ－ⅱ（1単位）はカリキュラム変更により平成26年度5年次より医療情報実習（1単位）へ移行。6年次必須科目の合計単位数は19.5となる。

（基礎資料１－７）学年別授業科目

（基礎資料1－1)から(基礎資料1－6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

（１）下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	21	26.5
教養教育科目	23	25
語学教育科目	16	20
医療安全教育科目	6	10.0
生涯学習の意欲醸成科目	3	9
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	7	8

（２）学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学　　年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
１　年　次	32	24	56
２　年　次	34	18	52
３　年　次	33	14	47
４　年　次	25.5	1	26.5
５　年　次	22	7	29
６　年　次	20.5	21	41.5
合計	167	85	252

※必須科目の合計単位数が卒業に必要な166単位を上回るのはカリキュラム変更によるもの（詳細は資料1-6参照）

（基礎資料２－１）在籍学生数

			１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次	合計	
入学年度における	入学定員数		420	420	420	420	420	420	2,520	A
	編入定員数		0	0	0	0	0	0	0	B
	入学者数		401	517	432	430	428	453	2,661	
基準日における	各学年の在籍学生数		430	535	430	424	397	464	2,680	C
	編入学生数（内）※		0	0	0	0	0	0	0	D
	留年者数（内）		29	35	15	18	0	27	124	
	留年者の入学年度	平成18年度	0	0	0	0	0	10	10	
		平成19年度	0	0	0	1	0	13	14	
		平成20年度	0	1	0	5	0	4	10	
		平成21年度	0	0	0	3	0		3	
		平成22年度	0	0	7	9			16	
		平成23年度	0	15	8				23	
		平成24年度	1	19					20	
		平成25年度	28						28	
		平成26年度							0	

C／（A＋B）	1.06
D／B	0.00

※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。

［注］　１　「C／（A＋B）」と「D／B」については、小数点以下第３位を四捨五入し、小数点以下第２位まで表示してください。

２　「編入学生数（内）」および「留年者数（内）」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

３　平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

（基礎資料２－２）休学者数、留年者数、退学者数および編入学者数　　平成26年度版 ハンドブック P108 様式4（基礎資料2-2） 改定

	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度			
総在籍学生数	1,716				2,115				2,509				2,570				2,682				2,662			
	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数
１年次	8	32(4)	14	0	13	68(1)	9	0	12	53(8)	22	0	6	36(3)	10	0	15	41(2)	16	0	12	42(6)	20	0
２年次	13	80(3)	15	0	24	62(10)	15	0	17	26(2)	12	0	9	39(1)	12	0	10	42(7)	10	0	10	30	8	0
３年次	4	21(1)	5	0	7	18(1)	2	0	7	30(3)	5	0	3	18(1)	3	0	8	20(3)	6	0	6	21(2)	6	0
４年次	5	2	1	0	4	10	0	0	9	10	1	0	11	9	1	0	17	18	1	0	14	19	1	0
５年次					1	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
６年次									1	8	0	0	5	31	1	0	25	27	2	0	23	50	2	0
合計	30	135	35	0	49	159	26	0	47	127	42	0	34	133	27	0	75	148	35	0	65	162	38	0

※1. 前期休学、後期在籍の者及び前期在籍、後期休学の者は1名としてカウント。前期・後期それぞれに休学している者も1名としてカウント。
※2. 年度中に休学と退学した者は、休学者と退学者それぞれにカウントしている。
※3. 退学者数には3/31付退学・除籍者数を含む。
※4. 3/31付退学・除籍者は総在籍学生数に含む。なお、総在籍学生数はクラス在籍者人数表による。
※5. 平成26年度の総在籍学生数には平成26年9月卒業生は含まない。
※6. 留年者数は総学生数のうち、次年度留年が確定した者の人数。（除籍対象者、年度末退学者を含む）括弧内は除籍対象者の数。

［注］　平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

（基礎資料2－3） 学士課程修了状況

		平成23年度 （平成24年3月卒業）	平成24年度 （平成25年3月卒業）	平成25年度 （平成26年3月卒業）	平成26年度 （平成27年3月卒業）	平成27年度 （平成28年3月卒業）	平成28年度 （平成29年3月卒業）	入学者総数		卒業率 （%）
卒業者総数		334 名	375 名	385 名	405 名	名	名			
卒業者の入学年度内訳	平成18年度入学者	334 名	47 名	11(2) 名	7 名	名	名	平成18年度	440 名	75.9%
	平成19年度入学者	名	328 名	58(4) 名	11 名	名	名	平成19年度	458 名	71.6%
	平成20年度入学者	名	名	309(1) 名	44 名	名	名	平成20年度	427 名	72.4%
	平成21年度入学者	名	名	名	343 名	名	名	平成21年度	453 名	75.7%
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成22年度	428 名	0.0%
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成23年度	430 名	0.0%

※括弧内は翌年9月に卒業した者の人数

（基礎資料３－１）薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目

[注]１薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
２同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
A全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
（１）生と死						
【生命の尊厳】						
１） 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。（知識・態度）	医療倫理					アドバンス法規演習
	薬学入門					
	哲学	哲学				
				課題研究（調査研究コース）		
２） 誕生に関わる倫理的問題（生殖技術、クローン技術、出生前診断など）の概略と問題点を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報			アドバンス法規演習
			細胞工学	課題研究（調査研究コース）		
３） 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。	医療倫理					アドバンス法規演習
	哲学	哲学				緩和医療の最前線
				課題研究（調査研究コース）		
４） 死に関わる倫理的問題（安楽死、尊厳死、脳死など）の概略と問題点を説明できる。	医療倫理					アドバンス法規演習
	法学	法学				緩和医療の最前線
				課題研究（調査研究コース）		
５） 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。（態度）	薬学入門演習Ⅱ					アドバンス法規演習
				課題研究（調査研究コース）		
【医療の目的】						
１） 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	医療倫理					緩和医療の最前線
				課題研究（調査研究コース）		
【先進医療と生命倫理】						
１） 医療の進歩（遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など）に伴う生命観の変遷を概説できる。	医療倫理					アドバンス法規演習
				課題研究（調査研究コース）		
（２）医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
１） 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。（態度）	医療倫理			臨床で活躍する薬剤師を目指して(演)		アドバンス法規演習
	美術・イラストレーション	美術・イラストレーション		事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
	薬学入門演習Ⅱ			事前実務学習（実務実習事前学習Ⅱ）		
				課題研究（調査研究コース）		
２） 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。（知識・態度）	医療倫理			薬剤師の職能と自己将来展望		アドバンス法規演習
	美術・イラストレーション	美術・イラストレーション		事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
	コミュニケーション論			事前実務学習（実務実習事前学習Ⅱ）		
				課題研究（調査研究コース）		
３） 医療の担い手にふさわしい態度を示す。（態度）	医療倫理	医療心理学		薬剤師の職能と自己将来展望		
	コミュニケーション論			事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
				事前実務学習（実務実習事前学習Ⅱ）		

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
				課題研究（調査研究コース）		
【医療行為に関わるこころ構え】						
１） ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	医療倫理	薬学と社会				アドバンス法規演習
２） 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。	医療倫理	薬学と社会				アドバンス法規演習
３） インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。	医療倫理	薬学と社会				
	法学	法学				
４） 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。（態度）	医療倫理			事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
	法学	法学				
				課題研究（調査研究コース）		
５） 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）	医療倫理	薬学と社会		事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
	法学	法学				
				課題研究（調査研究コース）		
【研究活動に求められるこころ構え】						
１） 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。				創薬概論	アドバンス英語	アドバンス法規演習
				臨床応用薬学への課題研究チュートリアル	医療薬学演習Ⅱ-i ラボラトリー演習(1)	
					医療薬学演習Ⅱ-ii ラボラトリー演習(2)	
				課題研究（調査研究コース）		
２） 研究者に求められる自立した態度を身につける。（態度）				創薬概論	アドバンス英語	アドバンス法規演習
				臨床応用薬学への課題研究チュートリアル	医療薬学演習Ⅱ-i ラボラトリー演習(1)	
					医療薬学演習Ⅱ-ii ラボラトリー演習(2)	
				課題研究（調査研究コース）		
３） 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。（態度）				創薬概論	アドバンス英語	アドバンス法規演習
				臨床応用薬学への課題研究チュートリアル	医療薬学演習Ⅱ-i ラボラトリー演習(1)	
					医療薬学演習Ⅱ-ii ラボラトリー演習(2)	
				課題研究（調査研究コース）		
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
１） 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。（態度）	医療倫理			医薬品開発と臨床試験（演）		
				事前実務学習（実務実習事前学習Ⅱ）		
				課題研究（調査研究コース）		
２） 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）	医療倫理			事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
				課題研究（調査研究コース）		
【自己学習・生涯学習】						
１） 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。（知識・技能・態度）	医療倫理			医薬品開発と臨床試験（演）		アドバンス法規演習
	ゼミナール	ゼミナール	ゼミナール	薬剤師の職能と自己将来展望		緩和医療の最前線
	薬学入門演習Ⅰ			課題研究（調査研究コース）		
２） 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。（態度）	医療倫理			薬剤師の職能と自己将来展望		アドバンス法規演習
	ゼミナール	ゼミナール	ゼミナール	セルフメディケーション：薬剤師の関わり④		緩和医療の最前線
				課題研究（調査研究コース）		

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
（３）信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
１） 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	コミュニケーション論	医療心理		総合法規演習		
	芸能・文化					
	ゼミナール	ゼミナール	ゼミナール	課題研究（調査研究コース）		
２） 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。	コミュニケーション論	医療心理		総合法規演習		
	芸能・文化					
	ゼミナール	ゼミナール	ゼミナール			
	文章表現	文章表現		課題研究（調査研究コース）		
３） 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。	コミュニケーション論	医療心理		総合法規演習		
	芸能・文化					
	健康スポーツ					
	美術・ イラストレーション	美術・ イラストレーション				
	ゼミナール	ゼミナール	ゼミナール	課題研究（調査研究コース）		
【相手の気持ちに配慮する】						
１） 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	コミュニケーション論	医療心理		総合法規演習		
	薬学入門演習Ⅰ					
	ゼミナール	ゼミナール	ゼミナール	課題研究（調査研究コース）		
２） 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。（知識・態度）	コミュニケーション論	医療心理		総合法規演習		
	薬学入門演習Ⅰ					
	ゼミナール	ゼミナール	ゼミナール	課題研究（調査研究コース）		
３） 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（技能）	薬学入門演習Ⅰ	医療心理		医薬品開発と臨床試験（演）		
	ゼミナール	ゼミナール	ゼミナール	総合法規演習	医療薬学演習Ⅱ-i ラボラトリー演習(1)	
				臨床で活躍する 薬剤師を目指して（演）	医療薬学演習Ⅱ-ii ラボラトリー演習(2)	
				課題研究（調査研究コース）		
【患者の気持ちに配慮する】						
１） 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	薬学入門演習Ⅱ	医療心理		総合法規演習		緩和医療の最前線
２） 患者の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）	コミュニケーション論	医療心理		総合法規演習		医薬品開発特論Ⅱ
	薬学入門演習Ⅱ					緩和医療の最前線
３） 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）	薬学入門演習Ⅱ	医療心理		総合法規演習		緩和医療の最前線
４） 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。（態度）	薬学入門演習Ⅱ	医療心理		総合法規演習		緩和医療の最前線
５） 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。（知識・態度）	コミュニケーション論			総合法規演習		
	薬学入門演習Ⅱ					
【チームワーク】						
１） チームワークの重要性を例示して説明できる。	コミュニケーション論	医療心理		総合法規演習		緩和医療の最前線
	薬学入門演習Ⅰ					
	薬学入門演習Ⅱ					
	ゼミナール	ゼミナール	ゼミナール	課題研究（調査研究コース）		
２） チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。（態度）	コミュニケーション論	医療心理		医薬品開発と臨床試験（演）		アドバンス法規演習
	健康スポーツ			総合法規演習		緩和医療の最前線
	薬学入門演習Ⅰ			臨床で活躍する 薬剤師を目指して（演）		
	薬学入門演習Ⅱ					
	ゼミナール	ゼミナール	ゼミナール	課題研究（調査研究コース）		

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３） 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。（態度）	健康スポーツ	医療心理		医薬品開発と臨床試験（演）		
	薬学入門演習Ⅱ			総合法規演習		
	ゼミナール	ゼミナール	ゼミナール	課題研究（調査研究コース）		
【地域社会の人々との信頼関係】						
薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。 １）		薬学と社会		医薬品開発と臨床試験（演）		緩和医療の最前線
２） 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。（態度）		薬学と社会				
Bイントロダクション						
（１）薬学への招待						
【薬学の歴史】						
１） 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学入門	薬学と社会				
２） 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。	薬学入門	薬学と社会				
【薬剤師の活動分野】						
１） 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。	薬学入門			薬剤師の職能と自己将来展望		
２） 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。		薬学と社会		薬剤師の職能と自己将来展望		
３） 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。	薬学入門	薬学と社会		医薬品開発と臨床試験（演）		
		生理活性物質概論		薬剤師の職能と自己将来展望		
４） 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。	薬学入門			薬剤師の職能と自己将来展望		
５） 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。	健康科学		一般用医薬品学	薬剤師の職能と自己将来展望		
【薬について】						
１）「薬とは何か」を概説できる。	薬学入門	薬学と社会				
２） 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。	薬学入門	微生物学Ⅱ	臨床免疫学			
		免疫学				
３） 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。			製剤工学			
４） 種々の剤形とその使い方について概説できる。			製剤工学			
			調剤学			
５） 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。		薬学と社会	一般用医薬品学			
【現代社会と薬学との接点】						
１） 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	薬学入門	免疫学	薬事関連法規と制度Ⅰ			
			臨床免疫学			
２） 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。	薬学入門	薬の効き方Ⅰ		健康と環境Ⅱ		
		薬学と社会				
３） 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	薬学入門	薬学と社会				
【日本薬局方】						
１） 日本薬局方の意義と内容について概説できる。			製剤工学	薬局方総論		
【総合演習】						
医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。（態度） １）	薬学入門演習Ⅰ	薬学と社会		セルフメディケーション： 薬剤師の関わり④		緩和医療の最前線
２） 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。（技能）	情報リテラシー演習					

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
（２）早期体験学習						
１） 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度）	薬学入門演習Ⅰ			薬剤師の職能と自己将来展望		
２） 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度）	薬学入門演習Ⅰ			薬剤師の職能と自己将来展望		
３） 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。（知識・態度）	薬学入門演習Ⅰ			薬剤師の職能と自己将来展望		
４） 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。（知識・態度）	薬学入門演習Ⅰ			薬剤師の職能と自己将来展望		
Ｃ薬学専門教育						
[物理系薬学を学ぶ]						
C1物質の物理的性質						
（１）物質の構造						
【化学結合】						
１） 化学結合の成り立ちについて説明できる。	化学結合論			総合物理演習		アドバンス物理演習
	有機化学Ⅰ					
	有機化学Ⅱ					
	有機化学演習Ⅱ					
２） 軌道の混成について説明できる。	化学結合論			総合物理演習		アドバンス物理演習
	有機化学Ⅰ					
	有機化学Ⅱ					
	有機化学演習Ⅱ					
３） 分子軌道の基本概念を説明できる。	化学結合論			総合物理演習		アドバンス物理演習
４） 共役や共鳴の概念を説明できる。	化学結合論			総合物理演習		アドバンス物理演習
	有機化学Ⅰ					
【分子間相互作用】						
１） 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	化学結合論			総合物理演習		アドバンス物理演習
	物理学					
	有機化学Ⅰ					
２） ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。	化学結合論			総合物理演習		アドバンス物理演習
	分子物理化学					
	有機化学Ⅰ					
３） 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	化学結合論			総合物理演習		アドバンス物理演習
	分子物理化学					
	有機化学Ⅰ					
４） 分散力について例を挙げて説明できる。	分子物理化学			総合物理演習		アドバンス物理演習
	有機化学Ⅰ					
５） 水素結合について例を挙げて説明できる。	化学結合論	有機化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
	基礎有機化学実習					
	分子物理化学					
	有機化学Ⅰ					
６） 電荷移動について例を挙げて説明できる。	分子物理化学			総合物理演習		アドバンス物理演習
７） 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	分子物理化学			総合物理演習		アドバンス物理演習
	有機化学Ⅰ					
【原子・分子】						
１） 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物理学			総合物理演習		アドバンス物理演習
	分子物理化学					
２） 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	物理学			総合物理演習		アドバンス物理演習
	分子物理化学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
3） スピンとその磁気共鳴について説明できる。	分子物理化学			総合物理演習		アドバンス物理演習
4） 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。	物理学			総合物理演習		アドバンス物理演習
5） 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。（知識・技能）		物理化学・分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
6） 偏光および旋光性について説明できる。	分子物理化学	物理化学・分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
	有機化学Ⅱ					
7） 散乱および干渉について説明できる。	物理学			総合物理演習		アドバンス物理演習
	分子物理化学					
8） 結晶構造と回折現象について説明できる。	化学結合論			総合物理演習		アドバンス物理演習
	物理学					
	分子物理化学					
【放射線と放射能】						
1） 原子の構造と放射壊変について説明できる。	有機化学Ⅰ	放射化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
2） 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。		放射化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
3） 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。				総合物理演習		アドバンス物理演習
4） 核反応および放射平衡について説明できる。		放射化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
5） 放射線の測定原理について説明できる。		放射化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
（2）物質の状態Ⅰ						
【総論】						
1） ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	分子物理化学			総合物理演習		アドバンス物理演習
2） 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物理学			総合物理演習		アドバンス物理演習
	分子物理化学					
3） エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	分子物理化学			総合物理演習		アドバンス物理演習
【エネルギー】						
1） 系、外界、境界について説明できる。	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
2） 状態関数の種類と特徴について説明できる。	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
3） 仕事および熱の概念を説明できる。	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
4） 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
5） 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。	物理学			総合物理演習		アドバンス物理演習
6） 代表的な過程（変化）における熱と仕事を計算できる。（知識、技能）	物理学			総合物理演習		アドバンス物理演習
7） エンタルピーについて説明できる。	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
	有機化学Ⅱ					
8） 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。（知識、技能）	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
9） 標準生成エンタルピーについて説明できる。		熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
【自発的な変化】						
1） エントロピーについて説明できる。	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
	有機化学Ⅱ					
2） 熱力学第二法則について説明できる。	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
3） 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。（知識、技能）	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
4） 熱力学第三法則について説明できる。		熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
5） 自由エネルギーについて説明できる。	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
	有機化学Ⅱ	物理化学・ 分析化学実習				
6） 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。（知識、技能）	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
7） 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。	物理学	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
８） 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性（van’tHoffの式）について説明できる。		熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理化学・分析化学実習				
		物理的平衡論				
９） 共役反応について例を挙げて説明できる。				総合物理演習		アドバンス物理演習
（３）物質の状態II						
【物理平衡】						
１） 相変化に伴う熱の移動（Clausius-Clapeyronの式など）について説明できる。		物理的平衡論		総合物理演習		アドバンス物理演習
２） 相平衡と相律について説明できる。		物理化学・分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理的平衡論				
３） 代表的な状態図（一成分系、二成分系、三成分系相図）について説明できる。		物理化学・分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理的平衡論				
４） 物質の溶解平衡について説明できる。		物理化学・分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理的平衡論				
５） 溶液の束一的性質（浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など）について説明できる。		物理的平衡論		総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理薬剤学				
６） 界面における平衡について説明できる。		物理化学・分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理的平衡論				
７） 吸着平衡について説明できる。		物理化学・分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理的平衡論				
８） 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。（技能）		物理的平衡論		総合物理演習		アドバンス物理演習
【溶液の化学】						
１） 化学ポテンシャルについて説明できる。	化学平衡論	熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
２） 活量と活量係数について説明できる。	化学平衡論			総合物理演習		アドバンス物理演習
３） 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。	化学平衡論			総合物理演習		アドバンス物理演習
４） 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。		臨床分析化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
５） イオンの輸率と移動度について説明できる。		臨床分析化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
６） イオン強度について説明できる。	化学平衡論			総合物理演習		アドバンス物理演習
７） 電解質の活量係数の濃度依存性（Debye-Hückelの式）について説明できる。	化学平衡論			総合物理演習		アドバンス物理演習
【電気化学】						
１） 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。	化学平衡論			総合物理演習		アドバンス物理演習
２） 標準電極電位について説明できる。		分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
３） 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。	化学平衡論			総合物理演習		アドバンス物理演習
４） Nernstの式が誘導できる。	化学平衡論			総合物理演習		アドバンス物理演習
５） 濃淡電池について説明できる。		分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
６） 膜電位と能動輸送について説明できる。				総合物理演習		アドバンス物理演習
（４）物質の変化						
【反応速度】						
１） 反応次数と速度定数について説明できる。		熱力学・反応速度論	薬剤学実習	総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理化学・分析化学実習				
		物理薬剤学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２） 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）		熱力学・反応速度論	薬剤学実習	総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理化学・ 分析化学実習				
		物理薬剤学				
３） 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		熱力学・反応速度論	薬剤学実習	総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理化学・ 分析化学実習				
		物理薬剤学				
４） 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。		物理薬剤学	薬剤学実習	総合物理演習		アドバンス物理演習
５） 代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。		熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
６） 反応速度と温度との関係（Arrheniusの式）を説明できる。		熱力学・反応速度論	薬剤学実習	総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理薬剤学				
７） 衝突理論について概説できる。		熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
８） 遷移状態理論について概説できる。		熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
９） 代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応など）について説明できる。		熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理薬剤学				
10） 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。		熱力学・反応速度論		総合物理演習		アドバンス物理演習
【物質の移動】						
１） 拡散および溶解速度について説明できる。		物理的平衡論		総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理薬剤学				
２） 沈降現象について説明できる。	物理学	物理的平衡論		総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理薬剤学				
３） 流動現象および粘度について説明できる。		物理化学・ 分析化学実習	薬剤学実習	総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理的平衡論				
		物理薬剤学				
C2化学物質の分析						
（１）化学平衡						
【酸と塩基】						
１） 酸・塩基平衡を説明できる。	化学平衡論	物理化学・ 分析化学実習		医薬品創製と基礎 （物理系・化学系）		アドバンス物理演習
		分析化学実習		総合物理演習		
２） 溶液の水素イオン濃度（pH）を測定できる。（技能）		物理化学・ 分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
		分析化学実習				
３） 溶液のpHを計算できる。（知識・技能）	化学平衡論	物理化学・ 分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
		分析化学実習				
４） 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。	化学平衡論	物理化学・ 分析化学実習		医薬品創製と基礎 （物理系・化学系）		アドバンス物理演習
		分析化学実習		総合物理演習		
５） 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	化学平衡論	物理化学・ 分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
６） 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。	化学平衡論	物理的平衡論	薬剤学実習	総合物理演習		アドバンス物理演習
		分析化学実習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【各種の化学平衡】						
１） 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	化学平衡論			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス物理演習
				総合物理演習		
２） 沈殿平衡（溶解度と溶解度積）について説明できる。	化学平衡論			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス物理演習
				総合物理演習		
３） 酸化還元電位について説明できる。	化学平衡論	分析化学実習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス物理演習
				総合物理演習		
４） 酸化還元平衡について説明できる。	化学平衡論	分析化学実習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス物理演習
				総合物理演習		
５） 分配平衡について説明できる。		物理的平衡論		総合物理演習		アドバンス物理演習
		分析化学実習				
６） イオン交換について説明できる。		機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習
（２）化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
１） 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	化学平衡論			総合物理演習		アドバンス物理演習
	分析化学					
２） 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	分析化学		医薬品合成実習	総合物理演習		アドバンス物理演習
				薬局方総論		
３） 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	分析化学			総合物理演習		アドバンス物理演習
				薬局方総論		
【定量の基礎】						
１） 実験値を用いた計算および統計処理ができる。（技能）	分析化学	分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
２） 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学	分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
		臨床分析化学				
３） 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	分析化学			総合物理演習		アドバンス物理演習
４） 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。	分析化学	分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
				薬局方総論		
５） 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		臨床分析化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
【容量分析】						
１） 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学	分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
２） 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学			総合物理演習		アドバンス物理演習
３） キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学			総合物理演習		アドバンス物理演習
４） 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学			総合物理演習		アドバンス物理演習
５） 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学	分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
６） 電気滴定（電位差滴定、電気伝導度滴定など）の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
７） 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（技能）		分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
【金属元素の分析】						
１） 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習
				薬局方総論		
２） 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習
				薬局方総論		
【クロマトグラフィー】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１） クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。	基礎有機化学実習	機器分析学		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス物理演習
		物理化学・分析化学実習		総合物理演習		
		分析化学実習		薬局方総論		
		臨床分析化学				
２） クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。		機器分析学		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス物理演習
		物理化学・分析化学実習		総合物理演習		
		分析化学実習		薬局方総論		
３） 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。（知識・技能）	基礎有機化学実習	機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習
		分析化学実習				
（３）分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
１） 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。（技能）		臨床分析化学		セルフメディケーション：薬剤師の関わり③		アドバンス物理演習
				総合物理演習		
２） 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		臨床分析化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
【分析技術】						
１） 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		臨床分析化学		セルフメディケーション：薬剤師の関わり③		アドバンス物理演習
				医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		
				総合物理演習		
２） 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。		臨床分析化学		セルフメディケーション：薬剤師の関わり③		アドバンス物理演習
				総合物理演習		
３） 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		臨床分析化学		セルフメディケーション：薬剤師の関わり③		アドバンス物理演習
				総合物理演習		
４） 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		物理化学・分析化学実習		総合物理演習		アドバンス物理演習
		臨床分析化学				
５） 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。		臨床分析化学		セルフメディケーション：薬剤師の関わり③		アドバンス物理演習
				総合物理演習		
６） 代表的なドライケミストリーについて概説できる。		臨床分析化学		セルフメディケーション：薬剤師の関わり③		アドバンス物理演習
				総合物理演習		
７） 代表的な画像診断技術（X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など）について概説できる。		放射化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
		臨床分析化学				
８） 画像診断薬（造影剤、放射性医薬品など）について概説できる。		放射化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
		臨床分析化学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
９） 薬学領域で繁用されるその他の分析技術（バイオイメージング、マイクロチップなど）について概説できる。		臨床分析化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
【薬毒物の分析】						
１） 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			病態生理学・ 薬物安全性学実習	健康と環境Ⅱ		アドバンス物理演習
				総合物理演習		
２） 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）のスクリーニング法を列挙し、説明できる。			病態生理学・ 薬物安全性学実習	健康と環境Ⅱ		アドバンス物理演習
				総合物理演習		
３） 代表的な中毒原因物質を分析できる。（技能）			病態生理学・ 薬物安全性学実習	総合物理演習		アドバンス物理演習
C3生体分子の姿・かたちをとらえる						
（１）生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
１） 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学		セルフメディケーション： 薬剤師の関わり③		アドバンス物理演習
		物理化学・ 分析化学実習		総合物理演習		
		分析化学実習				
		臨床分析化学				
２） 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習
		物理化学・ 分析化学実習				
		臨床分析化学				
３） 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習
４） 電子スピン共鳴（ESR）スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習
５） 旋光度測定法（旋光分散）、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習
６） 代表的な生体分子（核酸、タンパク質）の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。（知識・技能）		機器分析学	生化学実習	総合物理演習		アドバンス物理演習
		臨床分析化学				
【核磁気共鳴スペクトル】						
１） 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		機器スペクトル演習		総合物理演習		アドバンス物理演習
２） 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。		機器スペクトル演習		総合物理演習		アドバンス物理演習
【質量分析】						
１） 質量分析法の原理を説明できる。		機器スペクトル演習		総合物理演習		アドバンス物理演習
		機器分析学				
２） 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。		機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習
【Ｘ線結晶解析】						
１） Ｘ線結晶解析の原理を概説できる。		機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習
２） 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。		機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習
【相互作用の解析法】						
１） 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。		機器分析学		総合物理演習		アドバンス物理演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
（２）生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
１） 生体分子（タンパク質、核酸、脂質など）の立体構造を概説できる。		生物有機化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
２） タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。		生物有機化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
３） タンパク質の立体構造を規定する因子（疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など）について、具体例を用いて説明できる。	生物学			総合物理演習		アドバンス物理演習
４） タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。	細胞生物学			総合物理演習		アドバンス物理演習
					医薬品開発特論Ⅰ	医薬品開発特論Ⅰ
５） 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		生物有機化学		総合物理演習		アドバンス物理演習
６） 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	生物学			総合物理演習		アドバンス物理演習
【相互作用】						
１） 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。	生物学		医薬品化学Ⅱ	総合物理演習		アドバンス物理演習
２） 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		生化学Ⅲ		総合物理演習		アドバンス物理演習
３） 脂質の水中における分子集合構造（膜、ミセル、膜タンパク質など）について説明できる。		物理薬剤学		総合物理演習		アドバンス物理演習
４） 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。			医薬品化学Ⅱ	総合物理演習		アドバンス物理演習
			薬の効き方Ⅲ	医薬品開発		
C-４化学物質の性質と反応						
（１）化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
１） 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	基礎有機化学実習	有機化学実習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
	有機化学Ⅰ					
	有機化学演習Ⅰ					
２） 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。	基礎有機化学実習	有機化学実習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅰ					
３） 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	基礎有機化学実習	有機化学Ⅲ				アドバンス化学演習
		有機化学実習				
４） 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	基礎有機化学実習	有機化学実習				アドバンス化学演習
	有機化学Ⅱ					
５） 基本的な有機反応（置換、付加、脱離、転位）の特徴を概説できる。	有機化学Ⅱ	有機化学実習				アドバンス化学演習
６） ルイス酸・塩基を定義することができる。	化学結合論	有機化学実習				アドバンス化学演習
	基礎有機化学実習					
	有機化学Ⅰ					
７） 炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン）の構造と性質を説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ				アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅱ					
８） 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	基礎有機化学実習	有機化学実習				アドバンス化学演習
	有機化学Ⅱ					
９） 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。	基礎有機化学実習	有機化学Ⅲ				アドバンス化学演習
	有機化学Ⅱ	有機化学実習				
【有機化合物の立体構造】						
１） 構造異性体と立体異性体について説明できる。	有機化学Ⅱ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅰ					
２） キラリティーと光学活性を概説できる。	有機化学Ⅱ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３） エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機化学Ⅱ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
４） ラセミ体とメソ化合物について説明できる。	有機化学Ⅱ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
５） 絶対配置の表示法を説明できる。	有機化学Ⅱ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
６） Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	有機化学Ⅱ	生物有機化学		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅰ					
７） エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	有機化学演習Ⅰ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
【無機化合物】						
１） 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	無機化学					アドバンス化学演習
２） 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。	無機化学					アドバンス化学演習
					医薬品開発特論Ⅰ	医薬品開発特論Ⅰ
３） 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学					アドバンス化学演習
４） イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学					アドバンス化学演習
５） 代表的な無機医薬品を列挙できる。	無機化学					アドバンス化学演習
【錯体】						
１） 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	無機化学					アドバンス化学演習
２） 配位結合を説明できる。	化学結合論					アドバンス化学演習
	無機化学					
３） 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。	無機化学					アドバンス化学演習
					医薬品開発特論Ⅰ	医薬品開発特論Ⅰ
４） 錯体の安定度定数について説明できる。	無機化学					アドバンス化学演習
５） 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素（キレート効果）について説明できる。	無機化学					アドバンス化学演習
６） 錯体の反応性について説明できる。	無機化学					アドバンス化学演習
					医薬品開発特論Ⅰ	医薬品開発特論Ⅰ
７） 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。	無機化学					アドバンス化学演習
（２）有機化合物の骨格						
【アルカン】						
１） 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	有機化学Ⅱ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅰ					
	有機化学演習Ⅱ					
２） アルカンの基本的な物性について説明できる。	有機化学演習Ⅰ					アドバンス化学演習
３） アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。	有機化学演習Ⅰ					アドバンス化学演習
４） シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	有機化学演習Ⅰ					アドバンス化学演習
５） シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。	有機化学演習Ⅰ					アドバンス化学演習
６） シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。	有機化学演習Ⅰ					アドバンス化学演習
７） 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学演習Ⅰ					アドバンス化学演習
【アルケン・アルキンの反応性】						
１） アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	有機化学Ⅱ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２） アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性（アンチ付加）を説明できる。	基礎有機化学実習			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
	有機化学Ⅱ					
３） アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性（Markovnikov則）について説明できる。	有機化学Ⅱ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
４） カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
５） 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。		有機化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
６） アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学実習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
７） アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。	有機化学演習Ⅱ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
【芳香族化合物の反応性】						
１） 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。		有機化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
２） 芳香族性（Hückel則）の概念を説明できる。		有機化学Ⅲ	反応有機化学	医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
３） 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。		有機化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
４） 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。		有機化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
５） 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。		有機化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
（３）官能基						
【概説】						
１） 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ	医薬品化学Ⅰ	医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅱ	有機化学Ⅳ				
２） 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。		有機化学Ⅲ	医薬品化学Ⅰ			アドバンス化学演習
		有機化学Ⅳ				
３） 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。						アドバンス化学演習
４） 代表的な官能基の定性試験を実施できる。（技能）	基礎有機化学実習	有機化学実習				アドバンス化学演習
５） 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。（技能）	基礎有機化学実習	有機化学実習				アドバンス化学演習
６） 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。	有機化学演習Ⅰ					アドバンス化学演習
【有機ハロゲン化合物】						
１） 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学演習Ⅱ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
２） 求核置換反応（SN1およびSN2反応）の機構について、立体化学を含めて説明できる。	有機化学Ⅱ			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅱ					
３） ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性（Saytzeff則）を説明できる。	基礎有機化学実習			医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅱ					
【アルコール･フェノール・チオール】						
１） アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅱ	有機化学実習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
2） フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
3） フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。		有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
【エーテル】						
1） エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
2） オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1） アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。	有機化学演習Ⅱ	有機化学Ⅳ		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
		有機化学実習				
2） カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅳ	医薬品合成実習	医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
3） カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル）の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学演習Ⅱ	有機化学実習	医薬品化学Ⅰ	医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
【アミン】						
1） アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学実習	医薬品化学Ⅰ			アドバンス化学演習
			医薬品合成実習			
2） 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。	生化学演習	生理活性物質概論				アドバンス化学演習
		生化学II				
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1） アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅱ					
2） アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
3） 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。			医薬品化学Ⅰ			アドバンス化学演習
			反応有機化学			
（４）化学物質の構造決定						
【総論】						
1） 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		機器スペクトル演習				アドバンス化学演習
【1H NMR】						
1） NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器スペクトル演習	構造有機化学	医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
2） 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。		機器スペクトル演習	構造有機化学	医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
3） 有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
4） 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
5） 1HNMRの積分値の意味を説明できる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
6） 1HNMRシグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する理由と、分裂様式を説明できる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
7） 1HNMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
8） 代表的化合物の部分構造を1HNMRから決定できる。（技能）		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
【13C NMR】						
1） 13CNMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		機器スペクトル演習	構造有機化学			アドバンス化学演習
2） 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		機器スペクトル演習	構造有機化学			アドバンス化学演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【IRスペクトル】						
１） IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
２） IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。（知識・技能）		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
【紫外可視吸収スペクトル】						
１） 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		機器スペクトル演習				アドバンス化学演習
		物理化学・分析学実習				
【マススペクトル】						
１） マススペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
２） イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
３） ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明ができる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
４） 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
５） 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
６） 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
７） 基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。（技能）		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
【比旋光度】						
１） １）比旋光度測定法の概略を説明できる。	分子物理化学	物理化学・分析化学実習				アドバンス化学演習
	有機化学Ⅱ					
２） 実測値を用いて比旋光度を計算できる。（技能）		物理化学・分析化学実習				アドバンス化学演習
３） 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。	有機化学Ⅱ	物理化学・分析化学実習				アドバンス化学演習
４） 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。	分子物理化学					アドバンス化学演習
【総合演習】						
１） 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。（技能）		機器スペクトル演習		医薬品創製と基礎（物理系・化学系）		アドバンス化学演習
C-５ターゲット分子の合成						
（１）官能基の導入・変換						
１） アルケンの代表的な合成法について説明できる。	有機化学演習Ⅱ	有機化学Ⅲ				アドバンス化学演習
２） アルキンの代表的な合成法について説明できる。	有機化学演習Ⅱ					アドバンス化学演習
３） 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。	有機化学演習Ⅱ					アドバンス化学演習
４） アルコールの代表的な合成法について説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅱ					
５） フェノールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
６） エーテルの代表的な合成法について説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
７） アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅱ					
８） カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅱ					
９） カルボン酸誘導体（エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物）の代表的な合成法について説明できる。			医薬品化学Ⅰ			アドバンス化学演習
			医薬品合成実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
10） アミンの代表的な合成法について説明できる。			医薬品化学Ⅰ			アドバンス化学演習
11） 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	有機化学演習Ⅱ					アドバンス化学演習
					医薬品開発特論Ⅰ	医薬品開発特論Ⅰ
12） 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。（技能）	基礎有機化学実習	有機化学実習	医薬品合成実習			アドバンス化学演習
（２）複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
１） Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。		有機化学Ⅲ		総合化学演習		アドバンス化学演習
					医薬品開発特論Ⅰ	医薬品開発特論Ⅰ
２） 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。				総合化学演習		アドバンス化学演習
					医薬品開発特論Ⅰ	医薬品開発特論Ⅰ
３） 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。			医薬品化学Ⅰ			アドバンス化学演習
４） 代表的な炭素-炭素結合生成反応（アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など）について概説できる。	有機化学演習Ⅱ	有機化学Ⅳ	医薬品化学Ⅰ			アドバンス化学演習
			医薬品合成実習			
【位置および立体選択性】						
１） 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	有機化学Ⅱ					アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅱ				医薬品開発特論Ⅰ	医薬品開発特論Ⅰ
２） 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	有機化学演習Ⅱ					アドバンス化学演習
					医薬品開発特論Ⅰ	医薬品開発特論Ⅰ
【保護基】						
１） 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。		有機化学Ⅳ				アドバンス化学演習
【光学活性化合物】						
１） 光学活性化合物を得るための代表的な手法（光学分割、不斉合成など）を説明できる。	有機化学Ⅱ					アドバンス化学演習
【総合演習】						
１） 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。（知識・技能）	有機化学演習Ⅱ			総合化学演習		アドバンス化学演習
					医薬品開発特論Ⅰ	医薬品開発特論Ⅰ
２） 課題として与えられた医薬品を合成できる。（技能）		有機化学Ⅲ	医薬品合成実習	総合化学演習		アドバンス化学演習
３） 反応廃液を適切に処理する。（技能・態度）	基礎有機化学実習	有機化学実習				アドバンス化学演習
C-６生体分子・医薬品を化学で理解する						
（１）生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
１） タンパク質の高次構造を規定する結合（アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など）および相互作用について説明できる。		生物有機化学				アドバンス化学演習
２） 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。		生物有機化学				アドバンス化学演習
３） 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。		生化学Ⅲ				アドバンス化学演習
		生物有機化学				
４） 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。		生物有機化学				アドバンス化学演習
５） 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。		微生物学Ⅱ				アドバンス化学演習
【生体内で機能する複素環】						
１） 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。		生物有機化学	反応有機化学			アドバンス化学演習
２） 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。		生物有機化学				アドバンス化学演習
３） 複素環を含む代表的な補酵素（フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサール、葉酸など）の機能を化学反応性と関連させて説明できる。		生物有機化学				アドバンス化学演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
１） 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。	無機化学					アドバンス化学演習
２） 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。	無機化学					アドバンス化学演習
３） 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。	無機化学					アドバンス化学演習
【化学から観る生体ダイナミクス】						
１） 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。		生物有機化学				アドバンス化学演習
２） 代表的な酵素（キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど）の作用機構を分子レベルで説明できる。		生物有機化学				アドバンス化学演習
３） タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。		生物有機化学				アドバンス化学演習
（２）医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
１） 代表的な医薬品のコア構造（ファーマコフォア）を指摘し、分類できる。			医薬品化学Ⅱ	総合化学演習		アドバンス化学演習
２） 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。			医薬品化学Ⅱ	総合化学演習		アドバンス化学演習
【医薬品に含まれる複素環】						
１） 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。			医薬品化学Ⅱ			アドバンス化学演習
２） 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。			医薬品化学Ⅱ			アドバンス化学演習
			医薬品合成実習			
			反応有機化学			
３） 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学Ⅲ	医薬品化学Ⅱ			アドバンス化学演習
			反応有機化学			
４） 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。			反応有機化学			アドバンス化学演習
５） 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。			反応有機化学			アドバンス化学演習
【医薬品と生体高分子】						
１） 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。			医薬品化学Ⅱ	総合化学演習		アドバンス化学演習
２） 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。			医薬品化学Ⅱ	総合化学演習		アドバンス化学演習
３） 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。（知識・技能）	有機化学Ⅱ		医薬品開発	医薬品開発		アドバンス化学演習
	有機化学演習Ⅰ					
【生体分子を模倣した医薬品】						
１） カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学Ⅱ			アドバンス化学演習
２） アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。		薬の効き方Ⅰ	医薬品化学Ⅱ			アドバンス化学演習
３） ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。		薬の効き方Ⅰ	医薬品化学Ⅱ			アドバンス化学演習
			医薬品開発	医薬品開発		
４） 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学Ⅱ	総合化学演習		アドバンス化学演習
５） ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学Ⅱ			アドバンス化学演習
					医薬品開発特論Ⅰ	医薬品開発特論Ⅰ
【生体内分子と反応する医薬品】						
１） アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。		生物有機化学	化学物質と生体影響	総合化学演習		アドバンス化学演習
２） インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。		生物有機化学	化学物質と生体影響	総合化学演習		アドバンス化学演習
３） β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。		微生物学Ⅱ	医薬品化学Ⅱ			アドバンス化学演習
			医薬品開発	医薬品開発		

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
C-７自然が生み出す薬物						
（１）薬になる動植鉱物						
【生薬とは何か】						
１） 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		植物薬品学				アドバンス化学演習
２） 生薬の歴史について概説できる。		植物薬品学	天然医薬品化学			アドバンス化学演習
３） 生薬の生産と流通について概説できる。		植物薬品学				アドバンス化学演習
【薬用植物】						
１） 代表的な薬用植物の形態を観察する。（技能）		植物薬品学				アドバンス化学演習
２） 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。		植物薬品学	天然医薬品化学実習			アドバンス化学演習
３） 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。		植物薬品学				アドバンス化学演習
４） 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。（技能）		植物薬品学				アドバンス化学演習
５） 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。		植物薬品学	天然医薬品化学実習			アドバンス化学演習
【植物以外の医薬資源】						
１） 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		植物薬品学				アドバンス化学演習
【生薬成分の構造と生合成】						
１） 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。			天然医薬品化学			アドバンス化学演習
２） 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			天然医薬品化学			アドバンス化学演習
３） 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			天然医薬品化学			アドバンス化学演習
４） 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			天然医薬品化学			アドバンス化学演習
５） 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			天然医薬品化学			アドバンス化学演習
６） 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			天然医薬品化学			アドバンス化学演習
７） 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			天然医薬品化学			アドバンス化学演習
【農薬、香粧品としての利用】						
１） 天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。			香粧品科学			アドバンス化学演習
			天然医薬品化学			
【生薬の同定と品質評価】						
１） 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		漢方薬物学実習	天然医薬品化学実習			アドバンス化学演習
２） 代表的な生薬を鑑別できる。（技能）		漢方薬物学実習	天然医薬品化学実習			アドバンス化学演習
３） 代表的な生薬の確認試験を実施できる。（技能）		漢方薬物学実習	天然医薬品化学実習			アドバンス化学演習
４） 代表的な生薬の純度試験を実施できる。（技能）			天然医薬品化学実習			アドバンス化学演習
５） 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		漢方薬物学実習	天然医薬品化学実習			アドバンス化学演習
（２）薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
１） 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。			天然医薬品化学			アドバンス化学演習
２） シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。		植物薬品学				アドバンス化学演習
３） 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。		植物薬品学				アドバンス化学演習
【天然物質の取扱い】						
１） 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。（技能）			天然医薬品化学実習			アドバンス化学演習
２） 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。			天然医薬品化学			アドバンス化学演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【微生物が生み出す医薬品】						
１） 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。		微生物学Ⅱ				アドバンス化学演習
【発酵による医薬品の生産】						
１） 微生物による抗生物質（ペニシリン、ストレプトマイシンなど）生産の過程を概説できる。	微生物学Ⅰ					アドバンス化学演習
【発酵による有用物質の生産】						
１） 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。	微生物学Ⅰ					アドバンス化学演習
（３）現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
１） 漢方医学の特徴について概説できる。		漢方薬物学				アドバンス化学演習
		漢方薬物学実習				
２） 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。		漢方薬物学				アドバンス化学演習
		漢方薬物学実習				
３） 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。		漢方薬物学				アドバンス化学演習
		漢方薬物学実習				
４） 漢方処方と「証」との関係について概説できる。		漢方薬物学				アドバンス化学演習
		漢方薬物学実習				
５） 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。		漢方薬物学				アドバンス化学演習
		漢方薬物学実習				
６） 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。		漢方薬物学				アドバンス化学演習
		漢方薬物学実習				
７） 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。		漢方薬物学				アドバンス化学演習
		漢方薬物学実習				
【漢方処方の応用】						
１） 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。		漢方薬物学				アドバンス化学演習
２） 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。		漢方薬物学				アドバンス化学演習
[生物系薬学を学ぶ]						
C８生命体の成り立ち						
（１）ヒトの成り立ち						
【概論】						
１） ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	基礎生物学実習	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅰ					
	健康科学					
	生物学					
２） ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
	健康科学					
【神経系】						
１） 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ					病態生理学特論
２） 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				
	健康科学	薬の効き方Ⅰ				
３） 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				病態生理学特論
	健康科学	薬の効き方Ⅰ				
	生物学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【骨格系・筋肉系】						
１） 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
２） 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
【皮膚】						
１） 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
【循環器系】						
１） 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	基礎生物学実習	機能形態学Ⅲ	疾病と薬物治療Ⅵ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅰ		薬の効き方Ⅲ			病態生理学特論
	健康科学					
２） 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	薬の効き方Ⅲ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
３） リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
【呼吸器系】						
１） 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	薬の効き方Ⅲ			アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ					
	健康科学					
【消化器系】						
１） 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	疾病と薬物治療Ⅳ			アドバンス生物演習
２） 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	疾病と薬物治療Ⅳ			アドバンス生物演習
【泌尿器系】						
１） 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	疾病と薬物治療Ⅲ			アドバンス生物演習
			薬の効き方Ⅲ			
【生殖器系】						
１） 精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	疾病と薬物治療Ⅲ			アドバンス生物演習
		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				
【内分泌系】						
１） 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				
【感覚器系】						
１） 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ					
【血液・造血器系】						
１） 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	疾病と薬物治療Ⅵ			アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ		薬の効き方Ⅲ			
（2）生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
１） 細胞集合による組織構築について説明できる。	細胞生物学			医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	生物学					
２） 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	細胞生物学			医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	生物学					
３） 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。（技能）	基礎生物学実習					アドバンス生物演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【細胞膜】						
１） 細胞膜の構造と性質について説明できる。	機能形態学Ⅰ			医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ					
	細胞生物学					
	生物学					
２） 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	機能形態学Ⅰ			医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ					
	細胞生物学					
	生物学					
３） 細胞膜を介した物質移動について説明できる。	機能形態学Ⅰ			医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ					
	細胞生物学					
【細胞内小器官】						
１） 細胞内小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）の構造と機能を説明できる。	細胞生物学			医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	生物学					
【細胞の分裂と死】						
１） 体細胞分裂の機構について説明できる。	基礎生物学実習					アドバンス生物演習
	生物学					
２） 生殖細胞の分裂機構について説明できる。	生物学					アドバンス生物演習
３） アポトーシスとネクローシスについて説明できる。	生物学	生化学Ⅲ				アドバンス生物演習
４） 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。	生物学					アドバンス生物演習
【細胞間コミュニケーション】						
１） 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	機能形態学Ⅰ			医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	細胞生物学					
２） 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。	細胞生物学			医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
（３）生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
１） 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ	生理活性物質概論－薬の効き方入門－				病態生理学特論
		薬の効き方Ⅰ				
２） シナプス伝達の調節機構を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ					病態生理学特論
	健康科学					
３） 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ					
４） 筋収縮の調節機構を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ	薬の効き方Ⅰ				
	健康科学					
【ホルモンによる調節機構】						
１） 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
	生化学演習	生理活性物質概論－薬の効き方入門－				

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２） 血糖の調節機構を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
	生化学演習					病態生理学特論
【循環・呼吸系の調節機構】						
１） 血圧の調節機構を説明できる。	基礎生物学実習	機能形態学Ⅲ	病態生理学・ 薬物安全性学実習	医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅰ		薬の効き方Ⅲ			
	生化学演習					
２） 肺および組織におけるガス交換を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	薬の効き方Ⅲ			アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ					
	健康科学					
３） 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	薬の効き方Ⅲ			アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ					
	生化学演習					
【体液の調節機構】						
１） 体液の調節機構を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	疾病と薬物治療Ⅲ			アドバンス生物演習
２） 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ	疾病と薬物治療Ⅲ			アドバンス生物演習
			病態生理学・ 薬物安全性学実習			
			薬の効き方Ⅲ			
【消化・吸収の調節機構】						
１） 消化、吸収における神経の役割について説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
２） 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
	生化学演習					
【体温の調節機構】						
１） 体温の調節機構を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
（４）小さな生き物たち						
【総論】						
１） 生態系の中での微生物の役割について説明できる。	微生物学Ⅰ					アドバンス生物演習
２） 原核生物と真核生物の違いを説明できる。	微生物学Ⅰ					アドバンス生物演習
【細菌】						
１） 細菌の構造と増殖機構を説明できる。	微生物学Ⅰ	微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
		微生物学Ⅱ				
２） 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。	微生物学Ⅰ	微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
		微生物学Ⅱ				
３） グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
		微生物学Ⅱ				
４） マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、 放線菌についてその特性を説明できる。		微生物学Ⅱ				アドバンス生物演習
５） 腸内細菌の役割について説明できる。	微生物学Ⅰ	微生物学Ⅱ				アドバンス生物演習
６） 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。		微生物学Ⅱ				アドバンス生物演習
【細菌毒素】						
１） 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。	微生物学Ⅰ	微生物学Ⅱ				アドバンス生物演習
【ウイルス】						
１） 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		微生物学Ⅱ				アドバンス生物演習
２） ウイルスの分類法について概説できる。		微生物学Ⅱ				アドバンス生物演習
３） 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。		微生物学Ⅱ				アドバンス生物演習
【真菌・原虫・その他の微生物】						
１） 主な真菌の性状について説明できる。	微生物学Ⅰ					アドバンス生物演習
２） 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。		微生物学Ⅱ				アドバンス生物演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【消毒と滅菌】						
１） 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
		微生物学Ⅱ				
２） 主な消毒薬を適切に使用する。（技能・態度）（OSCEの対象）		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
		微生物学Ⅱ				
３） 主な滅菌法を実施できる。（技能）（OSCEの対象）		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
【検出方法】						
１） グラム染色を実施できる。（技能）		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
２） 無菌操作を実施できる。（技能）		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
３） 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
４） 細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
		微生物学Ⅱ				
５） 代表的な細菌を同定できる。（技能）		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
C9生命をミクロに理解する						
（1）細胞を構成する分子						
【脂質】						
１） 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。		生化学Ⅱ		医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
２） 脂肪酸の種類と役割を説明できる。		生化学Ⅱ		医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
３） 脂肪酸の生合成経路を説明できる。		生化学Ⅱ		医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
		生物有機化学				
４） コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。		生化学Ⅱ	薬の効き方Ⅲ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
【糖質】						
１） グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	細胞生物学			医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
２） グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	細胞生物学			医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
３） 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。	細胞生物学					アドバンス生物演習
	生化学Ⅰ					
４） 糖質の定性および定量試験法を実施できる。（技能）			生化学実習			アドバンス生物演習
【アミノ酸】						
１） アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	細胞生物学	生物有機化学		医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
２） アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。	細胞生物学	生化学Ⅱ		医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
３） アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。（技能）			生化学実習	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
【ビタミン】						
１） 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。			栄養素の化学			アドバンス生物演習
２） 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。			栄養素の化学			アドバンス生物演習
３） ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。			栄養素の化学			アドバンス生物演習
（2）生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
１） 核酸塩基の代謝（生合成と分解）を説明できる。		生化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
２） DNAの構造について説明できる。	細胞生物学	生化学Ⅲ	細胞工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
			生化学実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３） RNAの構造について説明できる。	細胞生物学	生化学Ⅲ	細胞工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
			生化学実習			
【遺伝情報を担う分子】						
１） 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。		生化学Ⅲ	細胞工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
			生化学実習			
２） DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。		生化学Ⅲ	細胞工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
			生化学実習			
３） ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。	生物学	生化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
４） 染色体の構造を説明できる。	細胞生物学	生化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	生物学					
５） 遺伝子の構造に関する基本的用語（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。		生化学Ⅲ	細胞工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
６） RNAの種類と働きについて説明できる。		生化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
【転写と翻訳のメカニズム】						
１） DNAからRNAへの転写について説明できる。		生化学Ⅲ	細胞工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
			生化学実習			
２） 転写の調節について、例を挙げて説明できる。		生化学Ⅲ	細胞工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
３） RNAのプロセシングについて説明できる。		生化学Ⅲ	細胞工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
４） RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。		生化学Ⅲ	細胞工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
５） リボソームの構造と機能について説明できる。	細胞生物学	生化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
【遺伝子の複製・変異・修復】						
１） DNAの複製の過程について説明できる。		生化学Ⅲ				アドバンス生物演習
２） 遺伝子の変異（突然変異）について説明できる。	生物学	生化学Ⅲ		医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
３） DNAの修復の過程について説明できる。		生化学Ⅲ				アドバンス生物演習
【遺伝子多型】						
１） 一塩基変異（SNPs）が機能におよぼす影響について概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
（３）生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
１） タンパク質の主要な機能を列挙できる。	細胞生物学		生化学実習	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	生化学Ⅰ					
２） タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	細胞生物学		生化学実習	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
３） タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	細胞生物学			医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
【酵素】						
１） 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	生化学Ⅰ		生化学実習			アドバンス生物演習
	生物学					
２） 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。	生化学Ⅰ					アドバンス生物演習
	生物学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３） 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生化学Ⅰ		生化学実習			アドバンス生物演習
	生物学					
４） 酵素反応速度論について説明できる。	生化学Ⅰ		生化学実習			アドバンス生物演習
	生物学					
５） 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学Ⅰ					アドバンス生物演習
６） 代表的な酵素の活性を測定できる。（技能）			生化学実習			アドバンス生物演習
【酵素以外の機能タンパク質】						
１） 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質（受容体、チャネルなど）の構造と機能を概説できる。	機能形態学Ⅰ		生化学実習			アドバンス生物演習
	機能形態学Ⅱ					
	細胞生物学					
２） 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。	機能形態学Ⅰ					アドバンス生物演習
	細胞生物学					
３） 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。		生化学Ⅱ	薬の効き方Ⅲ			アドバンス生物演習
４） 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。	生化学演習	生化学Ⅲ				アドバンス生物演習
５） 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。	細胞生物学					アドバンス生物演習
【タンパク質の取扱い】						
１） タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。（技能）			生化学実習			アドバンス生物演習
２） タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。（知識・技能）			生化学実習			アドバンス生物演習
３） タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	細胞生物学					アドバンス生物演習
（４）生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
１） 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				アドバンス生物演習
	生物学					
【ATPの産生】						
１） ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	生化学Ⅰ					アドバンス生物演習
２） 解糖系について説明できる。	健康科学					アドバンス生物演習
	生化学Ⅰ					
３） クエン酸回路について説明できる。	健康科学					アドバンス生物演習
	生化学Ⅰ					
４） 電子伝達系（酸化的リン酸化）について説明できる。	健康科学					アドバンス生物演習
	生化学Ⅰ					
５） 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。		生化学Ⅱ				アドバンス生物演習
６） アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。	生化学Ⅰ					アドバンス生物演習
７） エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。	生化学Ⅰ					アドバンス生物演習
８） ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。	生化学Ⅰ					アドバンス生物演習
９） ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。	生化学Ⅰ					アドバンス生物演習
10） アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	生化学Ⅰ					アドバンス生物演習
【飢餓状態と飽食状態】						
１） グリコーゲンの役割について説明できる。	生化学Ⅰ					アドバンス生物演習
						病態生理学特論
２） 糖新生について説明できる。	生化学Ⅰ					アドバンス生物演習
３） 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。		生化学Ⅱ				アドバンス生物演習
４） 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生化学Ⅱ				アドバンス生物演習
５） 食餌性の血糖変動について説明できる。		生化学Ⅱ				アドバンス生物演習
６） インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。	生化学演習	生化学Ⅱ				アドバンス生物演習
７） 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。		生化学Ⅱ				アドバンス生物演習
８） ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。		生化学Ⅱ				アドバンス生物演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
（５）生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
１） 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。	生化学演習	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				
２） 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。	生化学演習	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				病態生理学特論
３） 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。	生化学演習	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				
４） 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。	生化学演習	機能形態学Ⅲ				アドバンス生物演習
		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				病態生理学特論
【オータコイドなど】						
１） エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。	生化学演習	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				アドバンス生物演習
２） 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。	生化学演習	生化学Ⅱ				アドバンス生物演習
		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				
３） 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義（生理活性）を説明できる。	生化学演習	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				アドバンス生物演習
４） 主な生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）の生合成と役割について説明できる。	生化学演習	生化学Ⅱ				アドバンス生物演習
		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				
５） 主な生理活性ペプチド（アンギオテンシン、ブラジキニンなど）の役割について説明できる。	生化学演習	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				アドバンス生物演習
６） 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。	生化学演習	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				アドバンス生物演習
【神経伝達物質】						
１） モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	機能形態学Ⅱ	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－		医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	生化学演習					病態生理学特論
２） アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	機能形態学Ⅱ			医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	生化学演習					病態生理学特論
３） ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	機能形態学Ⅱ			医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
	生化学演習					病態生理学特論
４） アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	機能形態学Ⅱ	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－		医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス生物演習
						病態生理学特論
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
１） 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。	生化学演習	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				アドバンス生物演習
２） 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。	生化学演習	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				アドバンス生物演習
３） 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。	生化学演習	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				アドバンス生物演習
【細胞内情報伝達】						
１） 細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	機能形態学Ⅱ	生化学Ⅲ				アドバンス生物演習
	生化学演習	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２） 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。	機能形態学Ⅱ	生化学Ⅲ				アドバンス生物演習
	生化学演習	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				
３） 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。	機能形態学Ⅱ	生化学Ⅲ				アドバンス生物演習
	生化学演習	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				
４） 代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。	機能形態学Ⅱ	生化学Ⅲ				アドバンス生物演習
	生化学演習	生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				
（６）遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
１） 組換えDNA技術の概要を説明できる。			細胞工学			アドバンス生物演習
			生化学実習			
２） 細胞からDNAを抽出できる。（技能）			生化学実習			アドバンス生物演習
３） DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。（技能）			生化学実習			アドバンス生物演習
４） 組換えDNA実験指針を理解し守る。（態度）			細胞工学			アドバンス生物演習
			生化学実習			
５） 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。（態度）			細胞工学			アドバンス生物演習
			生化学実習			
【遺伝子のクローニング技術】						
１） 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報			アドバンス生物演習
			細胞工学			
２） cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報			アドバンス生物演習
			細胞工学			
３） 遺伝子ライブラリーについて説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報			アドバンス生物演習
			細胞工学			
４） PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）			バイオ医薬品とゲノム情報			アドバンス生物演習
			細胞工学			
			生化学実習			
５） RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報			アドバンス生物演習
			細胞工学			
			生化学実習			
６） DNA塩基配列の決定法を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報			アドバンス生物演習
			細胞工学			
			生化学実習			
７） コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。（技能）			生化学実習			アドバンス生物演習
【遺伝子機能の解析技術】						
１） 細胞（組織）における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報			アドバンス生物演習
			生化学実習			
２） 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報			アドバンス生物演習
			細胞工学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３） 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。			生化学実習			アドバンス生物演習
４） 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報			アドバンス生物演習
			生化学実習			
C10生体防御						
（１）身体をまもる						
【生体防御反応】						
１） 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。		免疫学	臨床免疫学			アドバンス生物演習
２） 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。		免疫学	臨床免疫学			アドバンス生物演習
３） 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。		免疫学				アドバンス生物演習
４） 免疫反応の特徴（自己と非自己、特異性、記憶）を説明できる。		免疫学				アドバンス生物演習
５） クローン選択説を説明できる。		免疫学				アドバンス生物演習
６） 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。		免疫学	臨床免疫学			アドバンス生物演習
【免疫を担当する組織・細胞】						
１） 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
		免疫学				
２） 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
		免疫学				
３） 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。		微生物・免疫学実習				アドバンス生物演習
		免疫学				
４） 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫学				アドバンス生物演習
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
１） 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。		免疫学	細胞工学			アドバンス生物演習
２） MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。		免疫学				アドバンス生物演習
３） T細胞による抗原の認識について説明できる。		免疫学				アドバンス生物演習
４） 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。		免疫学				アドバンス生物演習
５） 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。		免疫学				アドバンス生物演習
（２）免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
１） アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。		微生物・免疫学実習	薬の効き方Ⅲ			アドバンス生物演習
			臨床免疫学			
２） 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		微生物・免疫学実習	薬の効き方Ⅱ			アドバンス生物演習
			臨床免疫学			
３） 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。			臨床免疫学			アドバンス生物演習
４） 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。			臨床免疫学			アドバンス生物演習
【免疫応答のコントロール】						
１） 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。			臨床免疫学			アドバンス生物演習
２） 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。	微生物学Ⅰ		臨床免疫学			アドバンス生物演習
３） 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			臨床免疫学			アドバンス生物演習
４） 代表的な免疫賦活療法について概説できる。			臨床免疫学			アドバンス生物演習
【予防接種】						
１） 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			臨床免疫学			アドバンス生物演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
2） 主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。			臨床免疫学			アドバンス生物演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
3） 予防接種について，その種類と実施状況を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ			アドバンス生物演習
			臨床免疫学			
【免疫反応の利用】						
1） モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。			細胞工学			アドバンス生物演習
			臨床免疫学			
2） 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。		微生物・免疫学実習	臨床免疫学			アドバンス生物演習
3） 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）		微生物・免疫学実習	臨床免疫学			アドバンス生物演習
4） ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）		微生物・免疫学実習	臨床免疫学			アドバンス生物演習
（3）感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
1） 主なDNAウイルス（△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノウイルス、△パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。			病原微生物学			アドバンス生物演習
						感染制御学特論
2） 主なRNAウイルス（△ポリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、Ａ型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、△麻疹ウイルス、△ムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。			病原微生物学			アドバンス生物演習
						感染制御学特論
3） レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。			病原微生物学			アドバンス生物演習
						感染制御学特論
4） グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			病原微生物学			アドバンス生物演習
						感染制御学特論
5） グラム陰性球菌（淋菌、△髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			病原微生物学			アドバンス生物演習
						感染制御学特論
6） グラム陽性桿菌（破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説でき			病原微生物学			アドバンス生物演習
						感染制御学特論
7） グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			病原微生物学			アドバンス生物演習
						感染制御学特論
8） グラム陰性スピリルム属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			病原微生物学			アドバンス生物演習
						感染制御学特論
9） 抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			病原微生物学			アドバンス生物演習
						感染制御学特論
10） スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			病原微生物学			アドバンス生物演習
						感染制御学特論
11） 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル）の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学Ⅰ		病原微生物学			アドバンス生物演習
12） 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。			病原微生物学			アドバンス生物演習
13） プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。		微生物学Ⅱ	病原微生物学			アドバンス生物演習
【感染症の予防】						
1） 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。			疾病と薬物治療Ⅶ			アドバンス生物演習
						感染制御学特論

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
[健康と環境]						
C11健康						
（１）栄養と健康						
【栄養素】						
１） 栄養素（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			栄養素の化学	衛生化学・ 公衆衛生学実習		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
２） 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。			栄養素の化学	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
３） 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。			栄養素の化学	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
４） 食品中のタンパク質の栄養的な価値（栄養価）を説明できる。			栄養素の化学	衛生化学・ 公衆衛生学実習		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
５） エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。	健康科学		栄養素の化学	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
６） 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。			栄養素の化学	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
７） 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。			栄養素の化学	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
８） 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。			栄養素の化学	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
【食品の品質と管理】						
１） 食品が腐敗する機構について説明できる。			食品と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
２） 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）			食品と健康	衛生化学・ 公衆衛生学実習		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
３） 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。			食品と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
４） 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。			食品と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
５） 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			食品と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
６） 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			食品と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
７） 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。			食品と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
８） 主な食品添加物の試験法を実施できる。（技能）				衛生化学・ 公衆衛生学実習		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
９） 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。			栄養素の化学	セルフメディケーション： 薬剤師の関わり②		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
10） 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。（知識・態度）			食品と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
【食中毒】						
１） 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。	微生物学Ⅰ		食品と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
２） 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。	微生物学Ⅰ		食品と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３） 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			食品と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
４） 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。	微生物学Ⅰ		食品と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
５） 化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			食品と健康	健康と環境Ⅱ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
（２）社会・集団と健康						
【保健統計】						
１） 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。		健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
２） 人口静態と人口動態について説明できる。		健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
３） 国勢調査の目的と意義を説明できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
４） 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
５） 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。		健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
１） 死因別死亡率の変遷について説明できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
２） 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
３） 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）		健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		高齢者医療
【疫学】						
１） 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。		健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
２） 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
３） 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。		健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
４） 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。（知識・技能）		健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
５） 要因・対照研究（コホート研究）の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。（知識・技能）		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
６） 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
７） 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
（３）疾病の予防						
【健康とは】						
１） 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	健康科学	健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
２） 世界保健機構（WHO）の役割について概説できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
【疾病の予防とは】						
１） 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
２） 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
３） 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
４） 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。（態度）		健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
【感染症の現状とその予防】						
１） 現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。	微生物学Ⅰ	健康保持と疾病予防	疾病と薬物治療Ⅶ	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
			病原微生物学	総合衛生演習		感染制御学特論
２） 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。		健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		感染制御学特論
３） 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
						感染制御学特論
４） 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
						感染制御学特論
５） 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。		健康保持と疾病予防	疾病と薬物治療Ⅶ	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
						感染制御学特論
６） 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。		健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
						感染制御学特論
【生活習慣病とその予防】						
１） 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	健康科学	健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
２） 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。	健康科学	健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
３） 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。	健康科学	健康保持と疾病予防		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
【職業病とその予防】						
１） 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。		健康保持と疾病予防		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
C12環境						
（１）化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
１） 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			化学物質と生体影響	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
			病態生理学・薬物安全性学実習			
２） 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			化学物質と生体影響	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
３） 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			化学物質と生体影響	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
【化学物質による発がん】						
１） 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			化学物質と生体影響	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
２） 変異原性試験（Ames試験など）の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）			化学物質と生体影響	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
			病態生理学・薬物安全性学実習			
３） 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。				総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
４） 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。			化学物質と生体影響	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
【化学物質の毒性】						
１） 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。				健康と環境Ⅱ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
２） 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。				健康と環境Ⅱ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
３） 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。				健康と環境Ⅱ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
４） 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。				健康と環境Ⅱ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
５） 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。				健康と環境Ⅱ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
６） 化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。				健康と環境Ⅱ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
７） 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法など）を説明できる。			病態生理学・薬物安全性学実習	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				健康と環境Ⅱ		
				総合衛生演習		
８） 環境ホルモン（内分泌撹乱化学物質）が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。（態度）	地球環境概論			健康と環境Ⅱ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【化学物質による中毒と処置】						
１） 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。				健康と環境Ⅱ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
２） 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。（技能）				総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
【電離放射線の生体への影響】						
１） 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。		放射化学	生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
２） 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。		放射化学	生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生学実習		アドバンス健康・環境演習
				健康と環境Ⅰ		
				総合衛生演習		
３） 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。		放射化学	生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
４） 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子（酸素効果など）について説明できる。		放射化学	生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
５） 電離放射線を防御する方法について概説できる。		放射化学		健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
６） 電離放射線の医療への応用について概説できる。		放射化学		総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
【非電離放射線の生体への影響】						
１） 非電離放射線の種類を列挙できる。			生活環境と健康	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
２） 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			生活環境と健康	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
３） 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			生活環境と健康	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
（２）生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
１） 地球環境の成り立ちについて概説できる。	生物学		生活環境と健康	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
	地球環境概論			総合衛生演習		
２） 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。	生物学		生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
	地球環境概論					
３） 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。（態度）			生活環境と健康	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
４） 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。	地球環境概論		生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５） 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。	地球環境概論		生活環境と健康	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				健康と環境Ⅱ		
				総合衛生演習		
６） 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。	地球環境概論		生活環境と健康	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				健康と環境Ⅱ		
				総合衛生演習		
７） 環境中に存在する主な放射性核種（天然、人工）を挙げ、人の健康への影響について説明できる。	地球環境概論		生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生学実習		アドバンス健康・環境演習
				健康と環境Ⅰ		
				総合衛生演習		
【水環境】						
１） 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。	地球環境概論		生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
２） 水の浄化法について説明できる。			生活環境と健康	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
３） 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。			生活環境と健康	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
４） 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）			生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生学実習		アドバンス健康・環境演習
				健康と環境Ⅰ		
				総合衛生演習		
５） 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生学実習		アドバンス健康・環境演習
				健康と環境Ⅰ		
				総合衛生演習		
６） 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。			生活環境と健康	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
７） ＤＯ，ＢＯＤ，ＣＯＤを測定できる。（技能）			生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生学実習		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
８） 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
【大気環境】						
１） 空気の成分を説明できる。	地球環境概論		生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
２） 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。	地球環境概論		生活環境と健康	健康と環境Ⅰ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
３） 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。（知識・技能）	地球環境概論		生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生学実習		アドバンス健康・環境演習
				健康と環境Ⅰ		
				総合衛生演習		
４） 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。	地球環境概論		生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【室内環境】						
１） 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生学実習		アドバンス健康・環境演習
				健康と環境Ｉ		
				総合衛生演習		
２） 室内環境と健康との関係について説明できる。			生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
３） 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。			生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
４） シックハウス症候群について概説できる。			生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
【廃棄物】						
１） 廃棄物の種類を列挙できる。			生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
２） 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			生活環境と健康	健康と環境Ｉ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
３） 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。（技能・態度）	基礎生物学実習		生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
				薬理学実習		
４） マニフェスト制度について説明できる。			生活環境と健康	健康と環境Ｉ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
５） PRTR法について概説できる。			生活環境と健康	健康と環境Ｉ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
【環境保全と法的規制】						
１） 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			生活環境と健康	健康と環境Ｉ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
２） 環境基本法の理念を説明できる。			生活環境と健康	健康と環境Ｉ		アドバンス健康・環境演習
				総合衛生演習		
３） 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。			生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
４） 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。			生活環境と健康	総合衛生演習		アドバンス健康・環境演習
［薬と疾病］						
C13薬の効くプロセス						
（１）薬の作用と生体内運命						
【薬の作用】						
１） 薬物の用量と作用の関係を説明できる。		生理活性物質概論－薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						臨床薬理学特論
２） アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。		生理活性物質概論－薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
３） 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。		生理活性物質概論－薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
４） 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。		生理活性物質概論－薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５） 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
６） 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
７） 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。		生物薬剤学	化学物質と生体影響	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
８） 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【薬の運命】						
１） 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。		生物薬剤学		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						臨床薬理学特論
２） 薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。				総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
３） 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。				総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
４） 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。		生物薬剤学		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						高齢者医療
５） 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。		生物薬剤学		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【薬の副作用】						
１） 薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－	薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
２） 副作用と有害事象の違いについて説明できる。		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【動物実験】						
１） 動物実験における倫理について配慮する。（態度）	基礎生物学実習			総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬理学実習		
２） 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）	基礎生物学実習			総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬理学実習		
３） 実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。（技能）	基礎生物学実習			総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬理学実習		
（２）薬の効き方Ⅰ						
【中枢神経系に作用する薬】						
１） 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		
				薬理学実習		
２） 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				疾病と薬物治療Ⅷ		医薬品開発特論Ⅱ
				総合薬・疾病演習		
				薬理学実習		
３） 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		医薬品開発特論Ⅱ
				薬理学実習		高齢者医療
４） 代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		医薬品開発特論Ⅱ
				薬理学実習		病態生理学特論

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５） 代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		医薬品開発特論Ⅱ
				薬理学実習		病態生理学特論
６） 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。				総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬理学実習		
【自律神経系に作用する薬】						
１） 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		生理活性物質概論－薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
		薬の効き方Ⅰ		薬理学実習		病態生理学特論
２） 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		生理活性物質概論－薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
		薬の効き方Ⅰ		薬理学実習		病態生理学特論
３） 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬理学実習		病態生理学特論
４） 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能））△技能であるからCBTには馴染まない				総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬理学実習		
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
１） 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						医薬品開発特論Ⅱ
２） 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		生理活性物質概論－薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
		薬の効き方Ⅰ				
３） 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）				総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬理学実習		
【循環器系に作用する薬】						
１） 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		医薬品開発特論Ⅱ
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		病態生理学特論
				薬理学実習		
２） 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		病態生理学特論
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
				薬理学実習		
３） 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		病態生理学特論
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
				薬理学実習		
４） 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		病態生理学特論
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
				薬理学実習		
【呼吸器系に作用する薬】						
１） 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
2） 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
3） 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【化学構造】						
1）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬の効き方Ⅱ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ			
（3）薬の効き方II						
【ホルモンと薬】						
1） ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
		薬の効き方Ⅰ				
2） 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。		薬の効き方Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
3） 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。		薬の効き方Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【消化器系に作用する薬】						
1） 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅱ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
2） その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅱ			
3） 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅱ			
4） 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅱ			
5） 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅱ			
【腎に作用する薬】						
1） 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬理学実習		
【血液・造血器系に作用する薬】						
1） 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
2） 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ			
3） 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ			
【代謝系に作用する薬】						
1） 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	生化学Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						医薬品開発特論Ⅱ
						病態生理学特論
2） 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ	薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
		生化学Ⅱ				病態生理学特論
3） 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ			病態生理学特論
4） カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
		薬の効き方Ⅰ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【炎症・アレルギーと薬】						
１） 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－	薬の効き方Ⅱ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
２） 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
３） アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【化学構造】						
１） １）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬の効き方Ⅱ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ			
（４）薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
１） 薬物の主な吸収部位を列挙できる。		生物薬剤学	化学物質と生体影響			アドバンス創薬演習
２） 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
３） 受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
４） 能動輸送の特徴を説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
５） 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
６） 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
						高齢者医療
【分布】						
１） 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
２） 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
３） 薬物の胎児への移行について、その機構と血液 - 胎盤関門の意義を説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
４） 薬物の体液中での存在状態（血漿タンパク結合など）を組織への移行と関連づけて説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
５） 薬物分布の変動要因（血流量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
６） 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
７） 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。（技能）		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
【代謝】						
１） 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			化学物質と生体影響			アドバンス創薬演習
２） 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。			化学物質と生体影響			アドバンス創薬演習
						高齢者医療
３） 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。			化学物質と生体影響			アドバンス創薬演習
４） シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。			化学物質と生体影響			アドバンス創薬演習
５） 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。			化学物質と生体影響			アドバンス創薬演習
６） 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。			化学物質と生体影響			アドバンス創薬演習
７） 薬物代謝酵素の変動要因（誘導、阻害、加齢、SNPsなど）について説明できる。			化学物質と生体影響			アドバンス創薬演習
８） 初回通過効果について説明できる。		生物薬剤学	テーラーメイド医療	総合生物演習		アドバンス創薬演習
			化学物質と生体影響			
９） 肝および固有クリアランスについて説明できる。		生物薬剤学	テーラーメイド医療	総合生物演習		アドバンス創薬演習
【排泄】						
１） 腎における排泄機構について説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
						高齢者医療
２） 腎クリアランスについて説明できる。		生物薬剤学	テーラーメイド医療	総合生物演習		アドバンス創薬演習
						高齢者医療
３） 糸球体ろ過速度について説明できる。		生物薬剤学	テーラーメイド医療			アドバンス創薬演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４） 胆汁中排泄について説明できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
５） 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
６） 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。		生物薬剤学		総合創薬演習		アドバンス創薬演習
７） 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。		生物薬剤学				アドバンス創薬演習
【相互作用】						
１） 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			一般用医薬品学	セルフメディケーション： 薬剤師の関わり②		アドバンス創薬演習
				総合創薬演習		
２） 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			一般用医薬品学	セルフメディケーション： 薬剤師の関わり②		アドバンス創薬演習
				総合創薬演習		
（５）薬物動態の解析						
【薬動学】						
１） 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。		生物薬剤学	テーラーメイド医療	総合生物演習		アドバンス創薬演習
			薬剤学実習			
２） 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。		生物薬剤学		総合生物演習		アドバンス創薬演習
３） 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）		生物薬剤学	薬剤学実習	総合生物演習		アドバンス創薬演習
				総合創薬演習		
４） 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）		生物薬剤学		総合生物演習		アドバンス創薬演習
５） 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。		生物薬剤学		総合生物演習		アドバンス創薬演習
				総合創薬演習		
６） 生物学的半減期を説明し、計算できる。（知識・技能）		生物薬剤学	テーラーメイド医療	総合生物演習		アドバンス創薬演習
７） 全身クリアランスについて説明し、計算できる。（知識・技能）		生物薬剤学	テーラーメイド医療	総合生物演習		アドバンス創薬演習
			薬剤学実習			
８） 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。			テーラーメイド医療	総合生物演習		アドバンス創薬演習
９） モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。			テーラーメイド医療	総合生物演習		アドバンス創薬演習
			薬剤学実習			
10） 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。（技能）			テーラーメイド医療	総合生物演習		アドバンス創薬演習
11） 点滴静注の血中濃度計算ができる。（技能）			テーラーメイド医療			アドバンス創薬演習
12） 連続投与における血中濃度計算ができる。（技能）			テーラーメイド医療			アドバンス創薬演習
【TDM(Therapeutic Drug Monitoring)】						
１） 治療的薬物モニタリング（TDM）の意義を説明できる。			テーラーメイド医療	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
２） TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。			テーラーメイド医療	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
３） 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。（技能）			テーラーメイド医療			アドバンス創薬演習
４） 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。			テーラーメイド医療	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
５） 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。（技能）			テーラーメイド医療	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
			医療情報実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
C14薬物治療						
（１）体の変化を知る						
【症候】						
１） 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい		疾病と薬物治療Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病態生理学・ 薬物安全性学実習			
【症候と臨床検査値】						
１） 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		疾病と薬物治療Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ （薬物治療演習）		
２） 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		疾病と薬物治療Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ （薬物治療演習）		
３） 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		疾病と薬物治療Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ （薬物治療演習）		
４） 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		疾病と薬物治療Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ （薬物治療演習）		
５） 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		疾病と薬物治療Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ （薬物治療演習）		
６） 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		疾病と薬物治療Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ （薬物治療演習）		
７） 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。		疾病と薬物治療Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ （薬物治療演習）		
８） 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。		疾病と薬物治療Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ （薬物治療演習）		
９） 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		疾病と薬物治療Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ （薬物治療演習）		
10） 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。		疾病と薬物治療Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ （薬物治療演習）		
11） 代表的なバイタルサインを列挙できる。		疾病と薬物治療Ⅰ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ （薬物治療演習）		
（２）疾患と薬物治療（心臓疾患等）						
【薬物治療の位置づけ】						
１） 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						医薬品開発特論Ⅱ
２） 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。（知識・技能）			医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【心臓・血管系の疾患】						
１） 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			疾病と薬物治療Ⅵ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		病態生理学特論
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		高齢者医療
				臨床で活躍する薬剤師を目指して(特)		
２） 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		高齢者医療
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
３） 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		病態生理学特論
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		高齢者医療
４） 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
			病態生理学・薬物安全性学実習	総合薬・疾病演習		病態生理学特論
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		高齢者医療
５） 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ	疾病と薬物治療Ⅵ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		病態生理学特論
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		高齢者医療
				臨床で活躍する薬剤師を目指して(特)		
６） 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック		疾病と薬物治療Ⅱ	疾病と薬物治療Ⅵ	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		高齢者医療
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
【血液・造血器の疾患】						
１） 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。			疾病と薬物治療Ⅵ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						医薬品開発特論Ⅱ
２） 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ			医薬品開発特論Ⅱ
３） 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						医薬品開発特論Ⅱ
４） 播種性血管内凝固症候群（DIC）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅵ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ			
５） 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓			疾病と薬物治療Ⅵ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【消化器系疾患】						
１） 消化器系の部位別（食道、胃・十二指腸、小腸･大腸、胆道、肝臓、膵臓）に代表的な疾患を挙げることができる。			疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅱ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
２） 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅱ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
				臨床で活躍する薬剤師を目指して(特)		
３） 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅱ	臨床で活躍する薬剤師を目指して(特)		
４） 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅱ			
５） 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅱ			
６） 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病			疾病と薬物治療Ⅳ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						医薬品開発特論Ⅱ
【総合演習】						
１） １）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			医療情報実習			
（３）疾患と薬物治療（腎臓疾患等）						
【腎臓・尿路の疾患】						
１） 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。			疾病と薬物治療Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病態生理学・薬物安全性学実習			
２） 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病態生理学・薬物安全性学実習			
３） ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病態生理学・薬物安全性学実習			
４） 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石			疾病と薬物治療Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病態生理学・薬物安全性学実習			
【生殖器疾患】						
１） 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。		薬の効き方Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
２） 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬の効き方Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
３） 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮			疾病と薬物治療Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【呼吸器・胸部の疾患】						
１） 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						病態生理学特論
２） 閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						病態生理学特論
３） 以下の疾患について概説できる。上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						医薬品開発特論Ⅱ
						病態生理学特論

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【内分泌系疾患】						
１） ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。		疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
		生理活性物質概論 －薬の効き方入門－				
		薬の効き方Ⅰ				
２） 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
		薬の効き方Ⅰ				
３） クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
		薬の効き方Ⅰ				
４） 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
		薬の効き方Ⅰ				
５） 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、、アルドステロン症、アジソン病		疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【代謝性疾患】						
１） 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				臨床で活躍する 薬剤師を目指して(特・		医薬品開発特論Ⅱ
						病態生理学特論
２） 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ	薬の効き方Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						病態生理学特論
３） 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						病態生理学特論
【神経・筋の疾患】						
１） 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				疾病と薬物治療Ⅷ		
				総合薬・疾病演習		
２） 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				疾病と薬物治療Ⅷ		病態生理学特論
				総合薬・疾病演習		
３） てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				疾病と薬物治療Ⅷ		病態生理学特論
				総合薬・疾病演習		
４） パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				疾病と薬物治療Ⅷ		病態生理学特論
				総合薬・疾病演習		
５） アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	医薬品創製と基礎 （生物系・医療薬学系）		アドバンス薬・疾病演習
				疾病と薬物治療Ⅷ		病態生理学特論
				総合薬・疾病演習		
６） 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆			薬の効き方Ⅱ	疾病と薬物治療Ⅷ		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		病態生理学特論
【総合演習】						
１） １）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			医療情報実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
（４）疾患と薬物治療（精神疾患等）						
【精神疾患】						
１） 代表的な精神疾患を挙げることができる。			薬の効き方Ⅱ	疾病と薬物治療Ⅷ		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		
２） 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	疾病と薬物治療Ⅷ		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		
３） うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬の効き方Ⅱ	疾病と薬物治療Ⅷ		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		
４） 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症			薬の効き方Ⅱ	疾病と薬物治療Ⅷ		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		
【耳鼻咽喉の疾患】						
１） 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
２） めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
３） 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【皮膚疾患】						
１） 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾病と薬物治療Ⅷ		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		
２） アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾病と薬物治療Ⅷ		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		
３） 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾病と薬物治療Ⅷ		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		
４） 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症				疾病と薬物治療Ⅷ		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		
【眼疾患】						
１） 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
２） 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬の効き方Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
３） 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
４） 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【骨・関節の疾患】						
１） 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。		疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
２） 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
		薬の効き方Ⅰ				
３） 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
４） 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症		疾病と薬物治療Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【アレルギー・免疫疾患】						
１） 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
２） アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
３） 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
４） 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【移植医療】						
１） 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅴ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【緩和ケアと長期療養】						
１） 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				疾病と薬物治療Ⅷ		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		医薬品開発特論Ⅱ
						緩和医療の最前線
						高齢者医療
２） 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。				疾病と薬物治療Ⅷ		アドバンス薬・疾病演習
				総合薬・疾病演習		医薬品開発特論Ⅱ
						緩和医療の最前線
						高齢者医療
【総合演習】						
１） 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			医療情報実習			
（５）病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
１） 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						感染制御学特論
						高齢者医療
【抗菌薬】						
１） 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。		微生物学Ⅱ	疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						感染制御学特論
						高齢者医療
２） 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。		微生物学Ⅱ		総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						感染制御学特論
３） 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病原微生物学			感染制御学特論
４） テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病原微生物学			感染制御学特論
５） マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病原微生物学			感染制御学特論
６） アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病原微生物学			感染制御学特論
７） ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病原微生物学			感染制御学特論
８） サルファ薬（ST合剤を含む）の有効な感染症を列挙できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病原微生物学			感染制御学特論
９） 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						感染制御学特論
10） 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						感染制御学特論
11） 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				臨床で活躍する薬剤師を目指して(演)		感染制御学特論
						高齢者医療
12） 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
						感染制御学特論

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【抗原虫・寄生虫薬】						
１） 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病原微生物学			感染制御学特論
【抗真菌薬】						
１） 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病原微生物学			
【抗ウイルス薬】						
１） 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病原微生物学			
２） 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。			疾病と薬物治療VII	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【抗菌薬の耐性と副作用】						
１） 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病原微生物学			感染制御学特論
						高齢者医療
２） 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			病原微生物学			感染制御学特論
						高齢者医療
【悪性腫瘍の病態と治療】						
１） 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。			疾病と薬物治療Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			疾病と薬物治療Ⅷ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		医薬品開発特論Ⅱ
			薬の効き方Ⅲ			
２） 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。			疾病と薬物治療Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			疾病と薬物治療Ⅷ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		医薬品開発特論Ⅱ
			薬の効き方Ⅲ			
３） 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。			疾病と薬物治療Ⅲ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			疾病と薬物治療Ⅷ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		医薬品開発特論Ⅱ
【抗悪性腫瘍薬】						
１） 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
				臨床で活躍する薬剤師を目指して(特・演)		
２） 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
３） 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
４） 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
５） 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
６） 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
7） 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
8） 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1） 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
2） 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
3） 副作用軽減のための対処法を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬の効き方Ⅲ	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		
				臨床で活躍する薬剤師を目指して(特)		
C15薬物治療に役立つ情報						
（1）医薬品情報						
【情報】						
1） 医薬品として必須の情報を列挙できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
2） 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
3） 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
4） 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
5） 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【情報源】						
1） 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
2） 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
3） 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
4） 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
5） 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
6） 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
7） 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）			医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1） 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）			医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
2） 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
3） 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）			医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
4） 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）	情報リテラシーⅠ		医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
	法学	法学				
5） 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【データベース】						
1） 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
2） 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）	情報リテラシーⅠ		医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
3） インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）	情報リテラシー演習		医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【EBM (Evidence-Based Medicine) 】						
１） EBMの基本概念と有用性について説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬剤経済学			臨床薬理学特論
２） EBM実践のプロセスを概説できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			薬剤経済学			
３） 臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			医療情報実習			臨床薬理学特論
			薬剤経済学			
４） メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			医療情報実習			臨床薬理学特論
			薬剤経済学			
５） 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			医療情報実習			臨床薬理学特論
			薬剤経済学			
６） 臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			医療情報実習			臨床薬理学特論
			薬剤経済学			
【総合演習】						
１） 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
２） 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）			医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
（２）患者情報						
【情報と情報源】						
１） 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
				臨床で活躍する薬剤師を目指して(特)		
２） 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
【収集・評価・管理】						
１） 問題志向型システム（POS）を説明できる。			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
２） 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。（技能）			医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
３） 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。（技能）			医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
４） 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。（知識・技能）			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			医療情報実習	薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）		臨床薬理学特論
５） SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。（技能）			医療情報	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
			医療情報実習			
６） チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。（態度）			医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
７） 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。（知識・態度）			医療情報実習	総合薬・疾病演習		アドバンス薬・疾病演習
（３）テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
１） 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			テーラーメイド医療			アドバンス創薬演習
２） 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			テーラーメイド医療			アドバンス創薬演習
３） 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			テーラーメイド医療			アドバンス創薬演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【年齢的要因】						
１） 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。		生理活性物質概論	疾病と薬物治療VII	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
			調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習Ｉ）		
２） 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。		生理活性物質概論	疾病と薬物治療VII	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
			調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習Ｉ）		
３） 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。		生理活性物質概論	調剤学	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
				事前実務実習（実務実習事前学習Ｉ）		高齢者医療
【生理的要因】						
１） 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			疾病と薬物治療VII	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
			調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習Ｉ）		
２） 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			疾病と薬物治療VII	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
			調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習Ｉ）		
３） 栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				総合創薬演習		アドバンス創薬演習
【合併症】						
１） 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			テーラーメイド医療	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
						高齢者医療
２） 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			テーラーメイド医療	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
						高齢者医療
３） 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			テーラーメイド医療	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
						高齢者医療
【投与計画】						
１） 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）			テーラーメイド医療	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
２） ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。			テーラーメイド医療	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
３） 薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）			テーラーメイド医療	総合創薬演習		アドバンス創薬演習
４） 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。			テーラーメイド医療			アドバンス創薬演習
[医薬品をつくる]						
C16製剤化のサイエンス						
（１）製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
１） 溶液の濃度と性質について説明できる。		物理化学・分析化学実習	薬物送達学			アドバンス創薬演習
		物理薬剤学				
		分析化学実習				
２） 物質の溶解とその速度について説明できる。		物理薬剤学	薬剤学実習			アドバンス創薬演習
３） 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。		物理薬剤学	薬剤学実習			アドバンス創薬演習
４） 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。		物理薬剤学				アドバンス創薬演習
【分散系】						
１） 界面の性質について説明できる。		物理化学・分析化学実習	薬剤学実習			アドバンス創薬演習
		物理薬剤学				
２） 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。		物理薬剤学	薬剤学実習			アドバンス創薬演習
３） 乳剤の型と性質について説明できる。		物理薬剤学	製剤工学			アドバンス創薬演習
			薬剤学実習			
４） 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。		物理薬剤学	薬剤学実習			アドバンス創薬演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５） 分散粒子の沈降現象について説明できる。		物理薬剤学				アドバンス創薬演習
【製剤材料の物性】						
１） 流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。		物理薬剤学	薬剤学実習			アドバンス創薬演習
２） 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。		物理化学・分析化学実習				アドバンス創薬演習
		物理薬剤学				
３） 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。		物理薬剤学				アドバンス創薬演習
４） 粉体の性質について説明できる。		物理薬剤学	製剤工学			アドバンス創薬演習
			薬剤学実習			
５） 製剤材料としての分子集合体について説明できる。		物理薬剤学				アドバンス創薬演習
６） 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。		物理薬剤学	薬剤学実習			アドバンス創薬演習
			薬物送達学			
７） 粉末Ｘ線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。			薬物送達学			アドバンス創薬演習
８） 製剤材料の物性を測定できる。（技能））			薬剤学実習			アドバンス創薬演習
（２）剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
１） 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。			製剤工学			アドバンス創薬演習
			薬物送達学			
２） 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。			製剤工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス創薬演習
３） 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。			製剤工学			アドバンス創薬演習
４） 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。			製剤工学			アドバンス創薬演習
５） 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。			製剤工学			アドバンス創薬演習
６） エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。			製剤工学			アドバンス創薬演習
７） 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。			製剤工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス創薬演習
８） 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。			製剤工学			アドバンス創薬演習
【製剤化】						
１） 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。			製剤工学			アドバンス創薬演習
			薬剤学実習			
２） 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。（技能）			製剤工学			アドバンス創薬演習
			薬剤学実習			
３） 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤工学			アドバンス創薬演習
			薬物送達学			
【製剤試験法】						
１） 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。			製剤工学	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）		アドバンス創薬演習
			薬剤学実習	薬局方総論		
２） 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。（技能）			薬剤学実習			アドバンス創薬演習
（３）DDS（Drug Delivery System：薬物送達システム）						
【DDSの必要性】						
１） 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。		物理薬剤学	薬物送達学			アドバンス創薬演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
２） DDSの概念と有用性について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学			アドバンス創薬演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
【放出制御型製剤】						
１） 放出制御型製剤（徐放性製剤を含む）の利点について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学			アドバンス創薬演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２） 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。		物理薬剤学				アドバンス創薬演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
３） 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学			アドバンス創薬演習
４） 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学			アドバンス創薬演習
５） 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる		物理薬剤学	薬物送達学			アドバンス創薬演習
６） 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学			アドバンス創薬演習
【ターゲティング】						
１） ターゲティングの概要と意義について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学			アドバンス創薬演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
２） 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学			アドバンス創薬演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
【プロドラッグ】						
１） 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学			アドバンス創薬演習
【その他のDDS】						
１） 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学			アドバンス創薬演習
C17医薬品の開発と生産						
（１）医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
１） 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。				データ解析集中講座	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
				医薬品開発と臨床試験（特）		臨床薬理学特論
			医薬品開発	医薬品開発	医薬品生産特論	医薬品生産特論
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
２） 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
１） 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
２） 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
３） ジェネリック医薬品の役割について概説できる。			医療情報	医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
			薬事関連法規と制度Ⅰ			
４） 希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
【非臨床試験】						
１） 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			医療情報	医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
【医薬品の承認】						
１） 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			医療情報	医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
						医薬品開発特論Ⅱ
						臨床薬理学特論
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２） 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
						医薬品開発特論Ⅱ
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
３） 市販後調査の制度とその意義について説明できる。			医療情報	データ解析集中講座	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
			薬事関連法規と制度Ⅰ	医薬品開発と臨床試験（特）		医薬品開発特論Ⅱ
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
４） 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション（ICH）について概説できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
						医薬品開発特論Ⅱ
						臨床薬理学特論
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
【医薬品の製造と品質管理】						
１） 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
２） 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
３） 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
【規範】						
１） １）GLP（GoodLaboratoryPractice）、GMP(GoodManufacturingPractice)、GCP(GoodClinicalPractice)、GPMSP(GoodPost-MarketingSurveillancePractice）の概略と意義について説明できる。			製剤工学	医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
			薬事関連法規と制度Ⅰ			医薬品開発特論Ⅱ
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
【特許】						
１） 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。	国際関係論	国際関係論		医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
【薬害】						
１） 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
			医薬品開発	医薬品開発		
（２）リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
１） 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。			医薬品化学Ⅱ	医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
			医薬品開発	医薬品開発		
【標的生体分子との相互作用】						
１） 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。			医薬品化学Ⅱ	医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
２） 医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。				医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
３） 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。			一般用医薬品学	医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
4） 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。				医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
			医薬品開発	医薬品開発		
【スクリーニング】						
1） スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。				医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
2） 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。				医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
【リード化合物の最適化】						
1） 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。				医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
2） 生物学的等価性（バイオアイソスター）の意義について概説できる。				医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
3） 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
（3）バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1） 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。		物理薬剤学	バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
			細胞工学		医薬品生産特論	医薬品生産特論
			医薬品開発	医薬品開発		
2） 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。		物理薬剤学	バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
			細胞工学		医薬品生産特論	医薬品生産特論
			医薬品開発	医薬品開発		
3） 組換え体医薬品の安全性について概説できる。		物理薬剤学	バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
			細胞工学		医薬品生産特論	医薬品生産特論
			医薬品開発	医薬品開発		
【遺伝子治療】						
1） 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）		物理薬剤学	バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
			細胞工学			
【細胞を利用した治療】						
1） 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
			細胞工学			
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1） ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
2） バイオインフォマティクスについて概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
3） 遺伝子多型（欠損、増幅）の解析に用いられる方法（ゲノミックサザンブロット法など）について概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
4） ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
【疾患関連遺伝子】						
1） 代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。		生化学Ⅱ	バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２） 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	医薬品開発と臨床試験（特）		アドバンス創薬演習
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
（４）治験						
【治験の意義と業務】						
１） 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
						医薬品開発特論Ⅱ
						臨床薬理学特論
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
２） 医薬品創製における治験の役割を説明できる。				データ解析集中講座	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
				医薬品開発と臨床試験（特）		医薬品開発特論Ⅱ
						臨床薬理学特論
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
３） 治験（第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相）の内容を説明できる。				データ解析集中講座	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
				医薬品開発と臨床試験（特）		医薬品開発特論Ⅱ
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
４） 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
						医薬品開発特論Ⅱ
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
５） 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。（態度）				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
						医薬品開発特論Ⅱ
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
６） 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
						医薬品開発特論Ⅱ
					医薬品生産特論	医薬品生産特論
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
【治験における薬剤師の役割】						
１） 治験における薬剤師の役割（治験薬管理者など）を説明できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
				事前実務学習（実務実習事前学習II）		医薬品開発特論Ⅱ
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２） 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
				事前実務学習（実務実習事前学習II）		医薬品開発特論Ⅱ
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
３） 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
				事前実務学習（実務実習事前学習II）		医薬品開発特論Ⅱ
						臨床薬理学特論
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
４） インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。（態度）				医薬品開発と臨床試験（特）	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
						医薬品開発特論Ⅱ
					治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）	治験の実際（創薬育薬分野における薬剤師）
（５）バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
１） 帰無仮説の概念を説明できる。		応用統計学	薬剤経済学	データ解析集中講座		アドバンス創薬演習
					医療経済学特論	医療経済学特論
						バイオスタティスティクスII
２） パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。		応用統計学	薬剤経済学			アドバンス創薬演習
					医療経済学特論	医療経済学特論
３） 主な二群間の平均値の差の検定法（t-検定、Mann-WhitneyU検定）について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）		応用統計学	薬剤経済学			アドバンス創薬演習
					医療経済学特論	医療経済学特論
						バイオスタティスティクスII
４） χ2検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）		応用統計学	薬剤経済学			アドバンス創薬演習
					医療経済学特論	医療経済学特論
						バイオスタティスティクスII
５） 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。（知識・技能）		応用統計学	多変量解析	多変量解析		アドバンス創薬演習
			薬剤経済学		医療経済学特論	医療経済学特論
						バイオスタティスティクスII
６） 主な多重比較検定法（分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など）の概要を説明できる。			薬剤経済学			アドバンス創薬演習
					医療経済学特論	医療経済学特論
７） 主な多変量解析の概要を説明できる。		応用統計学	多変量解析	多変量解析		アドバンス創薬演習
			薬剤経済学		医療経済学特論	医療経済学特論
						バイオスタティスティクスII
【臨床への応用】						
１） 臨床試験の代表的な研究デザイン（症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験）の特色を説明できる。		応用統計学	医療情報	データ解析集中講座	特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
			医療情報実習			
２） バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。			医療情報		特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
			多変量解析	多変量解析		

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
3） バイアスを回避するための計画上の技法（盲検化、ランダム化）について説明できる。			医療情報		特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
4） リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）			医療情報		特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
5） 基本的な生存時間解析法（Kaplan-Meier曲線など）の特徴を説明できる。			医療情報		特許・レギュラトリアルサイエンス	アドバンス創薬演習
C18薬学と社会						
（1）薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1） 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。（態度）		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
2） 医療過誤、リスクマネージメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。（態度）		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
	法学	法学				
【法律と制度】						
1） 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。	法学	法学	薬事関連法規と制度Ⅰ	総合法規演習		アドバンス創薬演習
2） 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。		薬学と社会	一般用医薬品学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
	法学	法学	薬事関連法規と制度Ⅰ			
3） 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。		薬学と社会	薬事関連法規と制度Ⅰ	総合法規演習		アドバンス創薬演習
4） 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。				総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		
5） 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。				総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		
6） 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。		薬学と社会	一般用医薬品学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		
7） 製造物責任法を概説できる。			薬事関連法規と制度Ⅰ	総合法規演習		アドバンス創薬演習
【管理薬】						
1） 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		高齢者医療
2） 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		高齢者医療
3） 大麻取締法およびあへん法を概説できる。				総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		高齢者医療
4） 毒物及び劇物取締法を概説できる。				総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		
【放射性医薬品】						
1） 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。		放射化学		総合法規演習		アドバンス創薬演習
2） 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。		臨床分析化学		総合法規演習		アドバンス創薬演習
（2）社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1） 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。		薬学と社会	薬事関連法規と制度Ⅰ	総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		
2） 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		
3） 介護保険制度のしくみを説明できる。		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		
4） 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		高齢者医療

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【医療保険】						
１） 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
	現代経済論	現代経済論		薬事関連法規と制度Ⅱ		高齢者医療
２） 医療保険のしくみを説明できる。		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
	現代経済論	現代経済論		薬事関連法規と制度Ⅱ		高齢者医療
３） 医療保険の種類を列挙できる。		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
	現代経済論	現代経済論		薬事関連法規と制度Ⅱ		高齢者医療
４） 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
	現代経済論	現代経済論				高齢者医療
【薬剤経済】						
１） 国民医療費の動向を概説できる。	現代経済論	現代経済論	薬剤経済学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
	国際関係論	国際関係論		薬事関連法規と制度Ⅱ	医療経済学特論	医療経済学特論
２） 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。	現代経済論	現代経済論	薬剤経済学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
	国際関係論	国際関係論		薬事関連法規と制度Ⅱ	医療経済学特論	医療経済学特論
３） 診療報酬と薬価基準について説明できる。	現代経済論	現代経済論	薬剤経済学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
	国際関係論	国際関係論	一般用医薬品学	薬事関連法規と制度Ⅱ	医療経済学特論	医療経済学特論
４） 医療費の内訳を概説できる。			薬剤経済学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
			一般用医薬品学	薬事関連法規と制度Ⅱ	医療経済学特論	医療経済学特論
５） 薬物治療の経済評価手法を概説できる。	現代経済論	現代経済論	薬剤経済学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
					医療経済学特論	医療経済学特論
６） 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。（知識・技能）			薬剤経済学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
					医療経済学特論	医療経済学特論
（３）コミュニティーファーマシー						
【地域薬局の役割】						
１） 地域薬局の役割を列挙できる。		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
						緩和医療の最前線
						高齢者医療
２） 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
	法学	法学				緩和医療の最前線
						高齢者医療
３） 学校薬剤師の役割を説明できる。		薬学と社会		事前実務実習 （実務実習事前学習Ⅰ）		アドバンス創薬演習
				総合法規演習		高齢者医療
【医薬分業】						
１） 医薬分業のしくみと意義を説明できる。		薬学と社会		事前実務実習 （実務実習事前学習Ⅰ）		アドバンス創薬演習
				総合法規演習		
				薬事関連法規と制度Ⅱ		
２） 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。（知識・態度）		薬学と社会	一般用医薬品学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
３） かかりつけ薬局の意義を説明できる。		薬学と社会		事前実務実習 （実務実習事前学習Ⅰ）		アドバンス創薬演習
				総合法規演習		
【薬局の業務運営】						
１） 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。			一般用医薬品学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
				薬事関連法規と制度Ⅱ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム （ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２） 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。		薬学と社会		総合法規演習		アドバンス創薬演習
	法学	法学				
３） 医薬品の流通のしくみを概説できる。		薬学と社会	調剤学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
４） 調剤報酬および調剤報酬明細書（レセプト）について説明できる。			一般用医薬品学	総合法規演習		アドバンス創薬演習
【OTC薬・セルフメディケーション】						
１） 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。（態度）			一般用医薬品学	セルフメディケーション：薬剤師の関わり①		アドバンス創薬演習
				セルフメディケーション：薬剤師の関わり②		
				セルフメディケーション：薬剤師の関わり④		
				総合法規演習		
２） 主な一般用医薬品（OTC薬）を列挙し、使用目的を説明できる。			一般用医薬品学	セルフメディケーション：薬剤師の関わり①		アドバンス創薬演習
				セルフメディケーション：薬剤師の関わり④		
				総合法規演習		
３） 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。			一般用医薬品学	セルフメディケーション：薬剤師の関わり①		アドバンス創薬演習
				セルフメディケーション：薬剤師の関わり②		
				セルフメディケーション：薬剤師の関わり④		
				総合法規演習		

（基礎資料３－２）実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目

［注］ １　実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
２　同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
３　「（７）の事前学習のまとめ」において大学でＳＢＯsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）ＳＢＯｓ	該当科目			
	３年	４年		５年
Ｄ　実務実習教育				
（Ｉ）実務実習事前学習				
（１）事前学習を始めるにあたって				
《薬剤師業務に注目する》				
1.　医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習I）	事前実務学習（実務実習事前学習II）	
2.　医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。				
3.　薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。（態度）				
《チーム医療に注目する》				
4.　医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		事前実務実習（実務実習事前学習I）		
5.　チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。				
6.　自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。（態度）				
《医薬分業に注目する》				
7.　医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		事前実務実習（実務実習事前学習I）		
（２）処方せんと調剤				
《処方せんの基礎》				
1.　処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習I）		
2.　処方オーダリングシステムを概説できる。				
3.　処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。	調剤学		事前実務学習（実務実習事前学習II）	
4.　調剤を法的根拠に基づいて説明できる。	調剤学 薬事関連法規と制度Ｉ			
5.　代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。（知識・技能）	調剤学			
6.　不適切な処方せんの処置について説明できる。				
《医薬品の用法・用量》				
7.　代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習I）		
8.　患者に適した剤形を選択できる。（知識・技能）				
9.　患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。				
10.　患者の特性に適した用量を計算できる。（技能）				
11.　病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。				

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）ＳＢＯｓ	該当科目			
	３年	４年		５年
《服薬指導の基礎》				
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。	調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習I）		
《調剤室業務入門》				
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。（技能）		事前実務実習（実務実習事前学習I）	事前実務学習（実務実習事前学習II）	
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。（技能）				
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。（技能）				
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。（技能）				
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。（態度）				
（３）疑義照会				
《疑義照会の意義と根拠》				
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	薬事関連法規と制度Ｉ	事前実務実習（実務実習事前学習I）		
2. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。	調剤学			
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。（技能）				
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。	調剤学			
《疑義照会入門》				
5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。（態度）		事前実務実習（実務実習事前学習I）	事前実務学習（実務実習事前学習II）	
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。	調剤学			
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。				
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。				
9. 疑義照会の流れを説明できる。				
10. 疑義照会をシミュレートする。（技能・態度）				
（４）医薬品の管理と供給				
《医薬品の安定性に注目する》				
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	薬事関連法規と制度Ｉ	事前実務実習（実務実習事前学習I）		
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。	調剤学			
《特別な配慮を要する医薬品》				
3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。	薬事関連法規と制度Ｉ	事前実務実習（実務実習事前学習I）		
4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。				
5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。	薬事関連法規と制度Ｉ			
6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。				
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。				
8. 生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。	薬事関連法規と制度Ｉ			
9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。（技能）				
10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。				
11. 放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。				

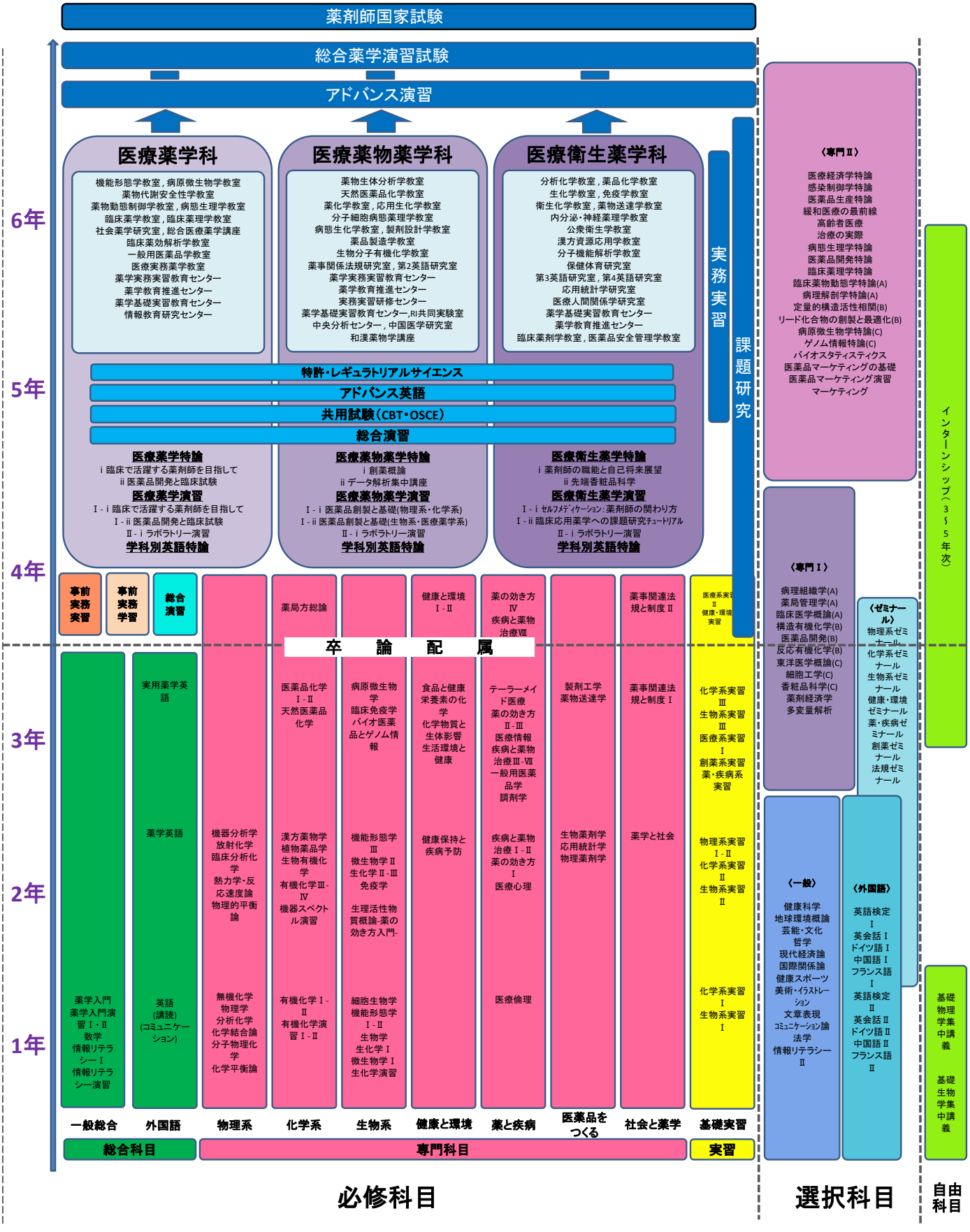
実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）ＳＢＯｓ	該当科目			
	３年	４年		５年
《製剤化の基礎》				
12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				
14. 代表的な院内製剤を調製できる。（技能）				
15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）			事前実務学習（実務実習事前学習Ⅱ）	
16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。（技能）				
《注射剤と輸液》				
17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。	調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
18. 代表的な配合変化を検出できる。（技能）				
19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅷ	
20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。（技能）				
《消毒薬》				
21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。				
（５）リスクマネージメント				
《安全管理に注目する》				
1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。	調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。				
3. 院内感染の回避方法について説明できる。				
《副作用に注目する》				
4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
《リスクマネージメント入門》				
5. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。	調剤学	事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
6. リスクを回避するための具体策を提案する。（態度）				
7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。（態度）				
（６）服薬指導と患者情報				
《服薬指導に必要な技能と態度》				
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。	薬事関連法規と制度Ⅰ	事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）		
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。	調剤学			
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。（態度）			事前実務学習（実務実習事前学習Ⅱ）	
5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。（技能・態度）				
6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。（知識・態度）				
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。			事前実務学習（実務実習事前学習Ⅱ）	
《患者情報の重要性に注目する》				

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）ＳＢＯｓ	該　当　科　目			
	３年	４年		５年
8.　服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。	調剤学	事前実務実習 （実務実習事前学習I）	事前実務学習 （実務実習事前学習II）	
9.　患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）				
10.　医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。				
《服薬指導入門》				
11.　代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		事前実務実習 （実務実習事前学習I）	事前実務学習 （実務実習事前学習II）	
12.　共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）				
13.　患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）				
14.　代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）	調剤学			
（７）事前学習のまとめ				
		事前実務実習 （実務実習事前学習I）		

（基礎資料4）カリキュラムマップ

［注］1　任意（大学独自）の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に提示している
　　カリキュラムマップの転記でも結構です。
　　2　図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。

東京薬科大学薬学部カリキュラムマップ



東京薬科大学
Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences

薬学部 School of Pharmacy

東京薬科大学で身につく力をクリック！

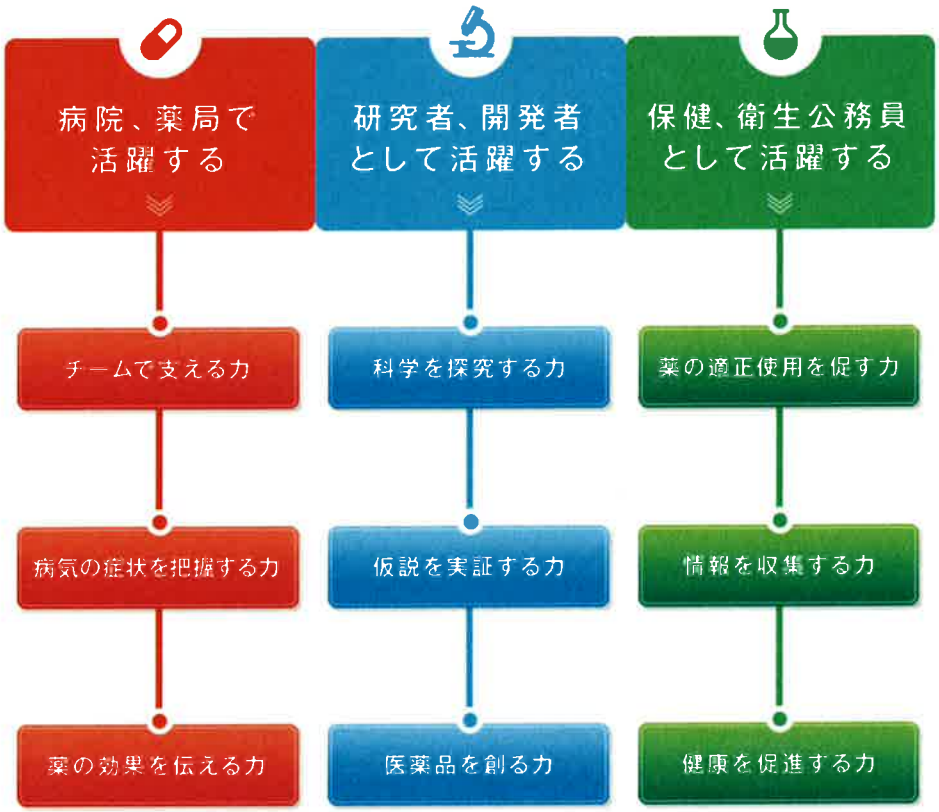
薬学部で開設されている授業科目を"受験生の皆さんがイメージする将来像"を起点にピックアップしたのがこの「薬学部ラーニングマップ」です。皆さんが就きたい将来の仕事に必要な力をクリックして、そこにピックアップされている授業科目を詳しく見てみましょう。

薬学部
ラーニングマップ
learning map

病院、薬局で活躍する
- チームで支える力
- 病気の症状を把握する力
- 薬の効果を伝える力

研究者、開発者として活躍する
- 科学を探求する力
- 仮説を実証する力
- 医薬品を創る力

保健、衛生公務員として活躍する
- 薬の適正使用を促す力
- 情報を収集する力
- 健康を促進する力



© Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences. All rights reserved.

薬学部
ラーニングマップ
learning map

病院、薬局で活躍する

- チームで支える力
- 病気の症状を把握する力
- 薬の効果を伝える力

研究者、開発者として活躍する

- 科学を探求する力
- 仮説を実証する力
- 医薬品を創る力

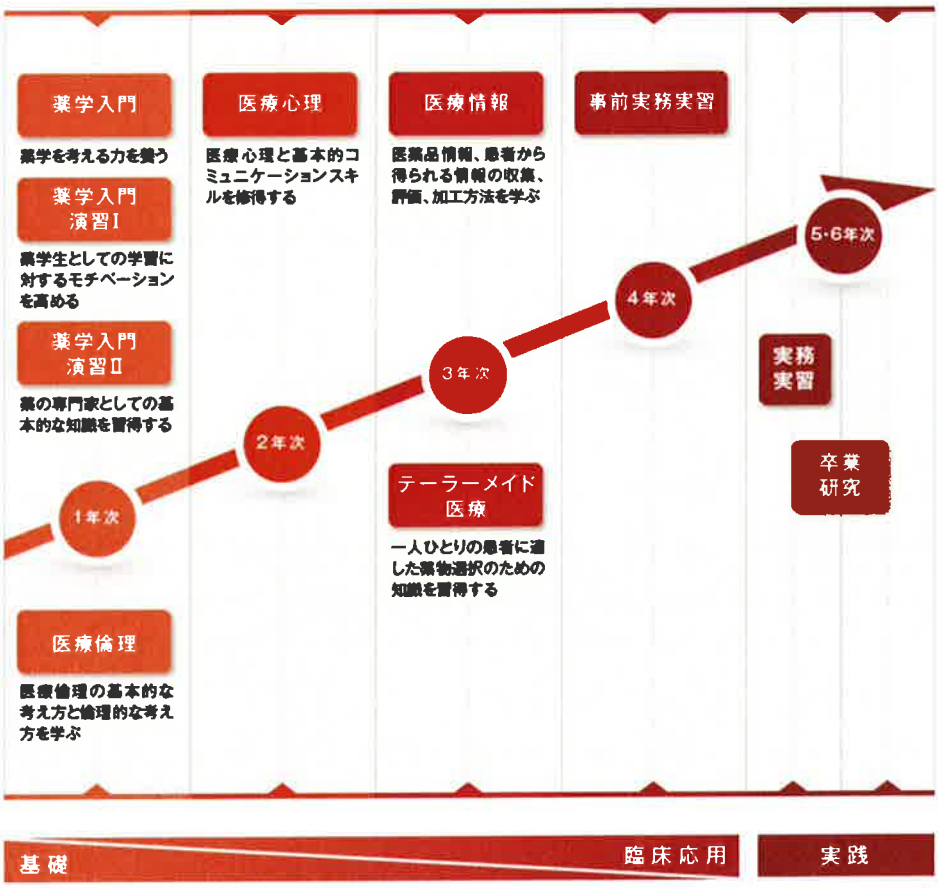
保健、衛生公務員として活躍する

- 薬の適正使用を促す力
- 情報を収集する力
- 健康を促進する力

チームで支える力を身につけるには

近年、医療の現場では医師や看護師、薬剤師をはじめとした医療従事者が互いに連携をとることで患者の治療効果を高める「チーム医療」が注目されています。
臨床の現場をめざす人にとって、この『チームで支える力』はとても重要な力になっています。

東京薬科大学で学べる科目をクリック！



※平成27年度入学生より、コアカリキュラムの改定が予定されています。このカリキュラムマップは現在のカリキュラムをもとに作成しています。
※カリキュラムの内容を分かりやすく掲載するため、特徴的な科目を抜粋しました。実際には、この他に多くの科目が設定されています。

© Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences. All rights reserved.

薬学部
ラーニングマップ
learning map

病院、薬局で活躍する

- チーム で支える力
- 病気の症状を把握する力
- 薬の効果を伝える力

研究者、開発者として活躍する

- 科学を探求する力
- 仮説を実証する力
- 医薬品を創る力

保健、衛生公務員として活躍する

- 薬の適正使用を促す力
- 情報を収集する力
- 健康を促進する力

病気の症状を把握する力を身につけるには

薬剤師は薬の効果や副作用についての説明が求められます。
薬によっては、適用疾病が複数あるものもあるため、どんな症状があるかによって説明内容も変わります。
そのためには、患者とのコミュニケーションの中で的確に症状を把握する力が求められます。

東京薬科大学で学べる科目をクリック！



※平成27年度入学生より、コアカリキュラムの改定が予定されています。このカリキュラムマップは現在のカリキュラムをもとに作成しています。
※カリキュラムの内容を分かりやすく掲載するため、特徴的な科目を抜粋しました。実際には、この他に多くの科目が設定されています。

薬学部
ラーニングマップ
learning map

病院、薬局で活躍する

- チームで支える力
- 病気の症状を把握する力
- 薬の効果を伝える力

研究者、開発者として活躍する

- 科学を探求する力
- 仮説を実証する力
- 医薬品を創る力

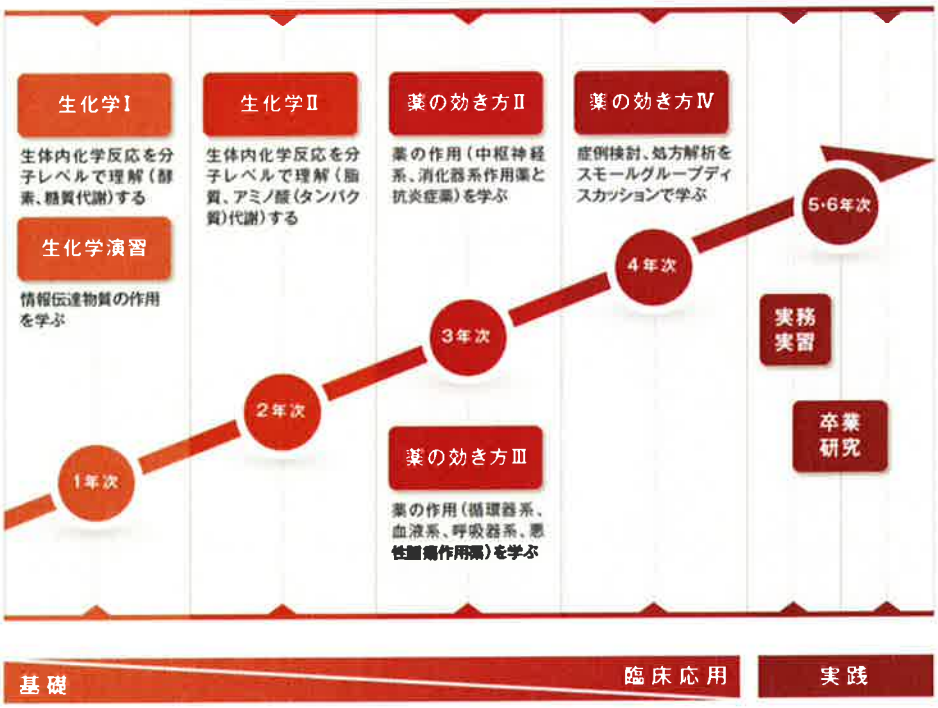
保健、衛生公務員として活躍する

- 薬の適正使用を促す力
- 情報を収集する力
- 健康を促進する力

薬の効果を伝える力を身につけるには

患者に薬の効果を伝える際には、"どの成分が""どのように作用するのか"という分かりやすい説明が求められます。そのためにはさまざまな科学的な知識を土台とした「根拠」が必要不可欠です。

東京薬科大学で学べる科目をクリック！



※平成27年度入学生より、コアカリキュラムの改定が予定されています。このカリキュラムマップは現在のカリキュラムをもとに作成しています。
※カリキュラムの内容を分かりやすく掲載するため、特徴的な科目を抜粋しました。実際には、この他に多くの科目が設定されています。

© Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences. All rights reserved.

薬学部
ラーニングマップ
learning map

病院、薬局で活躍する

- チームで支える力
- 病気の症状を把握する力
- 薬の効果を伝える力

研究者、開発者として活躍する

- 科学を探求する力
- 仮説を実証する力
- 医薬品を創る力

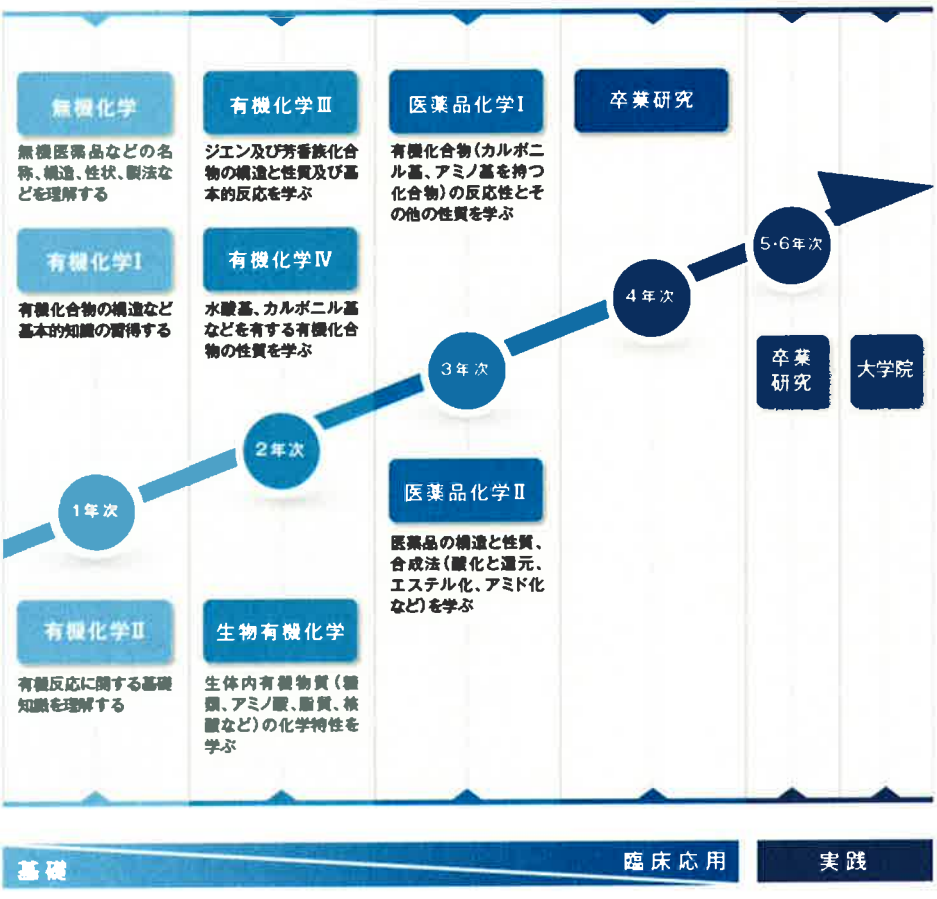
保健、衛生公務員として活躍する

- 薬の適正使用を促す力
- 情報を収集する力
- 健康を促進する力

科学を探求する力を身につけるには

薬学は医療に関わる学問であると同時に、科学を追究する学問でもあります。
薬学では基礎科学の科目を通して科学的な土台を作るだけでなく、高年次の科目や卒業研究で
オリジナルなテーマの研究を行い、科学を探究する力を養います。

東京薬科大学で学べる科目をクリック！



※平成27年度入学生より、コアカリキュラムの改定が予定されています。このカリキュラムマップは現在のカリキュラムをもとに作成しています。
※カリキュラムの内容を分かりやすく掲載するため、特徴的な科目を抜粋しました。実際には、この他に多くの科目が設定されています。

© Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences. All rights reserved.

薬学部
ラーニングマップ
learning map

病院、薬局で活躍する

- チームで支える力
- 病気の症状を把握する力
- 薬の効果を伝える力

研究者、開発者として活躍する

- 科学を探求する力
- 仮説を実証する力
- 医薬品を創る力

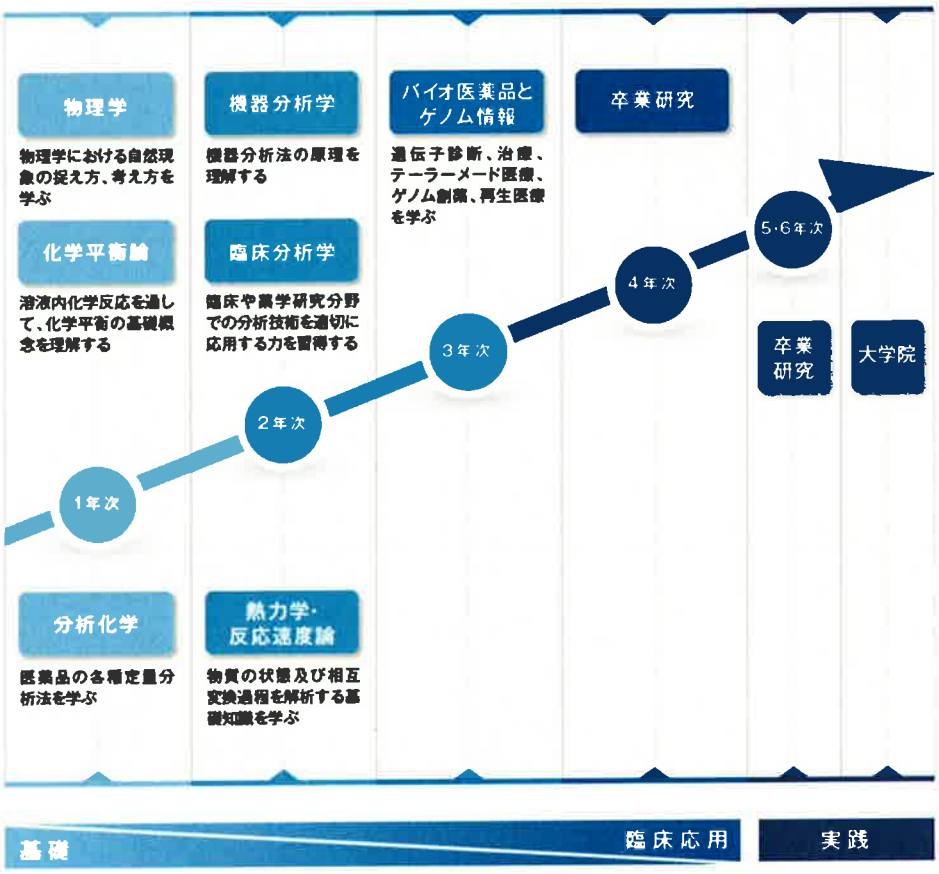
保健、衛生公務員として活躍する

- 薬の適正使用を促す力
- 情報を収集する力
- 健康を促進する力

仮説を実証する力を身につけるには

創薬研究だけでなく、研究では様々な仮説を立て、実証する必要があります。
さまざまな仮説を実証し、多くの問題をクリアしていくためには
正確な研究手順の修得と科学的な知識をベースとした分析力が必要となります。

東京薬科大学で学べる科目をクリック！



※平成27年度入学生より、コアカリキュラムの改定が予定されています。このカリキュラムマップは現在のカリキュラムをもとに作成しています。
※カリキュラムの内容を分かりやすく掲載するため、特徴的な科目を抜粋しました。実際には、この他に多くの科目が設定されています。

© Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences. All rights reserved.

薬学部
ラーニングマップ
learning map

病院、薬局で活躍する

- チームで支える力
- 病気の症状を把握する力
- 薬の効果を伝える力

研究者、開発者として活躍する

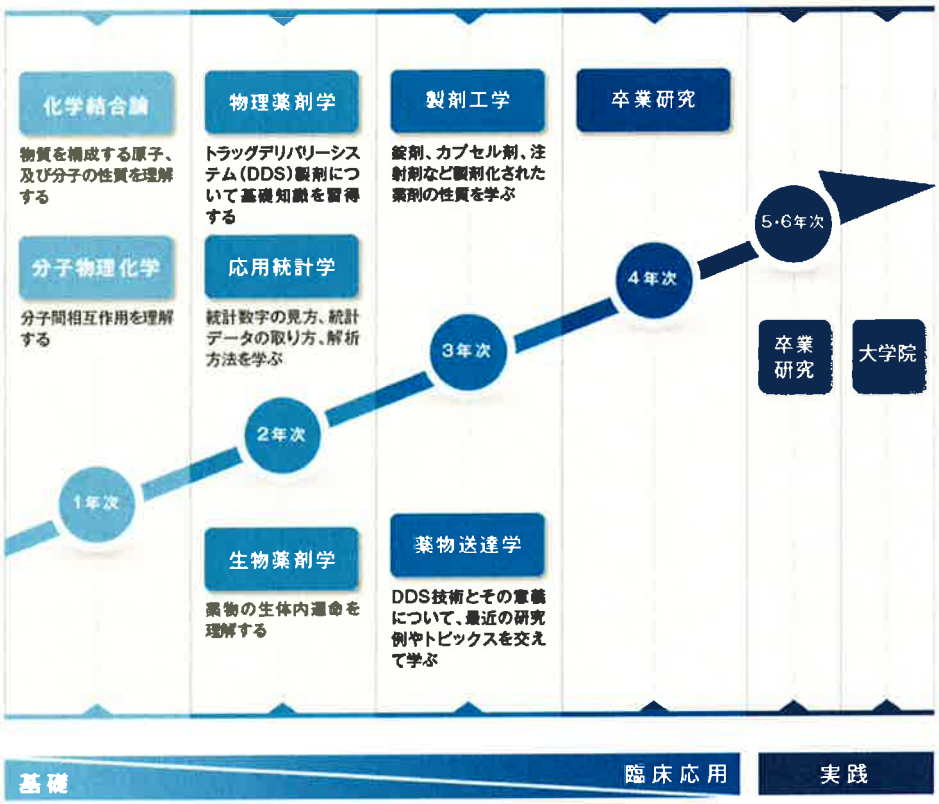
- 科学を探求する力
- 仮説を実証する力
- 医薬品を創る力

保健、衛生公務員として活躍する

- 薬の適正使用を促す力
- 情報を収集する力
- 健康を促進する力

医薬品を創る力を身につけるには

薬を開発するためには、"その物質がどのように作用するのか"や"どのようにして体に吸収されるのか"といった「薬の効果」に関わるさまざまな知識や理解が必要になります。



※平成27年度入学生より、コアカリキュラムの改定が予定されています。このカリキュラムマップは現在のカリキュラムをもとに作成しています。
※カリキュラムの内容を分かりやすく掲載するため、特徴的な科目を抜粋しました。実際には、この他に多くの科目が設定されています。

© Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences. All rights reserved.

薬学部
ラーニングマップ
learning map

病院、薬局で活躍する

- チームで支える力
- 病気の症状を把握する力
- 薬の効果を伝える力

研究者、開発者として活躍する

- 科学を探求する力
- 仮説を実証する力
- 医薬品を創る力

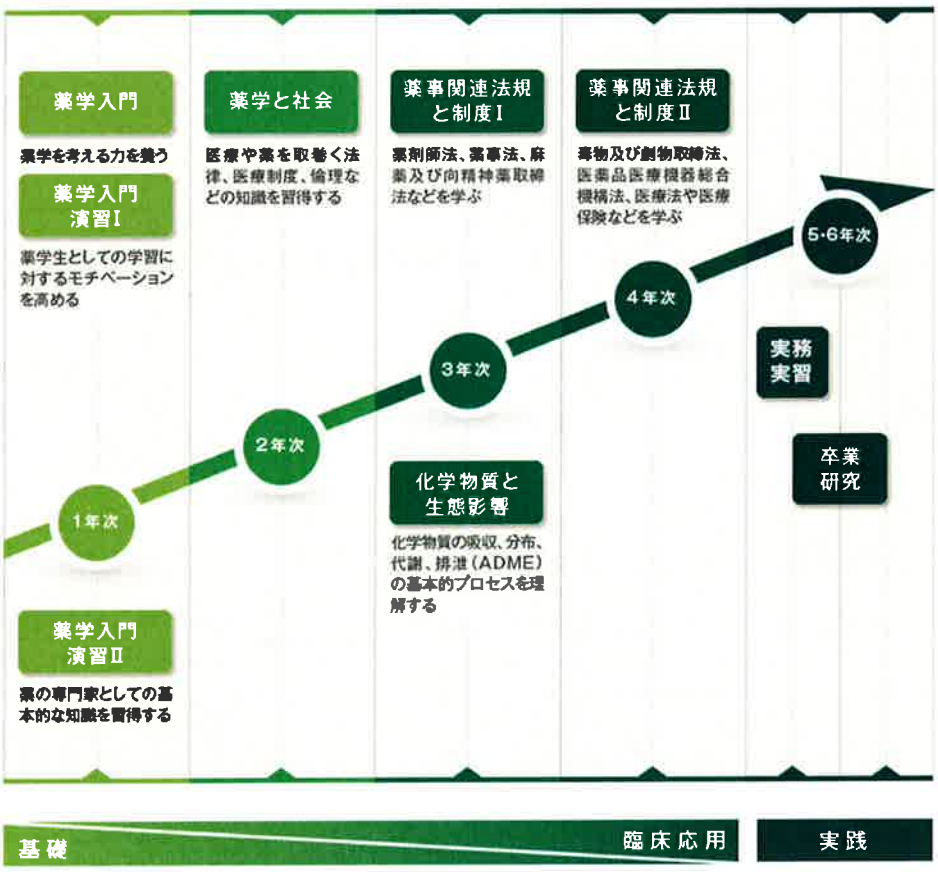
保健、衛生公務員として活躍する

- 薬の適正使用を促す力
- 情報を収集する力
- 健康を促進する力

薬の適正使用を促す力を身につけるには

薬の適正使用を促すためには、薬の効き方やその伝え方といった基本的な力に加え、
薬に関わる法律や医療制度、倫理的な問題などさまざまな視点での知識が求められます。

東京薬科大学で学べる科目をクリック！



※平成27年度入学生より、コアカリキュラムの改定が予定されています。このカリキュラムマップは現在のカリキュラムをもとに作成しています。
※カリキュラムの内容を分かりやすく掲載するため、特徴的な科目を抜粋しました。実際には、この他に多くの科目が設定されています。

© Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences. All rights reserved.

薬学部
ラーニングマップ
learning map

病院、薬局で活躍する

- チームで支える力
- 病気の症状を把握する力
- 薬の効果を伝える力

研究者、開発者として活躍する

- 科学を探求する力
- 仮説を実証する力
- 医薬品を創る力

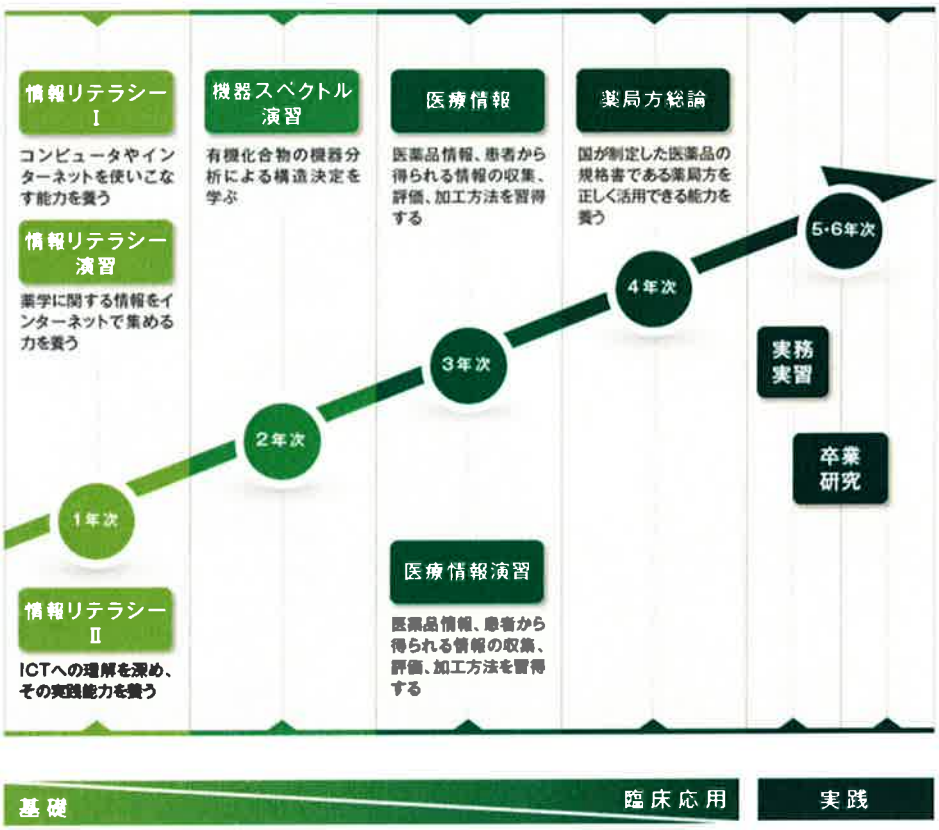
保健、衛生公務員として活躍する

- 薬の適正使用を促す力
- 情報を収集する力
- 健康を促進する力

情報を収集する力を身につけるには

薬に関わる多くの職業においては、病気に関する知識や日々開発される医薬品、医療機器などに関する情報を、常に収集しアップデートしていく姿勢とそれを効果的に蓄積していくスキルが求められます。

東京薬科大学で学べる科目をクリック！



※平成27年度入学生より、コアカリキュラムの改定が予定されています。このカリキュラムマップは現在のカリキュラムをもとに作成しています。
※カリキュラムの内容を分かりやすく掲載するため、特徴的な科目を抜粋しました。実際には、この他に多くの科目が設定されています。

© Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences. All rights reserved.

薬学部
ラーニングマップ
learning map

病院、薬局で活躍する

- チームで支える力
- 病気の症状を把握する力
- 薬の効果を伝える力

研究者、開発者として活躍する

- 科学を探求する力
- 仮説を実証する力
- 医薬品を創る力

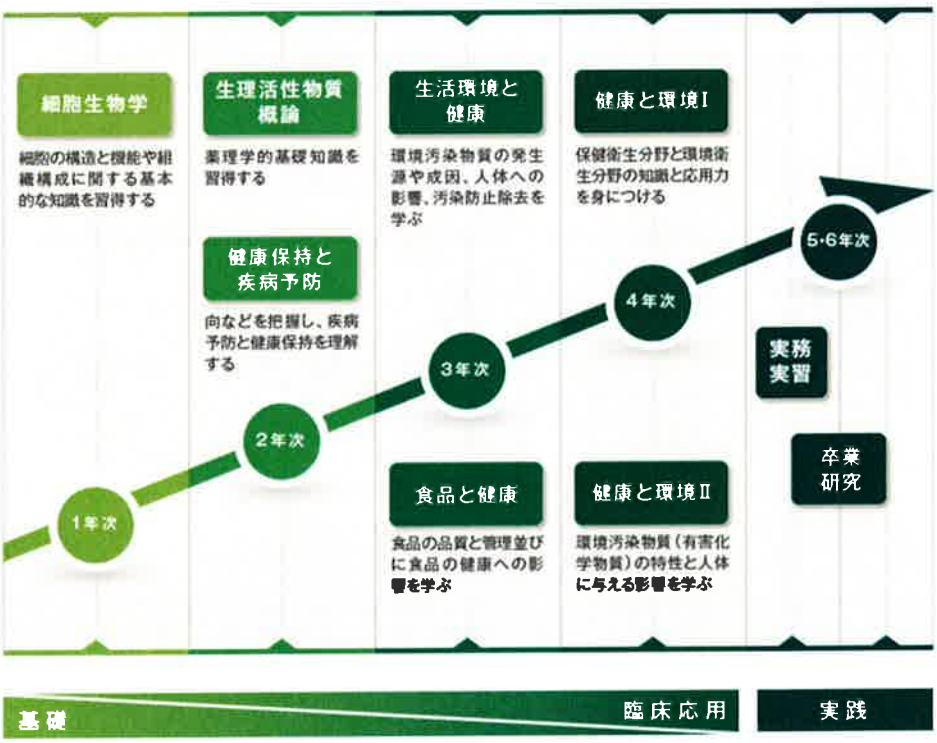
保健、衛生公務員として活躍する

- 薬の適正使用を促す力
- 情報を収集する力
- 健康を促進する力

健康を促進する力を身につけるには

病気にかからないような生活を社会に提案していくことも薬学における役割の１つです。
食品や生活習慣、環境汚染物質など多岐にわたる知識を身につけ、
薬学の観点から健康の重要性を伝えていきます。

東京薬科大学で学べる科目をクリック！



※平成27年度入学生より、コアカリキュラムの改定が予定されています。このカリキュラムマップは現在のカリキュラムをもとに作成しています。
※カリキュラムの内容を分かりやすく掲載するため、特徴的な科目を抜粋しました。実際には、この他に多くの科目が設定されています。

© Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences. All rights reserved.

（基礎資料５）語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
(択)コミュニケーション論	1	○	○	○	○
英語（講読）	1	○	○	○	○
英語（コミュニケーション）	1	○	○	○	○
(択)総合系ゼミナール（語学）	1・2	○	○	○	○
(択)英語検定Ⅰ	1・2	○	○	○	○
(択)英会話Ⅰ	1・2	○	○	○	○
(択)ドイツ語Ⅰ	1・2	○	○	○	○
(択)中国語Ⅰ	1・2	○	○	○	○
(択)フランス語Ⅰ	1・2	○	○	○	○
(択)英語検定Ⅱ	1・2	○	○	○	○
(択)英会話Ⅱ	1・2	○	○	○	○
(択)ドイツ語Ⅱ	1・2	○	○	○	○
(択)中国語Ⅱ	1・2	○	○	○	○
(択)フランス語Ⅱ	1・2	○	○	○	○
(択)文章表現	2	○	○	○	○
薬学英語	2	○	○	○	○
(択)総合系ゼミナール（語学）	1・2	○	○	○	○
実用薬学英語	3	○	○	○	○
科別英語特論	4	○	○	○	
アドバンス英語	5	○	○	○	

［注］ 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

（基礎資料６－１）４年次の実務実習事前学習Ⅰのスケジュール

実習回	学科別実習日			グループ	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ		Ⅵ	
	医療薬学科	医療薬物薬学科	医療衛生薬学科		9:10 ～ 10:20		10:30 ～ 11:40		11:50 ～ 13:00		14:00 ～ 15:10		15:20 ～ 16:30		16:40 ～ 17:50	
1	4月4日(金)	4月21日(月)	5月12日(月)	A	111 薬剤師業務	S101,S102,S107 講義	112 チーム医療	S104,S105 講義	411 医薬品管理 1	S401,S402,S403 講義	551 フィジカル	S504,S505 実習	551 フィジカル	S504,S505 実習	551 フィジカル	S504,S505 実習
				B							452 製剤	S408,S409,S410 実習	452 製剤	S408,S409,S410 実習	452 製剤	S408,S409,S410 実習
				C							453 無菌1	S411 実習	453 無菌1	S411 実習	453 無菌1	S411 実習
2	4月7日(月)	4月22日(火)	5月13日(火)	A	412 医薬品管理 2	S404,S405 講義	451 特殊薬品	S403,S404,S405,S406 実習	451 特殊薬品	S403,S404,S405,S406 実習	453 無菌1	S411 実習	453 無菌1	S411 実習	453 無菌1	S411 実習
				B							551 フィジカル	S504,S505 実習	551 フィジカル	S504,S505 実習	551 フィジカル	S504,S505 実習
				C							452 製剤	S408,S409,S410 実習	452 製剤	S408,S409,S410 実習	452 製剤	S408,S409,S410 実習
3	4月8日(火)	4月24日(木)	5月15日(木)	A	511 副作用1	S504,S505 講義	511 副作用1	S504,S505 講義	511 副作用1	S504,S505 講義	452 製剤	S408,S409,S410 実習	452 製剤	S408,S409,S410 実習	452 製剤	S408,S409,S410 実習
				B							453 無菌1	S411 実習	453 無菌 1	S411 実習	453 無菌1	S411 実習
				C							551 フィジカル	S504,S505 実習	551 フィジカル	S504,S505 実習	551 フィジカル	S504,S505 実習
4	4月10日(木)	4月25日(金)	5月16日(金)	A	211 調剤と処方せん	S201,S202,S203 講義	414 放射性医薬品	S407 講義	311 配合変化理論	S302,S412 講義	541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習
				B							531 リスク	S501,S502,S506,S507 SGD	531 リスク	S501,S502,S506,S507 SGD	531 リスク	S501,S502,S506,S507 SGD
				C							351 配合変化	S302,S412 実習	351 配合変化	S302,S412 実習	351 配合変化	S302,S412 実習
5	4月11日(金)	4月28日(月)	5月19日(月)	A	221 用法・用量1	S205,S206 講義	222 用法・用量2	S207,S208 講義	312 疑義照会入門1	S301,S303,S305 講義	541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習
				B							656 薬剤の使用法	S206,S602,S606 実習	656 薬剤の使用法	S206,S602,S606 実習	656 薬剤の使用法	S206,S602,S606 実習
				C							454 無菌2	S411 実習	454 無菌2	S411 実習	454 無菌2	S411 実習
6	4月14日(月)	5月1日(木)	5月20日(火)	A	415 消毒薬	S414,S503 講義	413 がん疼痛治療	S403 講義	611 服薬指導の基礎	S209.S601.S602.S604 講義	656 薬剤の使用法	S206,S602,S606 実習	656 薬剤の使用法	S206,S602,S606 実習	656 薬剤の使用法	S206,S602,S606 実習
				B							454 無菌2	S411 実習	454 無菌2	S411 実習	454 無菌2	S411 実習
				C							541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習
7	4月15日(火)	5月2日(金)	5月22日(木)	A	341 疑義照会入門2	S203,S204,S210,S211,S304,S305,S306 演習	341 疑義照会入門2	S203,S204,S210,S211,S304,S305,S306 演習	341 疑義照会入門2	S203,S204,S210,S211,S304,S305,S306 演習	531 リスク	S501,S502,S506,S507 SGD	531 リスク	S501,S502,S506,S507 SGD	531 リスク	S501,S502,S506,S507 SGD
				B							351 配合変化	S302,S412 実習	351 配合変化	S302,S412 実習	351 配合変化	S302,S412 実習
				C							541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習

実習回	学科別実習日			グループ	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ		Ⅵ	
	医療薬学科	医療薬物薬学科	医療衛生薬学科		9:10 ～ 10:20		10:30 ～ 11:40		11:50 ～ 13:00		14:00 ～ 15:10		15:20 ～ 16:30		16:40 ～ 17:50	
8	4月17日(木)	5月8日(木)	5月23日(金)	A							351 配合変化	S302,S412 実習	351 配合変化	S302,S412 実習	351 配合変化	S302,S412 実習
				B	341 疑義照会入門2	S203,S204,S210,S211,S304,S305,S306 演習	341 疑義照会入門2	S203,S204,S210,S211,S304,S305,S306 演習	341 疑義照会入門2	S203,S204,S210,S211,S304,S305,S306 演習	541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習
				C							531 リスク	S501,S502,S506,S507 SGD	531 リスク	S501,S502,S506,S507 SGD	531 リスク	S501,S502,S506,S507 SGD
9	4月18日(金)	5月9日(金)	5月26日(月)	A							454 無菌2	S411 実習	454 無菌2	S411 実習	454 無菌2	S411 実習
				B	131 医療連携	S103,S106 SGD	131 医療連携	S103,S106 SGD	131 医療連携	S103,S106 SGD	541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習	541 副作用2	S504,S505 演習
				C							656 薬剤の使用法	S206,S602,S606 実習	656 薬剤の使用法	S206,S602,S606 実習	656 薬剤の使用法	S206,S602,S606 実習
10	7月1日(火)	5月27日(火)	6月13日(金)	A	752 情報POS	S605 実習	752 情報POS	S605 実習	752 情報POS	S605 実習	653 患者応対	S603,S604,S605 実習	653 患者応対	S603,S604,S605 実習	653 患者応対	S603,S604,S605 実習
				B	252 散剤	S210,S506 実習	252 散剤	S210,S506 実習	252 散剤	S210,S506 実習	752 情報POS	S605 実習	752 情報POS	S605 実習	752 情報POS	S605 実習
				C	253 水剤	S210,S506 実習	253 水剤	S210,S506 実習	253 水剤	S210,S506 実習	642 患者心理	S209,S601,S602,S603,S604 演習	642 患者心理	S209,S601,S602,S603,S604 演習	642 患者心理	S209,S601,S602,S603,S604 演習
11	7月3日(木)	5月29日(木)	6月16日(月)	A	642 患者心理	S209,S601,S602,S603,S604 演習	642 患者心理	S209,S601,S602,S603,S604 演習	642 患者心理	S209,S601,S602,S603,S604 演習	252 散剤	S210,S506 実習	252 散剤	S210,S506 実習	252 散剤	S210,S506 実習
				B	254 軟膏	S210,S506 実習	254 軟膏	S210,S506 実習	254 軟膏	S210,S506 実習	455 輸液	S413 実習	455 輸液	S413 実習	455 輸液	S413 実習
				C	752 情報POS	S605 実習	752 情報POS	S605 実習	752 情報POS	S605 実習	651 初回面談	S603,S604,S605 実習	651 初回面談	S603,S604,S605 実習	651 初回面談	S603,S604,S605 実習
12	7月4日(金)	5月30日(金)	6月17日(火)	A	253 水剤	S210,S506 実習	253 水剤	S210,S506 実習	253 水剤	S210,S506 実習	251 計数	S210,S506 実習	251 計数	S210,S506 実習	251 計数	S210,S506 実習
				B	651 初回面談	S603,S604,S605 実習	651 初回面談	S603,S604,S605 実習	651 初回面談	S603,S604,S605 実習	642 患者心理	S209,S601,S602,S603,S604 演習	642 患者心理	S209,S601,S602,S603,S604 演習	642 患者心理	S209,S601,S602,S603,S604 演習
				C	352 疑義照会	S210,S305,S306 実習	352 疑義照会	S210,S305,S306 実習	352 疑義照会	S210,S305,S306 実習	653 患者応対	S603,S604,S605 実習	653 患者応対	S603,S604,S605 実習	653 患者応対	S603,S604,S605 実習
13	7月7日(月)	6月2日(月)	6月19日(木)	A	651 初回面談	S603,S604,S605 実習	651 初回面談	S603,S604,S605 実習	651 初回面談	S603,S604,S605 実習	352 疑義照会	S210,S305,S306 実習	352 疑義照会	S210,S305,S306 実習	352 疑義照会	S210,S305,S306 実習
				B	352 疑義照会	S210,S305,S306 実習	352 疑義照会	S210,S305,S306 実習	352 疑義照会	S210,S305,S306 実習	653 患者応対	S603,S604,S605 実習	653 患者応対	S603,S604,S605 実習	653 患者応対	S603,S604,S605 実習
				C	252 散剤	S210,S506 実習	252 散剤	S210,S506 実習	252 散剤	S210,S506 実習	254 軟膏	S210,S506 実習	254 軟膏	S210,S506 実習	254 軟膏	S210,S506 実習
14	7月8日(火)	6月3日(火)	6月20日(金)	A	655 OTC	S606 実習	655 OTC	S606 実習	655 OTC	S606 実習	654 薬剤交付	S606 実習	654 薬剤交付	S606 実習	654 薬剤交付	S606 実習
				B	253 水剤	S210,S506 実習	253 水剤	S210,S506 実習	253 水剤	S210,S506 実習	251 計数	S210,S506 実習	251 計数	S210,S506 実習	251 計数	S210,S506 実習
				C	251 計数	S210,S506 実習	251 計数	S210,S506 実習	251 計数	S210,S506 実習	455 輸液	S413 実習	455 輸液	S413 実習	455 輸液	S413 実習

実習回	学科別実習日			グループ	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ		Ⅵ	
	医療薬学科	医療薬物薬学科	医療衛生薬学科		9:10 ～ 10:20		10:30 ～ 11:40		11:50 ～ 13:00		14:00 ～ 15:10		15:20 ～ 16:30		16:40 ～ 17:50	
15	7月10日(木)	6月5日(木)	6月23日(月)	A	**652** 服薬説明	S606 実習	**652** 服薬説明	S606 実習	**652** 服薬説明	S606 実習	**255** 調剤鑑査	S210,S506 実習	**255** 調剤鑑査	S210,S506 実習	**255** 調剤鑑査	S210,S506 実習
				B	**255** 調剤鑑査	S210,S506 実習	**255** 調剤鑑査	S210,S506 実習	**255** 調剤鑑査	S210,S506 実習	**753** 在宅医療	S411,S413,S505,S506,S507,S605,S606 実習	**753** 在宅医療	S411,S413,S505,S506,S507,S605,S606 実習	**753** 在宅医療	S411,S413,S505,S506,S507,S605,S606 実習
				C	**655** OTC	S606 実習	**655** OTC	S606 実習	**655** OTC	S606 実習	**654** 薬剤交付	S606 実習	**654** 薬剤交付	S606 実習	**654** 薬剤交付	S606 実習
16	7月11日(金)	6月6日(金)	6月24日(火)	A	**455** 輸液	S413 実習	**455** 輸液	S413 実習	**455** 輸液	S413 実習	**254** 軟膏	S210,S506 実習	**254** 軟膏	S210,S506 実習	**254** 軟膏	S210,S506 実習
				B	**751** 受付から鑑査	S210 実習	**751** 受付から鑑査	S210 実習	**751** 受付から鑑査	S210 実習	**652** 服薬説明	S606 実習	**652** 服薬説明	S606 実習	**652** 服薬説明	S606 実習
				C	**652** 服薬説明	S606 実習	**652** 服薬説明	S606 実習	**652** 服薬説明	S606 実習	**255** 調剤鑑査	S210,S506 実習	**255** 調剤鑑査	S210,S506 実習	**255** 調剤鑑査	S210,S506 実習
17	7月14日(月)	6月9日(月)	6月26日(木)	A	**753** 在宅医療	S411,S413,S505,S506,S507,S605,S606 実習	**753** 在宅医療	S411,S413,S505,S506,S507,S605,S606 実習	**753** 在宅医療	S411,S413,S505,S506,S507,S605,S606 実習	**751** 受付から鑑査	S210 実習	**751** 受付から鑑査	S210 実習	**751** 受付から鑑査	S210 実習
				B	**655** OTC	S606 実習	**655** OTC	S606 実習	**655** OTC	S606 実習	**654** 薬剤交付	S606 実習	**654** 薬剤交付	S606 実習	**654** 薬剤交付	S606 実習
				C	**751** 受付から鑑査	S210 実習	**751** 受付から鑑査	S210 実習	**751** 受付から鑑査	S210 実習	**753** 在宅医療	S411,S413,S505,S506,S507,S605,S606 実習	**753** 在宅医療	S411,S413,S505,S506,S507,S605,S6061 実習	**753** 在宅医療	S411,S413,S505,S506,S507,S605,S606 実習
18	7月15日(火)	6月10日(火)	6月27日(金)	A B C	**754** 総合実習	S701 実習	**754** 総合実習	S701 実習	**754** 総合実習	S701 実習	**754** 総合実習	S701 実習	**754** 総合実習	S701 実習	**754** 総合実習	S701 実習
全体講義	6月12日(木)	6月12日(木)	6月12日(木)	A B C							**711** 特別講義	S103,S601 講義	**711** 特別講義	S103,S601 講義	**711** 特別講義	S103,S601 講義

（基礎資料6－2）4年次の実務実習事前学習Ⅱのスケジュール

実習回	実習日	学科	グループ	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ		Ⅵ	
				9:10 ～ 10:20		10:30 ～ 11:40		11:50 ～ 13:00		14:00 ～ 15:10		15:20 ～ 16:30		16:40 ～ 17:50	
1	12月5日(金)	医療薬学	A	1～4	S101,S102,S103	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701
			B	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	12,13	S411	12,13	S411	12,13	S411
			C	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606
2	12月8日(月)	医療薬学	A	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606
			B	1～4	S101,S102,S103	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701
			C	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	12,13	S411	12,13	S411	12,13	S411
3	12月9日(火)	医療薬学	A	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	12,13	S411	12,13	S411	12,13	S411
			B	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606
			C	1～4	S101,S102,S103	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701
4	12月10日(水)	医療衛生	A	1～4	S101,S102,S103	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701
			B	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	12,13	S411	12,13	S411	12,13	S411
			C	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606
5	12月11日(木)	医療衛生	A	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606
			B	1～4	S101,S102,S103	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701
			C	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	12,13	S411	12,13	S411	12,13	S411
6	12月12日(金)	医療衛生	A	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	12,13	S411	12,13	S411	12,13	S411
			B	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606
			C	1～4	S101,S102,S103	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701
7	12月15日(月)	医療薬物	A	1～4	S101,S102,S103	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701
			B	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	6-7,11,23-25	S201,S211,S305	12,13	S411	12,13	S411	12,13	S411
			C	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606

実習回	実習日	学科	グループ	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ		Ⅵ	
				9:10 ～ 10:20		10:30 ～ 11:40		11:50 ～ 13:00		14:00 ～ 15:10		15:20 ～ 16:30		16:40 ～ 17:50	
8	12月16日(火)	医療薬物	A	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606
			B	1～4	S101,S102,S103	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701
			C	6-7,11, 23-25	S201,S211,S305	6-7,11, 23-25	S201,S211,S305	6-7,11, 23-25	S201,S211,S305	12,13	S411	12,13	S411	12,13	S411
9	12月17日(水)	医療薬物	A	6-7,11, 23-25	S201,S211,S305	6-7,11, 23-25	S201,S211,S305	6-7,11, 23-25	S201,S211,S305	12,13	S411	12,13	S411	12,13	S411
			B	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	14-18	S603,S604,S605,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606	19-25	S603,S604,S606
			C	1～4	S101,S102,S103	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701	5,6,8～10	S202,S210,S701
10	2月4日(水)	全学科	A B C	26.29	S101,S102,S103,S104, S105,S106,S305 (H101,H601,P210, P201,P304,P602)	26.29	S101,S102,S103,S104, S105,S106,S305 (H101,H601,P210, P201,P304,P602)	26.29	S101,S102,S103,S104, S105,S106,S305 (H101,H601,P210, P201,P304,P602)	26.29	S101,S102,S103,S104, S105,S106,S305 (H101,H601,P210, P201,P304,P602)	26.29	S101,S102,S103,S104, S105,S106,S305 (H101,H601,P210, P201,P304,P602)	26.29	S101,S102,S103,S104, S105,S106,S305 (H101,H601,P210, P201,P304,P602)
11	2月9日(月) 杉浦宗敏	全学科	A B C	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)
12	2月12日(木) 下枝 貞彦	全学科	A B C	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)	26,27,28	S101,S102,S103, S104,S105,S106, S305,S605,S606, (H101,H405,H406, H601,P210,P201, P304,P602)
13	2月16日(月) 太田　伸	全学科	A B C	30	S101,S102,S103, S104,S105,S106, (H101,H601,P210, P201,P304,P602)	30	S101,S102,S103, S104,S105,S106, (H101,H601,P210, P201,P304,P602)	30	S101,S102,S103, S104,S105,S106, (H101,H601,P210, P201,P304,P602)	30	S101,S102,S103, S104,S105,S106, (H101,H601,P210, P201,P304,P602)	30	S101,S102,S103, S104,S105,S106, (H101,H601,P210, P201,P304,P602)	30	S101,S102,S103, S104,S105,S106, (H101,H601,P210, P201,P304,P602)
14	2月26日(木) 三溝 和男	全学科	A B C	31	S101,S102,S103, S104,S106,S107 (P101,P301, P501～P515)	31	S101,S102,S103, S104,S106,S107 (P101,P301, P501～P515)	31	S101,S102,S103, S104,S106,S107 (P101,P301, P501～P515)	31	S101,S102,S103, S104,S106,S107 (P101,P301, P501～P515)	31	S101,S102,S103, S104,S106,S107 (P101,P301, P501～P515)	31	S101,S102,S103, S104,S106,S107 (P101,P301, P501～P515)

（基礎資料7）学生受入状況について

	入試の種類			平成22年度 入試（21年度実施）	平成23年度 入試（22年度実施）	平成24年度 入試（23年度実施）	平成25年度 入試（24年度実施）	平成26年度 入試（25年度実施）	平成27年度 入試（26年度実施）※	募集定員数に対する入学者数の比率（6年間の平均）※
薬学部	推薦入試	指定校制	受験者数	153	148	155	134	140	162	
			合格者数	153	148	155	134	140	162	
			入学者数(A)	153	148	155	134	140	162	
			募集定員数(B)	110	110	136	136	136	136	
			A/B*100(%)	139.1%	134.5%	114.0%	98.5%	102.9%	119.1%	
		一般公募制（専願）	受験者数	55	—	—	—	—	—	
			合格者数	23	—	—	—	—	—	
			入学者数(A)	23	—	—	—	—	—	
			募集定員数(B)	20	—	—	—	—	—	
			A/B*100(%)	115.0%	—	—	—	—	—	
		一般公募制（併願）	受験者数	70	165	209	206	264	241	
			合格者数	45	88	83	98	112	111	
			入学者数(A)	32	63	67	69	86	83	
			募集定員数(B)	20	40	40	40	44	44	
			A/B*100(%)	160.0%	157.5%	167.5%	172.5%	195.5%	188.6%	
		社会人	受験者数	16	4	5	10	9	6	
			合格者数	8	2	2	5	2	3	
			入学者数(A)	8	2	2	4	2	2	
			募集定員数(B)	10	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	80.0%	—	—	—	—	—	
		同窓生子女	受験者数	—	—	4	5	—	—	
			合格者数	—	—	1	3	—	—	
			入学者数(A)	—	—	1	3	—	—	
			募集定員数(B)	—	—	4	4	—	—	
			A/B*100(%)	—	—	25.0%	75.0%	—	—	
	一般入試	AO	受験者数	114	85	107	135	180	179	
			合格者数	62	62	69	78	63	46	
			入学者数(A)	62	62	68	78	63	46	105.6%
			募集定員数(B)	40	40	40	40	40	40	
			A/B*100(%)	155.0%	155.0%	170.0%	195.0%	157.5%	115.0%	
		A方式（センター試験利用）	受験者数	1,090	1,106	1,042	1,078	969	649	
			合格者数	380	282	209	163	128	133	
			入学者数(A)	44	24	8	12	4	1	
			募集定員数(B)	40	40	30	30	30	30	
			A/B*100(%)	110.0%	60.0%	26.7%	40.0%	13.3%	3.3%	
		B方式（前期）	受験者数	1,040	867	1,146	1,490	1,508	1,508	
			合格者数	279	238	355	480	302	367	
			入学者数(A)	104	62	106	191	88	110	
			募集定員数(B)	180	70	120	130	130	130	
			A/B*100(%)	57.8%	88.6%	88.3%	146.9%	67.7%	84.6%	
		B方式（後期）	受験者数	—	632	409	343	445	399	
			合格者数	—	143	54	45	44	85	
			入学者数(A)	—	69	24	26	18	49	
			募集定員数(B)	—	120	50	40	40	40	
			A/B*100(%)	—	57.5%	48.0%	65.0%	45.0%	122.5%	
	帰国生徒		受験者数	2	2	3	1	3	5	
			合格者数	2	1	2	0	0	2	
			入学者数(A)	2	0	1	0	0	1	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—	
学部合計			受験者数	2,540	3,009	3,080	3,402	3,518	3,149	
			合格者数	952	964	930	1,006	791	909	
			入学者数(A)	428	430	432	517	401	454	
			募集定員数(B)	420	420	420	420	420	420	
			A/B*100(%)	101.9%	102.4%	102.9%	123.1%	95.5%	108.1%	

[注]
1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。
なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
5 各入学（募集）定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「（備考）○年次に・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

（基礎資料８）教員・事務職員数

①設置基準において、必要な６年制薬学科の教員数 ＊１	63 名
②設置基準において、必要な実務家教員数 ＊２	12 名

＊１　大学設置基準　第２条別表第一、イ備考四

＊２　大学設置基準　別表第一、イ十号

（教員の部）	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育	0	0	0	0	0	
語学教育	2(2)	1	0	0	0	教授2名中2名が特任
薬学基礎教育	4(4)	5	3	2	0	教授4名中4名が特任
専門薬学教育	33(6) (4)	21(5) (1)	16(2)	30(1) (1)	16(3) (1)	教授33名中6名が特任、4名が実務家教員。 准教授21名中5名が実務家教員、1名がみなし専任教員。 専任講師16名中2名が実務家教員。 助教30名中1名が実務家教員、1名が嘱託職員。 助手16名中3名が実務家教員、1名が嘱託職員。
実務実習教育	4(3) (3) (1)	0	4(3)	1	0	教授4名中3名が特任、3名が実務家教員、1名がみなし専任教員。 専任講師4名中3名が実務家教員
小計	43(15) (7) (1)	27(5) (1)	23(5)	33(1) (1)	16(3) (1)	教授43名中15名が特任、7名が実務家教員、みなし専任教員1名。 准教授27名中5名が実務家教員、1名がみなし専任教員。 専任講師23名中5名が実務家教員。 助教33名中1名が実務家教員、1名が嘱託職員。 助手16名中3名が実務家教員、1名が嘱託職員。
専任教員数	126(15) (18) (2) (1)					教員126名中15名が特任、18名が実務家教員、2名がみなし専任教員、1名が嘱託職員。
（事務職員の部）	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連	0	2	9	56(11)	1	技術職員　1　（生命科学事務課職員 課長1 事務員9(3)を含む）
法人業務関連	1	1	5	43(11)	3	医療職員　3
小計	1	3	14	99(22)	4	
事務職員数	121（　22　）					

［注］　１　主に担当する科目（業務）で算出し、重複しないように注意してください。

２　該当する場合は、（　）内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。（例示：6(2)＝６名のうち２名が特任）

３　該当する場合は、（　）内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。（例示：3(1)＝３名のうち１名が嘱託事務職員）

４　「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。

５　専任教務補助員（例えば､いわゆる副手、実験補助員等）、ティーチング・アシスタント（ＴＡ）、リサーチ・アシスタント（ＲＡ）については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

（基礎資料９）専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教　授	0　(0)	16　(4)	21　(2)	6　(0)	0　(0)	0　(0)	43　(6)
	0%	37%	49%	14%	0%	0%	100%
准教授	0　(0)	3　(1)	11　(1)	13　(3)	0　(0)	0　(0)	27　(5)
	0%	11%	41%	48%	0%	0%	100%
専任講師	0　(0)	0　(0)	5　(2)	14　(3)	4　(1)	0　(0)	23　(6)
	0%	0%	22%	61%	17%	0%	100%
助教	0　(0)	1　(1)	0　(0)	7　(3)	22　(4)	3　(1)	33　(9)
	0%	3%	0%	21%	67%	9%	100%
合計	0　(0)	20　(6)	37　(5)	40　(9)	26　(5)	3　(1)	126　(26)
	0%	16%	29%	32%	21%	2%	100%
定年年齢	65　歳						

［注］１　上段には人数、下段には%を記入してください。

２　（　　）に女性の数を記入してください。（例示：2(1)＝２名のうち１名が女性）

３　「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
医療薬学科	病態生理学教室	教授	いちだ きみよし 市田　公美	男	56	2007.7.1	2007.7.1	医療薬学特論-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して	0.2						0.2	0.0		
								疾病と薬物治療I		2.3					0.0	2.3		東京慈恵医科大学
								疾病と薬物治療III	2.2						2.2	0.0		卒業
								病態生理学特論	0.2						0.2	0.0		博士（医学）
								生体機能制御学特論	0.1						0.1	0.0		
								アドバンス英語			0.8	0.2			0.8	0.2		
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.6	0.3			0.6	0.3		
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.0				1.0	0.0		
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.1			0.0	1.1		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								病態生理学・薬物安全性学実習						2.9	0.0	2.9		
								計	2.7	2.3	2.6	1.6		2.9	5.3	6.8	6.1	
医療薬学科	薬物動態制御学教室	教授	いのうえ かつひさ 井上　勝央	男	42	2013.4.1	2013.4.1	生物薬剤学		3.3					0.0	3.3		
								特許・ﾚｷﾞｭﾗﾄﾘｱﾙｻｲｴﾝｽ	0.7	0.2					0.7	0.2		熊本大学
								薬剤学特論	0.3						0.3	0.0		薬学研究科
								アドバンス英語			0.3	0.9			0.3	0.9		博士課程修了
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		博士（薬学）
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.0				1.0	0.0		
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)				1.1			0.0	1.1		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								創薬ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.1			0.0	1.1		
								総合生物演習			1.6				1.6	0.0		
								総合薬・疾病演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬剤学実習						0.7	0.0	0.7		
								計	1.0	3.5	4.3	3.3		0.7	5.3	7.5	6.4	
医療薬学科	薬学実務実習教育センター	教授	いのうえ みちこ 井上　みち子	女	62	2001.9.1	2012.3.1	アドバンス英語			1.1	1.2			1.1	1.2		
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.2	1.2			1.2	1.2		東京薬科大学
								課題研究（PBL-T）			0.3	0.9			0.3	0.9		薬学部卒業
								事前実務学習（実務実習事前学習II）				4.4			0.0	4.4		博士（薬学）
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								事前実務実習					20.1		20.1	0.0		
								計			2.8	7.6	20.1		22.9	7.6	15.2	
医療薬学科	医療実務薬学教室	教授	うねざき さかえ 畝崎　榮	男	56	2004.4.1	2007.11.1	医療薬学特論-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して	0.9						0.9	0.0		
								医療薬学特論-ii 医薬品開発と臨床試験	0.8						0.8	0.0		東京薬科大学
								疾病と薬物治療VIII	1.9						1.9	0.0		薬学部卒業
								アドバンス英語			0.9	0.1			0.9	0.1		博士（薬学）
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.8				0.8	0.0		
								医療薬学演習 I-ii 医薬品開発と臨床試験			0.9				0.9	0.0		
								科別英語特論			0.9				0.9	0.0		
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬の効き方IV（薬物治療演習）			1.2				1.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.1				0.1	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								事前実務実習					1.9		1.9	0.0		
								計	3.5		5.1	1.2	1.9		10.5	1.2	5.8	
医療薬学科	薬学実務実習教育センター	教授	くらもとけいじ 倉本　敬二	男	52	2014.4.1	2014.4.1	アドバンス英語			0.4	0.9			0.4	0.9		
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		星薬科大学卒業
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.6	0.9			1.6	0.9		山形大学
								科別英語特論			0.7				0.7	0.0		博士（医学）
								事前実務学習（実務実習事前学習II）				4.5			0.0	4.5		
								薬学入門演習 II（SGD）				0.5			0.0	0.5		
								事前実務実習					18.9		18.9	0.0		
								計			2.7	6.9	18.9		21.6	6.9	14.3	
医療薬学科	薬学教育推進センター	教授	しのはら よしひこ 篠原　佳彦	男	62	1982.10.1	2012.3.1	後期選択専門科目II		0.3					0.0	0.3		
								疾病と薬物治療I		1.1					0.0	1.1		東京薬科大学
								疾病と薬物治療III	0.9						0.9	0.0		薬学研究科
								アドバンス英語			0.6	0.5			0.6	0.5		博士課程修了
								アドバンス演習				2.4			0.0	2.4		博士（薬学）
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.5				0.5	0.0		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								課題研究（4P80）			0.7	0.1			0.7	0.1		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								計	0.9	1.4	3.2	3.0			4.1	4.4	4.3	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
医療薬学科	情報教育研究センター	教授	どばし　あきら 土橋　朗	男	58	1980.4.1	1992.4.16	医療情報	0.9						0.9	0.0		
								情報リテラシーI	2.1						2.1	0.0		東京薬科大学
								情報リテラシーII		1.6					0.0	1.6		薬学研究科
								薬学入門	0.1						0.1	0.0		修士課程修了
								情報リテラシー演習			1.9				1.9	0.0		博士（薬学）
								薬学入門演習Ⅰ(PPT)			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.4				0.4	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ（Webclass講習会）			0.1				0.1	0.0		
								医療情報実習						2.1	0.0	2.1		
								事前実務実習					0.5		0.5	0.0		
								計	3.1	1.6	2.5		0.5	2.1	6.1	3.7	4.9	
医療薬学科	病原微生物学教室	教授	のぐち　のりひさ 野口　雅久	男	59	1983.4.1	2012.4.1	基礎生物学集中講義	0.2						0.2	0.0		
								後期選択専門科目II		0.2					0.0	0.2		東京薬科大学
								疾病と薬物治療VII		2.5					0.0	2.5		薬学研究科
								病原微生物学	4.0						4.0	0.0		博士課程修了
								アドバンス英語			1.2				1.2	0.0		博士（薬学）
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.9				0.9	0.0		
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.1				1.1	0.0		
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.1				1.1	0.0		
								科別英語特論			1.6				1.6	0.0		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.1			0.0	1.1		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								微生物・免疫学実習						4.7	0.0	4.7		
								計	4.3	2.6	6.1	1.1		4.7	10.3	8.4	9.4	
医療薬学科	機能形態学教室	教授	ばば　ひろこ 馬場　広子	女	58	2001.1.1	2001.1.1	医療薬学特論-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して	0.2						0.2	0.0		
								機能形態学I	2.6						2.6	0.0		山形大学
								機能形態学II		1.2					0.0	1.2		医学部
								機能形態学III	2.2						2.2	0.0		博士（医学）
								科別英語特論			1.5				1.5	0.0		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								基礎生物学実習						4.2	0.0	4.2		
								計	5.1	1.2	1.8	1.0		4.2	6.8	6.5	6.6	
医療薬学科	薬物代謝安全性学教室	教授	ひらつか　あきら 平塚　明	男	59	1983.4.1	2003.4.1	化学物質と生体影響		2.0					0.0	2.0		
								健康と環境II	1.1						1.1	0.0		東京薬科大学
								アドバンス英語				1.0			0.0	1.0		薬学研究科
								健康・環境ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			1.0				1.0	0.0		博士課程修了
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.6				0.6	0.0		博士（薬学）
								病態生理学・薬物安全性学実習						6.3	0.0	6.3		
								計	1.1	2.0	1.6	1.0		6.3	2.7	9.3	6.0	
医療薬学科	臨床薬理学教室	教授	ひらの　としひこ 平野　俊彦	男	57	1984.4.1	2009.4.1	医療薬学特論-ii 医薬品開発と臨床試験	0.5						0.5	0.0		
								疾病と薬物治療V		3.1					0.0	3.1		東京薬科大学
								臨床薬理学特論	0.6						0.6	0.0		薬学研究科
								生体機能制御学特論	0.1						0.1	0.0		博士課程修了
								アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		博士（薬学）
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.2				0.2	0.0		
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.9				1.9	0.0		
								医療薬学演習 I-ii 医薬品開発と臨床試験			0.7				0.7	0.0		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								課題研究（医療の最前線）				0.9			0.0	0.9		
								薬の効き方IV（薬物治療演習）			0.9				0.9	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								事前実務実習					2.8		2.8	0.0		
								計	1.3	3.1	6.1	0.9	2.8		10.1	4.0	7.1	
医療薬学科	社会薬学研究室	教授	みやもと　のりこ 宮本　法子	女	64	1973.4.1	2012.3.1	薬学と社会		4.2					0.0	4.2		
								薬学入門	0.9						0.9	0.0		東京薬科大学
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		薬学部卒業
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		博士（医学）
								課題研究（4P80）			0.2				0.2	0.0		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			2.1				2.1	0.0		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習Ⅰ(早期体験実習引率)			0.3				0.3	0.0		
								計	0.9	4.2	3.7	1.1			4.6	5.3	5.0	
医療薬学科	臨床薬効解析学教室	教授	やまだ　やすひこ 山田　安彦	男	55	2003.4.1	2003.4.1	医療情報	0.6						0.6	0.0		
								疾病と薬物治療VII		1.1					0.0	1.1		東京薬科大学
								調剤学		0.8					0.0	0.8		薬学部卒業
								臨床薬理学特論	1.1						1.1	0.0		博士（薬学）

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.8				0.8	0.0		
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.1	0.7			1.1	0.7		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								課題研究（医療の最前線）				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.4				0.4	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.4				0.4	0.0		
								薬学入門演習 I（報告会）			0.2				0.2	0.0		
								医療情報実習						4.2	0.0	4.2		
								計	1.7	1.9	5.0	0.9		4.2	6.7	7.0	6.8	
医療薬学科	一般用医薬品学教室	教授	わたなべ　きんぞう 渡辺　謹三	男	62	1994.4.1	2008.1.1	一般用医薬品学		4.3					0.0	4.3		
								基礎生物学集中講義	0.1						0.1	0.0		東京薬科大学
								アドバンス英語			1.1	0.9			1.1	0.9		薬学研究科
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		博士課程修了
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.2	0.5			1.2	0.5		博士（薬学）
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.7				1.7	0.0		
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		
								課題研究（医療の最前線）			1.1				1.1	0.0		
								総合法規演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（PPT）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（ﾎﾟｽﾀｰ作成指導）			0.6				0.6	0.0		
								薬学入門演習 I（報告会）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 II（介I）				2.8			0.0	2.8		
								事前実務実習					2.1		2.1	0.0		
								計	0.1	4.3	7.5	7.6	2.1		9.7	8.8	9.3	
医療薬物薬学科	薬学教育推進センター	教授	あおやぎ　さかえ 青柳　榮	男	66	1989.5.1	2013.4.1	医薬品化学I	2.2						2.2	0.0		東京薬科大学
								反応有機化学		2.2					0.0	2.2		薬学部卒業
								計	2.2	2.2					2.2	2.2	2.2	博士（薬学）
医療薬物薬学科	第二英語研究室	教授	おおの　まこと 大野　真	男	53	1992.4.1	2012.3.1	英語（講読）	2.0	2.2					2.0	2.2		
								実用薬学英語	1.0	1.0					1.0	1.0		東京大学
								薬学英語	2.2	2.0					2.2	2.0		人文科学研究科
								アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		修士課程修了
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.0				1.0	0.0		修士（文学）
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.0				1.0	0.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			1.0				1.0	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								計	5.2	5.2	5.6				10.8	5.2	8.0	
医療薬物薬学科	薬学実務実習教育センター	教授	さみぞ　かずお 三溝　和男	男	64	2008.10.1	2008.10.1	調剤学		0.3					0.0	0.3		
								アドバンス英語				0.9			0.0	0.9		東京薬科大学
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			2.1	0.5			2.1	0.5		卒業
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.7				0.7	0.0		博士（薬学）
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								事前実務学習（実務実習事前学習II）				4.5			0.0	4.5		
								事前実務実習					21.2		21.2	0.0		
								計		0.3	3.9	5.9	21.2		25.1	6.2	15.7	
医療薬物薬学科	薬物生体分析学教室	教授	しぶさわ　よういち 渋澤　庸一	男	64	1976.4.1	2007.4.1	医療薬物薬学特論-ii ﾃﾞｰﾀ解析集中講座	0.9						0.9	0.0		
								機器分析学	2.0						2.0	0.0		東京薬科大学
								臨床分析化学特論	0.2						0.2	0.0		薬学研究科
								アドバンス英語				1.1			0.0	1.1		修士課程修了
								医療薬物薬学演習 I-i 医薬品創製と基礎(物理系・化学系)			0.4				0.4	0.0		博士（薬学）
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			0.6	0.5			0.6	0.5		
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習				1.1			0.0	1.1		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								物理化学・分析化学実習						1.4	0.0	1.4		
								分析化学実習					4.2		4.2	0.0		
								計	3.2		2.1	2.6	4.2	1.4	9.5	4.0	6.8	
医療薬物薬学科	製剤設計学教室	教授	せた　やすお 瀬田　康生	男	59	2012.1.1	2012.1.1	医療薬物薬学特論-i 創薬概論	0.2						0.2	0.0		
								物理的平衡論	4.2						4.2	0.0		千葉大学
								薬剤学特論	0.3						0.3	0.0		薬学研究科
								アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		修士課程修了
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		博士（薬学）
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.1				1.1	0.0		
								医療薬物薬学演習 I-ii 医薬品創製と基礎(生物系・医療薬学			0.2				0.2	0.0		
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.1				1.1	0.0		

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		
								創薬ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			1.0				1.0	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								薬剤学実習						7.0	0.0	7.0		
								計	4.7		5.8	0.1		7.0	10.5	7.1	8.8	
医療薬物薬学科	応用生化学教室	教授	たかぎ のりお 高木　教夫	男	46	1999.7.1	2013.4.1	バイオ医薬品とゲノム情報	1.9						1.9	0.0		
								医療薬物薬学特論-i 創薬概論	0.2						0.2	0.0		東京薬科大学
								後期選択専門科目Ⅱ		0.3					0.0	0.3		薬学研究科
								実用薬学英語	0.3	0.1					0.3	0.1		博士課程修了
								生化学Ⅲ		2.0					0.0	2.0		博士（薬学）
								病態生理学特論	0.2						0.2	0.0		
								薬の効き方Ⅱ	2.5						2.5	0.0		
								アドバンス英語				1.0			0.0	1.0		
								アドバンス演習				0.3			0.0	0.3		
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.0				1.0	0.0		
								医療薬物薬学演習 Ⅰ-ii 医薬品創製と基礎(生物系・医療薬学			0.2				0.2	0.0		
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-ii 学術論文演習			1.0				1.0	0.0		
								科別英語特論			0.9				0.9	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.4				0.4	0.0		
								生化学実習					4.7		4.7	0.0		
								計	5.1	2.4	3.6	1.3	4.7		13.4	3.7	8.6	
医療薬物薬学科	分子細胞病態薬理学教室	教授	たのなか こういち 田野中　浩一	男	53	1989.4.1	2007.10.1	医療薬物薬学特論-i 創薬概論	0.2						0.2	0.0		
								病態生理学特論	0.5						0.5	0.0		広島大学
								薬の効き方Ⅱ	1.7						1.7	0.0		医学系研究科
								薬の効き方Ⅲ		4.7					0.0	4.7		修士課程修了
								生体機能制御学特論	0.1						0.1	0.0		博士（薬学）
								アドバンス英語			1.0	0.4			1.0	0.4		
								医療薬物薬学演習 Ⅰ-ii 医薬品創製と基礎(生物系・医療薬学			0.3				0.3	0.0		
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-ii 学術論文演習			1.4				1.4	0.0		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								課題研究（医療の最前線）				1.4			0.0	1.4		
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.4			0.0	1.4		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.3				0.3	0.0		
								薬理学実習					6.1		6.1	0.0		
								計	2.4	4.7	4.1	3.2	6.1		12.6	7.9	10.2	
医療薬物薬学科	病態生化学教室	教授	のみず もとよし 野水　基義	男	55	2004.4.1	2004.4.1	細胞生物学	1.6						1.6	0.0		
								アドバンス英語			0.2	0.2			0.2	0.2		京都大学
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			0.2				0.2	0.0		薬学研究科
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-ii 学術論文演習			0.1	0.2			0.1	0.2		修士課程修了
								科別英語特論			0.3				0.3	0.0		博士（薬学）
								生化学演習				2.8			0.0	2.8		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(早期体験実習引率)			0.3				0.3	0.0		
								基礎生物学実習						5.3	0.0	5.3		
								計	1.6		1.1	4.1		5.3	2.7	9.4	6.0	
医療薬物薬学科	薬品製造学教室	教授	まつもと たかし 松本　隆司	男	51	2009.4.1	2014.4.1	医薬品開発特論Ⅰ	0.5						0.5	0.0		
								医療薬物薬学特論-i 創薬概論	0.1						0.1	0.0		慶應義塾大学
								有機化学Ⅲ	2.3						2.3	0.0		理工学研究科
								有機化学Ⅳ		2.3					0.0	2.3		博士課程修了
								医化学特論	0.2						0.2	0.0		理学博士
								創薬有機化学特論	0.3						0.3	0.0		
								アドバンス英語			0.9				0.9	0.0		
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.2				1.2	0.0		
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-ii 学術論文演習			1.2				1.2	0.0		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								基礎有機化学実習						2.1	0.0	2.1		
								有機化学実習					2.7		2.7	0.0		
								計	3.4	2.3	4.6		2.7	2.1	10.7	4.6	7.6	
医療薬物薬学科	実務実習研修センター	教授	まつもと ゆうすけ 松本　有右	男	56	2006.4.1	2006.4.1	薬局管理理学		2.2					0.0	2.2		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.3			0.0	1.3		東京薬科大学　卒業
								薬学入門演習Ⅰ(早期体験実習引率)			0.5				0.5	0.0		昭和薬科大学
								薬学入門演習Ⅰ(報告会)			0.2				0.2	0.0		博士（薬学）
								事前実務実習					2.1		2.1	0.0		
								計		2.2	0.8	1.3	2.1		2.9	3.5	3.2	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
医療薬物薬学科	薬化学教室	教授	みうら つよし 三浦　剛	男	46	2013.4.1	2013.4.1	医療薬物薬学特論-i 創薬概論	0.1						0.1	0.0		
								有機化学I	1.2						1.2	0.0		岐阜薬科大学
								有機化学II		1.1					0.0	1.1		薬学研究科
								医化学特論	0.1						0.1	0.0		博士課程修了
								創薬有機化学特論	0.3						0.3	0.0		博士（薬学）
								アドバンス英語			1.1	1.3			1.1	1.3		
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.0				1.0	0.0		
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.0				1.0	0.0		
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.4				0.4	0.0		
								有機化学演習I			1.2				1.2	0.0		
								有機化学演習II				1.1			0.0	1.1		
								医薬品合成実習					1.4		1.4	0.0		
								基礎有機化学実習						2.1	0.0	2.1		
								計	1.6	1.1	4.9	3.6	1.4	2.1	8.0	6.8	7.4	
医療薬物薬学科	薬事関係法規研究室	教授	やすだ いちろう 安田　一郎	男	65	2012.4.1	2012.4.1	後期選択専門科目II		0.3					0.0	0.3		
								薬事関連法規と制度I		4.2					0.0	4.2		北里大学
								薬事関連法規と制度II	3.3						3.3	0.0		薬学研究科
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		修士課程修了
								課題研究（4P80）			0.2				0.2	0.0		博士（薬学）
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								計	3.3	4.5	0.4	0.2			3.7	4.7	4.2	
医療薬物薬学科	和漢薬物学講座	教授	やまだはるき 山田　陽城	男	66	2014.4.1	2014.4.1	課題研究（医療の最前線）				0.5			0.0	0.5		東京薬科大学薬学研究科
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			1.2				1.2	0.0		博士課程修了
								計			1.2	0.5			1.2	0.5	0.8	博士（薬学）
医療衛生薬学科	薬物送達学教室	教授	あらまき ゆきひこ 新槇　幸彦	男	62	1980.4.1	2004.4.1	医薬品生産特論	1.4						1.4	0.0		
								物理薬剤学	4.5						4.5	0.0		東京薬科大学
								薬剤学特論	0.3						0.3	0.0		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.0				1.0	0.0		博士課程修了
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			1.4				1.4	0.0		博士（薬学）
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.0				1.0	0.0		
								薬剤学実習						7.0	0.0	7.0		
								計	6.2		3.4			7.0	9.6	7.0	8.3	
医療衛生薬学科	臨床薬剤学教室	教授	おおた しん 太田　伸	男	64	2007.4.1	2007.4.1	感染制御学特論	1.4						1.4	0.0		
								高齢者医療	0.7						0.7	0.0		東京薬科大学
								アドバンス英語			1.2				1.2	0.0		卒業
								医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション：薬剤師の関わり方			0.9				0.9	0.0		博士（医学）
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)				1.2			0.0	1.2		
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.1				1.1	0.0		
								科別英語特論			1.3				1.3	0.0		
								事前実務学習（実務実習事前学習II）				1.8			0.0	1.8		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								事前実務実習					4.3		4.3	0.0		
								計	2.1		4.9	3.0	4.3		11.2	3.0	7.1	
医療衛生薬学科	免疫学教室	教授	おおの なおひと 大野　尚仁	男	59	1982.4.1	2001.1.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	0.2						0.2	0.0		
								免疫学		2.0					0.0	2.0		東京薬科大学
								臨床免疫学	4.6						4.6	0.0		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.5				1.5	0.0		博士課程修了
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)				2.3			0.0	2.3		博士（薬学）
								課題研究（医療の最前線）			3.3	0.9			3.3	0.9		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			2.6				2.6	0.0		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.2			0.0	1.2		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			1.0				1.0	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.4				0.4	0.0		
								計	4.8	2.0	8.8	4.4			13.6	6.4	10.0	
医療衛生薬学科	薬学教育推進センター	教授	かとう てつた 加藤　哲太	男	66	1971.11.16	2013.4.1	薬局方総論	0.7						0.7	0.0		岐阜薬科大学
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			2.0				2.0	0.0		薬学部卒業
								計	0.7		2.0				2.7	0.0	1.4	博士（薬学）
医療衛生薬学科	生化学教室	教授	さとう たかし 佐藤　隆	男	48	1994.4.1	2014.4.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	1.1						1.1	0.0		
								生化学I		2.3					0.0	2.3		東京薬科大学
								生化学II	2.3						2.3	0.0		薬学研究科
								アドバンス英語			0.8	0.7			0.8	0.7		博士課程修了
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.8				0.8	0.4		博士（薬学）
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			2.1				2.1	1.1		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.0			0.0	1.0		

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.4				0.4	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(早期体験実習引率)			1.0				1.0	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(報告会)			0.2				0.2	0.0		
								生化学実習					2.3		2.3	0.0		
								計	3.3	2.3	5.4	1.7	2.3		11.1	4.1	7.6	
医療衛生薬学科	医薬品安全管理学教室	教授	すぎうら むねとし 杉浦　宗敏	男	51	2009.3.1	2014.4.1	医薬品開発特論Ⅱ	0.2						0.2	0.0		
								緩和医療の最前線	1.4						1.4	0.0		東京薬科大学
								疾病と薬物治療Ⅵ		0.9					0.0	0.9		卒業
								調剤学		2.2					0.0	2.2		博士（薬学）
								アドバンス英語				1.0			0.0	1.0		
								医療衛生薬学演習 Ⅰ-i ｾﾙﾌﾒﾃﾞｨｹｰｼｮﾝ：薬剤師の関わり方			1.2				1.2	0.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								課題研究（4P80）			0.3				0.3	0.0		
								課題研究（PBL−T）			1.4				1.4	0.0		
								課題研究（医療の最前線）			2.1	0.9			2.1	0.9		
								事前実務学習（実務実習事前学習Ⅱ）				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(早期体験実習引率)			0.5				0.5	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(報告会)			0.2				0.2	0.0		
								事前実務実習					0.7		0.7	0.0		
								計	1.6	3.1	7.0	2.1	0.7		9.3	5.2	7.3	
医療衛生薬学科	内分泌・神経薬理学教室	教授	たちかわ えいいち 立川　英一	男	61	2009.4.1	2009.4.1	生理活性物質概論	2.8						2.8	0.0		
								病態生理学特論	0.2						0.2	0.0		徳島大学
								薬の効き方Ⅰ		1.2					0.0	1.2		医学研究科
								生体機能制御学特論	0.1						0.1	0.0		修士課程修了
								アドバンス英語			0.7	0.3			0.7	0.3		博士（医学）
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		
								医療衛生薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.6	0.5			0.6	0.5		
								医療衛生薬学演習 Ⅰ-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			1.3				1.3	0.0		
								医療衛生薬学演習 Ⅱ-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.6	0.5			0.6	0.5		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								総合薬・疾病演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								薬理学実習					6.1		6.1	0.0		
								計	3.1	1.2	4.5	1.6	6.1		13.7	2.8	8.3	
医療衛生薬学科	医療人間関係学研究室	教授	つちや あけみ 土屋　明美	女	62	2006.4.1	2006.4.1	コミュニケーション論		4.5					0.0	4.5		
								医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	0.2						0.2	0.0		お茶の水女子大学
								医療心理	4.5						4.5	0.0		家政学研究科
								薬学入門	0.9						0.9	0.0		修士課程修了
								アドバンス英語			1.2				1.2	0.0		修士（家庭学）
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		
								医療衛生薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.1				1.1	0.0		
								医療衛生薬学演習 Ⅱ-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)				1.2			0.0	1.2		
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		
								課題研究（医療の最前線）			0.1				0.1	0.0		
								総合ｾﾞﾐﾅｰﾙ(2年後期)				0.7			0.0	0.7		
								総合ｾﾞﾐﾅｰﾙ(2年前期)			0.5				0.5	0.0		
								総合法規演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習Ⅱ(SGD)				2.8			0.0	2.8		
								薬学入門演習Ⅱ(特講)				0.1			0.0	0.1		
								計	5.7	4.5	4.3	5.0			10.0	9.5	9.7	
医療衛生薬学科	分析化学教室	教授	はかまた ひでき 袴田　秀樹	男	46	2002.4.1	2014.4.1	実用薬学英語	0.1	0.5					0.1	0.5		
								無機化学		1.9					0.0	1.9		熊本大学
								臨床分析化学	2.7						2.7	0.0		医学研究科
								臨床分析化学特論	0.2						0.2	0.0		博士課程修了
								アドバンス英語			0.6				0.6	0.0		博士（医学）
								医療衛生薬学演習 Ⅰ-i ｾﾙﾌﾒﾃﾞｨｹｰｼｮﾝ：薬剤師の関わり方			1.0				1.0	0.0		
								医療衛生薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)				0.8			0.0	0.8		
								医療衛生薬学演習 Ⅱ-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.7	0.7			0.7	0.7		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								総合物理演習				0.2			0.0	0.2		
								物理系ｾﾞﾐﾅｰﾙ(2年前期)			1.0				1.0	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								物理化学・分析化学実習						1.4	0.0	1.4		
								分析化学実習					4.2		4.2	0.0		
								計	3.0	2.5	4.7	1.6	4.2	1.4	11.9	5.5	8.7	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授　業　科　目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
医療衛生薬学科	薬品化学教室	教授	はやし よしお 林　良雄	男	53	2007.4.1	2007.4.1	医薬品化学II		4.2					0.0	4.2		
								医薬品開発	2.0						2.0	0.0		京都大学
								医薬品開発特論 I	0.5						0.5	0.0		薬学研究科
								後期選択専門科目II		0.2					0.0	0.2		修士課程修了
								生物有機化学		4.2					0.0	4.2		博士（薬学）
								天然物化学特論	0.4						0.4	0.0		
								医化学特論	0.3	0.2					0.3	0.2		
								創薬有機化学特論	0.3						0.3	0.0		
								アドバンス英語			0.3	0.5			0.3	0.5		
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			0.1				0.1	0.0		
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.1				1.1	0%		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								総合化学演習			1.6				1.6	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.3				0.3	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								薬学入門演習 I（報告会）			0.2				0.2	0.0		
								医薬品合成実習					1.2		1.2	0.0		
								有機化学実習					2.8		2.8	0.0		
								計	3.6	8.8	5.0	0.5	4.0		12.5	9.3	10.9	
医療衛生薬学科	公衆衛生学教室	教授	ふじわら やすゆき 藤原　泰之	男	44	2014.4.1	2014.4.1	健康と環境I	3.0						3.0	0.0		
								健康保持と疾病予防		4.5					0.0	4.5		北陸大学　卒業
								生活環境と健康	4.5						4.5	0.0		東北大学
								アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		博士（薬学）
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.5	0.5			0.5	0.5		
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.9				0.9	0.0		
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		
								総合衛生演習				0.3			0.0	0.3		
								衛生化学・公衆衛生学実習					3.3		3.3	0.0		
								計	7.5	4.5	3.7	0.9	3.3		14.4	5.4	9.9	
医療衛生薬学科	漢方資源応用学教室	教授	みまき よしひろ 三巻　祥浩	男	53	1990.4.1	2005.4.1	漢方薬物学		4.5					0.0	4.5		
								アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		東京薬科大学
								医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション：薬剤師の関わり方			1.1				1.1	0.0		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			2.2				2.2	0.0		博士課程修了
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			2.2				2.2	0.0		博士（薬学）
								科別英語特論			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								漢方薬物学実習					5.6		5.6	0.0		
								計		4.5	6.9		5.6		12.5	4.5	8.5	
医療衛生薬学科	薬学教育推進センター	教授	もりかわ つとむ 森川　勉	男	59	1985.4.1	2012.3.1	基礎物理学集中講義	0.5						0.5	0.0		
								有機化学I	1.2						1.2	0.0		東京薬科大学
								有機化学II		1.1					0.0	1.1		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.2				1.2	0.0		博士課程修了
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.0			0.0	1.0		博士（薬学）
								課題研究（4P80）			0.4	0.3			0.4	0.3		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								有機化学演習I			1.0				1.0	0.0		
								有機化学演習II				1.1			0.0	1.1		
								計	1.6	1.1	2.8	2.4			4.4	3.5	4.0	
医療衛生薬学科	第四英語研究室	教授	もりもと のぶこ 森本　信子	男	54	2002.1.1	2012.3.1	フランス語I	1.1						1.1	0.0		
								フランス語II		1.0					0.0	1.0		国際基督教大学
								医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	0.2						0.2	0.0		比較文化研究科
								実用薬学英語	1.0	1.0					1.0	1.0		修士課程修了
								薬学英語	4.5	4.4					4.5	4.4		修士（文学）
								アドバンス英語			0.4	1.2			0.4	1.2		
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.2				1.2	0.0		
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.2				1.2	0.0		
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.0			0.0	1.0		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			0.3				0.3	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.4				0.4	0.0		
								計	6.8	6.4	4.6	2.2			11.4	8.6	10.0	
医療衛生薬学科	分子機能解析学教室	教授	よこまつ つとむ 横松　力	男	63	1982.4.1	2004.4.1	化学結合論	2.2						2.2	0.0		
								熱力学・反応速度論		4.2					0.0	4.2		東京薬科大学
								薬学入門	0.7						0.7	0.0		薬学研究科
								医化学特論	0.1						0.1	0.0		博士課程修了
								創薬有機化学特論	0.3						0.3	0.0		博士（薬学）

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			1.0				1.0	0.0		
								科別英語特論			1.5				1.5	0.0		
								課題研究（4P80）			0.2	0.3			0.2	0.3		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								物理化学・分析化学実習						8.4	0.0	8.4		
								計	3.3	4.2	2.9	0.3		8.4	6.2	12.9	9.5	
医療衛生薬学科	保健体育研究室	教授	よな　まさえ 與那　正栄	女	62	1976.10.20	2012.3.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	1.1						1.1	0.0		
								健康スポーツ	4.0						4.0	0.0		日本女子体育大学
								健康科学	2.2	1.0					2.2	1.0		体育学部卒業
								ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ英語			0.7	0.4			0.7	0.4		博士（医学）
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.7				0.7	0.0		
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.4				1.4	0.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.2			0.0	1.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.3				0.3	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								薬学入門演習 II（介II）				2.8			0.0	2.8		
								薬学入門演習 II（救I）				0.7			0.0	0.7		
								薬学入門演習 II（救II）				1.4			0.0	1.4		
								薬学入門演習 II（特講）				0.1			0.0	0.1		
								計	7.3	1.0	4.3	6.5			11.7	7.6	9.6	
医療薬学科	薬学基礎実習教育センター	准教授	いなば　にろう 稲葉　二朗	男	51	2011.7.1	2011.7.1	基礎生物学集中講義	0.5						0.5	0.0		
								機能形態学II		0.9					0.0	0.9		東京薬科大学
								生物学	2.4						2.4	0.0		薬学研究科
								ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ英語			0.5	0.5			0.5	0.5		修士課程修了
								ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ演習				0.1			0.0	0.1		博士（薬学）
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			0.3	0.8			0.3	0.8		
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.2				1.2	0.0		
								科別英語特論			1.6				1.6	0.0		
								課題研究（4P80）			0.3	0.3			0.3	0.3		
								課題研究（PBL-T）				1.3			0.0	1.3		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.2			0.0	1.2		
								総合薬・疾病演習				0.3			0.0	0.3		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								基礎生物学実習						6.3	0.0	6.3		
								薬理学実習					5.9		5.9	0.0		
								計	2.9	0.9	4.2	4.5	5.9	6.3	13.0	11.7	12.4	
医療薬学科	薬物代謝安全性学教室	准教授	おぐら　けんいちろう 小倉　健一郎	男	53	1986.4.1	2007.4.1	化学物質と生体影響		1.1					0.0	1.1		
								健康と環境II	1.1						1.1	0.0		東京薬科大学
								ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ英語				1.0			0.0	1.0		薬学研究科
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.8				0.8	0.0		修士課程修了
								医療薬学演習 I-ii 医薬品開発と臨床試験			0.8				0.8	0.0		博士（薬学）
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.8	0.8			0.8	0.8		
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		
								課題研究（4P80）				0.2			0.0	0.2		
								健康・環境ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			1.1				1.1	0.0		
								総合衛生演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								病態生理学・薬物安全性学実習						6.3	0.0	6.3		
								計	1.1	1.1	4.8	2.1		6.3	5.9	9.5	7.7	
医療薬学科	臨床薬学教室	准教授	しばさき　ひろみ 柴崎　浩美	女	50	1988.4.1	2011.4.1	テーラーメイド医療		2.2					0.0	2.2		
								臨床分析化学特論	0.1						0.1	0.0		東京薬科大学
								ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ英語			1.0				1.0	0.0		薬学研究科
								ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ演習				0.1			0.0	0.1		修士課程修了
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.0				1.0	0.0		博士（薬学）
								医療薬学演習 I-ii 医薬品開発と臨床試験			0.7				0.7	0.0		
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)				1.0			0.0	1.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								課題研究（4P80）			0.1	0.1			0.1	0.1		
								創薬ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.0			0.0	1.0		
								総合創薬演習			1.1				1.1	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								事前実務実習					2.1		2.1	0.0		
								計	0.1	2.2	5.4	2.2	2.1		7.6	4.4	6.0	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
医療薬学科	臨床薬理学教室	准教授	すぎやま けんたろう 杉山　健太郎	男	45	2012.4.1	2012.4.1	疾病と薬物治療V		1.6					0.0	1.6		
								生体機能制御学特論	0.1						0.1	0.0		新潟薬科大学
								アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		薬学研究科
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		修士課程修了
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.9				1.9	0.0		博士（医学）
								医療薬学演習 I-ii 医薬品開発と臨床試験			1.0				1.0	0.0		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			1.0				1.0	0.0		
								薬の効き方IV（薬物治療演習）			1.2				1.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								事前実務実習					2.3		2.3	0.0		
								計	0.1	1.6	7.8	0.1	2.3		10.2	1.6	5.9	
医療薬学科	臨床薬効解析学教室	准教授	たかやなぎ りさ 高柳　理早	女	46	2004.6.1	2007.4.1	医療情報	2.2						2.2	0.0		
								医療薬学特論-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して	0.3						0.3	0.0		北里大学
								臨床薬理学特論	0.3						0.3	0.0		薬学部卒業
								アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		博士（薬学）
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.7				0.7	0.0		
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.9	0.9			0.9	0.9		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								課題研究（医療の最前線）				0.2			0.0	0.2		
								総合薬・疾病演習				0.2			0.0	0.2		
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			1.0				1.0	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								医療情報実習						4.2	0.0	4.2		
								計	2.8		4.9	1.4		4.2	7.7	5.6	6.7	
医療薬学科	医療実務薬学教室	准教授	たけうち ひろのり 竹内　裕紀	男	49	2006.4.1	2009.4.1	医薬品開発特論 II	0.2						0.2	0.0		
								疾病と薬物治療VIII	1.6						1.6	0.0		東京薬科大学
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		薬学研究科
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.5				0.5	0.0		修士課程修了
								課題研究（4P80）			0.3				0.3	0.0		博士（薬学）
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.2			0.0	1.2		
								薬の効き方IV（薬物治療演習）			1.2				1.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								事前実務実習					3.3		3.3	0.0		
								計	1.9		2.6	1.2	3.3		7.7	1.2	4.5	
医療薬学科	機能形態学教室	准教授	やまぐち よしひで 山口　宜秀	男	48	2001.9.1	2007.4.1	機能形態学I	1.4						1.4	0.0		
								機能形態学II		1.6					0.0	1.6		大阪大学
								機能形態学III	1.9						1.9	0.0		理学研究科
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		博士課程修了
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.8				0.8	0.0		博士（理学）
								科別英語特論			0.9				0.9	0.0		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								基礎生物学実習						4.1	0.0	4.1		
								計	3.3	1.6	2.2	1.2		4.1	5.5	6.8	6.2	
医療薬学科	総合医療薬学講座	准教授	やまだ じゅんじ 山田　純司	男	55	1987.5.1	2007.4.1	医療薬学特論-ii 医薬品開発と臨床試験	0.3						0.3	0.0		
								後期選択専門科目II		0.4					0.0	0.4		東京薬科大学
								疾病と薬物治療II		3.4					0.0	3.4		薬学研究科
								疾病と薬物治療VI		2.8					0.0	2.8		博士課程修了
								病態生理学特論	0.2						0.2	0.0		博士（薬学）
								生体機能制御学特論	0.2						0.2	0.0		
								アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.8				0.8	0.0		
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.1				1.1	0.0		
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)				1.0			0.0	1.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								課題研究（医療の最前線）			0.2				0.2	0.0		
								薬の効き方IV（薬物治療演習）			1.2				1.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								事前実務実習					1.4		1.4	0.0		
								計	0.7	6.6	5.7	1.0	1.4		7.8	7.6	7.7	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
医療薬物薬学科	中国医学研究室	准教授	いこし ひであき 猪越　英明	男	48	2005.9.16	2005.9.16	東洋医学概論		2.2					0.0	2.2		北里大学　卒業
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			1.0				1.0	0.0		東京医科大学
								計		2.2	1.0				1.0	2.2	1.6	博士（医学）
医療薬物薬学科	病態生化学教室	准教授	きっかわ やまと 吉川　大和	男	48	2005.4.1	2009.4.1	細胞生物学	2.0						2.0	0.0		
								生物学	0.3						0.3	0.0		横浜市立大学
								アドバンス英語			0.2	0.1			0.2	0.1		卒業
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			0.3				0.3	0.0		博士（理学）
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			0.1	0.1			0.1	0.1		
								科別英語特論			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.3				0.3	0.0		
								基礎生物学実習						6.3	0.0	6.3		
								計	2.3		1.1	0.2		6.3	3.4	6.5	4.9	
医療薬物薬学科	情報教育研究センター	准教授	こすぎ よしゆき 小杉　義幸	男	63	1978.4.1	2007.4.1	情報リテラシーI	2.1						2.1	0.0		
								情報リテラシーII		2.8					0.0	2.8		東京薬科大学
								情報リテラシー演習			2.1				2.1	0.0		薬学研究科
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.0			0.0	1.0		博士課程修了
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		博士（薬学）
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								医療情報実習						1.7	0.0	1.7		
								事前実務実習					0.5		0.5	0.0		
								計	2.1	2.8	2.6	1.0	0.5	1.7	5.2	5.5	5.3	
医療薬物薬学科	製剤設計学教室	准教授	たかしま ゆうき 高島　由季	女	46	1991.4.1	2009.10.1	製剤工学	4.4						4.4	0.0		
								薬物送達学		2.3					0.0	2.3		東京薬科大学
								薬剤学特論	0.2						0.2	0.0		卒業
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		博士（薬学）
								医療薬物薬学演習 I-ii 医薬品創製と基礎(生物系・医療薬学			0.2				0.2	0.0		
								課題研究（4P80）			0.1	0.1			0.1	0.1		
								創薬ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			1.0				1.0	0.0		
								総合薬・疾病演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								薬剤学実習						7.0	0.0	7.0		
								計	4.6	2.3	1.8	0.4		7.0	6.4	9.7	8.1	
医療薬物薬学科	天然医薬品化学教室	准教授	ひとつやなぎ ゆきお 一柳　幸生	男	56	1989.4.1	2007.4.1	医療薬物薬学特論-i 創薬概論	0.2						0.2	0.0		
								構造有機化学	2.3						2.3	0.0		千葉大学
								天然医薬品化学	4.2						4.2	0.0		薬学研究科
								アドバンス英語			0.7	1.2			0.7	1.2		博士課程修了
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		博士（薬学）
								医療薬物薬学演習 I-i 医薬品創製と基礎(物理系・化学系)			0.2				0.2	0.0		
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.0			0.0	1.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								天然医薬品化学実習					4.2		4.2	0.0		
								計	6.7		2.2	2.3	4.2		13.1	2.3	7.7	
医療薬物薬学科	薬学教育推進センター	准教授	みうら のりこ 三浦　典子	女	48	1989.4.1	2014.4.1	基礎生物学集中講義	0.4						0.4	0.0		
								薬学入門	0.5						0.5	0.0		東京薬科大学
								アドバンス英語			0.5	0.5			0.5	0.5		薬学部卒業
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		博士（薬学）
								課題研究（4P80）			0.2	1.6			0.2	1.6		
								課題研究（PBL-T）			1.2				1.2	0.0		
								課題研究（医療の最前線）			1.9				1.9	0.0		
								総合演習				5.6			0.0	5.6		
								薬学入門演習 I（PPT）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（ﾎﾟｽﾀｰ作成指導）			0.5				0.5	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.5				0.5	0.0		
								薬学入門演習 I（報告会）			0.2				0.2	0.0		
								計	0.9		6.4	7.7			7.4	7.7	7.5	
医療薬物薬学科	生物分子有機化学教室	准教授	みやおか ひろあき 宮岡　宏明	男	51	1993.4.1	2007.4.1	医療薬物薬学特論-i 創薬概論	0.1						0.1	0.0		
								有機化学I	1.1						1.1	0.0		東京薬科大学
								有機化学II		1.1					0.0	1.1		薬学研究科
								医化学特論	0.1						0.1	0.0		博士課程修了
								創薬有機化学特論	0.3						0.3	0.0		博士（薬学）
								アドバンス英語			0.3	0.8			0.3	0.8		
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		
								医療薬物薬学演習 I-i 医薬品創製と基礎(物理系・化学系)			0.2				0.2	0.0		
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			2.0				2.0	0.0		

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.2				1.2	0.0		
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.0			0.0	1.0		
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								有機化学演習I			1.1				1.1	0.0		
								有機化学演習II				1.1			0.0	1.1		
								医薬品合成実習					1.4		1.4	0.0		
								基礎有機化学実習						2.1	0.0	2.1		
								計	1.6	1.1	6.2	3.1	1.4	2.1	9.2	6.3	7.7	
医療薬物薬学科	薬物生体分析学教室	准教授	やなぎだ あきお 柳田　顕郎	男	51	1999.6.1	2011.4.1	医療薬物薬学特論-i 創薬概論	0.2						0.2	0.0		
								化学平衡論	2.3						2.3	0.0		東京薬科大学
								分析化学		2.2					0.0	2.2		薬学研究科
								薬学入門	0.6						0.6	0.0		修士課程修了
								臨床分析化学特論	0.2						0.2	0.0		博士（薬学）
								アドバンス英語				1.1			0.0	1.1		
								医療薬物薬学演習 I-i 医薬品創製と基礎(物理系・化学系)			0.2				0.2	0.0		
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			0.6	0.5			0.6	0.5		
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習				1.1			0.0	1.1		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								総合物理演習				0.2			0.0	0.2		
								物理系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.5				0.5	0.0		
								物理化学・分析化学実習						1.4	0.0	1.4		
								分析化学実習					3.8		3.8	0.0		
								計	3.3	2.2	2.6	3.8	3.8	1.4	9.8	7.4	8.6	
医療薬物薬学科	薬学教育推進センター	准教授	よこじま さとし 横島　智	男	47	2011.4.1	2011.4.1	基礎物理学集中講義	0.5						0.5	0.0		
								物理学	4.4						4.4	0.0		慶應義塾大学
								薬学入門	0.9						0.9	0.0		理工学研究科
								物理系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				0.7			0.0	0.7		博士課程修了
								物理系ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			0.5				0.5	0.0		博士（理学）
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（ﾎﾟｽﾀｰ作成指導）			0.5				0.5	0.0		
								薬学入門演習 I（報告会）			0.2				0.2	0.0		
								計	5.8		1.5	0.7			7.3	0.7	4.0	
医療衛生薬学科	分子機能解析学教室	准教授	あおやま ひろし 青山　洋史	男	40	2011.4.1	2013.4.1	分子物理化学		4.5					0.0	4.5		
								医化学特論	0.1						0.1	0.0		岐阜大学
								アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		工学研究科
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		博士課程修了
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			1.0				1.0	0.0		博士（工学）
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		
								課題研究（4P80）			0.2				0.2	0.0		
								総合物理演習				0.2			0.0	0.2		
								物理系ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			1.5				1.5	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								物理化学・分析化学実習						8.4	0.0	8.4		
								計	0.1	4.5	5.1	0.3		8.4	5.2	13.2	9.2	
医療衛生薬学科	免疫学教室	准教授	あだち よしゆき 安達　禎之	男	52	1990.4.1	2007.4.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	1.1						1.1	0.0		
								細胞工学	2.3						2.3	0.0		東京薬科大学
								免疫学		2.2					0.0	2.2		薬学研究科
								アドバンス英語				0.8			0.0	0.8		博士課程修了
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		博士（薬学）
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)				1.3			0.0	1.3		
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.3				1.3	0.0		
								科別英語特論			1.5				1.5	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								微生物・免疫学実習						4.7	0.0	4.7		
								計	3.4	2.2	3.0	2.3		4.7	6.5	9.1	7.8	
医療衛生薬学科	第三英語研究室	准教授	えりっく すかいやー Eric　M.Skier	男	44	1997.4.1	2011.4.1	英会話I	3.1						3.1	0.0		
								英会話II		1.0					0.0	1.0		コロンビア大学
								英語（コミュニケーション）	4.5	4.2					4.5	4.2		修士課程修了
								実用薬学英語	1.0	1.0					1.0	1.0		M.A. TESOL
								アドバンス英語			1.2				1.2	0.0		
								科別英語特論			1.9				1.9	0.0		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.4			0.0	1.4		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								計	8.6	6.2	3.3	1.4			12.0	7.6	9.8	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
医療衛生薬学科	応用統計学研究室	准教授	おおこうち ひろこ 大河内　広子	女	61	2002.1.1	2007.4.1	応用統計学	2.0						2.0	0.0		
								数学	2.2	2.0					2.2	2.0		早稲田大学
								多変量解析	1.1						1.1	0.0		理工学研究科
								アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		修士課程修了
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.0				1.0	0.0		博士（理学）
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)				1.0			0.0	1.0		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								計	5.3	2.0	2.2	2.0			7.5	4.0	5.8	
医療衛生薬学科	臨床薬剤学教室	准教授	しもえだ さだひこ 下枝　貞彦	男	48	2009.4.1	2009.4.1	医薬品開発特論 II	0.9						0.9	0.0		
								感染制御学特論	1.4						1.4	0.0		名城大学
								後期選択専門科目II		0.5					0.0	0.5		卒業
								高齢者医療	0.7						0.7	0.0		博士（薬学）
								疾病と薬物治療VI		0.9					0.0	0.9		
								アドバンス英語			1.2				1.2	0.0		
								医療衛生薬学演習 I-i ｾﾙﾌﾒﾃﾞｨｹｰｼｮﾝ：薬剤師の関わり方			1.2				1.2	0.0		
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)				1.4			0.0	1.4		
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.9				0.9	0.0		
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		
								課題研究（4P80）			0.6				0.6	0.0		
								課題研究（PBL-T）				1.4			0.0	1.4		
								課題研究（医療の最前線）			0.2	0.5			0.2	0.5		
								事前実務学習（実務実習事前学習II）				1.8			0.0	1.8		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.2			0.0	1.2		
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.2			0.0	1.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.8				0.8	0.0		
								薬学入門演習 I（報告会）			0.2				0.2	0.0		
								事前実務実習					4.0		4.0	0.0		
								計	3.0	1.4	6.6	7.4	4.0		13.5	8.8	11.2	
医療衛生薬学科	内分泌・神経薬理学教室	准教授	たむら かずひろ 田村　和広	男	51	1995.10.1	2007.4.1	薬の効き方I		3.1					0.0	3.1		
								アドバンス英語			0.7	0.3			0.7	0.3		東京医科歯科大学
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		医学研究科
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.6	0.5			0.6	0.5		博士課程修了
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			1.4				1.4	0.0		博士（医学）
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.6	0.5			0.6	0.5		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								課題研究（4P80）				0.2			0.0	0.2		
								課題研究（医療の最前線）			0.2				0.2	0.0		
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.2			0.0	1.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								薬理学実習					6.1		6.1	0.0		
								計		3.1	5.0	2.7	6.1		11.1	5.8	8.5	
医療衛生薬学科	薬学基礎実習教育センター	准教授	どばし やすお 土橋　保夫	男	56	1983.4.1	2007.4.1	有機化学I	1.2						1.2	0.0		
								有機化学II		1.1					0.0	1.1		東京薬科大学
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.0			0.0	1.0		薬学研究科
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		修士課程修了
								有機化学演習I			1.2				1.2	0.0		博士（薬学）
								有機化学演習II				1.1			0.0	1.1		
								医薬品合成実習					4.2		4.2	0.0		
								基礎有機化学実習						6.3	0.0	6.3		
								有機化学実習					5.6		5.6	0.0		
								計	1.2	1.1	1.4	2.1	9.8	6.3	12.4	9.5	10.9	
医療衛生薬学科	薬物送達学教室	准教授	ねぎし よういち 根岸　洋一	男	48	2004.10.1	2007.4.1	実用薬学英語	0.3	0.1					0.3	0.1		
								薬物送達学		2.2					0.0	2.2		北海道大学
								薬剤学特論	0.2						0.2	0.0		薬学研究科
								アドバンス英語				0.9			0.0	0.9		博士課程修了
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.0				1.0	0.0		博士（薬学）
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			1.4				1.4	0.0		
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.9				0.9	0.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								課題研究（4P80）			0.1	0.1			0.1	0.1		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬剤学実習						6.1	0.0	6.1		
								計	0.5	2.3	4.7	0.9		6.1	5.2	9.3	7.2	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
医療衛生薬学科	衛生化学教室	准教授	はやかわ まきお 早川　磨紀男	男	51	1998.5.1	2007.4.1	栄養素の化学	2.0						2.0	0.0		
								実用薬学英語	0.1	0.5					0.1	0.5		東京大学
								食品と健康		2.0					0.0	2.0		薬学系研究科
								アドバンス英語			0.9				0.9	0.0		修士課程修了
								医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション：薬剤師の関わり方			1.1				1.1	0.0		博士（薬学）
								医療衛生薬学演習 II-i ラボラトリー演習(1)			1.0				1.0	0.0		
								医療衛生薬学演習 II-ii ラボラトリー演習(2)			1.0				1.0	0.0		
								科別英語特論			0.6				0.6	0.0		
								健康・環境セミナール(3年後期)				1.0			0.0	1.0		
								総合衛生演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								衛生化学・公衆衛生学実習					3.2		3.2	0.0		
								計	2.1	2.6	4.8	1.2	3.2		10.1	3.7	6.9	
医療衛生薬学科	薬学基礎実習教育センター	准教授	ほんだ ひでお 本多　秀雄	男	63	1996.4.1	2007.4.1	アドバンス英語			0.5	0.5			0.5	0.5		
								科別英語特論			1.6				1.6	0.0		北里大学
								課題研究（4P80）				0.1			0.0	0.1		薬学研究科
								総合セミナール(2年前期)			1.0				1.0	0.0		修士課程修了
								総合薬・疾病演習				0.2			0.0	0.2		博士（医学）
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								衛生化学・公衆衛生学実習					6.1		6.1	0.0		
								微生物・免疫学実習						8.4	0.0	8.4		
								計			3.4	0.8	6.1	8.4	9.5	9.2	9.3	
医療薬学科	薬学実務実習教育センター	講師	とばり ひろこ 戸張　裕子	女	47	2012.4.1	2012.4.1	アドバンス英語			1.1	1.6			1.1	1.6		
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		筑波大学
								医療薬学演習 II-i ラボラトリー演習(1)			2.5	0.8			2.5	0.8		人間総合科学研究科
								医療薬学演習 II-ii ラボラトリー演習(2)			0.8				0.8	0.0		博士課程修了
								課題研究（PBL-T）				1.2			0.0	1.2		博士（医学）
								事前実務学習（実務実習事前学習II）				4.2			0.0	4.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.3				0.3	0.0		
								薬学入門演習 II（SGD）				0.7			0.0	0.7		
								事前実務実習					20.1		20.1	0.0		
								計			4.7	8.5	20.1		24.8	8.5	16.6	
医療薬学科	病原微生物学教室	講師	なかみなみ ひでまさ 中南　秀将	男	32	2009.4.1	2014.4.1	基礎生物学集中講義	0.5						0.5	0.0		
								微生物学II	2.2						2.2	0.0		東京薬科大学
								アドバンス英語			1.2				1.2	0.0		薬学研究科
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			1.0				1.0	0.0		博士課程修了
								医療薬学演習 II-i ラボラトリー演習(1)			1.0				1.0	0.0		博士（薬学）
								医療薬学演習 II-ii ラボラトリー演習(2)			1.1				1.1	0.0		
								科別英語特論			1.6				1.6	0.0		
								生物系セミナール(2年前期)			1.2				1.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								微生物・免疫学実習						4.7	0.0	4.7		
								計	2.6		7.2			4.7	9.9	4.7	7.3	
医療薬学科	薬物代謝安全性学教室	講師	にしやま たかひと 西山　貴仁	男	46	1998.7.1	2007.7.1	化学物質と生体影響		1.1					0.0	1.1		
								健康と環境II	1.1						1.1	0.0		東京薬科大学
								実用薬学英語	0.3	0.1					0.3	0.1		薬学研究科
								アドバンス英語				1.0			0.0	1.0		博士課程修了
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		博士（薬学）
								医療薬学演習 I-ii 医薬品開発と臨床試験			0.9				0.9	0.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								課題研究（PBL-T）			1.4				1.4	0.0		
								健康・環境セミナール(3年前期)			1.1				1.1	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								病態生理学・薬物安全性学実習						6.3	0.0	6.3		
								計	1.4	1.2	4.6	1.2		6.3	6.0	8.6	7.3	
医療薬学科	病態生理学教室	講師	はせがわ ひろし 長谷川　弘	男	53	1989.4.1	2006.4.1	疾病と薬物治療IV	4.4						4.4	0.0		
								病態生理学特論	0.1						0.1	0.0		東京薬科大学
								生体機能制御学特論	0.1						0.1	0.0		卒業
								アドバンス英語			0.6	0.1			0.6	0.1		博士（薬学）
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.7				0.7	0.0		

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.6	0.4			0.6	0.4		
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.0				1.0	0.0		
								科別英語特論			0.6				0.6	0.0		
								課題研究（PBL-T）				1.2			0.0	1.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								病態生理学・薬物安全性学実習						3.5	0.0	3.5		
								計	4.5		3.8	1.7		3.5	8.3	5.2	6.8	
医療薬学科	機能形態学教室	講師	はやし あきこ 林　明子	女	49	2002.9.1	2007.7.1	機能形態学I	1.7						1.7	0.0		
								機能形態学II		1.9					0.0	1.9		北里大学卒業
								機能形態学III	1.2						1.2	0.0		博士（医学）
								生体機能制御学特論	0.1						0.1	0.0		
								科別英語特論			0.9				0.9	0.0		
								総合衛生演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								基礎生物学実習						4.9	0.0	4.9		
								計	3.1	1.9	1.2	0.2		4.9	4.2	6.9	5.6	
医療薬学科	薬学実務実習教育センター	講師	べっしょう しんたろう 別生　伸太郎	男	38	2005.6.1	2014.4.1	アドバンス英語			1.1	0.9			1.1	0.9		
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			3.3	0.1			3.3	0.1		東京薬科大学
								課題研究（4P80）			0.2				0.2	0.0		薬学研究科
								課題研究（PBL-T）			0.3	0.9			0.3	0.9		博士課程修了
								事前実務学習（実務実習事前学習II）				4.2			0.0	4.2		博士（薬学）
								総合薬・疾病演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								事前実務実習					20.5		20.5	0.0		
								計			5.1	6.3	20.5		25.7	6.3	16.0	
医療薬学科	臨床薬効解析学教室	講師	よこやま はるこ 横山　晴子	女	41	2004.7.1	2013.4.1	医療情報	0.3						0.3	0.0		
								疾病と薬物治療VII		1.1					0.0	1.1		東邦大学
								調剤学		0.8					0.0	0.8		薬学部卒業
								アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		博士（薬学）
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.8				0.8	0.0		
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.1	0.7			1.1	0.7		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								課題研究（4P80）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								医療情報実習						4.2	0.0	4.2		
								計	0.3	1.9	4.5	0.7		4.2	4.9	6.8	5.8	
医療薬物薬学科	薬学基礎実習教育センター	講師	いまだ けいすけ 今田　啓介	男	44	2005.1.1	2014.4.1	生化学I		2.3					0.0	2.3		
								生化学II	2.3						2.3	0.0		東京薬科大学
								アドバンス英語			0.5	0.5			0.5	0.5		薬学研究科
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		博士課程修了
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			0.4	0.8			0.4	0.8		博士（薬学）
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.2				1.2	0.0		
								科別英語特論			0.3				0.3	0.0		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.1			0.0	1.1		
								総合演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.3				0.3	0.0		
								生化学実習					7.0		7.0	0.0		
								病態生理学・薬物安全性学実習						6.3	0.0	6.3		
								計	2.3	2.3	2.8	2.7	7.0	6.3	12.0	11.4	11.7	
医療薬物薬学科	応用生化学教室	講師	えん ぱく 袁　博	男	43	2000.4.1	2013.4.1	バイオ医薬品とゲノム情報	2.5						2.5	0.0		
								実用薬学英語	0.3	0.1					0.3	0.1		【中国】瀋陽薬科大学卒業
								生化学III		2.2					0.0	2.2		【日本】東京薬科大学
								アドバンス英語				1.0			0.0	1.0		薬学研究科
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.0				1.0	0.0		修士課程修了
								医療薬物薬学演習 I-ii 医薬品創製と基礎(生物系・医療薬学			0.2				0.2	0.0		博士（薬学）
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.0				1.0	0.0		
								科別英語特論			0.9				0.9	0.0		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				2.0			0.0	2.0		
								総合衛生演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								生化学実習					4.7		4.7	0.0		
								計	2.8	2.3	3.4	3.2	4.7		10.9	5.4	8.2	

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
医療薬物薬学科	薬学教育推進センター	講師	おがた まさひろ 緒方　正裕	男	48	2013.4.1	2013.4.1	薬局方総論	1.9						1.9	0.0		
								アドバンス英語			0.6	0.5			0.6	0.5		共立薬科大学
								アドバンス演習				2.3			0.0	2.3		薬学研究科
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		博士課程修了
								課題研究（4P80）			0.5	0.1			0.5	0.1		博士（薬学）
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(早期体験実習引率)			0.3				0.3	0.0		
								計	1.9		2.6	4.0			4.5	4.0	4.2	
医療薬物薬学科	薬学実務実習教育センター	講師	かげやま みほ 影山　美穂	女	36	2013.4.1	2013.4.1	医薬品開発特論Ⅱ	0.2						0.2	0.0		
								アドバンス英語				0.9			0.0	0.9		新潟薬科大学
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		応用生命科学研究科
								医療薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.2	0.9			1.2	0.9		修士課程修了
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		修士（応用生命）
								事前実務学習（実務実習事前学習Ⅱ）				4.2			0.0	4.2		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習Ⅱ(SGD)				0.7			0.0	0.7		
								事前実務実習					19.8		19.8	0.0		
								計	0.2		2.5	6.8	19.8		22.6	6.8	14.7	
医療薬物薬学科	生物分子有機化学教室	講師	かまいけ　かずお 釜池　和大	男	56	1989.5.1	1997.4.1	医薬品化学I	2.0						2.0	0.0		
								有機化学III	2.2						2.2	0.0		東京工業大学
								有機化学IV		2.2					0.0	2.2		理工学研究科
								医化学特論	0.1						0.1	0.0		博士課程修了
								アドバンス英語			0.3	0.8			0.3	0.8		博士（理学）
								医療薬物薬学演習 I-i 医薬品創製と基礎(物理系・化学系)			0.2				0.2	0.0		
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			2.0				2.0	0.0		
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-ii 学術論文演習			1.2				1.2	0.0		
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			1.0				1.0	0.0		
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		
								総合物理演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(早期体験実習引率)			0.3				0.3	0.0		
								医薬品合成実習					1.4		1.4	0.0		
								基礎有機化学実習						2.1	0.0	2.1		
								計	4.3	2.2	6.4	1.0	1.4	2.1	12.1	5.3	8.7	
医療薬物薬学科	薬化学教室	講師	こせき ゆうじ 古石　裕治	男	50	1990.4.1	2000.10.1	無機化学		2.0					0.0	2.0		
								医化学特論	0.1						0.1	0.0		東京薬科大学
								医療薬物薬学演習 I-i 医薬品創製と基礎(物理系・化学系)			0.2				0.2	0.0		薬学研究科
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.1				1.1	0.0		修士課程修了
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-ii 学術論文演習			1.2				1.2	0.0		博士（薬学）
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			1.0				1.0	0.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								機器スペクトル演習			2.2				2.2	0.0		
								総合物理演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.3				0.3	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(早期体験実習引率)			0.3				0.3	0.0		
								医薬品合成実習					1.4		1.4	0.0		
								基礎有機化学実習						2.1	0.0	2.1		
								計	0.1	2.0	7.3	0.2	1.4	2.1	8.8	4.3	6.5	
医療薬物薬学科	薬学基礎実習教育センター	講師	さとう ひろと 佐藤　弘人	男	45	1992.4.1	2014.4.1	アドバンス英語			0.5	0.5			0.5	0.5		
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			0.4	0.8			0.4	0.8		東京薬科大学卒業
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-ii 学術論文演習			0.9				0.9	0.0		博士（薬学）
								科別英語特論			1.6				1.6	0.0		
								課題研究（PBL-T）				1.3			0.0	1.3		
								情報リテラシー演習			4.2				4.2	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.4				0.4	0.0		
								漢方薬物学実習					5.6		5.6	0.0		
								天然医薬品化学実習					4.2		4.2	0.0		
								薬剤学実習						7.0	0.0	7.0		
								計			8.1	2.6	9.8	7.0	17.9	9.6	13.8	
医療薬物薬学科	薬物生体分析学教室	講師	しょうじ あつし 東海林　敦	男	35	2012.4.1	2014.4.1	医療薬物薬学特論-i 創薬概論	0.1						0.1	0.0		
								機器分析学	2.3						2.3	0.0		東京薬科大学
								臨床分析化学特論	0.2						0.2	0.0		薬学研究科
								アドバンス英語				1.1			0.0	1.1		博士課程修了
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		博士（薬学）
								医療薬物薬学演習 I-i 医薬品創製と基礎(物理系・化学系)			0.2				0.2	0.0		
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			0.6	0.5			0.6	0.5		

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習				1.1			0.0	1.1		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								課題研究（4P80）			0.2	0.3			0.2	0.3		
								物理系ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			1.1				1.1	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								物理化学・分析化学実習						1.4	0.0	1.4		
								分析化学実習					4.2		4.2	0.0		
								計	2.6		3.4	3.1	4.2	1.4	10.2	4.5	7.4	
医療薬物薬学科	薬学実務実習教育センター	講師	たけい さわこ 武井　佐和子	女	53	2008.10.1	2008.10.1	アドバンス英語				0.7			0.0	0.7		
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		東京薬科大学
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.4	0.2			0.4	0.2		卒業
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.9	0.6			0.9	0.6		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								課題研究（PBL-T）			0.1	1.1			0.1	1.1		
								事前実務学習（実務実習事前学習II）				4.2			0.0	4.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 II（SGD）				0.5			0.0	0.5		
								事前実務実習					19.4		19.4	0.0		
								計			2.8	7.4	19.4		22.1	7.4	14.8	
医療薬物薬学科	応用生化学教室	講師	はやし ひでき 林　秀樹	男	43	2014.1.1	2014.1.1	アドバンス英語				1.0			0.0	1.0		
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.0				1.0	0.0		東京薬科大学
								医療薬物薬学演習 I-ii 医薬品創製と基礎(生物系・医療薬学			0.2				0.2	0.0		薬学研究科
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.0				1.0	0.0		博士課程修了
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		博士（薬学）
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								生化学実習					4.7		4.7	0.0		
								計			3.7	1.0	4.7		8.3	1.0	4.7	
医療薬物薬学科	病態生化学教室	講師	ほずみ けんたろう 保住　建太郎	男	42	2007.4.1	2012.4.1	生物学	1.6						1.6	0.0		
								アドバンス英語			0.2	0.1			0.2	0.1		北海道大学
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			0.3				0.3	0.0		地球環境科学研究科
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習				0.1			0.0	0.1		博士課程修了
								科別英語特論			0.2				0.2	0.0		博士(地球環境)
								課題研究（4P80）			0.2				0.2	0.0		
								生化学演習				0.9			0.0	0.9		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.3				0.3	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								基礎生物学実習						6.3	0.0	6.3		
								計	1.6		1.4	1.1		6.3	3.0	7.4	5.2	
医療衛生薬学科	衛生化学教室	講師	あんどう けん 安藤　堅	男	47	1991.4.1	2004.4.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	0.2						0.2	0.0		
								栄養素の化学	2.2						2.2	0.0		東京薬科大学
								食品と健康		2.2					0.0	2.2		薬学研究科
								アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		修士課程修了
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		博士（薬学）
								医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション：薬剤師の関わり方			1.1				1.1	0.0		
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.0				1.0	0.0		
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.0				1.0	0.0		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								健康・環境ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.1			0.0	1.1		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.4				0.4	0.0		
								衛生化学・公衆衛生学実習					3.3		3.3	0.0		
								計	2.4	2.2	5.7	1.2	3.3		11.4	3.4	7.4	
医療衛生薬学科	漢方資源応用学教室	講師	くろだ みんぺい 黒田　明平	男	45	1994.4.1	2003.4.1	後期選択専門科目II		0.2					0.0	0.2		
								植物薬品学	2.1						2.1	0.0		東京薬科大学
								アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション：薬剤師の関わり方			1.0				1.0	0.0		修士課程修了
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			2.2				2.2	0.0		博士（薬学）
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			2.2				2.2	0.0		
								課題研究（4P80）			0.2	0.3			0.2	0.3		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								漢方薬物学実習					5.6		5.6	0.0		
								計	2.1	0.2	6.9	0.3	5.6		14.6	0.5	7.5	
医療衛生薬学科	分析化学教室	講師	こたに あきら 小谷　明	男	40	1999.4.1	2007.4.1	化学平衡論	2.2						2.2	0.0		
								基礎物理学集中講義	0.5						0.5	0.0		千葉大学
								分析化学		2.3					0.0	2.3		薬学研究科
								臨床分析化学	1.6						1.6	0.0		修士課程修了
								臨床分析化学特論	0.2						0.2	0.0		博士（薬学）
								アドバンス英語			0.6				0.6	0.0		

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション：薬剤師の関わり方			1.1				1.1	0.0		
								医療衛生薬学演習 II-i ラボラトリー演習(1)				0.8			0.0	0.8		
								医療衛生薬学演習 II-ii ラボラトリー演習(2)			0.7	0.4			0.7	0.4		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								課題研究（PBL-T）			1.2				1.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								物理化学・分析化学実習						1.4	0.0	1.4		
								分析化学実習					4.2		4.2	0.0		
								計	4.4	2.3	4.9	1.2	4.2	1.4	13.5	4.9	9.2	
医療衛生薬学科	医薬品安全管理学教室	講師	なかじま ゆき 中島　由紀	男	59	2010.7.1	2010.7.1	医薬品開発特論 II	0.2						0.2	0.0		
								高齢者医療	0.2						0.2	0.0		東京大学
								治験の実際	1.4						1.4	0.0		大学院薬学系研究科
								アドバンス英語				0.9			0.0	0.9		博士課程修了
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		博士（薬学）
								医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション：薬剤師の関わり方			0.2				0.2	0.0		
								科別英語特論			0.9				0.9	0.0		
								課題研究（4P80）			0.2	0.6			0.2	0.6		
								課題研究（PBL-T）				1.2			0.0	1.2		
								事前実務学習（実務実習事前学習II）				0.2			0.0	0.2		
								総合ゼミナール(1年後期)				1.2			0.0	1.2		
								薬・疾病ゼミナール(2年後期)				1.2			0.0	1.2		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.7				0.7	0.0		
								事前実務実習					3.0		3.0	0.0		
								計	1.9		2.0	5.4	3.0		6.9	5.4	6.1	
医療衛生薬学科	漢方資源応用学教室	講師	よこすか あきひと 横須賀　章人	男	40	1999.4.1	2011.4.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	0.2						0.2	0.0		
								アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		東京薬科大学
								医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション：薬剤師の関わり方			1.1				1.1	0.0		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 II-i ラボラトリー演習(1)			2.1				2.1	0.0		修士課程修了
								医療衛生薬学演習 II-ii ラボラトリー演習(2)			2.2				2.2	0.0		博士（薬学）
								化学系ゼミナール(2年後期)				1.0			0.0	1.0		
								科別英語特論			0.4				0.4	0.0		
								課題研究（PBL-T）				1.2			0.0	1.2		
								機器スペクトル演習			2.2				2.2	0.0		
								総合物理演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								漢方薬物学実習					5.6		5.6	0.0		
								計	0.2		9.3	2.3	5.6		15.0	2.3	8.7	
医療薬学科	機能形態学教室	助教	いしばし ともこ 石橋　智子	女	40	2004.1.1	2007.7.1	医療薬学特論-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して	0.2						0.2	0.0		総合研究大学院大学
								生体機能制御学特論	0.1						0.1	0.0		生命科学研究科
								薬学入門演習 I（ポスター作成指導）			0.2				0.2	0.0		博士課程修了
								基礎生物学実習						6.3	0.0	6.3		博士（理学）
								計	0.3		0.2			6.3	0.4	6.3	3.4	
医療薬学科	総合医療薬学講座	助教	おおとも たかゆき 大友　隆之	男	35	2009.4.1	2009.4.1	疾病と薬物治療II		1.6					0.0	1.6		
								生体機能制御学特論	0.1						0.1	0.0		東京薬科大学
								アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		薬学研究科
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.8				0.8	0.0		博士課程修了
								医療薬学演習 II-i ラボラトリー演習(1)			1.1				1.1	0.0		博士（薬学）
								医療薬学演習 II-ii ラボラトリー演習(2)				1.0			0.0	1.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								課題研究（4P80）				0.1			0.0	0.1		
								薬・疾病ゼミナール(3年前期)			1.0				1.0	0.0		
								薬の効き方IV（薬物治療演習）			1.2				1.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								事前実務実習					1.4		1.4	0.0		
								計	0.1	1.6	6.5	1.1	1.4		8.0	2.6	5.3	
医療薬学科	薬物代謝安全性学教室	助教	おおぬま ともかず 大沼　友和	男	37	2003.5.1	2011.4.1	アドバンス英語				1.0			0.0	1.0		
								医療薬学演習 II-i ラボラトリー演習(1)			1.0				1.0	0.0		東京薬科大学
								医療薬学演習 II-ii ラボラトリー演習(2)			1.0				1.0	0.0		薬学研究科
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		修士課程修了
								課題研究（4P80）			0.1	0.1			0.1	0.1		博士（薬学）
								健康・環境ゼミナール(3年前期)			1.1				1.1	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								病態生理学・薬物安全性学実習						6.3	0.0	6.3		
								計			4.4	1.1		6.3	4.4	7.4	5.9	
医療薬学科	臨床薬理学教室	助教	おんだ けんじ 恩田　健二	男	40	1999.4.1	2008.4.1	アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		
								医療薬学演習 II-i ラボラトリー演習(1)			1.8				1.8	0.0		東京薬科大学
								医療薬学演習 I-ii 医薬品開発と臨床試験			0.9				0.9	0.0		薬学研究科

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授　業　科　目 科　目　名	毎 週 授 業 時 間 数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週 授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		修士課程修了
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			1.0				1.0	0.0		博士（薬学）
								薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）			1.2				1.2	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								事前実務実習					0.5		0.5	0.0		
								計			7.3		0.5		7.8	0.0	3.9	
医療薬学科	薬学基礎実習教育センター	助教	たかはし こうじ 高橋　浩司	男	39	2003.4.1	2012.7.1	アドバンス英語			0.5	0.5			0.5	0.5		
								アドバンス演習				0.2			0.0	0.2		東京薬科大学
								医療薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			0.4	0.8			0.4	0.8		薬学研究科
								医療薬学演習 Ⅱ-ii 学術論文演習			1.2				1.2	0.0		修士課程修了
								科別英語特論			1.6				1.6	0.0		博士（薬学）
								課題研究（4P80）			0.2				0.2	0.0		
								物理系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習Ⅰ（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								物理化学・分析化学実習						8.4	0.0	8.4		
								分析化学実習					8.4		8.4	0.0		
								計			4.1	2.5	8.4	8.4	12.5	10.9	11.7	
医療薬学科	薬物動態制御学教室	助教	たきざわ ゆうすけ 瀧沢　裕輔	男	32	2007.4.1	2011.11.1	生物薬剤学		0.9					0.0	0.9		
								特許・ﾚｷﾞｭﾗﾄﾘｱﾙｻｲｴﾝｽ		0.2					0.0	0.2		東京薬科大学
								アドバンス英語			0.3	0.9			0.3	0.9		薬学研究科
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		修士課程修了
								医療薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.0				1.0	0.0		博士（薬学）
								医療薬学演習 Ⅱ-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)				1.1			0.0	1.1		
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								課題研究（4P80）			0.1				0.1	0.0		
								創薬ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.0			0.0	1.0		
								総合生物演習			1.6				1.6	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬剤学実習						7.0	0.0	7.0		
								計		1.2	4.4	3.0		7.0	4.4	11.2	7.8	
医療薬学科	臨床薬理学教室	助教	たなか さちこ 田中　祥子	女	44	2000.4.1	2009.4.1	アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		
								医療薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.9				1.9	0.0		東京薬科大学
								医療薬学演習 Ⅰ-ii 医薬品開発と臨床試験			1.0				1.0	0.0		薬学研究科
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		修士課程修了
								薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）			0.9				0.9	0.0		博士（薬学）
								薬学入門演習Ⅰ（SGD）			0.5				0.5	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								事前実務実習					3.5		3.5	0.0		
								計			6.7		3.5		10.2	0.0	5.1	
医療薬学科	病態生理学教室	助教	なかむら まきこ 中村　真希子	女	33	2009.4.1	2009.4.1	医療薬学特論-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して	0.2						0.2	0.0		
								疾病と薬物治療I		1.1					0.0	1.1		東京工業大学
								生体機能制御学特論	0.1						0.1	0.0		工学研究科
								アドバンス英語			0.8	0.2			0.8	0.2		博士課程修了
								医療薬学演習 Ⅰ-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.9				0.9	0.0		博士（工学）
								医療薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.6	0.4			0.6	0.4		
								医療薬学演習 Ⅱ-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.0				1.0	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								病態生理学・薬物安全性学実習						3.5	0.0	3.5		
								計	0.3	1.1	3.5	0.6		3.5	3.8	5.2	4.5	
医療薬学科	一般用医薬品学教室	助教	なるい こうじ 成井　浩二	男	39	2003.4.1	2007.7.1	アドバンス英語			1.1	0.9			1.1	0.9		
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		東京薬科大学
								医療薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.2	0.5			1.2	0.5		薬学研究科
								医療薬学演習 Ⅱ-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.7				1.7	0.0		博士課程修了
								科別英語特論			1.4				1.4	0.0		博士（薬学）
								課題研究（4P80）				0.2			0.0	0.2		
								課題研究（PBL-T）			1.2				1.2	0.0		
								課題研究（医療の最前線）			1.3				1.3	0.0		
								総合法規演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習Ⅰ（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								薬学入門演習Ⅱ（介I）				3.1			0.0	3.1		
								事前実務実習					2.1		2.1	0.0		
								計			8.4	4.9	2.1		10.5	4.9	7.7	
医療薬学科	薬学実務実習教育センター	助教	はまだ まさき 濱田　真向	男	48	1992.9.1	2013.4.1	アドバンス英語				0.9			0.0	0.9		
								医療薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.2	0.9			1.2	0.9		東京薬科大学
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		卒業
								課題研究（PBL-T）			0.3	0.9			0.3	0.9		博士（薬学）

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週 授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								事前実務学習（実務実習事前学習II）				4.2			0.0	4.2		
								総合薬・疾病演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								事前実務実習					20.1		20.1	0.0		
								計			2.8	7.2	20.1		22.9	7.2	15.0	
医療薬学科	臨床薬学教室	助教	よこかわ あきとも 横川　彰朋	男	39	2000.4.1	2007.7.1	テーラーメイド医療		2.0					0.0	2.0		
								臨床分析化学特論	0.1						0.1	0.0		東京薬科大学
								アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		薬学研究科
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		修士課程修了
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.0				1.0	0.0		博士（薬学）
								医療薬学演習 I-ii 医薬品開発と臨床試験			0.9				0.9	0.0		
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)				1.0			0.0	1.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								創薬ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.0			0.0	1.0		
								総合創薬演習			0.5				0.5	0.0		
								総合薬・疾病演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								事前実務実習					2.1		2.1	0.0		
								計	0.1	2.0	4.7	2.3	2.1		6.9	4.3	5.6	
医療薬学科	病態生理学教室	助教	よしおか わたる 吉岡　亘	男	37	2013.1.1	2013.7.1	疾病と薬物治療III	0.9						0.9	0.0		
								病態生理学特論	0.2						0.2	0.0		京都大学
								アドバンス英語			0.8	0.2			0.8	0.2		理学研究科
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.9				0.9	0.0		博士課程修了
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.6	0.4			0.6	0.4		博士（理学）
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.0				1.0	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.3				0.3	0.0		
								病態生理学・薬物安全性学実習						3.5	0.0	3.5		
								計	1.1		3.8	0.6		3.5	4.9	4.1	4.5	
医療薬学科	病原微生物学教室	助教	わじま たけあき 輪島　丈明	男	30	2013.4.1	2013.4.1	基礎生物学集中講義	0.7						0.7	0.0		
								微生物学I		2.3					0.0	2.3		筑波大学
								微生物学II	2.5						2.5	0.0		人間総合科学研究科
								アドバンス英語			1.2				1.2	0.0		博士課程修了
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		博士（医学）
								医療薬学演習 I-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.9				0.9	0.0		
								医療薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.1				1.1	0.0		
								医療薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.1				1.1	0.0		
								科別英語特論			1.6				1.6	0.0		
								課題研究（4P80）			0.2	0.3			0.2	0.3		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			1.2				1.2	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.5				0.5	0.0		
								微生物・免疫学実習						4.7	0.0	4.7		
								計	3.2	2.3	7.8	0.4		4.7	11.0	7.4	9.2	
医療薬物薬学科	病態生化学教室	助教	かたぎり ふみひこ 片桐　文彦	男	37	2008.11.1	2008.11.1	細胞生物学	0.6						0.6	0.0		
								アドバンス英語			0.2	0.1			0.2	0.1		京都大学
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			0.3				0.3	0.0		薬学研究科
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			0.1	0.1			0.1	0.1		修士課程修了
								科別英語特論			0.2				0.2	0.0		博士（薬学）
								生化学演習				0.9			0.0	0.9		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.3				0.3	0.0		
								基礎生物学実習						5.4	0.0	5.4		
								計	0.6		1.1	2.1		5.4	1.7	7.5	4.6	
医療薬物薬学科	製剤設計学教室	助教	かなざわ たかのり 金沢　貴憲	男	33	2006.4.1	2011.4.1											東京薬科大学薬学研究科 修士課程修了　博士（薬学）
															0.0	0.0	0.0	
医療薬物薬学科	中央分析センター	助教	さくま ちせこ 佐久間　千勢子	女	62	1975.4.1	2007.7.1											東京薬科大学 卒業
															0.0	0.0	0.0	
医療薬物薬学科	天然医薬品化学教室	助教	はすだ ともよ 蓮田　知代	女	40	1999.4.1	2012.7.1	植物薬品学	2.2						2.2	0.0		
								アドバンス英語			0.7	1.0			0.7	1.0		東京薬科大学
								医療薬物薬学演習 I-i 医薬品創製と基礎(物理系・化学系)			0.2				0.2	0.0		薬学研究科
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.6	0.3			1.6	0.3		修士課程修了
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.6				1.6	0.0		
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.0			0.0	1.0		博士（薬学）

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週 授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								天然医薬品化学実習					4.2		4.2	0.0		
								計	2.2		5.3	2.3	4.2		11.7	2.3	7.0	
医療薬物薬学科	薬化学教室	助教	ひらしま しんいち 平島　真一	男	31	2013.8.1	2013.8.1	アドバンス英語				1.3			0.0	1.3		
								医療薬物薬学演習 I-i 医薬品創製と基礎(物理系・化学系)			0.2				0.2	0.0		岐阜薬科大学
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.0				1.0	0.0		薬学研究科
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.0				1.0	0.0		博士課程修了
								薬学入門演習Ⅰ(早期体験実習引率)			0.4				0.4	0.0		博士(薬学)
								医薬品合成実習					1.4		1.4	0.0		
								基礎有機化学実習						2.1	0.0	2.1		
								計			2.7	1.3	1.4	2.1	4.1	3.4	3.7	
医療薬物薬学科	薬品製造学教室	助教	やない ひかる 矢内　光	男	34	2005.4.1	2008.9.1	医薬品開発特論Ⅰ	0.2						0.2	0.0		
								アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		東京薬科大学
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.2				1.2	0.0		薬学研究科
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.2				1.2	0.0		修士課程修了
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			1.0				1.0	0.0		博士(薬学)
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								総合物理演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								基礎有機化学実習						2.1	0.0	2.1		
								有機化学実習					2.8		2.8	0.0		
								計	0.2		5.8	0.2	2.8	2.1	8.8	2.3	5.5	
医療薬物薬学科	薬学教育推進センター	助教	よしだ きみなり 吉田　君成	男	36	2013.4.1	2013.4.1	基礎物理学集中講義	0.7						0.7	0.0		
								薬学入門	0.3						0.3	0.0		北里大学
								アドバンス英語			0.6	0.5			0.6	0.5		薬学研究科
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.0			0.0	1.0		修士課程修了
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		博士(薬学)
								課題研究(4P80)			0.5	1.7			0.5	1.7		
								総合演習				5.8			0.0	5.8		
								薬学入門演習Ⅰ(ﾎﾟｽﾀｰ作成指導)			0.6				0.6	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(報告会)			0.2				0.2	0.0		
								計	1.0		3.1	9.1			4.1	9.1	6.6	
医療衛生薬学科	免疫学教室	助教	いしばし けんいち 石橋　健一	男	37	2007.4.1	2007.4.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	1.1						1.1	0.0		
								基礎生物学集中講義	1.4						1.4	0.0		東京薬科大学
								微生物学I		2.2					0.0	2.2		薬学研究科
								アドバンス英語				0.8			0.0	0.8		博士課程修了
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)				1.5			0.0	1.5		博士(薬学)
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.3				1.3	0.0		
								科別英語特論			1.4				1.4	0.0		
								課題研究(4P80)			0.2				0.2	0.0		
								課題研究(PBL-T)				1.2			0.0	1.2		
								総合衛生演習				0.2			0.0	0.2		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.2				0.2	0.0		
								微生物・免疫学実習						7.7	0.0	7.7		
								計	2.5	2.2	3.2	3.6		7.7	5.6	13.5	9.6	
医療衛生薬学科	分子機能解析学教室	助教	いじゅういん りょうすけ 伊集院　良祐	男	41	2013.4.1	2013.4.1	化学結合論	2.0						2.0	0.0		
								アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		名古屋市立大学
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			1.0				1.0	0.0		博士(薬学)
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								物理系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				0.3			0.0	0.3		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.4				0.4	0.0		
								物理化学・分析化学実習						7.9	0.0	7.9		
								計	2.0		3.4	0.3		7.9	5.4	8.2	6.8	
医療衛生薬学科	薬物送達学教室	助教	たかはし ようこ 高橋　葉子	女	32	2007.4.1	2012.10.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	0.2						0.2	0.0		
								アドバンス英語				0.9			0.0	0.9		東京薬科大学
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.6				0.6	0.0		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.7				0.7	0.0		修士課程修了
								科別英語特論			0.7				0.7	0.0		博士(薬学)
								創薬ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			1.0				1.0	0.0		
								薬剤学実習						5.4	0.0	5.4		
								計	0.2		3.0	0.9		5.4	3.2	6.2	4.7	
医療衛生薬学科	薬品化学教室	助教	たかやま けんたろう 高山　健太郎	男	30	2012.4.1	2012.4.1	アドバンス英語			0.3	0.5			0.3	0.5		
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			0.9				0.9	0.0		京都大学
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.1				1.1	0.0		博士課程修了
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			1.0				1.0	0.0		博士(薬学)
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週 授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								医薬品合成実習					1.4		1.4	0.0		
								有機化学実習					2.8		2.8	0.0		
								計			4.4	0.5	4.2		8.6	0.5	4.6	
医療衛生薬学科	薬品化学教室	助教	たぐち あきひろ 田口　晃弘	男	28	2013.4.1	2013.4.1	アドバンス英語			0.3	0.5			0.3	0.5		
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			0.9				0.9	0.0		東京薬科大学
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.1				1.1	0.0		薬学研究科
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		博士課程修了
								医薬品合成実習					1.4		1.4	0.0		博士（薬学）
								有機化学実習					2.8		2.8	0.0		
								計			3.4	0.5	4.2		7.6	0.5	4.1	
医療衛生薬学科	薬物送達学教室	助教	ただ るい 多田　塁	男	33	2012.4.1	2012.4.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	0.2						0.2	0.0		
								アドバンス英語				0.9			0.0	0.9		東京薬科大学
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.0				1.0	0.0		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			1.4				1.4	0.0		博士課程修了
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.0				1.0	0.0		博士（薬学）
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								創薬ｾﾐﾅｰﾙ(3年前期)			1.0				1.0	0.0		
								総合薬・疾病演習				0.2			0.0	0.2		
								薬剤学実習						7.0	0.0	7.0		
								計	0.2		5.4	1.0		7.0	5.6	8.0	6.8	
医療衛生薬学科	臨床薬剤学教室	助教	たどころひろこ 田所　弘子	女	28	2014.4.1	2014.4.1	アドバンス英語			1.2				1.2	0.0		
								医療衛生薬学演習 I-i ｾﾙﾌﾒﾃﾞｨｹｰｼｮﾝ：薬剤師の関わり方			1.4				1.4	0.0		東京薬科大学
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)				1.2			0.0	1.2		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.2				1.2	0.0		博士課程修了
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		博士（薬学）
								薬学入門演習 I（早期体験実習引率）			0.8				0.8	0.0		
								事前実務実習					4.2		4.2	0.0		
								計			5.7	1.2	4.2		9.9	1.2	5.5	
医療衛生薬学科	衛生化学教室	助教	ふじの ともふみ 藤野　智史	男	42	2003.4.1	2007.7.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	0.9						0.9	0.0		
								アドバンス英語			0.9				0.9	0.0		東京薬科大学
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.9				0.9	0.0		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.7				0.7	0.0		博士課程修了
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		博士（薬学）
								課題研究（4P80）			0.1				0.1	0.0		
								健康・環境ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								衛生化学・公衆衛生学実習					3.3		3.3	0.0		
								計	0.9		3.9	1.0	3.3		8.0	1.0	4.5	
医療衛生薬学科	漢方資源応用学教室	助教	まつお ゆきこ 松尾　侑希子	女	32	2006.4.1	2014.4.1	アドバンス英語			1.1				1.1	0.0		
								医療衛生薬学演習 I-i ｾﾙﾌﾒﾃﾞｨｹｰｼｮﾝ：薬剤師の関わり方			1.1				1.1	0.0		東京薬科大学
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			2.2				2.2	0.0		卒業
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			2.2				2.2	0.0		博士（薬学）
								化学系ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.0			0.0	1.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								漢方薬物学実習					5.6		5.6	0.0		
								計			7.8	1.0	5.6		13.4	1.0	7.2	
医療衛生薬学科	公衆衛生学教室	助教	みき ゆういち 三木　雄一	男	35	2003.4.1	2014.4.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	1.1						1.1	0.0		
								健康と環境I	3.2						3.2	0.0		東京薬科大学
								アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.5	0.5			0.5	0.5		修士課程修了
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.9				0.9	0.0		博士（薬学）
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		
								課題研究（4P80）			0.2	0.1			0.2	0.1		
								健康・環境ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習 I（SGD）			0.2				0.2	0.0		
								衛生化学・公衆衛生学実習					3.3		3.3	0.0		
								計	4.3		4.0	1.6	3.3		11.6	1.6	6.6	
医療衛生薬学科	薬品化学教室	助教	やくしじ ふみか 薬師寺　文華	女	33	2009.4.1	2009.4.1								0.0	0.0	0.0	徳島大学薬科学教育部 博士課程修了　博士（薬学）
医療衛生薬学科	免疫学教室	助教	やまなかだいすけ 山中　大輔	男	27	2014.4.1	2014.4.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	0.9						0.9	0.0		
								アドバンス英語				0.8			0.0	0.8		東京薬科大学
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)				1.3			0.0	1.3		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.3				1.3	0.0		博士課程修了
								科別英語特論			1.4				1.4	0.0		博士（薬学）

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授　業　科　目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週 授業時間数	最終学歴 及び学位称号
								薬学入門演習Ⅰ(ﾎﾟｽﾀｰ作成指導)			0.2				0.2	0.0		
								微生物・免疫学実習						4.4	0.0	4.4		
								計	0.9		2.9	2.1		4.4	3.7	6.6	5.2	
医療衛生薬学科	内分泌・神経薬理学教室	助教	よしえ みきひろ 吉江　幹浩	男	35	2006.4.1	2008.4.1	生理活性物質概論	1.2						1.2	0.0		
								アドバンス英語			0.7	0.3			0.7	0.3		東京薬科大学
								アドバンス演習				0.1			0.0	0.1		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.6	0.5			0.6	0.5		博士課程修了
								医療衛生薬学演習 Ⅰ-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			1.5				1.5	0.0		博士（薬学）
								医療衛生薬学演習 Ⅱ-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.6	0.2			0.6	0.2		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								課題研究（4P80）			0.2				0.2	0.0		
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.0			0.0	1.0		
								薬学入門演習Ⅰ(SGD)			0.5				0.5	0.0		
								薬理学実習					6.1		6.1	0.0		
								計	1.2		5.1	2.1	6.1		12.4	2.1	7.2	
医療薬学科	医療実務薬学教室	助手	かわぐち たかし 川口　崇	男	36	2009.4.1	2009.4.1	アドバンス英語			0.9	0.1			0.9	0.1		
								医療薬学演習 Ⅰ-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.5				0.5	0.0		東京薬科大学
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		薬学研究科
								課題研究（PBL-T）				1.2			0.0	1.2		修士課程修了
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(3年後期)				1.0			0.0	1.0		修士（薬学）
								薬の効き方Ⅳ（薬物治療演習）			1.2				1.2	0.0		
								薬学入門演習Ⅰ(早期体験実習引率)			0.3				0.3	0.0		
								事前実務実習					3.3		3.3	0.0		
								計			4.2	2.3	3.3		7.4	2.3	4.9	
医療薬学科	薬物動態制御学教室	助手	きしもと ひさなお 岸本　久直	男	29	2013.7.1	2013.7.1	アドバンス英語			0.3	0.9			0.3	0.9		
								医療薬学演習 Ⅱ-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)				1.1			0.0	1.1		東京薬科大学
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		薬学研究科
								薬学入門演習Ⅰ(ﾎﾟｽﾀｰ作成指導)			0.2				0.2	0.0		修士課程修了
								薬剤学実習						7.0	0.0	7.0		修士（薬学）
								計			1.6	1.9		7.0	1.6	8.9	5.3	
医療薬学科	臨床薬効解析学教室	助手	きむら こうじ 木村　耕二	男	30	2012.4.1	2012.4.1	アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		
								医療薬学演習 Ⅰ-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			0.8				0.8	0.0		東京薬科大学
								医療薬学演習 Ⅱ-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.9	0.9			0.9	0.9		薬学研究科
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		修士課程修了
								医療情報実習						3.7	0.0	3.7		修士（薬学）
								計			3.7	0.9		3.7	3.7	4.7	4.2	
医療薬学科	情報教育研究センター	助手	くらた かおり 倉田　香織	女	40	1999.4.1	1999.4.1	医療衛生薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.1				0.1	0.0		
								医療薬学演習 Ⅰ-ii 医薬品開発と臨床試験			0.5				0.5	0.0		東京薬科大学
								情報リテラシー演習			4.2				4.2	0.0		薬学研究科
								薬学入門演習Ⅰ(PPT)			0.3				0.3	0.0		修士課程修了
								医療情報実習						4.2	0.0	4.2		修士（薬学）
								事前実務実習					0.2		0.2	0.0		
								計			5.2		0.2	4.2	5.4	4.2	4.8	
医療薬学科	病原微生物学教室	助手	なかせ けいすけ 中瀬　恵亮	男	27	2012.4.1	2012.4.1	基礎生物学集中講義	1.4						1.4	0.0		
								アドバンス英語			1.2				1.2	0.0		東京薬科大学
								医療薬学演習 Ⅰ-i 臨床で活躍する薬剤師を目指して			1.0				1.0	0.0		生命科学研究科
								医療薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			1.1				1.1	0.0		修士課程修了
								医療薬学演習 Ⅱ-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			1.1				1.1	0.0		修士（生命科学）
								科別英語特論			1.6				1.6	0.0		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.1			0.0	1.1		
								薬学入門演習Ⅰ(ﾎﾟｽﾀｰ作成指導)			0.2				0.2	0.0		
								微生物・免疫学実習						4.7	0.0	4.7		
								計	1.4		6.1	1.1		4.7	7.5	5.8	6.6	
医療薬物薬学科	製剤設計学教室	助手	いばらき ひさこ 茨木　ひさ子	女	25	2014.4.1	2014.4.1	薬学入門演習Ⅰ(PPT)			0.1				0.1	0.0		
								薬剤学実習						7.0	0.0	7.0		東京薬科大学　卒業
								計			0.1			7.0	0.1	7.0	3.5	
医療薬物薬学科	生物分子有機化学教室	助手	おおた こういちろう 太田　浩一朗	男	31	2007.9.1	2007.9.1	アドバンス英語			0.3	0.8			0.3	0.8		
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			2.0				2.0	0.0		東京薬科大学
								医療薬物薬学演習 Ⅱ-ii 学術論文演習			1.2				1.2	0.0		薬学研究科
								科別英語特論			1.2				1.2	0.0		修士課程修了
								薬学入門演習Ⅰ(ﾎﾟｽﾀｰ作成指導)			0.2				0.2	0.0		修士（薬学）
								医薬品合成実習					1.4		1.4	0.0		
								基礎有機化学実習						2.1	0.0	2.1		
								計			4.8	0.8	1.4	2.1	6.2	2.9	4.6	
医療薬物薬学科	薬用植物園	助手	おざき あきのり 小崎　昭則	男	59	1993.11.1	1993.11.1								0.0	0.0	0.0	信州大学　卒業

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

（平成26年5月1日現在）

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	性別	年齢	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目 科　目　名	毎週授業時間数 講　義 前期	講　義 後期	演　習 前期	演　習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年平均毎週 授業時間数	最終学歴 及び学位称号
医療薬物薬学科	分子細胞病態薬理学教室	助手	ながお のぶこ 永尾　暢子	女	39	2013.4.1	2013.4.1	アドバンス英語			1.0	0.4			1.0	0.4		
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.4				1.4	0.0		九州東海大学　卒業
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		
								薬理学実習					6.1		6.1	0.0		
								計			3.5	0.4	6.1		9.6	0.4	5.0	
医療薬物薬学科	薬化学教室	助手	なかしま こうすけ 中島　康介	男	27	2013.7.1	2013.7.1	アドバンス英語				1.3			0.0	1.3		
								医療薬物薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習			1.0				1.0	0.0		岐阜薬科大学
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.0				1.0	0.0		薬学研究科
								医薬品合成実習					1.4		1.4	0.0		修士課程修了
								基礎有機化学実習						2.1	0.0	2.1		修士（薬学）
								計			2.0	1.3	1.4	2.1	3.4	3.4	3.4	
医療薬物薬学科	中央分析センター	助手	ふかや　はるひこ 深谷　晴彦	男	50	1989.1.1	1989.1.1								0.0	0.0	0.0	東京薬科大学　卒業
医療薬物薬学科	分子細胞病態薬理学教室	助手	まるのうち てつろう 丸ノ内　徹郎	男	29	2009.4.1	2009.4.1	アドバンス英語			1.0	0.4			1.0	0.4		
								医療薬物薬学演習 II-ii 学術論文演習			1.4				1.4	0.0		東京薬科大学
								科別英語特論			1.1				1.1	0.0		薬学研究科
								薬・疾病ｾﾐﾅｰﾙ(2年後期)				1.4			0.0	1.4		修士課程修了
								薬理学実習					6.1		6.1	0.0		修士（薬学）
								計			3.5	1.8	6.1		9.6	1.8	5.7	
医療薬物薬学科	中国医学研究室	助手	やまだ てつや 山田　哲也	男	34	2013.4.1	2013.4.1	科別英語特論			0.7				0.7	0.0		
								総合ｾﾐﾅｰﾙ(2年前期)			1.0				1.0	0.0		東京薬科大学　卒業
								薬学入門演習 I（PPT）			0.1				0.1	0.0		
								計			1.8				1.8	0.0	0.9	
医療衛生薬学科	生化学教室	助手	あきもと　のりこ 秋元　賀子	女	40	1997.4.1	1997.4.1	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望	1.1						1.1	0.0		
								アドバンス英語			0.5	0.4			0.5	0.4		東京薬科大学　卒業
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.5				0.5	0.0		博士（薬学）
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			2.2				2.2	0.0		
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		
								生物系ｾﾐﾅｰﾙ(1年後期)				1.0			0.0	1.0		
								生化学実習					2.1		2.1	0.0		
								計	1.1		4.2	1.4	2.1		7.4	1.4	4.4	
医療衛生薬学科	分子機能解析学教室	助手	かとう じゅんや 加藤　淳也	男	35	2012.4.1	2012.4.1	アドバンス英語			1.0				1.0	0.0		
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			1.0				1.0	0.0		東京薬科大学
								科別英語特論			0.9				0.9	0.0		薬学研究科
								物理化学・分析化学実習						8.4	0.0	8.4		修士課程修了
								計			3.0			8.4	3.0	8.4	5.7	修士（薬学）
医療衛生薬学科	内分泌・神経薬理学教室	助手	くわばらなおこ 桑原　直子	女	28	2014.4.1	2014.4.1	アドバンス英語			0.7	0.3			0.7	0.3		
								医療衛生薬学演習 II-i ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(1)			0.6	0.5			0.6	0.5		新潟薬科大学
								医療衛生薬学演習 I-ii 臨床応用薬学への課題研究ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			1.5				1.5	0.0		薬学研究科
								医療衛生薬学演習 II-ii ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ演習(2)			0.6	0.5			0.6	0.5		修士課程修了
								科別英語特論			1.0				1.0	0.0		修士（薬学）
								薬学入門演習 I（ﾎﾟｽﾀｰ作成指導）			0.2				0.2	0.0		
								薬理学実習					6.1		6.1	0.0		
								計			4.6	1.2	6.1		10.7	1.2	6.0	

［注］　１　「所属学科」には、（　　）に兼担の学科名を記入してください。

２　「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

３　「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、３学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

４　「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。（例：１コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間）

５　１授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。（例：実習科目「□□□□」は担当教員２名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を２で除す。）　また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。（例：前期の講義科目「○○○○」で○○教員が担当時間3.0時間、◇◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合）

６　「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を２で割った年間平均の時間数を記入してください。

７　卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

（基礎資料11）卒業研究の配属状況

4年生の在籍学生数　424 名
5年生の在籍学生数　397 名
6年生の在籍学生数　464 名

	配属講座名	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	配属学生１名当たりの研究室の広さ（㎡）
1	機能形態学教室	4	14	10	13	37	5.32
2	病原微生物学教室	4	14	13	14	41	4.90
3	薬物代謝安全性学教室	4	13	13	13	39	5.05
4	薬物動態制御学教室	3	11	5	11	27	7.30
5	病態生理学教室	4	14	13	16	43	4.42
6	臨床薬学教室	2	12	13	13	38	5.66
7	臨床薬理学教室	4	14	13	13	40	5.50
8	社会薬学研究室	1	1	0	2	3	8.33
9	総合医療薬学講座	2	8	8	6	22	2.91
10	臨床薬効解析学教室	4	15	13	13	41	4.39
11	一般用医薬品学教室	2	4	5	9	18	4.28
12	医療実務薬学教室	3	8	10	10	28	2.96
13	薬学実務実習教育センター	8	15	15	14	44	4.25
14	情報教育研究センター	3	1	7	14	22	3.55
15	薬物生体分析学教室	3	17	13	15	45	4.38
16	天然医薬品化学教室	2	6	9	17	32	6.19
17	薬化学教室	4	14	8	15	37	5.43
18	応用生化学教室	3	15	7	6	28	7.18
19	分子細胞病態薬理学教室	3※	12	15	14	41	4.88
20	病態生化学教室	4	13	15	16	44	4.73
21	製剤設計学教室	4	15	15	16	46	4.52
22	薬品製造学教室	2	6	9	13	28	7.14
23	生物分子有機化学教室	3	15	12	17	44	4.48
24	第2英語研究室	1	3	3	1	7	2.86
25	薬学基礎実習教育センター	6	11	9	4	24	7.79
26	実務実習研修センター	1	0	8	8	16	1.13
27	中国医学研究室	2	3	0	0	3	6.00
28	分析化学教室	2	11	12	12	35	5.74
29	薬品化学教室	4	10	10	11	31	6.35
30	生化学教室	2	12	10	12	34	5.79
31	免疫学教室	4	13	11	13	37	5.35
32	衛生化学教室	3	12	13	14	39	5.05
33	薬物送達学教室	4	13	11	15	39	5.05
34	内分泌・神経薬理学教室	4	12	13	15	40	5.00
35	公衆衛生学教室	2	6	8	12	26	7.58
36	漢方資源応用学教室	4	12	12	13	37	5.62
37	分子機能解析学教室	4	13	8	11	32	6.16
38	保健体育研究室	1	3	1	3	7	13.71
39	第3英語研究室	1	3	3	3	9	1.67
40	第4英語研究室	1	4	1	3	8	1.88
41	応用統計学研究室	1	1	3	2	6	2.83
42	医療人間関係学研究室	1	1	1	3	5	3.40
43	薬学教育推進センター	8	8	3	3	14	4.36
44	臨床薬剤学教室	3※	8	8	7	23	3.74
45	医薬品安全管理学教室	2	8	8	9	25	2.72
合　計		137	424	397	464	1,285	5.08

※嘱託教員を含む

［注］　１　卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
　　２　指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
　　３　講座制をとってない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

（基礎資料12）講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室　数	総面積(㎡)（Ａ）	専用・共用の別	収容人員（総数）	利用学生総数（Ｂ）	利用学生１人当たり面積（㎡）（Ａ／Ｂ）	備　考
キャンパス（全学共通）	講義室	43	6,418	専用	5,850	2,680	2.39	
		2	204	共用	158	209	0.98	薬学部（学生数：149） 生命科学部（学生数：55） 大学院薬学研究科（学生数：5）
	演習室	2	291	専用	300	424	0.69	
	学生自習室	5	634	専用	289	1,059	0.60	
		5	2,644	共用	1,706	3,842	0.69	薬学部（学生数：2680） 生命科学部（学生数：952） 大学院薬学研究科（学生数：37） 大学院生命科学研究科（学生数：173）
	実習室	15	2,933	専用	1,120	1,819	1.61	
	模擬薬局・模擬病棟	10	1,592	専用	1,500	424	3.75	

［注］　１　６年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。

２　全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。

３　共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名（学生数）を記載し、「利用学生総数（Ｂ）」欄にもその数を含めて記入してください。

４　「利用学生１人当たり面積」は、小数点第３位を四捨五入し、小数点第２位まで記入してください。

５　例示のように適宜行を追加して作成してください。

（基礎資料13）学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（Ａ）	学生収容 定員数（Ｂ）	収容定員に対する 座席数の割合(%) Ａ／Ｂ＊100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備　考
図書館・情報センター	650	3,616	18.0%	学生会館 学生スペース　PIT	82席	PC　10台	学部　3406 大学院　210
計	650	3,616	18.0%				学部　3406 大学院　210

［注］　１　「学生収容定員（Ｂ）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

２　「備考」欄には学生収容定員（Ｂ）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

３　「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

（基礎資料14）図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数（数）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去３年間の図書受け入れ状況			備　　考
	図書の冊数	開架図書の冊数(内)	内国書	外国書			平23年度	平成24年度	平成25年度	
図書館・情報センター	98175	95048	86	0	1555	11544	2534	2073	1501	
計	98175	95048	86	0	1555	11544	2534	2073	1501	

［注］　１　雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

２　開架図書の冊数（内）は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。

３　視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、ＣＤ・ＬＤ・ＤＶＤ、スライド、映画フィルム、ＣＤ－ＲＯＭ等を含めてください。

４　電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

５　視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　2014/7/1現在教員名簿

学科	教室、研究室	教授		准教授		講師		助教		助手	
医療薬学科	機能形態学教室	124	馬場　広子	271	山口　宜秀	358	林　　明子	433	石橋　智子		
	病原微生物学教室	127	野口　雅久			360	中南　秀将	435	輪島　丈明	527	中瀬　恵亮
	薬物代謝安全性学教室	132	平塚　明	275	小倉　健一郎	363	西山　貴仁	438	大沼　友和		
	薬物動態制御学教室	138	井上　勝央					442	瀧沢　裕輔	530	岸本　久直
	病態生理学教室	141	市田　公美			367	長谷川　弘	444	中村　真希子		
								447	吉岡　亘		
	臨床薬学教室			279	柴崎　浩美			449	横川　彰朋		
	臨床薬理学教室	145	平野　俊彦	282	杉山　健太郎			452	恩田　健二		
								455	田中　祥子		
	臨床薬効解析学教室	147	山田　安彦	285	高柳　理早	371	横山　晴子			532	木村　耕二
	一般用医薬品学教室	159	渡辺　謹三					457	成井　浩二		
	医療実務薬学教室	169	畝﨑　榮	290	竹内　裕紀					535	川口　崇
	総合医療薬学講座			292	山田　純司			462	大友　隆之		
	社会薬学研究室	172	宮本　法子								
	薬学基礎実習教育センター			296	稲葉　二朗			465	高橋　浩司		
	薬学実務実習教育センター	175	井上みち子			376	戸張　裕子				
		178	倉本　敬二			380	別生　伸太郎	469	濱田　真向		
	薬学教育推進センター	180	篠原　佳彦								
	情報教育研究センター	182	土橋　朗							537	倉田　香織
医療薬物薬学科	薬物生体分析学教室	187	渋澤　庸一	301	柳田　顕郎	384	東海林　敦				
	天然医薬品化学教室			305	一柳　幸生			472	蓮田　知代		
	薬化学教室	190	三浦　剛			388	古石　裕治	475	平島　真一	540	中島　康介
	応用生化学教室	194	高木　教夫			391	袁　　博				
						395	林　秀樹				
	分子細胞病態薬理学教室	198	田野中　　浩一							543	丸ノ内　徹郎
										545	永尾　暢子
	病態生化学教室	201	野水　基義	307	吉川　大和	398	保住　建太郎	477	片桐　文彦		
	製剤設計学教室	203	瀬田　康生	311	高島　由季			479	金沢　貴憲	546	茨木　ひさ子
	薬品製造学教室	205	松本　隆司			400	矢内　光			547	山口　悟
	生物分子有機化学教室			316	宮岡　宏明	402	釜池　和大			550	太田　浩一朗
	薬事関係法規研究室	212	安田　一郎								
	第２英語研究室	215	大野　真								
	薬学基礎実習教育センター					405	佐藤　弘人				
						408	今田　啓介				
	中央分析センター							784	佐久間　千勢子	552	深谷　晴彦
	ＲＩ共同実験室										
	薬用植物園									※	小崎　昭則
	薬学実務実習教育センター	217	三溝　和男			412	武井　佐和子				
						414	影山　美穂				
	実務実習研修センター（(ファルマ802)担当）	220	松本　有右								
	薬学教育推進センター			319	横島　智	416	緒方　正裕	786	吉田　君成		
		222	青柳　榮	321	三浦　典子						
	情報教育研究センター			324	小杉　義幸						
	中国医学研究室			326	猪越　英明					554	山田　哲也
	薬局管理学講座										
	和漢薬物学講座	224	山田　陽城								
医療衛生薬学科	分析化学教室	227	袴田　秀樹			417	小谷　明				
	薬品化学教室	231	林　良雄					493	薬師寺　文華		
								495	髙山　健太郎		
								497	田口　晃弘		
	生化学教室	233	佐藤　隆					499	秋元　賀子		
	免疫学教室	237	大野　尚仁	328	安達　禎之			502	石橋　健一		
								505	山中　大輔		
	衛生化学教室			330	早川　磨紀男	421	安藤　堅	506	藤野　智史		
	薬物送達学教室	241	新槇　幸彦	333	根岸　洋一			509	多田　曇		
								511	髙橋　葉子		
	内分泌・神経薬理学教室	244	立川　英一	335	田村　和広			513	吉江　幹浩	556	桑原　直子
	公衆衛生学教室	247	藤原　泰之					517	三木　雄一		
	漢方資源応用学教室	249	三巻　祥浩			426	黒田　明平	520	松尾　侑希子		
						429	横須賀　章人				
	分子機能解析学教室	251	横松　力	340	青山　洋史			523	伊集院　良祐	558	加藤　淳也
	臨床薬剤学教室	253	太田　伸	342	下枝　貞彦			525	田所　弘子		
	医薬品安全管理学教室	256	杉浦　宗敏			431	中島　由紀				
	保健体育研究室	259	與那　正栄								
	第３英語研究室			348	Eric M.Skier						
	第４英語研究室	262	森本　信子								
	応用統計学研究室			353	大河内　広子						
	医療人間関係学研究室	264	土屋　明美								
	薬学基礎実習教育センター			354	本多　秀雄						
				357	土橋　保夫						
	薬学教育推進センター	267	森川　勉								
		269	加藤　哲太								

※　薬用植物園管理専任のためなし。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 機能形態学教室	職名　教授	氏名　馬場　広子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成13年4月 ～現在	毎年２回大学で実施している学生の授業アンケートに基づき、資料を作成し、分かりやすい講義を実施している。
	平成13年4月 ～現在	１年後期基礎生物実習を担当し，講義した内容を実習で確認させている．また，生命の尊厳を学べるよう工夫している．
	平成13年4月 ～現在	卒論生に対して生物系英語の輪読会や原著論文の抄読会を実施し，実践的な英語に触れる機会を多くつくっている．中間発表会や卒論発表会や教室内のゼミを通してパワーポイント等による発表の仕方を指導している．また，６年制卒論生には卒業論文作成指導も行っている．
	平成21年～現在	２年生のゼミナールで，神経系の疾患への興味や組織学への理解を高めるためにテーマを工夫して実施している．
２　作成した教科書、教材、参考書	平成17年5月 ～現在	本学の機能形態学講義内容に出来るだけ則した内容で「新しい機能形態学-ヒトの成り立ちとその働き」を作製・編集し（編者他２名、廣川書店）、教科書として用いている。現在第２版。 講義資料としてパワーポイントの図および演習問題を加えた教材を学生用に毎年作製している。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		
FD研修会	平成21年～現在	大学が実施している FD 活動（講義・講演会）に毎年参加している。
	平成26年2月	CITI Japan e-learning プログラム受講
OSCE	平成21年～現在	毎年OSCE評価者を行っている。
実務実習	平成21年～現在	実務実習の中間評価および最終評価を実習先と共に実施。実務実習中の院内発表会に参加し、討論に加わっている。実習終了後に大学で実施する発表会に対する実習生指導を行っている．
動物講習会	平成21年～現	学生および教員の動物実験および施設利用に対

高校模擬講義	在 平成21年以前 ～現在	する講習会で講師を務めている。 薬学進学希望者を対象に高校で模擬講義を行い、薬学の内容と共に薬学生としての心構えを伝えている。	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） PLD4 is involved in phagocytosis of microglia: expression and localization changes of PLD4 are correlated with activation state of microglia.	共著	平成23年11月	PLoS One. 6:e27544.
（論文）L-MPZ, a novel isoform of myelin P0, is produced by stop codon readthrough.	共著	平成24年5月	J Biol Chem. 287:17765-17776.
（論文） Sulfatide decrease in myelin influences formation of the paranodal axo-glial junction and conduction velocity in the sciatic nerve.	共著	平成25年4月	Glia. 61:466-474.
（論文） Unconventional myosin 1D is expressed in myelinating Oligodendrocytes.	共著	平成26年10月	J Neurosci Res 92:1286-1294.
（論文）Disruption of paranodal axo-glial interaction and/or absence of sulfatide causes irregular type I inositol 1,4,5-trisphosphate receptor deposition in cerebellar Purkinje neuron axons.	共著	平成27年1月	J Neurosci Res 93:19-27.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Myosin 1D はオリゴデンドロサイトのミエリン形成に重要な役割をしている		平成26年9月	第57回日本神経化学会年会
（演題名）発達段階の脳白質において活性化ミクログリアに発現する PLD4 の機能解析		平成27年3月	第135回日本薬学会年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成21年～現在	日本神経化学会評議員		
平成21年～現在	日本薬理学会学術評議員、代議員		
平成24年～現在	日本神経化学会ダイバーシティ推進委員会委員長		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病原微生物学	職名　教授	氏名　野口　雅久

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年～平成25年	微生物学 II（2 年次前期必修）：薬学領域に関連する微生物について講義。微生物は肉眼で見えないため、パワーポイントを用いて見える講義を心がけた。独自にまとめた補助資料を WebClass を介して internet で配布。定期試験対策の問題集も WebClass から配布。平成 25 年度の評価は標準よりも高かく、好評であった。
	平成23年～現在	病原微生物学（3 年前期必修）：感染症の原因微生物について、微生物学的特徴、病原性、感染予防さらに抗菌薬の基礎について解説。他の講義はパワーポイントを用いているため、本講義は、教科書を中心に行っている。平成 26 年度の学生の評価は良好であった。
	平成21年～現在	薬物治療 VII（3 年後期必修）：化学療法学（がんと感染症）における感染症領域を担当。臓器別に感染症の特徴と病原体及びその化学療法について、パワーポイントで講義。学生からのアンケート評価は積極的に受け入れ、講義の改善を行っている。学生の評価は標準より高かった。しかし、一部難しいという意見もあったので、来年度は図表を増やし、改善する考えである。
	平成25年～現在	病原微生物学特論・ゲノム情報特論（選択専門科目 II）：感染症を含めた医療は常に変化している。4～6 年生では感染症に関する講義が行われないため、2 年間のギャップを埋めるための特論講義である。復習を含め最新の感染症情報、さらに予防接種などの改訂された法律を講義する。3 年生までに学んだ講義に新薬や改訂法規加え、要約した資料を配布し、パワーポイントで講義。学生からは好評であった
	平成21年～現在	2 年微生物実習：微生物を知るため、身近な手指付着菌、学校薬剤師のとしての微生物汚染評価、抗菌薬の評価、抗菌薬の作用を実習。臨床を意識した実習内容に、毎年、少しずつ改善している。平成 25 年度から、実習の態度及び到達度評価を

		加えている。来年度は、実習最後に振り返りの講義を導入し、さらに理解度の向上に努める予定である。
	平成21年～現在	科別英語特論(4年必修):屋根瓦方式を取り入れ、教員の指導の下、5 年生が司会・進行を行うゼミ形式の感染症・抗菌薬・病原微生物に関する英語の輪読講義を行っている。使用する英語論文は、5 年生と教員が選び、読解だけでなく、内容の講義も行っている。
	平成24年～現在	薬物治療学（博士課程選択）:薬学研究科博士課程における薬物治療学領域の感染症・化学療法学を担当。パワーポイントで主要かつ最新の感染症とその化学療法及び感染制御を講義。
２　作成した教科書、教材、参考書		
	平成21年	・最新 薬の効き方（愛智出版）共著
	平成25年	・薬科微生物学　第6版（丸善）共著
	平成18年～現在	・微生物学II：パワーポイントのスライド資料講義補助プリント及び練習問題 ・薬物治療VII：パワーポイントのスライド資料講義補助プリント及び練習問題 ・病原微生物学：パワーポイントのスライド資料講義補助プリント及び練習問題 ・病原微生物学特論：パワーポイントのスライド資料、要約資料 ・微生物実習書及びプリント
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年3月	6 年制薬学生の感染制御部におけるアドバンス実習（日本薬学会 第134年会）
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成21年～平成24年	大学院医療薬専攻病院実習指導（東京医科大学、国家公務員共済虎の門病院）医局での病院実習のフォロー的指導
	平成21年～現在	実務実習訪問指導（病院担当）:学部学生の病院実務実習の訪問指導
	平成21年～現在	教務委員
	平成21年～現在	ゼミナール実施委員
	平成25年～現在	教務主任、
	平成25年～現在	卒試委員会委員長、国試対策委員
	平成25年～現	薬学部FD委員会委員

	在 平成25年～現在 平成25年8月 平成25年9月 平成 25 年 10 月 平成 26 年 10 月 平成24年～現在 平成26年2月～現在 平成26年～現在 平成 26 年 12 月	 国際交流センター委員会委員 平成２５年度文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップに出席 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂案全国説明会に出席 公益社団法人日本薬学会主催第3回薬学教育者のためのアドバンストワークショップに出席 大学教務部課長相当者研修会に出席 実務実習評価委員会委員長 CITI Japan e-learning プログラム受講 薬学教育モデルコアカリキュラム改訂のための委員会委員および改訂カリキュラム実施委員会委員長 「英国ケンブリッジ大学の学識、教育および研究」本学FDセミナー　参加	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Analysis of clarithromycin resistance and CagA Status in *Helicobacter pylori* by use of feces from children in Thailand	共著	平成22年12月	J. Clin. Microbiol., 47, 4144-4145
（論文）Fluoroquinolone Efflux by the Plasmid-Mediated Multidrug Efflux Pump QacB Variant, QacBIII, in *Staphylococcus aureus.*	共著	平成23年10月	Antimicrob. Agetns Chemother., 54, 4107-4111
（論文）Clinical and bacteriological evaluation of adapalene 0.1% gel plus nadifloxacin 1% cream versus adapalene 0.1% gel in patients with acne vulgaris.	共著	平成24年1月	J. Dermatol. 40, 1-6
（論文）Fluoroquinolone-resistance in *H. pylori:* Role of mutations at position 87 and 91 of GyrA on the level of resistance and	共著	平成24 年1月	Helicobactor, 17, 36-42

identification of a resistance conferring mutation in GyrB.			
（論文） Characterization of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* isolated tertiary care hospitals in Tokyo	共著	平成 26 年 8 月	J. Infect. Chemother., 20(8) 512-515
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）痤瘡より分離される薬剤耐性菌の特徴		平成 26 年 5 月	第 113 回日本皮膚科学会総会
（演題名）痤瘡患者から分離される薬剤耐性菌の現状と対策		平成 26 年 5 月	第 113 回日本皮膚科学会総会
（演題名）2009 年から 2011 年に分離された MRSA の抗 MRSA 薬感受性		平成 26 年 6 月	第 62 回日本化学療法学会総会
（演題名）MRSA の SCC*mec* type と薬剤感受性の年次推移（優秀演題賞受賞）		平成 26 年 7 月	第 5 回 MRSA フォーラム
（演題名）2007 年から 2012 年における BLNAR の抗菌薬感受性の変化と新規変異獲得株の出現		平成 26 年 9 月	第 26 回微生物シンポジウム
（演題名）メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の薬剤感受性の変化－病院内に拡大する市中型 MRSA－		平成 26 年 9 月	第 26 回微生物シンポジウム
（演題名）循環浴槽水中のレジオネラ属菌に対する塩素と熱の有効性の検討		平成 26 年 9 月	日本防菌防黴学会第 41 回年次大会
（演題名）Rapid Changes in Serotype and Antimicrobial Resistant Profile of Penicillin-nonsusceptible Pneumococci by Introduction of PCV7		平成 26 年 10 月	International Conference on Antimicrobial Research 2014
（演題名）Trend of bacteria isolated from patients with acne vulgaris in a Japanese university hospital		平成 26 年 10 月	International Conference on Antimicrobial Research 2014
（演題名）*Propionibacterium acnes* の新規キノロン低感受性機構の解析		平成 26 年 10 月	第 61 回日本化学療法学会東日本支部大会
（演題名）アクネ菌のクリンダマイシン耐性を理解する。（現状と対策）		平成 27 年 2 月	第 78 回日本皮膚科学会東京支部学術大会
（演題名）クラリスロマイシン低感受性 BLNAR 株の出現と低感受性化機構の解析		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の多剤排出遺伝子 *qacB* の推移と薬剤感受性の関連性		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）基質拡張型βラクタマーゼ（ESBL）産生菌の動向と遺伝学的特徴		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）健常者およびニキビ患者由来皮膚細菌の薬剤感受性の比較		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）市中感染型メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の大規模疫学調査		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

（演題名）SCC*mec* type IV をもつメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の院内における流行	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）7 価肺炎球菌結合型ワクチンの市販後における肺炎球菌の莢膜型の変化と薬剤感受性	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）臨床分離 *Haemophilus influenz*ae の薬剤感受性と細胞侵入能	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）銀翹解毒丸製剤の抗菌活性の検討	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 12 年 4 月～現在	東京医科大学八王子医療センター感染症対策委員会委員
平成 18 年 4 月～現在	日本細菌学会評議員
平成 16 年 4 月～現在	日本化学療法学会評議員
平成 19 年 4 月～現在	西多摩感染制御フォーラム世話人
平成 21 年 4 月～現在	CBT 問題精選・管理委員
平成 23 年 4 月～現在	東京都病院薬剤師会感染専門薬剤師認定委員会顧問
平成 25 年 3 月	狛江市市民講座の講師として講演
平成 26 年 5 月 & 11 月	東京都病院薬剤師会感染専門薬剤師認定講習会講師としてグラム染色法の講演及び指導

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物代謝安全性学教室	職名　教授	氏名　平塚　明

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年～現在	化学物質と生体影響（後期・3年次必修） コアカリキュラム C12(1)、C13(4)について講義した。講義で必要な写真や複雑な図などを除いて、講義ノートの作成の充実の為に可能な限り板書スタイルを踏襲した。講義に対する評価は、「専門家として信頼できる」が最も高く、ついで「学習意欲が湧く」、「十分な準備と熱意」、「授業目標が明確」が高かった。概ね良好な評価が得られたと思う。
	平成21年～現在	健康と環境 II（前期・4年次必修、医療薬学科） コアカリキュラム C12(1)、C13(4)について講義した。講義で必要な写真や複雑な図などを除いて、講義ノートの作成の充実の為に可能な限り板書スタイルを踏襲した。この講義の関連科目として3年次必修科目「化学物質と生体影響」がある。同科目の講義は、男子部ABとCDの2クラスおよび女子部EFとGHの２クラスで実施され、小職の担当は男子部2クラスである。4年次科目である「健康と環境 II」は 4 年次分科後の学科別クラスの男女混合で行われる。当該学科に配属された女子学生ならびに男子学生に対し、既に3年後期に履修した当該関連科目である「化学物質と生体影響」の重要ポイントの理解度チェックを兼ね 8 回の確認小テストを授業終了前に実施している。これによって当該科目の理解度の向上が期待される。尚、正答率が 50%以下の設問については、次回の講義で 10 分程度時間を割き、教科書の該当ページを指示するとともに、パワーポイントを使って解説を行っている。確認小テストならびにその解説および講義に対する評価は概ね良好であった。
	平成21年～現在	健康・環境ゼミナール（前期・3年次選択） 「医薬品や化学物質による中毒事件を検証しよう」という統一テーマに従って、具体的な中毒事件をグループごとに設定し、その設定された内容

		について情報収集、自由討議（スモールグループディスカッション（SGD））を行い、その SGD の内容と成果についてグループごとに発表した。各グループの成果発表に基づき全体で総合討論を行なった。尚、成果発表は、発表時間 10 分、質疑応答 5 分で行った。また、調査内容の報告書（A4 版、5 頁以内、図・表含む）を一週間以内に各自提出することを義務づけた。参考資料プリント、発表会用のプログラムと発表要旨を準備し配布した。学生の主体性に任せたゼミナールであった事に対する評価が高かった。また、統一テーマに対する満足度も高かった。
２　作成した教科書、教材、参考書		
１）最新衛生薬学（第 3 版）（別府正敏、平塚　明　編）、廣川書店、東京、2010, pp. 243-406.	平成 22 年 2 月	本書の編集ならびに第 4 章「化学物質の生体影響」（A. 化学物質の代謝・活性化、B. 化学物質による発癌、C. 化学物質の毒性、D. 化学物質による中毒と処置、E. 薬毒物中毒と薬毒物検出法）を分担執筆した。
２）医療薬物代謝学（鎌滝哲也、高橋和彦、山崎浩史　編）、みみずく舎、東京、2010, pp. 42-45, pp. 60-63, pp. 117-120, pp. 157-160.	平成 22 年 2 月	第 2 章「薬物代謝の基礎」、2.2 薬物代謝に関与する酵素系の 2.2.2 C. エポキシド水解酵素、2.2.3 C グルタチオン S-転移酵素、第 3 章「薬物代謝の医療における意義」、3.1 くすりの体内動態と薬効の変化（1）の 3.1.2 d. ジヒドロピリミジン脱水素酵素、第 4 章「薬物代謝の毒性学的な側面」、4.2 くすりの毒性と薬物代謝の 4.2.2 シトクロム P-450 とくすりの作用を変動させる食品成分-臨床的意義と実例、4.2.3 その他のくすりの毒性と薬物代謝について分担執筆した。
３）スタンダード薬学シリーズ 5、健康と環境（第 2 版）（日本薬学会編）、東京化学同人、東京、2012, pp. 274-278.	平成 24 年 1 月	SBO 57「第 II 相反応がかかわる代謝、代謝的活性化について概説できる」について分担執筆した。
４）衛生薬学ー健康と環境ー（第 5 版）（永沼　章、姫野誠一郎、平塚　明　編）、丸善、東京、2013, pp. 362-372.	平成 25 年 3 月	本書の編集ならびに第 9 章「化学物質の毒性」の 9.1.4 異物代謝の機構の中の b. 第 II 相反応について分担執筆した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし

４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		
第 2 回東京薬科大学　病院・薬局薬剤師研修会	平成 21 年 5 月 24 日	本年度 5 月から実施される病院・薬局実務実習施設の指導薬剤師を対象に行なう 1 日間の研修会。本研修会のディレクターとして参加。
第 1 回東京薬科大学　学内認定実務実習指導薬剤師ワークショップ	平成 21 年 10 月 11,12 日	本年度 5 月から実施される病院・薬局実務実習施設の指導薬剤師及び当該施設の担当のコーディネーターを対象に、実務実習施設指導薬剤師及び本学担当教員養成プログラムとして 2 日間のワークショップを実施。本ワークショップのディレクターとして参加。
第 2 回東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップ	平成 21 年 12 月 11,12 日	同　上
第 3 回東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 22 年 7 月 10,11 日	同　上
第 4 回東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 23 年 1 月 22,23 日	同　上
OBE とパフォーマンス評価	平成 25 年 11 月 27 日	研修内容は OBE（学習成果基盤型教育）とパフォーマンス評価について、OBE とは？、OBE に着目する理由について、そして OBE の学習者が学習したことを実行する能力（パフォーマンス）を測定して評価するパフォーマンス評価、そしてルーブリックを用いた学習者のパフォーマンス評価法などについて学んだ。
学生相談講演会	平成 26 年 2 月 26 日	北里大学薬学部薬学教育研究センター医療心理学部門准教授の有田悦子先生による学生相談講演会。講演のテーマは「薬学系大学における学生相談　過去-現在-未来」であった。
薬学部ミニ FD 研修会	平成 26 年 3 月 17 日	研修テーマは「SGD 教育入門」で主に岐阜大学医学部で行われている PBLT のビデオ映像を通して、PBLT の利点と欠点について紹介された。また、「ふりかえり」と学習について学んだ。
FD 講演会	平成 26 年 3 月 17 日	東京医科大学化学教室教授で東京医大の授業内容改善 WG 座長を長年に亘って務めてこられた荒

		井貞夫先生によるFD講演会。講演のテーマは「学生が期待する良い授業とは」であった。	
薬系大学での医療人教育の現状と将来	平成26年3月18日	岐阜大学医学教育研究開発センター教授の藤崎和彦先生による教職員セミナー。講演タイトルは「薬系大学での医療人教育の現状と将来」	
CITI Japan e-learningプログラム 受講	平成26年3月	文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」で採択された-研究者育成の為の行動規範教育の標準化と教育システムの全国展開-の為のプロジェクトで、このプログラムのうち、責任ある研究行為：基礎編、Stage 1、人を対象とした研究：基礎編、Stage 1を受講した。	
Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Induction of antioxidant and phase 2 drug-metabolizing enzymes by falcarindiol isolated from *Notopterygium incisum* extract, which activates the Nrf2/ARE pathway, leads to cytoprotection against oxidative and electrophilic stress.	共著	平成21年8月	Arch Biochem Biophys, 488, pp. 34-41
（論文）Cooperation of NAD(P)H:quinone oxidoreductase 1 and UDP-glucuronosyltransferases reduces menadione cytotoxicity in HEK293 cells.	共著	平成22年4月	Biochem Biophys Res Commun, 394, pp. 459-463
（論文）Activation of the Nrf2/ARE pathway via S-alkylation of cysteine 151 in the chemopreventive agent-sensor Keap1 protein by falcarindiol, a conjugated diacetylene compound.	共著	平成22年4月	Toxicol Appl Pharmacol, 244, pp. 27-36
（論文）Enhanced sensitivity of A549 cells to the cytotoxic action of anticancer drugs via suppression of Nrf2 by procyanidines from *Cinnamomi Cortex* extract.	共著	平成23年10月	Biochem Biophys Res Commun, 413, pp. 623-629
（論文）Tissue distributions of 4-(hydroxymethyl- nitoro- samino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone glucuronide, a stable form of reactive intermediate	共著	平成26年4月	J Toxicol Sci, 39, pp. 263-267

produced from 4-methylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone, in the rat.			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Magnoliae Cortex extracts induce drug-metabolizing enzyme activity in PC12 cells		平成 26 年 5 月	The 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress
（演題名）メナジオンの解毒代謝反応と *UDP*-glucuronosyltransferase の *C*-末端アミノ酸領域		平成 26 年 7 月	第 41 回日本毒性学会学術年会
（演題名）マウス尿中における 4-(methylnitrosamino)-1- (3-pyridyl)- 1-butanone (NNK)の代謝物とグルクロン酸抱合体		平成 26 年 7 月	第 41 回日本毒性学会学術年会
（演題名）がん予防および抗がん剤治療における異物代謝酵素を制御するNrf2の誘導剤および阻害剤としての生薬エキス		平成 26 年 7 月	第 41 回日本毒性学会学術年会
（演題名）Metabolic activation of Nevirapine and inactivation of its active metabolite by glutathione conjugation		平成 26 年 10 月	19th North American ISSX Meeting/29th JSSX Meeting
（演題名）タモキシフェン耐性MCF-7細胞における細胞増殖調節因子の発現変動		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）UDP-glucuronosyltransferase分子種とC-末端アミノ酸残基欠失変異体の共発現		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）A549細胞における過剰発現転写因子Nrf2を抑制する桂皮エキス		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 6 年 4 月～現在	HAB 協議会評議委員		
平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月	厚生労働省残留農薬安全性評価委員		
平成 15 年 4 月～現在	日本薬物動態学会評議員		
平成 15 年 10 月～平成 24 年 3 月	内閣府食品安全委員会農薬専門調査会専門委員		
平成 20 年 4 月～現在	環境省非食用農作物専用農薬安全性評価検討会委員		
平成 21 年 12 月～平成 23 年 3 月	厚生労働省医道審議会専門委員（薬剤師分科会）		
平成 21 年 1 月～現在	厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員		
平成 22 年 9 月～現在	「農薬の大気経由による影響評価事業」農薬吸入毒性評価部会委員		
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	平成 24 年度 JICA 集団研修「薬事行政運営委員会」委員		
平成 25 年 4 月～現在	日本薬学会代議員／関東支部幹事		
平成 25 年 4 月～現在	薬学教育協議会参与		
平成 26 年 4 月～現在	平成 26 年度 JICA 集団研修「薬事行政運営委員会」委員		
平成 26 年 4 月～現在	内閣府食品安全委員会農薬専門調査会専門委員		
平成 26 年 6 月	3rd AASP Pharmacy Deans Forum 組織委員		

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物動態制御学	職名　教授	氏名　井上　勝央

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 25 年 4 月 ～現在	講義では、視覚的な理解を促すために、図表を中心としたパワーポイント資料を提示し、同じ内容の印刷資料を事前に配付している。講義方法については、概念的な内容であれば、関連する身近な物や現象を例に挙げながら解説し、具体例については最近の研究領域での話題と関付けながら示すなど、学生の学習意欲を高める工夫を行っている。また、前々・前年度の定期試験の問題を配付することで学生の能動的な学習を促している。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 25 年 4 月 ～現在	講義用資料（プリント）作製
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 4 月 ～現在 平成 26 年 1 月 ～現在	入職時 FD ワークショップ（4/6/2013、東京薬科大学）、第 11 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（9/15-16/2013、横浜）及び第 4 回薬学教育者のアドバンストワークショップ（11/22-24/2014、大阪）に参加し、FD や薬学・薬剤師教育に関する見識を高め、それらを授業改善に取り入れている。 CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Evaluation of 4', 6-diamidino-2- phenylindole as a fluorescent probe substrate for rapid assays of the functionality of human multidrug and toxin extrusion proteins.	共著	平成 22 年 1 月	Drug Metab. Dispos., 38(4), 715-721.
（論文）Identification and functional characterization of the first nucleobase transporter	共著	平成 22 年 2 月	J. Biol. Chem., 285(9), 6522-6531.

in mammals.			
（論文）Molecular basis for pharmacokinetics and pharmacodynamics of methotrexate in rheumatoid arthritis therapy.	共著	平成 25 年 11 月	Drug Metab. Pharmacokinet., 29(1), 12-19.
（論文）Transcriptional regulation of PCFT by KLF4, HNF4α, CDX2 and C/EBPα: implication in its site-specific expression in the small intestine.	共著	平成 25 年 2 月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 431(2), 158-163.
（論文）Molecular identification and functional characterization of the human colonic thiamine pyrophosphate transporter.	共著	平成 26 年 2 月	J. Biol. Chem., 289(7), 4405-4416.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）薬物の小腸粘膜透過性に対する各種医薬品添加剤の影響		平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 回年会
（演題名）蛍光基質を用いた OATP2B1 の迅速機能評価		平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 回年会
（演題名）atenolol の腸管吸収に関わるトランスポーターの同定とフルーツジュース成分の影響		平成 26 年 6 月	第 9 回トランスポーター研究会年会
（演題名）新規促進拡散型核酸塩基トランスポーターの機能解析：核酸代謝酵素との機能的協働（優秀発表賞）		平成 26 年 6 月	第 9 回トランスポーター研究会年会
（演題名）PCFT に対する myricetin の持続性阻害効果：MDCKII 細胞安定発現系での解析		平成 26 年 6 月	第 9 回トランスポーター研究会年会
（演題名）Changes in drug absorption by pharmaceutical excipients in rat small intestine.		平成 26 年 10 月	19th North American ISSX/ 29th JSSX Meeting
（演題名）核酸塩基利用における核酸塩基トランスポーターENBT1 と核酸代謝酵素との協働的効果		平成 26 年 11 月	第 36 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム
（演題名）ラット腎リソソームにおける新規 folate 輸送担体の機能解析		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）HEK293 細胞で働く配糖体トランスポーターの機能特性：配糖体モデル分子としての 4-MU-glu 輸送の解析		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）RFVT3 に対する myricetin の効果		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 23 年 11 月～現在	日本薬物動態学会評議員
平成 25 年 3 月～平成 26 年 2 月	Drug Metabolism and Pharmacokinetics 誌 Guest Editor
平成 26 年 6 月	第 9 回トランスポーター研究会年会を主催

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病態生理学教室	職名　教授	氏名　市田　公美

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成23年4月より現在	最新の医療情報をプリントとして、配布する。教科書とプリントの両者を勉強する必要ができることから、学生なりに整理、まとめることを即している。この方が、講義内容を全てプリントとして配布していた時より、成績が上がっている。	
２　作成した教科書、教材、参考書	平成21年3月	薬学生のための新臨床医学、廣川書店（共同編集、執筆含む）	
	平成２４年4月	疾病と病態生理 改訂第3版、南江堂(共同編集、執筆含む)	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	OSCE 平成26年3月	OSCE 実施委員会に所属し、OSCE の円滑な実施に努力すると共に、毎年OSCE評価者を行っている。 CITI Japan e-learning プログラム受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Common defects of ABCG2, a high-capacity urate exporter, cause gout: a function-based genetic analysis in a Japanese population.	共著	平成21年4月	Sci Transl Med 1:5ra11
（論文)Decreased extra-renal urate excretion is a common cause of hyperuricemia.	共著	平成24年4月	Nat Commun 3:764
（論文）Common dysfunctional variants in ABCG2 are a major cause of early-onset gout.	共著	平成25年6月	Sci Rep 3:2014
（論文） ABCG2 dysfunction causes hyperuricemia due to both renal urate underexcretion and renal urate overload.	共著	平成26年1月	Sci Rep 4:3755
（論文）Common dysfunctional variants of ABCG2 have stronger	共著	平成26年6月	Sci Rep 4:5227

impact on hyperuricemia progression than typical environmental risk factors.			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Construction of fluorescent uricase fusion protein for characterization of urate transporters		平成 26 年 4 月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress
Hereditary renal hypouricemia causing by defect in URAT1: a new insight into molecular pathology		平成 26 年 5 月	The European Society of Human Genetics Conference 2014
Plasma kinetics of D-serine in rats		平成 26 年 9 月	The 2nd International Conference of D-Amino Acid Research
Gout and hyperuricemia in terms of urate transporter disease		平成 27 年 2 月	Hyperuricemia and Cardio-Kidney Disease Forum 2015 in Okinawa
新規遺伝子変異を同定し得た xanthine 尿症 1 型の 1 例		平成 26 年 5 月	第 110 回日本内科学会中国地方会例会
新規融合タンパク質プロ―ブによる尿酸トランスポーター評価法の開発		平成 26 年 6 月	第 9 回トランスポーター研究会年会
LC-MS/MS を用いた赤血球中 5-ホスホリボシルピロリン酸測定法の開発とヒポキサンチン-グアニンホスホリボシルトランスフェラーゼ活性欠損症フェノタイピングへの応用		平成 26 年 8 月	第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS2014）
Lesch-Nyhan 病に伴う脳内 ZMP の増加と神経症状の関連性に対する検討		平成 26 年 10 月	第 131 回成医会総会
ワークショップ 2　尿酸代謝の new frontier　尿酸異常症の病態		平成 26 年 10 月	第 44 回日本腎臓学会東部学術大会
ラットにおける D - セリンの血漿中動態		平成 26 年 11 月	日本アミノ酸学会第 8 回学術大会
尿酸排泄輸送体 ABCG2 遺伝子の機能低下型変異は腎排泄低下型と腎負荷型高尿酸血症の両方の原因となる		平成 26 年 11 月	日本遺伝子診療学会第 21 回大会
高尿酸血症の発症において ABCG2 遺伝子変異による影響は生活習慣より強い		平成 26 年 11 月	日本遺伝子診療学会第 21 回大会
脳内 ZMP 増加のもたらす AMPK 活性化と神経症状発現の関連性に関する検討		平成 26 年 11 月	第 37 回日本分子生物学会年会
ウリカーゼ融合タンパク質による尿酸トランスポーター阻害薬スクリーニング法の開発		平成 26 年 11 月	第 37 回日本分子生物学会年会
関節痛を呈し新規遺伝子変異を同定し得た xanthine 尿症 1 型の一例		平成 26 年 11 月	第 24 回臨床内分泌代謝 Update
尿酸トランスポーターの機能不全に伴う血清尿酸値の低下は血管内皮機能異常をきたす		平成 26 年 12 月	第 105 回日本循環器学会中国地方会

腎性低尿酸血症	平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
ABCG2 トランスポーターの機能低下は末期腎不全のリスク因子	平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
ABCG2 機能低下は尿酸の腎排泄及び腎外排泄の低下により高尿酸血症を引き起こす	平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
高尿酸血症の発症における生活習慣と ABCG2 遺伝子の影響力の比較	平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
腎尿酸排泄輸送体遺伝子 NPT1/SLC17A1 の機能獲得型変異は痛風発症に保護的に働く	平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
尿酸による心房筋の電気的リモデリングの分子機構	平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
腹部超音波検査で診断された痛風腎症例の特徴と ABCG2 遺伝子変異	平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
腎性低尿酸血症ガイドライン策定について（第 1 報）	平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
アロプリノール負荷試験によるキサンチン尿症のタイプ分類	平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
尿酸トランスポーターURAT1 遺伝子重複変異モデルにおける尿酸輸送活性及び URAT1 発現局在の検討	平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
痛風・尿酸代謝研究　最近の進歩：From Bench to Bedside　腎外排泄低下型高尿酸血症	平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会
尿酸トランスポーターURAT1 遺伝子の重複変異を持つ低尿酸血症例における URAT1 機能評価	平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

昭和 63 年 4 月～現在	日本内科学会認定内科医
平成 2 年 4 月～現在	日本リウマチ財団登録医
平成 6 年 4 月～現在	日本腎臓学会専門医
平成 7 年 4 月～現在	日本腎臓学会指導医
平成 19 年 3 月～現在	日本リウマチ学会指導医
平成 19 年 7 月～平成 25 年 6 月	東京慈恵会医科大学非常勤講師
平成 19 年 7 月～現在	トランスポーター研究会　顧問
平成 20 年 2 月～現在	日本痛風・核酸代謝学会　理事
平成 21 年 4 月～平成 27 年 3 月	学会誌 痛風と核酸代謝　編集委員
平成 23 年 2 月～平成 25 年 6 月	The Purine and Pyrimidine Society　Co-President
平成 23 年 4 月～現在	日本腎臓学会　評議員
平成 24 年 4 月～現在	日本痛風・核酸代謝学会認定痛風医
平成 25 年 7 月～現在	東京慈恵会医科大学客員教授

平成 25 年 7 月～現在	東京慈恵会医科大学慢性腎臓病治療学講座兼任

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬理学教室	職名　教授	氏名　平野　俊彦

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年～現在	3 年後期必修科目である「疾病と薬物治療 V」では、パワーポイントを使わず、板書にて丁寧に説明する授業形式をとっている。講義で使用する教科書は、平易な文体で書かれ図表を多く取り入れた自作のもの（共著）を用いている。同じ講義を4 回行うため、授業クラス間で講義内容に差が生じないよう板書文を詳細に記録したメモを用いるなどの工夫を施している。毎年学生に対し授業アンケートを行っており、「講義が分かりやすい、内容に興味が持てる、教科書が適切である」、等の評価を受けている。いずれの年度においても、以上の教授方法により、90%以上の学生が再試験の必要なく 1 回の総括試験に合格し、単位を取得している。ここ 5 年間の再履修者は、全履修者の１%未満である。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成25年2月	薬学生のための分かりやすい病態生理と薬物治療（平野俊彦ら共著 TMS 社）初版、第 2 版
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成23、24年 平成26年3月～現在	東京薬科大学学内認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにおけるタスクフォース CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）イラストでみる疾病の成り立ちと薬物治療	共著	平成24年3月	医学評論社
（論文） Contribution of aquaporin 9 and multidrug resistance-associated protein 2 to differential sensitivity to arsenite between primary cultured chorion and amnion cells prepared	共著	平成22年9月	Toxicol Appl Pharmacol 257: 198-208

from human fetal membranes.			
（論文） Comparative study of the cellular pharmacodynamics of tacrolimus in renal transplant recipients treated with and without basiliximab.	共著	平成 23 年 2 月	Cell Transplant. 21: 565-570
（論文） Exosomes derived from hypoxic leukemia cells enhance tube formation in endothelial cells.	共著	平成 24 年 10 月	J Biol Chem 288: 34343-34351.
（論文） Effects of vitamin K_3 and K_5 on proliferation, cytokine production, and regulatory T cell-frequency in human peripheral-blood mononuclear cells.	共著	平成 25 年 2 月	Life Sci 99;61-68
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Clinical implication of oxidized LDL in frequent-relapse minimal change nephrotic syndrome patients		2014 年 4 月	5th Pharmaceutical Science World Congress
（演題名）末梢血単核細胞のプレドニゾロン感受性に及ぼすインスリンの影響		2014 年 5 月	第 100 回新都心血液研究会
（演題名）透析患者と慢性腎不全患者の末梢血単核細胞における ATP 量のステージ間比較		2014 年 6 月	第 91 回東京医科大学・東京薬科大学免疫アレルギー研究会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 12 年 1 月～現在	Arzneim-Forsch/Drug Res 誌 Editorial Consultant		
平成 12 年 11 月～現在	日本臨床薬理学会評議員		
平成 19 年 9 月～現在	日本臓器保存生物医学会理事		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬効解析学教室	職名　教授	氏名　山田　安彦

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成17年～平成21年	薬学入門（1年次前期必修）: 病院薬剤師の職務、臨床研究、患者情報の取扱、医療薬学科の紹介等の内容にて講義した。学生アンケートより、臨床研究・教育の状況が良く理解されている。
	平成17年～現在	薬学入門演習Ⅰ（1年次前期必修）: 医療従事者の社会における活動状況と責務の概略を知るために、卒業生の活躍する職場を訪問し、その体験に基づくグループ討議を行う。さらに、早期体験実習を行ったグループ毎に、その体験内容について、ポスター作成し、ポスター発表を行う。また、代表グループによる口頭発表会も開催する。本演習の委員長（全体責任者）を務め、コーディネートを含め、円滑に実施できるようシステム化した。
	平成17年～現在	薬学入門演習Ⅰ　SGD（1年次前期必修）: SGDにより、薬剤師の社会的立場について学び、学習意欲を高めることをねらいとしている。早期体験実習前後にSGDを3回実施した。成果となるプロダクトを作成することにより、意識変化を学生自身が認識できる内容となっている。SGDにより、グループ内でより良い人間関係が築けていると思われた。
	平成17年～現在	医療情報（3年次前期必修）: 薬物治療に役立つ情報として、医薬品情報、患者情報について授業を行っている。自ら作成した著書を教科書として用い、講義に用いる医薬品や資料等は実物を用意し、実物プロジェクターを用いて臨場感が得られるよう工夫した。
	平成16年～現在	疾病と薬物治療Ⅶ（3年次後期必修）: 悪性腫瘍の病態と治療、抗悪性腫瘍薬、抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用について講義を行っている。自ら作成した著書を教科書として用いている。抗悪性腫瘍薬の開発は近年目覚ましく、新薬が次々と開発され上市されている。そのため、最新情報

		に基づいた講義を行えるよう、各講義において補足資料を作成し、配布した。また、症例、臨床での重要事項、根拠となるデータを示し、学生の理解を助けるよう工夫した。さらに、授業で用いた資料は、WebClass に掲載し、学生の復習に役立てた。
	平成 24 年～現在	調剤学（3 年次後期必修）: 薬物投与設計の理論（用法・用量、副作用、相互作用)、処方鑑査と服薬指導の理論について授業を行っている。自ら作成した著書を教科書として用いている。本講義では、調剤学に関して、理論的に習得できるよう工夫した。
	平成 23 年～現在	臨床薬理特論（6 年次前期選択）: ヒトを対象とした薬力学および薬物動態学を基盤とする臨床薬理学的な知識と応用力を修得するため、例題を適宜入れ、学生参加型の授業を行っている。
	平成 18 年～現在	医療情報実習（3 年次後期必修）: 医薬品の比較・評価、患者情報の収集と評価、臨床研究デザインと解析・EBM の内容にて実習を行っている。実習方法は、テキストおよびパワーポイントを用いた説明、個人作業、SGD、発表、解説をワンステップずつ行っている。また、学生の学習意欲および学習効果向上のため、教員が薬剤師、患者、さらに医師（役）となり、デモンストレーションを行うことにより、医薬品情報および患者情報をデモンストレーションから収集する実習を行っている。学生からは高い評価を得ている。
	平成 21 年～現在	科別特論演習　医療薬学演習Ⅰ-i（4 年次前期必修）: 6 種類のテーマで構成されており、そのうちの眼疾患の症例検討を担当している。学生に、眼疾患に関する病態、治療、症例などについて調査・討論させるとともに、実際の薬剤や器具を用いて、その使い方に関する検討を行う。症例検討のプロダクト作成を行い、全体での発表を行う。実物を実際に手にすることで、点眼薬の使用法について学生の修得度を向上させるよう工夫しており、学生の満足度も高い。
	平成 22 年～現在	実務実習　コーディネーター（5 年次必修）: 担当の病院施設の指導薬剤師と連携を図り、学生

		指導を行っている。定期的な施設訪問による学生指導、さらに、インターネットシステムやメール等を用いた学生指導を行っている。
	平成21年～現在	科別英語特論（4年次前期必修）: 薬物投与設計、臨床薬物動態学、臨床薬理学に関連した文献を教材として、3 名程度のグループに分かれ、文献を輪読する。プロダクトとして、和訳および和訳担当に関連した内容に関する調査結果を作成する。学生からは、英語論文の読解力に加え、関連知識の取得に繋がったとの評価を得ている。
	平成22年～現在	アドバンス英語（5年次通年必修）: 実用的かつ実践的な英語力を身に付けるために、TOEIC 受験を行うこととし、それに向けた一連の学習を実施する。各自の状況に合わせて学習方法を選択させ、規定時間内での学習とアドバイス等を行い、成績向上に努めている。
	平成22年～現在	医療薬学演習Ⅱ-i（5・6年次通年必修）: 薬学部キャリア育成講座を受講し、課題レポートを提出される。そのレポートに対して、コメントすることにより、修得度を向上させている。
	平成22年～現在	医療薬学演習Ⅱ- ii（5・6年次通年必修）: 教室セミナーに参加し、研究内容等について討議する。さらに、教室セミナーにおける外来講師のシンポジウムの聴講および、学会に参加し、発表または他の演題聴講を行うことで、知識の修得さらには、生涯学習能力の醸成を行っている。学生は、課題レポートを作成し、そのレポートに対してコメントすることにより、知識の定着を向上させている。
	平成16年～現在	課題研究　実験研究コース（4・5・6 年次通年必修）: 各学生に研究テーマを与え、各々研究テーマに沿って研究を遂行する。研究手法のみならず、文献調査、研究方法、研究内容のまとめ方およびプレゼンテーション技術について学生が修得できるよう工夫している。さらに、適宜、ディスカッションを行い、アドバイスをすることにより、学生個別の能力にあわせた研究が実施できるようにしている。
	平成16年～現	課題研究　調査研究コース（4・5・6 年次通年必

	在	修）: 内容は、4P80 演習、PBLT 演習、医療の最前線、課題研究である。このうち、医療の最前線および課題研究を担当している。医療の最前線では、学生に科せられたレポートの査読を行い、コメントすることにより知識の向上を図っている。課題研究に関しては、特徴を有する新開発医薬品を中心に研究テーマを各学生に与え、薬効や副作用の比較評価に関する調査研究を実施している。調査内容・プロダクトに対して、アドバイスを行い、研究方法、研究内容のまとめ方およびプレゼンテーション技術について学生が修得できるよう工夫している。
	平成 22 年	薬・疾病ゼミナール（3 年次前期選択）: 「患者さんとともに癌の薬物治療を考える」というテーマにて、ゼミナールを開講した。がん患者の語りを聴き、その中で、毎回課題を与え、SGD により、課題に対するプロダクトを作成し、パワーポイントを用いて、発表する。ここでは、薬学の知識のみならず、NBM を薬学教育に取り入れることで、患者に適した薬物療法を考えることができるよう工夫した。学生は大変熱心に課題に取り組んでいた。
	平成 16 年～平成 23 年	実務事前学習（4 年次通年必修）: 実務実習のための知識として、実際の病院薬剤師の仕事を知るために、病院薬剤師と討論する内容で実習を行った。東海大学医学部付属八王子病院薬剤科と TV 会議システムを用いて双方向の討論を実施した。学生からのアンケートより、大変有益な内容で興味深く実習を行えたとの回答が得られた。
	平成 20 年～現在	分子創剤制御学特論 （大学院講義　薬学専攻　修士課程） 分子創剤制御学は、創薬研究分野で重要な役割を果たしている。そのなかで、薬効および毒性評価、最適投与計画設計などの臨床研究分野でも必要不可欠な学問領域である。本講義では、近年の医薬品開発における最新の研究成果を紹介する。臨床に即した医薬品の薬効および毒性の理論的評価法を講義に組み込むことで、発展的学習が行えるように工夫した。

	平成 20 年～現在	医薬品情報学特論 （大学院講義　薬学専攻　博士課程） 創薬および育薬の過程において医薬品情報学は必要不可欠である。その研究対象には、医薬品の薬効および毒性の評価、最適投与計画の設計、適正使用法の構築、薬剤経済学および薬剤疫学的評価などがある。本講義では、薬学の理論に基づいた情報の評価および解析と、それらの手法を用いた新規情報の創製に関して、最新の知見を紹介する。臨床に即した医薬品情報の評価法を講義に組み込むことで、発展的学習が行えるように工夫した。
	平成 20 年～現在	がん化学療法特論（基礎と臨床） （大学院講義（夜間）） 本講義は、「次世代がん治療推進専門家養成プラン」として、11 講義分野が開講されるうちの 1 講義分野として位置づけられており、薬学専攻博士課程における講義科目に指定されている。抗悪性腫瘍薬による副作用とその予防策について、薬学の理論に基づいた内容で講義を行っている。なお、本講義は、東京医科歯科大学大学院講義として同時開講されている。講義内容に基礎と応用を組み込むことで発展的学習が行え、さらにその内容は、臨床応用可能なものとすることで、学習意欲の向上を図った。
	平成 20 年～現在	大学院生（博士課程）研究指導 研究に関して定期的にゼミでの経過発表を行い、そのための報告書を作成した。教室マニュアルおよび研究進行のためのプリントを作成し、使用している。データのまとめ方、プレゼンテーションおよび質疑応答能力の醸成のため、指導を行っている。研究テーマは学生の希望を取り入れ、興味のあるものとした。研究の一環として医薬品の薬学的評価について習得させている。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 19 年～現在	医療情報実習テキスト プリント
	平成 21 年 8 月	医薬情報評価学、医学書院
	平成 21 年 10 月	薬学生・薬剤師のためのがんの薬物治療学、初版、化学同人
	平成 22 年 4 月	疾患と治療薬－医師・薬剤師のためのマニュアル（改訂第 6 版）、南江堂
	平成 22 年 4 月	わかりやすい疾患と処方薬の解説、アークメディ

		ア
	平成 23 年 4 月	第十六改正日本薬局方解説書、廣川書店
	平成 24 年 3 月	薬学用語辞典、日本薬学会編集、東京化学同人
	平成 24 年 8 月	薬学生・薬剤師のためのがんの薬物治療学、第 2 版、化学同人
	平成 24 年 12 月	日本薬学会編集、スタンダード薬学シリーズ 6 薬と疾病 III.薬物治療（2）および薬物治療に役立つ情報 第 2 版、東京化学同人
	平成 25 年 10 月	理論調剤学、京都廣川書店
	平成 25 年 11 月	薬剤師のための喘息・COPD　チームですすめる吸入指導のポイント、初版、一般社団法人　呼吸研究
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 21 年 7 月	第 11 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 「ワークショップから見えてきた医薬品情報研究の不透明さ」、「日本医薬品情報学会ビジョン委員会、大学における医薬品情報学に関する実態調査から浮かび上がってくるもの」、「日本医薬品情報学会ビジョン委員会、医薬品情報学研究のあり方―ワークショップにおける KJ 法に基づく問題抽出と解析―」の 3 演題について発表した。
	平成 21 年 7 月	第 41 回　日本医学教育学会大会 「平成 20 年度薬学共用試験 OSCE トライアルおよびシミュレーション報告」と題して発表した。
	平成 22 年 7 月	第 42 回　日本医学教育学会大会 「第 1 回薬学共用試験 OSCE 結果報告」と題して発表した。
	平成 22 年 7 月	日本薬学会薬学教育部会　教育フォーラム 「薬学教育６年制に対応した国家試験の円滑な実施について―複合モデル問題：病態・薬物治療領域―」と題して講演した。
	平成 22 年 12 月	薬学教育６年制に対応した国家試験の円滑な実施のための大学との意見交換会（必須問題・薬学理論問題を中心に） 「病態・薬物治療領域」について発表・意見交換した。
	平成 23 年 7 月	第 43 回日本医学教育学会大会 「第 2 回薬学共用試験 OSCE 結果報告」と題して発表した。
	平成 23 年 7 月	第 14 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 シンポジウム　「大学における医薬品情報教育の

		進化」にて、「医薬品情報専門薬剤師が担う教育と研究」と題して講演およびオーガナイザーを務めた。
	平成 23 年 7 月	第 14 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 「中学生における薬に関する情報の意識調査と教育の効果」について発表した。
	平成 24 年 7 月	第 15 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 「薬学部における医薬品情報学教育の現状調査」と題して発表した。
	平成 24 年 7 月	医療薬学フォーラム 2012/第 20 回クリニカルファーマシーシンポジウム 「チーム医療に対応できる薬剤師の養成に向けての基礎研究、薬学教育、臨床研究はどうあるべきか」と題して講演およびオーガナイザーを務めた
	平成 25 年 3 月	日本薬学会　第 133 年会 「個別薬剤の医薬品情報教材に関する調査と教材開発」と題して発表した。
	平成 25 年 7 月	医療薬学フォーラム 2013/第 21 回クリニカルファーマシーシンポジウム 「薬学部 3 年次生に対する治験関連教育－ゼミナール形式による実施とその評価－」と題して発表した。
	平成 25 年 8 月	第 16 回　日本医薬品情報学会　総会・学術大会　シンポジウム　「医薬品情報の教育と研究」と題して講演およびオーガナイザーを務めた。
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 20 年～現在	実務実習コーディネーター
	平成 20 年～現在	八王子市立中学校にて、「八王子市におけるくすり教育・喫煙防止教育・薬物乱用防止教育」の講師を担当した。
	平成 21 年度～22 年度	厚生労働省研究費補助金　医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業　「薬学教育 6 年制に対応した国家試験の円滑な実施のための問題作成の在り方に関する研究」の「病態・薬物治療学分野を中心とした試験問題の出題例、作成方法、体制などの在り方及び出題の標準化に関する研究」の分担研究者を担当した。
	平成 21 年 6 月	平成 21 年度　第 1 回多摩第四地区薬剤師研修会にて、「学術講演：薬学に基づく吸入指導の重要性―ステロイド吸入薬を中心に―」と題して講演した。
	平成 22 年 4 月	東京薬科大学　土曜日研究室訪問会を当教室にて

		実施した。
	平成 23 年 11 月	東薬祭（学園祭）　東薬セミナー　「くすりの見方と考え方―臨床における効果と副作用は予測できるかー」と題して講演した。
	平成 23 年度	薬学教育協議会　医薬品情報学教育担当教員会議を発足させ、第 1 回　医薬品情報学教育担当教員会議を委員長として開催した。
	平成 24 年度	薬学教育協議会　第 2 回　医薬品情報学教育担当教員会議を委員長として開催した。
	平成 23 年度	文部科学省　大学における医療人養成推進等委託事業「臨床薬学教科の教材開発―大学教育において医薬品情報学の教育水準を担保するのに必要な講義・演習・実習用のモデル教材の開発―」のワークショップを実行委員会委員長として、主催・開催した。
	平成 24 年度	文部科学省　大学における医療人養成推進等委託事業「臨床薬学教科の教材開発―大学教育において医薬品情報学の教育水準を担保するのに必要な講義・演習・実習用のモデル教材の開発―」の実行委員会委員長として開発した。
	平成 24 年～現在	文部科学省　産学連携　「がんプロフェッショナル養成プラン」にて講義した。
	平成 24 年～現在	学内 FD 講習会およびワークショップへ参加した。
	平成 26 年～現在	CITI Japan e-learning プログラムを受講した。
	平成 26 年 7 月	平成26年度　第3回オープンキャンパス　薬学部模擬講義にて、「薬の効果と副作用は予測できる」と題して講演した。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Theoretical analysis of efficacy of biological agent for rheumatoid arthritis based on target molecular binding occupancy	共著	平成 25 年 7 月	Rheumatol. Int., 33 (7): 1791-1795
（論文）Prediction of antiplatelet effects of aspirin *in vivo* based on *in vitro* results	共著	平成 25 年 11 月	Clin. Appl. Thromb. Hemost., 19 (6): 600-607
（論文）Theory-based analysis of anti- inflammatory effect of TNF	共著	平成 26 年 3 月	Drug Metab. Pharmacokinet., 29 (3):

inhibitors on rheumatoid arthritis			272-277
（論文）The evaluation method for antiplatelet effect of acetylsalicylic acid	共著	平成 26 年 12 月	Eur. J. Drug Metab. Pharmacokinet., 39: 327-333
（論文） Theory-based Analysis of Clinical Efficacy of Triptans using Receptor Occupancy.	共著	平成 26 年 12 月	J Headache Pain, 15: 85, doi: 10.1186/1129-2377-15-85.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
TNFα遺伝子 5'-上流領域-857C/T 多型が TNFαの発現に及ぼす影響の検		平成 26 年 6 月	医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム（東京）
片頭痛治療におけるトリプタン系薬剤の頭痛再発抑制に関する理論的評価		平成 26 年 6 月	医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム（東京）
非ステロイド性抗炎症薬の臨床用量における血小板凝集抑制作用の定量的評価		平成 26 年 7 月	第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会（鹿児島）
スガマデクスナトリウムの作用機序を考慮したロクロニウムおよびベクロニウムへの作用に関する解析		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会（名古屋）
新規過活動膀胱治療薬ミラベグロンのβ_3受容体結合占有に基づいた臨床薬効解析		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会（名古屋）
金属カチオン含有診断薬と医薬品との相互作用の可能性		平成 26 年 11 月	八王子薬剤センター研究発表会(東京)
不眠症治療薬ラメルテオンの理論的解析に基づく臨床薬効評価		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）
フルルビプロフェンの抗血小板作用に関する *in vitro* および *in vivo* 研究		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）
プレガバリンの中枢系有害作用の発現に関する理論的解析		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）

Ⅲ　学会および社会における主な活動

	<u>学会等の理事・評議員・委員</u>
	＜日本薬学会＞
平成 18 年 4 月～平成 25 年 3 月	日本薬学会医療薬科学部会世話人
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本薬学会薬学教育改革大学人会議 OSCE 内容・体制委員会委員
平成 22 年度	日本薬学会医療薬科学部会論文賞選考委員長
平成 25 年 4 月～現在	日本薬学会代議員
	＜日本医療薬学会＞
平成 14 年 4 月～現在	日本医療薬学会代議員
平成 16 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本医療薬学会理事
平成 17 年 1 月～平成 21 年 12 月	日本医療薬学会法人化特別委員会委員
平成 20 年 1 月～平成 24 年 12 月	日本医療薬学会功績賞選考委員

平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本医療薬学会副会頭
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本医療薬学会選挙管理委員
平成 23 年 6 月～平成 24 年 3 月	日本医療薬学会事務体制検討委員会
平成 24 年 4 月～現在	日本医療薬学会監事
	＜日本医薬品情報学会＞
平成 16 年 11 月～平成 24 年 3 月	日本医薬品情報学会編集委員会委員
平成 22 年 4 月～現在	日本医薬品情報学会理事
平成 22 年 4 月～現在	日本医薬品情報学会代議員
平成 22 年 4 月～現在	日本医薬品情報学会教育検討委員会委員長
	＜日本眼薬理学会＞
平成 24 年 4 月～現在	日本眼薬理学会評議員
	＜日本薬剤学会＞
平成 20 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本薬剤学会フォーカス委員会委員
	＜倫理委員会＞
平成 23 年 4 月～現在	東京医科大学八王子医療センター病院倫理委員会委員
平成 24 年 4 月～現在	東海大学医学部付属八王子病院倫理委員会委員
平成 25 年 4 月～現在	東京医科大学八王子医療センター医学倫理委員会委員
	＜奨学金関係＞
平成 25 年 4 月～現在	神林伊賀育英会評議員
	省官庁、薬剤師会関係の委員等
	＜厚生労働省＞
平成 12 年 12 月～平成 23 年 2 月	厚生労働省保険医療専門審査員
平成 17 年 8 月～平成 21 年 4 月	厚生労働省薬剤師試験委員
平成 21 年 4 月～平成 23 年 3 月	厚生課科学研究　薬学教育 6 年制に対応した国家試験の円滑な実施のための問題作成の在り方に関する研究　分担研究者
平成 23 年 4 月～現在	厚生労働省薬剤師試験委員
	＜文部科学省＞
平成 23 年 4 月～現在	文部科学省私立大学等研究設備整備費等補助金等に係る選定委員会
平成 23 年 8 月～平成 25 年 8 月	文部科学省新制度の薬学部及び大学院における研究・教育等の状況に関するフォローアップワーキンググループ
	＜薬学教育協議会＞
平成 23 年 4 月～現在	薬学教育協議会医薬品情報学教科担当教員会議委員長
平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月	薬学教育協議会臨床薬学教科の教材開発実行委員会委員長(文部科学省委託事業)
平成 25 年 10 月～平成 26 年 10 月	薬学教育協議会教科担当教員中央会議副委員長
平成 26 年 10 月～現在	薬学教育協議会教科担当教員中央会議委員長
	＜薬学共用試験センター＞
平成 20 年 4 月～平成 26 年 8 月	薬学共用試験センターOSCE 実施委員会委員

平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月	薬学共用試験初年度の準備･実施状況および事後解析に関する調査研究委員会
平成 23 年 4 月～現在	薬学共用試験センター薬学共用試験 CBT 問題管理委員
	＜薬剤師会等＞
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	日本薬剤師会調剤委員会委員
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本薬剤師会 DI 委員会委員
平成 25 年 10 月～現在	日本薬剤師会生涯学習支援システム問題作成委員会委員
平成 21 年 7 月～現在	八王子学校薬剤師会学校教育検討委員会オブザーバー
平成 18 年 4 月～平成 22 年 3 月	多摩薬薬連携委員
平成 18 年 4 月～現在	薬剤師教育研究企画委員会委員
	学会・学術集会の主催等
平成 21 年度	日本薬剤学会フォーカス委員会委員
平成 22 年度	日本薬学会医療薬科学部会論文賞選考委員長
平成 22 年 10 月	第 54 回日本薬学会関東支部大会実行委員
平成 22 年 10 月	第 54 回日本薬学会関東支部大会プログラム編集委員
平成 23 年 10 月	第 20 回日本医療薬学会年会組織委員
平成 23 年 8 月	第 14 回日本医薬品情報学会総会・学術大会実行委員
平成 25 年度	第3回医薬工3大学包括連携推進シンポジウム -医学薬学工学連携で広がる新しい世界-、医薬工三大学包括的連携推進協議会委員
平成 26 年 6 月	日本薬学会医療薬科学部会医療薬学フォーラム 2014 実行委員
	客員教授・非常勤講師等
平成 17 年 8 月～現在	東京医科大学客員教授
平成 15 年 4 月～平成 24 年 3 月	東京大学薬学部非常勤講
平成 16 年 7 月～平成 22 年 3 月	日本大学大学院薬学研究科非常勤講師
	免許・資格等
昭和 56 年 6 月～現在	薬剤師免許（第 194017 号）
昭和 56 年 6 月～現在	衛生検査技師免許（第 36277 号）
平成 12 年 1 月～現在	日本医療薬学会認定薬剤師（第 14-99-0141 号）
平成 12 年 1 月～現在	日本医療薬学会認定指導薬剤師（第 14-00-0079 号）
平成 21 年 4 月～現在	日本臨床薬理学会認定指導薬剤師（第 09027 号）
平成 23 年 7 月～現在	日本医薬品情報学会認定医薬品情報専門薬剤師（第 010 号）
平成 16 年 4 月～現在	日本薬剤師研修センター認定薬剤師（第 04-11984）

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 一般用医薬品学教室	職名　教授	氏名　渡辺 謹三

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） <u>薬学入門演習 Ⅰ</u> 本演習は、ポスター作成の過程で多くの教員に担当を依頼する必要があるので、教授総会などの関連会議であらかじめ担当依頼の予告をするなど、学内の連絡を密にして演習運営の円滑化を図った。また、事務課職員の助力も重要なので、関連部署との情報交換を密にした。 ポスターおよびプレゼンテーションのスライド作成に用いるアプリケーション（PowerPoint）の使用になれていない1年生のために、情報教育研究センターの教員に依頼してPowerPoint講習会を実施し、1年生がポスターおよびスライド作成に容易に取りかかれるようにした。 演習開始前に、SGDの進め方、ポスター作成の手順などを丁寧に説明し、黒板にはポスターの作成例を掲示して、ポスターの作成が円滑に進むようにした。 プロダクト（ポスター）の提出先をWebClassとして、WebClassの使用法に慣れさせた。	平成20年4月 ～現在	5月に実施した早期体験実習（薬剤師の職場：薬局・病院・企業や行政機関の研究所、企業の工場への見学実習）で学んだ内容を同一施設で見学実習をした学生のグループ（1グループ 4 人～7人）ごとに少人数討議（以下、SGD）を行って、ポスターにまとめる演習。ポスターは、6 月に展示会（3 日間）をおこなって、学生および職員の投票によりプレゼンテーションを行うグループを決定し、選ばれたグループは早期体験実習報告会（7月実施）において、1年生全員の前で10分弱の報告（プレゼンテーション）を行う。 今後の学習課程でしばしばSGDを行うので、SGDの進め方、決められた時間内にプロダクト（ポスター）を完成させることを修得させた。
<u>一般用医薬品学</u> 一般用医薬品（以下、一般薬）に関する相談応需では、相談対象となった症状などついて、薬剤師はその症状などの情報収集、得た情報に基づく症状判断および必要時の受診勧奨、一般薬	平成20年9月 ～現在	各年度14回程度（13回以上、年度により回数に１～２回の変動有り）を行った。 教科書の内容を保管するため、講義プリントを作成・配付し（各年 40 枚程度、年度により変動有り）た。

の選択・推奨・情報提供、さらに必要時は一般薬販売後のアフターケアを行う。これらの各段階における薬剤師の対応が相談者の転帰に大きな影響を与えることがあるので、講義内容には一般薬の配合成分や効能効果のみならず、相談応需時のコミュニケーション、情報提供の重要性、一般薬に関する相談応需時の諸注意事項などを重点的に取り入れ、より実務に近い内容とした。 一般薬各論では、開封した医薬品の実物を回覧して、講義に対する興味を喚起した。誤用を防止するために工夫された医薬品の容器なども回覧した。 複数品目の一般薬の配合成分と効能効果、使用上の注意などの対照表を作成させ、配合成分と効能効果・使用上の注意との関連が理解しやすいようにした。このことは４年次の実務実習事前学習にも結びつくもので、学年間の授業内容に関連を持たせて学習効果の向上をはかった 講義時に配付した印刷物、講義時に使用したスライド、過去の定期試験問題などの資料を WebClass 上で pdf ファイルとして取得できるようにして、学習の便を図った　。 定期試験問題は、試験時に回収せずに持ち帰らせ、後日実施したフィードバック講義時の教材として使用し、フィードバック講義の効果を高めた。		評価・単位認定は、主に定期試験（追再試験を含む）の成績によって行った。その際、出席状況を加味して評価した年度もある。
<u>薬学入門演習 II（介助 1、車いす体験）</u> 講義時の講師は、東京医科大学八王子医療センター所属の看護師に依頼し、より患者に近い位置からの車いす利用に関する内容の講義とした。さらに、講師の看護師には、車いすを利用した演習でも種々の指導をしていた	平成 20 年 9 月～現在	本演習の目的は、①車いすの基本的な扱い方（点検・操作法）および車いすを用いた障がい者の介助法を修得すること、②車いすを用いている障がい者の不自由さや気持ちを理解して思いやり、車いす利用者が求めている介助を理解すること、の 2 点とした。

だいた。 履修者には、車いすを用いて介助すること、車いす利用者として介助されること、自走式車いすを自力で走行させることを体験させ、本演習の目的達成を図った。 実際に普段生活している学内を走行することにより、車いすの利用によって起こる「生活の諸行動における不自由さ」を体感させた。		演習では、最初に講義を行って上記 2 点の説明した。次いで、車いすの点検を行ったのち、車いすを用いたスロープおよび段差の昇降、アイマスクを着けて疑似視覚障害者となった者を車いすに乗せて適切なコミュケーションとる練習を行った。さらに、学内の教室、障がい者対応の手洗い所・エレベータ、図書館、食堂、売店などを走行し、車いす利用者の不自由さを実感するとともに、車いす利用者になって介助されること、車いす利用者を介助すること、自走式車いすを自力で走行させることを体験させた。 その後、これらの体験時の不自由さ、介助されて助かった点、感想などを討議させた。後日、これらについてのレポートを提出させた。
実務実習事前学習（655 服薬指導入門、一般用医薬品） 講義の講師は、東京都薬剤師会所属の現役薬剤師に依頼し、薬剤師実務がより深く理解できるものとした。講師には、ロールプレイの指導および講評も行っていただいた。 所定のテキストの他、課題医薬品の添付文書、課題医薬品の配合成分、効能効果、使用上の注意の比較表用紙、ロールプレイ時の情報収集項目・情報提供項目を記した用紙など配付し、ロールプレイ準備の便に供した。 ロールプレイ時は、模擬患者が 3 種の相談者背景（相談対象の症状や健康状態など）のいずれかを訴えて、その症状などに対する最適医薬品の選択・推奨を求めるものとした。さらに、各グループ担当の模擬患者は、ローテンションにより毎回変わるようにした。これにより、履修者は、単にマニュアルに従って行うロールプレイではなく、ロールプレイ時に取得した症状などの情報に基づいて最適な一般薬を選択して推奨・情報提供するという、より実務に近いロールプレイとな	平成 21 年 5 月～現在	実習前に講義を行い、一般用医薬品（以下、一般薬）の医薬品としての特徴、相談応需時の注意事項などを理解させた。 次いで、課題医薬品（総合感冒薬、3 品目）について、相談応需時の手順、会話内容、情報提供内容などをまとめさせ、ロールプレイの準備をさせた。 ロールプレイは、1 グループ 5～6 人、1 人 1 回 8 分とし、ロールプレイ終了後に 3 分のフィードバック時間を設けて実施した。 全員のロールプレイ終了後、外来の講師および講師が講評を行った。

った。 医療の最前線(医療コミュニケーション、一般用医薬品の相談対応) 5 年生が 1 年生を指導し、講義することにより、医薬品に対する 5 年生の理解が深まり、コミュニケーション力や説明に要する技能が向上する。 ロールプレイ時に、5 年生は白衣を着用するようにして、薬剤師としての自覚を高めた。 学生相互に、評価することで互いに刺激し合い、気づきを与える機会を得ることができた。 調査研究コースプログラム　医療の最前線（医療コミュニケーション、） ＳＧＤにおけるタスクフォースを努め、ＳＧＤと発表の円滑な進行を図った。さらに、全グループの発表後フィードバックを行った。	平成 26 年 4 月 ～現在 平成 27 年 2 月 ～現在	1 年生を模擬患者役とし、5 年生を薬剤師役とした一般用医薬品（以下、一般薬）の相談応需についてのロールプレイ。 5 年生は、グループに分かれて課題医薬品（消化器の症状に対応する一般薬、5 品目）のそれぞれに対応する相談者背景（相談対象の症状や健康状態など）を作成する。さらに、課題医薬品に含まれる配合成分の１つについて薬理作用を１年生に説明するための OHC シートを作成する。 1 年生は５年生が作成した相談者背景を薬剤師役の５年生に訴え、５年生は最適な一般薬を推奨・情報提供を行うロールプレイを行う。 さらに、5 年生は一般薬に含まれる配合成分について、OHC を用いて 1 年生に講義（説明）する。 調査研究コースの４年生を対象にしたＳＧＤ。第１回目のＳＧＤで各自の紹介と各自が所属する研究室の研究内容などを紹介、発表してＳＧＤグループメンバーの融和を図った。次いで、第２回目に「我が国の医療の問題点」を抽出し、ＫＪ報により問題点の整理を行い、さらに第３回目のＳＧＤにおいて、前回抽出した問題点について 10 年後を見据えて、それらの問題点の解決策を討論し発表させた。
２　作成した教科書、教材、参考書 薬学入門演習 Ⅰ ポートフォリオ 教員用の授業担当マニュアルなど 一般用医薬品学 講義プリント（各年、A4 版 40 枚程度、年度によって変動有り） 講義スライド	平成 20 年 4 月 ～現在 平成 20 年 9 月 ～現在	ポスター作成手順など 薬事関連法規、スイッチ OTC、副作用、症候判別、医薬品の選択、保険調剤の報酬算定に係わる健康保険関連規定の解説・練習問題および練習問題の

講義中に回覧する一般用医薬品 WebClass に収載した講義資料など <u>薬学入門演習 II（介助 1、車いす体験）</u> ポートフォリオ	 平成 20 年 9 月～現在	解答解説など 車いす利用者の心理背景、車いすの構造および基本操作、車いす点検表、演習時のノートおよびレポート用紙
<u>実務実習事前学習（655 服薬指導入門、一般用医薬品）</u> テキスト（実務実習事前学習、実習テキスト） 配付プリント ロールプレイ用小道具	 平成 21 年 5 月～現在	 課題医薬品対照表、相談応需時の情報収集項目および情報提供項目など 課題医薬品の拡大コピー、薬局の名刺、ローテション表など
<u>医療の最前線(医療コミュニケーション、一般用医薬品の相談対応）</u> テキスト 配付プリント ロールプレイ用小道具	 平成 26 年 4 月～現在	 課題医薬品の拡大コピーなど
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会第 135 年会一般シンポジウム「薬学教育における要指導医薬品･一般用医薬品とセルフメディケーションの取り組みと展開」においてオーガナイザーおよびシンポジストを担当した。シンポジストとしての講演演題は「一般用医薬品とセルフメディケーションに関する薬学教育の特徴と課題」	 平成 27 年 3 月	 左記のシンポジウムをオーガナイザーとして日本薬学会年会組織委員会に提案し、その採択を受けてシンポジウムを実施した。シンポジウムではシンポジストとして「一般用医薬品とセルフメディケーションに関する薬学教育の特徴と課題」と題する講演を行った。また、共同成井浩二発表した「大学内で展開する系統的なセルフメディケーション教育」には、共同研究者として参画した。
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む） 第２回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	 平成 21 年 12 月	 タスクフォース

第４回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 23 年 1 月	タスクフォース	
第６回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 24 年 2 月	タスクフォース	
第２回 東京薬科大学カリキュラムプランニングのためのＦＤワークショップ	平成 24 年 8 月	タスクフォース	
平成 25 年度 東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ	平成 25 年 4 月	タスクフォース	
第１０回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 26 年 3 月	タスクフォース	
第４回 東京薬科大学 全学ＦＤワークショップ	平成 26 年 8 月	タスクフォース	
第１０回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 27 年 2 月	タスクフォース	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書)わかりやすいセルフメディケーションと OTC 医薬品の使い方　改訂版	共著	平成 23 年 3 月	有限会社　ネオメディカル
（著書)図解入門メディカルワークシリーズ　よくわかる OTC 医薬品の服薬指導　第３版	共著	平成 25 年 9 月	株式会社　秀和システム
（論文)改正薬事法施行以前における一般用医薬品とセルフメディケーションに関する一般消費者の意識調査	共著	平成 23 年 2 月	医療薬学（第 36 巻第 4 号）
（論文)改正薬事法施行後における一般用医薬品とセルフメディケーションに関する一般消費者の意識調査	共著	平成 25 年 2 月	医薬情報学（第 14 巻第 4 号）
（論文)スイッチ OTC 医薬品に対する一般生活者の意識調査	共著	平成 25 年 12 月	医療薬学（第 39 巻第 12 号）
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

生活習慣病患者のスイッチ OTC 医薬品に対する意識調査	平成 26 年 7 月	第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会
東日本大震災後の一般消費者の一般用医薬品等の備蓄に関する意識調査	平成 26 年 7 月	第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会
一般用医薬品の購入・販売についての一般消費者及び登録販売者に対する意識調査	平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
スイッチ OTC 医薬品の使用に関する生活習慣病患者の意識調査	平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
東京都台東区における一般生活者を対象としたお薬講座の試み	平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
タブレット端末を用いた一般用医薬品のお薬選択支援ツールの開発	平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
一般用医薬品のインターネット等販売に対する消費者意識に関する研究	平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
漢方薬についての一般消費者に対する意識調査	平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
OTC 医薬品普及啓発イベントの有用性に関する意識調査	平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
一般用医薬品とセルフメディケーションに関する薬学教育の特徴と課題	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月	2009 年度 OTC 医薬品普及啓発イベント「よく知って、正しく使おう OTC 医薬品」　実行委員
平成 21 年 6 月	鎌倉女子大学生涯学習センター公開講座　「薬学講座：セルフメディケーションと一般用医薬品、基礎から応用まで」第 1 回、「薬の基礎知識」　講師
平成 21 年 6 月	鎌倉女子大学生涯学習センター公開講座　「薬学講座：セルフメディケーションと一般用医薬品、基礎から応用まで」第２回、「かぜの症状とかぜ薬」　講師
平成 21 年 7 月	鎌倉女子大学生涯学習センター公開講座　「薬学講座：セルフメディケーションと一般用医薬品、基礎から応用まで」第３回、「スキンケア」　講師
平成 21 年 7 月	鎌倉女子大学生涯学習センター公開講座　「薬学講座：セルフメディケーションと一般用医薬品、基礎から応用まで」第４回、「胃腸薬」　講師
平成 21 年 7 月	鎌倉女子大学生涯学習センター公開講座　「薬学講座：セルフメディケーションと一般用医薬品、基礎から応用まで」第５回、「薬の種を見つける」　講師
平成 21 年 8 月	八王子未来学　小中学生のための「未来スクール八王子」、「キッチンでできる化学実験」　講師

平成 21 年 10 月	第 4 回一般用医薬品セルフメディケーションシンポジウム　「地域薬局における一般用医薬品販売時の情報提供法の現状調査と情報提供ツールの開発」　講演
平成 21 年 11 月	株式会社ウイングメディカル　薬剤師セミナー「6 年制薬剤師時代を迎えて、4 年制薬剤師の課題とその対策」　講師
平成 22 年 2 月	八王子未来学　まるごとキャンパス八王子「誰でもできる衛生管理」、「かぜの予防（上手なてあらい)」　指導監督
平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月	2010 年度 OTC 医薬品普及啓発イベント「よく知って、正しく使おう OTC 医薬品」　実行委員
平成 22 年 8 月	八王子未来学　小中学生のための「未来スクール八王子」、「キッチンでできる化学実験」　講師
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	2011 年度 OTC 医薬品普及啓発イベント「よく知って、正しく使おう OTC 医薬品」　実行委員
平成 23 年 5 月	ファーマストリーム　インターネット研修　「改正薬事法施行と一般用医薬品販売の問題点」　講師（DVD 収録）
平成 23 年 6 月	東京薬科大学薬用植物園　第 34 回公開講座と見学会　「セルフメディケーションと OTC 薬の上手な利用法」　講師
平成 23 年 7 月	第 1 回夏休み子どもいちょう塾「お薬の体内での道のりと工夫」講師
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	2012 年度 OTC 医薬品普及啓発イベント「よく知って、正しく使おう OTC 医薬品」　実行委員
平成 24 年 6 月	特定非営利活動法人医療教育研究所　登録販売者ｅ-ラーニング講義「滋養強壮保健薬の基礎知識とポポンＳプラス」　講師（DVD 収録）
平成 24 年 9 月	全国家庭薬協議会　家庭薬セミナー「一般消費者を対象とした一般用医薬品に対するアンケート調査結果」　講演
平成 24 年 10 月	第 45 回日本薬剤師会学術大会　分科会５　セルフメディケーションと薬剤師の役割　「セルフメディケーションにおける薬剤師の役割」　講演
平成 24 年 11 月	八王子学園都市大学　いちょう塾　平成 24 年後期公開講座　「薬を知り正しく用ふれば健康危うからず！　OTC 医薬品の上手な利用法とセルフメディケーション」　講師
平成 24 年 12 月	全日本医薬品登録販売者協会　生涯学習研修会　第４講座「かぜ様症状」　講師（DVD 収録）
平成 25 年 1 月	全日本医薬品登録販売者協会　生涯学習研修会　第４講座「便秘」講師（DVD 収録）
平成 25 年 2 月	神奈川県相模原市立谷口小学校　教職員研修会　「ノロウイルスの発症時に感染を防ぐための対応について」　講師
平成 25 年 3 月	BS-TBS　おくすりアカデミー「知って得するセルフメディケーション実践編　薬剤師さんもがんばってます」　講師（テレビ番組

	収録）
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	2013 年度 OTC 医薬品普及啓発イベント「よく知って、正しく使おう OTC 医薬品」　実行委員
平成 25 年 5 月	全日本医薬品登録販売者協会　生涯学習研修会　Ａ第 1 講座「傷・外傷がある（日焼け）」　講師（DVD 収録）
平成 25 年 8 月	沖縄県薬剤師会　一般用医薬品の薬局等における対面販売・相談対応などに関する講習会「セルフメディケーション支援と一般用医薬品販売における薬剤師の役割」　講師
平成 25 年 10 月	玉川学園高等学校過程（玉川学園高等部）　模擬講義「身近な薬のサイエンスとルール」　講師
平成 25 年 10 月	登録販売者生涯研修会　東京地区集合研修会　平成 25 年度後期「総合感冒薬　作用と特徴」　講師
平成 25 年 10 月	神奈川県立厚木高等学校　模擬講義「身近な薬のサイエンスとルール」　講師
平成 25 年 11 月	東薬祭　東薬セミナー「身近な薬と薬剤師の大きな働き　一般用医薬品と薬剤師のセルフメディケーション支援」　講師
平成 25 年 11 月	前橋育英高等学校　学部説明「薬学部　6 年制薬学部の学習内容と進路」　講師
平成 25 年 12 月	東京都医薬品登録販売者協会　平成 25 年度店舗販売者講習会「登録販売者とセルフメディケーション」　講師
平成 25 年 12 月	千葉県立君津高等学校　模擬講義「身近な薬のサイエンスとルール」　講師
平成 26 年 2 月	日本漢方協会　平成 25 年度日漢協漢方総合講座　「漢方トピックス　生薬・天然物の科学　薬の種を見つける」　講師
平成 26 年 3 月	甲府市薬剤師会市民講座　くすりと健康の講演会　「OTC 医薬品の上手な利用法とセルフメディケーション」　講演
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	2014 年度 OTC 医薬品普及啓発イベント「よく知って、正しく使おう OTC 医薬品」　実行委員
平成 26 年 6 月	東京都立文京高等学校　模擬講義「身近な薬のサイエンスとルール」　講師
平成 26 年 9 月	静岡県の健康づくり拠点薬局推進事業　静岡県薬剤師会「薬剤師の一般用医薬品適正使用とセルフメディケーション推進研修会」基調講演「セルフメディケーション支援と一般用医薬品販売における薬剤師の役割」　講演
平成 26 年 10 月	玉川学園高等学校過程（玉川学園高等部）　模擬講義「身近な薬のサイエンスとルール」　講師
平成 26 年 10 月	埼玉県立高等学校　模擬講義「身近な薬のサイエンスとルール」　講師
平成 26 年 10 月	静岡市立高等学校　薬学部についての学部説明「薬学部　6 年制薬学部の学習内容と進路」　講師

平成 26 年 11 月	実践学園中学・高等学校　模擬講義「身近な薬のサイエンスとルール」　講師
平成 26 年 12 月	東京都医薬品登録販売者協会　平成 26 年度店舗販売者講習会「登録販売者とセルフメディケーション」　講師

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 医療実務薬学教室	職名　教授	氏名　畝崎 榮

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 20 年～現在	疾病等の講義ではパワーポイントを活用し、病態や診断法などの視覚資料を多く用いて理解度の向上を図った。授業評価は、概ね理解しやすいとの評価が得られた。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 4 月 25 日 平成 21 年 5 月 25 日 平成 22 年 3 月 20 日 平成 22 年 9 月 20 日 平成 24 年 3 月 20 日	実務実習事前学習のための調剤学, 廣川書店 図解入門メディカルワークシリーズ　よくわかる服薬指導の基本と要点,秀和システム 実務実習事前学習のための調剤学計算ドリル, 廣川書店 図解入門メディカルワークシリーズ　よくわかるハイリスク薬の服薬指導,秀和システム 精神･神経疾患の薬物治療,オーム社
3　教育方法･教育実践に関する発表、講演等	平成 21 年 5 月	東薬会兵庫支部総会 講演「薬学教育 6 年制における長期実務実習の取り組みについて」
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 20～26 年 11 月 平成 22 年 12 月 平成 23 年 2 月 5 日 平成 25 年 1 月 平成 25 年 12 月 平成 26 年 9 月 9 日	関東消化器内視鏡医学講習会 年 1 回講演「内視鏡検査に必要な薬理･生理学」 薬学共用試験 OSCE モニター員 （高崎健康福祉大学） 第 4 回千葉県薬剤師会・病院薬剤師会合同研修会講演「パーキンソン病の薬物治療と服薬指導の要点」 薬学共用試験 OSCE 外部評価員（東京大学） CITI Japan e-learning プログラム受講 八王子学園都市大学　いちょう塾 講演「知っておきたい認知症医療　予防から最新治療、生活習慣病との関連について」

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Comparative study of the cellular pharmacodynamics of calcineurin inhibitors between patients with chronic renal failure awaiting renal transplantation and	共著	平成 21 年	Cell Transplantation., 18:639-646

cirrhosis patients awaiting liver transplantation.			
（論文）Determinants affecting quality of life: implications for pharmacist counseling for patients with breast cancer in Japan.	共著	平成 23 年	Biol Pharm Bull.,35: 59-64
（論文）Steroid Withdrawal Based on Lymphocyte Sensitivity to Endogenous Steroid in Renal Transplant Recipients.	共著	平成 23 年	Biol Pharm Bull., 34: 1578-1583
（論文）Higher Sensitivity of Peripheral Blood Lymphocytes to Endogenous Glucocorticoid in Renal Transplant Recipients Treated With Tacrolimus, as Compared to Those Treated With Cyclosporine.	共著	平成 24 年	Cell Medicine.,3:75-80
（論文）Development and validation of the Japanese version of the Decisional Conflict Scale to investigate the value of pharmacists' information: a before and after study.	共著	平成 25 年	BMC Med Inform Decis Mak. 17;13:50.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
がん患者の倦怠感と疼痛，QOL に関する観察研究		平成 26 年 6 月	日本緩和医療学会
実測クレアチニンクリアランスの結果表記の問題点		平成 26 年 7 月	日本腎臓学会
腎機能低下時減量を必要とする薬剤の薬価基準収載医薬品内服薬に占める割合と保険薬局における処方割合の調査		平成 26 年 10 月	日本腎臓病薬物療法学会
実測クレアチニンクリアランスの結果表記の問題点 第 2 報		平成 26 年 10 月	日本腎臓病薬物療法学会
高転移ヒト大腸癌株 KM12SM を用いた肝転移モデルの作成と血管関連因子阻害による転移抑制の検討		平成 26 年 11 月	東京医科大学医学会総会
小児固形悪性腫瘍に対する光線力学的治療の有用性の検討		平成 26 年 11 月	東京医科大学医学会総会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 13 年 1 月～現在	日本医療薬学会認定薬剤師
平成 13 年 1 月～現在	日本医療薬学会指導薬剤師
平成 17 年 4 月～現在	東京医科大学客員教授
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本病院薬剤師会雑誌編集委員会委員
平成 19 年 4 月～現在	公益財団法人 MR 認定センター試験委員会委員
平成 20 年 4 月～現在	日本医科大学附属多摩永山病院治験審査委員会外部専門委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 社会薬学研究室	職名　教授	氏名　宮本　法子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 25 年 9 月	薬学と社会：薬に関連した医療事故等を、他人事として考えるのではなく、もし薬剤師として居合わせた時には、どのような行動をとることができるのか、自分自身の問題として考えられるように、問いかけながら講義を進め、学生が授業に参加できるように配慮した。短時間の間に、考えた事を表現できるような文章表現の時間を盛り込んだ。薬に関するエピソードや法律の豆知識などのコラムを準備し、興味関心を持つように心掛けた。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 23 年 9 月 平成 25 年 9 月	薬事関連法規・制度Ⅰ：複数教員の共通テキストとして、講義資料と問題集を作成した。 薬学と社会 ：PPT 教材を使用し Web クラスに公開
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 25 年 5 月 24 日	北海道薬学大会において「社会とつながる薬学教育　～大学の地域連携がもたらすもの～」と題して教育実践について講演
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）		大学教員として学校薬剤師の業務に関わることによって、学生に学校薬剤師の現状並びに業務を体験させることができると考え、八王子市みなみ野君田小学校の学校薬剤師を兼務している。 活動内容と特徴：学校薬剤師が実施する小学校の空気調査、水質検査、騒音検査等に学生を同行し、学校薬剤師制度の概要と活動に対する理解を深めた。また、4 年及び 5 年ゼミ生は、学校薬剤師と協力連携し合いながら、薬物乱用防止の出前授業の依頼を受け、4 年～6 年生及び保護者に対する授業を実施した。 作成した教科書、教材、参考書等：小学 6 年生に対する薬物乱用防止講義関連の資料（たばこ、アルコール、薬物の害さらにくすりの適正使用）、講義時に配布したパンフレット、発表用パワーポイント、アルコールパッチテスト及びカプセル実験の実施等

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
薬事関連法規第3版	共著	平成23年	南江堂
新しい薬学辞典	共著	平成23年	朝倉書店
Proposal for Outcome Verification of “Iyakubungyo” and Future Directions	共著	平成24年	社団法人日本薬局学会 薬局薬学（2014.Vol.6 No1）
くすりを正しく使えない人たち 医薬品の乱用･依存の理解とサポート	共著	平成24年	じほう　月刊薬事9 （2014.Vol.56 No10）
栄養薬学・薬理学入門第2版	共著	平成25年	講談社サイエンティフィク
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
東京薬科大学ボランティア団体IVOLEAの設立と活動報告		平成26年9月14日	日本社会薬学会第33年会
薬学生による地域交流 ～アロマセラピーを用いた実践活動を通して～		平成26年9月14日	日本社会薬学会第33年会
向精神薬における薬物乱用並びに薬物依存の現状とその対策		平成26年9月14日	日本社会薬学会第33年会
「誰も後悔しない医療」を実現するために！ ～社会薬学が発展すれば、どんな医療が実現するのか～		平成27年1月24日	性と健康を考える女性専門家の会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成10年4月～現在	日本薬史学会　理事
平成14年4月～現在	性と健康を考える女性専門家の会　運営委員
平成14年5月～現在	司法薬学研究会　幹事
平成16年4月～平成21年3月	「日本医薬品情報学会」編集委員会　委員
平成16年4月～平成24年3月	日本社会薬学会　常任幹事
平成19年4月～現在	八王子市みなみ野君田小学校　学校薬剤師
平成19年4月～現在	医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験出題基準改定部会委員
平成20年4月～現在	東京都薬剤師会薬学委員会委員
平成20年4月～現在	東京都薬剤師会編集会議委員
平成24年4月～現在	医療法人社団　杉浦医院　治験審査委員会　委員
平成24年4月～現在	東京都登録販売者動物用医薬品出題委員
平成24年4月～現在	日本社会薬学会　会長

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学実務実習教育センター	職名　教授	氏名　井上　みち子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫		
学生自身による自己評価シート導入	平成19年4月 ～現在	担当する事前実務実習に、学生自身の自己評価シートを導入し、毎回、学生の振返りを促すとともに実習内容の改善ツールとして活用している。
事前実務実習内容の改善		薬剤師に求められる社会的役割について学び、その技能を修得できるよう、毎年、実習内容を見直し、本学独自の教育が出来るよう努めている。
1)模擬患者(SP)参加型教育導入	平成19年4月 ～現在	本学に SP 研究会を立ち上げ、募集・養成活動を継続している。 毎年、SP会員の事前実務実習、薬学入門演習II、OSCEへの参加の取り纏めを行っている。 大学周辺に居住する人々に SP として学生教育に参加して戴くことで、学生が多くの学びを得るとともに、大学の社会的可視化にも繋がっている。
2)フィジカルアセスメント実習導入	平成23年4月 ～現在	医薬品の有効性・安全性を確認するために、薬剤師によるフィジカルアセスメントが必要であることを学ぶために、各種症例を用いて生体シミュレーター活用した実習を実施している。
3)在宅医療に関する実習の導入	平成25年4月 ～現在	SP参加型実習によって、在宅医療への薬剤師の関わりを模擬体験させ、個々学生の気づきを促すとともに行動変容(マナー・態度の向上)を図っている。また、薬剤師による在宅医療の意義について、学生自身が考える時間となるよう努めている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
東京薬科大学事前実務実習書および事前実務実習副教材	平成19年4月 ～現在	毎年、事前実務学習のための実習書(上・下巻、毎年改訂)の主担当部分を分筆している。また、担当実習の補助資料および解説用PPT作成。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
第4回全国模擬患者学研究大会(ライフプランニングセンター主催)	平成22年12月11日	講演「薬学(部)教育に模擬患者を導入して何が変わったか～模擬患者さんが東薬に運んできてくれたもの～」
岩手県病院薬剤師会定例学習会	平成26年3月13日	講演「新しい薬剤師教育の目指すもの～大学と臨床現場の連携を求めて～」

４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）		
大学主催の FD 活動	平成 21 年以前～現在	FD 活動(講演会)に参加。
	平成 25 年～現在	研究倫理に関する CITI Japan e-learning を受講。
OSCE への参加	平成 19 年 4 月～現在	OSCE 実施委員会委員。 OSCE 時には、ステーション運営・SP トレーニング・事前実習(コミュニケーション)など担当。
実務実習	平成 21 年以前～現在	薬局・病院実習のコーディネーターとして、実習受入先および指導薬剤師と学生指導にあたっている。
SP としての活動	平成 19 年 4 月～現在	岐阜大学医学部で模擬患者の研修を受け、模擬患者会員として登録中。
ヒューマニティ･コミュニケーション教科担当	平成 24 年～現在	毎年、薬学会にあわせて開催される教科担当教員会議に参加。
学生支援 GP 世代交流プロジェクト「せんぱい最前線」講演会	平成 22 年 10 月 2 日	講師:上遠 恵子 先生、講演タイトル :「沈黙の春」レイチェル・カーソンとの出会いについてを企画・開催。
八王子市民講座・いちょう塾	平成 25 年 10 月 5 日	八王子学園年センターに於いて 講演「薬を飲む前に、知っておきたいこと ～ちょっと待ってその薬!!～」
女子中高生の理系進路選択支援プログラム	平成 25 年 10 月 19 日	未来の医療を支えるのは「あなた」のうち、企画「薬学・生命科学分野を覗いてみよう」にて、薬剤師業務の体験学習を実施。
平成 25 年度薬物乱用防止啓発活動スタートアップ検討会	平成 25 年 10 月 26 日	東京芸術センター(東京・足立区)に於いて 講演「医薬品適正使用に関する情報提供（過量服用や医薬品乱用の問題点を臨床知見から)」
岩手県病院薬剤師会定例学習会	平成 26 年 3 月 13 日	エスポワールいわて(岩手県盛岡市)に於いて 講演「新しい薬剤師教育の目指すもの～大学と臨床現場の連携を求めて～」
愛媛県研修医 OSCE 大会	平成 26 年 9 月 21 日	愛媛大学医学部に於いて 医学教育学会が主体の愛媛県研修医 OSCE 大会に、評価者および薬剤師として参加。

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
なし			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

（演題名） 輸液製剤にオレンジブックは必要ないのか？(第 1 報)	平成 26 年 9 月 27 日	日本医療薬学会　第 24 回年会
（演題名） 薬局薬剤師による在宅患者の薬剤管理に関する調査	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会(神戸)
（演題名） オピオイドナイーブ患者に対するフェンタニル貼付剤によるオピオイド導入に関する薬剤師の意識調査	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会(神戸)

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
昭和 49 年～現在	日本薬理学会(学術評議員)
昭和 49 年～現在	日本薬学会会員
昭和 21 年以前～現在	日本臨床薬理学会会員
平成 21 年～現在	日本医療薬学会会員
平成 21 年～現在	日本薬剤師会・東京都薬剤師会会員
平成 21 年～現在	日本病院薬剤師会・東京都病院薬剤師会会員
平成 21 年～現在	日本医薬品情報学会会員
平成 21 年～現在	社会薬学会会員
平成 21 年以前～平成 26 年 4 月	東京薬科大学東薬会理事
平成 26 年 6 月～現在	一般社団法人東京薬科大学同窓会東薬会理事(総務・財務担当)
平成 25 年～平成 27 年	平成 25 年度　科学研究費助成事業研究　基盤研究(C)　分担 研究題目「いのちを考える薬物乱用防止教育の実施率向上への違法ドラッグ情報を活用する応用研究」
平成 26 年	公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団 平成２６年度　調査・研究助成　　研究題目「女子大生の鎮痛薬に関する意識調査～鎮痛薬の適正使用を目指して～」

［注］１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学実務実習教育センター	職名　教授	氏名　倉本　敬二

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		実務実習事前学習における視聴覚による情報伝達（ビデオ、デモンストレーション）
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 9 月 平成 24 年 9 月	平成 21 年度病院薬局実務実習事前学習実習書 平成 24 年度病院薬局実務実習事前学習実習書 （奥羽大学）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 22 年 9 月	「図書館と薬剤師教育」 平成 22 年度日本薬学図書館協議会研究集会
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 18～21 年 平成 19～25 年 平成 22 年 12 月 平成 24 年 12 月 平成 25 年 8 月 平成 26 年 4 月 ～現在	有限責任法人薬学協議会実務実習教科担当教員会議委員 認定実務実習薬剤師養成 WS タスク（東北調整機構） 薬学共用試験 OSCE モニター員（東北大学） 薬学共用試験 OSCE モニター員（東北薬科大学） 一般社団法人薬学教育協議会医薬品情報学教科担当教員会会議委員 共用試験統括委員会委員 OSCE 実施委員会副委員長 SP 委員会委員 病院・薬局実習運営委員会委員 薬学教育 WS 実施委員会委員 薬学実務実習教育センター運営会議委員

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）処方設計にチャレンジ：これでわかる静脈栄養法	共著	平成 23 年 9 月	じほう
（著書）薬剤師に役立つ医療安全管理の考え方	共著	平成 25 年 12 月	医薬ジャーナル社
（論文）不溶性微粒子除去に対する輸液フィルターの有用性の検討	共著	平成 22 年 11 月	静脈経腸栄養 25（6）
（論文）Tissue Distribution of Intravenously Administered Insoluble Microparticles：Report2	共著	平成 24 年 9 月	Jpn.J.Pharm.Health Care Sci.38（9）
（論文）輸液製剤の後発品切替時のリスクマネジメント（Fischer 液を例	共著	平成 25 年 3 月	医薬品相互作用研究 36（3）

に）			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
輸液製剤にオレンジブックは必要ないのか?（第 1 報）		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会
脂肪乳剤におけるミセル粒子径と粒子数の製剤学的評価		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会
オピオイドナイーブ患者に対するフェンタニル貼付剤によるオピオイド導入に関する薬剤師の意識調査		平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
薬局薬剤師による在宅患者の薬剤管理に関する調査		平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 16 年 4 月～平成 22 年 3 月	日本注射薬臨床情報学会　理事		
平成 22 年 4 月～現在	日本注射薬臨床情報学会　監事		
平成 19 年 4 月～現在	日本静脈経腸栄養学会　学術評議員		
平成 23 年 4 月	東日本大震災避難所仮設診療所支援薬剤師		
平成 22 年 4 月～平成 26 年 3 月	福島県病院薬剤師会　郡山支部　副支部長		
平成 22 年 4 月～平成 26 年 3 月	同上　薬学生実務実習受入委員会　委員長		
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	一般社団法人　郡山薬剤師会　理事		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学教育推進センター	職名　教授	氏名　篠原　佳彦

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度以前～現在	２年後期必須科目「疾病と薬物治療Ⅰ」および３年前期必須科目「疾病と薬物治療Ⅲ」に用いる補助プリントを作成し、事前に配布した。図を多用し、大きなフォントを使用してスライドを作成した。新しい医学的進歩など教科書に記載の無い部分を追加し、学習意欲を高める工夫をした。学生からの授業アンケート評価を積極的に受け入れ、講義の改善を行っている。平成 26 年度の評価は概ね良好であった。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成21年度以前～現在 平成26年9月	「疾病と薬物治療Ⅰ」、「疾病と薬物治療Ⅲ」講義で使用するパワーポイントファイルを毎年新たに改正した。 平成26年度講義プリント「疾病と薬物治療Ⅰ（臨床検査）」を作成した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成24年8月 平成25年4月～現在 平成26年3月	第2回東京薬科大学カリキュラムプランニングのためのワークショップ参加。 国試対策委員長・卒試員会副委員長として、6 年生対象にガイダンスを数回行い、合格率の向上を図った。CBT 実施委員長・総合演習実施員長として、4 年生対象にガイダンス等を行い CBT・国試に対する意識の向上を図った。 CITI Japan e-learninng プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文)Altered D-methionine kinetics in rats with renal impairment.	共著	平成23年4月	Amino Acids, 40, 1205-1211.
(論文)Stable isotope dilution mass spectrometric assay for PRPP using enzymatic procedures.	共著	平成23年12月	Nucleosides, Nucleotides Nucleic Acids, 30, 1140-1146.
(論文)Decreased Extra-renal Urate Excretion is a Common Cause of Hyperuricemia.	共著	平成24年4月	Nat. Commun., 3, 764-770.

(論文)Paracellular route is the major urate transport pathway across the blood-placental barrier.	共著	平成 26 年 5 月	Physiol. Rep., 2,e2013.
(論文)Hydrophilic-interaction LC-tandem mass specrtomeric determination of erythrocyte PRPP in patients with HPRT.	共著	平成 27 年 1 月	J. Chromatogr. B, 376-377, 22-60.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名)LS-MS/MS を用いた赤血球中 5-ホスホリボシル-1-ピロリン酸測定法の開発とヒポキサンチン-グアニンホスホリボシルトランスフェラーゼ欠損症フェノタイピングへの応用		平成 26 年 8 月	第 21 回バイオメディカル分析科学シンポジウム
(演題名)Plasma kinetics of D-serine in rat		平成 26 年 9 月	第 2 回 D-アミノ酸国際会議
(演題名)Lesch-Nyhan 病に伴う脳内 ZMP の増加と神経症状の関連性に対する検討		平成 26 年 10 月	第 131 回成医会総会
(演題名)ラットにおける D - セリンの血漿中動態		平成 26 年 11 月	日本アミノ酸学会第 8 回学術大会
(演題名)アロプリノール負荷試験によるキサンチン尿症のタイプ分類		平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 6 年 1 月～現在	日本薬物動態学会評議員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 情報教育研究センター	職名　教授	氏名　土橋　朗

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	調査対象の平成 21-26 年度内で実施	1) 情報リテラシーⅠ（講義)、1 年前期 情報リテラシー講義用に教科書「医療情報リテラシー講義編（土橋　朗編)」を編纂し、各章ごとに要点をまとめた PowerPoint マテリアルを作成し、講義に利用した。 各講義では、出席カードとしてアンケート回答欄をもつSCANETシートを配布し、出席を確認すると共に、講義内容に関連するアンケート項目を用意して学生らの現状知識などを把握することに努めた。また、アンケートの集計結果は次回講義で知らせている。また、配布するSCANETシートは自由記載欄をもち、この記載欄を使って毎講義ごとに感想や質問などを集めた。 2) 情報リテラシーI 演習、1 年生前期 「医療情報リテラシー演習編　上・下巻（土橋朗編　土橋朗、小杉義幸、佐藤弘人、倉田香織著)」を教科書として編纂し、演習の解説に使用した。毎回演習の進行を円滑にするための補助プリントを作成した。PowerPoint マテリアルおよび教材用ファイルはすべて WebClass で公開した。 3) 薬学入門演習 I、1 年前期（担当学生に対する SGD および PowerPoint 講習会（選択)) 学生が携帯する薬学入門演習用のポートフォリオに、巻末資料として WebClass の利用法を掲載した。また、早期体験実習のポスター作成を支援するため、PowerPoint 講習会用を希望者向けに開催した。この講習会用のマニュアルおよび PDF 保存に関する資料プリントを作成し、学生に配布した。 4) 情報リテラシー II（講義・演習、分担)、1 年後期 ChemBioOffice による分子モデリングと

		DesignByNumbers によるグラフィクスプログラミングの講義・演習を担当し、各回の主題にそった演習プリントを配布した。 5) 医療情報（講義、分担)、3 年前期 「医療情報評価学（編集　山田安彦、編集協力　土橋　朗)」を教科書とし、担当する３回の中、２回に関してはさらにプリントを作成し、講義では要点をまとめた PowerPoint マテリアルにより講義を実施した。 講義内容に関連するアンケート項目を用意し、出席カードとして配布するアンケート回答欄をもつ SCANET シートにマークしてもらい、学生らの知識などの現状を把握するよう努めた。 6) 医療情報実習、３年後期 教科書として「疾病と薬物治療 VII　医療情報演習　実習書」を準備した。また、担当回（３回）の内容（「医学・薬学文献データベースを用いた検索」、「医薬品に関する論文の評価」、「目的に応じた医薬品情報の収集、取り扱い、管理」）ごとにワークシートを作成し、個人あるいはグループによる演習を実施した。また、補助資料として CYP 相互作用および感冒治療に関する文献を集めた文献集、妊婦・授乳婦における薬物治療のガイドライン等を編集し、学生に提供した。演習の解説に使用した PPT ファイルは WebClass にて公開した。 7) 医療薬学演習 I-iii 、4 年生前期 「日本市場から撤退した医薬品を追う」を課題とし、グループワークの中で撤退の理由や経緯、報告症例などを調査するとともに、日本以外の国での扱いやマスメディアの動き、撤退による経済的な影響などを調査させた。薬事日報データベースの使い方や、Wiki による情報の共有方法を指導した。 8) 科別英語特論（英語特論）および卒業論文研究指導、5 年生-6 年生通年 「保険薬局おける処方歴と薬歴から医薬品使用

		の実態を解析する・日米における医薬品使用の実態や医療制度を比較・検討する」と「医薬品の適正使用を推進するためのデータベースの作成」を研究主題としている。前者に関しては、薬局の薬剤服用歴（薬歴）などの患者データを資源として薬局薬剤師の服薬指導などの薬学的介入の実態を明らかにすること、また患者の服薬行動、受療行動などを解析することで、患者のアドヒアランスを高めるための方策を検討することを目的として調査研究を進めている。 隔月で研究セミナーを行い、各自の卒論テーマに関する文献調査を進めさせた。研究セミナーでは各自の研究進捗報告とは別に、薬事日報の記事紹介を行い、薬局業界における新規テーマに触れさせた。
	平成22年度より実施	9）事前実務実習、4年前期 S103（薬剤師業務に注目する）、S506（リスクマネージメント入門）、S606（服薬指導入門）、S655（服薬指導入門・一般用医薬品）に補助者として参加した。平成24年度からはS655の「模擬患者に対する実習課題薬の情報提供と質疑応答（ロールプレイ）のみに補助者として参加した。
	平成23年度より実施	10）薬学入門、1年前期 薬学入門演習Ⅰのポスター作成や発表スライドの作成に関して著作物の取り扱いについて、さらに、インターネットで起きているさまざまな悪意あるコンピュータ攻撃について講義した。 「著作権と世界平和」に関する PowerPoint スライドを作成し、講義を行った。
２　作成した教科書、教材、参考書		1）　医療情報リテラシー　講義編（土橋朗編） 2）　医療情報リテラシー　演習編（上巻）（土橋朗編） 3）　医療情報リテラシー　演習編（下巻）（土橋朗編） 4）　「医療情報評価学（編集　山田安彦、編集協力　土橋　朗）」
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし

４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 23 年 2 月 12 日 平成 23 年 2 月 25 日 平成 24 年 6 月 9 日 平成 25 年 10 月 27 日 平成 26 年 3 月	第 1 回 CDTM ワークショップ共催(主催　特定非営利活動法人　日本薬局管理学研究会) 聴診、検脈に関するセミナー の主催 杏林大学シミュレーションラボ（三鷹キャンパス）において、杏林大学医学部医学教育学・職員教育室、冨田泰彦先生による薬剤師を対象とした聴診、検脈に関するセミナーを主催した。冨田先生による医学部の OSCE の概要とメディックメディア出版の「診察と手技がみえる」第 2 版、バイタルサインの測定（26-31 ページ）および胸部聴診（75-89 ページ）に関する講義の後、京都化学社製のシミュレータを用いた臨床実習を 3～4 名のグループになって行った。 東京薬科大学情報教育研究センター設立記念シンポジウム、「医療情報ネットワークの展開と医師・薬剤師の新たなる協働-東京薬科大学情報教育研究センター設立記念シンポジウム―」 第 2 回 CDTM ワークショップ、（東京（昭和大学薬学部にて））、ディレクター CITI Japan e-learning プログラム受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書)チーム医療を円滑に進めるための CDTM ハンドブック－問題解決のための手順書－（土橋　朗ほか監訳）	共著	平成 22 年 10 月	薬事日報社
（著書）食物アレルギーA to Z―医学的基礎知識から代替食献立まで	共著	平成 22 年 11 月	第一出版
（論文）Survey of the Actual Conditions of Prescription and Adverse Events of Benzodiazepin Hypnotics (2000 - 2009)	共著	平成 23 年	J. Community Pharm. Pharm. Sci., 3(2), 86-92, 2011.
（論文）Temporal Relationship between Multiple Drugs and Multiple Events in Ppatient Reports on Adverse Drug Reactions: Findings in a Pilot Study in Japan	共著	平成 25 年	Pharmacoepidemiol. Drug Saf., 22, 1134-1137 (2013).

（論文)薬局店頭で利用可能なヘルスリテラシー測定ツールの開発に関する研究 ランニングタイトル:薬局店頭で利用可能な HL 測定ツールの開発	共著	平成 25 年	日本薬局学会誌、5(1), 60-69, 2013.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
OTC 医薬品説明文書の理解度に影響を及ぼす要因の検討		平成 26 年 6 月	第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム
OTC 医薬品購入のためのアドバイスに関するアンケート調査		平成 26 年 6 月	第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム
一般用医薬品の適正使用を指向した一般生活者のヘルスリテラシーの調査研究		平成 26 年 7 月	第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会
地域薬局分布と年齢別人口構成に関する小学校区レベルでの GIS 解析		平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
どのように日本版共同薬物治療管理（CDTM/J）を実践するか–現状と未来–		平成 26 年 11 月	第 8 回日本薬局学会学術総会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 21 年 12 月～現在	一般社団法人ソーシャルユニバーシティ主席研究員		
	特定非営利活動法人日本医療情報ネットワーク協会運営委員		
平成 25 年 5 月～現在	特定非営利活動法人医療福祉クラウド協会（MeWCA）理事（薬剤情報担当）		
平成 25 年～現在	第２回 OTC 医薬品普及啓発イベント実行委員会委員		

［注］１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物生体分析学教室	職名　教授	氏名　渋澤　庸一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 20 年 4 月 ～現在	化学平衡論、機器分析学を担当している。化学平衡論は化学物質の性質、化学反応、化学組成などにおける量的関係を解析するための基礎理論である。特に、定性、定量を扱う分析化学において不可欠の概念である。講義では分析化学に関係の深い種々の化学平衡の基礎概念を理解し、量的な解析的取扱いを習得することを目的とする。 機器分析学は生命科学や医療薬学の基礎となる。主要な機器分析学の原理を習得すると同時に、生命科学や医療薬学と密接に関連した最新技術について、今後の医療の進展と的確に結び付け、光度の薬剤師としての知識・技能を習得することを目的とする。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 20 年 4 月 ～現在	補助プリントを作成し、講義を進行しながら空欄部分を記入させる。各講義において練習問題を実施する。毎回、講義の最初に復習を行い、次の講義につながるキーワードを示し、目標を明確にしている。講義で使用するスライド、練習問題を WebClass で公開しており、予習、復習、問題解決に役立つようにしている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 26 年 3 月	日本薬学会第 134 年会 東京薬科大学薬学部における薬剤学実習について
	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会 基礎実習の際の学生管理簿の電子化による 共有効果について
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 4 月 ～現在	薬学部 FD 委員会の委員長を行っており、薬学・生命両学部で実施する FD 実施委員会主催の講演会などにも極力参加するように努めている。 また、教育倫理の学習の一環として、e-learning も実施している。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）なるほど分析化学ー数字と	共著	平成 24 年 3 月	廣川書店

なかよくする本			
（著書）演習を中心とした薬学生のための分析化学 （第5版）	共著	平成24年2月	廣川書店
（論文） Dopamine cannot promote oligomerization of unoxidized α-synuclein.	共著	平成25年	Journal of Biophysical Chemistry **4** (3) 110-114.
（論文） Comprehensive separation and structural analyses of polyphenols and related compounds from bracts of hops (*Humulus lupulus L.*).	共著	平成26年	Journal of Agricultural and Food Chemistry, **62**, 2198-2206
（論文） Evaluation of Cathepsin B Activity for Degrading Collagen IV Using a Surface Plasmon Resonance Method and Circular Dichroismspectroscopy.	共著	平成26年	J. Pharm. Biomed. Anal., **95**, 47-53.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）液体クロマトグラフィーによるバンコマイシン及びテイコプラニンの血中濃度定量法		平成26年8月	第27回バイオメディカル分析化学シンポジウム
（演題名）脂質二分子膜ステロールの酸化反応評価法に関する基礎検討		平成26年8月	第27回バイオメディカル分析化学シンポジウム
（演題名）抗てんかん薬の母乳移行性を評価するための log P 計測と一斉分離定量法の検討		平成26年9月	日本分析化学会第63年会
（演題名）二相溶媒系中での金属イオンとの錯体形成を利用する高速向流クロマトグラフィーによる血中薬物濃度の迅速定量法の検討		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
（演題名）向流クロマトグラフィーと円二色性検出液体クロマトグラフィーの組合わせによるアカネ中の環状ペプチド成分の効率的な分離精製		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
（演題名）ビール粕セラミドの効率的な抽出分離法の開発		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
（演題名）脂質二分子膜内におけるナイルブルーの蛍光増強を利用したプロテアーゼ検出法に関する基礎検討		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
（演題名）膜非破壊的な脂質二分子膜内コレステロール定量法に関する基礎検討		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
（演題名）液体クロマトグラフィーによるグリコペプチド系抗生物質の簡便迅速な血中濃度定量法の検討		平成26年11月	新アミノ酸分析研究会第4回学術講演会

（演題名）二相溶媒系中での金属イオンとの錯体形成を利用する高速向流クロマトグラフィーによる血中薬物濃度の迅速定量法の検討	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）脂質二分子膜内ナイルブルーのモノマー化を利用した蛍光プロテアーゼ定量法	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）In vivo においてポジショニングしたヌクレオソームのケミカルマッピング	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）基礎実習の際の学生管理簿の電子化による共有効果について	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 16 年 8 月～現在	国際向流クロマトグラフィー学会国際諮問委員
平成 20 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本分析化学会代議員
平成 23 年 1 月～現在	クロマトグラフィー科学会評議員
平成 23 年 2 月～現在	日本薬学会代議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬化学教室	職名　教授	氏名　三浦　剛

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成25年4月 ～現在	有機化学Ⅰ（１年次必修）: 有機化学の基礎を理解するために，有機化合物の構造，官能基と物性，化学結合について講義した. 教科書：マクマリー有機化学（上）　第８版（東京化学同人） 講義に使用した PowerPoint ファイルは Web に公開した．公開したファイルは，配布資料として紙媒体でも学生に配布した. 平成 26 年度授業評価（総合的に満足できるかについての平均値）：4.37（５段階評価）
	平成25年4月 ～現在	有機演習化学Ⅰ（１年次必修）: 基本的な有機化合物の慣用名および IUPAC 命名法を習得する。さらに，有機化合物の構造と物性を理解するために，立体配座と安定性に関する基礎知識について講義した. 教科書：マクマリー有機化学（上）　第８版（東京化学同人） 講義に使用した PowerPoint ファイルは Web に公開した．公開したファイルは，配布資料として紙媒体でも学生に配布した. 平成 26 年度授業評価（総合的に満足できるかについての平均値）：4.37（５段階評価）
	平成25年4月 ～現在	有機化学Ⅱ（１年次必修）: 有機化学反応の全般に関する基礎事項を理解するために，立体化学およびアルケンの命名法，基本構造，物理的性質，合成法の概略，反応性についてについて講義した. 教科書：マクマリー有機化学（上）　第８版（東京化学同人） 講義に使用した PowerPoint ファイルは Web に公開した．公開したファイルは，配布資料として紙媒体でも学生に配布した. 平成 25 年度授業評価（総合的に満足できるかに

		ついての平均値）：3.79（5 段階評価）
	平成 25 年 4 月 ～現在	有機演習化学Ⅱ（1 年次必修）： アルキンの命名法，合成法，反応性を修得する。次に，有機ハロゲン化合物の構造，性質，製法，反応性，立体化学との関連性について講義した． 教科書：マクマリー有機化学（上）　第 8 版（東京化学同人） 講義に使用した PowerPoint ファイルは Web に公開した．公開したファイルは，配布資料として紙媒体でも学生に配布した． 平成 25 年度授業評価（総合的に満足できるかについての平均値）：3.79（5 段階評価）
	平成 25 年 4 月 ～現在	基礎有機化学実習（1 年次後期） 有機化学の学習に必要な基礎的実験を行い，有機化合物の取り扱い方法，分離法，精製法，物性値の測定法，構造確認法などについて，原理を理解して基本的な技能を習得する。
	平成 25 年 4 月 ～現在	医薬品合成実習（3 年次後期） 有機化学および医薬品化学講義で修得する知識を基礎として，有機化学反応を組み合わせて医薬品を合成し，医薬品合成法の基礎的知識と技能を習得する。
	平成 25 年 4 月 ～現在	化学系ゼミナール（1 年次後期） １年生前期で行った有機化学Ｉおよび有機化学演習Ｉを不得意とする学生を対象に，復習を中心とした講義および演習を実施した。
	平成 25 年 4 月 ～現在	アドバンス英語（5 年次前後期） 教科書レベルの有機化学を英語で読解する演習形式の講義を実施，卒業論文作成のための基礎的英語能力を習得する。
	平成 25 年 4 月 ～現在	ラボラトリー演習（5～6 年次） まず，数週間の実験結果をまとめて発表するリサーチセミナーを定期的に実施すし，さらに，卒業論文発表会に向けた中間発表会を開催し，学生自身の卒業論文作成のためのスキルを習得する。

	平成 26 年 4 月 ～現在 平成 26 年 4 月 ～現在	創薬学概論（4 年次前期） 医薬品の創生と開発プロセルを理解するために，最近のインフルエンザ治療薬を題材に解説した。 アドバンス演習（6 年次後期） 国家試験対策の一環として，有機化学分野の総復習を演習問題形式で実施した。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 23 年 4 月 ～現在	有機化学Ⅰ講義資料(パワーポイントファイル) 有機化学Ⅱ講義資料(パワーポイントファイル) 有機化学演習Ⅰ講義資料(パワーポイントファイル) 有機化学演習Ⅱ講義資料(パワーポイントファイル)
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 8 月 平成 25 年 9 月 平成 25 年 12 月～現在 平成 25 年 12 月～現在	カリキュラムプランニングのためのワークショップに参加（東京薬科大学） 第 9 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップに参加 OSCE 本試験評価者 CITI Japan e-learning プログラム 受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Direct Asymmetric Aldol Reaction with Recyclable Fluorous Organocatalyst	共著	平成 22 年 3 月	Org. Lett., **12**, 1620-1623
（論文） An Effective and Catalytic Oxidation Using Recyclable Fluorous IBX	共著	平成 23 年 2 月	Chem. Commun., **47**, 1875-1877
（論文） Highly Effective Asymmetric Aldol Reaction in Brine Using Fluorous Sulfonamide Organocatalyst	共著	平成 24 年 5 月	Org. Biomol. Chem., **10**, 2209-2213
（論文） Solvent-free Asymmetric	共著	平成 26 年 6 月	Tetrahedron Lett., **55**,

Conjugate Addition of Malonates to Enones Using a Diaminomethylenemalononitrile Organocatalyst			4334-4337
（論文） Cinchona-Diaminomethylenemalononitrile Organocatalyst for Asymmetric Michael Addition of 1,3-Diketone to Nitroalkene	共著	平成 26 年 7 月	Tetrahedron Lett., **55**, 4619-4622
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ジアミノメチレンマロノニトリル型有機触媒を用いたケトンとアルデヒドとの立体選択的アルドール反応		平成 26 年 7 月	創薬懇話会 2014
（演題名）新規フルオラス有機分子触媒を用いた立体的炭素-炭素結合形成反応の開発		平成 26 年 9 月	フルオラス科学研究会第 7 回シンポジウム
（演題名）ピロリジン-ジアミノメチレンマロノニトリル型有機触媒を用いた不斉反応		平成 26 年 11 月	第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム
（演題名）ジアミノメチレンインデンジオン触媒を用いたケトンのマレイミドへの不斉共役付加反応		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）有機分子触媒を用いる不斉 direct vinylogous aldol 反応の開発		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）有機分子触媒を用いる不斉 Pudovik 反応の開発		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）*tert*-ブタンスルホニル基を有するプロピンアミド誘導体のエンイン閉環メタセシスによるラクタム環の構築		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	薬学教育モデルコアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員		
平成 26 年 4 月～現在	日本薬学会　学術誌（Chem. Pharm. Bull.）編集委員		
平成 26 年 5 月	八王子学園都市大学　いちょう塾（平成２６年度前期公開講座）「糖と身体の仕組み　～血液型や感染症は糖と深い関係を持つ！～」		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 応用生化学教室	職名　教授	氏名　高木　教夫

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度以前～現在	毎回、講義の最初に進行予定範囲とキーワードを示し、何を学ぶか目標を明確にしている。（生化学、薬の効き方） 教科書等に未掲載の最新の作用機序や副作用情報、および新薬に関する情報は講義用補助プリントに随時反映させ、提供・解説している。（薬の効き方）
2　作成した教科書、教材、参考書	平成25年3月 平成25年12月 平成21年度以前～現在 平成26年4月～現在 平成26年9月～現在	最新 薬の効き方（愛智出版）共著 薬がわかる構造式集（廣川書店）共著 薬理学・中枢に作用する薬物（プリント教材） 遺伝性疾患・バイオ医薬品（プリント教材） 生化学・複製，転写，翻訳（プリント教材）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成21年度以前～平成21年3月，平成23年4月～現在 平成21年4月～平成24年3月 平成21年4月～現在 平成23年4月～現在 平成23年4月～平成25年3月	薬学部教務委員会 基礎教育対策委員会（旧 入学前教育WG） 卒試委員会（旧 卒業論文関連試験委員会） 薬学部FD委員会 薬学部教務担当副主任 医療薬物薬学科　教務担当副主任 教務担当（連絡会） 実務実習評価委員会 Bコース統括・運営委員会（旧6Bコース運営委員会）

	平成23年8月31日 平成 23 年 12 月 2 日 平成25年4月～現在 平成25年8月21日、22日 平成26年3月 平成26年4月～現在 平成26年8月29日、30日 平成26年4月～現在 平成 26 年 12 月 12 日	PBLT 実施委員会 第 1 回大学コンソーシアム八王子 FD・SD フォーラムに参加し、意見交換を行った。 第 31 回 日本私立薬科大学協会教務部長会に出席 OSCE 実施委員会 ゼミナール実施委員会 自己評価 WG 第 3 回　東京薬科大学　カリキュラムプランニングのための FD 研修会へ参加し、意見交換を行った。 CITI Japan e-learning プログラム 受講 自己評価実施委員会（薬学部） 第 4 回大学コンソーシアム八王子 FD・SD フォーラムに参加し、意見交換を行った。 薬学部教務委員会 委員長 第 34 回 日本私立薬科大学協会教務部長会に出席	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書)代謝調節型グルタミン酸受容体の活性化による NMDA 受容体サブユニットのチロシンリン酸化促進	単著	平成 25 年 4 月	医学書院、生体の科学 64 : 416-417
（論文）Inhibition of src activity decreases tyrosine phosphorylation of occludin in brain capillaries and attenuates increase in permeability of the blood-brain barrier after transient focal cerebral ischemia.	共著	平成 21 年 6 月	J. Cereb. Blood Flow Metab. 29:1099-1108
（論文)mGluR1 antagonist decreased NADPH oxidase activity and superoxide production after transient focal cerebral ischemia.	共著	平成 22 年 9 月	J. Neurochem.,114：1711-1719
（論文）Intravenous injection of neural progenitor cells improved depression-like behavior after cerebral ischemia	共著	平成 23 年 8 月	Transl. Psychiatry 1: e29

（論文）Intravenous injection of neural progenitor cells facilitates angiogenesis after cerebral ischemia.	共著	平成 25 年 3 月	Brain and Behavior, 3:43-53
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Mechanisms of casticin-induced cytocidal effects against the human promyelocytic cell line HL-60		平成 26 年 8 月	13th Meeting of Consortium for Globalization of Chinese Medicine (CGCM)
（演題名）アポＥ含有リポタンパク質と alpha２-マクログロブリンの神経保護効果における役割		平成 26 年 9 月	第 57 回日本神経化学会大会 第 36 回日本生物学的精神医学会　合同大会
（演題名）Cytocidal effects of bufadienolides against human glioblastoma and pancreatic cancer cell lines		平成 26 年 10 月	第 58 回　日本薬学会関東支部大会
（演題名）ラット脳塞栓後の神経新生に及ぼす GSK-3β 情報伝達系の関与		平成 26 年 10 月	第 58 回　日本薬学会関東支部大会
（演題名）グルタミン酸誘発神経障害に対するアポ E 含有リポプロテインと alpha２-マクログロブリンの神経保護におけるバランス		平成 26 年 10 月	第 87 回　日本生化学会大会
（演題名）乳がん細胞 MCF-7 における As(III)とテトランドリンの併用による殺細胞の増殖効果		平成 26 年 10 月	第 87 回　日本生化学会大会
（演題名）ラット脳塞栓後神経新生における GSK-3β 情報伝達系の関与		平成 27 年 3 月	第 88 回　日本薬理学会年会
（演題名）グリア細胞由来 LRP1 リガンドの神経保護における役割		平成 27 年 3 月	第 88 回　日本薬理学会年会
（演題名）Involvement of histone H3 phosphorylation through p38 MAPK pathway activation in casticin-induced cytocidal effects against the human promyelocytic cell line HL-60		平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
（演題名）Contribution of Akt/MAPK signaling pathways and inhibition of metalloproteinase-2 and 9 expression to gamabufotalin-induced cytotoxicity in human glioblastoma cell line U-87		平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
（演題名）急性前骨髄球性白血病細胞株 NB4 に対する三酸化二ヒ素の作用における Nrf2/Keap1 系活性化の影響		平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
（演題名）アポＥ含有リポプロテインによる神経保護とその妨害因子の働き		平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			

平成 21 年度以前～現在	日本薬理学会 学術評議員
平成 21 年度以前～平成 22 年 9 月 平成 24 年 9 月～現在	日本薬理学会 代議員
平成 21 年度	平成 21 年度　独立行政法人 科学技術振興機構「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業」(SPP)　講師
平成 24 年 4 月～現在	薬剤師国家試験問題検討委員会　「薬理」部会委員（日本私立薬科大学協会）
	薬剤師国家試験問題検討委員会　「物理・化学・生物」部会委員（日本私立薬科大学協会）
平成 25 年 4 月～現在	日本薬学会　代議員
平成 25 年 12 月～現在	日本学術振興会　科学研究費委員会専門委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室名 分子細胞病態薬理学	職名　教授	氏名　田野中　浩一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
授業評価	平成21年～現在	毎年定期的に評価を行っており、次年度の講義内容および講義用資料の改訂に役立てている。
実習評価	平成23年～現在	実習終了時に評価を行っており、次年度の実習指導の改訂に利用している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
「最新　薬の効き方」（愛智出版）	平成21年4月～現在	薬の効き方 II・III 講義用テキスト
講義用資料	平成21年～現在	薬の効き方 II・III 講義用資料（プリント）作製（毎年改訂）
実習書	平成21年～現在	薬理学実習用テキスト（毎年改訂）
「薬と疾病」IA. 薬の効くプロセス(1)薬理2版（東京化学同人）	平成 21 年 12 月	分担（第8章 循環器系に作用する薬物） スタンダード薬学シリーズ6 日本薬学会編
薬学用語辞典（東京化学同人）	平成24年3月	共著　日本薬学会編
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		
昭和薬科大学での FD	平成 22 年 12 月	講演「大学院の現状と今後の課題」
	平成26年1月～現在	CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称

（論文） Protective effect of geranyl- geranylacetone via enhanced induction of HSPB1 and HSPB8 in mitochondria of the failing heart following myocardial infarction in rats.	共著	平成 26 年 5 月	Eur J Pharmacol. **730**: 140-147.
（論文） Possible involvement of HSP90-HSF1 multi-chaperone complex in impairment of HSP72 induction in the failing heart following myocardial infarction in rats.	共著	平成 25 年 10 月	J Pharmacol Sci. **123**: 336-346
（論文） Possible involvement of phos- phorylated heat-shock factor-1 in changes in heat shock protein 72 induction in the failing rat heart following myocardial infarction.	共著	平成 25 年 8 月	Biol Pharm Bull. **36**: 1332-1340.
（論文） Possible pathway of Na^+ flux into mitochondria in ischemic heart.	共著	平成 24 年 10 月	Biol Pharm Bull. **35**: 1661-1668.
（論文）Cardioprotective effect of nico- randil, a mitochondrial ATP-sensitive potassium channel opener, prolongs sur- vival in HSPB5 R120G transgenic mice.	共著	平成 23 年 4 月	PLoS One. **6**: e18922
（論文） Alterations in dystrophin- related glycoproteins in development of right ventricular failure in rats.	共著	平成 22 年 12 月	J Pharmacol Sci. **111**: 405-415.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）筋ジストロフィーモデルマウス心筋への超音波併用バブルリポソームによる R8 ペプチド修飾核酸デリバリーシステムの有用性評価		平成 26 年 10 月	第 58 回 日本薬学会関東支部会
（演題名）ラット脳塞栓後の神経新生に及ぼす GSK-3β 情報伝達系の関与		平成 26 年 10 月	第 58 回 日本薬学会関東支部会
（演題名）ラット梗塞心でのミトコンドリア呼吸能低下への stem cell antigen-1 陽性心筋前駆細胞移植の効果		平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会
（演題名）心筋梗塞後不全心での SMP30 含量の変化		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）ラット心臓での HSPB7 の役割		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

（演題名）ラット梗塞心への cardiosphere 由来細胞移植の効果とその作用機序	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 14 年 3 月～現在	日本薬理学会学術評議員
平成 15 年 7 月～現在	国際心血管アカデミー評議員
平成 17 年 1 月～現在	国際心臓研究学会日本部会評議員
平成 18 年 10 月～現在	日本薬理学会代議員
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	日本薬学会英文誌編集委員（薬理学部門）
平成 20 年 6 月～平成 21 年 8 月	サイエンスパートナーシップ指導教員（東京都立成瀬高等学校）
平成 22 年 4 月～平成 23 年 4 月	日本薬学会英文誌部門編集委員長（薬理学部門）
平成 23 年 3 月～現在	日本薬学会代議員
平成 24 年 7 月～平成 25 年 3 月	日本薬学会関東支部奨励賞選考委員
平成 24 年 11 月～現在	帝人ファーマ（株）ヒト組織倫理研究委員会外部委員
平成 25 年 6 月～現在	European Journal of Pharmacology 編集委員 (Editorial board)
平成 26 年 5 月～現在	第 89 回日本薬理学会年会組織委員会委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病態生化学教室	職名　教授	氏名　野水　基義

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成16年～現在	わかりやすい講義を目的に、パワーポイントとそれにそぐった独自の教材を用いて行っている。
２　作成した教科書、教材、参考書		講義用教材「細胞生物学ノート」と「生化学演習ノート」の作成。各 42 ページからなり、図やグラフ等がプリントされており、講義中に学生が自ら大事なところを書き込む形式にしている。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成23年～現在 平成26年3月	米国臨床薬学研修の計画と引率業務。 CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Reconstitution of laminin-111 biological activity using multiple peptide coupled to chitosan scaffolds.	共著	平成24年6月	Biomaterials, 33, 4241-4250.
（論文）Identification of cell adhesive sequences in the N-terminal region of the laminin α2 chain.	共著	平成24年7月	Journal of Biological Chemistry, 287, 25111-25122.
（論文）Laminin-111-derived peptide-hyaluronate hydrogels as a synthetic basement membrane.	共著	平成25年9月	Biomaterials, 34, 6539-6547
（論文）The lutheran/basal cell adhesion molecule promotes tumor cell migration by modulating integrin-mediated cell attachment to laminin-511 protein.	共著	平成25年10月	Journal of Biological Chemistry, 288, 30990-31001.
（論文）　Biological activities of the homologous loop regions in the laminin α chain LG modules.	共著	平成26年6月	Biochemistry, 53, 3699-3708.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）　Laminin Cell Adhesive Peptides for		平成26年9月	第15回赤堀コンファレンス（ド

Tissue Engineering		イツ）
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
平成 20 年 4 月～平成 26 年 3 月	日本ペプチド学会理事	
平成 23 年 1 月～平成 25 年 12 月	マトリックス研究会会長	
平成 24 年 6 月～現在	Biopolymers: Peptide Science 誌　Associate Editor	
平成 23 年 12 月～現在	日本結合組織学会理事	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 製剤設計学教室	職名　教授	氏名　瀬田　康生

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年以前 ～現在	毎回講義初めの10分ほどを前回のサマリーとし、復習している。	
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年以前 ～現在	事前配布資料、講義用PowerPoint 資料	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成 26 年 11 月 平成 26 年 12 月	「主体的な学習を促す勘所」本学FDセミナー　参加 「英国ケンブリッジ大学の学識、教育および研究」本学FDセミナー　参加	
Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）薬剤学実験法必携マニュアル	共著	平成26年4月	南江堂
（論文）Cytoplasm-responsive nanocarriers conjugated with a functional cell-penetrating peptide for systemic siRNA delivery	共著	平成25年	Int. J. Pharm., 455, 40-47 (2013)
（論文）Delivery of siRNA to the brain using a combination of nose-to-brain delivery and cell-penetrating peptide-modified nano-micelles	共著	平成25年	Biomaterials, 34, 9220-9226 (2013)
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）　Application of flow through cell dissolution test method to poorly water soluble APIs in capsule formulation for early-stage clinical trial		平成26年4月	9th World Meeting on Pharmaceutics, Biopharmaceutics and Pharmaceutical Technology
（演題名）細胞透過性ナノキャリアと経鼻投与を利用した脳への核酸デリバリー		平成26年5月	日本薬剤学会第29年会
（演題名）難溶性薬物シンプルフォーミュレーションの in vitro 溶出性評価におけるフロースルーセル（FTC）法の適用		平成26年5月	日本薬剤学会第29年会

（演題名）自己乳化型マイクロエマルション（SMEDDS）含有粉末製剤の調製ならびにラット経口投与後の in vivo 吸収特性	平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 年会
（演題名）機能性ペプチドキャリアを用いた樹状細胞への抗原導入と免疫活性	平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 年会
（演題名）抗 NF - κB siRNA/多機能性高分子ナノミセル複合体静脈投与後の関節炎治療	平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会学術集会
（演題名）PEG 修飾ならびに表面電荷の異なるリポソームの炎症部位集積性評価	平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会学術集会
（演題名）多機能性ペプチドによる鼻から脳への薬物移行性の向上	平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会学術集会
（演題名）機能性ペプチド修飾高分子ミセル/抗 NF - κB siRNA 複合体静脈投与後の大腸集積性ならびに潰瘍性大腸炎治療効果	平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会学術集会
（演題名）Intradermal RNAi therapeutic system by novel class of RNAi agents and functional peptide for atopic dermatitis	平成 26 年 7 月	41th Annual Meeting and Exposition of the Controlled Release Society
（演題名） Preparation of Redispersible Dry Powder of Self-Microemulsifying Drug Delivery System (SMEDDS) with Improved In Vivo Bioavailability of Poorly Water-Soluble Drug	平成 26 年 11 月	2014 Annual Meeting and Exposition of the American Association Pharmaceutical Science
（演題名）初期治験実施のための簡易 処方製剤の溶出挙動評価の課題	平成 26 年 12 月	製剤技術研究コンソーシアム 2014 年度 第三回研究会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成 24 年 4 月～現在	日本薬剤学会 評議員
平成 24 年 4 月～現在	製剤設計学教室研究会 実行委員長
平成 25 年 4 月～平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 年会 組織委員
平成 26 年 7 月～平成 26 年 8 月	千葉大学大学院薬学研究院 テニュアトラック教員採用に係わる選考委員会委員
平成 26 年 7 月～現在	日本医薬品添加剤セミナー実行委員

［注］ １ 各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２ 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３ 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４ 「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬品製造学教室	職名　教授	氏名　松本　隆司

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 21～24 年度	有機化学Ⅰ（１年次前期必修） 本講義では，有機化学の基本と仕組みを理解することを目的に，有機化合物の構造とその成り立ち，官能基と物性，化学結合の性質に関する基本的事項を学習する。しばしば有機化学の講義においては，板書された構造式や反応式を正確に書き写すことに学生の時間と注意力が割かれてしまいがちになる。そこで，講義中は説明内容に十分に集中してもらうよう，毎回，講義内容についての解説資料を webclass に掲載し，学生にあらかじめ download してもらっている。その上で，最重要事項に関しては，手を動かして書き写しながらも説明が理解できるように，十分に時間をかけて板書している。また，前提となる高校レベルの化学の理解が曖昧な学生も少なくないため，その復習，確認に時間を割くよう心掛けている。 有機化学演習Ⅰ（１年次前期必修） 本講義では，基本的な脂肪族炭化水素の慣用名および IUPAC 規則に従った命名法を学習する。さらに脂肪族炭化水素の構造，物性を理解するために，立体配座と安定性に関する基本的知識を学習する。講義中は説明内容に十分に集中してもらうよう，有機化学Ⅰと同様に webclass を活用している。また，黒板やノートに平面的に記載した構造式から実際の立体構造を想像することは初学者にとっては難しく，大きな障壁となっている。そこで，受講者全員に分子模型を購入してもらい，常に学生自身の手で分子模型を組み立ててもらいながら講義中を進めている。また，前提となる有機化学Ⅰの理解が曖昧な学生も少なくないため，その復習にも時間を割き，知識の定着に努めている。 有機化学Ⅱ（１年次前期必修）

		本講義では，不飽和炭化水素の命名法を学習する。また，その構造，物理的性質，合成法の概略，反応に関する基本的事項を学習する。講義中は説明内容に十分に集中してもらうよう，有機化学Ⅰと同様にwebclassを活用している。また，受講者はこの講義で初めて「反応機構」に触れることになるが，しばしば有機化学の初学者が躓くポイントとなる。そこで，一つの反応毎に，その詳細な反応機構と解説および反応例を，ノートの見開き2ページ毎にまとめた「反応機構ノート」を全ての学生に作成してもらい，随時提出を求め，添削して返すことを実践している。また，前提となる有機化学Ⅰおよび有機化学演習Ⅰの理解が曖昧な学生も少なくないため，その復習にも時間を割き，知識の定着に努めている。 有機化学演習Ⅱ（１年次前期必修） 本講義では，有機化合物の立体構造が物性，反応性，ひいては薬効にも影響を与えることを理解するために基本的知識を学習する。さらに，有機ハロゲン化合物の構造，性質，製法，反応および立体化学との関連について学習する。講義中は説明内容に十分に集中してもらうよう，有機化学Ⅰと同様にwebclassを活用している。また，有機化学Ⅱに引き続き，「反応機構ノート」を提出してもらい，添削することにより，受講者の理解度の向上とその把握に努めている。また，また，前提となる有機化学Ⅰ～有機化学Ⅱの理解が曖昧な学生も少なくないため，その復習にも時間を割き，知識の定着に努めている。
	平成23年度～	有機化学Ⅲ（１年次前期必修） 芳香族性とそれがもたらす諸性質，芳香族化合物の慣用名およびIUPACの規則に従った命名法を学習する。さらに芳香族化合物の基本的反応とそれを活用する合成計画を学習する。講義中は説明内容に十分に集中してもらうよう，有機化学Ⅰと同様にwebclassを活用している。また，有機化学演習Ⅱに引き続き，「反応機構ノート」を提出してもらい，受講者の理解度の向上とその把握に努めている。また，前提となる１年次の有機化学の理解が曖昧な学生も少なくないため，その復習にも時間を割き，知識の

		定着に努めている。
	平成 25 年度～	有機化学Ⅳ（１年次前期必修） アルコール，フェノール，チオール，スルフィド，アルデヒド，ケトンに関し，命名法，性質，基本的反応および合成法を学習する。また，カルボン酸誘導体の基本的反応を学習する。講義中は説明内容に十分に集中してもらうよう，有機化学Ｉと同様に webclass を活用している。また，有機化学Ⅲに引き続き，「反応機構ノート」の作成を促し，受講者の理解度の向上に努めている。また，前提となる１年次の有機化学および２年前期の有機化学Ⅲの理解が曖昧な学生も少なくないため，その復習にも時間を割き，知識の定着に努めている。
	平成 24,26 年度	医化学特論（大学院薬学専攻，博士課程） 複雑な立体構造をもつ有機化合物を，その立体配置を精緻に制御して合成するための方法論は，近年，飛躍的発展を遂げている。薬学領域で有機合成化学に携わる大学院生は，それら最新の成果をツールとして学び，また利用する頻度は高いが，その論理的背景を十分に理解しているとは必ずしも言いがたい。本講義では，創薬のための有機化学的基礎となる立体選択的合成反応について理解するため，その基礎理論を解説した。独自に作成したプリントを配布し，受講者と討論しながら講義を進めた。
	平成 24～26 年度	医薬品開発特論Ｉ（5,6 年共通選択） 分子軌道法の概念と有機反応:Diels-Alder 反応をはじめとするペリ環状反応は，カチオンやアニオンなどの中間体を経る極性機構でおこるわけでもなく，また，ラジカル機構でおこるわけでもない。その駆動力―何が反応をひき起すのか―が明確でないため，かつては‘non-mechanism reactions’と呼ばれた。これらの反応は「軌道の相互作用」によって理解されるものである。本講義では，医薬品合成のうえでも重要な反応を数多く含むペリ環状反応の本質を理解することを目的とし，その基礎となる分子軌道法の基本概念を解説した。自ら執筆した「新有機医薬品合成化学」（廣川書店）の第５章「ペリ環上反

		応」を使い，頻繁に質疑応答を行い，また，遷移状態図の作図，提出を求めながら講義を進め，理解度の向上と把握に努めた。
	平成 21～24 年度	ゼミナール（化学系）（１年後期，選択必修） 本学の入学者の学力レベルは幅広く，１年次の有機化学関連科目は国家試験レベルを想定したものであるにもかかわらず，十分に習得できない者も少なくなく，きわめて基本的な内容を繰り返し，時間をかけて講義せざるを得ない。そのため，有機化学を得意とし，また，知識欲の旺盛な学生の中には「もの足りなさ」を感じている者も多い。そこで，そのような学生を募り，「少し先取り有機化学」を題し，２年次，３年次に学習する有機化学の内容を１３コマかけて時間の許す限り先に進める形で講義を行っている。もの足りなさを感じている学生の知識欲を満たすことが目的であるので，通常の講義では触れることのできない，より深い内容や，最先端の知見などについても積極的に解説している。
	（その他） 平成 21 年度 ～	化学系実習Ⅰ（基礎有機化学実習）（１年次後期必修） 化学系実習Ⅱ（有機化学実習）（２年次前期必修） 化学系実習Ⅲ（医薬品合成実習）（３年次前期必修）
	平成 24～26 年度	医療薬物薬学特論-ⅰ（創薬概論）（医療薬物薬学科 4 年生）
	平成 24,26 年度	創薬有機化学特論（大学院薬科学専攻，修士課程）
２　作成した教科書、教材、参考書 新有機医薬品合成化学，廣川書店（共著）	平成 22 年 11 月	序章（1. はじめに；2. 電気陰性度と化学結合；3. 酸性度と塩基性度；4. 曲がり矢印の書き方），第 5 章（ペリ環状反応）を執筆
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年度～ 平成 21 年度～ 平成 21～25 年	実務実習訪問指導 OSCE 評価者 入学試験出題委員

	度 平成 22～25 年度 平成 26 年 3 月 平成 26 年 10 月	薬学入門講義運営委員会 CITI Japan e-learning プログラム受講 土曜研究室訪問会

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Synthesis of the Pluramycins 1: Two Designed Anthrones as Enabling Platforms for Flexible Bis-*C*-Glycosyation	共著	平成 26 年 1 月	Angew. Chem. Int. Ed., Vol. 53, No. 5, 1258-1261 (2014).
（論文）Synthesis of the Pluramycins 2: Total Synthesis and Structure Assignment of Saptomycin B	共著	平成 26 年 1 月	Angew. Chem. Int. Ed., Vol. 53, No. 5, 1262-1265 (2014).
（論文）Novel One-Pot Synthesis of Xanthones via Sequential Fluoride Ion-Promoted Fries-Type Rearrangement and Nucleophilic Aromatic Substitution	共著	平成 25 年 9 月	Synlett, Vol. 24, No. 19, 2575-2580 (2013).
（論文）Enantioselective Total Synthesis of (-)-Euxanmodin B: Axially Chiral Natural Product with Anthraquinone-Xanthone Composite Structure	共著	平成 23 年 7 月	Chem. Asian J., Vol. 6, No. 7, 1752-1756 (2011)
（論文）Regioselective Remote Functionalization of Biaryl Framework via Tethered *ortho*-Quinol Intermediate	共著	平成 23 年 2 月	Chem. Asian J., Vol. 6, No. 2, 355-358 (2011)

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Aromatic oxy-Cope 転位反応を鍵とする *C*-プレニルキサントンの合成法	平成 26 年 5 月	第 67 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム
酵素触媒による反応点遠隔位の置換基認識に基づくビフェニル誘導体の不斉非対称化反応	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
アトロプジアステレオ選択的ラクトン化反応による軸不斉ビフェニルの立体選択的合成法	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
フッ素置換によって安定化されたカルボアニオン構造をもつ双性イオンの触媒作用	平成 26 年 10 月	第 37 回フッ素化学討論会

フッ素で置換されたピリジニウム型双性イオンの動的構造とその利用	平成 26 年 10 月	第 37 回フッ素化学討論会
極安定カルボアニオン構造をもつピリジニウム型双性イオンの化学	平成 26 年 11 月	第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム
ゴミシン類の合成を指向した光学活性ジベンゾシクロオクタジエン誘導体の立体選択的合成法	平成 26 年 11 月	第 68 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム
フルオロベンゼン誘導体を活用する置換基キサントンの選択的合成法	平成 26 年 11 月	第 68 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム
ラクトン架橋鎖に第 3 級アルコール由来の不斉中心を含む軸不斉ビフェニルの立体選択的合成法の開発	平成 27 年 3 月	日本化学会第 95 春季年会
アトロプジアステレオ選択的ラクトン化反応の開発	平成 27 年 3 月	日本化学会第 95 春季年会
フルオロベンゾフェノン誘導体の芳香族求核置換反応を活用した多置換キサントンの選択的合成法	平成 27 年 3 月	日本化学会第 95 春季年会
ゴミシン類の合成を指向したジベンゾシクロオクタジエン誘導体のエナンチオ選択的合成法	平成 27 年 3 月	日本化学会第 95 春季年会
酵素触媒による反応点遠隔位の置換基認識に基づく σ 対称ビフェニルのエナンチオ選択的非対称化反応	平成 27 年 3 月	日本化学会第 95 春季年会
Aromatic oxy-Cope 転位反応を鍵とするキサントンの gem-ビスプレニル化法	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Aromatic oxy-Cope 転位反応を鍵とする 1-プレニルキサントンの合成	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
双性イオン触媒を用いたケトアセタールとケテンシリルアセタールとの反応	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
極安定カルボアニオン構造を持つピリジニウム型双性イオンの反応性に関する研究	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
炭素酸触媒を用いた連続的 Mukaiyama-Michael 反応の開発	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
光学活性なフルオロアルケン型 L-ピログルタミルグリシンアナログの合成	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成 21 年 4 月～平成 25 年３月	東京工業大学連携准教授（大学院理工学研究科）
平成 23 年 8 月～平成 27 年 7 月	日本学術振興会　特別研究員等審査会専門委員，国際事業委員会書面審査員
平成 25 年 2 月～	（公）有機合成化学協会　関東支部　幹事
平成 26 年 2 月～	（公）有機合成化学協会　関東支部　事業委員
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	九州大学先導物質化学研究所非常勤講師

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬事関係法規研究室	職名　教授	氏名　安田　一郎

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 24 年度～現在	講義：薬事関係法規と制度ⅠおよびⅡ（前期後期） 講義：日本薬局方総論
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 11 月 25 日	わかりやすい薬事関係法規・制度（初版）（廣川書店）の編集・執筆
	平成 21 年 12 月 3 日	CBT 対策と演習　薬事関係法規・制度（初版）廣川書店の執筆
	平成 23 年 11 月 10 日	衛生薬学―新しい時代―（第 3 版）（廣川書店）の執筆
	平成 24 年 4 月 10 日	パートナー生薬学　改訂第２版（南江堂）の執筆
	平成 24 年 9 月 2 日	CBT 対策と演習　薬事関係法規・制度（第２版）廣川書店の執筆
	平成 23 年 11 月 25 日	わかりやすい薬事関係法規・制度（初版）（廣川書店）の編集・執筆
	平成 27 年 2 月 15 日	わかりやすい薬事関係法規・制度（第 3 版）（廣川書店）の編集・執筆
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 24 年 8 月 1 日	薬物乱用、第 50 回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会（東京）
	平成 24 年 9 月 9 日	薬物乱用「脱法ハーブ」の現状と法規制、東京薬科大学卒後教育講座第 232 回（東京）
	平成 25 年 4 月 6 日	サプリメントに含まれるハーブ類による副作用～ハーブによる健康被害に遭わないために～、八王子学園都市大学 いちょう塾公開講座（東京）
	平成 25 年 6 月 1 日	気をつけたいハーブ、東京薬科大学 薬用植物園第 38 回公開講座（東京）
	平成 25 年 9 月 23 日	基調講演　違法ドラッグの規制と大麻対策、第 46 回日本薬剤師会学術大会（大阪）
	平成 27 年 3 月 18 日	恐ろしい危険ドラッグ、東京都立南多摩中等教育学校（東京）
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 27 年 2 月 12 日	薬学的知見に基づく「危険ドラッグ STOP」啓発活動、日本薬剤師会平成 26 年度公衆衛生・薬事衛生全国担当者会議（東京）

	平成 27 年 3 月 23 日	危険ﾄﾞﾗｯｸﾞと薬物乱用防止教育に取組む学校薬剤師、厚生労働省平成 26 年度医薬分業指導者協議会（東京）	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
違法（脱法）ドラッグの分析	共著	平成 21 年 4 月	ぶんせき(2008)、26-31
Creation and application of psychoactive designer drugs data library using liquid chromatography with photodiode array spectrophotometry detector and gas chromatography-mass spectrometry	共著	平成 21 年 8 月	Talanta(vol.77)、1245-1272
Rapid and Senstive Detection of Lophophora williamsii by Loop-Mediated Isothermal Amplification,	共著	平成 21 年 11 月	Biological & Pharmaceutical Bulletin(vol.32 No.8) 、887-891
健康食品に含まれる医薬品類似成分	単著	平成 22 年 11 月	食品衛生学雑誌（第 51 巻第 6 号)、402-407
Peyote identification on the basis of differences in morphology, mescaline content, and trnL/trnF sequence between Lophophora williamsii and L. diffusa,	共著	平成 23 年 12 月	Journal of Natural Medicines, (vol.65 No.3)、103-110
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
秤量に伴うコンタミネーションの発生		平成 26 年 10 月	第 47 回日本薬剤師会学術大会
危険ドラッグに含まれる合成カンナビノイド 5-FluoroAMB のＸ線結晶解析		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 15 年 4 月～平成 21 年 3 月	日本生薬学会評議員		
平成 18 年 4 月～平成 24 年 6 月	日本薬剤師会医薬品試験委員会委員		
平成 20 年 12 月～現在	東京都薬剤師会衛生試験所技術顧問		
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	銚子市自殺対策委員		
平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月	全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会幹事		
平成 24 年 7 月～現在	日本薬剤師会公衆衛生委員会委員		
平成 25 年 4 月～現在	全国大学保健管理協会評議員		
平成 26 年 9 月～現在	日本法科学技術学会評議員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 第 2 英語	職名　教授	氏名　大野　真

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 20 年 4 月 ～現在	主に 1、2、3 年次の英語科目を担当している。テキストの選定では、医療・薬学関係の英語と一般的な英語とのバランスを取るように配慮している。毎回の授業においては、文法事項や構文を理解したうえで正確に読解する力を養うと共に、速読やリスニング、シャドウイング、ディクテーションなどの様々な方法を取り入れて、英語の 4 技能（読む、書く、聞く、話す）が総合的に身に付くように工夫している。	
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 25 年 3 月	『医療・生命・薬学英語』ムイスリ出版（共著）	
	平成 26 年 3 月	『英語で読む　レイチェル・カーソン「サイレント・スプリング」』東京薬科大学出版会（共著）	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 13 年 5 月 ～現在	薬学部 1 年生全員を対象にして、毎年春に学内での TOEIC 試験の実施を担当。	
	平成 25 年 2 月	第 8 回　東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップ参加	
	平成 26 年 3 月	CITI Japan e-learning プログラム受講	
	平成 26 年 8 月	第 4 回　東京薬科大学　全学 FD ワークショップ参加	

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（翻訳）メリル・グーズナー『新薬ひとつに 1000 億円！？―アメリカ医薬品研究開発の裏側』	共訳	平成 21 年 10 月	朝日新聞出版
（論文）「変種の文学―『サンクチュアリ』のメカニズム」	単著	平成 22 年 4 月	日本ウィリアム・フォークナー協会学会誌『フォークナー』（第 12 号）
（論文）「ミステリーの中でのフォークナー」	単著	平成 23 年 4 月	日本ウィリアム・フォークナー協会学会誌『フォークナー』（第 13 号）

（論文集）『ウィリアム・フォークナーにおけるミステリーと二層的構造』	単著	平成 25 年 6 月	大洋社
（論文集）『「円」的構造と「選択」―ウェルティ、オコナー、漱石、安吾』	単著	平成 25 年 11 月	大洋社
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 4 年 4 月～現在	日本英文学会会員		
平成 4 年 4 月～現在	日本アメリカ文学会会員		
平成 11 年 4 月～現在	日本ウィリアム・フォークナー協会会員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学実務実習教育センター	職名　教授	氏名　三溝　和男

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
＊実務実習事前学習（事前実務実習）（4 年次前期、後期）	平成 21 年 4 月～現在	6 年制薬学部において必須となる 5 年次の病院、薬局における長期実務実習に必要な基礎知識・技能および態度を実務実習事前学習モデル・コアカリキュラムに沿って、講義・実習、演習、SGD（Small Group Discussion）により修得させている。その実習は、最大限医療現場に近い設備（模擬病棟、模擬薬局）、機械器具及び実際の医薬品、さらに学外ボランティアによる模擬患者の参加により臨場感と緊張感のあるものとしている。
＊実務実習事前学習（事前実務実習）へのフィジカルアセスメント実習の導入	平成 23 年 4 月～現在	チーム医療における薬剤師はバイタルサイン等の測定とそれらを基にしたフィジカルアセスメント能力が求められる。それらの基礎技能を修得するために生体シミュレーターを使用した実習を実施している。
＊実務実習事前学習（事前実務実習）への在宅患者対応実習の導入	平成 25 年 4 月～現在	在宅医療の進展にともない薬剤師の在宅患者への対応が重要となる。在宅患者とのコミュニケーションの技能・態度を修得するため在宅模擬患者へ対応実習を開始した。
＊調剤学（講義：3 年次後期）	平成 25 年 9 月～現在	調剤学は技能に関する内容が主となり易いが、その科学的な根拠を学ぶ事で調剤に関する理論と応用力を養う。
2　作成した教科書、教材、参考書		
＊東京薬科大学事前実務実習書（上・下）	平成 21 年 3 月～（毎年改訂）	事前実務実習主担当教員がモデル・コアカリキュラムに準拠して作成し、新たな実習内容の導入等に伴い毎年改訂を行っている。
＊事前実務実習副教材	平成 21 年 4 月～（毎年改訂）	実際の医療現場での処方を取り入れたワークシートや症例の基づくシナリオの副教材を実習に活用している。
＊理論調剤学	平成 25 年 10 月	調剤学の教科書
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
＊「文部科学省医療人養成推進等委託	平成 21 年 2 月 18	本学の実務実習事前学習について口頭発表

業務､薬学教育実務実習事前学習に関する調査･研究フォーラム」	日	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む） ＊病院･薬局長期実務実習コーディネーター	平成 22 年 4 月～現在	薬局長期実務実習の担当薬局の実習生のコーディネーターとして実習先薬局の指導薬剤師との綿密な連携を図り、実習の円滑実施と実習生の指導を実施している。
＊東京薬科大学認定実務実習指導薬剤師ワークショップタスクフォース	平成 21 年 9 月～現在（年 2 回）	薬局長期実務実習が適正に実施されるために指導薬剤師養成のためのワークショップにおいてタスクフォースを務めている。
＊研究倫理に関する e-learning	平成 26 年 3 月	研究倫理に関する CITI Japan e-learning を受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書)よくわかる OTC 薬の服薬指導	共著	平成 21 年 12 月	株式会社　秀和システム
（著書)よくわかるハイリスク薬の服薬指導	共著	平成 22 年 9 月	株式会社　秀和システム
（著書）理論調剤学	共著	平成 25 年 10 月	京都廣川書店
（論文）A Toxicity Risk Index, An Index for Warning Idiosyncratic Drug Toxicity.	共著	平成 25 年 9 月	Journal of Pharmaceutical Sciences vol.102 No.9 3447-3450
（論文)実務実習事前学習における学生の理解度の関連要因に関する検討	共著	平成 26 年 3 月	東京薬科大学紀要　第 17 号
（論文）PEODS（Personalized education on-demand system）を用いた自己振り返りとその有用性:散剤調製実習における気づきと動機付けの醸成	共著	平成 27 年 3 月	東京薬科大学紀要　第 18 号

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）輸液製剤に「オレンジブック」は必要ないのか？（第 1 報）	平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会
（演題名）オピオイドナイーブ患者に対するフェンタニル貼付剤によるオピオイド導入に関する薬剤師の意識調査	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）薬局薬剤師による在宅患者の薬剤管理に関する調査	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 21 年～平成 22 年	日本薬剤疫学会評議員
平成 21 年 4 月～現在	神奈川県立伊志田高等学校学校薬剤師
平成 21 年 4 月～現在	日本社会薬学会監事
平成 21 年 4 月～現在	Home Infusion Pharmacy(HIP)研究会副会長

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 実務実習研修センター	職名　教授	氏名　松本　有右

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 22 年度～現在 平成 22 年度～現在 平成 22 年度～現在	実務実習で利用できる過去国試医薬品頻出ランキング 400 の作成 実務実習で利用できる頻出医薬品薬効別リストの作成 薬局長期実習における薬局間の連携システムの構築
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年度～ 平成 22 年度～ 平成 22 年度～	よくわかる服薬指導の基本と要点(参考書) よくわかる OTC 薬の服薬指導(教科書) よくわかるハイリスク薬の服薬指導(参考書)
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 24 年 11 月	薬局実務実習における TBL（Team Based Learning; チーム基盤型学習）の学習効果について、過去 3 年間のデータをまとめて発表した。
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 20 年度～現在	年数回、認定実務実習指導薬剤師養成 WS もしくは学内の長期実務実習指導薬剤師養成 WS にタスクフォースとして参加、また、アドバンス WS にも参加。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文)岩手県陸前高田市における災害派遣薬剤師の活動について	共著	平成 23 年 10 月	ファルマシア　vol.47　No.10　2011
（論文)陸前高田市における東京都派遣薬剤師班岩手第 2 班としての活動について活動報告	単著	平成 23 年 10 月	薬学図書館 vol.56 No.4　2011
（著書）調剤指針第 13 改訂	共著	平成 23 年 10 月	薬事日報社
（論文)高齢者の血清クリアチニン自己簡易測定による腎排泄性薬剤の薬学的管理の可能性	共著	平成 24 年 8 月	日本腎臓病薬物療法学会誌（第 1 巻第 3 号）
（論文)学校薬剤師による水道水の残留塩素濃度測定の重要性	共著	平成 24 年 12 月	Japanese Journal of Social Pharmacy vol.31 No.2
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）医師と薬局薬剤師に対する腎機能低下患者への適正な腎機能評価のためのアンケート調査		平成 25 年 9 月	日本薬剤師会学術大会 （第 46 回日本薬剤師会学術大会学会共催シンポジウム 2013

（演題名）高齢者の血清クレアチニン自己簡易測定による腎排泄性薬剤の薬学的管理の検討	平成 25 年 9 月	日本腎臓病薬物療法学会(第 6 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2012)
（演題名）医師と薬局薬剤師に対する腎機能低下患者への適正な腎機能評価のためのアンケート調査	平成 25 年 10 月	日本腎臓病薬物療法学会(第 7 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2013)
（演題名）腎機能低下時減量を必要する薬剤の薬価基準収載医薬品内服薬に占める割合と保険薬局における処方割合の調査	平成 26 年 10 月	日本腎臓病薬物療法学会(第 8 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2014)

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 8 年 4 月～現在	八王子東京都薬剤師会理事
平成 13 年 4 月～現在	八王子市介護保険審査会委員(5 期・現在継続)
平成 15 年 4 月～現在	八王子市学校薬剤師(七国小学校，みなみ野中学校)
平成 18 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本薬剤師会薬局業務委員会委員
平成 19 年 12 月～現在	日本医療薬学会代議員
平成 24 年 4 月～現在	東京都薬剤師会常務理事
平成 26 年 10 月～現在	東京都医療安全推進協議会委員
平成 26 年 4 月～現在	日本薬剤師会調剤業務委員会委員
平成 26 年 10 月～現在	日本腎臓病薬物療法学会代議員
平成 26 年 12 月～現在	日本薬剤師研修センター研修認定制度委員会委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学教育推進センター	職名　教授	氏名　青柳　榮

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度以前～現在	1.毎回、講義する予定の項目と教科書の対応するページを明示する。2.既に学習している項目についても省略することなくわかりやすく解説する。3.要点が理解できるよう、できるだけ整理して板書する。以上の点を留意して講義している。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成24年11月	新有機医薬品合成化学　廣川書店（共著）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（総説)インカビラテインおよび関連アルカロイドの全合成	共著	平成21年4月	有機合成化学協会誌，67 巻，369-380
（著書)三環性アルカロイドの全合成	共著	平成21年11月	天然物全合成の最新動向，北泰行監修，シーエムシー出版，pp.162-174.
（論文）Toward the Racemic Total Synthesis of Hederacines A and B: Construction of an Advanced Tricyclic Intermediate	共著	平成23年5月	Organic Lett.，13，2204-2207
（総説）ハリクロリンの合成	共著	平成23年9月	有機合成化学協会誌，69 巻，1006-1019
（論文）Total Synthesis of (-)-Chamobtusin A	共著	平成24年12月	Organic Lett.，13，6374-6376

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
なし		

Ⅲ　学会および社会における主な活動

なし	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 和漢薬物学講座	職名　教授	氏名　山田　陽城

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 26 年 4 月～現在	ゼミナールによる問題解決型の教育を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 24 年 4 月 10 日発行	薬学生のための漢方医薬学（改訂第 2 版） 編集および分担著者（南江堂）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 23 年 3 月 31 日（東日本大震災による中止で記録のみ）	日本薬学会第 131 年会・一般シンポジウム発表 生薬学の伝統と革新―医療人教育の中の生薬― 「漢方医薬学の研究のめざすもの」
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FD を含む）		なし

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）Traditional Medicine	共著 (S.Kayne 編)	平成 22 年 3 月	Pharmaceutical Press (London)
（論文）Ferulic acid induces neural progenitor cell proliferation *in vitro* and *in vivo*	共著	平成 22 年 6 月	Neuroscience, 165, 515-524 (2010)
（論文）Proteomic analysis of anti-inflammatory effects of a Kampo (Japanese herbal) medicine “Shoseiryuto(Xiao-Qing-Long-Tang)” on airway inflammation in a mouse model	共著	平成 23 年 4 月	Evidence Based Complementary and Alternative Medicine, 2011, Article ID 604196, 13 page (2011)
（論文）Modulation of chemokine expression on intestinal epithelial cells by a Kampo (traditional Japanese herbal) medicine, Hochuekkito, and its active ingredients	共著	平成 25 年 12 月	Journal of Natural Medicines, 67, 626-635 (2013)
（論文）Alleviative Effects of a Kampo (a Japanese Herbal) Medicine “Maoto (Ma-Huang-Tang) “on the Early Phase of Influenza Virus Infection and Its	共著	平成 26 年 3 月	Evidence Based Complementary and Alternative Medicine, 2014, Article ID187036, 12 pages (2014)

Possible Mode of Action			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（シンポジウム招待講演）漢方薬の腸管免疫調節作用と作用成分		平成 26 年 2 月 23 日	第 31 回日本東方医学会学術大会（東京）
（招待講演）Comprehensive Approach for Elucidation of Action Mechanism of Kampo Medicines		平成 26 年 7 月 19 日	The 5th Annual Conference of the Specialty Committee of TCM Pharmaceutical Analysis of WFCMS (Nanjing)
瀉白散のウイルス性気道炎症に対する抑制作用の機序と活性成分の検討		平成 26 年 8 月 31 日	第 31 回和漢医薬学会学術大会
（基調講演）Elucidation of Action Mechanism and Active Ingredients of Kampo Medicine on Mucosal Immune System		平成 26 年 9 月 5 日	International Conference of Qi-Blood and the Specialty Committee of Qi-Blood, World Federation of Chinese Medicine Societies(Beijing)
（招待講演）Comprehensive approaches on elucidation of pharmacological actions and active ingredients of Kampo medicines		平成 26 年 9 月 13 日	The 8th JSP-CCTCNM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy (Fukuoka)
（シンポジウム講演）プロテオーム解析による香蘇散の抗うつ作用に関する脳内及び血清タンパク質の探索		平成 26 年 9 月 13 日	日本生薬学会第 61 回年会（福岡）
（招待講演）Elucidation of Possible Action Mechanisms and Active Ingredients of Kampo (Japanese Herbal) Medicines on Immune and Neural Systems		平成 26 年 10 月 13 日	PolyU2nd Botanical Symposium:Chinese Medicine and Botanicals, Understanding their Biological Actions (Hong Kong)
（基調講演）Elucidation of Action Mechanism of Multi-Ingredient Drugs, Kampo (Japanese Herbal) Medicines		平成 26 年 10 月 20 日	IUPAC 28th International Symposium on the Chemistry of Natural Products, 8th International Conference on Biodiversity (Shanghai)
（シンポジウムオーガナイザー）日本発顧みられない熱帯病治療薬開発への挑戦		平成 27 年 3 月 26 日	日本薬学会 135 年会シンポジウム（神戸）
（シンポジウム講演）DNDi による NTDs 治療薬開発のための国際パートナーシップ		平成 27 年 3 月 26 日	日本薬学会 135 年会シンポジウム（神戸）
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
昭和 62 年 8 月～現在	和漢医薬学会評議員		
平成 8 年 5 月～現在	（財）日中医学協会評議員（平成 26 年より公益財団法人）		
平成 13 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本小児東洋医学会理事		

平成 15 年 7 月～平成 23 年 5 月	Scientific Advisory Committee, Drugs for Neglected Disease *initiative* (DND*i*) 本部：Geneva
平成 16 年 1 月～現在	日本生薬学会漢方薬・生薬研修委員会委員
平成 16 年 4 月～平成 21 年 3 月	和漢医薬学会理事
平成 18 年 8 月～平成 23 年 9 月	日本学術会議連携会員
平成 20 年 6 月～平成 25 年 3 月	日本生薬学会評議員
平成 21 年 4 月～現在	財団法人日中医学協会運営委員会委員
平成 21 年 11 月～現在	特定非営利活動法人 DNDi Japan 理事長
平成 22 年 1 月～平成 24 年 3 月	富山大学和漢医薬学総合研究所運営協議会委員
平成 22 年 4 月～平成 26 年 3 月	和漢医薬学会理事
平成 22 年 4 月～現在	日本臨床中医薬学会副理事長
平成 25 年 2 月～現在	（一財）北里環境科学センター理事
平成 25 年 4 月～現在	（公財）日本薬剤師研修センター特別顧問
平成 25 年 7 月～現在	（一財）糧食研究会評議員
平成 26 年 4 月～現在	和漢医薬学会監事
平成 26 年 10 月～現在	公益社団法人　日本薬剤師会薬局製剤・漢方委員会委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 分析化学教室	職名　教授	氏名　袴田　秀樹

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
臨床分析化学（2 年）	平成 16 年 4 月 ～現在	アクティブ・ラーニングへの取り組みとして、各自が興味のある課題を選定し、それについてまとめるレポート提出を 1 回行っている。また、教科書としてプリントを作成し、修得すべき内容をあらかじめ提示している。
無機化学（1 年）	平成 20 年 4 月 ～現在	授業の初日に修得すべき内容を課題として提示し、目標を明確に設定している。小テストとして演習問題を複数回行い、問題解決能力の向上を図っている。
分析化学実習（2 年）	平成 14 年 4 月 ～現在	機器分析以外はなるべく個別に実験を行うようにし、WebClass を活用したタイムリーな実験データの報告とフィードバック、後日の紙ベースでのレポート提出を行い、段階的に実験を理解できる工夫を行っている。
分析化学演習（2 年）	平成 16 年 4 月 ～現在	教員による解説、学生同士のスモールグループ討議（SGD）による解答作成を繰り返し、問題演習と簡単な実験を通して分析化学的な知識と計算力が身に付くようにしている。
薬学入門演習Ⅰ（1 年アドバイジー）	平成 16 年 4 月 ～現在	早期体験実習の準備と実習後の総括に SGD を行い、薬学を学ぶ動機付けを図っている。
物理系ゼミナール（2 年）	平成 19 年 4 月 ～現在	薬局薬剤師の先生に薬局についての導入をしていただき、薬局に関連することを分担して調査、プレゼンを行った上で薬局見学に出向き、その総括としてプレゼンと学生同士の相互評価を行い、各自の将来展望について考えてもらっている。
基礎物理集中講義（1 年）	平成 21 年 4 月	入学直後の 1 年生に化学の問題演習を行い、基準

		未達者には個別に理解の向上を図った。
実用薬学英語（3 年）	平成 21 年 4 月 ～現在	毎回問題プリントを配布し、授業の終わりに各自が解答を記入したものを回収、次回には返却し、授業に集中できるように工夫している。
科別特論演習　I-i セルフメディケーション（4 年）	平成 21 年 4 月 ～現在	血糖測定器の製造販売メーカーとタイアップした講義と血糖測定実習、チェーンドラッグストアに勤務する薬剤師の先生による「薬局における簡易計測」の講義に加え、学生の相互及び自己評価に webclass を活用し、セルフメディケーションのための簡易計測を体感できるように努めている。
総合物理演習（4 年）	平成 21 年 4 月 ～現在	コアカリ C2(3)と C3 の部分の練習問題作成と解説を行い、分析化学的な知識の復習を行っている。
科別英語特論（4 年、教室内）	平成 19 年 4 月 ～現在	分析法バリデーションに関する英文テキストの配布とその和訳提出に webclass を活用している。
アドバンス英語（5 年、教室内）	平成 22 年 4 月 ～現在	TOEIC 受験用教材と TOIEC テスト講演会の感想文提出に webclass を活用している。
２　作成した教科書、教材、参考書		
薬剤師に必要な臨床機器分析 秋澤俊史編、廣川書店	平成 22 年 8 月	袴田秀樹、小谷　明、臨床検査における標準物質と標準化
無機化合物・錯体　～生物無機化学の基礎～　第 2 版 梶　英輔編、廣川書店	平成 22 年 11 月	古石裕治、袴田秀樹、無機医薬品の純度試験
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）		
FD 講演会	平成 21 年度 ～現在	年 2 回ほど開催される本学主催の FD 講習会に出席し、自己啓発に努めている。
研究倫理の e-learning	平成 25 年度 ～現在	CITI Japan e-learning プログラムを平成 25 年度まで受講完了した。

第3回東京薬科大学カリキュラムプランニングのためのFD研修会	平成25年8月21日、22日	受講者として参加し、ワークショップ形式でカリキュラムプランニングを行いながら、本学の教育問題を討議した。	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Electrochemical oxidation of cholesterol in acetonitrile leads to the formation of cholesta-4,6-dien-3-one.	共著	平成21年11月	Electrochim Acta 54, 6412-6416.
（論文）Simultaneous determination of β-sitosterol, campesterol, stigmasterol, and brassicasterol in serum by high-performance liquid chromatography with electrochemical detection.	共著	平成22年2月	Anal Methods 2, 174-179.
（論文）Detection of oxysterols in oxidatively modified low density lipoprotein by MALDI-TOF MS.	共著	平成23年4月	Eur J Lipid Sci Tech 113, 423-429.
（論文）Simultaneous determination of serum lathosterol and cholesterol by semi-micro high-performance liquid chromatography with electrochemical detection.	共著	平成23年4月	J Chromatogr B 879, 751-755.
（論文）An ultra performance liquid chromatographic method for determining phytosterol uptake by Caco-2 cells.	共著	平成24年2月	Anal Biochem 421, 86-91.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）マイクロ電気化学検出HPLCによるカテコールアミン類の迅速・高感度分離計測		平成26年5月	第74回分析化学討論会
（演題名）ISO 11843-7を利用した 日局「液体クロマトグラフィー」 システム再現性の評価： グラジエント法の場合		平成26年8月	第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS 2014）
（演題名）ボルタンメトリーに基づく油脂の酸価測定用センサの開発		平成26年8月	第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS 2014）
（演題名）LC-MS/MSによる酸化ステロール定量のための誘導体化法の検討		平成26年8月	第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS 2014）

（演題名）高エルゴステロール食負荷 SHRSP ラットにおける血中ブラジカステロール定量	平成 26 年 9 月	日本分析化学会第 63 回年会
（演題名）血中多価不飽和脂肪酸定量のための電気化学検出 HPLC	平成 26 年 9 月	2014 年電気化学秋季大会
（演題名）菊花中のルテオリンとカフェオイルキナ酸類の含有量に及ぼす硫黄燻蒸の影響	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）キノンの還元前置波に基づくミコフェノール酸の電気化学検出 HPLC	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）HILIC カラムを用いた電気化学検出 HPLC によるシネフリンの高感度定量法の開発	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）3,5-ジ-tert-ブチル-1,2-ベンゾキノンの還元前置波に基づく油脂の酸価測定用センサの開発	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）UPLC によるラット血清エルゴステロール及びブラジカステロールの定量と LC-ESI-MS/MS による確認	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）カラム型フロー電解セルを用いるコレステロールの電極酸化	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）LC-IT-TOF-MS によるヒト血清脂質の網羅的検出	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）電気化学検出 HPLC によるミコフェノール酸の定量	平成 26 年 11 月	第 60 回ポーラログフィーおよび電気分析化学討論会
（演題名）電気化学検出 HPLC による多価不飽和脂肪酸のヒト血中動態分析	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 134 年会
（演題名）カラム電極電解システムを用いるコレステロールの酸化反応における副生成物の同定	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 134 年会
（演題名）アミノ酸度センサを目指した余剰酸の電気化学測定	平成 27 年 3 月	電気化学会第 82 回大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 10 年 6 月～現在	日本動脈硬化学会評議員
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	日本分析化学会関東支部常任幹事
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	日本分析化学会学会誌「分析化学」編集委員
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本分析化学会　役員等候補者選考委員

［注］１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬品化学教室	職名　教授	氏名　林　良雄

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 26 年 4 月	６年制薬学を意識した医薬品化学の講義を開始し、薬を化学構造に基づき説明できる薬剤師を養成する講義をスタートさせた。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 25 年 12 月 平成 26 年 3 月	１）薬がわかる構造式集（第 1 版）廣川書店（共著） ２）ベーシック創薬化学（第 1 版）化学同人（共著）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 25 年 3 月	日本薬学会第 133 年会において、教育フォーラム「臨床薬学教育における米国臨床研修の現状と展望」を主催
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 24 年 11 月	日本薬学会第２回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）リードスルー機能に着目した遺伝子疾患治療薬の創製研究	共著	平成 26 年 10 月	日本薬学会、ファルマシア１０月号
（論文）Discovery of selective hexapeptide agonists to human neuromedin U receptors types 1 and 2.	共著	平成 26 年 7 月	J. Med. Chem. 57, 6583-6593.
（論文）Discovery of natural products possessing selective eukaryotic readthrough activity: 3-epi-deoxynegamycin and its leucine adduct.	共著	平成 26 年 7 月	ChemMedChem 9, 2233-2237.
（論文）Development of a new benzophenone-diketopiperazine-type potent anti-microtubule agent possessing a 2-pyridine structure.	共著	平成 26 年 7 月	ACS Med. Chem. Lett. 5, 1094-1098.
（論文） Identification of the minimum peptide from mouse myostatin prodomain for human myostatin inhibition	共著	平成 27 年 1 月	J. Med. Chem. in press.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）Medicinal Chemistry of Peptidic Compounds for the Treatment of Muscular Diseases	平成 26 年 9 月	15th Akabori Conference (Boppard, Germany)

（演題名） Identification of Small Myostatin Inhibitory Peptides.	平成 26 年 9 月	33rd European Peptide Symposium (Sofia, Bulgaria)
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
平成 25 年 2 月 1 日～平成 27 年 1 月 31 日	薬学会関東支部幹事	
平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日	日本ペプチド学会理事	
平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 1 日	日本薬学会医薬化学部会メディケムニュース編集委員	
平成 26 年 10 月 9 日～平成 27 年 3 月 31 日	日本薬学会 役員候補者選考委員会委員	
平成 27 年 2 月 1 日～平成 28 年 1 月 31 日	薬学会関東支部幹事	

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 生化学教室	職名　教授	氏名　佐藤　隆

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 1) 教育内容の工夫：身近な話題（例）との関連付け，キャリア教育の実践 2) 教育方法の工夫：前回講義の振返り，スライド資料（要点）の配布，例題の活用，模擬面接，適性試験の実施 3) 学生による授業評価の活用：板書やスライド作成等の工夫	平成21年度以前～現在	主な講義科目：生化学Ⅰ，生化学Ⅱ，生化学Ⅲ，バイオ医薬品とゲノム情報，薬剤師の職能と自己将来展望，生化学実習，薬学入門演習Ⅰ等. 身近な話題や日常的な事例と関連付け，かつ講義冒頭に前回の講義内容の復習をすることで理解を深める工夫をしている．また，講義資料は重要箇所を空欄にしておき，各自に記入させることで講義に集中させるようにしている．さらに，口頭または板書等による例題に対して，挙手による回答を求める参加型の講義を心がけている．一方，「薬剤師の職能と自己将来展望」では実践的キャリア教育を立ち上げ，適性試験や模擬面接等を経験して自分の進路について考え，準備を始めるきっかけとなっている. 学生よる授業改善のためのアンケートでは，講義での話し方，補助資料・スライド，板書，学生からの質問対応等において評価がよかった.
2　作成した教科書、教材、参考書		
1)　CBT 対策と演習生化学（廣川書店）	平成21年3月31日	CBT対策用の生化学演習問題
2)　スタンダード薬学シリーズ４・生物系薬学　II.生命をミクロに理解する第２版（第23章）（東京化学同人）	平成 22 年 12 月10日	薬学教育モデル・コアカリキュラムに掲げる到達目標(SBO)に準拠する教科書
3)　スタンダード薬学シリーズ４・生物系薬学演習問題集　II.生命をミクロに理解する（第23章）（東京化学同人）	平成23年6月28日	薬学教育モデル・コアカリキュラムに掲げる到達目標(SBO)に準拠する演習問題集
4)　変貌するざ瘡マネジメント・皮膚科臨床アセット，培養脂腺細胞から得られた最新の知見（中山書店）	平成24年1月31日	皮膚科医および皮膚科学研究者に向けた最新知見を含む参考書
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし

４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）			
1) 第１回東京薬科大学学内認定実務実習指導薬剤師ワークショップ	平成 21 年 10 月 11 日、12 日	実務実習指導薬剤師ワークショップに参加、修了した	
2) 薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会委員（日本私立薬科大学協会）	平成 24 年 5 月 19 日	生物系担当教員として出席	
3) 平成 25 年度サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)	平成 25 年 8 月 1 日、2 日	千葉県銚子市立銚子高等学校の生徒の実験指導（事前・事後講義含む）	
4) 慶応大学薬学部共用試験 OSCE(事前講習会含む）における外部評価者	平成 25 年 12 月 8 日	外部評価者として慶応大学薬学部の薬学教育に協力	
5) 研究倫理に関する e-learning を受講、修了	平成 26 年 3 月 14 日	CITI Japan プロジェクトカリキュラム：責任ある研究行為（基礎編）、ヒトを対象とした研究（基礎編）を受講、修了	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Involvement of Propionibacterium acnes in the augmentation of lipogenesis in hamster sebaceous glands in vivo and in vitro.	共著	平成 21 年 9 月	J. Invest. Dermatol. 129, 2113-2119
（論文）Identification and characterization of ABCB1-mediated and non-apoptotic sebum secretion in differentiated hamster sebocytes.	共著	平成 23 年 12 月	Biochim. Biophys. Acta 1811, 1090-1096
（論文）A novel functional site of extracellular matrix metalloproteinase inducer (EMMPRIN) that limits the migration of human uterine cervical carcinoma cells.	共著	平成 24 年 1 月	Int. J. Oncol. 40, 236-242
（論文）Differentiated hamster sebocytes exhibit apoptosis-resistant phenotype by the augmentation of intracellular calcium level in vitro.	共著	平成 25 年 1 月	Exp Dermatol. 22, 57-59

（論文）Adapalene suppresses sebum accumulation via the inhibition of triacylglycerol biosynthesis and perilipin expression in differentiated hamster sebocytes in vitro.	共著	平成 25 年 6 月	J. Dermatol. Sci. 70, 204-210
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ヒト脂腺細胞の培養法の開発とその細胞特性の解析		平成 26 年 5 月	第 113 回 日本皮膚科学会総会
新規に開発した照射装置を用いた近赤外線の皮膚に対する影響の基礎検討		平成 26 年 6 月	第 39 回日本香粧品学会
ヒト子宮頸部ガン細胞 SKG-II における微小包を介したガン転移促進因子 EMMPRIN 分泌のホルモン調節		平成 26 年 6 月	第 46 回日本結合組織学会学術大会・第 61 回マトリックス研究会大会　合同学術集会
ヒト子宮頸部ガン細胞 SKG-II における微小包を介したガン転移促進因子 EMMPRIN 分泌のホルモン調節		平成 26 年 6 月	第 72 回西東京内分泌代謝研究会
新規に開発した照射装置を用いた近赤外線の皮膚に対する影響の基礎検討		平成 26 年 7 月	第 32 回日本美容皮膚科学会総会・学術大会
Novel anti-tumor metastatic actions of shikonin, a pigment from Lithospermum erythrorhizon, and p-cymene, a monoterpenoid from Angelica acutiloba, in human fibrosarcoma HT-1080 cells		平成 26 年 8 月	The 13th Meeting of Consortium for Globalization of Chinese Medicine
Augmentation of sebum secretion by Propionibacterium acnes through an increase in ABCB1-mediated transporter activity in differentiated hamster sebocytes		平成 26 年 9 月	44th Annual European Society for Dermatological Research Meeting
Novel anti-tumor metastatic actions of p-cymene, a monoterpenoid from Angelica acutiloba, in human fibrosarcoma HT-1080 cells		平成 26 年 9 月	1st International Academic Conference of Angelica sinensis 2014
皮膚に対する影響の基礎研究：各種皮膚構成細胞に対する近赤外線照射実験		平成 26 年 9 月	第 4 回近赤外線研究会
皮脂産生・分泌に着目した新規肌潤い成分の *in vitro* スクリーニングモデル		平成 26 年 10 月	第 5 回化粧品開発展アカデミックフォーラム
皮脂分泌の分子機構：培養脂腺細胞から見えてきた新たな皮脂分泌調節の可能性		平成 26 年 11 月	第 44 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会
Inflammatory actions of near-infrared radiation by increasing MMP-1 and IL-8 production in human dermal fibroblasts		平成 26 年 12 月	日本研究皮膚科学会第 39 回年次学術大会・総会
抗悪性腫瘍薬ゲフィチニブによるざ瘡様皮疹の発症機構		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

ハムスター脂腺細胞の皮脂産生・蓄積に対しリゾホスファチジン酸および環状ホスファチジン酸は異なる作用を示す	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
平成 13 年 6 月 7 日～現在	日本結合組織学会　評議員	
平成 23 年 8 月 26 日～現在	日本病態プロテアーゼ学会　評議員	
平成 24 年 7 月 9 日	NHK 番組 あさイチ「夏の毛穴革命」に出演	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 免疫学教室	職名　教授	氏名　大野　尚仁

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成20年度～	総合ゼミナールにて「卒後教育講座に参加しよう」を実施（毎年、前・後期）生涯学習の重要性を在学中に認識させている。
	平成23年度～	総合力醸成のために「問題作成演習」を6年次生に実践。チーム力を醸成することを期待。都合により2年間で中断。平成26年度には課題研究の一部として5年次生に実施。
	平成24年度～	1～３年次のゼミナールガイダンスで「薬剤師に求められる基本的資質」アンケートを実施。毎年前後期のガイダンスで実施することで、アウトカムの定着化を図っている。
	平成25年度～	課題研究コース（5年次）に１年生を指導する機会を設けた（屋根瓦教育の実践）教えることを通じて、学びを促進することを期待。11月に問題作成演習を実施し，基礎と臨床の意識づけならびにチーム力の強化を図った.
	平成26年度～	課題研究コース（4・5年次）に，e-learning教材（Doc.com）を導入し反転講義を取り入れた. また，PROGテストを導入，学生によるミニＷＳを導入，クリッカーを導入，
2　作成した教科書、教材、参考書	平成22年 平成22年	免疫学概説（第3版、廣川書店） 最新 薬の効き方（愛智出版）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年7月	第43回日本医学教育学会大会（発表） ＊薬学部5年次の実務実習を補完する小人数教育プログラム ＊医療連携を志向した合同ワークショップ開催報告
	平成23年10月	情報文化学会　第８回　関東支部研究会（発表） ＊多職種連携を志向した合同ワークショップ
	平成24年7月	第44回日本医学教育学会大会（発表） ＊カリキュラム立案を題材とした学部間合同ワークショップの試み
	平成24年10月	第45回日本薬剤師会学術大会（発表） ＊薬学生の医薬品流通に関するキャリア教育と意識
	平成25年7月	第45回日本医学教育学会大会（発表） ＊薬学部における少人数選択科目「ゼミナール」の実施例：患者目線で病気を考えてみよう ＊薬学部における課題研究の導入としてのラボワークショップの試み ＊長期実務実習を終えた薬学生が身につけた基本的資質
	平成26年1月	平成25年度コミュニケーション教育学会（発表） ＊卒論生のチーム力醸成のためのラボワークショップの試み

	平成27年1月	平成26年度コミュニケーション教育学会（発表） ＊パフォーマンスの向上を目指したコミュニケーション演習の試み
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成22年度より	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ，日本薬学会学生ワークショップ、日本薬学会アドバンストワークショップ、薬学教育協議会ワークショップ、学内の長期実務実習のためのワークショップ，全学 FD ワークショップ、ならびにカリキュラム作成のための研修会にタスクフォースとして参加. 平成22年度　12回 平成23年度　18回 平成24年度　11回 平成25年度　15回 平成26年度　11回
	平成24年度より	長期実務実習のためのワークショップにおいて，杏林大学医学教育学　赤城美智男教授による SEA（Significant Event Analysis）ならびにフィードバックに関する実践的セッションを立案して実施
	平成 25 年 12 月～現在	CITI Japan e-learning プログラム受講
	平成26年1月	スピリッス賞受賞 （学内　対象：大学基準協会自己評価）
	平成26年3月	FD講演会として、東京医大　荒井孝夫教授を招聘し、「良い講義とは」の講演会を開催。
	平成26年7月	第一回東京薬科大学指導薬剤師のためのアドバンストワークショップを企画・立案ならびにタスクフォースとして参加
	平成26年8月	第4回全学FDワークショップにて、e-ポートフォリオならびにティーチングポートフォリオのテーマを立案し、東京医大　泉美貴教授、大阪高専　北野健一教授を招聘するとともに、タスクフォースとして参加
	平成 26 年 11 月	教育賞（私立薬科大学協会）

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）βグルカンの基礎と応用―感染，抗がん，ならびに機能性食品へのβグルカンの関与―	編集ならびに分担執筆	平成22年3月	CMC出版
（著書）Detrimental Effects of β-Glucans.” β Glucans-Mechanisms of Action. Biology and Chemistry of β Glucan	共著	平成22年4月	Bentham Science Publishers
（論文）CAWS administration increases the expression of interferon gamma and complement factors that lead to severe vasculitis in DBA/2 mice	共著	平成24年2月	BMC Immunology 14

（論文）Important role of CCR2 in a murine model of coronary vasculitis	共著	平成 25 年 10 月	BMC Immunology 13
（論文）An ITAM-Syk-CARD9 signalling axis triggers contact hypersensitivity by stimulating IL-1 production in dendritic cells	共著	平成 26 年 5 月	Nature Communication
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
酵素合成グリコーゲンの腸管免疫活性化作用の検討		平成 26 年 年 5 月	第 68 回日本栄養・食料学会大会
外因性β-glucan の *Aspergillus fumigatus* 抗真菌薬感受性への影響		平成 26 年 6 月	第 35 回関東医真菌懇話会学術集会
＊ミエロペルオキシダーゼ欠損マウスのカンジダ死菌肺炎重篤化機構 ＊マウス白血球におけるリグニンポリマー認識ならびに自然免疫応答		平成 26 年 7 月	第 25 回日本生体防御学会学術総会
Agaricus brasiliensis 由来 lac5 遺伝子のクローニング		平成 26 年 9 月	第 66 回日本生物工学会
β-glucan 添加培養による *Aspergillus fumigatus* 菌体の構造変化と生物活性の特徴		平成 26 年 9 月	第 26 回微生物シンポジウム
機能性多糖画分の抽出・定量における免疫受容体分子の応用		平成 26 年 9 月	第 9 回遺伝子栄養学研究会学術集会
マウス白血球のリグニンポリマーに対する応答性の系統間格差		平成 26 年 10 月	日本食品免疫学会　第 10 回学術大会
＊*Aspergillus fumigatus* 菌体外可溶性多糖画分の物性と生物活性 ＊融合型多糖受容体発現による真菌多糖検出細胞の作製		平成 26 年 10 月	第 97 回日本細菌学会関東支部総会
＊*Sasa veitchii* 高分子画分による，マクロファージの抗 *Candida* 活性の増強について ＊真菌細胞壁β-glucan 刺激好中球による NETs 形成の検討		平成 26 年 11 月	第 58 回日本医真菌学会総会学術集会
川崎病類似マウス血管炎モデルとサイトカイン CAWS 血管炎の系統差		平成 26 年 11 月	第 20 回 MPO 研究会
パフォーマンスの向上を目指したコミュニケーション演習の試み		平成 26 年 1 月	第 5 回コミュニケーション教育学会
＊抗β-glucan 抗体のβ-glucan 刺激マクロファージの活性酸素産生に与える影響 ＊*Candida albicans* 菌体外可溶性画分（CAWS）の菌株間での活性の比較検討		平成 26 年 2 月	真菌症フォーラム 第 16 回学術集会
＊Chimeric antigen receptor(CAR)発現によるβグルカン検出レポーター細胞の作製 ＊血管炎モデルマウス作製のための *Candida albicans* 由来多糖の効率的調整法の確立ならびに生物学的解析 ＊*Candida albicans* 由来多糖抗原の溶解性の違いが血管炎症誘発活性に与える影響 ＊可溶性β-グルカンのマウス消化管内における高感度検出法の確立 ＊薬用茸アガリクスによるヒト血中抗β-グルカン抗体価の上昇とカンジダ菌貪食における抗体の影響 ＊クマザサエキスによる細胞間相互作用を介したサイトカイン産生抑制について		平成 26 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会

＊C 型レクチン(Dectin-1 及び-3)の機能解析及び受容体間相互作用の検討 ＊β-グルカン認識タンパクを用いたβ-グルカン検出システムの検討 ＊外因性 beta-glucan による *Aspergillus fumigatus* 抗真菌薬感受性変化とメカニズムの検討 （シンポジウム）薬学教育における要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーションの取り組みと展開	平成 26 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
無脊椎動物の自然免疫受容体は真菌β-グルカン糖鎖の微細構造を識別する	平成 26 年 3 月	第 88 回日本細菌学会総会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 20 年 4 月以前に就任～現在	日本医真菌学会理事
	日本生体防御学会運営委員
	日本エンドトキシン学会運営委員
	日本細菌学会評議員
	日本医学教育学会評議員
	内毒素・LPS 研究会運営委員
	薬学共用試験センター総務委員会委員
	Editor, Int. J. Med. Mushrooms
	Associate Editor, Microbiology & Immunology
	Editorial Board, International Immunopharmacology
平成 22 年 4 月～現在	関東地区調整機構　WS 委員会委員
	東京都薬剤師会　実務実習拡充委員会委員
	日本薬学会　薬学教育委員会，委員ならびに協力委員
	薬学教育協議会　ワークショップ委員会委員
平成 24 年度～平成 25 年度	薬学教育評価機構　評価委員副委員長
平成 24 年度～平成 26 年度	薬学教育評議会　評価実施委員
平成 26 年 6 月	第 23 回内毒素・LPS 研究会　代表世話人 （会場：順天堂大学医学部にて開催）
平成 27 年 1 月～	日本生体防御学会理事

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物送達学教室	職名　教授	氏名　新槇　幸彦

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平 21 年～現在	物理薬剤学（２年前期、全クラス） 前期 15 回，物理薬剤学の基礎に関して講義.「書いて理解する」モットーに板書を中心にした授業を展開.　毎回,前回の復習を兼ね，質疑応答の時間を 10 分程度とっている．毎年実施している授業評価では，文字が汚い，消すのが早いなどの指摘を数名の学生から受けており，この点を意識して毎回授業に望んでいる.
	平成 22 年～現在	医薬品生産特論（６年前期，選択） 抗体医薬，分子標的薬，核酸医薬，ワクチンなど新たなコンセプトで創生される医薬品に関して，最新の情報を提供している．当該分野で活躍されている本学出身の先輩を外来講師として,講義の一部を担当している.　最新の話題であり，学生は興味深く講義に参加している.　感想や自分の思いをレポートとして提出.
	平成 21 年～現在	科別特論（４年前期,　学科別選択） 自分で調べて，まとめて，発表して，質疑応答という，問題解決能力を涵養する授業の一つであると捉えている．私の専門が薬剤学であり，DDS に関する研究を行っていることから，テーマとしては,「夢の DDS の創生」を掲げている．初めの３コマ，最近の DDS 製剤に関して，その誕生の背景など座学での講義を行い，１グループ４～５名の各グループにテーマを与え，SGD により各グループの「夢の DDS」を創生し，発表・質疑応答している．これまでの３年間の学習の一つの集大成ととらえているが，グループによる温度差があることは否めない.
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 24 年 3 月 平成 24 年 3 月	・最新薬剤学（廣川書店）第 10 改訂 ・新薬剤学（改訂第３版）（南江堂）

	平成 24 年 3 月	・物理薬剤学・製剤学―計算問題の解法―（廣川書店）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年～現在 平成 21 年～現在 平成 22 年 12 月 平成 23 年 12 月 平成 25 年～現在 平成 25,26 年度 平成 26 年 3 月	・東京薬科大学実務実習のための WS におけるタスクフォース（毎年２回） ・実務実習コーディネーター(薬局担当) ・医療系学部教員による合同ワークショップのタスクフォース ・東京薬科大学 FD 研修会のタスクフォース ・東京薬科大学実務実習のための WS におけるディレクター（毎年２回） ・新入教員のためのミニ教育ワークショップのオブザーバー ・CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Involvement of protein kinase Cd in induction of apoptosis by cationic liposomes in macrophage-like RAW264.7 cells.	共著	平成 22 年 3 月	FEBS Lett. 584, 1016-1020 (2010).
Involvement of lipid rafts in macrophage apoptosis induced by cationic liposomes.	共著	平成 23 年 4 月	Arch. Biochem. Biophys. 508, 72-77 (2011).
Involvement of actin cytoskeleton in macrophage apoptosis induced by cationic liposomes.	共著	平成 24 年 2 月	Arch Biochem Biophys. 518, 89-94 (2012).
Down Regulation of MyD88 in Macrophages Treated with Liposomes Composed of Phosphatidylserine	共著	平成 25 年 4 月	Pharmacology & Pharmacy, 4, 248-254 (2013)
Maleylated-BSA suppresses lipopolysaccharide-induced IL-6 production by activating the ERK-signaling pathway in murine RAW264.7 cells	共著	平成 26 年 1 月	Int Immunopharmacol. 19, 5-9 (2014).

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
正電荷リポソームの経鼻投与による粘膜アジュバント活性	平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会
CpG-ODN 搭載型カチオニックリポソームによる粘膜アジュバント作用	平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 15 年 4 月～現在	日本薬剤学会評議員
平成 24 年 4 月～現在	日本 DDS 学会評議員
平成 26 年 6 月～現在	全国薬科大学長・薬学部長会議理事

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 内分泌・神経薬理学教室	職名　教授	氏名　立川　英一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月 ～現在	「生理活性物質概論」(2年次前期必須）では、パワーポイントを中心に、さらに重要な個所においては板書もまじえ講義している。講義の冒頭に、講義に必要な基礎知識について学生に質問し、学生の学力を把握すると共にモチベーションを高めている。定期試験の他に中間試験を課し、重要事項を再確認させると共に講義期間の中だるみを防止している。また、学生の授業評価を謙虚に受け止め、それらを次の講義に活かすように努めている。 「薬理学実習や科別演習」(4年生前期必須)では、学生が能動的かつ積極的に学習できるように質問をおこない、さらに薬理学実習シュミレーションソフトも用い、実習の復習と未知検体の同定をおこなわせている。(平成21年4月より本学に赴任)
	平成23年11月～現在	「アドバンス演習」(6年生後期）では、薬理学を担当し、国試対策をおこなっている。出題した演習問題の解説と担当範囲の内容を国試に役立つよう簡潔に表にまとめ、学生に配布し、さらにパワーポイントで説明している。
	平成23年12月	「ゼミナール」(2年次後期必須）では、国試過去問題を解かせ、そして解説し、生理活性物質概論の復習を実践的におこなった。またアドバンス薬理学として、薬理学の“バイブル”といわれているグッドマン・ギルマンの治療のための薬理学基礎の原著をSGD形式で訳してもらい、グループの代表者に発表してもらった。様々なことが学習でき有意義なゼミナールであったと評価があった。
	平成26年12月	「4年生総合演習」(4年次後期）では、薬理学を担当し、CBT 対策をおこなっている。出題した演習問題の解説をパワーポイントで説明している。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成22年4月 ～現在	教科書として「最新薬の効き方」立川、田野中 編（愛智出版）を用いている。教材資料として、授業毎のパワーポイントをウェッブクラスにアッ

		プし、教材資料としている。見やすく、わかりやすいと学生からの評価も高い。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 25 年 3 月	「東京薬科大学薬学部における薬理学実習について」を日本薬学会第 133 回（横浜）で発表した。
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年 4 月～現在 平成 22 年 4 月～現在 平成 23 年 4 月～24 年 3 月 平成 24 年 4 月～25 年 3 月 平成 26 年 4 月～現在	実務実習訪問指導（病院担当）で、コーディネーターとして 5 年生の実務実習を病院訪問して指導している。 本学で開催される FD には毎回参加し、教育方法などで研鑽を積んでいる。 教務副委員長、2/3 条項の諮問に対する答申をおこなった。 教務委員長、2/3 条項の諮問に対する答申をおこなった。 CITI Japan e-learning を受講している。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）渡邉康裕 編：カラーイラストで学ぶ集中講義薬理学	共著	平成 21 年 4 月	メジカルビュー社
（論文）Inflammatory cytokines decrease the expression of nicotinic acetylcholine receptor during the cell maturation.	共著	平成 22 年 4 月	Mol Cell Biochem 333, 57-64
（著書）赤池昭紀、石井邦雄 編：最新薬理学	共著	平成 23 年 1 月	廣川書店
（論文）Effects of polyphenols on production of steroid hormones from human adrenocortical NCI-H295R cells.	共著	平成 24 年 4 月	Biol. Pharm. Bull. 36: 228-237
（論文）Inhibitory effect of protopanaxatriol ginseng metabolite M4 on the production of corticosteroids in ACTH-stimulated bovine adrenal fasciculata cells	共著	平成 25 年 4 月	Life Sciences, 92: 687-693
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
副腎皮質細胞のコルチゾル産生に対するリンゴ葉成分の影響		平成 26 年 7 月	第 130 回日本薬理学会関東部会

副腎細胞からのホルモン分泌に対するリンゴ葉成分の影響（シンポジウム）	平成 26 年 8 月	生体機能と創薬シンポジウム 2014
Effects of ginsenosides and their metabolites on adrenal cortisol production（シンポジウム）	平成 26 年 10 月	The 11th International Symposium on Ginseng
ウシ副腎皮質細胞のコルチゾル産生に対するリンゴ葉成分フロレチンの作用	平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
昭和 62 年 4 月～現在	日本薬理学会評議員
平成 21 年 4 月～現在	国公立私立薬理学関連教科担当教員会議委員
平成 21 年 4 月～現在	西東京内分泌代謝研究会世話人
平成 22 年 4 月～25 年 3 月	日本薬理学会代議員
平成 22 年 10 月	八王子学園都市大学（いちょう塾）公開講座で「“薬用人参”の効き目に迫る」を講演
平成 23 年 4 月～26 年 3 月	公私立大学実験動物施設協議会代議員
平成 24 年 4 月～現在	日本薬学会代議員/支部幹事

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室名　公衆衛生学教室	職名　教授	氏名　藤原　泰之

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 26 年 4 月 ～現在	「健康保持と疾病予防」および「生活環境と健康」では、講義内容に関する問題プリントを作成し講義の重要ポイントを理解できるようにした。また、パワーポイントで資料を作成し、講義内容と薬剤師国家試験問題の関連性について理解してもらうよう努めた。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 3 月 平成 23 年 3 月	「衛生薬学サブノート 初版（編集：岡野登志夫・山﨑裕康・佐藤雅彦・鍛冶利幸）」を共同執筆し廣川書店より出版した。 「コンパス衛生薬学 初版（編集：鍛冶利幸・佐藤雅彦）」を共同執筆し（水質汚濁分野を担当）、南江堂より出版した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 4 月 平成 26 年 8 月 平成 26 年 9 月 平成 26 年 10 月～現在	新入教員のためのミニ教育ワークショップ（東京薬科大学）に参加した。 第 11 回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップに参加した。 CITI Japan プロジェクトの e-learning プログラムの基本コース A カリキュラムを受講し、修了した。 カリキュラム改訂実施委員会 委員

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）　Protective effect of pretreatment with cilostazol on cytotoxicity of cadmium and arsenite in cultured vascular endothelial cells.	共著	平成 23 年 4 月	J. Toxicol. Sci., 36, 155-161.
（論文）　Bismuth protects against arsenite-induced inhibition of proteoglycan synthesis in cultured vascular endothelial cells.	共著	平成 24 年 8 月	J. Toxicol. Sci., 37, 837-843.

（総説） Cadmium renal toxicity via apoptotic pathways.	共著	平成 24 年 11 月	Biol. Pharm. Bull., 35, 1892-1897.
（総説）Protective Role of Metallothionein in chemical and radiation carcinogenesis.	共著	平成 25 年 4 月	Curr. Pharm. Biotechnol., 14, 394-399.
（論文） Nucleorin is a receptor for maleylated-bovine serum albumin on macrophages.	共著	平成 27 年 1 月	Biol. Pharm. Bull., 38, 116-125.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）カドミウム曝露による小腸鉄輸送システムへの影響		平成 26 年 5 月	第 84 回日本衛生学会学術総会
（演題名）血管病変に対するメタロチオネインの防御的役割		平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 18 年 5 月～現在	日本結合組織学会 評議員
平成 20 年 1 月～平成 25 年 12 月	日本毒性学会 編集委員会 査読委員
平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月	日本薬学会 ファルマシア支部アドバイザー
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本薬学会 ファルマシアアドバイザー
平成 25 年 1 月～現在	日本毒性学会 評議委員
平成 25 年 4 月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 財務委員会 委員
平成 26 年 1 月～現在	日本毒性学会 編集員会 委員
平成 26 年 1 月～現在	日本毒性学会 J. Toxicol. Sci.誌 Associate Editor
平成 26 年 4 月～現在	日本薬学会 学術編集委員会 委員
平成 26 年 8 月～現在	日本毒性学会 Fund. Toxicol. Sci.誌 査読委員

[注]　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 漢方資源応用学教室	職名　教授	氏名　三巻 祥浩

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成16年4月1日～現在	漢方薬物学（2 年後期必修科目）では、重要事項はすべて板書もしくはパワーポイントで示し、講義プリントに書き込ませている。講義プリントには毎回の講義のキーワードを明示し、重要なポイントが把握しやすいように工夫している。平成24年度の授業評価は総合満足度4.12（後期科目ランキング総合4位）で、概ね好評であった。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成24年3月15日	薬学生のための漢方薬入門（第3版）、廣川書店、共著
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年3月31日	東京薬科大学研究紀要 第12号に「本学薬学部における漢方薬物学実習の実施概要」を発表
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成25年4月3日 平成26年2月	新入職員のためのミニワークショップにタスクホースとして参加 CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）A Compendium of Essays on Alternative Therapy	共著	平成24年1月	InTech
（著書）薬用食品の開発 II　－薬用･有用植物の機能性食品素材への応用－	共著	平成24年4月	シーエムシー出版
（論文）Natural products reveal cancer cell dependence on oxysterol-binding proteins.	共著	平成24年9月	Nature Chemical Biology Vol.7 No. 9
（論文）Glaziovianin A prevents endosome maturation via inhibiting microtubule dynamics	共著	平成25年5月	ACS Chemical Biology Vol.8 No. 5
（論文）Steroidal glycosides from the underground parts of *Dracaena thalioides* and their cytotoxic activities	共著	平成26年11月	Phytochemistry Vol.107 No.Nov.

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Vetiveria zizanioides 根の化学成分と腫瘍細胞毒性	平成26年9月	第58回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会

ジギタリス種子由来のカルデノリド配糖体の腫瘍選択的細胞毒性とその作用メカニズムについて	平成 26 年 11 月	第 20 回 天然薬物の開発と応用シンポジウム

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 16 年 8 月～現在	和漢医薬学会評議員
平成 21 年 4 月～平成 27 年 3 月まで	日本薬学会ファルマシア委員、アドバイザー
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月まで	日本生薬学会庶務幹事
平成 25 年 3 月～現在	日本薬学会広報委員会委員

［注］１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 分子機能解析学教室	職名　教授	氏名　横松　力

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 18 年 4 月 ～現在	物理系の科目（化学結合論、分子物理化学、物理的平衡論、熱力学・反応速度論）を担当。 講義の一部に復習時間を設けて、理解度を増す工夫を行なっている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 10 月 30 平成 21 年 4 月 16 日	1）CBT 対策と演習「物理化学」薬学教育研究会編 CBT に対応できる最低限の基礎学力の養成を目指した問題集（117 頁～133 頁） 2）薬学 CBT&新国試対策、パーフェクト・ナビ、第 1 巻物理系薬学（115～127 頁）、テコム薬学発行
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 18 年 4 月～現在	新 1 年生への入門講座で、新しい学習方法などを一部周知する活動を行なっている。
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月 平成 26 年 3 月 平成 26 年 12 月	FD 実施委員会委員として、授業アンケートの仕組みおよび公開講義を企画・実施した。 第 2・3 回　FD-ワークショップのタスクフォースとして、教員の研修を行なった。2013 年新入教員のためのワークショップのタスクフォースとして、新入教員の研修を行った。 CITI Japan e-learning プログラム受講 「英国ケンブリッジ大学の学識、教育および研究」本学 FD セミナー参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Structural-based design and synthesis of novel 9-deazaguanine derivatives having a phosphate mimic as multi-substrate analogue inhibitors for mammalian PNPs	共著	平成 22 年 2 月	Bioorganic Medicinal Chemistry (Vol.18 (6))
（論文）Trimeric purine nucleoside phosphorylase: exploring postulated one-third-of-the-sites binding in the transition-state	共著	平成 24 年 9 月	Bioorganic Medicinal Chemistry (Vol.20 (22))

（論文）Development of a new cascade reaction for convergent synthesis of pyrazolo[1,5-*a*]quinoline derivatives under transition-metal-free conditions	共著	平成 25 年 4 月	Organic Bimolecular Chemistry (Vol.11 (7))
（論文）Novel strategy for synthesis of substituted benzimidazo[1,2-a]quino-lones	共著	平成 25 年 7 月	Organic Letters (Vol.15 (14))
（論文）Fe_3O_4 Nanoparticle-supported Cu(II)-β-cyclodextrin complex as a magnetically recoverable and reusable catalyst for the synthesis of symmetrical biaryls and 1,2,3-triazoles from aryl boronic acids	共著	平成 25 年 8 月	Green Chemistry (Vol.15 (8))
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Synthesis of α-Aminophosphonates from α-Amino Acids by Catalyst-free Three-component Decarboxylative Coupling Reactions		平成 26 年 6 月	20th International Conference of Phosphorus Chemistry (ICPC 2014)
多置換[1,2,4]トリアゾロ[1,5-*a*]キノリン類の新規合成法の開発		平成 26 年 9 月	第 44 回複素環化学討論会(札幌)
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 20 年 4 月～現在	物理学教員会議委員		
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	薬剤師国家試験問題検討委員会基礎薬学部会委員		
平成 22 年 2 月～現在	日本薬学会関東支部幹事		
平成 22 年 2 月～現在	日本薬学会代議員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬剤学教室	職名　教授	氏名　　太田　伸

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成19年4月 ～現在 平成22年4月 ～現在	講義の前に学生の知識がどの程度あるのかを確認するために簡単なチェックテストか口頭試問を行ってから開始している。特に高学年の授業担当であるため低学年の知識を確認しながら授業をすすめることにより、基礎と臨床との関連性を理解させる様にしている。 6 年次選択専門科目として「高齢者医療」の講義を行っている。インフェクション・コントロール・ドクター（ＩＣＤ）の資格を生かし、特に高齢者の感染症の特徴と治療を中心に講義を行っている。 6 年次選択専門科目として「感染制御学」の講義を 15 コマ行っている。感染症の治療の歴史から感染症の起炎菌、抗菌薬の適正使用まで症例を上げ講義を行っている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 23 年 12 月 平成24年4月 平成27年1月	薬剤師のための感染制御マニュアル（3 版）薬事日報社（共著） 薬剤師のための疾患別薬物療法Ｖ南紅堂（共著） 治療薬ハンドブック 2015　じほう　（共著）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年2月	薬学教育協議会フォーラム 2011（慶応義塾大学）
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成20年4月 ～現在 平成25年4月 ～現在 平成26年3月 平成 26 年 12 月	実務実習運営委員会の委員長として学生の実習受け入れ施設の選定、実務実習終了後の報告会の企画、報告学生への指導を行っている。 学科長として授業評価のための学生へのアンケート調査の企画立案を行い、教員へのフードバックを行った。 CITI Japan e-learning プログラム受講 「英国ケンブリッジ大学の学識、教育および研究」本学 FD セミナー　参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）日本病院薬剤師会編集・薬剤	共著	平成23年12月	薬事日報社

師のための感染制御マニュアル（3版）			
（論文） Support to Regimen for Prescription of Chemoradiotherapy with S-1/weekly Docetaxel__for Recurrent and Progressive Head and Neck Cancer and Measures Against Side Effects	共著	平成21年9月	Jpn. J. Pharm. Palliat. Care. Sci., vol. 2 No.2 59-64
（論文） Clinical significance of measuring the blood concentration of itraconazole oral solution in the field of hematology.	共著	平成22年11月	Bio Pharm Bull. vol. 33 No.11.1861-1866
（論文） Simple column-switching HPLC method for determining levels of the antifungal agent micafungin in human plasma and application to patient samples.	共著	平成25年5月	Biomed. Chromatogr.vol.27 (5), 551-555
（論文） Detection of CYP2C19 gene polymorphism from noninvasive samples by cycling probe	共著	平成26年2月	Ann Clin Biochem. 51(Pt 2), 298-300
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） 1.唾液中IgAを指標としたγ－アミノ酪酸によるストレス抑制効果と免疫力増進効果の検討 2.ストレスマーカーを指標としたリラクゼーション効果の検討～複数種アロマオイルの長期使用によるストレス軽減効果の比較と検討～ 3. FEC療法における用量設定規定因子の解析 4.アゾール系抗真菌薬との併用が及ぼすビンクリスチンの副作用発現状況に関する検討		平成26年9月	第24回日本医療薬学会年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成12年4月～現在	日本医療薬学会認定薬剤師		
平成12年4月～現在	日本医療薬学会指導薬剤師		
平成15年4月～平成21年3月	医療薬学編集委員		
平成17年1月～現在	インフェクションコントロールドクター（ＩＣＤ）		

平成 18 年 4 月～現在	日本医療薬学会評議員
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本病院薬剤師会総務委員
平成 23 年 4 月～現在	日本医療薬学会出版委員

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 医薬品安全管理学	職名　教授	氏名　杉浦　宗敏

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 24 年 5 月 ～	PBL 等学生参加型の講義の導入
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 2 月 平成 23 年 10 月 平成 25 年 10 月 平成 25 年 10 月	病院調剤と医薬品管理の基本　羊土社（共著） 薬学生のための臨床実習マニュアル　医学評論社（共著） 理論調剤学　京都広川書店（共著） 調剤業務の基礎技能　羊土社（共著）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 23 年 3 月 平成 24 年 6 月 平成 24 年 7 月 平成 25 年 3 月 平成 25 年 6 月 平成 26 年 6 月 平成 26 年 7 月	多人数の学生受け入れ施設における長期実務実習カリキュラムの教育効果と問題点（日本薬学会第 131 年会） 薬学生に対する緩和医療卒前教育への取り組み（第 1 報）　―臨老式死生観尺度を使用した死生観に関する意識調査の解析―（第 17 回日本緩和医療学会） 新薬剤師国家試験の新しい出題形式薬学実践問題に対応した演習プログラム（第 44 回日本医学教育学会） 東京薬科大学におけるアドバンス臨床薬学教育をめざした米国国際交流プログラム（日本薬学会第 133 年会） 薬学生に対する緩和医療卒前教育への取り組み（第 2 報）　―講義受講前後における臨老式死生観尺度を使用した死生観に関する意識変化の解析―（第 18 回日本緩和医療学会） 薬学生に対する緩和医療卒前教育への取り組み（第 3 報）―実務実習における経験と講義受講前後における死生観に関する意識変化の解析―（第 19 回日本緩和医療学会） 長期実務実習を控えた薬学部 5 年生に対する薬剤師国家試験と症例を組み合わせた「処方監査」演習プログラム（第 46 回日本医学教育学会）

４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 23 年 1 月 平成 24 年 8 月 平成 26 年 2 月 平成 26 年 8 月	第 4 回東京薬科大学長期実務実習のための WS（タスクフォース） 第 7 回東京薬科大学長期実務実習のための WS（タスクフォース） 第 10 回東京薬科大学長期実務実習のための WS（タスクフォース） 東京薬科大学全学 FD-WS（タスクフォース）	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）薬剤師の病棟常駐による医療の質的向上への貢献Ⅱ―薬のセーフティマネージャーとしての役割―	共著	平成 21 年 12 月	医療薬学、35（12）、892-897、2009.
（論文）Analysis of Factors Related to the Use of Opioid Analgesics in Regional Cancer Centers in Japan	共著	平成 22 年 7 月	J. Palliative Medicine 13(7)、841-847、2010.
（論文）血中甲状腺刺激ホルモン濃度を指標とした乾燥甲状腺坐剤の適応	共著	平成 23 年 5 月	医療薬学、37（5）、323-325、2011.
（論文）がん診療連携拠点病院における緩和ケア提供体制と薬剤業務の困難感	共著	平成 23 年 12 月	日本緩和医療薬学雑誌、4（4）、103-109、2011.
（論文）臨老式死生観尺度を使用した実務実習を終えた薬学生の死生観に関する意識調査	共著	平成 25 年 3 月	Palliative Care Research 8(1) 、319-325、2013.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）薬学生に対する緩和医療卒前教育への取り組み（第 3 報）―実務実習における経験と講義受講前後における死生観に関する意識変化の解析―		平成 26 年 6 月	日本緩和医療学会
（演題名）長期実務実習を控えた薬学部 5 年生に対する薬剤師国家試験と症例を組み合わせた「処方監査」演習プログラム		平成 26 年 7 月	日本医学教育学会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 16 年 1 月～現在	日本医療薬学会　指導薬剤師		
平成 21 年 12 月～現在	日本医療機能評価機構　医療事故収集等事業　専門分析班員		
平成 23 年 4 月～現在	日本医療薬学会　代議員		
平成 23 年 12 月～平成 25 年 7 月	日本私立大学協会　薬剤師国家試験問題検討委員会副委員長（実務）		
平成 25 年 4 月～現在	日本医療薬学会　学術貢献賞・奨励賞等選考委員会委員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 保健体育学研究室	職名　教授	氏名　與那　正栄

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成16年4月 ～現在	毎回、医学・薬学に関する最新情報を提供し、薬学に対する興味を引き出させた。また、各自の1日のエネルギ摂取量と消費量を計算させ、見直す事でバランスの良い食事や身体活動の必要性について認識させた。さらに種々の病気を持つ患者さんや高齢者に対する運動処方を学ばせ、薬剤師として栄養処方および運動処方が実践できるように授業を工夫した。
	平成18年4月 ～現在	薬学入門演習 II において消防署と東京救急協会の協力を得て、全1年生に救命技能認定書（自動体外式除細動器業務従事者）を取得させた。さらに薬剤師として救急の場に立ち会う可能性が高い事を考慮し、心肺蘇生法を2分間継続してできる訓練を行なった。 また、超高齢化社会に向けて、必要な知識および高齢者の模擬体験を行なわせ、薬剤師として地域の健康保持増進を担う技能を養わせた。
	平成18年4月 ～平成22年3月	学科別英語特論として医学・薬学の論文abstractを和訳させ、各自で論文題名を作らせた。これにより内容を明確に把握することを学ばせた。
	平成22年4月 ～現在	学科別英語特論として教室の研究内容に関わる論文を和訳させ、卒論に必要な情報を得させた。 アドバンス英語として卒論を書く上で必要な論文を各自、和訳させ、参考文献とした。 卒論指導においては研究室のテーマから各自選択し、データ収集、解析を行い、論文を作成した。
	平成26年8月 ～現在	卒論テーマとして、今後必要となる地域医療を取り込み、「医療人材育成プロジェクト」に10日間参加させ、薬剤師として今後何をすべきかを学ばせた。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成20年4月 ～現在	最新論文より取り込んだ基礎運動生理学や運動処方・栄養に関する論文からデータを取り出し、学生に配布し、授業の資料とした。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし

４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 3 月～現在 平成 26 年 3 月	CITI Japan e-learning プログラム受講 FD 講演会「学生が期待する良い授業とは」参加	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Effect of autonomic nerve activation in different ratio of heart rate/breathing rate during repeated bouts of cycling exercise.	共著	平成 21 年 3 月	Health and behavior Sci. Vol.7 No.2
（論文）Effect of downhill running on muscular DNA damage in rats.	共著	平成 21 年 8 月	Health and behavior Sci. Vol.8 No.2
（論文）Grip strength gain after submaximal isometric wrist extension training without gripping motion	共著	平成 22 年 3 月	Health and behavior Sci. Vol.9 No.2
（論文）EMG activity forearm muscles during maximal and submaximal sustained gripping contraction.	共著	平成 23 年 3 月	Health and behavior Sci. Vol.9 No.2
（論文）Increase in rate of force development with skin cooling during isometric knee extension	共著	平成 26 年 8 月	J.Electromyography and Kinesiology Vol.24 No.6
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Evaluating the effects of skin cooling on H-reflex recovery curve using a double stimulation method.		平成 26 年 7 月	19thAnnual Congress European College of Sport Science
（演題名）Effects of long-term low intensity exercise on age-related atrophied muscle in a rat model.		平成 26 年 7 月	19thAnnual Congress European College of Sport Science
（演題名）Association between rate of torque development and gait speed in ambulatory post-stroke patients.		平成 26 年 7 月	19thAnnual Congress European College of Sport Science
（演題名）カフェイン摂取が有酸素性運動および疲労回復に及ぼす影響.		平成 26 年 8 月	日本健康行動科学会第 13 回
（演題名）力発揮強度の違いによる皮膚冷刺激付加時の筋活動特性		平成 26 年 8 月	日本健康行動科学会第 13 回
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 25 年 10 月～現在	日本健康行動科学会評議委員		

平成 26 年 8 月～現在	日本健康行動科学会編集委員

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 第 4 英語研究室	職名　教授	氏名　森本　信子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 20 年 4 月 ～平成 25 年 3 月	・2 年次科目「薬学英語」: 予習を徹底させ平常評価に組み入れた。音声教育を重視し授業において発音練習や書き取りなどを取り入れた。 選択科目「フランス語」: 文章を身に着けてから文法の規則に気付かせるなど、新しい教育技法を取り入れてきた。
	平成 25 年 4 月 ～3 月	・2 年次科目「薬学英語」: 予習、授業、復習のサイクルを確立させる工夫に加え、発信型の英語力強化のため、ペアでの会話、瞬間作文などを取り入れた。
	平成 26 年 4 月 ～現在	・2 年次科目「薬学英語」: 予習のチェック、復習シートの提出を毎回きちんと行い、平常点に組み込むことで、自宅学習を義務付けている。音声教育を重視し、日本人が苦手とする発音の練習をはじめ、音読、書き取り、暗唱、など、種々の演習を行っている。速読の練習も行う。 ・選択科目「フランス語 I, II」: 毎回小テストを行い、低得点者にはレポートを課すことで、新しい知識の定着を図っている。基本文法の習得を中心とし、会話的表現も取り入れている。 ・3 年次科目「実用薬学英語」: 科学英文の基本構造を理解させることに加え、速読練習や音読練習も取り入れ、総合力を高めている。 ・卒論教室における英語教育 : TOEIC 対策を十分に行い、実用的な英語力をつけるとともに、Nature の論説文などを読み、高度な読解力を鍛えている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 25 年 3 月	教科書 :『医療・生命・薬学英語』(山口秀明編著、今井・大野・上家・佐々木・鈴木・森本共著)、ムイスリ出版、東京。
	平成 26 年 3 月	教科書 : 英語で読む　レイチェル・カーソン『サイレント・スプリング』(大野真・森本信子編著)、東京薬科大学出版会、東京。
	平成 26 年	教材 : ゼミナール用に、発音の基本をまとめた教材冊子を作成。

３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 22 年 11 月 平成 23 年 6 月 平成 25 年 9 月 平成 26 年 3 月	薬学部 FD 実施委員会主催研修会「本学薬学部 6 年生の現況について」受講。 全学 FD 実施委員会主催　公開講義(甲斐基文教授)受講。 「第 9 回　東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップ」に受講者として参加。 CITI Japan e-learning プログラム受講	
Ⅱ　研究活動			
（著書）英語で読む　レイチェル・カーソン『サイレント・スプリング』	共著	平成 26 年 3 月	東京薬科大学出版会
（著書）『医療・生命・薬学英語』	共著	平成 25 年 3 月	ムイスリ出版
（著書）『ベスト・アメリカン・短編ミステリ 2012』	共著	平成 24 年 11 月	DHC 出版
（著書）『新薬一つに 1000 億円！？』	共著	平成 21 年 10 月	朝日新聞出版
（翻訳）マリリン・ロビンソン『心の不在』３	単著	平成 26 年 3 月	東京薬科大学研究紀要(第 17 号)
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 14 年 4 月～現在	日本フランス語フランス文学会会員		
	記号学会会員		
	大学英語教育学会会員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 医療人間関係学研究室	職名　教授	氏名　土屋　明美

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成18年度～現在	ロール・プレイングを活用し、基本的なカウンセリングスキルを習得する。
	平成18年度～現在	闘病記を読み、さらに当事者の闘病談を聴き質疑応答を重ねる。その後 SGD、ポスター作製、プレゼンテーションを行い医療人としての自覚を促し、適切な関わり方を体験学習する。
	平成19年度～現在	介助体験や救命救急などの演習前後に質問紙を実施し、態度変化を学生と共有する。
	平成21年度～現在	「誕生、死、別れ」などが表現されているDVDや絵本などを教材として用い、人間の尊厳について体験的理解を図る。
	平成22年度～現在	視聴覚教材用：Dipex―Japanの映像を視聴し、語り手へ手紙を書くなどして患者理解に役立てる。
	平成23年～現在	ボランティアゼミナールではディベートにより課題意識を明確化し、体験後は自己の成長をアンケートやSGDにより意識化し、医療人としての役割意識を育てる。
	平成26年～現在	ゼミナールでは、ルーブリックを実施し相互評価に役立てる。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成24年4月	講義用教材冊子「医療心理学」作成
	平成26年4月	なぜ、コミュニケーションは重要か、自己イメージ、自尊感情、対人態度を知る、病と疾病、患者・薬剤師の解釈モデル　「ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション」（日本ファーマジューティカルコミュニケーション学会監修）平成26年　南山堂　pp8-23,119-126
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成25年8月	「患者・患者家族の心理状態の理解と対応」日本薬剤師会　e-ラーニング
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成19年11月～23年3月	文部科学省平成19年度～22年度　新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム「人間知を育む相互交流プログラムの展開」実施責任者として、学生主体の社会参加・学びのプログラムを展開した。

（FD 活動）	平成 21 年 4 月～平成 23 年 3 月	卒後・生涯教育委員会「卒後教育講座」のプランの立案・実施
	平成 20 年 4 月～24 年 3 月	学生相談室長として学生相談の現状について「学生相談室報告書第 1 号」の編集を行った。
	平成 20 年 2 月 平成 21 年 2 月 平成 21 年 3 月 平成 22 年 3 月 平成 26 年 11 月	本学講演会「効果的な高等教育の方法とは」（津田司）に参加 本学ワークショップ「PBL―チュートリアルに関するワークショップ」（津田司）に参加した。 本学講演会「薬科大学において医療人を育てるとは」（藤崎和彦）に参加した。 本学講演会「問題解決型学習の実践～基礎と臨床をつなぐ学習へのアプローチ」（津田司）に参加した。 文部科学省平成 26 年度　大学における医療人養成推進事業「医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ」（於　慶応義塾大学）に参加し、意見交換を行った。
（メンタルヘルス研修）	平成 19 年 12 月 平成 20 年 8 月 平成 21 年 7 月～平成 22 年 2 月 平成 24 年 11 月 平成 25 年 2 月 平成 26 年 11 月	本学講演会「大学生の心のケア」（福田真也）に参加した。 本学講演会「学生さんにとって良き相談相手とは」(福田真也)に参加。 本学教職員と心理コンサルタントの交流会 1-3 回に参加した。 全国学生相談研修会に参加した。 FD 委員会・学生相談室共催講演会「薬科系大学における学生相談」（有田悦子）に参加した。 全国学生相談研修会に参加した。
（ハラスメント防止研修）	平成 22 年 2 月 平成 22 年 2 月 平成 24 年 3 月 平成 24 年 12 月	本学講演会「大学におけるセクシャル・ハラスメントの事例と対策」（田中早苗）、 本学講演会「キャンパスハラスメントの防止について教員として気をつけたいこと」（吉武清實）に参加した。 本学講演会「ハラスメントの実態とその防止策」（石橋真希子）に参加した。 本学講演会「ハラスメントのない、学びやすく働きやすい大学づくりのために」（石橋真希子）に参加した。

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書)心理劇と関係学―共に育つー	単著	平成 23 年 12 月	不味堂出版、「関係」
（著書)闘病記を用いた薬学導入教育の試み	単著	平成 23 年 3 月	薬学図書館 56
（著書）心理劇における人格の変容	単著	平成 25 年 3 月	ななみ書房、「グループ活動を始めるときに」
（論文)人間関係の痛みに関する考察	単著	平成 25 年 3 月	『関係学研究』第 39 巻第 1 号
（論文)薬学部総合系ゼミナールにおけるボランティア活動について	共著	平成 26 年 3 月	東京薬科大学研究紀要第 17 号
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）心理劇グループで家族を支える		平成 26 年 8 月	日本心理臨床学会秋季大会 発表論文集
（演題名）スクールカウンセリングにおける課題の心理劇的展開		平成 27 年 2 月	日本心理劇学会第 20 回大会 発表論文集

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
昭和 55 年 6 月～現在	日本関係学会運営委員
平成 7 年 4 月～現在	日本心理劇学会常任理事
平成 13 月 4 月～現在	日本集団精神療法学会認定グループサイコセラピスト・スーパーバイザー
平成 15 年 4 月～現在	日本心理劇協会代表
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本関係学会会長
平成 22 年 4 月～現在	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会理事
平成 25 年 4 月～現在	日本医科大学多摩永山病院　薬物治験審査委員会委員
平成 26 年 4 月～現在	日本集団精神療法学会監事

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学教育推進センター	職名　教授	氏名　森川　勉

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成23年～平成26年 平成23年～平成26年 平成23年～平成26年	有機化学系の講義においては、原理を理解して考える能力を醸成することを心掛けている。記憶による学習に依存することなく、論理的な思考で考察する重要性を言及している。 授業評価については、マークシートによる評価項目の点検を行い授業改善に努めている。特に自由記述欄の意見は重要視している。 学習相談室において、有機化学系科目を担当して個別の指導を実施した。学生の要望に応じて、基礎的な内容から大学院入試レベルまでの範囲をカバーして対応した。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成25年 平成26年	使用している教科書の改訂に伴い、新たに講義用プリントを作成して活用した。 教育の流れの改善を目的として、講義用プリントを再編した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年3月 平成22年3月 平成23年3月 平成23年3月	東京薬科大学薬学部における物理系基礎実習について（日本薬学会第129年会　京都） 東京薬科大学薬学部における免疫学実習について（日本薬学会第130年会　岡山） 基礎実習におけるふりかえりシートの効用（日本薬学会　第131年会　静岡） 東京薬科大学薬学部における生化学実習について（日本薬学会　第131年会　静岡）
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成22年12月26日～28日 平成25年9月13日 平成26年3月 平成26年8月20日～21日	医療系学部教員によるワークショップ参加（於:丸紅多摩センター研修所） 薬学教育モデル･コアカリキュラム改訂に関する全国説明会参加 CITI Japan e-learning プログラム受講 第4回全学ＦＤワークショップ参加（東京薬科大学主催）

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書)薬学生のための基礎化学シリーズ５　基礎有機化学	共著	平成24年3月	培風館

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
なし		

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 23 年度～平成 26 年度	日本私立薬科大学協会　薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学教育推進センター	職名　教授	氏名　加藤　哲太

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年～現在	薬局方は規格試験に使用されるものであり、利用することをイメージできるように指導することを心がけている。CBT、薬剤師国家試験の基本となる科目であり、これらに対応できる能力育成も考慮している。	
2　作成した教科書、教材、参考書	平成24年	日本薬局方要説　第7版	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 25 年 12 月 平成26年1月10、15、16日	薬物乱用防止教育の進め方 「自信をもって取り組める医薬品教育」研修会・講演	
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成26年3月	CITI Japan e-learning プログラム受講	
Ⅱ　研究活動			
（著書）くすりの正しい使い方	単著	平成23年1月	少年写真新聞社
（著書）トコトンやさしい薬の本	単著	平成24年1月	日刊工業新聞社
（総説)セルフメディケーション教育とOTC医薬品	単著	平成24年11月	ファルマシア Vol.48　No.11
（総説）OTC医療の指導における薬剤師・薬学生の役割	単著	平成26年2月	YAKUGAKU　ZASSHI134(2)2014)
（総説)セルフメディケーションの現状と課題	単著	平成26年6月	Medi Con.2014年6月
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）“うっかりドーピング防止活動”小平市薬剤師会の取り組み		平成26年10月	日本薬剤師会
（演題名）セルフメディケーションを実現できる薬剤師育成プログラムの構築		平成27年3月	日本薬学会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成21年～現在	日本学校保健会・医薬品の使い方に関する指導方法検討委員会・委員		
平成21年～現在	セルフメディケーション推進協議会　理事		
平成21年～現在	東京都薬剤師会　学校保健委員会　委員		
平成21年～現在	一般用医薬品セルフメディケーション振興財団　選考委員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 機能形態学教室	職名　准教授	氏名　山口 宜秀

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月 以前～現在	機能形態学 Ⅰ（1年前期必修）: ヒトの身体の解剖学的な概要と骨格系に関して講義を行っている。視覚的にわかりやすいパワーポイントスライドを作成するように心がけ，対応する講義プリントを作成し利用している。また，主要な骨，筋，臓器の名称を覚えられるように図や一覧表を作成し，中間テストを行っている。平成 26 年度の学生による授業評価では標準であった。
	平成21年4月 以前～現在	機能形態学 Ⅱ（1年後期必修）: 神経系の伝達メカニズムから中枢神経系の解剖生理学的な内容までの講義を行っている。視覚的にわかりやすいパワーポイントスライドを作成するように心がけ，対応する講義プリントを作成し利用している。また，講義プリントには予習復習をしやすいように課題を掲載している。
	平成21年4月 以前～現在	機能形態学 Ⅲ（2年前期必修）: 内分泌系と生殖器系（生殖腺)の解剖生理学的な内容の講義を行っている。視覚的にわかりやすいパワーポイントスライドを作成するように心がけ，対応する講義プリントを作成し利用している。また，講義プリントには予習復習をしやすいように課題を掲載している。平成 26 年度の学生による授業評価では，標準よりも高い評価だった。
	平成21年4月 以前～現在	基礎生物学実習（1年後期必修）: ラットの解剖、顕微鏡を用いたヒト組織の観察、血圧･心電図の測定を通して機能形態学 Ⅰ で学んだ内容の理解が深まるように工夫している。
	平成21年4月 以前～現在	薬学入門演習（1年前期必修）: small group discussion (SGD)を通して医療人としての意識付けを心がけている。
	平成21年4月 ～現在	医療薬学演習 I-i:(4年前期必修) 医療薬学科を対照に、脳や神経に関連する疾患を題材に，臨床で活躍する薬剤師に必要な情報や患

		者への対応を SGD を通じて修得できるように工夫している。
	平成 21 年 4 月～平成 21 年 7 月	生物系ゼミナール（2 年前期必修） 神経変性疾患に関連する本を題材に、SGD や発表会を通じて、発症メカニズムや症状、治療法などについて知識として修得できるようにした。
	平成 21 年 4 月～現在	科別英語特論（4 年前期必修） 卒論教室において、科学英語修得のため、学生同士の学術論文紹介を中心に行っている。
	平成 21 年 4 月～現在	科別英語特論（5 年通年必修） 卒論教室において、科学英語修得のため、学生同士の学術論文紹介、発表会を中心に行っている。
	平成 21 年 4 月～現在	医療薬学演習 Ⅱ-i:ラボラトリー演習(1,2)(5･6 年通年必修) 卒論教室において、医療現場での生涯学習能力を養うため、卒論研究を主体に、知識、技能、実験技術、態度などを養えるように工夫し指導を行っている。
	平成 21 年 4 月以前～現在	薬理学特論（大学院博士課程前期）: 神経系に関連する病態モデル動物やその治療戦略に関して，可能な限り新しい話題を取り入れながら講義している。
	平成 21 年 10 月～平成 23 年 10 月	アドバンス生物演習（4 年後期必修） CBT 演習問題の解説を中心に，傾向と対策の講義を行った。
	平成 23 年 4 月～現在	アドバンス生物演習（6 年後期必修） 国家試験の演習問題の解説を中心に，傾向と対策の講義を行っている。
	平成 23 年 9 月～現在	生物系ゼミナール（1 年後期必修） ＜平成 23 年度＞神経系に関連する症例を題材に英文のケーススタディ形式で、SGD や発表会を行い、発症メカニズムや症状、治療法などについて修得できるようにした。評価は標準であった。 ＜平成 26 年度＞ 組織学的な知識や自己学習の能力を向上させるため顕微鏡による組織観察を取り入れた演習形式で行った。機能形態学的な知識の自己学習能力や周囲とのコミュニケーションによる問題解決能力を養えるように工夫した。学生による評価は非常に高かった。

２　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 4 月以前～現在	機能形態学 Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ 講義プリント 新しい機能形態学 2 版　執筆（共著, 廣川書店） 基礎生物学実習 実習書	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月 平成 21 年 4 月以前～現在 平成 22 年 4 月～現在 平成 26 年 1 月～現在 平成 26 年 8 月 20 日、21 日	CBT 試験対策委員 年間に数回行われる FD セミナーには必ず参加している。 卒試委員 研究倫理に関する e-learning を受講し、必要プログラムを継続的に修了している。 ２日間の FD ワークショップに参加した。	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Phospholipase D Family Member 4, a Transmembrane Glycoprotein with no Phospholipase D activity, Expression in Spleen and Early Postnatal Microglia.	共著	平成 22 年	PLoS One. 5(11):e13932
（論文） PLD4 is involved in phagocytosis of microglia: expression and localization changes of PLD4 are correlated with activation state of microglia.	共著	平成 23 年	PLoS One. 6(11):e27544.
（論文） L-MPZ, a novel isoform of myelin P0, is produced by stop codon readthrough.	共著	平成 24 年	The Journal of Biological Chemistry. 287(21):17765-76.
（論文） Unconventional myosin ID is expressed in myelinating oligodendrocytes.	共著	平成 26 年	Journal of Neuroscience Research. 92(10):1286-94.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） Unconventional Myosin ID is an essential molecule for myelin-like-membrane formation in cultured oligodendrocyte.		平成 26 年 9 月	第 36 回日本生物学的精神医学会／第 57 回日本神経化学会大会 合同大会
（演題名） Knockdown of Myo1d expression induced morphological change in oligodendrocytes.		平成 26 年 11 月	Neuroscience 2014

（演題名）発達段階の脳白質において活性化ミクログリアに発現する PLD4 の機能解析	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
平成 23 年 11 月～平成 24 年 10 月	第 11 回アジア太平洋神経化学会／第 55 回日本神経化学会大会合同大会実行委員	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物代謝安全性学	職名　准教授	氏名　小倉　健一郎

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度以前～現在	【化学物質と生体影響：3年前期必修】 出来るだけ見易い板書を心がけ、時事問題などの話題をとりまぜ学生の興味を引いて集中力をとぎれさせないよう工夫している。授業評価にて学生から指摘や要望があった点については、可能な限り取り入れ反映されるようにしている。
	平成21年度以前～現在	【健康と環境II：4年前期必修】 化学物質の毒性について実際の事件の例を紹介しつつ、各項目の導入としている。法律改正点についてはプリントを作成し、解説を加えている。
	平成21年度以前～現在	【健康・環境ゼミナール：3年前期必修】 化学物質による中毒事件を調査し、SGD を通してまとめを発表することにより、身近な化学物質の毒性を学び、発表能力を身につけるよう指導している。
	平成21年度～現在	【総合衛生演習：4年後期必修】 衛生薬学範囲の総合演習を行う。チェックテストにより理解度を測定し、チェックテストの問題の解説を通じて理解を深める。
	平成21年度～現在	【医療薬学英語特論：4年通年必修】 TOEIC 得点の向上を目標とし、TOEIC 問題の演習を通じて実力をつけ、TOEIC 受験により効果測定を行っている。
	平成21年度～現在	【アドバンス英語：5年通年必修】 研究室単位の演習形式により薬剤師に要求される英語力を養う。英文学術雑誌や新聞等の読解による科学英語の知識修得、まとめ発表を通じて国際的視野に立った幅広い見識を身につける。
	平成21年度～現在	【医療薬学演習II-i：5,6年必修】 ラボラトリー演習(1)および(2)として課題研究遂行のための研究計画が立案できるよう、個別に対応している。
	平成21年度～現在	【医療薬学演習I-ii：4年前期】 医薬品開発と臨床試験をテーマに、SGD を通じた調査・発表を行う。SGD に適した人数となるよう、

	平成22年度以前～現在 平成26年度	学科で小グループに分かれて演習を行う。発表会を各グループ合同で行い、学生同士で発表の感想や改善点についても考えられるようにしている。 【病態生理学・薬物安全性学実習：3年後期必修】 動物実験、微生物を用いた変異原性試験および薬毒物の同定などを通じて、薬毒物の薬効・毒性に関わる生体内代謝機構について習得できるよう工夫した実験内容としている。実習説明スライドはWeb classにより事前配布を行い、予習ができるようにしている。 【4P80：5年後期必修】 5年生調査研究コースの学生を対象に、薬剤師国家試験を意識してもらうよう問題作成演習を行っている。学生は問題を自作することにより、出題者の意図を読み取る能力が向上できるようにしている。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成21年度～現在 平成22年度～現在	薬学実験書（病態生理・薬物安全性学実習書、東京薬科大学編） 医療薬物代謝学（分担執筆者）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成21年度～現在 平成21年4月～現在 平成21年10月 平成21年4月～平成25年3月 平成26年3月 平成26年4月～現在	・学内におけるFD講演会に積極的に参加聴講し、自身の教育方法の改良に参考としている ・学内薬品管理システム IASO-R5 の管理者として、毎年度薬品管理と薬品保管について講習会を開催している。 ・東京薬科大学内認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加 ・毒物劇物取扱責任者として毎年度毒物劇物の取扱や保管についての講習会を開催した。 ・CITI Japan e-learningプログラムにおける基盤編を受講 ・放射線取扱副主任として、学内RI施設の学生利用について管理・教育を行っている。

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論　文）Cooperation of	共著	平成22年4月	Biochem. Biophys. Res.

NAD(P)H:quinone oxidoreductase 1 and UDP-glucuronosyltransferases reduces menadione cytotoxicity in HEK293 cells.			Commun., 394, 459-463
（論文）Organic anion-transporting polypeptide 1b2 (Oatp1b2) is important for the hepatic uptake of unconjugated bile acids: Studies in Oatp1b2-null mice.	共著	平成 22 年 4 月	Hepatology, 53, 272-81
（論文）Enhanced Sensitivity of A549 Cells to the Cytotoxic Action of Anticancer Drugs via Suppression of Nrf2 by Procyanidins from Cinnamomi Cortex Extract.	共著	平成 23 年 10 月	Biochem. Biophys. Res. Commun., **413**, 623-629
（論文）Dietary Diacetylene Falcarindiol Induces Phase 2 Drug-metabolizing Enzymes and Blocks Carbon Tetrachloride-induced Hepatotoxicity in Mice Through Suppression of Lipid Peroxidation.	共著	平成 23 年 11 月	Biol. Pharm. Bull., **34**, 371-378
（論文）Tissue distributions of 4-(hydroxymethylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone glucuronide, a stable form of reactive intermediate produced from 4-(methylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone, in the rat.	共著	平成 26 年 3 月	J. Toxicol. Sci. 39, 263-267
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） *Magnoliae Cortex* extracts induce drug-metabolizing enzyme activity in PC12 cells		平成 26 年 4 月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (PSWC2014) Melbourne, Australia
（演題名）メナジオンの解毒代謝反応と UDP-glucuronosyltransferase の *C*-末端アミノ酸領域		平成 26 年 7 月	第 41 回日本毒性学会学術年会（神戸）
マウス尿中における 4-(methylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone (NNK)の代謝物とグルクロン酸抱合体		平成 26 年 7 月	第 41 回日本毒性学会学術年会（神戸）
がん予防および抗がん剤治療における異物代謝酵素を制御する Nrf2 の誘導剤および阻害剤としての生薬		平成 26 年 7 月	第 41 回日本毒性学会学術年会（神戸）

エキス		
Metabolic activation of nevirapine and inactivation of its active metabolite by glutathione conjugation	平成 26 年 10 月	The 19th North American ISSX / 29th JSSX Meeting in San Francisco
タモキシフェン耐性 MCF-7 細胞における細胞増殖調節因子の発現変動	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
平成 24 年 1 月～現在	日本薬物動態学会評議員	
平成 26 年 4 月～現在	Drug Metab. Pharmacokinet.誌客員編集委員	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬学教室	職名　准教授	氏名　柴崎　浩美

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月 以前～現在	講義では、パワーポイント、教科書へのアンダーライン、板書を用い、重要点を明確にした。講義の始めに前回の講義の復習を行なうことにより、理解を深めた。中間試験を行ない、知識の整理と定着を行なった。 演習では、ロールプレイを取り入れ、患者や医療従事者としての立場を疑似体験することにより、学習へのモチベーションを向上させた。 卒論指導においては、毎日の終了時に結果及び今後の計画を報告・ディスカッションすることにより、自ら考え、実験計画の立案、実行する力を養った。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年4月 以前～平成22年4月 平成22年9月 ～現在	テーラーメイド医療　講義プリント テーラメイド医療 -薬物治療の個別化- （古田、柴崎、横川　著，京都廣川書店）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年7月	第44回日本医学教育学会大会（共同発表者）
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成24年2月 平成24年4月 ～現在 平成24年4月 ～現在 平成24年8月 平成25年8月 平成26年2月 平成26年3月 平成26年4月 ～現在 平成26年8月	第6回学内認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ参加 ゼミナール実施委員会 国試対策委員会 第2回カリキュラムプランニングのためのワークショップ参加 FDセミナー：大学改革の駆動力としてのFD CITI e-learning 責任ある研究行為：基盤編，Stage 1 FDセミナー：学生が期待する良い授業とは OSCE実施委員会 FDセミナー：東京医科大学におけるカリキュラム改革　-新しい評価法の導入-

	平成26年8月 平成 26 年 11 月 平成 26 年 12 月 平成 26 年 12 月	FDセミナー:教育評価とティーチングポートフォリオ FDセミナー:主体的な学習を促す勘所　～カリキュラムデザインの要諦と参加型教育の具体的な手法～ FDセミナー:英国ケンブリッジ大学の学識、教育および研究 CITI e-learning 人を対象とした研究：基盤編, Stage 1	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Simultaneous determination of androstenedione, 11β-hydroxy-androstenedione, and testosterone in human plasma by stable isotope dilution mass spectrometry.	共著	平成21年3月	*J. Chromatogr. B*, **877**, 621-626
（論文） Separation and quantitative determination of 6α-hydroxycortisol and 6β-hydroxycortisol in human urine by high-performance liquid chromatography with ultraviolet absorption detection	共著	平成24年3月	Anal. Bioanal. Chem., **21** 2945-2952
（論文） The effect of water loading on the urinary ratio of cortisone to cortisol in healthy subjects and a new approach to the evaluation of the ratio as an index for in vivo human 11β-hydroxysteroid dehydrogenase 2 activity	共著	平成24年10月	Steroids, **77** 1291-1297
（論文） Intraindividual and interindividual variabilities in endogenous cortisol 6β-hydroxylation clearance as an index for in vivo CYP3A Phenotyping in Humans	共著	平成25年2月	Drug Metab. Dispos., **41** 475-479
（論文） Use of endogenous cortisol 6β-hydroxylation clearance for phenotyping in vivo CYP3A activity in women after sequential administration of an oral contraceptive (OC) containing ethinylestradiol and levonorgestrel as weak CYP3A inhibitors	共著	平成26年9月	Steroids, 87 137-144

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名） In vivo cytochrome P450 3A activity in a pregnant woman as measured by endogenous cortisol 6β-hydroxylation clearance	平成 26 年 8 月	第 20 回　国際質量分析学会
（演題名） A novel indexr assessing 3β-hydroxysteroid dehydrogenase activity in humans based on the measurement of plasma concentrations of dehydroepiandrosterone and androstenedione	平成 26 年 8 月	第 20 回　国際質量分析学会
（演題名）タキサン系抗悪性腫瘍剤パクリタキセルの HPLC 分析と体内動態解析	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年回
（演題名）HPLC-UV による EGFR チロシンキナーゼ阻害剤ゲフィチニブとエルロチニブの血中濃度測定法の開発	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年回
（演題名）大豆イソフラボン摂取が血清エストラジオール濃度と月経周期へ及ぼす影響	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年回

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 23 年 11 月～現在	Editorial Board of ISRN Chromatography
平成 26 年 6 月～現在	日本 TDM 学会　評議員
平成 26 年 6 月～現在	日本 TDM 学会　編集委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬理学教室	職名　准教授	氏名　杉山健太郎

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度～現在	事前実務実習 薬局での患者対応（初回面談、服薬指導）の場面でロールプレイ実習を行っている。
	平成21年度～現在	医療薬学演習Ⅰ-ii 薬害や相互作用をテーマにグループで討議し、調査内容を発表する。
	平成21年度～現在	薬の効き方Ⅳ 症例のシナリオを配布し、Problem-based learningやSGDを中心とした演習および講義を行っている。形成的評価により、学習者主体の教育の実践に取り組んでいる。
	平成24年4月～現在	前期ゼミナールでは、移植医療の意義について、ゼミナール開始前後にアンケートを行い、学生の意識変化について調査を行った。
	平成25年4月～現在	疾病と薬物治療Ⅴでは、免疫疾患を中心に講義している。最近、出題された国家試験や治療ガイドラインを中心に講義を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成24年4月～現在	前期ゼミナール:日本の移植事情 疾病と薬物治療Ⅴ:病態生理と薬物治療Ⅴ
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成24年～現在	早期体験実習に引率教員として参加した。
	平成24年6月	指導薬剤師養成WSに参加した。
	平成24年9月	指導薬剤師養成 WS にタスクフォースとして参加した。
	平成24年～現在	病院実習成果報告会に参加した。
	平成24年～現在	横浜旭中央病院に中間評価として訪問した。
	平成24年～現在	委員としてOSCEに参加した。
	平成25年8月	全学FDWSに参加した。
	平成24年～現	委員としてOSCEに参加した。

	在 平成26年3月 平成26年5月 平成26年8月	FD講習会に参加した。 早期体験実習報告会に委員として参加した。 UCSFで教育研修プログラムをResidentとして参加した。	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Clinical significance of the pharmacological efficacy of tacrolimus estimated by the lymphocyte immunosuppressant sensitivity test (LIST) before and after renal transplantation.	共著	平成24年	Cell Medicine 3: 81-88
（論文）Comparative study of the cellular pharmacodynamics of tacrolimus in renal transplant recipients treated with and without basiliximab.	共著	平成24年	Cell Transplantation 21 565-570
（論文）Peripheral lymphocyte-response to mycophenolic acid in vitro and incidence of cytomegalovirus infection in renal transplantation.	共著	平成25年	Cell Medicine 6:47-55
（論文）Immune Monitoring With a Lymphocyte Adenosine Triphosphate Assay in Kidney Transplant Recipients Treated With a Calcineurin Inhibitor.	共著	平成26年	Exp.Clin.Transplant.12:195-199
（論文）Relationship between the peripheral lymphocyte response to mycophenolic acid in vitro and the level of ATP in peripheral CD4+ lymphocytes before and after renal transplantation.	共著	平成27年	Drug Res in press
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）献腎移植患者と生体腎移植患者間におけるATP値の相違について		平成27年2月	第48回日本臨床腎移植学会
（演題名）Effects of insulin on pharmacodynamics of immunosuppressive drugs in human peripheral blood mononuclear cells.		平成27年3月	日本薬学会第135年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 20 年 11 月 ～ 現在	日本臓器保存生物医学会　評議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬効解析学教室	職名　准教授	氏名　高柳　理早

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度以前～現在	医療情報（3年前期） 作成した教科書を用い、別途毎回重要ポイントと練習問題を記載したプリントを作成し配布。補足資料を加えたパワーポイントを作成。授業評価は毎年実施し、要望に対しては随時改良。
	平成21年度以前～現在	医療情報実習（3年後期） 作成したテキストを用いる。パワーポイントで説明用資料を作成し解説する。診療記録、看護記録、処方せんなどの資料とワークシートを作成し配布。シナリオを作成し、教員によるデモンストレーションを実施。
	平成21年度～現在	医療薬学演習Ⅰ－ⅰ（4年後期） ワークシート、解説用パワーポイント等を作成し、薬剤および器具の実物とともに演習に用いた。学生の評価は良好。
	平成23年度～現在	臨床薬理学特論（6年前期） これまで得た基礎学力を臨床へ展開するための知識と応用力を身につけるため、最新トピックも含め、パワーポイントと講義プリントを作成して解説。
	平成23年度～現在	アドバンス薬・疾病演習（6年後期） 医薬品情報、患者情報の分野における知識の確認を行うため、確認試験やその解説を行う。解説用パワーポイントと講義プリントを作成。
	平成24年6月 平成26年6月	ゼミナール（3年前期） 治験をテーマとしてグループ討論、プロダクト作成、プレゼンテーションとフィードバックを実施。KJ法導入。実際の資料のサンプルを用い、個別にワークシートも作成。教員から補足説明も実施。学生の評価は良好。
	平成25年度～現在	総合薬・疾病演習（4年後期） 医薬品情報、患者情報の分野におけるチェックテストとその解説を実施。解説用パワーポイントと講義プリントを作成。

	平成21年度～現在	科別英語特論（4年） 英語論文について学生に分担して訳し、発表させた。関連トピックに関する調査・発表も行った。また訳文はレポートとして提出させた。論文の内容について、追加解説を行い、理解を深めるよう工夫した。
	平成22年度～現在	アドバンス英語（5年） 実用的かつ実践的な英語力を身に付けるために、TOEIC 受験に向けた一連の学習を実施した。各自の状況に合わせて学習方法を選択させ、規定時間内での学習とアドバイス等を行った。
	平成21年度以前～現在	卒論研究指導（4－6年） 実験研究コースの学生は研究活動を通して問題解決能力を修得する。1人1テーマを割り振り、そのテーマについて研究する。調査研究コースの学生は1人1テーマを割り振り、調査結果をレポートにて提出させることにより、疾病や薬の評価の仕方を学ぶ。いずれも研究に関してゼミでの経過発表を行い、そのための報告書を作成した。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成21年～現在	医療情報実習テキスト
	平成21年～現在	担当講義プリント、解説用パワーポイント、ワークシート
	平成21年8月	標準医療薬学　医薬情報評価学（医学書院）（共著）
	平成 21 年 10 月	薬学生・薬剤師のためのがんの薬物治療学（化学同人）（共著）
	平成24年3月	薬学用語辞典（東京化学同人）（共著）
	平成24年9月	薬学生・薬剤師のためのがんの薬物治療学　第 2 版（化学同人）（共著）
	平成 24 年 12 月	スタンダード薬学シリーズ 6　薬と疾病 III.薬物治療（２）および薬物治療に役立つ情報 第 2 版（東京化学同人）（共著）
	平成 25 年 10 月	理論調剤学（京都廣川書店）（共著）

３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 21 年 7 月	第 12 回日本医薬品情報学会総会・学術大会（福岡）にて、「卒前における実践的医薬品情報教育・薬学部における医薬品情報学教育（１）－東京薬科大学における取り組み－」のタイトルで、シンポジウムでの発表を行った。	
	平成 23 年 7 月	第 14 回日本医薬品情報学会総会・学術大会（東京）にて、「6 年制カリキュラムにおける段階的な医薬品情報教育の実践」のタイトルで、シンポジウムでの発表を行った。 また、「中学生における薬に関する情報の意識調査と教育の効果」のタイトルで、ポスター発表を行った。	
	平成 25 年 7 月	医療薬学フォーラム 2013/第 21 回クリニカルファーマシーシンポジウム（金沢）にて、「薬学部 3 年次生に対する治験関連教育－ゼミナール形式による実施とその評価－」のタイトルで、ポスター発表を行った。	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年～ 平成 22 年～ 平成 24 年～	実務実習コーディネーター 中学校における薬教育の実施 学内 FD 講習会およびワークショップへの参加、研究倫理 e-ラーニング受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）片頭痛治療薬スマトリプタンの受容体結合占有に基づく薬効解析	共著	平成 24 年	日本頭痛学会誌 39：91-97
（論文）Theoretical analysis of efficacy of biological agent for rheumatoid arthritis based on target molecular binding occupancy.	共著	平成 25 年	Rheumatol Int. 33:1791-5
（論文）Theory-based Analysis of the Anti-inflammatory Effect of TNF Inhibitors on Rheumatoid Arthritis.	共著	平成 26 年	Drug Metab Pharmacokinet 29:272-277
（論文）中学生を対象とした薬物乱用防止教育への Small Group Discussion（SGD）の導入とその効果	共著	平成 26 年	YAKUGAKU ZASSHI 134: 1331-1345

（論文） Theory-based Analysis of Clinical Efficacy of Triptans using Receptor Occupancy.	共著	平成 26 年	J Headache Pain, 15: 85
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）片頭痛治療におけるトリプタン系薬剤の頭痛再発抑制に関する理論的評価		平成 26 年 6 月	医療薬学フォーラム 2014　第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム（東京）
（演題名）TNFα遺伝子 5’-上流領域-857C/T 多型が TNFαの発現に及ぼす影響の検討		平成 26 年 6 月	医療薬学フォーラム 2014　第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム（東京）
（演題名）非ステロイド性抗炎症薬の臨床用量における血小板凝集抑制作用の定量的評価		平成 26 年 7 月	第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会（鹿児島）
（演題名）スガマデクスナトリウムの作用機序を考慮したロクロニウムおよびベクロニウムへの作用に関する解析		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会(名古屋)
（演題名）新規過活動膀胱治療薬ミラベグロンのβ_3受容体結合占有に基づいた臨床薬効解析		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会(名古屋)
（演題名）金属カチオン含有診断薬と医薬品との相互作用の可能性		平成 26 年 11 月	八王子薬剤センター研究発表会(東京)
（演題名）不眠症治療薬ラメルテオンの理論的解析に基づく臨床薬効評価		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）
（演題名）フルルビプロフェンの抗血小板作用に関する *in vitro* および *in vivo* 研究		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）
（演題名）プレガバリンの中枢系有害作用の発現に関する理論的解析		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 13 年 1 月～現在	日本医療薬学会　認定薬剤師（第 06-01-0036 号）
平成 14 年 1 月～現在	日本医療薬学会　指導薬剤師（第 06-02-1060 号）
平成 16 年 10 月～現在	日本薬剤師研修センター　認定薬剤師（第 04-12823 号）
平成 18 年 11 月～現在	山梨大学医学部附属病院医薬品等臨床研究審査委員会　委員
平成 21 年 1 月～現在	日本臨床薬理学会　指導薬剤師（第 09015 号）
平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月	文部科学省「平成 21 年度　大学における医療人養成推進等委託事業選定委員会」委員
平成 21 年 8 月～現在	日本医療薬学会　代議員
平成 22 年 8 月～平成 23 年 3 月	文部科学省「平成 22 年度　大学における医療人養成推進等委託事業選定委員会」委員
平成 22 年 10 月	第 54 回日本薬学会関東支部大会　プログラム編集委員
平成 23 年 7 月～現在	日本医薬品情報学会認定　医薬品情報専門薬剤師（第 016 号）
平成 23 年 9 月～平成 24 年 3 月	文部科学省「平成 23 年度　大学における医療人養成推進等委託事業選定委員会」委員

平成 24 年 4 月～現在	日本医薬品情報学会　医薬品情報専門薬剤師試験委員会　委員
平成 24 年 6 月～現在	日本医療薬学会　会員委員会　委員
平成 24 年 6 月～現在	日本医療薬学会　認定薬剤師制度認定薬剤師試験問題小委員会委員
平成 24 年 9 月～現在	日本薬剤師会　編集委員会 医薬品情報評価検討会　委員
平成 25 年 6 月～平成 26 年 3 月	文部科学省「平成 25 年度　大学における医療人養成推進等委託事業選定委員会」委員
平成 26 年 4 月～現在	日本医薬品情報学会　教育検討委員会　委員
平成 26 年 6 月～現在	日本医療薬学会　広報委員会　委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 医療実務薬学教室	職名　准教授	氏名　竹内　裕紀

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		自身で勉強できるような教科書・参考資料を作成 ゼミナールでは、考える題材を用い、エキストラの問題も作成し、学生が興味を持ち、考えられる工夫をしている。
2　作成した教科書、教材、参考書 精神･神経疾患の薬物治療(教科書･初版)	平成 20 年度～ 平成 21 年度～ 平成 23 年度～ 平成 24 年～ 平成 25 年～ 平成 26 年～	疾病と薬物治療ゼミナール資料 輸液講義冊子、疾病と薬物治療Ⅷ冊子 6 年４P80 講義プリント アドバンス演習講義プリント 精神･神経疾患の薬物療法教科書（オーム社） 5 年４P80 プリント 医薬品開発特論Ⅱ、5、6 年プリント
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 22 年～ 平成 23 年 8 月 21、22 日 平成 26 年 3 月	実務実習においては、週 1 回は訪問しており、SGD や講義も行っている。 学内 FD ワークショップ参加 CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Steroid Withdrawal Based on Lymphocyte Sensitivity to Endogenous Cortisol in Renal Transplant Recipients	共著	平成 23 年	Biol Pharm Bull 34 (10)
（論文） Higher sensitivity of peripheral blood lymphocytes to endogenous glucocorticoid in renal transplant recipients treated with tacrolimus, as compared to those treated with cyclosporine	共著	平成 23 年	Cell Medicine, 3
(総説)Optimal Pharmacokinetics of Cyclosporine and Tacrolimus based relationship among AUC, trough and	共著	平成 24 年	READINGS IN ADVANCED PHARMACOKINETICS, INTECH,

peak concentration			
（著書）腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト	共著	平成 25 年 5 月	監修　じほう
（論文）Clinical significance of peripheral blood lymphocyte sensitivity to glucocorticoids for the differentiation of high-risk patients with decreased allograft function after glucocorticoid withdrawal in renal transplantation	共著	平成 26 年	Clin Ther 36 (8)
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）実測クレアチニンクリアランスの結果表記の問題点		2014 年 7 月	日本腎臓学会
（演題名）エベロリムスとタクロリムスの薬力学的相互作用の検討　-臨床的濃度において拮抗作用は認められるか-（シンポジウム）		2014 年 9 月	日本移植学会
（演題名）　自己免疫性腎疾患・腎移植患者に対する適切な免疫抑制療法による腎機能低下の防止　（シンポジウム）		2014 年 9 月	医療薬学会
（演題名）　腎移植の免疫抑制療法（カルシニューリン阻害薬　ステロイド、バシリキシマブ）（シンポジウム）		2014 年 10 月	日本腎臓病薬物療法学会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 19 年 4 月～平成 26 年 3 月	日本病院薬剤師会学術第 1 小委員会		
平成 20 年 4 月～現在	日本 CKD チーム医療研究会幹事		
平成 20 年 4 月～現在	日本臓器保存生物医学会評議員		
平成 23 年 4 月～現在	日本 TDM 学会 TDM ガイドライン策定委員会　免疫抑制薬ワーキンググループ委員		
平成 23 年 4 月～平成 26 年 3 月	日本病院薬剤師会学術第 1 小委員会委員長		
平成 24 年 4 月～現在	日本透析医学会「腎不全看護師・腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関する小委員会委員		
平成 24 年 11 月～現在	日本腎臓病薬物療法学会理事、同学術委員長		
平成 25 年 4 月～現在	日本医療薬学会代議員		
平成 25 年 11 月～現在	日本腎臓病薬物療法学会副理事長		

［注］１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 総合医療薬学講座	職名　准教授	氏名　山田 純司
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		平成 21 年度 以前～現在	毎回入念な準備を怠らず、教科書や配布資料は受講後の自学習に役立つように詳細かつ明解に記述している。授業中は、視聴覚機材を活用し、学生が所有する教材と同じものをそのまま使って講義することに拘っている。毎年実施される「学生による授業評価」の結果を参考に、講義の進め方と内容を見直している。
2　作成した教科書、教材、参考書			
1）疾病と薬物治療Ⅱ（2 年）		平成 21-25 年度	代謝内分泌疾患の教科書（製本）。
新規糖尿病治療薬 SGLT2 阻害薬		平成 26 年度	改訂ガイドライン解説用補助プリント。
内分泌疾患：甲状腺機能異常他		平成 26 年度	内分泌疾患講義用補助プリント。
疾病と薬物治療Ⅵ（3 年）		平成 23-26 年度	心血管疾患の教科書（製本）。
心房細動・高血圧治療改訂ガイドライン		平成 26 年度	改訂ガイドライン解説用補助プリント
薬剤師国家試験問題集：代謝内分泌・心血管疾患		平成 25-26 年度	代謝内分泌・心血管疾患関連の薬剤師国家試験問題集（第 97 回以後）。プリント。
薬の効き方Ⅳ（4 年）		平成 21-26 年度	薬物治療演習の補助プリント・冊子。
医療薬学演習Ⅰ－ⅰ（4 年）		平成 21-26 年度	症例検討演習の補助プリント。
病態生理学特論（6 年）		平成 23-26 年度	代謝疾患の講義用プリント冊子。
選択専門科目Ⅱ（6 年）		平成 25-26 年度	アップトゥデイト講義用プリント冊子。
生体機能制御学特論（大学院修士 1 年）		平成 26 年度	糖尿病治療薬の講義用補助プリント。
2）生物薬科学実験講座第 5 巻 細胞の構造とオルガネラ（廣川書店）（共著）		平成 22 年 3 月	細胞内小器官と脂質代謝に関する実験参考書。
3）症候のメカニズムと疾患（日本薬剤師研修センター）（共著）		平成 22 年 4 月	薬剤師生涯教育講座ファルマストリームによる Web/e-ラーニング教材。貧血に関する講義。
4）ガイドラインで理解する疾病と薬物治療：代謝疾患（オーム社）（単著）		平成 25 年 11 月	疾病と薬物治療Ⅱ（2 年後期）の教科書。平成 26 年度から使用。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし

４　その他教育活動上特記すべき事項 教育活動に関連する学内委員会等（平成 21 年度以降）。	平成 21 年度以前～現在 平成 21 年度（以前から継続後の最終年度） 平成 21-22 年度 平成 22 年度～現在 平成 24 年度～現在 平成 24 年度 平成 25 年度～現在 平成 26 年度	薬学部教務委員会、卒業論文関連試験/卒試委員会、ゼミナール実施委員会、病院・薬局実習運営委員会。 薬学部教務担当副主任（教務担当連絡会）、6 年制カリキュラム検討 WG、特別課題研修運営委員会（委員長）、病院・薬局実習運営委員会 WG、CBT 問題作成委員会、薬学入門演習Ⅰ委員会、教職課程運営委員会（委員長）、教職課程運営協議会、学習相談室実施委員会、CBT 試験対策委員会。 学生支援推進委員会（学び担当）、特別課題研修実行委員会、薬学教育推進センター運営会議、薬学入門教育委員会。 医療薬学科教務副担当、総合演習試験対策/実施委員会、6B コース運営/調査研究コース統括・運営委員会、医療薬学科特論演習 WG。 薬学部教務担当副主任（教務担当連絡会）、 OSCE 実施委員会、サッカー部顧問。 入試広報委員会。 カリキュラム検討委員会、国試対策委員会、実務実習評価委員会。 カリキュラム改訂実施委員会（副委員長）、総合薬学演習試験病態薬物治療問題査読 WG。
病院実習訪問指導 病院診療科臨床研修	平成 21 年度以前～現在 平成 22 年度～現在	病院における実務実習生の訪問指導（平成 22 年度以降は 5 年生が対象）。 東京医科大学病院を中心に医局における当講座所属卒論生の長期･短期体験学習。
第 3 回東京薬科大学 FD 研修会修了。 東京薬科大学 FD 講演会参加 第 4 回大学コンソーシアム八王子 FD・SD フォーラム参加 CITI Japan プログラム修了。	平成 25 年 8 月 21 日-23 日 平成 26 年 8 月 21 日 平成 26 年 8 月 29 日 平成 25・26 年	本学 FD 実施委員会によるカリキュラムプランニングのための FD-WS。 東京医科大学におけるカリキュラム改編：新しい評価法の導入に関する講演。 IR を通じた教育改革に関する FD 講演会。 副題：未来を切り拓く人材づくり。 研究者行動規範教育 e-ラーニング。
Ⅱ　研究活動		

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Upregulation of fatty acyl-CoA thioesterases in the heart and skeletal muscle of rats fed a high-fat diet.	共著	平成 23 年 1 月	Biol Pharm Bull. 34:87-91
（論文）Regulated expression of acyl-CoA thioesterases in the differentiation of cultured rat brown adipocytes.	共著	平成 23 年 1 月	Biochem Biophys Res Commun. 404:74-78
（論文）Neuronal expression, cytosolic localization, and developmental regulation of the organic solute carrier partner 1 in the mouse brain.	共著	平成 23 年 3 月	Histochem Cell Biol. 135:229-238
（論文）Hypoglycemic effects of clove (Syzygium aromaticum flower buds) on genetically diabetic KK-Ay mice and identification of the active ingredients.	共著	平成 24 年 4 月	J Nat Med. 66:394-399
（論文）Expression and distribution of acyl-CoA thioesterases in the white adipose tissue of rats.	共著	平成 25 年 8 月	Histochem Cell Biol. 140:223-232

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
褐色脂肪組織の脂肪燃焼系に及ぼす肥満の影響	平成 26 年 6 月	第 74 回西東京内分泌代謝研究会
Transport mechanism of acyl-CoA into peroxisomes by a peroxisomal ABC protein, ABCD1	平成 26 年 9 月	次世代を担う若手ファーマバイオフォーラム 2014
脂肪細胞におけるアシル CoA チオエステラーゼの発現解析	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
褐色脂肪組織の脂肪燃焼系に及ぼす食餌誘導性肥満の影響	平成 26 年 10 月	第 35 回日本肥満学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 21 年 4 月以前～現在	HAB 研究機構評議員
平成 21 年 4 月～現在	薬学教育協議会 臨床関連教科担当教員会議委員
平成 23 年 1 月～現在	西東京内分泌代謝研究会世話人
平成 23 年 4 月～現在	日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会病態・薬物治療部会委員
平成 24 年 5 月～現在	薬剤師勉強会自主開催（毎月 1 回、八王子）
平成 25 年 6 月 17 日	第 70 回西東京内分泌代謝研究会開催（東京）
平成 26 年 10 月 5 日	第 245 回東京薬科大学卒後教育講座(秋期)講師

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学基礎実習教育センター	職名　准教授	氏名　稲葉　二朗

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 23 年～	【４年生　薬理学実習】教育内容と特徴：実験動物を使用した実習であり、倫理面について十分に理解した上で取り組んでもらっている。また、薬の作用を臓器レベル・個体レベルで検討することができる実習であり、座学で学んだ薬理作用を確かめてもらえる最も重要な実習の一つである。アンケートを取ったところ、学生たちは、「座学で習ったことを、実際の反応を見ることでよく理解出来た」との感想をもらっている。 　さらに、古典的な機器類に関しても改良を加えている(ガス配管、マグヌスやランゲンドルフ装置、PC レコーダー)。特記すべきは、実習中の出席や態度点に関して、iPad を用いてリアルタイムに行える点である。評価は、実習レポート、出席点、態度点、技能点、実習試験にて総合的に行っている。 【1 年生　基礎生物学実習】実験動物を使用した実習であり、倫理面について十分に理解した上で取り組んでもらっている。すなわち、実験動物を使用することで、生命の尊さについても体験を持って学ぶことができる非常に貴重な実習である。臓器や組織の特徴について座学で学んで来た知識を実際の動物を使って立体的に学ぶことによって、知識を確実なものに醸成することを目的としている。また、細胞を使用して染色体の構造について学んでもらうことによって、細胞レベル・組織レベル・個体レベルの生物の成り立ちについて理解できる様に工夫している。さらに、自分の心電図・血圧を測定することによって、バイタルサインを取るための技能を身につけてもらっている。さらに、平成 24 年より、心電図の測定方法と血圧の測定方法の補助トレーニング用にフィジカルアセスメントのシミュレーターモデル「フィジコ」を導入している。血管の音を聞きにくい学生にとっては、シミュレーターの大きな音

	平成 24 年～	を聞いてから実践できるため導入によるメリットがあったと感じている。特記すべきは、実習中の出席や態度点に関して、iPad を用いてリアルタイムに行える点である。評価は、実習レポート(実施日に教員がチェックをして返却)、出席点、態度点、実習試験にて総合的に行っている。 【5 年生＆６年生　4P80（分担)】5 年生：機能形態／細胞生物学について、問題を解かせた後に、その解説を行う形式で行った。６年生：循環器系、消化器系(消化性潰瘍)、中枢神経系(パーキンソン病)、骨代謝(骨粗鬆症、RA) について、問題を解かせた後に、その解説を行う形式で行った。工夫したプリント(カラー)を用いて行っている。 【5 年生　PBLT】糖尿病に関して、実務実習で経験した問題点の抽出を行い、動物実験を通じて、学生自らがその解決策を見つけ出すのかが、この授業の目的である。実際の薬の効き方を体験できるように工夫している。実験動物ではあるが、糖尿病マウスを使い、一般的な血糖測定装置を使用して行っているので、体験学修方法である。また、グループ毎に、データの集計＆解析を行い、最終日に発表会を行っている。評価は、出席点、態度点、レポート点、発表用 PPT にて総合的に行っている。 【4 年生　特別英語特論】4 年生は、自律神経系に影響を与える薬に関しての英文解釈を行い、関連事項を学ぶことによって、英語を理解する。穴埋め形式のプリントを作成して授業を行った。
	平成 25 年～	【1 年生　生物学】生物学は、高校で修得していない場合があるため、基礎から学べる様に工夫するために、授業プリントを作成した。また、高校の副教材を教科書としても使用している。１年生ではあるが、生物学を学ぶことによって臨床応用まで繋がることを事あるごとに紹介し、学生のモチベーションを高める努力を行っている。 評価は、出席、レポート、試験にて総合的に行っている。 【4 年生 総合演習(分担)】薬理／薬物治療について、問題を解かせた後に、その解説を行う形式で行った。非常に工夫したプリントを用いて行っている。担当領域は循環、代謝性疾患、消化器、中

		枢、骨疾患の広範囲である。 【６年生　アドバンスト演習(分担)】薬理／薬物治療(糖尿病、肝炎、脂質代謝異常、消化器疾患)について、問題を解かせた後に、その解説を行う形式で行った。工夫したプリントを用いて行っている。
	平成 26 年 12 月	【1 年生　生物系ゼミナー】血液凝固をテーマーに、実習と SGD を行った。実習は、ラットの血液から実際の血清と血漿と分離し、PT 試薬を添加することによって、血液凝固を自分で確認してもらった。さらに、凝固抑制薬の効果、血栓溶解薬の効果について検証した。また、SGD を 5 回、発表会を 5 回行うことによって、自ら学び、解決する能力の醸成を行った。
２　作成した教科書、教材、参考書		【４年生　薬理学実習】2014 年度 医療系実習Ⅱ実験書 薬理学実習、演習用プリント 【１年生　基礎生物学実習】2014 年度 生物系実習Ⅰ実験書 基礎生物学実習 【1 年生　ゼミナール】2014 年度　生物系ゼミナールプリント 【1 年生　生物学】生物学講義プリント 【5 年生＆６年生　4P80(分担)】講義プリント 【4 年生 総合演習(分担)】講義プリント 【5 年生 PBLT】PBLT 教科書(プリント) 【６年生　アドバンスト演習(分担)】講義プリント
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 24 年 平成 24 年 7 月 平成 25 年 3 月 平成 25 年 7 月 平成 25 年 10	1.　「東京薬科大学薬学部における微生物学実習について」2012 年　日本薬学会 132 年会 2.　「東京薬科大学主催のキッズ・ラボ「楽しい科学実験をしよう」」　東京薬科大学研究紀要 3.　「カリキュラム立案を通した学部間連携ＷＳの試み」2012 年７月　第 44 回日本医学教育学会大会 4.　「東京薬科大学薬学部における薬理学実習について」 2013 年３月　日本薬学会　第１３３年会 5.　「長期実務実習を終えた薬学生が身につけた基本的資質」　2013 年 7 月　第 45 回日本医学教育学会大会 6.　「糖尿病患者への服薬指導のための動物実

	月 平成 26 年 3 月 平成 27 年 3 月 平成 27 年 3 月	験を用いた PBL チュートリアルの効果」2013 年 10 月　第 32 年会　日本社会薬学会 7.　「動物実験による糖尿病患者への服薬指導のための PBL チュートリアル」　2014 年 3 月　日本薬学会第 134 年会(日本薬学会 第 134 年会 優秀発表賞受賞　山越美幸) 8.　「大学内で展開する系統的なセルフメディケーション」 2015 年 3 月 日本薬学会第 135 年会　シンポジウム 9.　「基礎実習の際の学生管理簿の電子化による共有効果について」　2015 年 3 月 日本薬学会第 135 年会
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 23 年～現在 平成 23 年～現在 平成 23 年 平成 25 年・平成 26 年 3 月 平成 26 年 2 月～現在 平成 26 年 3 月 平成 26 年 4 月 4.5 日 平成 26 年 7 月 5.6 日 平成 26 年 8 月 20.21 日	第 5～12 回東京薬科大学の長期実務実習のためのワークショップにタスクフォースとして参加。 キッズ・ラボの開催 東京薬科大学 FD 研修会(教育法に関するミニワークショップ)タスクフォースとして参加。 PBL 教育について学会発表を行ったところ、当センターの卒論生山越美幸が、日本薬学会 第 134 年会 優秀発表賞受賞を受賞した。 CITI Japan e-learning プログラム受講 平成 25 年度「東京薬科大学スピリッツ賞」受賞(キッズ・ラボに対して) 東京薬科大学 FD 研修会 新職員に対するミニ FD タスクフォースとして参加。 東京薬科大学の長期実務実習のためのアドバンストワークショップにタスクフォースとして参加。 東京薬科大学 FD 研修会(教育法に関するミニワークショップ)受講生として参加。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）第 97 回薬剤師国家試験　問題と詳解	共著	平成 24 年	廣川書店
（論文）キッズ・ラボ「楽しい科学実験をしよう」	共著	平成 24 年	東京薬科大学研究紀要 16, 44-62
（論文）キッズ・ラボ「楽しい科学実験をしよう」パフォーマンス評価を通	共著	平成 25 年	東京薬科大学研究紀要 17, 39-46

して〈学習の質〉の評価の検討			
（論文）Identification of acyl-CoA thioesterase in mouse mesenteric lymph nodes. .	共著	平成 25 年	Biol Pharm Bull.36 ,866-71
（論文） キッズ・ラボ「楽しい科学実験をしよう」2014 年度の活動と新たな地域活動の展開	共著	平成 26 年	東京薬科大学研究紀要 18,
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
大学内で展開する系統的なセルフメディケーション		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会　シンポジウム
基礎実習の際の学生管理簿の電子化による共有効果について		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
梅肉エキスの消化管運動に対する作用		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
杜仲葉より得られた血管弛緩作用成分について（Ⅲ ）		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
梅肉エキスのインフルエンザウイルス細胞変性効果に及ぼす影響		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月	東薬会理事		
平成 21 年 4 月～現在	(株)LSI メディエンス(旧三菱化学メディエンス(株))技術顧問		
平成 25 年 4 月～現在	八王子市学校薬剤師		

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物生体分析学教室	職名　准教授	氏名　柳田 顕郎

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 21 年 4 月 ～現在	薬学部六年制の各学年に対し，下記の講義・実習・演習を担当した（下線は H26 担当科目）。 ＜１年＞基礎物理学集中講義，薬学入門演習Ⅰ&同講義，化学平衡論，分析化学，ゼミナール， ＜２年＞分析化学実習，分析化学演習， ＜４年＞科別特論-i，科別演習 I-i，科別英語特論，総合演習 ＜５年＞薬局実務実習，PBL チュートリアル ＜５＆６年＞アドバンス英語，科別演習 II-i，科別演習 II-ii 講義科目については，教科書と別に解説や問題資料を作成し，WebClass の活用により学生の学力と利便性の向上を図っている。学生による授業評価は毎回平均より高い評価を得ている。 実習や演習科目については，オリジナルなテキストや解説資料を用いて行い，前後して行われている他の授業内容との関連性を理解させながら，指導している。 薬局実務実習については，指導薬剤師と密に連携しながら，形成的評価を重視した定期的な指導を行っている。 卒論教室での所属学生（4,5,6 年）指導については，科別科目や卒論に関する定期的なゼミや研究報告を密に行うとともに，積極的な外部発表や学会参加により学生のやる気を向上させ，各科目実施期間のメリハリをつけることで，国家試験対策の効率が上がるように工夫している。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 24 年 3 月	１年講義科目「化学平衡論」と「分析化学」の教科書兼参考書として，「なるほど分析化学ー数字となかよくする本（廣川書店）」を分担執筆（第 13 章：容量分析法）し出版した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 23 年 7 月	第 43 回日本医学教育学会大会（広島）において，「薬学部 5 年次の実務実習を補完する少人数教育プログラム」を共同発表した。

４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年 5 月	第 2 回東京薬科大学病院・薬局薬剤師研修会にタスクフォースとして参加した。
	平成 21 年 12 月	第 2 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップにタスクフォースとして参加した。
	平成 23 年 1 月	第 4 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップにタスクフォースとして参加した。
	平成 23 年 8 月	第 5 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップにタスクフォースとして参加した。
	平成 24 年 2 月	第 6 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップにタスクフォースとして参加した。
	平成 24 年 8 月	第 2 回東京薬科大学カリキュラムプランニングのためのワークショップにタスクフォースとして参加した。
	平成 25 年 9 月	第 9 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップにタスクフォースとして参加した。
	平成 26 年 3 月	第 10 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップにタスクフォースとして参加した。
	平成 26 年 3 月	CITI Japan e-learning プログラム（研究倫理に関する基本コース）を受講した。
	平成 26 年 7 月	第 1 回東京薬科大学指導薬剤師のためのアドバンストワークショップにタスクフォースとして参加した。
	平成 26 年 8 月	第 11 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップにタスクフォースとして参加した。
	平成 27 年 3 月	CITI Japan e-learning プログラム（平成 25 年度受講完了者コース）を受講した。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Counter-current Chromatographic Separation of Nucleic Acid Constituents with a Hydrophilic Solvent System.	共著	平成 22 年 5 月	J. Chromatogr. A, vol.1217, 3457-3460.
（著書）Mechanisms Controlling the Separation and Retention of Proanthocyanidins and Other Plant Polyphenols in Hydrophilic Interaction Chromatography, (Chapter 4.)	共著	平成 23 年 5 月	Chromatographic Science Series, Volume 103, Issue: Hydrophilic Interaction Liquid Chromatography (HILIC) and Advanced Applications, 77-88, CRC Press.

（論文）Separation of Nucleobases and their Derinatives with Organic-high Ionic Strength Aqueous Phase Systems by Spiral High-speed Counter-current Chromatography.	共著	平成 24 年 4 月	J.Chromatogr.B, vol.891-892, 94-97.
（論文）Comprehensive Separation and Structural Analyses of Polyphenols and Related Compounds from Bracts of Hops (Humulus lupulus L.).	共著	平成 26 年 3 月	J. Agric. Food Chem., vol.62, 2198-2206.
（論文）Evaluation of cathepsin B activity for degrading collagen IV using a surface plasmon resonance method and circular dichroismspectroscopy.	共著	平成 26 年 3 月	J. Pharm. Biomed. Anal., vol.95, 47-53.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
液体クロマトグラフィーによるバンコマイシン及びテイコプラニンの血中濃度定量法		平成 26 年 8 月	第 27 回バイオメディカル分析化学シンポジウム
脂質二分子膜内ステロールの酸化反応評価法に関する基礎検討		平成 26 年 8 月	第 27 回バイオメディカル分析化学シンポジウム
抗てんかん薬の母乳移行性を評価するための log P 計測と一斉分離定量法の検討		平成 26 年 9 月	日本分析化学会第 63 年会
二相溶媒系中での金属イオンとの錯体形成を利用する高速向流クロマトグラフィーによる血中薬物濃度の迅速定量法の検討		平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
向流クロマトグラフィーと円二色性検出液体クロマトグラフィーの組合せによるアカネ中の環状ペプチド成分の効率的な分離精製		平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
ビール粕中グルコシルセラミドの効率的な抽出分離法の開発		平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
液体クロマトグラフィーによるグリコペプチド系抗生物質の簡便迅速な血中濃度定量法の検討		平成 26 年 11 月	新アミノ酸分析研究会第 4 回学術講演会
二相溶媒系中での金属イオンとの錯体形成を利用する高速向流クロマトグラフィーによる血中薬物濃度の迅速定量法の検討		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
脂質二分子膜内ナイルブルーのモノマー化を利用した蛍光プロテアーゼ定量法		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 21 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本分析化学会関東支部幹事(H21), 同常任幹事 (H22,23)		

平成 23 年 4 月～現在	日本分析化学会誌「ぶんせき」編集委員（H23），同編集幹事（H24），同編集理事（H25,26）
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本分析化学会 学会賞候補者推薦委員，
平成 23 年 9 月	日本分析化学会／第 60 年会実行委員
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	日本分析化学会 代議員
平成 24 年 5 月	クロマトグラフィー科学会／第 19 回クロマトグラフィーシンポジウム実行委員
平成 25 年 4 月～現在	日本分析化学会 「分析化学」論文賞選考委員
平成 26 年 4 月～現在	新アミノ酸分析研究会幹事

［注］ １ 各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２ 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３ 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４ 「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 天然医薬品化学教室	職名　准教授	氏名　一柳　幸生

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 講義への対応	従来から	授業アンケートを参考に学生の視点を尊重し、講義にフィードバックしている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成24年1月 毎年4月	教科書として「パートナー天然物化学第2版」(南江堂)共著 を執筆 担当講義「天然医薬品化学」の配布資料を直近の薬剤師国家試験の内容を参考に改訂
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成25年9月 平成26年8月 平成 26 年 12 月	「第9回　東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップ」のタスクフォースを担当 研究倫理 e-learning プログラム 受講 「英国ケンブリッジ大学の学識、教育および研究」本学FDセミナー　参加

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書） Homoharringtonine and related compounds	共著	平成23年11月	In Anticancer Agents from Natural Products (2nd Edition), CRC press
（論文） Isolation, structure determination, and synthesis of Allo-RA-V and Neo-RA-V, RA-series bicyclic peptides from Rubia cordifolia L.	共著	平成24年3月	Chem. Eur. J. (18 (10))
（論文） Structures of stemona-amine B and stemona-lactams M-R	共著	平成25年7月	Tetrahedron (vol. 69 (30)
（論文） Stemona-amines C-E, new alkaloids from Stemona tuberosa	共著	平成25年12月	Tetrahedron Lett. (vol. 54 (51))
（論文）Aza-cycloisodityrosine analogue of RA-VII, an antitumor bicyclic hexapeptide	共著	平成25年12月	Bioorg. Med. Chem. Lett. (vol. 23 (24))
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Eurycoma longifolia から得られた新規カッシノイドの構造		平成26年9月	日本生薬学会第61回年会

Stemona tuberosa より得られた４級アルカロイドの構造	平成 26 年 9 月	日本生薬学会第 61 回年会
ビャクブコンより得られた新規 stemoninoamide 型アルカロイドの絶対構造について	平成 26 年 9 月	日本生薬学会第 61 回年会
アカネ科由来抗腫瘍活性ペプチド RA-VII の構造解析	平成 26 年 9 月	第 52 回日本生物物理学会年会
向流クロマトグラフィーと円二色性検出液体クロマトグラフィーの組合せによるアカネ中の環状ペプチド成分の効率的な分離精製	平成 26 年 10 月	第 58 回日本生薬学会関東支部大会
Structure-activity relationship of antitumor cyclic hexapeptide RA-VII	平成 26 年 10 月	第 51 回ペプチド討論会
Eurycoma longifolia から得られた新規カッシノイド配糖体の構造	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 回年会
危険ドラッグに含まれる合成カンナビノイド 5-Fluoro AMB のＸ線結晶解析	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 回年会
抗腫瘍環状ペプチド RA-VII の構造解析	平成 27 年 3 月	日本物理学会第 70 回年次大会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病態生化学	職名　准教授	氏名　吉川　大和

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成17年4月 ～現在	基礎生物学実習（1年次必修、後期）：ヒトのからだでは、細胞がお互いに影響し合いながら統制の取れた機能を発揮する器官を形成し、さらに個体としての正常な生命活動を維持している。本実習においては、実験動物を用いて細胞、器官を観察することにより、個体構築に関する基礎的な知識を修得させる。さらにヒトの各器官系の構造と機能調節および成体のダイナミックな調節機構に関する基本的知識・技能・態度を修得させる。コアカリC8,C12, C13, F5に対応するラットおよび培養細胞を用いて器官の形成や遺伝情報に関わる染色体の観察を行った。
	平成18年4月 ～現在	薬学入門演習Ⅰ（1年次必修、前期）：薬学部に入学した学生は，健康、疾病、或いは医療に対する関心は潜在的に高いものがあるが、入学前に持っている知識や感覚が、全員に共通した理解に至っているとは言い難い。そこで、我が国の医療制度或いは医療従事者の社会における活動状況と責務の概略を知り，薬学生としての学習に対するモチベーションを高めるために、卒業生の活躍する場を訪問し、その体験に基づくグループ討議を通じて共感的な態度、或いは能動的な学習態度を身につけさせる。コアカリB2,A3,F7,F8に対応するSGD および早期体験実習への出席、グループごとの早期体験実習に挑む為の討論、プレゼンテーション作成時における参加の程度を加味して総合評価を行った。
	平成19年4月 ～現在	細胞生物学（1年次必修、前期）：コアカリC8,C9に対応する講義。多細胞生物の成り立ちを細胞レベルで理解するために、細胞の構造と機能および組織構築に関する基本的知識を修得させる。さらに、細胞を構成する基本分子としてのタンパク質、糖質および脂質について、それらの分子構造および性状について基本的知識を修得させる。講義用のテキストを作成し、それをベースにしたス

		ライドで講義を行った。
	平成21年4月以前～現在	科別英語特論（4年次必修、前期）：細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関する論文を分担して訳し、発表した。細胞生物学の原著論文を読み解説した。
	平成21年4月以前～現在	アドバンス英語（4年次必修、通年）：細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関する論文を訳し、発表した。細胞生物学およびバイオマテリアルの原著論文を読み解説した。コアカリ G1に対応。
	平成21年4月以前～現在	医療薬物薬学演習 II-i、学術論文演習（4,5年次必修、通年）：細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関連する研究論文の作成方法を修得させる。
	平成21年4月以前～現在	医療薬物薬学演習 II-i、ラボラトリー演習（4,5年次必修、通年）：細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関連する背景を学ぶとともに研究課題の解決に必要な技術を修得させる。
	平成21年4月以前～現在	医療薬物薬学演習 II-iii（6 年次必修、後期）：卒業論文をまとめることで、細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関連する研究を理解させる。
	平成21年4月～現在	医療薬物薬学演習 I-ii、医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）　（4年次必修、前期）：独創的な新しい医薬品を創製するには、ゲノム科学をはじめ、分子生物学、有機合成、薬理学、毒性学、薬物動態学、製剤学、情報科学など、有機化学、物理化学、生物化学分野にわたる幅広いサイエンスに関する知識の習得と実践的応用が必要である。本演習では、コアカリ C8,C9に対応する細胞生物学、分子生物学、生化学分野の問題演習を行い、知識の整理と応用を行った。
	平成21年4月～現在	生物系ゼミナール（2年次選択、後期）：細胞生物学の知識をベースに課題を設定し、薬学や生命科学を知らない人にわかるように説明するにはどうしたらよいのか、プレゼンテーションおよび討論を行う。コアカリ A3,E4に対応。
	平成25年4月～現在	生物学（1年次必修、前期）：生物を構成する成分、ならびに生物にとって重要な現象である遺伝、進化、発生、分化等を学習し、併せてヒトの誕生から成長、老化，死への過程に関する基本知識を修

		得させる。講義では、コアカリ C8,C12 に対応する生殖および生態学を中心とした生物学を解説した。	
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 19 年 4 月～現在	細胞生物学ノート	
	平成 17 年 4 月～現在	生物系実習Ⅰ実験書　基礎生物学実習	
	平成 21 年 4 月～現在	医療薬物薬学演習　演習問題プリント	
	平成 25 年 4 月～現在	生物学　プリント	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年～現在	実務実習訪問指導：実務実習先の病院（藤沢市民病院・多摩南部地域病院）を各実習期間中に 3 回訪問し、実習生の日誌および週報の確認、薬剤部のセミナーへ参加を行った。	
	平成 21 年 12 月～現在	OSCE の評価者	
	平成 25 年 8 月	第3回　東京薬科大学　カリキュラムプランニングのためのFD研修会への参加：「良い試験問題を作るには」の主題で討論を行った。	
	平成 27 年 2 月	第12回学内ワークショップ　学内で行う認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップと同様のプログラムに参加した。	
	平成 26 年 3 月 平成 27 年 3 月	CITI Japan e-learning プログラム 受講：研究倫理に関する講義とテスト	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Maintenance of hepatic differentiation by hepatocyte attachment peptides derived from laminin chains.	共著	平成 23 年 11 月	J. Biomed. Mater. Res. 99A: 203-210
（論文）An antibody to the lutheran glycoprotein (Lu) recognizing the LU4 blood type variant inhibits cell adhesion to laminin α5.	共著	平成 23 年 8 月	PLoS One. 6: e23329
（論文）Lutheran/Basal Cell Adhesion Molecule promotes tumor cell migration by modulating	共著	平成 25 年 10 月	J. Biol. Chem. 288: 30990-31001

integrin-mediated cell attachment to laminin-511 protein.			
（論文） Laminin-111-derived peptides and cancer.	共著	平成 25 年 1-2 月	Cell Adh. Migr. 7: 150-256
（論文） Soluble Lutheran/basal cell adhesion molecule is detectable in plasma of hepatocellular carcinoma patients and modulates cellular interaction with laminin-511 in vitro	共著	平成 26 年 10 月	Exp. Cell Res. 328: 197-206
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ルテラン(Lu/B-CAM)に対するファージ抗体の作製とその評価		平成 26 年 6 月	マトリックス研究会＆日本結合組織学会
（演題名）肝細胞癌由来 scFv ファージ抗体ライブラリを用いたルテラン特異的抗体の単離		平成 26 年 6 月	肝細胞研究会
（演題名）Soluble lutheran glycoprotein/basal cell adhesion molecule is detectable in plasma of hepatocellular carcinoma patients and modulates cellular interaction with laminin-511 in vitro		平成 26 年 10 月	米国マトリックス学会
（演題名）An anti-human Lutheran phage antibody isolated from hepatocellular carcinoma phage library inhibits cell migration on laminin-511		平成 26 年 12 月	米国細胞生物学会
（演題名）癌細胞の運動における基底膜成分（ラミニン-511）の役割		平成 27 年 1 月	新学術領域研究「がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動」公開シンポジウム
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 22 年 1 月～平成 24 年 12 月	マトリックス研究会　事務局長		
平成 22 年 1 月～現在	マトリックス研究会　運営委員		
平成 23 年 1 月～現在	日本結合組織学会　評議委員		
平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月	新学術領域研究「上皮管腔組織形成」　公募班員		

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 製剤設計学教室	職名　准教授	氏名　高島　由季

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年～現在	薬学入門演習Ⅰ（SGD）(1年前期、必修)：積極性や協調性など薬学生としての意識を高めるため少人数でのグループ討議を行っている。
	平成21年～平成25年	製剤工学（3年次必修)：コアカリC16の範囲で、製剤の特徴、製造方法、品質管理等の製剤工学に関する基礎知識の修得を目的とする。補助プリント配布、アンケート、理解度チェックシートを用い学生の進度を測り講義を進めている。
	平成21年～現在	薬物送達学（3 年次必修、H25 まで応用薬剤学の名称)：コアカリC16の範囲で、2～3年次前期で習得した薬剤学基礎の応用を含め、薬物送達学(DDS)研究の現状と臨床応用、医薬品開発における製剤化技術の知識の修得を目的とする。一部書込み形式のテキストを作成して要点を明確にし、また、理解度チェックシートにより学生が復習しやすいようにしている。
	平成21年～現在	創薬実習「薬剤学実習」(3 年次必修)：錠剤の製造と物性試験を通じて、固形医薬品の製造、品質管理およびこれらに付随する種々の製剤学に関する知識を習得する。講義で学習した内容を取り入れて実施。
	平成21年～現在	創薬ゼミナール（3年次選択)：小グループに分かれて実施。コミュニケーション、情報取集、発表・討論の能力を高めることを目的としている。
	平成21年	事前実務実習（講義：4年前期、実習：4年後期)：院内製剤についての理解を深めるため、院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などに関する講義及び実習を実施。
	平成 21～22年、25年	総合演習（4年次後期必修)：低学年からの薬剤学・製剤学分野の知識を総括するため確認試験及びその解説と要点を講義。
	平成21年～現在	科別特論演習・医療薬物薬学演習Ⅰ－ⅱ・医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）(4年次必修)：3年次までに修得した基礎知識の医薬品製造への応用について小グループ制で演習を実施。

	平成21年～現在	科別特論演習・医療薬物薬学演習Ⅰ-ⅲ・創薬演習（4年次前期必修）：学生は学術洋雑誌をもとに卒論関連研究情報の探索及び英論文の情報をパワーポイントで簡潔にまとめ、発表・討論会を実施。
	平成21年～現在	科別特論演習「英語特論」（4 年次前期必修）：薬剤系学術洋雑誌を利用し、英文の読解力、情報を簡潔に整理して発表・討論する能力を高める。
	平成21年～現在	医療薬物薬学演習Ⅱ-ⅰ・ラボラトリー演習（5-6年次通年必修）：問題解決能力醸成を目的に、課題研究を遂行し成果を論文をまとめ、報告会を実施。
	平成21年～現在	医療薬物薬学演習Ⅱ-ⅱ・学術論文演習（5-6年次通年必修）：学生は各自の卒論研究テーマに関連する学術論文を調査し、論文の読解力を高め、情報を有効に活用する方法を習得する。
	平成21年～現在	アドバンス英語（5年次通年必修）：国際的な活躍を意識する学生の育成に向け、学術洋雑誌、海外製薬企業のホームページ等を利用し近年の医薬品開発・製造技術に関する情報の収集、報告会を実施。
	平成21年～現在	課題研究（4-5年次通年必修）：各学年でチームを編成し、学生同士が切磋琢磨しながら学生各自の研究遂行に必要な情報収集交換及び実技向上できる環境を提供し、定期的な研究進捗報告会を実施。
	平成23年	科別特論演習 医療薬物薬学特論-Ⅰ・創薬概論（4年次前期必修）：医薬品創製における薬剤学、製剤設計学の役割についてパワーポイントを利用した講義を実施。
	平成23年～現在	アドバンス演習（6年次後期）：卒業試験、国家試験に向け、復習・習得すべき薬剤学及び製剤学知識の要点について配付資料での講義、確認テストを実施。
	平成25年	後期選択専門科目Ⅱ（6年次後期選択）：数名の教員によるオムニバス形式で各専門分野の講義を実施。薬剤学分野を担当。
	平成26年	4P80(調査研究コースプログラム、5-6 年次前期)：薬剤学分野の国家試験問題を中心に基礎力の復習及び応用力修得のため講義、確認テストを実施。要点を纏めた資料を配付。
	平成22,24年	分子創剤制御学特論（大学院博士課程前期 1 年前期）：最近の製剤化研究およびDDS技術の現状と展望について、放出制御型 DDS 製剤ならびに標的化DDS製剤を主なテーマとした講義を実施。

	平成 26 年	薬剤学特論（大学院薬学研究科薬学専攻博士課程 1 年前期）：医薬品創製における製剤設計の必要性、製剤化例及びその技術に関する講義を実施。
２　作成した教科書、教材、参考書		• 最新薬剤学第 10 版（廣川書店）共著 • 製剤工学講義補助テキスト（プリント教材） • 薬物送達学(応用薬剤学)テキスト（教材）共著 • 創薬学実習実験書（教材）共著 • 事前実務実習テキスト(下巻) • その他、確認試験を伴う講義では要点・解説をまとめた資料を作成（プリント教材）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年～現在 平成 24 年～26 年 平成 25 年 8 月 21-22 日 平成 25 年～26 年	• FD 活動：大学実施の FD 活動(講義)に参加 • OSCE：毎年 OSCE 評価者を行っている • 実務実習：担当病院のコーディネータとして実習先訪問、院内報告会に参加。 薬剤師国家試験問題検討委員会「薬剤学」部会（日本私立薬科大学協会）に薬剤系担当教員として出席（年 1 回） 第 3 回東京薬科大学カリキュラムプランニングのための FD 研修会 教担会、教務委員会、卒試委員会に出席

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書)ドラッグデリバリーシステムの新展開Ⅱ－核酸医薬・抗体医薬・ワクチン医療を支えるDDS技術－「経眼網膜標的化リポソーム」	共著	平成 24 年	シーエムシー出版
(著書)医薬品製剤開発のための次世代微粒子コーティング技術～マイクロカプセル含有錠剤の製造における被膜破壊の抑制～	共著	平成 24 年	シーエムシー出版
(論文) Cell-penetrating peptide-modified block copolymer micelles promote direct brain delivery via intranasal administration	共著	平成 23 年	Pharm. Res., 28, 2130-9 (2011)
(論文) Non-invasive ophthalmic liposomes for nucleic Acid delivery to posterior segment of eye	共著	平成 24 年	Yakugaku Zasshi, 132, 1365-1370 (2012)

(論文) Topical drug delivery to retinal pigment epithelium with microfluidizer produced small liposomes	共著	平成 26 年	European Journal of Pharmaceutical Sciences 62 (2014) 23-32
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
多機能型ペプチドと自己会合型高分子から成る高機能性ナノキャリア		平成 26 年 5 月	BIO tech 2014 -国際バイオテクノロジー展/技術会議-
自己乳化型マイクロエマルション（SMEDDS）含有粉末製剤の調製ならびにラット経口投与後の in vivo 吸収特性		平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 年会
細胞透過性ナノキャリアと経鼻投与を利用した脳への核酸デリバリー		平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 年会
難溶性薬物シンプルフォーミュレーションの in vitro 溶出性評価におけるフロースルーセル（FTC）法の適用		平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 年会
機能性ペプチドキャリアを用いた樹状細胞への抗原導入と免疫活性		平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 年会
多機能性ペプチドによる鼻から脳への薬物移行性の向上		平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会学術集会
PEG 修飾ならびに表面電荷の異なるリポソームの炎症部位集積性評価		平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会学術集会
機能性ペプチド修飾高分子ミセル/抗 NF-κB siRNA 複合体静脈投与後の大腸集積性ならびに潰瘍性大腸炎治療効果		平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会学術集会
抗 NF-κB siRNA/多機能性高分子ナノミセル複合体静脈投与後の関節炎治療		平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会学術集会
フロースルーセル (FTC) 装置を用いた難溶性薬物のシンプルフォーミュレーションに対する in vitro 溶出性評価		平成 26 年 10 月	製剤機械技術学会第 24 回大会
Preparation of redispersible dry powder of self-microemulsifying drug delivery system (SMEDDS) with improved in vivo bioavailability of poorly water-soluble drug		平成 26 年 11 月	2014 AAPS Annual Meeting and Exposition
機能性ペプチド AT1002 修飾リポソームによる siRNA 皮内透過性向上及び透過経路の解明		平成 26 年 11 月	第 30 回創剤フォーラム若手研究会
機能性ペプチド修飾高分子ミセルによる抗 NF-κB siRNA 静脈投与後の関節炎治療		平成 26 年 11 月	第 30 回創剤フォーラム若手研究会
多機能性ペプチド修飾高分子ミセルによる抗 NF-κB siRNA 静脈投与後の炎症大腸への集積性ならびに潰瘍性大腸炎治療効果		平成 26 年 11 月	第 30 回創剤フォーラム若手研究会

新規機能性オリゴペプチドによる核酸の細胞内取り込みおよび鼻から脳への移行性の向上	平成 26 年 11 月	第 30 回創剤フォーラム若手研究会
経鼻投与と細胞透過性ペプチド修飾高分子ミセルによる脳への核酸送達と脳腫瘍治療効果	平成 26 年 11 月	第 30 回創剤フォーラム若手研究会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成 21 年 4 月～平成 23 年 3 月	日本薬剤学会「薬剤学」編集委員
平成 21 年 4 月～現在	製剤設計研究会　実行委員
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本薬剤学会英語セミナー東地区委員会　委員
平成 23 年 11 月～平成 25 年 10 月	第 5 回アジア・アーデンカンファレンス実行委員会　委員
平成 24 年 4 月～現在	日本薬剤学会英語セミナー東地区委員会　委員長
平成 24 年 4 月～現在	日本薬剤学会　評議員
平成 25 年 7 月～現在	日本 DDS 学会　評議員
平成 25 年 4 月～平成 26 年 12 月	第 20 回創剤フォーラム若手研究会　代表世話人
平成 26 年 1 月～平成 27 年 3 月	製剤機械技術学会第 24 回大会実行委員会　委員
平成 26 年 4 月～平成 26 年 6 月	国際薬学連合（FIP）会長 Michel Buchmann 博士 招聘事業ワーキンググループ　委員
平成 26 年 4 月～現在	日本薬剤学会 製剤・創剤セミナー実行委員会　委員
平成 26 年 4 月～現在	日本薬剤学会 広報委員会　委員
平成 26 年 4 月～現在	製剤機械技術学会　評議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 生物分子有機化学教室	職名　准教授	氏名　宮岡　宏明

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
小テストの実施	平成 21 年 4 月以前～現在	毎回の講義の最初に、前回の講義内容に関する小テストを行った後、解説を行っている。小テストは、講義内容を頭の中で整理できて、復習にも役立つと好評である。
質問場所および質問時間の設定	平成 21 年 4 月以前～現在	週に 1 度、研究室以外の場所（小講義室等）に質問場所を設け、質問を受けている。研究室を訪ねて質問するよりも、質問しやすいと好評である。
授業評価	平成 21 年 4 月以前～現在	学部全体の評価の平均よりも高い評価を受けている。講義が分かりやすいとの評価である。
２　作成した教科書、教材、参考書		
最新 薬の効き方　愛智出版（共著）	平成 22 年 4 月	医薬品の構造式を担当
基礎有機化学　培風館（共著）		有機ハロゲン化合物を分担執筆
新有機医薬品合成化学　廣川書店（共著）	平成 24 年 3 月	ヘテロ原子のアシル化および関連反応を分担執筆
薬がわかる構造式集　廣川書店（共著）	平成 24 年 11 月 平成 25 年 12 月	消化性潰瘍治療薬、抗炎症薬等を分担執筆
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
カリキュラム立案を題材とした学部間合同ワークショップの試み	平成 24 年 7 月	第 44 回　日本医学教育学会大会
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）		
第 2 回 東京薬科大学　病院・薬局薬剤師研修会	平成 21 年 5 月 24 日	タスクフォース
第 2 回 東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップ	平成 21 年 12 月 12,13 日	タスクフォース
第 3 回 東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップ	平成 22 年 7 月 10,11 日	タスクフォース
第 4 回 東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップ	平成 23 年 1 月 22,23 日	タスクフォース

東京薬科大学ＦＤ研修会（教育法に関するミニワークショップ） 第3回 東京薬科大学　カリキュラムプランニングＦＤワークショップ CITJ Japan　研究倫理 e-learning	平成 23 年 12 月 10 日 平成 25 年 8 月 21-23 日 平成 26 年 3 月 8 日	タスクフォース タスクフォース 責任ある研究行為、人を対象とした研究　修了

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）　Total Synthesis of Amphilectane-type Diterpenoid (±)-7-Isocyanoamphilecta-11(20),15-diene	共著	平成 23 年 3 月	Synlett (4): 547-550.
（論文）　Total Synthesis of Antimalarial Diterpenoid (+)-Kalihinol A	共著	平成 24 年 1 月	Chem. Commun. 48: 901-903.
（論文）　Total Synthesis of Marine Eicosanoid (-)-Hybridalactone	共著	平成 24 年 10 月	Chem. Eur. J. 18: 13531-13537.
（論文）　Synthesis of Phenol Derivatives from Cyclohex-2-enones bearing Alkyne through Lewis acid-Catalyzed Enolization and Intramolecular Alder-Rickert Reaction	共著	平成 24 年 10 月	J. Org. Chem. 77: 8999-9005.
（論文）　First Total Synthesis of (-)-Sinularianin B	共著	平成 25 年 9 月	Chem. Commun. 49: 8148-8150.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）沖縄産海綿由来の新規ジテルペンイソシアニドの単離，構造および合成		平成 26 年 9 月	第 58 回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会
（演題名）三環性ポリケチド Ascospiroketal の合成研究		平成 26 年 11 月	第 40 回 反応と合成の進歩シンポジウム
（演題名）海産ペンタノルジテルペノイド Elisabethin H の合成研究		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）
（演題名）南シナ海産軟体サンゴ由来の三環性トリノルジテルペノイド Chabrolol C の合成研究		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）
（演題名）遺伝情報制御化合物としてイミダゾールポリアミドを含むオリゴヌクレオチドの合成と評価		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）

（演題名）ナフタレンジイミド誘導体で修飾されたオリゴヌクレオチドの合成と評価	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）
（演題名）三環性ポリケチド Ascospiroketal B の合成研究	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 21 年 4 月以前～現在	日本薬学会　会員
平成 21 年 4 月以前～現在	日本化学会　会員
平成 21 年 4 月以前～現在	有機合成化学協会　会員
平成 21 年 4 月以前～現在	日本薬剤師会　会員
平成 20 年 10 月～ 現在	Marine Drugs, Member of Editorial Board
平成 21 年 4 月～ 現在	薬学教育協議会　有機化学系教科担当教員
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本化学会　代議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学教育推進センター	職名　准教授	氏名　横島　智

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成23年4月 ～現在	授業で教えられた内容が理解できているかどうかをその場で確認できるようにするため、WebClass というネットを利用した教育システム上に問題をあげておき、授業中に少し時間をとって、学生さんが各自持ってきたコンピューターでその問題を解くようにさせている。さらに、授業で出てきた内容がより実感を持ったものになるように、デモ実験をおこなったり、ビデオ教材を活用したりしている。ビデオ教材は後で復習しにくいので、スライド1枚にビデオの中でおこなわれていた実験の概要とポイントを書き込んでおき、学生さんが思い出しやすいようにしている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成23年4月 ～現在	授業のために作成したパワーポイントファイル（授業での説明のために使ったスライドや、授業外での自習用のまとめ・補足のスライド）を PDF にして WebClass 上に載せている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成23年4月 ～現在 平成20年4月 ～現在	FD に積極的に出席している。また、研究倫理の e-learning をおこなった。入学前教育、入学直後教育を担当している。 非常勤講師をしている国際基督教大学における電磁気学の授業ではプリント教材をもとにして10人程度の少人数教育を行っている。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Anisotropic Dissymmetry Factor, g: Theoretical Investigation on Single Molecule Chiroptical Spectroscopy	共著	平成26年7月	J Phys Chem A vol. 118 pp 5046-5057
（論文）Octahedral point-charge model and its application to fragment molecular orbital	共著	平成26年2月	Chem Phys Lett vol. 593 pp 165-173

calculations of chemical shifts			
（論文） ・-Conjugation of Two Nitronyl Nitroxides-Attached Diarylethenes	共著	平成 23 年 5 月	J Phys Chem B vol. 115 pp 5685-5692
（論文）Two Distinct Amyloid β-Protein (Aβ) Assembly Pathways Leading to Oligomers and Fibrils Identified by Combined Fluorescence Correlation Spectroscopy, Morphology, and Toxicity Analyses	共著	平成 23 年 4 月	J Biol Chem vol. 286 pp 11555-11562
（論文） Fragment-Molecular-Orbital-Method-Based ab Initio NMR Chemical-Shift Calculations for Large Molecular Systems	共著	平成 22 年 4 月	J Chem Theory Comput vol. 6 pp 1428-1444
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）アミロイドβの構造探索		平成 26 年 9 月	第 8 回分子科学討論会 2014
（演題名）アミロイドβの構造探索 II		平成 26 年 9 月	日本生物物理学会第 52 回年会
（演題名）アミロイドβの構造探索 IV		平成 27 年 3 月	日本物理学会第 70 回年次大会
（演題名）アミロイドβの構造探索		平成 27 年 3 月	日本化学会第 95 春季年会 (2015)
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 22 年 4 月～平成 26 年 3 月	分子シミュレーション研究会幹事		

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学教育推進センター	職名　准教授	氏名　三浦　典子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年～平成25年後期	微生物学Ⅰ（1年生後期必修）　講義形式　毎回確認テストを行い学生の知識の定着を確認、次の授業で解説をした。授業開始までに講義資料をWebclassにアップし予習ができるようにした。学生による授業評価は毎年実施し、黒板の字が見えにくいなどの要望に対応した。
	平成21年～平成25年後期	免疫学実習（2年生）実習　できるだけ少人数で作業ができるようにした。結果について考察ができるよう個別に指導した。
	平成23年～平成26年	PBLT（5年生　Bコース）演習　「臨床現場での感染症対策への薬剤師の関与を考える」をテーマに、グループワーク、発表会などを行った。期間中に2名の病院薬剤師によるPBLTも実施した。評価は、出席、発表用PPT、発表に対する質問など総合的に行った。
	平成24年～平成25年	ゼミナール（1年）演習　「微生物」をテーマに個人あるいはグループで調査をし、PPTで発表した。発表を聴く態度も重視した。出席、提出物などを総合的に評価した。
	平成26年	4P80（分担）(5年生）講義形式　免疫学、生化学の一部について、問題を解かせた後、プリントで補講を行った。
	平成26年	薬学入門演習（1年生）演習　早期体験実習のまとめとしてポスターを作成させた。ポスターの優秀者は早期体験実習報告会においてプレゼンテーションを行った。
	平成26年	医療の最前線（5年生）演習　1年生を相手に、生物学の問題の解説を行う、一般用医薬品の相談応需についてのロールプレイを行う準備をし、実際に、解説、ロールプレイを行った。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成22年8月10日	第3版　免疫学概説　廣川書店
	平成23年2月5日	新しい微生物学[第4班] 廣川書店

３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 23 年 7 月	第 43 回日本医学教育学会大会（共同発表者）「薬学部５年次の実務実習を補完する小人数教育プログラム」
	平成 25 年 7 月	第 45 回日本医学教育学会大会（共同発表者）「薬学部における課題研究の導入としてのラボワークショップの試み」
	平成 26 年 1 月	平成 25 年度コミュニケーション教育学会（共同発表者）「卒論生のチーム力醸成のためのラボワークショップの試み」
４　その他教育活動上特記すべき事項 （OSCE） （FD）	平成 21 年～平成 25 年 12 月、	本学で実施された「OSCE」に評価者として参加した。
	平成 22 年 3 月	学生支援 GP ワークショップ（問題解決型学習の実践～基礎と臨床をつなぐ学習へのアプローチ）に参加した。
	平成 21 年 10 月～現在	年に 2 回開催される「東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ」にタスクフォースとして参加した。（第 6 回を除く）
	平成 26 年 2 月	CITI Japan e-learning プログラム受講
	平成 26 年 7 月	「指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」にタスクフォースとして参加した。
	平成 26 年 8 月	2014（平成 26）年度全学 FD ワークショップに参加した。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）IL-10 is a negative regulatory factor of CAWS-vasculitis in CBA/J mice as assessed by comparison with Bruton's tyrosine kinase-deficient CBA/N mice	共著	平成 21 年 9 月	Journal of Immunology, **183**, 3417-24.
（論文）Dectin-2 Recognition of α-Mannans and Induction of Th17 Cell Differentiation Is Essential for Host Defense against *Candida albicans*	共著	平成 22 年 5 月	Immunity, **32**, 681-691.
（論文）Am80, a retinoic acid receptor agonist, ameliorates	共著	平成 25 年 2 月	Arthritis Rheum. 65(2):503-12 .

murine vasculitis through the suppression of neutrophil migration and activation			
（論文）CAWS administration increases the expression of interferon γ and complement factors that lead to severe vasculitis in DBA/2 mice	共著	平成 25 年 9 月	BMC Immunol. 24; 14:44.
（論文）Involvement of mannose-binding lectin in the pathogenesis of Kawasaki disease-like murine vasculitis	共著	平成 26 年 7 月	Clin Immunol, 153 (1), 64-72.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
平成 25 年度薬剤師継続学習通信教育講座の小論文投稿の現状		平成 26 年 6 月	2014 年度日本女性薬剤師会学術講演会
ミエロペルオキシダーゼ欠損マウスのカンジダ死菌肺炎重篤化機構		平成 26 年 7 月	平成 25 回日本生体防御学会学術総会
川崎病血管炎における HMGB1 の果たす役割の検討（モデルマウスを用いて）		平成 26 年 7 月	第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会
腹腔内、静脈内、ならびに皮下投与による病原性真菌 *Candida albicans* 由来菌体外多糖 CAWS の初期生体応答ならびに血管炎の解析		平成 26 年 9 月	系統的血管炎疾患モデル研究会
川崎病類似マウス血管炎モデルとサイトカイン		平成 26 年 11 月	第 20 回 MPO 研究会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 17 年 4 月～平成 21 年 3 月	東京都女性薬剤師会理事		
平成 21 年 4 月～現在	東京都女性薬剤師会副会長		
平成 26 年 4 月～現在	八王子市学校薬剤師		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 情報教育研究センター	職名　准教授	氏名　小杉　義幸

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度以前～現在	情報リテラシーI（必修）：前日の講義資料の公開とプロジェクタ活用。学生授業評価は概ね良好。 情報リテラシー演習（必修）：Office 系のソフトの理解と課題作成が中心。サポート要員の配置。 情報リテラシーII（選択）：演習形式。テーマを文書作成（ホームページを含む）に絞り目的を明確にする。xml などの汎用ファイル形式も作成。 総合系ゼミナール（選択）：少人数の SGD 及び演習形式。PC を用いた局方医薬品の添付文書の収集、加工。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成22年3月 平成21年度以前～現在	医療情報リテラシー（教科書）改訂 総合系ゼミナール用に日本薬局方データベース（DVD 教材）を毎年作成し配布
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年度以前～現在	学生の医薬品への理解を促進するための医薬品データベースの作成と Web 公開
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成26年8月 平成21年度以前～現在	研究者行動規範教育の e ラーニングを受講 学内 LAN 等を使った情報教育支援活動

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（翻訳）新薬ひとつに 1000 億円	共著	平成 21 年 10 月	朝日選書
（著書)薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック	共著	平成21年6月～ （毎年発行）	日本薬剤師会
（著書）JPN ドーピング・データベース第 2 版	共著	平成 22 年 3 月	じほう

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）添付文書 XML を用いる医薬情報データベースの再構築 II －JAPIC 型 XML データの相互作用・副作用データベースへの適用－	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成 20 年 4 月～現在	日本体育協会　スポーツ医・科学専門委員会ドーピング・データベース作業班　班員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 中国医学研究室	職名　准教授	氏名　猪越　英明

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 21 年 9 月～現在	東洋医学概論(3 年次選択) スライドを中心に、中医学入門として中医基礎理論から中医学的診断法、漢方薬の使い方および副作用や注意点などを解説する。 総合ゼミナール(2 年次選択) 中医学理論に基づき体質を考え、自己健康管理への結びつきを問う授業を行う。体質を見るために舌の観察は、学生から高評価である。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 25 年 9 月～現在	教材：東洋医学概論講義テキスト、講義用パワーポイントを作成
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）		
1)国際医療福祉大学薬学部	平成 21 年～現在	非常勤講師として、薬学部 3 年次に「東洋医学概論」、4 年次に「漢方医学」の講義を行っている。
2)月間情報誌	平成 25 年 1 月～現在	「健康と良い友だち」の情報誌内で、家庭で役立つ中国医学 Q&A(漢方相談)という記事コーナーに毎月連載
3)平成不妊研究会主催研修会	平成 25 年 3 月	「生理周期に合わせた漢方薬の使い方」という演題で講演を行った。
4)薬膳アカデミア主催勉強会	平成 25 年 6 月	「美容と漢方」という演題で講演を行った。
5)妊活セミナー(主催:東西薬局)	平成 26 年 7 月	「妊娠力を高める漢方」という演題で講演を行った。
6)第 32 回日本受精着床学会シンポジウム	平成 26 年 7 月	「妊娠力を高める漢方薬の効果的な使い方と注意点について」という演題で講演を行った。
7)第 32 回日本受精着床学会市民講座	平成 26 年 8 月	「頑張れ!妊活、妊娠力を高める漢方」という演題で講演を行った。
8)中国医学研修	平成 26 年 8 月	4 年次・5 年次の学生を対象に中国長春中医薬大学への短期留学研修を行った。
9)女性のための東洋医学セミナー(主催:サンケイリビング新聞社)	平成 26 年 12 月	「冷え、不眠、のぼせの対策」をテーマとして講演を行った。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
顔をみて病気をチェックする本	共著	平成 24 年 8 月	PHP 研究所
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 21 年～現在	多摩中医薬研究会 会長		
平成 22 年～現在	日本中医学会 評議員		
平成 24 年 5 月～現在	東京薬科大学附属社会医療研究所 国際交流センター 教授		
平成 26 年 4 月～現在	東京薬科大学附属社会医療研究所 中国医学実践講座 講師		

［注］１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 免疫学教室	職名　准教授	氏名　安達　禎之

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成12年4月 ～現在 平成24年4月 ～現在	毎回　小テストを行い、要点の確認とともに学生の理解度把握、フィードバックを行っている。 卒論文献調査発表において、ポスター形式での発表、質疑応答を行い、プレゼン能力、活発なディスカッション能力を養えるよう工夫している。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 11 月 25 日 平成23年2月5日 平成22年8月10日	CBT 対策と演習　「微生物学・免疫学」　（廣川書店）の生体防御反応の章　執筆 教科書　「新しい微生物学」（廣川書店）　バイオテクノロジーの部　執筆 教科書　「免疫学概説」（廣川書店）執筆
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成25年3月21日 平成26年8月20,21日 平成26年9月6日	東京薬科大学　吉田仲子記念賞（教育賞）「実践的な薬学キャリアデザインプログラムの開発」共同受賞 第 4 回　東京薬科大学　全学 FD ワークショップ参加 研究者倫理 E-learning 受講

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）エンドトキシン研究 12	共著	平成 21 年 11 月	医学図書出版
（著書）β-グルカンの基礎と応用	共著	平成 22 年 9 月	シーエムシー出版
（論文）Dectin-2 recognition of alpha-mannans and induction of Th17 cell differentiation is essential for host defense against *Candida albicans*.	共著	平成 22 年 5 月	Immunity Vol. **32**, 681-691
（論文）Comparative analysis of hepatic CD14 expression between two different endotoxin shock model mice: relation between hepatic	共著	平成 25 年 1 月	PLoS One. Vol. **8**, e53692

injury and CD14 expression.			
（論文）The dectin 1 agonist curdlan regulates osteoclastogenesis by inhibiting nuclear factor of activated T cells cytoplasmic 1 (NFATc1) through Syk kinase.	共著	平成 26 年 7 月	J Biol Chem. **289**, 19191-19203
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
酵素合成グリコーゲンの腸管免疫活性化作用の検討		平成 26 年 5 月	第 68 回日本栄養・食料学会大会
機能性多糖画分の抽出・定量における免疫受容体分子の応用		平成 26 年 9 月	第 9 回　遺伝子栄養学研究会
融合型多糖受容体発現による真菌多糖検出細胞の作製		平成 26 年 10 月	第 97 回 日本細菌学会関東支部総会
Innate immune recognition proteins distinguish fine structural difference of fungal beta-glucans		平成 27 年 3 月	第 88 回　日本細菌学会総会
Chimeric antigen receptor(CAR)発現によるβグルカン検出レポーター細胞の作製		平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
C 型レクチン(Dectin-1 及び-3)の機能解析及び受容体間相互作用の検討		平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
β-グルカン認識タンパクを用いたβ-グルカン検出システムの検討		平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 14 年 1 月～現在	日本細菌学会評議委員		
平成 26 年 10 月～現在	日本医真菌学会代議員		
平成 27 年 1 月～現在	日本生体防御学会　運営委員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 衛生化学教室	職名　准教授	氏名　早川　磨紀男

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 18 年 4 月 ～現在	栄養素の化学(3 年前期必修)：コアカリキュラム C11「栄養素」の領域の SBOs を中心に、教科書、板書、power point などを活用した授業を行う一方、食と健康に関わる時事問題をテーマに客観的考察を加えたレポートを課し、学期末のテストの成績と合わせて単位認定を行う。
	平成 18 年 4 月 ～現在	食品と健康（3 年後期必修）：コアカリキュラム C11「食品の品質と管理」「食中毒」の領域の SBOs を中心に、教科書、板書、 power point などを活用した授業を行い､学期末のテストにより単位認定を行う。
	平成 20 年 4 月 ～現在	実用薬学英語（3 年前期・後期必修）：後期、AB、GH クラスを対象に、各クラス 3 コマ分を担当。基本的英単語の用法、癌についての科学論文の解説、マンガから学ぶ日常会話についてオムニバス的に進行しながら講義する。プリントと power point を活用。
	平成 20 年 4 月 ～現在	健康・環境ゼミナール（3 年前期選択）：「日本人の食を考える」という主題で各学生が関心を抱いている食と健康に関するテーマを主体的に選んで調査を進め、power point で発表する。
	平成 21 年 4 月 ～現在	医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション②（4 年前期選択）：「健康食品」による健康被害について、薬剤師の方を招いての導入講義、接遇態度を身につけるロールプレー実施した後、2 名のペアになった学生が薬局を訪問し、来店患者を対象に、健康被害の聞き取り調査を実施し、調査結果を東京都薬剤師会へ報告する。
	平成 21 年以前 ～現在	衛生化学・公衆衛生学実習（４年前期）：脂質の変質試験、蛋白質の定量、β-カロテンの定量、ビタミン B1 の定量をテーマにする。
	平成 21 年以前 ～現在	卒論指導（４～6 年）：実験の指導、文献調査の指導
	平成 21 年 4 月 ～現在	アドバンス英語（４年）：TOIEC 受験指導

２　作成した教科書、教材、参考書	平成 18 年 4 月 ～ 平成 20 年 4 月 ～ 平成 21 年 4 月 ～ 平成 21 年以前 ～現在	「栄養素の化学」「食品と健康」：講義補助プリント、power point 資料 「実用薬学英語」「健康・環境ゼミナール」：講義補助プリント、power point 資料 「医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション②」：講義補助プリント、power point 資料、「健康食品」情報共有シート（東京都薬剤師会版） 衛生化学・公衆衛生学実習（４年前期）：実習書	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 23 年 4 月 ～ 平成 26 年 2 月	実務実習コーディネーターとして、クラフトさくら薬局の教育担当者と連携して、実務実習中の実習生との面談、フォローアップを行う。 CITI Japan e-learning プログラム基礎編受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）コンパス衛生薬学-健康と環境-	共著	平成 23 年 4 月	株式会社　南江堂
（著書）スタンダード薬学シリーズ 5 健康と環境（第２版）	共著	平成 24 年 4 月	東京化学同人
（論文）Hypoxia downregulates farnesoid X receptor via a hypoxia-inducible factor-independent but p38 mitogen-activated protein kinase-dependent pathway.	共著	平成 21 年	FEBS J. vol.276 No.5 1319-1332
(論文)Human lactoferrin activates NF-κB through Toll- like receptor 4 pathway while it interferes with the lipopolysaccharide-stimulated TLR4 signaling	共著	平成 22 年	FEBS J. vol.277 No.9 2051-2066
（論文）Role of K63-linked polyubiquitination in NF-κB signaling: which ligase catalyzes and what molecule is targeted?	共著	平成 24 年	J. Biochem. vol.151 No.2 115-118

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）酸素ストレス誘発性 NF-κB 活性化における自然免疫情報伝達系の関与	平成 26 年 5 月	日本薬学会（第 15 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム）
（演題名）ウシ乳由来ラクトフェリンのマクロファージ泡沫化抑制作用	平成 26 年 9 月	日本生化学会
（演題名）Carcinoma-specific inhibition of cell proliferation by down-regulating farnesoid X receptor expression	平成 26 年 12 月	The 2014 ASCB/IFCB meeting
（演題名）自然免疫情報伝達機構を介した酸素ストレス誘発性 NF-κB 機構の解明	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）ラクトフェリンの潰瘍性大腸炎に対する抑制作用：デキストラン硫酸ナトリウム誘発性大腸炎モデルマウスを用いた検討	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）母乳成分ラクトフェリンは TLR4 非依存的な機構により動脈硬化の発症・進展を制御する	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）Thevetia nerifolias 種子のカルデノリド配糖体と腫瘍細胞毒性（２）	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 21 年～現在	Pharmaco-Hematology シンポジウム世話人

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物送達学教室	職名　准教授	氏名　根岸　洋一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度～現在	カードの利用により、授業における学生の感想を聴収し、授業改善に役立てている。授業中にチェックテストを行い、学生自身の理解度の把握に役立てている。実習では、口頭試問を行うことで、理解度を図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年度～現在	教科書（応用薬剤学、薬物送達学）としては毎回講義用の PowerPoint ファイルを作成し、それを印刷したテキストを使用している。参加型のテキストとしているため、学生が書き込みを行うことで、授業終了後にわかりやすい教科書が完成するように工夫されている。テキスト内に理解度チェックテストを組込み、学生自身が能動的に復習できるように作成している。 実習では、SBO に対応する実習内容を記載している。さらに演習問題も組込むことで、理解度を図っている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成26年3月	CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(著書)バブルリポソームによる超音波核酸デリバリーシステム	共著	平成24年3月	株式会社シーエムシー出版 54-61
（論文）Enhanced laminin-derived peptide AG73-mediated liposomal gene transfer by Bubble liposomes and ultrasound.	共著	平成22年2月	Molecular Pharmaceutics, vol.7 No.1. 217-226.
（論文） Systemic Delivery Systems of Angiogenic Gene by Novel Bubble Liposomes Containing Cationic Lipid and Ultrasound Exposure.	共著	平成24年6月	Molecular Pharmaceutics, vol.9 No.6. 1834-1840.
（論文）　AG73-modified Bubble	共著	平成25年1月	Biomaterials.vol.34 No.2.

liposomes for targeted ultrasound imaging of tumor neovasculature.			501-507.
（論文） Bubble Liposomes and Ultrasound Exposure Improve Localized Morpholino Oligomer Delivery into the Skeletal Muscles of Dystrophic mdx Mice.	共著	平成 26 年 1 月	Molecular Pharmaceutics, vol.11 No.3. 1053-1061.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
セラノスティックスシステム開発に向けたバブルリポソームによる超音波核酸デリバリー		平成 26 年 5 月	日本超音波医学会第 87 回学術集会
超音波 DDS 技術を融合した核酸デリバリーシステム		平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会学術集会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	日本薬剤学会　英語セミナー委員会　東地区担当委員		
平成 21 年 4 月～平成 23 年 3 月	日本歯周病学会倫理委員会委員		
平成 22 年 4 月～平成 26 年 4 月	日本薬剤学会　遺伝子細胞製剤フォーカスグループ委員会委員		
平成 25 年 12 月～平成 27 年 12 月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員		
平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月	日本薬剤学会評議委員		
平成 26 年 5 月～現在	日本薬剤学会　核酸・遺伝子医薬フォーカスグループ委員会委員		
平成 26 年 8 月～現在	遺伝子・デリバリー研究会・役員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 内分泌・神経薬理学	職名　准教授	氏名　　田村 和広

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月 以前～現在	薬学入門演習Ⅰ(1年次前期必修): アドバイジーに対しては学内共通プログラムに加え大学で学ぶ意義や学習法についてSGDにてアドバイスしている。テキストとして 学びのチィップス(大学で鍛える思考法・玉川大学出版)も使用。早期体験実習(帝人ファーマ，東医大・医療センター等)引率
	平成21年4月 以前～平成24年9月	生理活性物質概論(2年次前期必修): オータコイド関連薬を担当。薬物の数が多くならないよう重要な汎用薬の作用機序を重点的に解説した。後期の「薬の効き方」の学習効果を高めるための講義でもあり関連した機能形態学の内容にもふれ復習の必要性を啓蒙した。使用パワーポイントは Web 公開(Webclass)，予習復習に役立つようにした。
	平成21年4月 以前～現在	薬の効き方Ⅰ(2年次後期必修): 作用機序の理解を促すため重要項目は図や絵を使って板書しノートを取らせている。講義前にはシラバスSBOを提示し目標を明確化，使用パワーポイントはWeb公開しており，自学自習の助けとしている。テキストをフル活用しSBO項目のまとめノートを作成するよう指示し，まとめ方のアドバイスをしている。定期試験対策用の具体的問題項目リスト等を毎年配布している。例年，再履修者の補講(2～3 日)とノート提出後の個別指導を実施している。
	平成 23 年,26年9～12月	薬・疾病ゼミナール (2年次後期必修): 「生理活性物質概論」と「薬の効き方」の知識を深める。23 年度: 重要薬につき，1) 発見開発の経緯，2) 構造の特徴，3) 生理薬理作用と医療応用 4) 副作用とそれらの機序について，各受講者はノート見開き１ページにポイントをまとめ発表した。26 年度:代表的生理活性物質の生物化学，機能，関連疾患，関連薬の基本解説に始まり，各個人単位でのノート整理，確認シート解答を通して知識を確認した。講義時間にテキストを確認し，討議する時間を設けた。一部パサバ薬学演習シリーズ(京都廣川)DVDや症例DVDを用いた。DVD学習は評判が良かった。
	平成24年5月	薬・疾病ゼミナール (3年次前期必修): 2年次の「薬の効き方」と「疾病と薬物治療」の知識を基に,生活習慣病に関して,その病態生理と予防治療を考える。具体的症例を取り上げ,問題点,病態,その予防と治療法,患者への説明などについて,調査・検討した。これら疾患に適応さ

		れる既存の主要医薬品を添付文書,製品紹介パンフレット,学術雑誌,参考書などを駆使して,多角的に調査し,それらの薬物治療の現状と課題,今後の展望について討論した。グループ(5～6 名/班)単位で作業。
	平成 21 年 4 月以前～現在	薬理学実習 (4 年次前期必修): 臓器，個体レベルでいかなる機序を介して薬理作用が発揮されるのかについて実験を通してその手法を知り，講義演習で学んだ知識を基に考察,レポートを作成する。4 年制留年生に対しては，後期に実習を実施。終了時に,口頭試問,一斉のまとめを通し，ポイントを確認,レポート作成の一助としている。
	平成 21 年 4 月以前～現在	医療衛生薬学演習 I-ii(4 年次前期必修): 「慢性・難治性疾患の薬物療法」(H21 まで)及び「臨床応用薬学への課題研究チュートリアル」を担当。慢性・難治性疾患から，テーマを選び，各自の課題とし，その病態，治療法，特に薬物療法と予防法について，資料調査・研究，討論，発表資料作成，発表の過程において，担当学生を個別指導。
	平成 21 年 4 月以前～現在	学科別英語特論　(4 年次前期必修) 最新の内分泌生理学・薬理学の関連論文を読み,正確に内容を理解できるような読解力を養うため，約 10 論文についてその読解を実施した。
	平成 21 年 4 月以前～現在	医療衛生薬学特論-iii(医療衛生薬学小論文:4 年次前期必修) 細胞膜受容体と生理活性物質,抗悪性腫瘍薬,自律神経系作用薬,代謝疾患治療薬,オータコイド関連薬についての課題を与え,発表・討論を行った。
	平成 21 年 4 月以前～現在	医療衛生薬学演習Ⅱ-i 及びⅡ-ii(5・6 年次通年必修) 教室セミナーに参加し，各々の研究内容について発表し，討議する。また，最近,発表された薬理学と内分泌学の最新知見の読解に加え,それらの知見に対する討論の場を提供した。例年，課題研究の中間発表会を夏休み中にゼミ合宿として実施。一部の学生は,東医大での内分泌・代謝研究会や薬理学会・関東部会等に参加・発表し，学外での発表経験を積んでスキルアップにつなげた。
	平成 21 年 4 月以前～現在	アドバンス英語　(5 年次通年必修) 医療現場や学術会議,さらには企業においては海外でも折衝などで必要とされる実用かつ実践的な英語力を身につけさせるために，一般的な科学論文を読解した。与えた分担課題・演習問題を,順次解説させた。また,TOEIC 受験を促している。
	平成 21 年 4 月以前～現在	実務実習　コーディネーター(5 年次必修): 主に，秀和綜合病院を担当。担当学生とは主にメールで頻繁にコンタクトするように心がけている。
	平成 21 年 4 月	アドバンス薬・疾病演習(6 年次必修):

	以前～現在 平成 22 年 4 月以前～現在 平成 22 年 5 月	国家試験に出題される内分泌系作用薬のエッセンスを中心に解説した。 課題研究　実験研究並びに調査研究コース(4, 5, 6 年生通年)：研究課題を通して,科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し，生涯にわたり難題に取り組めるよう，またそれを高め続ける態度を養えるように，研究手技のみだけでなく，ノートのつけ方，まとめ方及び発表法について，細かな指導をしている。4P80 の薬理系講義を実施。また，医療の最前線(5 年生調査コース)においては，外部講師(臨床医)のコーディネートを行っている。 薬理学特論　(大学院講義　薬学専攻　博士課程) 子宮内膜症の発症・進行メカニズム，現在の薬物治療と今後の展望について概説した。原著論文を紹介し，そのアプローチ法や手法も理解できるよう工夫した。
２　作成した教科書，教材，参考書	平成 22 年 3 月	最新 薬の効き方　愛智出版　(共著)：末梢神経系，内分泌系，オータコイド関連薬
	平成 25 年 3 月	基礎から学ぶ　内分泌薬学　エルゼビア・ジャパン　(共著)　：性ホルモン
	平成 21 年 4 月以前～現在	薬理学実習書
	平成 21 年 4 月以前～現在	下記の講義で使用のパワーポイント教材 [薬の効き方 I（自律神経系作用薬,内分泌系作用薬),生理活性物質概論(オータコイド関連薬; H24 まで)，2,3 年ゼミナール,5 年 4P80,6 年アドバンス演習]　薬理学実習・演習(腸管，利尿薬)　(プリント教材)
３　教育方法・教育実践に関する発表，講演等	平成 24 年 3 月	日本薬学会・第 132 年会・一般演題発表:東薬大のキッズラボ「楽しい科学実験をしよう」
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年 4 月以前～23 年 3 月	文科省・学生支援 GP 世代交流プロジェクト(平成 19 年～)委員として,「キッズラボ」を立ち上げ，5 年間実施(現在，佐藤・稲葉氏が継承)，また「車いすバスケット体験講座」を進行，これにより学生主体の活動やサービスラーニングを支援
	平成 21 年 4 月以前～現在	薬学部学内 FD 講演会にはほぼ毎回参加している。
	平成 21 年 4 月以前～現在	学園祭での学術系クラブによる「体験実習」を支援している。
	平成 21 年 4 月以前～25 年 3 月	高校模擬講義:首都圏を中心に高校にて薬学・薬剤師の仕事の魅力をアピールした(21～25 年:20 件)。
	平成 23 年 5 月	東京薬科大学・良い試験問題を作る・ミニ FD 研修会に参加。

	平成24年7月	八王子市 第 2 回夏休み子どもいちょう塾「からだの発達・成長をあやつるホルモン」講師	
	平成25年3月～現在	CITI e-learning（研究倫理)を受講している。	
	平成26年3月	第 10 回東薬大・実務実習教育者ワークショップに参加	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所，発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Protease-activated receptor-stimulated interleukin-6 expression in endometriosis-like lesion in an experimental mouse model of endometriosis.	共著	平成24年2月	J. Pharmacol Sci.11巻,40-51頁
（著書）胎盤 -生理から病態へ- 絨毛細胞の分化機序	共著	平成25年8月	金原出版.産婦人科の実際,62巻,1033-1039頁
（論文）Stathmin regulates hypoxia-inducible factor- 1α expression through the mammalian target of rapamycin pathway in ovarian clear cell adenocarcinoma.	共著	平成25年8月	ISRN Pharmacol.2013巻,279593,8頁（電子ジャーナル）
（論文）The role of exchange protein directly activated by cyclic AMP 2-mediated calreticulin expression in the decidualization of human endometrial stromal cells.	共著	平成26年3月	Endocrinology,155巻,240-248頁
（論文）Evaluation of IGFBP-7 DNA methylation changes and serum protein variation in Swedish subjects	共著	平成26年4月	Clin. Epigenetics, 5巻, 20頁(電子ジャーナル)
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） ヒト子宮内膜間質細胞の機能に及ぼすα_1-アンチトリプシン発現抑制の効果		平成26年6月	第 72 回西東京内分泌代謝研究会
ラット妊娠子宮の脱落膜化における Epac シグナル関連因子の役割		平成26年6月	第 72 回西東京内分泌代謝研究会
Inhibitory action of alpha1-antitrypsin on proinflammatory mediators expression in human endometrial stromal cells.		平成26年6月	国際内分泌会議・米国内分泌会議 ICE/ENDO 2014(シカゴ) (The 16th International Congress of Endocrinology)
Involvement of cAMP signaling mediators, Epac1,			国際内分泌会議・米国内分泌

Epac2, and Rap1 in decidualization of rat uterus.	平成 26 年 6 月	会議 ICE/ENDO 2014(シカゴ) (The 16th International Congress of Endocrinology)
副腎皮質細胞のコルチゾル産生に対するリンゴ葉成分の影響	平成 26 年 7 月	第 130 回日本薬理学会関東部会
副腎細胞からのホルモン分泌に対するリンゴ葉成分の影響	平成 26 年 8 月	生体機能と創薬シンポジウム 2014
敗血症モデルマウスの脂肪組織内マクロファージ動向とピオグリタゾン投与の影響	平成 26 年 10 月	第 131 回日本薬理学会関東部会
栄養膜細胞のホルモン産生における cAMP と Ca^{2+}の関係	平成 26 年 10 月	第 22 回日本胎盤学会学術集会
副腎髄質細胞からのカテコールアミン分泌に対するリンゴ葉成分ネロリドールの影響	平成 26 年 12 月	第 73 回西東京内分泌代謝研究会
ラット妊娠初期子宮における Calreticulin の発現と脱落膜化との関係 (学術奨励賞受賞演題)	平成 27 年 1 月	第 19 回生殖内分泌学会
ヒト胎盤栄養膜細胞の分化における細胞内 Ca^{2+}イオンの役割	平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会
ウシ副腎皮質細胞のコルチゾル産生に対するリンゴ葉成分フロレチンの作用	平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会
ヒト子宮内膜間質細胞での EPAC シグナルによる C/EBPβを介したプロラクチンの発現上昇	平成 27 年 3 月	第 135 回日本薬学会
ラットの着床周辺期子宮におけるカルレチキュリンの発現と脱落膜化における役割	平成 27 年 3 月	第 135 回日本薬学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成 21 年 4 月以前～現在	日本薬理学会・学術評議員
平成 21 年 4 月以前～現在	日本生殖内分泌学会・学術評議員
平成 21 年 4 月以前～平成 23 年 3 月	日本胎盤学会・評議員
平成 21 年 4 月以前～現在	西東京内分泌代謝研究会 世話人・運営委員
平成 22 年 4 月～平成 25 年 3 月	ISRN Pharmacology, Editorial Board
平成 23 年 4 月～現在	日本胎盤学会・理事
平成 24 年 4 月～平成 24 年 9 月	国際胎盤学会(IFPA)運営委員会, IFPA-Workshop 企画・運営
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	東京都登録販売者・動物用医薬品出題委員
平成 24 年 12 月～現在	Science publishing group; Editorial member
平成 25 年 4 月～現在	日本内分泌学会・評議員

[注] 1 各教員ごとに最近６年間の教育活動，研究活動，学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば，大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は，各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は，最近６年間の代表的な著書・論文等，５つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は，就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 分子機能解析学教室	職名　准教授	氏名　青山　洋史

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		義務教育課程、高校教育課程の内容を大学の講義として組み込む。
２　作成した教科書、教材、参考書		物理化学に関する講義資料
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 23 年 12 月、平成 24 年 12 月、平成 25 年 12 月 平成 26 年 1 月	本学で実施された「OSCE」に評価者として参加した。 CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）生体有機化学　「９章 生理活性発現の化学１：酵素阻害の化学」（橋本 祐一・村田 道雄　編著）	共著	平成 24 年 10 月	東京化学同人
（論文）Small-molecular inhibitors of Ca^{2+}- induced mitochondrial permeability transition (MPT) derived from muscle relaxant dantrolene.	共著	平成 24 年 12 月	Bioorg. Med. Chem. 2012, 20(21), 6384-6393.
（論文） A novel and simple method for the preparation of (*R*)- and (*S*)-pyrrolidine-2-phosphonic acids: phosphonic acid analogues of proline.	共著	平成 25 年 12 月	Tetrahedron: Asymmetry 2013, 24(24), 1562-1566.
（論文） Synthesis of poly-substituted pyrazolo[1,5-*a*]quinolines through one-pot two component cascade reaction.	共著	平成 26 年 4 月	Tetrahedron 2014, 70(17), 2766-2775.
（論文） A novel tetramethylnaphthalene derivative	共著	平成 26 年 4 月	Anticancer Res. 2014, 34(4), 1771-1778.

selectively inhibits adult T-cell leukemia (ATL) cells *in vitro*.			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬剤学教室	職名　准教授	氏名　下枝貞彦

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月から現在	事前実務実習において臨床教員として、病院勤務経験を生かした教育に取り組んでいる。これまで、注射薬調剤、医薬品情報の提供など分野で学生を指導してきた。実習では、自らが経験した症例を呈示しながら、学生がより臨場感を持てるよう工夫している。
	平成22年1月から現在	「チーム医療に貢献する薬剤師を指向した実務実習型PBLT」をテーマに、実務実習が終了した5年生を対象に、より高度な演習を行っている。医療現場で薬剤師業務に従事することを指向した実務実習型 PBLT を行うことで、チーム医療に貢献できる薬剤師になるための基礎力を身につけられる用工夫している。実施の症例を呈示して、薬学的考察も加えられる。
	平成22年4月から現在	1 年前期より薬学生としての学習に対するモチベーションを高めるためのアドバイスと早期体験実習代替課題に基づくグループ討論を通じて共感的な態度、あるいは能動的な学習態度を身に付けるアドバイザーSGD を実施している。薬学入門演習テキスト、発表用ポスター、早期体験実習感想文を用い、討論への参加態度（積極性）と発言内容を加味し、医療人たる初年度人間教育を実施している。
	平成22年4月から現在	6 年次選択専門科目として「高齢者医療」の講義を行っている。がん専門薬剤師の資格を生かし、特に高齢者のがん治療を中心に据え、日本ではまだ一般的でない高齢者に限定した抗がん剤の投与方法を、NCCN のガイドラインに準拠しエビデンスに基づき講義を行っている。
	平成 22 年 11 月から現在	「がん専門薬剤師への道のりとその役割を理解し擬似体験しよう」をテーマに、3 年生を対象にゼミナールを行っている。がん専門薬剤師とがん指導薬剤師の資格を生かし、がん専門薬剤師に求められる知識や技術の一端を紹介し、その役割を擬似体験させている。本ゼミナールは、卒業後

		がん専門薬剤師として臨床現場で活躍することを目指す学生やがん治療に興味のある学生の皆が広く参加できるカリキュラムを用意している。SGD や演習は、毎回テーマを変え、短時間でグループごとの考えや結果を集約し、その結果を発表させている。
	平成 22 年 4 月から現在	4P80 講義を、6 年生 B コース学生を対象とした国家試験対策授業の一環として実施している。悪性腫瘍と感染症を担当し、サブノートになるプリントを配付。講義はパワーポイントを作成した。これまではパワーポイントによる解説が中心の授業形態を取っていたが、方針を変えサブノートを配付しそこへ記載させることで、その後の総合試験に対応できるよう配慮した。講義を聴きながらサブノートが作成できるよう、ゆっくりと話をした。
	平成 23 年 4 月から現在	6 年次選択専門科目として「感染制御学」の講義を行っている。特に、血液疾患を中心とした悪性腫瘍の薬物療法や骨髄移植に病院勤務薬剤師として関与してきたキャリアを生かし、易感染状態にある患者で問題となる日和見感染症を中心に、エビデンスに基づく薬物治療について講義を行っている。特にウイルス感染症と深在性真菌症に時間をかけ解説している。
	平成 23 年 9 月から現在	3 年次必修科目として「疾病と薬物治療」の血液疾患を中心とした講義を行っている。骨髄移植チームの専属薬剤師として約 200 症例の造血幹細胞移植に携わってきたキャリアや現在定期的に出向している病院での症例を交え、白血病、多発性骨髄腫、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群に関する講義を、臨場感を持って行えるよう工夫している。特に難解な血液疾患をわかりやすく学生に伝えるため、復習がしやすいよう Web 上で講義資料は全て公開している。
	平成 24 年 2 月から現在	卒業研究の一環として、教室学生を対象に症例検討会を実施している。出向先の病院で実際に経験した症例を取り上げ、がん専門薬剤師の視点から薬物療法や副作用対策にどのように関わるべきなのかを学生自らが考え、発表し議論することで理解を深めることができるよう工夫している。4 年生から 6 年生が対象となるため、対象学年毎

		に難易度を変え、症例に関連した練習問題を作成させ、学生間で出題・解答することでより実力がつくような取り組みも行っている。
	平成 24 年 4 月から現在	がん専門薬剤師が関わるチーム医療　東京医科歯科大学社会人大学院：がん専門薬剤師の立場から、実臨床医で求められる知識を集中講義形式で実施した。レジメンの確認、処方監査、抗がん剤の適正管理、副作用の回避、早期発見とその対策、薬物療法に関する患者への説明、治療方針構築への参画、当該施設における臨床データの収集と解析について講義はパワーポイントを作成し実施している。
	平成 25 年 7 月から現在	4 年次科別演習科目として「セルフメディケーション」を担当。インターネットによる医薬品販売の是非を中心に SGD を行い、保険薬局における薬剤師の役割を学生自らが考え、地域医療における薬剤師の新たな業務創生とは何かを提言できるよう工夫している。
	平成 25 年 9 月から現在	6 年次選択専門科目として「悪性腫瘍」の講義を行っている。5 大がんに加え、血液がん、婦人科がん、腎がんを加え、がん専門薬剤師の立場から網羅的な講義を行っている。特に近年、がんの薬物治療は新薬が次々と上市され、大きな変化が生じている。最新のがん薬物治療の中から、現時点で知っておくべき内容を精選し、講義を行っている。
	平成 25 年 10 月から現在	日本におけるがん専門薬剤師の役割を瀋陽薬科大学交換留学生に講義している。日本のがん専門薬剤師の立場から、日本の実臨床医で求められる知識を集中講義形式で実施し、レジメンの確認、処方監査、抗がん剤の適正管理、副作用の回避、早期発見とその対策、薬物療法に関する患者への説明、治療方針構築への参画、当該施設における臨床データの収集と解析に関して、日本の癌治療に従事する臨床薬剤師の立場から解説した。
	平成 25 年 11 月から現在	がん専門薬剤師と共に考える「病院薬剤師・専門薬剤師の仕事」をテーマに、1 年生を対象に将来薬剤師としてどのような道を歩んで行きたいか、進路選択の参考となるようなゼミを実施している。血液疾患を中心とした悪性腫瘍の薬物療法に病院勤務薬剤師として長年携わり、がん専門薬

		剤師の資格があるキャリアを生かし、本ゼミナールでは将来病院薬剤師を目指す学生や、専門薬剤師制度に興味のある学生を対象に「病院薬剤師・専門薬剤師の仕事」の一端を紹介している。本ゼミナールでは、SGD を取り入れ、学生が討論する時間を特に多くしている。	
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 22 年 11 月 平成 22 年 11 月 平成 23 年 9 月から現在 平成 25 年 9 月から現在	薬剤師のための疾患別薬物療法　悪性腫瘍 薬剤師のための疾患別薬物療法　感染症／呼吸器疾患／皮膚疾患／感覚器疾患 「疾病と薬物治療」血液疾患の講義用として Web 上で教材を提供 「悪性腫瘍」の講義用とし冊子体で教材を提供	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 22 年 1 月 平成 22 年 1 月	実務家教員に対する「臨地実務」制度整備への課題（第 31 回日本病院薬剤師会近畿学術大会） 薬学部 5 年次の実務実習を補完する少人数教育プログラム（第 43 回日本医学教育学会大会）	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年 9 月～現在 平成 25 年 1 月～現在 平成 25 年 6 月 平成 25 年 8 月 平成 26 年 3 月 平成 26 年 8 月	武蔵野赤十字病院薬剤部へ週１回出向し、臨地薬剤師と共に血液内科、腫瘍内科のカンファレンスへの参加、診療部長による回診への同行、病棟における薬剤管理指導を行っている。 瀋陽薬科大学との国際交流プログラムに参加し、交換研修生に対して日本のがん薬物療法に関連した講義を行っている。 瀋陽薬科大学を訪問し、中国にける薬学教育の現状を視察した。また中国医科大学と瀋陽陸軍病院の一部も視察し、中国の保健衛生並びに医療事情についても視察した。 平成 25 年度カリキュラムプランニングのための FD 研修会（本学主催）にタスクフォースとして参加。 CITI Japan e-learning プログラム 受講 米国UCSFの薬学部で研修を受けた。米国の医療事情、薬剤師の取り組む臨床薬学の現状、薬学教育の現状を視察した。また、同大学の教授陣より複数日にわたり講義を受け、日本における教育方法と比較することができた。	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称

（著書）研究、開発、製造、検査現場におけるヒューマンエラー対策事例集－独自性のある仕組みづくり､効果のある教育法－	共著	平成 25 年 10 月	技術情報協会
（論文） Support to Regimen for Prescription of Chemoradiotherapy with S-1/weekly Docetaxel__for Recurrent and Progressive Head and Neck Cancer and Measures Against Side Effects	共著	平成 21 年 9 月	Jpn. J. Pharm. Palliat. Care. Sci., vol. 2 59-64
（論文）Clinical significance of measuring the blood concentration of itraconazole oral solution in the field of hematology.	共著	平成 22 年 11 月	Bio Pharm Bull. vol. 33 .1861-1866
（論文）Simple column-switching HPLC method for determining levels of the antifungal agent micafungin in human plasma and application to patient samples.	共著	平成 25 年 5 月	Biomed. Chromatogr. vol.27, 551-555
（論文）Detection of CYP2C19 gene polymorphism from noninvasive samples by cycling probe technology.	共著	平成 26 年 2 月	Ann Clin Biochem. 51, 298-300
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
唾液中 IgA を指標としたγ－アミノ酪酸によるストレス抑制効果と免疫力増進効果の検討		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会
ストレスマーカーを指標としたリラクゼーション効果の検討～複数種アロマオイルの長期使用によるストレス軽減効果の比較と検討～		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会
FEC 療法における用量設定規定因子の解析		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会
アゾール系抗真菌薬との併用が及ぼすビンクリスチンの副作用発現状況に関する検討		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会
Steps and Role of Board Certified Oncology Pharmacy Specialists in Japan		平成 26 年 11 月	High-end International Forum on Clinical Pharmacy Education and Practice & The 20th Salon of Hospital Pharmacists in North China
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 16 年 1 月～現在	日本医療薬学会がん指導薬剤師		
平成 16 年 1 月～現在	日本医療薬学会がん専門薬剤師		

平成 16 年 1 月～現在	日本医療薬学会指導薬剤師
平成 16 年 1 月～現在	日本医療薬学会認定薬剤師
平成 21 年 4 月～現在	日本薬剤師会認定薬剤師
平成 21 年 4 月～現在	日本緩和医療薬学会社員
平成 25 年 4 月～現在	日本医療薬学会評議委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 第三英語研究室	職名　准教授	氏名　Eric M. Skier

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年～現在	Communication: I have used textbooks on English for student pharmacists that I have coauthored. They include: 薬学英語入門、薬学英語１、and 薬学英語２。In the communication classes, there is a focus on four skills: speaking, listening, reading, and writing. In particular there is a focus on the pharmaceutical sciences and communication with non-Japanese patients. We have weekly homework assignments that focus on the textbook exercises and these also include learning how to use E-mail properly. At the end of the semester, students have open-book exams that cover what was taught in class. I cannot remember the exact numbers, but the class seems to be popular with students.
	平成21年～現在	実用薬学英語: In this class, we also use a text I help co-author: 薬学生・薬剤師のため英会話ハンドブーク. We cover dialogs in various settings that will help the students to communicate as a pharmacist with non-Japanese patients. There is weekly homework and that is turned in and returned and the answers are reviewed in the following class. At the end of the term, we have an exam. This is a class co-taught with various other professors. ゼミナール: In my “zeminaru” for 2nd-year students, I use a text I co-authored: 薬学生のための実践英語。In this course, I help prepare students to be a pharmacist in the 21st century in an international setting. So, in addition to English, we also study about manners, customs, fashion, and natural

		English. At the end of the course, students join me in a dinner at an American-style restaurant in Tokyo. There we put into practice what was studied in the classroom. The students are required to write a report in either English or Japanese (or both) and write about what they learned and found interesting. This is quite a popular ゼミナール, I think, so students seem to truly enjoy learning life skills that will help them while outside Japan or are in Japan and with non-Japanese people. 英会話１・2: In this class on Wednesdays, I use various DVDs to highlight issues that affect healthcare providers around the world. They include: economics, health insurance, guns, terrorism, alcohol, eating for health, etc… Students keep learner diaries and keep notes of the English presented in the DVDs and in class. At the end of class, the students are then required to write a 感想文 about what they watched in the DVD. They do this in Japanese or English. The class seems to be very popular as I always have more than 50 students challenge to enter it. The 50 students seem to enjoy the one year. Advanced English: In this class, we use my text: 薬学生のための実践英語。In this class, we work on English skills for job hunting and studying or working abroad. Students learn how to use English in a proper manner. They also learn tips about fashion, manners, and customs. In the end, they challenge to write their resume in English. And that is sent to me by E-mail in a professional manner. I correct it and return it and this may help students when they are job hunting in the future.

	平成24年～現在	Eikaiwa (English-only): In this course, students and the teacher are not allowed to use Japanese. We use a text I co-authored: 薬学生のための実践英語。Students do pairwork and do various presentations in English. It seems to be a popular class with students who really want to improve their English.	
２　作成した教科書、教材、参考書	平成21年～現在	薬学英語入門 薬学英語１ 薬学英語２ 薬学生・薬剤師のため英会話ハンドブーク 薬学生・薬剤師のため英会話ハンドブーク第２版 実用薬学英語 看護師のため英会話ハンドブーク	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 23 年 10 月 平成 23 年 10 月	慶應義塾大学薬学部　公開講座 B: 外国人患者に対応するための英会話講座 第７３回 東京薬科大学卒後教育講座： 外国人患者に対応するための英会話講座	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成21年～現在 平成26年4月	東京薬科大学剣道部コーチ CITI Japan e-learning プログラム受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
薬学生･薬剤師のため英会話ハンドブーク	共著	平成 21 年 3 月	東京化学同人
日本薬学編薬学英語入門	共著	平成 23 年 1 月	東京化学同人
English Education at Schools of Pharmacy in Japan: Meeting Curricular Needs Through Authentic ESP Materials	共著	平成 24 年 3 月	Asian EFL Journal, 27, 551-555 (2013)
薬学生･薬剤師のため英会話ハンドブーク第２版	共著	平成 26 年 10 月	東京化学同人
日本薬学編実用薬学英語	共著	平成 27 年 1 月	東京化学同人
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Student pharmacists studying abroad: unexpected issues with language, culture, and manners		平成 26 年 8 月	JACET 53(2014 年度)国際大会

「６年制薬学生のための「実用薬学英語」教材の研究開発」最終報告	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第１３５年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 応用統計学教室	職名　准教授	氏名　大河内　広子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 21 年度 以前～現在	「数学」「応用統計学」「多変量解析」「総合ゼミナール(2 年生後期)」「薬学入門演習Ⅰ」「科別英語特論」「アドバンス英語」「医療衛生薬学演習Ⅱ－ⅰラボラトリー演習(1)」「医療衛生薬学演習Ⅱ－ⅱラボラトリー演習(2)」「医療の最前線」「課題研究」「フィードバック講義」これらの授業では、演習時間をできるだけ多くとり、学生の集中力が途切れないようにした。また、授業内容の理解が苦手な学生をあえて指名して、援助しながら板書での解答をさせることで自信を持たせるようにした。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年度 以前～現在	「数学」「応用統計学」「多変量解析」において、補助教材としてプリントを作成して使用した。指数関数・対数関数の計算が苦手な学生用に授業とは別に計算練習用のプリントを作成した。 入学直後の 1 年生を対象に、指数関数・対数関数を主としたテスト問題を作成して自己採点させ、希望者に試験内容に関する補講を行った。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年度 以前～現在	・e-learning によって研究倫理を学習した。 ・「数学関連の学習相談」を開設して、相談に来る学生を対象に個別指導を行った。 ・卒論生を引率して、学外で開催された数学関連の講演会に参加させて視野を広げさせた。 ・実務実習をこれから経験する卒論生に対して、重要な点、気を付けるべきことを指導した。 ・担当する実務実習先の薬局を訪問し、実習生の健康状況、実習の進み具合、人間関係などを確認し、指導薬剤師との連携を図った。 ・アドバイジー学生、卒論学生との交流の機会を設けて、学生生活での悩みなどを話しやすいように心がけ、必要に応じて励ました。 ・アドバイジー学生や卒論学生の父母との面談を行い、学習のつまずきや進路での相談などに応じた。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）Turing's instability and pattern transitions in a nonlinear differential equation	単著	平成 25 年 4 月	Osaka University Knowledge Archive: http://hdl.handle.net/11094/24563 P65-72
（総説）抗がん剤の第Ⅰ相試験の最近の研究	単著	平成 27 年 3 月	東京薬科大学研究紀要
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）抗がん剤の第Ⅰ相試験に関する近年の研究動向と今後の課題		平成 26 年 8 月	Seminar on Partial Differential Equations in Osaka, 2014
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 21 年度以前～現在	主に数学および数学に関連する他分野での学会や研究集会に参加し、研究交流を積極的に行い、また若い研究者や大学院生に研究指導を行った。		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学基礎実習教育センター	職名　准教授	氏名　本多　秀雄

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成20年～現在	健康、環境実習(4年生前期、必修)： 衛生化学実習においては身近な食材を持参してもらい、その食品中のβカロテンを測定することなどにより理解を深める工夫を行っている。公衆衛生学実習においては学生が自主的に決めた場所に行って放射線を測定することなどにより興味を深める工夫を行っている。
	平成20年～現在	生物系実習Ⅱ(2年生後期、必修)： 微生物学実習においては学生自身の手や興味あるものに付着した菌を同定することなどにより興味や理解を深める工夫を行っている。免疫学実習においては希望する学生自身の血中IgEのアレルゲン反応性の検出と判定を行うなどにより興味や理解を深める工夫を行っている。
（学生による授業評価）	平成21年	微生物学実習のアンケート結果ではほぼ全員の学生が全体的に満足していると答えていた。
	平成23年	免疫学実習のアンケート結果ではほぼ全員の学生が全体的に満足していると答えていた。
	平成24年	衛生学および公衆衛生学実習のアンケート結果では 97%以上の学生が全体的に満足していると答えていた。
	平成25年	微生物学および免疫学実習のアンケート結果ではほぼ全員の学生が全体的に満足していると答えていた。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成20年～現在	健康、環境実習(衛生学実習、公衆衛生学実習)実験書
	平成20年～現在	薬学実験書(生物系Ⅱ、微生物学および免疫学)

３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 22 年 3 月	日本薬学会　第 130 年会において「東京薬科大学薬学部における免疫学実習」と題して発表した。	
	平成 24 年 3 月	日本薬学会　第 132 年会において「東京薬科大学薬学部における微生物学実習」と題して発表した。	
	平成 25 年 3 月	日本薬学会　第 133 年会において「東京薬科大学薬学部における衛生学および公衆衛生学実習」および「東京薬科大学薬学部における薬理学実習について」と題して発表した。	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）			
（FD 活動）	平成 24 年 8 月	本学で実施した FD 実施委員会主催の「カリキュラムプランニングのためのワークショップ」(H24 年 8 月 23, 24 日）に参加し、カリキュラムプランニングの見識を深めた。	
	平成 26 年 8 月	本学で実施した外部講師による FD 講演会「教育評価とティーチングポートフォリオ、大阪府立大学工業高等専門学校　教授　北野　健一　先生」に参加し、ティーチングポートフォリオ作成の重要性を確認した。	
（OSCE）	平成 25 年 12 月	CITI Japan e-learning プログラム受講	
	平成 23、24、25、26 年 11 月	本学で実施した OSCE 直前評価者講習会に参加した。	
（ハラスメント防止研修）	平成 23、24、25、26 年 12 月	本学で実施した OSCE に評価者として参加した。	
	平成 24 年 12 月	本学で実施したハラスメント防止セミナー「ハラスメントのない、学びやすく働きやすい大学づくりのために、石橋　真希子氏」に参加し、見識を深めた。	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称

Comparison of beta3-adrenoceptor mediating relaxation in the trachea	共著	平成 21 年 5 月	Pharmacometrics, 77, 95-99
Arterial function alters before appearance of atherosclerosis between young and old guinea pigs	共著	平成 21 年 7 月	Inflammation Res. 58, S163-S164
Comparison of epithelial cell dependency between isoprenaline- and BRL37344-induced relaxation in the trachea	共著	平成 22 年 5 月	Pharmacometrics, 78, 45-49
環境放射線測定実習、	共著	平成 25 年 3 月	東京薬科大学研究起要、16、47-54
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）東京薬科大学における薬剤学実習について		平成 26 年 3 月	日本薬学会第 134 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
昭和 63 年 4 月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
平成 8 年 4 月～現在	日本薬学会会員		
平成 20 年 4 月～現在	応用薬理研究会会員		
平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月	日本老年学会会員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学基礎実習教育センター	職名　准教授	氏名　土橋　保夫

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成19年～現在 平成19年～現在	有機化学 I, II 有機化学の基礎であるアルカン、アルケン, アルキンの化学似ついて詳細に解説した。 有機化学 I, II 演習 立体化学を化合物の特性ならびに有機反応との関連について解説した。	
２　作成した教科書、教材、参考書		なし	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）		なし	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Intramolecular Diels-Alder reaction of *N*-allyl 2-furoyl amides: effect of steric strain and amide rotational isomerism	共著	平成23年3月	Tetrahedron Letters, 52(1), 53-55 (2011)
（著書）Highly selective stereodivergent synthesis of separable amide rotamers, by using Pd chemistry, and their thermodynamic behavior	共著	平成21年4月	Chemistry-A European Journal, 15(20), 5090-5095, (2009).
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 機能形態学教室	職名　講師	氏名　　林　明子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月 ～現在	授業アンケートから得られた改善すべき点に対し講義室設備などを含めて改善の努力をしている。また、講義資料は毎年毎回見直しを行っている。また、授業中に学生との会話を通じて、講義内容に対する理解度を確認している。
２　作成した教科書、教材、参考書		講義資料は毎年新たに作成している。講義につかうパワーポイントも見直し修正を行っている。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成25年8月 平成26年3月	薬学部FDフォーラムにはなるべく出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。 FD 実施委員会主催のカリキュラムプランニングのためのワークショップに参加した。 CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）　Increased numbers of oligodendrocyte lineage cells in the optic nerves of cerebroside sulfotransferase knockout mice.	共著	平成23年4月	Proc Jpn Acad Ser B Phys Biol Sci., vol.87
（著書）　MRI characterization of paranodal junction failure and related spinal cord changes in mice.	共著	平成24年4月	PLoS One, vol.7 No.12
（論文）　L-MPZ, a novel isoform of myelin P0, is produced by stop codon readthrough.	共著	平成24年4月	J Biol Chem. vol.287 No.21
（論文）　Sulfatide decrease in myelin influences formation of the paranodal axo-glial junction and conduction velocity in the sciatic nerve	共著	平成25年4月	Glia, vol.61 No.4
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

発達段階の脳白質において活性化ミクログリアに発現する PLD4 の機能解析	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病原微生物学教室	職名　講師	氏名　中南 秀将

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 24 年 4 月 ～現在	平成 24 年度より、2 年生の微生物学 II の講義を担当している。講義終了 5～10 分前にその日に行った内容の練習問題を 5～10 題提示し、宿題としている。次回講義開始時に指名方式で回答させ、正解した学生には定期試験での得点に加算している。練習問題は国家試験の過去問も採用し、低学年のうちから国家試験を意識してもらうよう、工夫している。
2　作成した教科書、教材、参考書		講義で使用しているパワーポイントファイル
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年 4 月 ～	本学で開催される FD フォーラムには積極的に参加している。研究倫理の e-learning を行った。

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Fluoroquinolone efflux by the plasmid-mediated multidrug efflux pump QacB variant QacBIII in *Staphylococcus aureus*.	共著	平成 22 年 10 月	Antimicrob. Agents Chemother., 54: 4107-4111.
（論文）Characterization of *Enterococcus* strains contained in probiotic products.	共著	平成 23 年 9 月	Biol. Pharm. Bull., 34: 1469-1473.
（論文）Effect of pretreatment with *Lactobacillus gasseri* OLL2716 on first-line *Helicobacter pylori* eradication therapy.	共著	平成 24 年 5 月	J. Gastroenterol. Hepatol., 27: 888-892.
（論文）*In vitro* antiseptic susceptibilities for *Staphylococcus pseudintermedius* isolated from canine superficial pyoderma in Japan.	共著	平成 25 年 1 月	Vet. Dermatol., 24: 126-e29.
（論文）Characterization of methicillin-resistant	共著	平成 26 年 8 月	J. Infect. Chemother., 20: 512-515.

Staphylococcus aureus isolated from tertiary care hospitals in Tokyo, Japan.			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）2009 年から 2011 年に分離された MRSA の抗 MRSA 薬感受性		平成 26 年 6 月	第 62 回日本化学療法学会総会
（演題名）MRSA の SCC*mec* type と薬剤感受性の年次推移（優秀演題賞受賞）		平成 26 年 7 月	第 5 回 MRSA フォーラム
（演題名）メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の薬剤感受性の変化－病院内に拡大する市中型 MRSA－		平成 26 年 9 月	第 26 回微生物シンポジウム
（演題名）2007 年から 2012 年における BLNAR の抗菌薬感受性の変化と新規変異獲得株の出現		平成 26 年 9 月	第 26 回微生物シンポジウム
（演題名）循環浴槽水中のレジオネラ属菌に対する塩素と熱の有効性の検討		平成 26 年 9 月	日本防菌防黴学会 第 41 回年次大会
（演題名）浴室環境中の細菌数と細菌種に関する研究		平成 26 年 9 月	日本防菌防黴学会 第 41 回年次大会
（演題名）Rapid Changes in Serotype and Antimicrobial Resistant Profile of Penicillin-nonsusceptible Pneumococci by Introduction of PCV7		平成 26 年 10 月	International Conference on Antimicrobial Research
（演題名）Trend of bacteria isolated from patients with acne vulgaris in a Japanese university hospital		平成 26 年 10 月	International Conference on Antimicrobial Research
（演題名）2007 年から 2012 年における BLNAR の抗菌薬感受性と耐性機構の関連		平成 26 年 10 月	第 61 回日本化学療法学会東日本支部総会
（演題名）*Propionibacterium acnes* の新規キノロン低感受性機構の解析		平成 26 年 10 月	第 61 回日本化学療法学会東日本支部総会
（演題名）メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の多剤排出遺伝子 *qacB* の推移と薬剤感受性の関連性		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）クラリスロマイシン低感受性 BLNAR 株の出現と低感受性化機構の解析		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）基質拡張型βラクタマーゼ（ESBL）産生菌の動向と遺伝学的特徴		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）健常者およびニキビ患者由来皮膚細菌の薬剤感受性の比較		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）市中感染型メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の大規模疫学調査		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）SCC*mec* type IV をもつメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の院内における流行		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）7 価肺炎球菌結合型ワクチンの市販後における肺炎球菌の莢膜型の変化と薬剤感受性		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

（演題名）臨床分離 *Haemophilus influenz*ae の薬剤感受性と細胞侵入能	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物代謝安全性学	職名　講師	氏名　西山　貴仁

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 健康・環境ゼミナール（3 年前期）	平成 21 年度以前～現在	数名からなるグループを構成し、グループごとに「化学物質による事件」を取り上げ、調査、グループ内討論を行い、調査活動状況レポートを毎回提出させている。中間発表を行い調査内容の概略と質疑応答を行った後、最終発表会を行う。
化学物質と生体影響（3 年後期）	平成 21 年度以前～現在	板書による講義を中心に行い、プロジェクターの使用は写真や複雑な図などの板書できないものに限っている。板書には分かり易い図などを用いて理解を深める様な工夫を行っている。講義毎に行動目標を伝え、さらに行動目標に関連するキーワードを提示している。提示した複数のキーワードで 1 テーマを構成し 5 分から 10 分の短時間の講義を繰り返し行い講義に集中できるよう工夫している。各講義毎に演習及びその解説を行い知識の定着を図っている。
病態生理学・薬物安全性学実習（3 年後期）	平成 21 年度以前～現在	実習専用の実験書を作成し、目的、操作方法等を明確にし、予習に役立てるようにしている。各操作の前には必ずデモンストレーションを行い、間違いが少なくなるよう工夫している。実習項目毎にレポートを提出させている。
健康と環境 II（4 年前期）	平成 21 年 4 月～現在	板書による講義を中心に行い、プロジェクターの使用は写真や複雑な図などの板書できないものに限っている。板書には分かり易い図などを用いて理解を深める様な工夫を行っている。講義毎に行動目標を伝え、さらに行動目標に関連するキーワードを提示している。提示した複数のキーワードで 1 テーマを構成し 5 分から 10 分の短時間の講義を繰り返し行い講義に集中できるよう工夫している。各講義毎に演習及びその解説を行い知識の定着を図っている。

科別英語特論	平成21年4月 ～現在	TOEIC 試験に関する問題集及び平易な英文全訳を行わせるとともにTOEICを受験させた。
実践薬学英語（3年前期）	平成22年4月 ～現在	科学論文に出てくる専門用語の説明と訓練を行うとともに、海外での生活体験をプロジェクターを用いて紹介し、学生の興味を引き出すよう心がけている。
PBLT（5年前期）	平成22年4月 ～現在	薬学部卒業生が活躍できる職種、薬学教育に関する学習者と教育者の問題点、国家試験出題傾向など多岐にわたるテーマについて、少人数グループ毎に調査及び議論し発表を行う。各テーマ毎に調査活動状況レポート、発表プロダクツの提出を行う。
アドバンス英語	平成22年4月 ～現在	TOEIC 試験に関する問題集及び平易な英文全訳を行わせるとともにTOEICを受験させた。
２　作成した教科書、教材、参考書		
病態生理学･薬物安全性学実習用パワーポイントファイル	平成21年度以前～現在	「突然変異誘発試験」、「シアン化合物の急性毒性とその解毒剤の効果」
病態生理学･薬物安全性学実習　実験書	平成21年度以前～現在	医療系実習Ⅰ実験書　病態生理学・薬物安全性学実習　「突然変異誘発試験」、「シアン化合物の急性毒性とその解毒剤の効果」
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
第43回日本医学教育学会大会	平成23年7月	薬学部5年次の実務実習を補完する小人数教育プログラム
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		
卒論履修セミナーコース実施運営委員会	平成21年4月 ～平成22年3月	卒業保留生に対する国家試験解説及び卒業試験、国家試験対策。
国試対策委員会	平成21年4月 ～平成23年3月	新薬剤師国家試験出題基準の確認及び今後の国試対策の進め方について協議。
PBLT実施委員会	平成21年4月 ～現在	5年次生に対して行われるPBLTの実施運営。
東京薬科大学　病院･薬局実習研修会	平成21年5月	本学主催ワークショップに参加。

薬学共用試験 卒試委員会 第 8 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ CITI Japan e-learning プログラム	平成 21 年 12 月～現在 平成 23 年 4 月～現在 平成 25 年 2 月 平成 26 年 3 月	薬学共用試験 OSCE 評価者 新薬剤師国家試験出題基準に準拠した卒業試験関連問題、各専門家教員への出題依頼、問題校正。 本学主催ワークショップに参加。 CITI プロジェクト基盤編を受講。	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Cooperation of NAD(P)H:quinone oxidoreductase 1 and UDP-glucuronosyltransferases reduces menadione cytotoxicity in HEK293 cells.	共著	平成 22 年 4 月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 394, 459-63.
（論文）Enhanced sensitivity of A549 cells to the cytotoxic action of anticancer drugs via suppression of Nrf2 by procyanidins from Cinnamomi Cortex extract.	共著	平成 23 年 10 月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 413, 623-9.
（論文）Involvement of different human glutathione transferase isoforms in the glutathione conjugation of reactive metabolites of troglitazone.	共著	平成 23 年 12 月	Drug Metab. Dispos., 39, 2290-7.
（論文）Tissue distributions of 4-(hydroxymethylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone glucuronide, a stable form of reactive intermediate produced from 4-(methylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone, in the rat.	共著	平成 26 年 3 月	J. Toxicol. Sci., 39, 263-7.
（論文）Formation and stability of 4-(hydroxymethylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone glucuronide, a stable form of reactive intermediate produced from 4-(methylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone, in mice.	共著	平成 26 年 8 月	J. Toxicol. Sci., 39, 515-21.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

（演題名）Magnoliae Cortex extracts induce drug-metabolizing enzyme activity in PC12 cells.	平成 26 年 4 月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress
（演題名）メナジオンの解毒代謝反応と UDP-glucuronosyltransferase の C-末端アミノ酸領域.	平成 26 年 7 月	第 41 回日本毒性学会学術年会
（演題名）マウス尿中における 4-(methylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone (NNK)の代謝物とグルクロン酸抱合体.	平成 26 年 7 月	第 41 回日本毒性学会学術年会
（演題名）がん予防および抗がん剤治療における異物代謝酵素を制御する Nrf2 の誘導剤および阻害剤としての生薬エキス.	平成 26 年 7 月	第 41 回日本毒性学会学術年会
（演題名）Metabolic activation of Nevirapine and inactivation of its active metabolite by glutathione conjugation.	平成 26 年 10 月	19th North American ISSX meeting/29th JSSX meeting
（演題名）タモキシフェン耐性 MCF-7 細胞における細胞増殖調節因子の発現変動	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）UDP-glucuronosyltransferase 分子種と C-末端アミノ酸残基欠失変異体の共発現	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）A549 細胞における過剰発現転写因子 Nrf2 を抑制する桂皮エキス	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病態生理学教室	職名　講師	氏名　長谷川　弘

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫	平成21年4月 以前～現在	疾病と薬物治療Ⅳ（3年前期） 消化器系疾患の病態生理と薬物治療に関する講義を行っている。単なる図表だけでなく、自学習できるように解説文を多くしたプリント作りに努めている。前回の復習から講義を開始し、スムーズに講義に入れるようにしている。講義をより理解してもらうために予習を勧めており、翌週の講義内容に相当するプリントを事前に配布している。授業評価アンケートの結果を考慮し、配布プリントや講義の進行度などを改善している。
	平成21年4月 以前～現在	病態生理学・薬物安全性学実習（3年後期） 血圧測定、自尿の生化学検査および糸球体濾過量の測定を通じて、「機能形態学」や「疾病と薬物治療」で学んだ内容の理解が深まるように工夫している。
	平成21年4月 以前～現在	薬学入門演習Ⅰ（1年前期） 早期体験実習を題材にSmall Group Discussion（SGD）を行い、医療人としての意識付けができるように心がけている。
	平成21年4月 以前～現在	卒論指導 論文調査、実験、結果の整理、発表を通じて研究的思考が修得できるように、また研究活動の楽しさが実感できるように心がけている。
	平成21年4月 以前～現在	薬理学特論（大学院博士課程） 論文調査から仮説をたて実験により実証するプロセスがわかるように工夫している。
	平成21年4月 以前～現在	大学院学位論文作成指導 研究計画の立案と遂行、成果の整理および公表を通じて研究的思考が醸成するように心がけている。
	平成21年4月 ～現在	科別演習　医療薬学演習Ⅰ-i（4年前期） 腎疾患を題材にシナリオを作成することで、腎疾患の病態生理と治療に関する知識を深めるとともに、SGDを通じて能動的な問題解決能力を習得できるように工夫している。

	平成21年4月 ～現在 平成22年4月 ～現在 平成23年4月 ～現在 平成 23 年 6 月、26年6月 平成25年6月	科別英語特論（4年前期） 疾病と薬物治療に関する英語論文を題材し、SGD を行う。学術用語、用法を習得するとともに、研究的思考が身につくように心がけている。 PBL-T（5年Ⅲ期） 「計算力の維持」と題し、SPI テスト及び Web テストや薬剤師国家試験に対応した計算問題に取り組ませ、就職活動や国家試験受験の支援となるように心がけている。また、学生が各問の解説を行うことで、発表能力が高まるように工夫している。 アドバンス演習（6年後期） 薬剤師国家試験に関連した演習問題を中心に、要点解説と対策の講義を行っている。 病態生理学特論（6年前期） 消化器系疾患の薬物治療に関する最新の知見を紹介し、知識が深まるように工夫している 生物系ゼミナール（2年前期） 「アミノ酸を科学する」と題し、アミノ酸に関連する様々な話題を調査し、SGD を行い、整理、発表する。関連する化学、生化学等の講義を横断的に理解できるように工夫している。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成21年4月以前～現在 平成21年4月以前～現在 平成22年4月～現在	3年次「疾病と薬物治療Ⅳ」講義用プリント 医療系実習Ⅰ（病態生理学・薬物安全性学実習）実習書 5年次「PBL-T:計算力の維持」演習用教材
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年7月	第43回日本医学教育学会大会で共同発表 「薬学部5年次の実務実習を補完する小人数教育プログラム」
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成25年8月 平成25年9月 ～現在	長期実務実習ワークショップ（2 日間）に参加した。 CITI Japan 実施の研究倫理に関する e-learning に取り組んだ。

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Altered D-methionine kinetics in rats with renal impairment	共著	平成23年	Amino Acids, 40, 1205-1211

（論文）Simultaneous determination of serine enantiomers in plasma using Mosher’s reagent and stable isotope dilution gas chromatography-mass spectrometry	共著	平成 23 年	Journal of Mass Spectrometry, 46, 502-507
（論文）Studies on rotational barriers of N-C axially chiral compounds: increase in the rotational barrier by aromatization.	共著	平成 24 年	Tetrahedron Letters, 53, 4332-4336
（論文）Hypoxanthine guanine phosphoribosyltransferase (HPRT) deficiencies: HPRT1 mutations in new japanese families and PRPP concentration.	共著	平成 26 年	Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids, 33, 218-222
（論文）Hydrophilic-interaction liquid chromatography-tandem mass spectrometric determination of erythrocyte 5-phosphoribosyl 1-pyrophosphate in patients with hypoxanthine-guanine phosphoribosyltransferase deficiencies	共著	平成 27 年	Journal of Chromatography B, 976-977, 55-60
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）LC-MS/MS を用いた赤血球中 5-ホスホリボシル-１-ピロリン酸測定法の開発とヒポキサンチン-グアニンホスホリボシルトランスフェラーゼ欠損症フェノタイピングへの応用		平成 26 年 8 月	第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム
（演題名）Plasma kinetics of D-serine in rats		平成 26 年 9 月	The 2nd International Conference of D-Amino Acid Research
（演題名）炭素-窒素軸不斉ベンゾキノリノン誘導体の特異な立体構造と回転障壁		平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）ラットにおける D-セリンの血漿中動態		平成 26 年 11 月	日本アミノ酸学会　第 8 回学術大会
（演題名）アロプリノール負荷試験によるキサンチン尿症のタイプ分類		平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会総会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 21 年～平成 25 年	薬学共用試験 CBT モニター員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬効解析学教室	職名　講師	氏名　横山　晴子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 18 年～ 現在	薬学入門演習Ⅰ　早期体験実習（1 年次前期必修） 早期体験実習にて病院薬剤師業務を学ぶため、医療施設へ学生を引率し、指導を行っている。
	平成 21 年～ 現在	薬学入門演習Ⅰ　SGD　（1 年次前期必修） 薬剤師の社会的立場について知り、今後の学習意欲を高めることをねらいとしている。早期体験実習前後に SGD を 3 回実施する。実習により、学生が将来像をより明確にすることができたことがプロダクトから窺えた。
	平成 21 年～ 現在	医療情報　（3 年次前期必修） 薬物治療に必要な医薬品情報・患者情報の収集・評価について講義を行っている。臨床現場に即すように実物の写真等を講義スライドに多用し、学習意欲の向上に努めている。
	平成 25 年～ 現在	調剤学　（3 年次後期必修） 薬物投与設計（用法・用量、副作用、相互作用）および服薬指導の理論について授業を行っている。本講義では独自で作成した教科書を用い、さらに補足資料は WebClass に掲載し、復習に役立てている。
	平成 26 年～ 現在	疾病と薬物治療Ⅶ　（3 年次後期必修） 悪性腫瘍の病態と治療、抗悪性腫瘍薬、抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用について講義を行っている。独自で作成した教科書を用いている。しかし、近年、抗悪性腫瘍薬において、新薬が次々と開発・上市されているため、最新情報に基づいた講義を行えるよう、各講義で補足資料を作成し、WebClass に掲載している。また、症例、臨床での重要事項、根拠となるデータを示し、学生の理解を助けるよう工夫している。
	平成 19 年～ 現在	医療情報実習　（3 年次後期必修） 医薬品の比較・評価、患者情報の収集と評価、臨床研究デザインと解析・EBM の内容にて実習を行っている。実習方法は、説明、個人作業、SGD、発表、解説をワンステップずつ行っている。現在の

		臨床現場に近い内容で行うことができるよう、毎年、症例および医薬品の見直しを行っている。3 年次後期に行う実習であるため、SGD に対して、学生より高い評価を得ている。
	平成 23 年、 平成 25 年	薬・疾病ゼミナール　(3 年次前期選択) 「患者に伝わる吸入指導を多角的に考えよう」というテーマで開講した。学生は吸入練習用具を用いて、吸入操作を体験した。さらに、吸入剤について、毎回課題を与え、SGD によりプロダクトを作成し、発表する学習方法を取り入れることで、知識の定着に努めた。
	平成 21 年～ 平成 23 年	事前実務実習　(4 年次前期必修) 病態に適した用量設定（腎疾患・肝疾患)、入院患者への服薬指導等の実習を担当した。さらに、実際の病院薬剤師の仕事を知るために、病院薬剤師と討論する内容で実習を行った。東海大学医学部付属八王子病院薬剤科と TV 会議システムを用いて双方向の討論を実施した。
	平成 21 年～ 現在	科別特論演習　医療薬学演習Ⅰ-i（4 年次前期必修） 眼疾患の症例検討を担当している。眼疾患に関する病態、治療、症例などについて調査・討論させるとともに、実際の薬剤や器具を用いて、その使い方に関する検討を行う。症例検討のプロダクト作成を行い、全体での発表を行う。実物を実際に扱うことで、点眼薬の使用法について学生の修得度を向上させるよう工夫している。
	平成 21 年～ 現在	科別英語特論　(4 年次前期必修) 薬物投与設計、臨床薬物動態学、臨床薬理学等に関連した文献を教材として、小グループに分かれ、文献を輪読する。プロダクトは、和訳および和訳担当に関連した調査結果である。学生からは、英語論文の読解力に加え、関連知識の取得に繋がったとの評価を得ている。
	平成 25 年～ 現在	4P80 演習　(5 年次前期必修・調査研究コース) 基礎学力を醸成することを目的に、実務実習の準備教育を担当している。講義・確認テストを行い、学習効果の向上に努めている。
	平成 22 年～ 現在	実務実習　コーディネーター　(5 年次必修) 担当の病院施設の指導薬剤師と連携を図り、定期的な施設訪問により学生指導を行っている。

	平成 22 年～ 現在	アドバンス英語　(5 年次通年必修) 実用的かつ実践的な英語力を身に付けるために、TOEIC 受験を行うこととし、それに向けた一連の学習を実施する。各自の状況に合わせて学習方法を選択させ、成績向上に努めている。
	平成 22 年～ 平成 26 年	医療薬学演習Ⅱ- ii　(5・6 年次通年必修) 教室セミナーに参加し、研究内容等について討議する。さらに、学会に参加し、発表または他の演題聴講を行うことで、知識の修得および、生涯学習能力の醸成を行っている。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 19 年～ 現在 平成 21 年 3 月 平成 21 年 8 月 平成 21 年 10 月 平成 24 年 8 月 平成 25 年 10 月 平成 25 年 11 月	医療情報実習テキスト　プリント 薬物治療学　朝倉書店　共著 医薬情報評価学　医学書院　共著 薬学生・薬剤師のためのがんの薬物治療学、初版、化学同人　共著 薬学生・薬剤師のためのがんの薬物治療学、山田安彦編、第 2 版、化学同人　共著 理論調剤学　山田安彦編、京都廣川書店　共著 薬剤師のための喘息・COPD　チームですすめる吸入指導のポイント、初版、一般社団法人　呼吸研究　共著
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 23 年 7 月 平成 24 年 7 月 平成 25 年 8 月	第 14 回日本医薬品情報学会　総会・学術大会 「中学生における薬に関する情報の意識調査と教育の効果」について発表（共同演者） 第 44 回　日本医学教育学会大会 「カリキュラム立案を通した学部間連携 WS の試み」について発表（共同演者） 第 16 回　日本医薬品情報学会　総会・学術大会 シンポジストとして、「大学における医薬品情報学教育」について講演
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年～ 現在 平成 22 年～ 現在 平成 23 年 平成 25 年～ 平成 26 年	八王子市立中学校にて、「八王子市におけるくすり教育・喫煙防止教育・薬物乱用防止教育」の講師を担当 東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップにて、タスクフォースを担当 学内ミニワークショップにて、タスクフォースを担当 学内 FD ワークショップにて、タスクフォースを担当

	平成 26 年 3 月 ～現在	CITI Japan e-learning プログラムを受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Theoretical investigation of aspirin dosage regimen to exhibit optimal antiplatelet effects and decrease risk of upper gastrointestinal lesions	共著	平成 24 年 12 月	Biol. Pharm. Bull., 35: 1-7
（論文）Influence of non-steroidal anti-inflammatory drugs on antiplatelet effect of aspirin	共著	平成 25 年 1 月	J. Clin. Pharm. Ther., 38: 12-15
（論文）Method for individual evaluations of antiemetic effect induced by 5-HT_3 receptor antagonist	共著	平成 25 年 5 月	Biol. Pharm. Bull., 36: 780-7
（論文）Prediction of antiplatelet effects of aspirin in vivo based on in vitro results	共著	平成 25 年 11 月	Clin. Appl. Thromb. Hemost., 19: 600-7
（論文）The evaluation method for antiplatelet effect of acetylsalicylic acid	共著	平成 26 年 12 月	Eur. J. Drug Metab. Pharmacokinet., 39: 327-33
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
TNFα遺伝子 5’-上流領域-857C/T 多型が TNFαの発現に及ぼす影響の検討		平成 26 年 6 月	医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム
片頭痛治療におけるトリプタン系薬剤の頭痛再発抑制に関する理論的評価		平成 26 年 6 月	医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム
非ステロイド性抗炎症薬の臨床用量における血小板凝集抑制作用の定量的評価		平成 26 年 7 月	第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会
新規過活動膀胱治療薬ミラベグロンのβ_3受容体結合占有に基づいた臨床薬効解析		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会
スガマデクスナトリウムの作用機序を考慮したロクロニウムおよびベクロニウムへの作用に関する解析		平成 26 年 9 月	第 24 回日本医療薬学会年会
金属カチオン含有診断薬と医薬品との相互作用の可能性		平成 26 年 11 月	八王子薬剤センター研究発表会
フルルビプロフェンの抗血小板作用に関する *in vitro* および *in vivo* 研究		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

不眠症治療薬ラメルテオンの理論的解析に基づく臨床薬効評価	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
プレガバリンの中枢系有害作用の発現に関する理論的解析	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 15 年 1 月～現在	日本医療薬学会認定薬剤師
平成 16 年 3 月～現在	日本薬剤師研修センター認定薬剤師
平成 17 年 1 月～現在	日本医療薬学会指導薬剤師
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本医療薬学会　総務委員
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本医療薬学会　代議員選挙管理委員
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本医療薬学会　役員候補者選挙管理委員
平成 22 年 4 月～平成 26 年 7 月	日本病院薬剤師会　編集委員
平成 22 年 10 月	第 54 回日本薬学会関東支部大会　若手シンポジウム実行委員
平成 23 年 7 月～現在	日本医薬品情報学会医薬品情報専門薬剤師
平成 25 年～現在	日本医療薬学会　代議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学実務実習教育センター	職名　講師	氏名　戸張　裕子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 24 年 4 月 ～現在	事前実務実習（実務実習事前学習Ⅰ）(4 年前期実習）: WebClass（e-learning システム）に講義資料を掲載し、学生の自学習を助け、知識の定着を図れるように工夫している。 講義や演習は学生が興味を持って取り組めるよう、クイズ形式の問題を取り入れると共に、毎年内容の見直しを行っている。各講義、演習、実習では、自由記載も可能なマークシートを独自に作成したものを配布し、出席を確認すると共に問題の回答を記載させている。学生の理解度を把握し、当該実習期間中ならびに次年度の教育内容に反映させると共に、自由記載欄における学生の意見や質問に答えるよう努めている。また、アンケートより実習内容の満足度は例年良好な結果を得ている。
	平成 24 年 4 月 ～現在	事前実務実習（実務実習事前学習Ⅱ）(4 年後期実習）: 実務実習事前学習Ⅰで取得した知識・技能・態度を総合的に学習できるよう配慮した。
	平成 24 年 9 月 ～現在	薬学入門演習Ⅱ（1 年後期必修）: 「やまいの体験談」「闘病記」を基にした SGD にて患者の立場から必要とされる医療人としての態度について、学生自身の気付きを促すように努めた。
	平成 24 年 4 月 ～現在	アドバンス薬・疾病演習（6 年後期必修）: 5 年次の病院・薬局長期実務実習における経験を基に、薬剤師として必要な知識を確固なものにするため、病院・薬局実習に関連した国家試験の演習問題を主に用いて講義を行っている。
	平成 24 年 4 月 ～現在	課題研究（調査研究コース）(4・5・6 年通年実習）: PBLT 演習、4P80 演習、医療の最前線、課題研究から構成されており、このうち PBLT 演習、医療の最前線、課題研究を担当している。 PBLT 演習では、実務実習において禁煙支援の機会を得られない学生も多いことから、薬剤師として必要な喫煙防止教育ならびに禁煙支援の基礎知識の習

		得を目指し、症例に基づいた実践的な内容を提供している。 医療の最前線では、学生に科せられたレポートの査読を行い、特にリサーチワークへの導入として、発展学習をより深く掘り下げられるようなコメントを返すように努めている。 課題研究については、臨床研究の基本から応用まで学ぶための環境づくりを行い、本学学生を対象とした調査研究を企画した。各学生の能力に合わせたテーマを設定することにより、研究方法とまとめかたについて無理なく習得できるよう工夫している。
	平成 24 年 4 月 ～現在	科別英語特論(4 年次 前期 必修): 各学生が興味を持った臨床分野の英語論文について和訳および研究室内での発表用プレゼンテーションの査読ならびにコメントを行っている。薬剤師として必要とされる実用かつ実践的な英語力を身につけることを 6 年次までの目標とし、個別の能力に応じて丁寧な指導を心がけている。
	平成 24 年 4 月 ～現在	実務実習(5 年通年実習): コーディネーターとして、定期的な施設訪問ならびにメール等を用いて、実務実習施設の指導薬剤師と連携を図り、学生指導を行っている。
	平成 24 年 4 月 ～現在	アドバンス英語 (5 年通年必修): 各学生の課題研究内容に関連した最新の論文について、論文の選択から研究室内で発表に臨むまでの学習全般のアドバイスを行っている。学生には、論文内容の把握に加えて、関連知識の習得につながるような指導を心がけている。
	平成 24 年 4 月 ～現在	医療薬学演習Ⅱ－ⅰ，ⅱ ラボラトリー演習(1,2) (5・6 年通年必修): 本学学生を対象とした調査、教室主催のフィールドワーク、学会等に参加した学生のレポートを査読ならびにコメントすることにより、薬剤師として将来活躍するために必要な知識や技能の定着、および生涯学習能力を醸成するよう努めた。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 24 年 4 月 ～現在	実務実習事前学習実習テキスト上・下巻(東京薬科大学薬学実務実習教育センター編) 担当分野について分担執筆し、毎年改訂を行っている。PBLT 演習も含め、いずれも講義で使用しているパワーポイントファイルなど副教材については、

		WebClass にアップロードしている。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 25 年 10 月 平成 26 年 3 月	「事前実務実習における学生の理解度の関連要因に関する検討」（日本社会薬学会 第 32 年会） 米国臨床薬学研修の効果に関する検討（日本薬学会第 134 年会）
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 24 年 9 月～現在 平成 26 年 3 月 平成 26 年 8 月～現在 平成 26 年 1 月～現在 平成 25 年 1 月～現在 平成 25 年 8 月～現在	関東地区調整機構あるいは本学主催の指導薬剤師養成ワークショップ、ならびに薬学教育アドバンストワークショップ（大学教員として参加） 薬学部ミニ FD 研修会 本学主催の指導薬剤師養成ワークショップ（タスクフォース） CITI Japan e-learning プログラム受講 瀋陽薬科大学臨床薬学研修 米国臨床薬学研修（参加ならびに引率業務）

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Body Mass Index and Serum γ-glutamyltransferase Level as Risk Factors for Injuries Related to Professional Horse Racing: A Prospective Study.	共著	平成 21 年	J Occup Health, 51, 323-31.
（論文）JRA 美浦トレーニング・センター厩舎従業員における労働災害発生要因	単著	平成 22 年	Hippophile, 42, 11-16.
（論文）Physician-Pharmacist Cooperation Program for Blood Pressure Control in Patients With Hypertension: A Randomized-Controlled Trial	共著	平成 22 年	Am J Hypertens, 23, 1144-52.
（論文）職域従業員を対象とした産業医-薬剤師協働による啓発文書の配布及び広報による高血圧管理活動	共著	平成 23 年	衛生学雑誌, 66(3), 608-15.
（論文）事前実務実習における学生の理解度の関連要因に関する検討	共著	平成 26 年	東京薬科大学研究紀要, 17, 25-30.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

（演題名）輸液製剤にオレンジブックは必要ないのか？（第 1 報）	平成 26 年 9 月	日本医療薬学会　第 24 回年会
（演題名）大学生の喫煙状況と小・中・高等学校・大学における喫煙防止教育の受講経験に関する学部間の比較	平成 26 年 11 月	第 8 回日本禁煙学会学術総会
（演題名）オピオイドナイーブ患者に対するフェンタニル貼付剤によるオピオイド導入に関する薬剤師の意識調査	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 回年会
（演題名）薬局薬剤師による在宅患者の薬剤管理に関する調査	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 回年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 21 年 8 月～現在	日本疫学会会員
平成 22 年 4 月～現在	日本公衆衛生学会会員
平成 23 年 6 月～現在	日本衛生学会会員
平成 23 年 3 月～現在	日本薬学会会員
平成 25 年 9 月～現在	日本社会薬学会会員
平成 26 年 8 月～現在	日本禁煙学会会員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学実務実習教育センター	職名　講師	氏名　別生 伸太郎

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 22 年 4 月 ～現在	事前実務実習（副作用実習・フィジカルアセスメント実習・在宅医療実習） 生体シミュレータや模擬患者を活用したシミュレーション教育技法により、薬剤師としての実践力を養う教育を心がけている。授業アンケートも独自に実施し、毎年教育改善を図っている。
	平成 22 年 4 月 ～現在	課題研究（4P80） 能動的学習を促すべく、TBLT 形式の教育を実践している。
	平成 25 年 4 月 ～現在	課題研究（PBL-T） 実務実習でチーム医療について深く学べなかったという学生の声を反映し、「褥瘡対策チーム」と「感染制御チーム」の活動について、シミュレーションを主体とした教育を実施している。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 4 月 ～現在	実務実習事前学習 実習テキスト 上下巻（東京薬科大学薬学実務実習教育センター編；分担執筆）
	平成 24 年 4 月	最新 薬の効き方（愛智出版；分担執筆）
	平成 25 年 8 月	実践力を育てる！看護のためのシミュレーション教育（医学書院；分担執筆）
	平成 26 年 7 月	実践シミュレーション教育 －医学教育における原理と応用－（メディカル・サイエンス・インターナショナル；分担執筆）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 22 年 3 月	学生アンケートによる事前実務実習の課題と展望（第 130 回 日本薬学会年会）
	平成 23 年 10 月	シミュレータ活用による知識・技能・態度の統合を目指した薬学教育の提案 in 東京 ～薬剤師だからできること、薬剤師だからすべきこと～（レールダルメディカルジャパン東京本社）
	平成 24 年 2 月	シミュレータ活用による知識・技能・態度の統合を目指した薬学教育の提案 in 京都 ～薬剤師だからできること、薬剤師だからすべきこと～（京都府医師会トレーニングセンター）
	平成 25 年 3 月	米国臨床薬学研修の活動内容と教育システム（第 133 回 日本薬学会年会）
	平成 25 年 3 月	生体シミュレータを活用した薬学知識領域にお

		ける新規教育手法に関する研究（第 133 回 日本薬学会年会）
	平成 25 年 6 月	東京薬科大学臨床薬学研修の内容紹介と薬学シミュレーション教育の実際（中国 瀋陽薬科大学）
	平成 25 年 9 月	生体シミュレータを活用した薬学的推理力を養う能動的薬学教育の取り組み（第 23 回 日本医療薬学会年会）
	平成 25 年 10 月	生体シミュレータを活用した薬学シミュレーション教育の実践（帝京平成大学薬学部）
	平成 26 年 3 月	生体シミュレータへの循環器系薬物投与におけるヒトとの反応性の比較～シミュレーション教育の実用性に関する検討～（第 134 回 日本薬学会年会）
	平成 26 年 11 月	High-end International Forum on Clinical Pharmacy Education and Practice & The 20th Salon of Hospital Pharmacists in North China（中国 瀋陽薬科大学）
	平成 27 年 3 月	Laerdal Education Day at NIPRO iMEP 薬学領域における効果的なシミュレーション教育導入に向けて（ニプロ株式会社 iMEP）
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 22 年 8 月	第 3 回東京薬科大学長期実務実習指導薬剤師養成ワークショップタスクフォース
	平成 23 年 8 月	第 5 回東京薬科大学長期実務実習指導薬剤師養成ワークショップタスクフォース
	平成 23 年 10 月	第 15 回東京医科大学医学教育アドバンスワークショップ
	平成 23 年 12 月	カリキュラムプランニング FD ワークショップタスクフォース
	平成 24 年 1 月	関東地区調整機構主催指導薬剤師養成ワークショップタスクフォース
	平成 25 年 1 月	第 1 回瀋陽薬科大学学生対象臨床薬学研修
	平成 25 年 2 月	第 8 回東京薬科大学長期実務実習指導薬剤師養成ワークショップタスクフォース
	平成 25 年 2 月	東京薬科大学・八王子市薬剤師会地域連携協議会薬物乱用防止教室（八王子市立第七小学校）
	平成 25 年 9 月	第 2 回瀋陽薬科大学学生対象臨床薬学研修
	平成 26 年 2 月	東京薬科大学・八王子市薬剤師会地域連携協議会薬物乱用防止教室（八王子市立第七小学校）
	平成 26 年 7 月	第 1 回薬学教育アドバンストワークショップタスクフォース
	平成 26 年 8 月	第 11 回東京薬科大学長期実務実習指導薬剤師養

	平成 26 年 9 月 平成 27 年 2 月 平成 27 年 2 月	成ワークショップタスクフォース 第 3 回瀋陽薬科大学学生対象臨床薬学研修 第 12 回東京薬科大学長期実務実習指導薬剤師養成ワークショップタスクフォース 東京薬科大学・八王子市薬剤師会地域連携協議会薬物乱用防止教室（八王子市立第七小学校，八王子市立鑓水中学校）	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Hepatocyte growth factor suppresses ischemic cerebral edema in rats with microsphere embolism.	共著	平成 20 年	Neurosci lett., 448(1): 125-129
Metabotropic glutamate mGlu5 receptor-mediated serine phosphorylation of NMDA receptor subunit NR1 in hippocampal CA1 region after transient global ischemia in rats.	共著	平成 22 年	Eur J Pharmacol., 644(1-3):96-100
Effects of metabotropic glutamate mGlu5 receptor antagonist on tyrosine phosphorylation of NMDA receptor subunits and cell death in the hippocampus after brain ischemia in rats.	共著	平成 24 年	Neurosci Lett., 530(1): 91-96
Metabotropic glutamate receptor 5 activation enhances tyrosine phosphorylation of the N-methyl-D-aspartate (NMDA) receptor and NMDA-induced cell death in hippocampal cultured neurons.	共著	平成 24 年	Biol Pharm Bull., 35(12): 2224-2229
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
輸液製剤にオレンジブックは必要ないのか？(第 1 報)		平成 26 年 9 月	日本医療薬学会
地域医療をテーマとした薬学生対象フィールドワークの実施		平成 27 年 3 月	日本薬学会
オピオイドナイーブ患者に対するフェンタニル貼付剤によるオピオイド導入に関する薬剤師の意識調査		平成 27 年 3 月	日本薬学会
薬局薬剤師による在宅患者の薬剤管理に関する調査		平成 27 年 3 月	日本薬学会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			

平成 26 年 10 月～現在	日本在宅薬学会　査読員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物生体分析学教室	職名　講師	氏名　東海林 敦

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
４Ｐ８０	平成 24 年 4 月 ～ 現在	練習問題の解説ではなく，授業形式で講義した．学生の理解が不十分であると感じる分野を重点的に講義した．また，機器分析（2 年次）で使用するスライドを活用した．わかりやすく，機器分析の理解が深まったと学生から評価された
分析化学実習	平成 24 年 4 月 ～ 現在	容量分析（酸塩基，酸化還元的定）および機器分析（吸光光度法および液体クロマトグラフィー）の実験を行った．分析化学では，正しく濃度を計測することが重要である．濃度を公表せずに，学生に試料を配布し，濃度定量させた．真の濃度と学生が求めた濃度の差をもとに，濃度を計測できるか評価した（技能）．未知検体を取り扱うことで学生が楽しく実験できたようである．
医療薬物薬学科演習 I-i	平成 24 年 4 月 ～ 現在	医療薬物薬学科の 4 年生を対象として，その年度の国家試験（分析化学）を個人単位で解答させた．その後，4 ～ 5 人のグループに班分けし，正しい答えを調査させ，答えとその解説を発表させた
アドバンス英語	平成 24 年 4 月 ～ 現在	英語のサイエンス記事や論文のリストを掲示し，学生自身に課題を選択させた．学生に英文を読ませ，その概要をパワーポイントでまとめさせた．その内容をプレゼンテーションさせた．
卒論指導	平成 24 年 4 月 ～ 現在	バイオセンサーに関する研究テーマを学生与え，卒論研究を実施させた．学生自身が研究の目的や発展性を理解できるよう，何度も議論を重ねた．また，なるべく実験内容に関して，安易に指示することなく，学生に考えさせた．学生と討論によって実験を進めるように努めた．

ゼミナール	平成 25 年 4 月 ～ 現在	機器分析の理解を深めることを目的として，実験中心のゼミナールを実施した．簡易分光器を学生が自作させた．また，高速液体クロマトグラフィーの溶出挙動を理解してもらうために，移動相組成や pH により質量分布比がどのように変化するか実験させた．その他にも，吸光光度計を用いた安息香酸の pKa 測定や，酸化酵素と西洋わさびペルオキシダーゼのメディエータ反応を利用して，吸光光度計でグルコースを定量する実験を実施した．実験前の調査や実験後の結果，考察をプレゼンテーション形式で発表させた．アンケート調査では，実験が楽しく，機器分析の理解が深まったと評価されていた．
基礎物理学集中講義	平成 25 年 4 月	1 年生を対象として，高校生レベルの化学にかんする計算問題を解答させた（テスト）．このテストの解説と同時に採点を行い，基準点に満たない学生を対象として，補講（問題解説）を行なった．
機器分析学	平成 25 年 4 月 ～ 現在	写真や図解を豊富に取り入れることで，学生がイメージしやすいスライドを作成した．学生の興味を引くために，研究レベルで機器分析がどのように活用されているかを紹介した．重要な箇所は３回繰り返し，強調して講義した．講義初め（15 min）には，前回の復習を行なった．講義終了間際に練習問題を行なった（10 min）．練習問題の答え（解説付き）は web 上で掲載し，学生が復習しやすいようにした．さらに，学生にアンケートを行い，理解が不十分であった内容を調査し，再度，講義した．授業評価アンケートでは，すべての項目で平均以上の高い評価が得られた．とくに，スライドがわかりやすい，練習問題がためになると好評であった．
アドバンス演習	平成 26 年 9 月	機器分析を中心に，分析化学の内容を理解してもらえるように講義した．イメージしやすいようにイラストや写真を豊富に用いた．機器分析が暗記科目でないことを強調した．わかりやすい講義であったと学生から評価された．

創薬概論	平成 26 年 6 月	創薬に関わる分析手法として，平面脂質二分子膜の作製法やチャネル活性評価の例，パッチクランプの概要を講義した．4 年生が対象であることから，できるだけ簡単に講義しようと努めた．	
２　作成した教科書、教材、参考書 該当なし	平成 24 年 4 月 ～ 現在	講義で使用しているパワーポイントファイル	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 8 月 平成 26 年 3 月 平成 26 年 3 月	学内 FD ワークショップ講演会の受講 大学改革の駆動力としての FD 山形大学 小田教授 学内 FD ワークショップ講演会の受講 学生が期待する良い授業とは 東京医科大学 荒井教授 研究倫理の e-learning	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） A Solid Phase-based Nanopore Sensing System for Biomolecules using Lipid-loaded Mesoporous Silica MCM-41 and a Fluorescent Dye	共著	平成 25 年	Sens. Actuators B Chem., 181, 29-37
（著書） Design of lipoosomes with a pH-sensitive fluorescent dye and gramicidin channels for immune-sensing	共著	平成 26 年	Advances in liposome research, chaptor 6, 147-170
（論文）Highly Sensitive and Rapid Assay of Substance P and Streptolysin O in Human Serum Using Immuno-liposomes and Gramicidin Channels	共著	平成 26 年	Anal. Sci.,29, 877-883
（論文）Evaluation of cathepsin B activity for degrading collagen IV using a surface plasmon resonance method and circular dichroismspectroscopy	共著	平成 26 年	J. Pharm. Biomed. Anal., 95, 47-53

（論文）Real-time monitoring of extracellular L-glutamate levels released by high-frequency stimulation at region CA1 of hippocampal slices with a glass capillary-based L-glutamate sensor	共著	平成 26 年	Sensing and Biosensing Research
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
脂質二分子膜内ステロールの酸化反応評価法に関する基礎検討		2014 年 8 月	第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム
液体クロマトグラフィーによるバンコイシ及 びテイコプラニンの血中濃度定量法		2014 年 8 月	第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム
表面プラズモン共鳴法を用いたカテプシン B によるコラーゲン IV 分解反応の評価		2014 年 9 月	日本分析化学会第 63 年会
海馬 CA1 領域の高頻度刺激時に放出されるグルタミン酸の計測		2014 年 9 月	日本分析化学会第 63 年会
抗てんかん薬の母乳移行性を評価するための log P 計測と一斉分離定量法の検討		2014 年 9 月	日本分析化学会第 63 年会
二相溶媒系中での金属イオンとの錯体形成を利用する高速向流クロマトグラフィーによる血中薬物濃度の迅速定量法の検討		2014 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
向流クロマトグラフィーと円二色性検出液体クロマトグラフィーの組合せによるアカネ中の環状ペプチド成分の効率的な分離精製		2014 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
脂質二分子膜内におけるナイルブルーの蛍光増強を利用したプロテアーゼ検出法に関する基礎検討		2014 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
膜非破壊的な脂質二分子膜内コレステロール定量法に関する基礎検討		2014 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
脂質二分子膜内ナイルブルーのモノマー化を利用した蛍光プロテアーゼ定量法		2015 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
二相溶媒系中での金属イオンとの錯体形成を利用する高速向流クロマトグラフィーによる血中薬物濃度の迅速定量法の検討		2015 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬化学教室	職名　講師	氏名　古石　裕治

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 21 年 4 月 ～現在	無機化学 （1 年次必修）　化合物および無機薬品の性質を理解するために、電子配置、軌道、構造、錯体、キレートなどを無機化合物の観点から講義した。 教科書：無機化合物・錯体―生物無機化学の基礎、第二版 （廣川書店）；基本無機化学　（東京化学同人）を使用。 PowerPoint を使用した授業を行い、その内容の資料を作成、プリントには穴埋め形式で重要項目を記入できるように工夫した。演習問題も数回行った。 平成 25 年度授業評価（総合的に満足できるかについての平均値）：4（5 段階評価）
	平成 23 年 4 月 ～現在	機器スペクトル演習（2 年次必修）　有機化合物の構造決定に用いられる機器分析法を理解するため、赤外吸収スペクトル、核磁気共鳴スペクトル、質量スペクトルの基本的知識と解析法を講義した。 PowerPoint を使用した授業を行い、その内容の資料を作成、プリントには穴埋め形式で重要項目を記入できるように工夫した。主に、問題を多数作成し、取り組むようにした。また、理解不足な学生には自由形式の補講なども行った。 平成 25 年度授業評価（総合的に満足できるかについての平均値）：4.6 （5 段階評価）
	平成 21 年 4 月 ～現在	基礎有機化学実習（１年次後期）　有機化学の学習に必要な基礎的実験を行い，有機化合物の取り扱い方法，分離法，精製法，物性値の測定法，構造確認法などについて，原理を理解して基本的な技能を習得する。
	平成 21 年 4 月 ～現在	医薬品合成実習（３年次後期）　有機化学および医薬品化学講義で修得する知識を基礎として，有機化学反応を組み合わせて医薬品を合成し，医薬

		品合成法の基礎的知識と技能を取得する。
	平成 21 年 4 月 ～現在	化学系ゼミナール（１年次後期）　１年生前期で行った有機化学Ｉおよび有機化学演習Ｉを不得意とする学生を対象に，復習を中心とした講義および演習を実施した。
	平成 23 年 4 月 ～現在	総合演習（4 年次後期）　化学の分野（基礎化学・機器スペクトル）の一部を担当。演習問題を作成、解説した。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 22 年 4 月 ～現在	無機化学講義資料
	平成 23 年 4 月 ～現在	機器スペクトル演習講義資料
	平成 22 年 11 月	共著：無機化合物・錯体―生物無機の基礎第二版（廣川書店）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 3 月	CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書） Asymmetric Conjugate Addition of Aldehydes to Vinyl Sulfone Using a Diaminomethylenemalononitrile Organocatalyst	共著	平成 25 年 2 月	Tetrahedron Lett., 54 (33), 4896-4899
（著書） Asymmetric Conjugate Addition of Malonates to Enones Using Perfluorobutanesulfonamide Organocatalyst	共著	平成 25 年 10 月	Chem. Lett., 42 (10), 1151-1153
（論文） Perfluoroalkanesulfonamide Organocatalyst for Asymmetric Conjugate Additions of Branched Aldehydes to Vinyl Sulfone	共著	平成 25 年 12 月	Molecules, 18 (12), 14529-14542
（論文） Solvent-fre Asymmetric Conjugate Addition of Malonates to Enones Using a Diaminomethylene-	共著	平成 26 年 6 月	Tetrahedron Lett., 55 (31), 4334-4337

]malononitrile Organocatalyst			
（論文） Cinchona-Diaminomethylenemalononitrile Organocatalyst for Asymmetric Michael Addition of 1,3-Diketone to Nitroalkene	共著	平成 26 年 7 月	Tetrahedron Lett., 55 (33), 4619-4622
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）*tert*-ブタンスルホニル基を有するプロピンアミド誘導体のエンイン閉環メタセシスによるラクタム環の構築		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 応用生化学	職名　講師	氏名　袁　博

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月 ～平成25年3月	生化学II（2年次必修） 授業をスムーズに行えるために、講義スライドを作成し、中に重要なポイントを内容ごと表記した。Web クラスを開設し、講義内容チェック・復習が可能なように要点や関連国試問題等を公開している。また、講義のキーワード、講義スライド、理解度をチェックするための補助プリントを作成し、Web クラスにアップロードした。聴講学生に好評であった。
	平成21年4月 ～現在	生化学III（3年次必修） Web クラスを開設し、生化学 III の講義内容を理解するために、生物系関連科目（細胞生物学、生化学Ⅰおよび II）の理解度チェク・復習を Web クラスにて実施している。また、講義のキーワード、講義スライド、理解度をチェックするための補助プリントを作成し、Web クラスにアップロードした。聴講学生に好評であった。
	平成21年4月 ～現在	実用薬学英語（3年次必修） 専門知識の他に、自分自身が留学時の写真、エピソードを紹介しながら、薬学英語に対する学生の興味を引き立てることを心がけた。また、自分自身がいつも勉強している英語のサイトを学生に紹介し、英語の楽しさをできるだけ伝えるよう心がけた。
	平成26年4月 ～現在	バイオ医薬品とゲノム情報（3年次必修） Web クラスを開設し、これまで学習した生化学 I～III までのチェック内容をアップロードした。また、講義のキーワード、講義スライド、理解度をチェックするための補助プリントを作成し、Web クラスにアップロードした。聴講学生に好評であった。
	平成21年4月 ～現在	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）（4年次必修） これまで学習した生化学 I～III までの内容を復習させ、理解度をチェックするため、直近の国家

		試験過去問をピックアップし、学生に調べさせ、発表させている。	
	平成21年度以前～現在	生化学実習（3年次必修） 実習内容の理解度チェックの小テストを実施している。各実習項目終了毎に、レポートを作成させ、提出させている。	
２　作成した教科書、教材、参考書	平成21年4月～平成25年3月	生化学II（2年次必修） 講義で使用しているパワーポイントファイル	
	平成21年4月～現在	生化学III（3年次必修） 講義で使用しているパワーポイントファイル	
	平成21年4月～現在	実用薬学英語（3年次必修） 講義で使用しているパワーポイントファイル	
	平成26年4月～現在	バイオ医薬品とゲノム情報（3年次必修） 講義で使用しているパワーポイントファイル	
	平成21年4月～現在	医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）（4年次必修） 講義で使用しているパワーポイントファイル	
	平成21年度以前～現在	生化学実習（3年次必修） 講義で使用しているパワーポイントファイル	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成26年1月	CITI Japan e-learningプログラム 受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）Application of arsenic trioxide therapy for patients with leukemia. Ed. by Sun Hongzhe. In Biological Chemistry of Arsenic, Antimony and Bismuth.	共著	平成22年	John Wiley & Sons, New York, pp. 263-292.
（論文）Direct contribution of inducible nitric oxide synthase expression to apoptosis induction in primary smooth chorion trophoblast cells of human fetal membrane tissues.	共著	平成21年	Int. J. Biochem. Cell Biol. 41, 1062-1069.
（論文）Contribution of aquaporin 9 and multidrug	共著	平成23年	Toxicol. Appl. Pharmacol. 257, 198-208.

resistance-associated protein 2 to differential sensitivity to arsenite between primary cultured chorion and amnion cells prepared from human fetal membranes.			
（論文） Speciation of arsenic trioxide metabolites in peripheral blood and bone marrow from an acute promyelocytic leukemia patient.	共著	平成 24 年	J. Hematol. Oncol. 5, 1.
（論文） Cytotoxic effects of pyrrolidine dithiocarbamate in small-cell lung cancer cells, alone and in combination with cisplatin.	共著	平成 26 年	Int J Oncol. 45: 1749-1759.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Mechanisms of casticin-induced cytocidal effects against the human promyelocytic cell line HL-60		平成 26 年 8 月	13th Meeting of Consortium for Globalization of Chinese Medicine (CGCM)
（演題名）アポ E 含有リポタンパク質と alpha２-マクログロブリンの神経保護効果における役割		平成 26 年 9 月	第 57 回日本神経化学会大会合同年会　第 36 回日本生物学的精神医学会
（演題名） Cytocidal effects of bufadienolides against human glioblastoma and pancreatic cancer cell lines		平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）ラット脳塞栓後の神経新生に及ぼす GSK-3β情報伝達系の関与		平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）Enhancement of cytocidal effects of the combination of arsenite with tetrandrine against human breast cancer cell line MCF-7		平成 26 年 10 月	第 87 回日本生化学会大会
（演題名）グルタミン酸誘発神経障害に対するアポ E 含有リポプロテインと alpha２-マクログロブリンの神経保護におけるバランス		平成 26 年 10 月	第 87 回日本生化学会大会
（演題名）グリア細胞由来 LRP1 リガンドの神経保護における役割		平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会
（演題名）ラット脳塞栓後神経新生における GSK-3β情報伝達系の関与		平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会
（演題名） Involvement of histone H3 phosphorylation through p38 MAPK pathway activation in casticin-induced cytocidal effects against the human promyelocytic cell line HL-60		平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
（演題名） Contribution of Akt/MAPK signaling pathways and inhibition of metalloproteinase-2 and		平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会

9 expression to gamabufotalin-induced cytotoxicity in human glioblastoma cell line U-87		
（演題名）急性前骨髄球性白血病細胞株 NB4 に対する三酸化二ヒ素の作用における Nrf2/Keap1 系活性化の影響	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
（演題名）アポ E 含有リポプロテインによる神経保護とその妨害因子の働き	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 応用生化学教室	職名　講師	氏名　林　秀樹

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年7月8日	熊本大学医学部医学英語：疾患や治療法など学生が興味を持つ内容の英語の動画を流し、それに関連した英語の内容を講義した。授業最後にアンケートをとり、授業改善のためのフィードバックを行った。
	平成21年11月9日～12日	熊本大学医学部チュートリアル：学生自身が問題解決に向け必要な情報を見出し、自己学習およびグループ学習ができるようにサポートを行った。
	平成22年11月8日～12日	熊本大学医学部チュートリアル：学生自身が問題解決に向け必要な課題を抽出し、自己学習およびグループ学習を通して問題解決能力を習得できるようにサポートを行った。
	平成26年4月8日～18日	東京薬科大学薬学部科別英語特論：薬学部応用生化学教室4年生を対象に、学術雑誌を課題として英語授業を行った。全員が授業に参加できるように発表・発言の機会を設けた。
	平成26年11月17日～12月11日	東京薬科大学薬学部アドバンス英語：薬学部応用生化学教室卒論生5年生を対象に、学術雑誌を課題として英語授業を行った。最終日に課題論文についての発表会を開催し、理解度を確認した。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年7月8日	熊本大学医学部医学英語の授業に際し、教科書は使わずに自作のプリントおよび小テストを行った。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成21年12月26日	第10回熊本大学　医学教育ワークショップに参加
	平成26年3月～現在	CITI Japan e-learning プログラム受講
	平成26年4月4日、5日	東京薬科大学　新入教員のためのミニ教育ワークショップに参加
	平成26年8月	第11回東京薬科大学　長期実務実習のためのワ

	30 日、31 日	ークショップに参加	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Protection of neurons from apoptosis by apolipoprotein E-containing lipoproteins does not require lipoprotein uptake and involves activation of phospholipase Cgamma1 and inhibition of calcineurin.	共著	平成 21 年 10 月	J Biol Chem 284: 29605-29613, 2009.
（論文）Lipid metabolism and glial lipoproteins in the central nervous system..	単著	平成 23 年 4 月	Biol Pharm Bull 34: 453-461, 2011
（論文）A potential neuroprotective role of apolipoprotein E-containing lipoproteins through low density lipoprotein receptor-related protein 1 in normal tension glaucoma.	共著	平成 24 年 7 月	J Biol Chem 287: 25395-25406, 2012.
（論文）Dock3 interaction with a glutamate-receptor NR2D subunit protects neurons from excitotoxicity.	共著	平成 25 年 5 月	Mol Brain 6: 22, 2013.
（著書）Lipids, lipid mediators and other signaling molecules. Edited by Helmut Kettenmann and Bruce R. Ransom	単著	平成 24 年 12 月	Neuroglia, 3rd Edition, pp281-291, Oxford University Press, 2012.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Mechanisms of casticin-induced cytocidal effects against the human promyelocytic cell line HL-60		平成 26 年 8 月	13th Meeting of Consortium for Globalization of Chinese Medicine (CGCM)
（演題名）アポＥ含有リポタンパク質と alpha２-マクログロブリンの神経保護効果における役割		平成 26 年 9 月	第 57 回日本神経化学会大会 第 36 回日本生物学的精神医学会　合同大会
（演題名）グルタミン酸誘発神経障害に対するアポ E 含有リポプロテインと alpha２-マクログロブリンの神経保護におけるバランス		平成 26 年 10 月	第 87 回日本生化学会大会

（演題名）乳がん細胞 MCF-7 における As^{III} とテトランドリンの併用による殺細胞の増強効果	平成 26 年 10 月	第 87 回日本生化学会大会
（演題名）Cytocidal effects of bufadienolides against human glioblastoma and pancreatic cancer cell lines	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）ラット脳塞栓後の神経新生に及ぼす GSK-3β情報伝達系の関与	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）グリア細胞由来 LRP1 リガンドの神経保護における役割	平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会
（演題名）ラット脳塞栓後神経新生における GSK-3β情報伝達系の関与	平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会
（演題名）アポ E 含有リポプロテインによる神経保護とその妨害因子の働き	平成 27 年 3 月	第 135 回日本薬学会年会
（演題名）Involvement of histone H3 phosphorylation through p38 MAPK pathway activation in casticin-induced cytocidal effects against the human promyelocytic cell line HL-60	平成 27 年 3 月	第 135 回日本薬学会年会
（演題名）Contribution of Akt/MAPK signaling pathways and inhibition of metalloproteinase-2 and 9 expression to gamabufotalin-induced cytotoxicity in human glioblastoma cell line U-87	平成 27 年 3 月	第 135 回日本薬学会年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 6 年～現在	日本薬理学会会員
平成 10 年～現在	日本神経化学会会員
平成 13 年～現在	北米神経科学会会員
平成 20 年～現在	日本緑内障学会会員
平成 24 年～現在	日本脂質生化学会会員
平成 24 年～現在	米国生化学分子生物学会会員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病態生化学教室	職名　講師	氏名　保住　建太郎

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成20年4月～現在	講義時間内での学習効果を高めるために、教科書を使用する以外に講義で触れる内容は、図表を中心に、全てパワーポイントで提示している。また、同じ内容を講義ノートとして学期開始前に準備している。全ての内容を講義ノートに書き込むように指示しているため、講義ノートを学習することで容易に予習と復習を可能としている。適宜、関連する教科書のページも示している。
２　作成した教科書、教材、参考書		全講義を網羅する講義ノート、および講義ノートと連携したパワーポイントファイル
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成20年7月～現在 平成 24 年 12 月～現在	薬学部 FD フォーラムに出席し、FD に関する諸問題への見識を高めた。 e-learning プログラムにて研究者行動規範に関する見識を高めた。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Mixed peptide-chitosan membranes to mimic the biological activities of a multifunctional laminin alpha1 chain LG4 module.	共著	平成 22 年 8 月	Biomaterials, vol 30, 1596-1603
（論文）Cell surface receptor-specific scaffold requirements for adhesion to laminin-derived peptide-chitosan membranes.	共著	平成 23 年 4 月	Biomaterials, vol 31, 3237-3243
（論文）Reconstitution of laminin-111 biological activity using multiple peptide coupled to chitosan scaffolds.	共著	平成 25 年 4 月	Biomaterials, vol 33, 4241-4250

（論文）Identification of Cell Adhesive Sequences in the N-terminal Region of the Laminin alpha2 Chain.	共著	平成 25 年 7 月	J Biol Chem, vol 287, 25111-25122
（論文）Suppression of cell adhesion through specific integrin crosstalk on mixed peptide-polysaccharide matrices.	共著	平成 27 年 1 月	Biomaterials, vol 37, 73-81
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ラミニンα２鎖 N 末端領域における細胞接着活性配列の同定（受賞記念講演）		平成 26 年 6 月	第 46 回日本結合組織学会学術大会・第 61 回マトリックス研究会大会 合同学術集会
（演題名）ペプチド-高分子多糖マトリックスを用いた受容体間相互作用の解明（依頼講演）		平成 26 年 8 月	第 46 回若手ペプチド夏の勉強会
（演題名）インテグリン-インテグリン間クロストークを誘起するバイオマテリアルの開発		平成 26 年 9 月	第 63 回高分子討論会
（演題名） Integrin-integrin Crosstalk Promotes and/or Suppresses Fibroblasts Adhesion Depending on the Integrin Subtypes		平成 26 年 10 月	ASMB Bienneial Meeting 2014
（演題名） Integrin-integrin Crosstalk Suppresses Fibroblasts Adhesion via PI3K signaling.		平成 26 年 12 月	2014 ASCB/IFCB Meeting
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 19 年 4 月～現在	マトリックス研究会　運営委員		
平成 26 年 6 月～現在	日本結合組織学会　評議委員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬品製造学教室	職名　講師	氏名　矢内　光

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年以前 ～現在	学生実習では、各学年の講義との連携を意識して、説明や指導を行っている。演習では、履修者の理解度に応じた対応を行っている。	
2　作成した教科書、教材、参考書	平成22年4月	『パートナー薬品製造学 改訂第2版』、南江堂	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成24年4月 ～現在 平成26年3月 ～現在	ゼミナール委員会 CITI Japan e-learning プログラム受講	
Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）Fluorine in Bioorganic and Medicinal Chemistry	共著	平成21年9月	Wiley-Blackwell
（著書）Green Synthetic Approaches for Biologically Relevant Hetero-cycles	共著	平成26年11月	Elsevier
（論文） Organic acid induced olefination reaction of lactones,	共著	平成24年	Chem. Commun, **48** (71), 8967-8969.
（論文） Synthesis, characterization, and applications of zwitterions containing carbanion moiety,	共著	平成25年	Angew. Chem. Int. Ed, **52** (5), 1560-1563.
（論文）2-(Pyridinium-1-yl)-1,1-bis(triflyl)ethan-ides: structural behaviour and availability as bis(triflyl)-ethylating reagents.	共著	平成25年	Chem. Commun. **49** (86), 10091-10093.
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）極安定カルボアニオン構造をもつピリジニウム型双性イオンの化学		平成26年11月	第40回 反応と合成の進歩シンポジウム

（演題名）フッ素の特異性に着目した有機フッ素化合物の新しい合成法とその利用	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸） 奨励賞受賞講演
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
平成 20 年 11 月～現在	日本薬学会学 次世代を担う有機化学シンポジウム 世話人	
平成 21 年 10 月～平成 23 年 3 月	日本薬学会関東支部 若手シンポジウム実行委員	
平成 22 年 10 月～平成 23 年 9 月	日本フッ素化学会 フッ素化学若手の会 実行委員	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 生物分子有機化学教室	職名　講師	氏名　釜池　和大

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度以前～現在	有機化学 III (2年前期)、ゼミナール　化学系 (2年前期)、有機化学 IV (2年後期)、医薬品化学 I (3年前期) : 授業内容をまとめと補足の資料を配布し理解を深めた。授業内容や関連する薬剤師国家試験問題を基に演習問題を作成しテストを実施し、学生に自ら理解度を判断させ理解を深めた。授業評価満足度は、概ね 3/4 段階(平成23年度以前)3.6～4/5 段階 (平成 24,25 年度)、3～3.76/5段階(平成26年度)であった。
	平成21年度以前～現在	基礎有機化学実習 (1年) 化学系実習 II (2年)、医薬品合成実習 (3年) : 実習内容の基礎的な事項と関連事項をまとめた資料を配布し説明を行い理解を深めた。
	平成21年度以前～現在	薬学入門演習 I　SGD (1 年前期) : 早期体験実習にあたり調査、資料の作成、発表と討論を行い理解を深めた。
	平成21年度～現在	卒論教室関連 : 科別英語特論 (4年前期)、アドバンス英語 (5年通年)、医療薬物薬学科 II-ii 学術論文演習 (6年通年) : 学術論文の輪読、レジュメ作成、発表と討論を行った。
	平成23年度～現在	医療薬物薬学科 II-i ラボラトリー演習 (6 年通年) : 課題研究のまとめと報告会を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年度以前～現在	授業内容をまとめと補足の資料、授業内容や関連する薬剤師国家試験問題を基に演習問題を作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし

４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年 5 月 24 日 平成 21 年 10 月 11,12 日 平成 21 年 12 月 12,13 日 平成 22 年度～現在 平成 25 年 5 月 24 日及び平成 26 年 5 月 29 日 平成 26 年 2 月 27 日～3 月 2 日 平成 27 年 1 月 10 日	第２回病院・薬局薬剤師研修会を受講した。 第 1 回東京薬科大学　学内認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップを受講した。 第 2 回東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップを受講した。 実務実習　八王子地区薬局を担当し、訪問した。 薬学入門演習 I（1 年前期）における早期体験実習の引率を担当した。 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」で採択された-研究者育成の為の行動規範教育の標準化と教育システム、平成25年度CITI Japan e-learningプログラムを受講し、修了した。 平成26年度CITI Japan e-learningプログラムを受講し、修了した。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Design, synthesis, and analysis of minor groove binder pyrrolepolyamide-2’-deoxyguanosine hybrids	共著	平成 22 年 2 月	J. Nucleic Acids, 2010, Article ID 235240.
（論文） 新規遺伝子発現制御化合物としてのピロールポリアミドーヌクレオシドハイブリッドおよびそのハイブリッドを組込んだオリゴマーの設計,合成および評価	共著	平成 22 年 3 月	薬学雑誌、2010, 130, 355 - 375.
（論文） Synthesis and evaluation of oligonucleotide-conjugated pyrrole polyamide-2’-deoxyguanosine hybrids as novel gene expression control compounds	共著	平成 23 年 11 月	Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids **2011**, 30, 850-872.
（論文） Synthesis and Evaluation of Pyrrole Polyamide-2’-deoxyguanosine 5’-Phosphate Hybrid,	共著	平成 25 年 4 月	Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids **2013**, 32, 196-205.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

（演題名）沖縄産海綿由来の新規ジテルペンイソシアニドの単離，構造および合成	平成 26 年 9 月	第 58 回香料・テルペンおよび精油に関する討論会
（演題名）三環性ポリケチド Ascospiroketal の合成研究	平成 26 年 11 月	第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム
（演題名）ナフタレンジイミド誘導体で修飾されたオリゴヌクレオチドの合成と評価	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）遺伝情報制御化合物としてイミダゾールポリアミドを含むオリゴヌクレオチドの合成と評価	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）三環性ポリケチド Ascospiroketal B の合成研究	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）海産ペンタノルジテルペノイド Elisabethin H の合成研究	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）南シナ海産軟体サンゴ由来の三環性トリノルジテルペノイド Chabrolol C の合成研究	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
平成 15 年 6 月～現在	八王子産学公連携機構に登録	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学基礎実習教育センター	職名　講師	氏名　佐藤　弘人

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月 ～現在	1年生前期 リテラシー演習 ・Webclassにて演習のレジメをいつでも閲覧、資料等ダウンロードが出来る状態にしている。 ・前に映るPC画面上で、一緒に操作行うなど出来るだけゆっくり丁寧に概要と操作説明を行う様にしている。 ・時間外に理解出来ていない学生、作業が遅れている学生にどこが分からないのか聞きながら丁寧に教えている。
	平成24年4月 ～現在	2年生前期 漢方薬物学実習 ・演習講義用プリント、専用の実習レポート用紙を作成して、実習結果、学んだことをすぐに書き込み理解しやすい形にしている。実習後の口頭試問を丁寧に行い、実習の振り返りを行っている。
	平成24年4月 ～現在	3年生前期 天然医薬品化学実習 ・生薬の未知検体の鑑定を行うこと、鑑定結果について一対一の口頭試問を行うことで、生薬学の理解と自己解決能力向上を狙っている。
	平成23年7月 ～現在	3年生後期 創薬学実習（薬剤学実習） 広い領域を 3 つの分野に分けて実習を行っている。実習書がそのままレポートになる様にし、学んだこと、実習したことをすぐに記載出来るようにしている。実習後には口頭試問を行い、実習の振り返り学習を行っている。
	平成4年4月 ～平成23年7月	1年生後期 基礎有機化学実習 2年生前期 有機化学実習 3年生前期 医薬品化学実習 ・Powerpoint使用した資料を作成して概要をわかりやすく説明している。実験直前には操作を実演することで、安全にかつ正しい操作の習得に努め

		る。 ・実習後の口頭試問を少人数ずつ行うことで理解力を高める。
	平成24年～平成25	2年生前期 化学系ゼミナール 問題を自分で解き、他の学生の前で解説をして議論することで、理解度を上げていく様にしている。
	平成23年～現在	5年生 PBLT
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年4月～現在	医療情報リテラシー演習編 図を多く使いイメージしやすいように作成している。
	平成23年7月～現在	薬学基礎実習書 化学系実習II,III、創薬学実習
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成22年3月	日本薬学会132年会 東京薬科大学主催のキッズ・ラボ「楽しい科学実験をしよう」
	平成23年3月	日本薬学会133年会 東京薬科大学主催のキッズ・ラボ 「楽しい科学実験をしよう2012」
	平成24年3月	日本薬学会134年会 東京薬科大学薬学部における薬剤学実習について
	平成25年6月	横川中学校 薬物乱用防止教育
	平成25年7月	南大沢中学校 喫煙防止教育
	平成 26 年 12 月	由井第一小学校 薬物乱用防止教育
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成21年1月	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ修了
	平成21年5月	東京薬科大学 病院・薬局薬剤師研修会修了

	平成 24 年 2 月 平成 25 年 8 月 平成 26 年 3 月 平成 26 年 11 月	東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ修了 東京薬科大学カリキュラムプランニングのための FD ワークショップ修了 CITI Japan e-learning プログラム受講 東京薬科大学 FD 特別セミナー「主体的な学習を促す勘所」参加	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
キッズ・ラボ「楽しい科学実験をしよう」	共著	平成 25 年 3 月	東京薬科大学研究紀要、16, 39-46 (2013)
キッズ・ラボ「楽しい科学実験をしよう」パフォーマンス評価を通して＜学習の質＞の評価の検討	共著	平成 26 年 3 月	東京薬科大学研究紀要、17, 55-62 (2014)
キッズ・ラボ「楽しい科学実験をしよう」2014 年度の活動と新たな地域活動の展開	共著	平成 27 年 3 月	東京薬科大学研究紀要
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
基礎実習の際の学生管理簿の電子化による共有効果について		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
梅肉エキスの消化管運動に対する作用		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
梅肉エキスのインフルエンザウイルス細胞変性効果に及ぼす影響		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 4 年 4 月～現在	日本薬学会		
平成 26 年 4 月～現在	八王子市学校薬剤師		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学基礎実習教育センター	職名　講師	氏名　今田　啓介

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成18年～現在	生化学実習（3年次必修） 仔牛胸腺からの核酸(DNA)の抽出とその物理化学的性状、RT-PCR法による遺伝子発現解析、ゼラチンザイモグラフィー法による酵素タンパク質の分離同定、酵素反応の速度論的解析を実際に行い、1,2年次に学んだ生化学の知識を体現化する。特に、RT-PCR法とゼラチンザイモグラフィー法の実験を通して、関節リウマチとその治療薬の生化学的解析を行っているため、医療と生化学の関連性を体感できるとともに、薬の効き方についても理解を深めることができる。実習中には、1,2年次の生化学の基礎知識を小テスト形式で確認するとともに、口頭試問またはレポートなどで説明するなど、個々の理解力向上のための工夫を行っている。実習の最後に学生のアンケートをとっているが、ほとんどの学生が内容および理解度において満足していると高評価を得た。
	平成20年～現在	生物系ゼミナール（1-2年次選択） 1グループ5～6名のグループ毎に生化学関する身近なテーマを設定し、調査、議論、プレゼンテーション資料作成ならびにプレゼンテーションを実施。調査やプレゼンテーションを行うのみならず、生化学をより深く理解できるようDVD視聴なども利用した。授業評価は、アンケート形式で感想を述べていただき、概ね満足度は高いという評価を得ている。
	平成21年～現在	総合演習（生物）（4年次必修） 生物系薬学のうち「生命情報を担う遺伝子」「生命活動を担うタンパク質」「遺伝子を操作する」について、はじめに30問の試験を実施した。その後、パワーポイント資料を用いて試験問題の解説を行うとともに、重要なポイントについてまとめた。

	平成23年～現在	生化学Ⅰ（1年次必修） 酵素、糖質代謝、生体酸化とエネルギー代謝について学び、生体内代謝の考え方や薬学における生化学の必要性を理解する。教科書に沿った説明に加え、パワーポイント資料を用いて全体を通してポイントを押さえた解説を行った。さらにビデオ視聴によって糖代謝を中心としたエネルギー代謝の全貌がイメージできるよう工夫した。講義で使用する資料は、重要部分を穴埋めにしたものを予め WebClass にて配布した。講義は、前回の内容の復習から入るようにした。また、定期試験終了後にはフィードバック講義を実施し、全体のまとめを行った。学生の授業評価を実施しており、平均以上の評価を得た。
	平成23年～現在	生化学II（2年次必修） 脂質代謝、アミノ酸代謝、代謝の統合的調節について学び、1年次の生化学Ⅰと併せて生体の基本的なエネルギー代謝とそれらの総合的な調節機構を理解する。教科書に沿って一通り説明した後、再度全体を通してポイントを押さえた解説を行った。また、毎回講義のはじめには前回の復習を行った。加えてビデオ視聴により脂質代謝、アミノ酸代謝、糖代謝の全体像が視覚的にイメージできるよう工夫した。講義に用いるパワーポイント資料は、一部を穴埋めにし、WebClassにて学生に配布した。また、定期試験終了後にフィードバック講義を実施し、生化学 II の総まとめを行った。学生による授業評価を実施しており、平均以上の評価を得た。
	平成25年～現在	アドバンス演習（生物）（6年次必修） 生物系薬学のうち「細胞を構成する分子」「生命活動を担うタンパク質」「生体エネルギー」について、はじめに30問の試験を実施した。その後、パワーポイント資料を用いて試験問題の解説を行うとともに、重要なポイントをまとめた。試験問題は、易しい問題から難しい問題まで幅広く用意し、かつ新問を作成することで、学生に考えて問題を解く力を養った。

２　作成した教科書、教材、参考書	平成18年～現在 平成20年～現在 平成21年～現在 平成23年～現在 平成25年～現在	生化学実習の説明で使用するパワーポイントファイル 生物系ゼミナールの説明で使用するパワーポイントファイル 総合演習（生物）で使用する演習問題ならびに解説のためのパワーポイントファイル 生化学 I および生化学 II の講義で使用するパワーポイントファイル アドバンス演習（生物）で使用する演習問題ならびに解説のためのパワーポイントファイル	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成21年5月 平成 21 年 12 月 平成21年～22年 平成21年～現在 平成24年～現在 平成25年8月 平成26年3月 平成26年3月 平成26年～現在 平成27年2月	第2回東京薬科大学　病院・薬局薬剤師研修会に参加 第2回東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップに参加 CBT：CBT 実施委員会委員として、本学における CBT の監督業務を行った。 OSCE:本学における OSCE の評価者を担当。 実務実習訪問指導：長期実務実習先の薬局に行き、指導薬剤師と教育内容について意見交換を行うとともに、学生への実習に対する指導を行った。 FD：第3回東京薬科大学カリキュラムプランニングのための FD 研修会に参加 CITI Japan プロジェクトカリキュラム（01_責任ある研究行為：基盤編）修了 CITI Japan プロジェクトカリキュラム（02_人を対象とした研究：基盤編）修了 PBL-T 実施委員会委員 第 12 回東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップに参加	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Identification of an active site of EMMPRIN for the	共著	平成21年	Gynecol Oncol, vol.114, 337-342

augmentation of matrix metalloproteinase-1 and -3 expression in a co-culture of human uterine cervical carcinoma cells and fibroblasts			
（論文） Anti-arthritic action mechanisms of natural chondroitin sulfate in human articular chondrocytes and synovial fibroblasts	共著	平成 22 年	Biol Pharm Bull, vol. 33, 410-414
（著書）Action mechanisms of complementary and alternative medicine therapies for arthritic diseases	共著	平成 23 年	Chin J Integr Med, vol. 17, 723-730
（論文） A novel functional site of extracellular matrix metalloproteinase inducer (EMMPRIN) that limits the migration of human uterine cervical carcinoma cells	共著	平成 24 年	Int J Oncol, vol.40, 236-242
（論文） Serum-dependent osteoblastic changes in cultured tenocytes isolated from rat Achilles tendon	共著	平成 25 年	J Tokyo Med Univ, vol. 71, 143-150
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） 基礎実習の際の学生管理簿の電子化による共有効果について		2015 年・3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 23 年 6 月～現在	日本結合組織学会評議員		

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学実務実習教育センター	職名　講師	氏名　武井　佐和子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月以降～現在 平成21年以降～現在 平成23年4月以降～現在	実務実習事前学習Ⅰ（4年次前期必修）：卒後の医療現場での実務に必要な知識、技能、態度の基礎を修得できるよう医療現場の現状に即した内容を心がけた。 実務実習事前学習Ⅱ（4年次後期必修）：実務実習事前学習Ⅰで取得した知識、技能、態度を駆使し、総合的に学習できるよう配慮した。 薬学入門演習Ⅱ（1年次前期必修）：病気体験のかたりを聴き、SGDにて情報を共有する事で患者の立場から必要とされる医療人としての態度についての気付きを促した。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年4月以降～現在	実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱの実習書・演習用ワークシート・実習用チェックシート・実習用DVD
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年10月24～25日 平成22年10月2日 平成25年3月27日～30日	東京薬科大学における模擬患者参加型教育の導入とその課題（第19回日本医療薬学会年会） 事前実務実習における液晶モニター内蔵クリーンベンチを利用した注射剤調製実習の有用性　（第54回日本薬学会関東支部大会） 抗がん剤調製における閉鎖式接続器具の有用性に関する教育の取り組み(日本薬学会第134年会)
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成20年 平成21年～現在 平成21年～現在 平成21年～22年 平成21年～現在 平成22年～現在 平成22年9月19日～20日 平成22年12月26日～28日	OSCEトライアルにてステーション運用を担当 OSCEにてステーション運用を担当 薬学入門演習Ⅰにおいて SGDによる対人関係、チームワークについての学びを担当 4P80対策委員会委員 OSCE実施委員会委員、SP（標準模擬患者）委員会委員、病院・薬局実習運営委員会委員 実務実習訪問指導 第7回関東調整機構　認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（神奈川・東京）に参加 医療系学務教員による合同ワークショップに参加

	平成 24 年 9 月 1～2 日 平成 25 年 1 月 14 日～21 日 平成 25 年 9 月 2 日～日 13 日 平成 25 年 10 月 19 日 平成 26 年 3 月 平成 26 年 9 月 2 日～日 13 日 平成 26 年 10 月 9 日～11 月 7 日	第 7 回東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップに参加 瀋陽薬科大学臨床研修トライアル講義にて「無菌調製実習」を担当 瀋陽薬科大学臨床研修にて「無菌調製実習」を担当 女子中高生の理系進路選択支援プログラム　第 6 回　覗いてみよう、薬学、生命科学　in 東京薬科大学にて調剤実習を担当 CITI Japan e-learning プログラム受講 瀋陽薬科大学臨床研修にて「無菌調製実習」を担当 PBLT（5 年次調査研究コース）「緩和医療に従事する薬剤師が学ぶべきことは何か考える」を担当	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Personalized education のためのオンデマンドシステムの構築:クリーンベンチを使用する注射剤調製実習における例	共著	平成 26 年度	東京薬科大学研究紀要 17,39-46
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）輸液製剤に「オレンジブック」は必要ないか？		平成 26 年 9 月 27 日	日本医療薬学会年会 第 24 回年会
（演題名）薬局薬剤師による在宅患者の薬剤管理に関する調査		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）オピオイドナイーブ患者に対するフェンタニル貼付剤によるオピオイド導入に関する薬剤師の意識調査		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学実務実習教育センター	職名　講師	氏名　影山　美穂

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 26 年 4 月 ～現在	参加型授業を目標として、オーディエンス・レスポンス・システムを導入しリアルタイムで講義者と学習者、学習者同士の意見を共有しながら実習を進めた。	
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 26 年 4 月 ～現在	事前実務実習事前学習実習書の分担執筆	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 4 月 6 日 平成 26 年 3 月 平成 26 年 4 月 ～　現在	新入教員のためのミニ教育ワークショップ　参加 CITI Japan e-learning プログラム受講 ワークショップ委員会委員 長期実務実習ワークショップにタスクフォースとして参加（第 10 回（平成 26 年 3 月）、第 11 回（平成 26 年 8 月）	

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）これでわかる外来インスリン導入と管理	共著	平成 21 年 2 月	南江堂（東京）
（著書）糖尿病のくすりの教室	共著	平成 21 年 2 月	メディカ出版（大阪）
(論文)高温環境下に放置したインスリン注入器（レベミル®注フレックスペン®,ランタス®注ソロスター®）の品質に関する一考察	共著	平成 21 年 4 月	Progress in medicine, 29(4),pp.1125～1128
（著書）薬剤師の強化書	共著	平成 22 年 9 月	南江堂（東京）
（著書）薬剤師の強化書 MINI	共著	平成 24 年 11 月	南江堂（東京）
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 24 年 1 月～平成 25 年 3 月	くすりと糖尿病学会事務局

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

４「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

５「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学教育推進センター	職名　講師	氏名　緒方　正裕

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 26 年 4 月	講義の最後に小テストを行い、学生の理解度をチェックしている	
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 26 年 4 月 平成 25 年 2 月	オリジナルの問題集を作成し、配布した。 衛生薬学（第 3 版）朝倉書店	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 8 月 30、31 日 平成 25 年 11 月 3、4 日 平成 26 年 3 月	第三回大学コンソーシアム八王子 FD・SD フォーラム参加 平成 25 年度第 14 回関東地区調製機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ参加 CITI Japan e-learning プログラム受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Inhibitory effect of Lysichiton camtschatcense extracts on Fe2+/ascorbate-induced lipid peroxidation in rat kidney and brain homogenates	共著	平成 21 年 9 月	Nat. Med. vol. 63, 364-367
（論文)ビタミンＥとカプサイシン二量体の生物活性	共著	平成 25 年 12 月	ビタミン E 研究の進歩 XV 45-49
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 20 年 4 月～平成 25 年 3 月	青森市学校薬剤師会理事		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 分析化学教室	職名　講師	氏名　小谷　　明

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
・化学平衡論（1 年）	平成 19 年 4 月 ～現在	初回の講義で、講義内容や小テストの範囲を明示した予定表を配布し、予習と復習に役立つようにしている。毎講義時間の最初の 5 分間に小テストを行い、問題を解くことを通じて理解を深められるようにしている。
・分析化学（1 年）	平成 26 年 9 月 ～現在	毎回の講義の冒頭に、習熟すべき点を「本日のキーワード」として明示して目標を明確にしている。学生が講義内容の理解を確実にするように、講義内容に関連した計算演習を毎回行っている。
・物理系ゼミナール（1 年）	平成 21 年 9 月 ～平成 25 年 12 月	PC を用いて滴定曲線のシミュレーションを取り扱った。滴定曲線の特徴等について SGD やプレゼンテーションを行い、全員参加型の演習とした。学生同士でプロダクトの相互評価も行い、積極的に参加させるように工夫した。
・基礎物理学集中講義（1 年）	平成 23 年 4 月 ～現在	個人の一般化学の修得度合いを小テストによって把握し、未達者には理解できるまで個別の指導を行っている。
・薬学入門演習Ⅰ（1 年）	平成 20 年 4 月 ～現在	早期体験実習前後で行う SGD において KJ 法を活用し､討議が活発に進行するように努めている。
・臨床分析化学（2 年）	平成 17 年 4 月 ～現在	講義内容に関連したデモ実験を行い、講義の印象を深める工夫をしている。
・分析化学実習（2 年）	平成 11 年 4 月 ～現在	各実験段階における測定値を WebClass から報告できるシステムを構築し、データ解析や実験手技の誤りについてフィードバックしている。
・分析化学演習（2 年）	平成 12 年 9 月 ～現在	問題の解答時に生じた疑問点をその場でグループ協議しながら解答へ導くことで、分析化学に必要な基礎知識に対する理解を深める工夫をしている。実験も行い、知識の定着を図っている。
・医療衛生薬学演習 I-i（4 年）	平成 22 年 4 月 ～現在	学習題材として、セルフメディケーションに用いられる簡易計測法を取り扱っている。計測法を用いた実験、検査薬販売に携わる薬剤師による講義を行っている｡実践的な学習が行える内容とし、学生のモチベーションの向上を図っている。

・ラボラトリー演習 II-i（5 年）	平成 22 年 4 月 ～現在	分析化学に関連した Native の英語動画を学習の題材に用い、分析化学の実践的知識を修得しながら英語学習もできる高学年向きの内容にしている。
・ラボラトリー演習 II-ii（5 年）	平成 22 年 4 月 ～現在	WebClass を活用して遠隔教育できるシステムを構築することで、実務実習中の学生も現場で学んだ知識を本演習で再度学習できるようにしている。
・PLB-T（5 年）	平成 22 年 4 月 ～現在	学習題材として TDM を取り扱い、学習の成果は個人ごとに口頭で発表させた。その内容は、TDM 業務および TDM のガイドライン作成に携わる病院薬剤師にも講評してもらい、学生のモチベーションの向上を図った。
２　作成した教科書、教材、参考書		
・薬剤師に必要な臨床機器分析学 （秋澤俊史 編・廣川書店）	平成 22 年	・臨床検査における標準物質と標準化 ・エコー（超音波診断法）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
・第 43 回日本医学教育学会大会	平成 23 年 7 月 22 日	（演題名）薬学部 5 年次の実務実習を補完する小人数教育プログラム
・日本薬学会第 132 年会	平成 24 年 3 月 28 日	（演題名）薬効分類学習用ゲーム「Kuthrill」の開発とその学習効果測定
・化学教育ジャーナル, 14, 1-9	平成 24 年	（論文）薬物分類ゲーム「Kuthrill」の学習効果
・Proceedings of the 10th Asian Network for Quality Congress, 10(8), 692-698	平成 24 年	（論文）The relationship between academic achievement and ability of the experiment
・第 56 回日本薬学会関東支部大会	平成 24 年 10 月 13 日	（演題名）薬理学習のシリアスゲーム「Kuthrill」スマホ版の評価
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）		
・第 2 回 東京薬科大学学内認定実務実習指導薬剤師ワークショップ	平成 21 年 12 月 12～13 日	受講生として参加した。ワークショップ形式で実務実習関連のカリキュラム作成を体験し、実務実習における諸問題についても討議した。
・本学主催の FD 講習会	平成 23 年度 ～現在	年 2 回ほど開催される講習会あるいは SGD に参加し、自己啓発に努めている。
・研究倫理の e-learning	平成 25 年度 ～現在	「責任ある研究行為」「人を対象とした研究」に関する e-learning を受講し、カリキュラム修了証が発行された。
・第 11 回 東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ	平成 26 年 8 月 30～31 日	受講生として参加した。SGD を通じて実務実習における教育問題等に関して、病院あるいは薬局薬剤師と討議した。
Ⅱ　研究活動		

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Column-switching high-performance liquid chromatography with two channels electrochemical detection for high-sensitive determination of isoflavones	共著	平成 22 年 4 月	J. Chromatogr. A, vol.1217
（論文）Prepeak of trolox caused by theophylline and its application to the determination of theophylline in rat plasma	共著	平成 23 年 6 月	J. Electroanal. Chem,, vol.656
（論文） Three-channel column-switching high-performance liquid chromatography with electrochemical detection for determining bioactive Redox components in *Salvia Miltiorrhiza*	共著	平成 24 年 9 月	J. Chromatogr. A, vol.1256
（論文）Simultaneous detection of 19 K-ras mutations by free-solution conjugate electrophoresis of ligase detection reaction products on glass microchips	共著	平成 25 年 2 月	Electrophoresis, vol.34
（論文）The effect of hyperglycemia on the pharmacokinetics of valproic acid studied by high-performance liquid chromatography with electrochemical detection	共著	平成 26 年 8 月	J. Pharm. Biomed. Anal., vol.97
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）マイクロ電気化学検出 HPLC によるカテコールアミン類の迅速・高感度分離計測		平成 26 年 5 月	第 74 回分析化学討論会
（演題名）ISO 11843-7 を利用した 日局「液体クロマトグラフィー」 システム再現性の評価： グラジエント法の場合		平成 26 年 8 月	第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS 2014）
（演題名）ボルタンメトリーに基づく油脂の酸価測定用センサの開発		平成 26 年 8 月	第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS 2014）
（演題名）LC-MS/MS による酸化ステロール定量のための誘導体化法の検討		平成 26 年 8 月	第 27 回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS 2014）
（演題名）高エルゴステロール食負荷 SHRSP ラットにおける血中ブラジカステロール定量		平成 26 年 9 月	日本分析化学会第 63 回年会

（演題名）血中多価不飽和脂肪酸定量のための電気化学検出 HPLC	平成 26 年 9 月	2014 年電気化学秋季大会
（演題名）菊花中のルテオリンとカフェオイルキナ酸類の含有量に及ぼす硫黄燻蒸の影響	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）キノンの還元前置波に基づくミコフェノール酸の電気化学検出 HPLC	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）HILIC カラムを用いた電気化学検出 HPLC によるシネフリンの高感度定量法の開発	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）3,5-ジ-tert-ブチル-1,2-ベンゾキノンの還元前置波に基づく油脂の酸価測定用センサの開発	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）UPLC によるラット血清エルゴステロール及びブラジカステロールの定量と LC-ESI-MS/MS による確認	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）カラム型フロー電解セルを用いるコレステロールの電極酸化	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）LC-IT-TOF-MS によるヒト血清脂質の網羅的検出	平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
（演題名）電気化学検出 HPLC によるミコフェノール酸の定量	平成 26 年 11 月	第 60 回ポーラログフィーおよび電気分析化学討論会
（演題名）電気化学検出 HPLC による多価不飽和脂肪酸のヒト血中動態分析	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 134 年会
（演題名）アミノ酸度センサを目指した余剰酸の電気化学測定	平成 27 年 3 月	電気化学会第 82 回大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本分析化学会関東支部 幹事
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	日本分析化学会関東支部 常任幹事
平成 25 年 1 月～平成 25 年 12 月	日本ポーラログラフ学会 庶務理事
平成 26 年 1 月～平成 26 年 12 月	日本ポーラログラフ学会 理事
平成 26 年 4 月～現在	日本分析化学会 代議員
平成 26 年 4 月～現在	電気化学会　*Electrochemistry* 誌 編集委員会 委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 衛生化学	職名　講師	氏名　安藤　堅

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成18年4月 ～現在	栄養素の化学(3年前期必修)：コアカリC11(1)「栄養素」、C9(1)「ビタミン」の領域に関する講義 教科書、板書、OHP、power pointなどを活用した授業を行うと共に、栄養と健康、食品にまつわる社会問題をテーマとしたレポートを課し、問題意識の確立と客観的判断能力の育成に努めている。レポートは定期試験成績と合わせて単位認定を行う。 平成25年度の授業評価は、ほぼ全ての評価項目において前期講義全体平均値を上回っており、授業の進め方については概ね好評である。
	平成18年4月 ～現在	食品と健康（3年後期必修）：コアカリC11(1)「食品の品質と管理」「食中毒」の領域に関する講義 教科書、板書、OHP、power pointなどを活用し、学生の食と健康への関心を高めるために食品の安全性等に関する時事問題を適時紹介し、実学を意識した授業を展開している。 平成25年度の授業評価は、全ての評価項目において後期講義全体平均値を上回っており、授業の進め方については好評を得ている。
	平成18年4月 ～現在	衛生化学・公衆衛生学実習（4年前期必修）：コアカリC11(1)「栄養素」、「食品の品質と管理」、C9(1)「ビタミン」の領域に関する実習 実習書に基づき、食品中のたんぱく質の栄養価やビタミンの役割、油脂が変敗する機構について、それらの測定法を含めて科学的に理解できるように努めている。 平成 26 年度の実習内容や進め方等に関するアンケート調査の結果、概ね良い評価を得ている。

	平成20年4月 ～現在	健康・環境ゼミナール（3年後期選択）：コアカリA(2)(3)、E1(1)の領域に関する演習 生活習慣病の発症予防・重症化予防をテーマとして、栄養学的な側面から適切なアドバイスができる薬剤師の育成をめざしている。演習に食品の栄養価の実験的手法による評価、管理栄養士による栄養指導を組み込むことによって、実践的な内容となっている。演習内容に関するアンケート調査結果は概ね好評を得ている。
	平成21年4月 ～現在	医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション：薬剤師の関わり②（4年前期科別必修選択）：コアカリ C11(1)、C18(3)、C13(4)の領域に関する演習 学生が薬局を訪問し、来店患者を対象に「健康食品」がもたらす健康被害状況の聞き取り調査を実施することによって、セルフメディケーションへの薬剤師の関わり方を高い問題意識を持って学べるように努めている。調査結果は東京都薬剤師会へ報告する。訪問先薬局薬剤師から学生への薬局における接遇態度についてのフィードバックは、好評を得ている。
	平成21年4月 ～現在	医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望（4年前期科別必修）：コアカリ A(2)、B(1)(2)、D2(3)、F(2)(7)(8)、G(7)の領域に関する演習 学生が将来希望する進路を具現化する目的で立案した進路活動プランや自己PRに対し､模擬面接官として模擬面接を行うことにより、その準備到達度を評価している。
	平成23年4月 ～現在	アドバンス健康・環境演習（6年後期必修）：コアカリ C11(1)「栄養素」「食品の品質と管理」「食中毒」の領域に関する演習講義 薬剤師国試対策として効果的な取り組みとして、予め講義内容に関するキーワードを知らせ予習し易いようにしている。また、法律の改正等、学生が低学年の時点で学習した内容が変更されているところを中心に講義している。講義前にチェックテストを行い、自身の弱点を押さえることにより講義に集中できるようにしている。

２　作成した教科書、教材、参考書	平成 18 年 4 月～現在 平成 18 年 4 月～現在 平成 20 年 4 月～現在 平成 21 年 4 月～現在 平成 21 年 4 月～現在 平成 23 年 4 月～現在	「栄養素の化学」「食品と健康」：講義補助プリント、power point 資料 「衛生化学・公衆衛生学実習」：power point 資料 「健康・環境ゼミナール」：演習補助プリント、power point 資料 「医療衛生薬学演習 I-i セルフメディケーション②」：講義補助プリント、power point 資料、「健康食品」情報共有シート（東京都薬剤師会版） 医療衛生薬学特論-i 薬剤師の職能と自己将来展望：模擬面接チェックシート 「アドバンス健康・環境演習」：講義補助プリント、power point 資料
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 21 年 10 月 17 日 平成 24 年 3 月 27 日	保健機能を有する食品の有用性とリスク管理の必要性～薬学教育の立場から～（第 7 回日本セルフメディケーション学会） 東京薬科大学薬学部における衛生化学・公衆衛生学実習について（日本薬学会第 133 年会）
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21～22 年 平成 21 年 10 月 平成 22 年～現在 平成 22 年～現在 平成 23 年 平成 23 年～現在 平成 23 年～現在 平成 23 年 平成 24 年～現在 平成 25 年 8 月 平成 25 年 12 月 平成 26 年 2 月 平成 26 年 3 月	国試対策委員会 第 1 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加 OSCE 評価者 実務実習訪問指導：コーディネーターとして実務実習先薬局に出向き、実習生指導 卒試委員会 衛生委員会 学生相談室・学生相談員 卒試委員会 FD「良い問題を作るには」に参加 OSCE 実施委員会 第 3 回東京薬科大学カリキュラムプランニングのための FD 研修会に出席 OSCE 外部評価者（日本薬科大学） 学生相談講演会「薬科系大学における学生相談過去-現在-未来」に出席 東京薬科大学 FD「学生が期待する良い授業とは」に出席

	平成26年1月	CITI Japan e-learningプログラム基盤編を受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Hypoxia downregulates farnesoid X receptor via a hypoxia-inducible factor-independent but p38 mitogen-activated protein kinase-dependent pathway.	共著	平成21年	FEBS J. 276 (5), 1319 -1332.
（論文）Proline-rich domain plays a crucial role in extracellular stimuli-responsive translocation of a Cdc42 guanine nucleotide exchange factor, FGD1.	共著	平成22年	Biol. Pharm. Bull. 33(1), 35-39.
（論文）Human lactoferrin activates NF-kappaB through the Toll-like receptor 4 pathway while it interferes with the lipopolysaccharide-stimulated TLR4 signaling.	共著	平成22年	FEBS J. 277 (9), 2051-2066.
（論文）Role of FGD1, a Cdc42 guanine nucleotide exchange factor, in epidermal growth factor-stimulated c-Jun NH_2-terminal kinase activation and cell migration.	共著	平成23年	Biol. Pharm. Bull. 34(1), 54-60.
（論文）Critical role of farnesoid X receptor for hepatocellular cartinoma cell proliferation.	共著	平成24年	J. Biochem. 152(6), 577-586.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ウシ乳由来ラクトフェリンのマクロファージ泡沫化抑制作用		平成26年9月	第87回日本生化学会大会
（演題名）ラクトフェリンの潰瘍性大腸炎に対する抑制作用		平成27年3月	日本薬学会135年会
（演題名）母乳成分ラクトフェリンは TLR4 非依存的な機構により動脈硬化の発症・進展を抑制する		平成27年3月	日本薬学会135年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 漢方資源応用学	職名　講師	氏名　黒田　明平

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成16年～現在	2年前期必修「植物薬品学」: 授業中に示すパワーポイントのレジメを予め配布し，必要事項を記入してもらいながら，授業を進めた．授業アンケートを実施し、各項目の評価および自由記載欄の学生からのコメントを次年度以降の授業改善に役立てている。本学薬用植物園における薬用薬物の見学を取り入れている。生薬の最近の話題（学会発表，論文発表、新聞やネット報道）などを授業に取り入れ，学生に印象に残るように努力した．
	平成17年～現在	2年前期「漢方薬物学実習」: 基礎実習科目であるが，漢方エキス製剤の味や服用のしやすさを湯剤と比較するなど，実務に即した実習も行っている．実習終了後に毎回口頭試問を実施し，形成的評価を行っている．あらかじめフォーマットされたレポート用紙（A3，1 枚）を配布し，実習目的，実習操作，結果，考察などの記入漏れがないようにしている．
	平成19年～現在	2年後期選択「化学系ゼミナール」: IR，mass，^{1}H-NMR スペクトルがセットとなった問題を用意し、スペクトル解析を各自で十分に行える時間をもうけた。パワーポイントを用いての解説の際に、誤った解析により導かれた構造について，構造描画ソフト ChemBioDraw により算出された予測 ^{1}H-NMR スペクトルを学生に見てもらい，各自の間違えた部分を認識してもらった．
	平成21年～現在	4 年前期必修「医療衛生薬学演習―セルフメディケーション：薬剤師の関わり方」: 薬剤師の先生に講義いただいた後，実際にドラッグストアを見学し，ドラッグストアにおける医薬品販売に際する工夫，システムなどを学んだ。その見学を踏まえ，教員が提示した条件（立地など）をベースにグループ討論し，「東薬大生が提案するドラッグストア」について討議し、その内容についてはプレゼンテーションソフトを用いて発

		表した。演習終了時に実施したアンケート（5 段階評価）に対しては全てにおいて 4 以上の評価であった.
２　作成した教科書、教材、参考書		なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 24 年 7 月	第 44 回　日本医学教育学会大会で共同発表 「新薬剤師国家試験の新しい出題形式薬学実践問題に対応した演習プログラム」
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 4 月～現在	「カリキュラム改訂に関する委員会」において、新コアカリに対応した本学カリキュラムの改訂について、委員として討議した。
	平成 26 年 8 月 20 日、21 日	全学 FD ワークショップに参加し、「学生の成長をどのように支えるか」を主題とし、評価法を中心としてディスカッションを行った。また、泉美貴先生（東京医大）および北野健一先生（大阪府立大学工業高等専門学校）による学生の評価法、教育評価とティーチングポートフォリオについてレクチャーを受けた。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Phenolics from Glycyrrhiza glabra roots and their PPAR-γ ligand-binding activity.	共著	平成 22 年 1 月	Bioorganic Medicinal Chemistry, 18, 962-970
Amurensiosides A-K, 11 new pregnane glycosides from the roots of Adonis amurensis	共著	平成 22 年 1 月	Steroids, 76, 83-94
Natural Products Reveal Cancer Cell Dependence on Oxysterol-binding Proteins	共著	平成 23 年 8 月	Nature Chemical Biology, 7, 639-647
New Cardenolides from the Seeds of Adonis aestivalis	共著	平成 24 年 10 月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin, 60, 1275-1282
Karataviosides G-K, Five New Bisdesmosidic Steroidal Glycosides from the Bulbs of Allium karataviense	共著	平成 27 年 1 月	Steroids, 93, 96-104
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ユリ科植物の化学成分(81)Ornithogalum saundersiae 鱗茎の化学成分と腫瘍細胞毒性		平成 26 年 9 月	日本生薬学会第 61 回年会
ユリ科植物の化学成分（82）Eremurus ruiteri の化学		平成 26 年 9 月	日本生薬学会第 61 回年会

成分について（3）		
キク科 Achillea millefolium 地上部の化学成分と aldose reductase 阻害活性に関する研究	平成 26 年 9 月	日本生薬学会第 61 回年会
ジギタリス種子由来のカルデノリド配糖体の腫瘍選択的細胞毒性とその作用メカニズムについて	平成 26 年 11 月	第 20 回天然薬物の開発と応用シンポジウム
Thevetia neriifolia 種子のカルデノリド配糖体と腫瘍細胞毒性（1）	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Thevetia neriifolia 種子のカルデノリド配糖体と腫瘍細胞毒性（2）	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 26 年 4 月～現在	「Journal of Natural Medicines」　編集員
平成 26 年 4 月～現在	日本薬剤師研修センター 漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習指導

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 漢方資源応用学教室	職名　講師	氏名　横須賀　章人

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度以前～現在 平成21年度以前～現在 平成24年4月～現在	漢方薬物学実習：漢方処方とそれらの構成生薬に関する知識を学ぶほか、漢方薬を実際に煎じ、エキス剤と比較するなどの実務に沿った内容も行っている。毎回の実習終了時には口頭試問を行い、知識の定着をはかっている。 化学系ゼミナール：有機化合物のスペクトル（NMR、IR、MS など）解析に関する問題を数多く準備し、演習形式で行っている。演習問題の解説を詳しく行い、構造解析の手順を理解できるように心がけている。 機器スペクトル演習：パワーポイントを活用して講義を進めている。教材は、教科書以外に、講義の要点をまとめたプリント、演習用問題集を準備、活用し、理解を深められるよう心がけている。授業評価における学生からの要望は可能な限り取り入れている。
2　作成した教科書、教材、参考書		講義の要点をまとめたプリント 演習用問題集
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年7月	第43回日本医学教育学会大会にて、「薬学部5年次の実務実習を補完する小人数教育プログラム」を発表した。
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成22年7月 平成26年3月	第 3 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップに参加した。 研究倫理に関する CITI JAPAN e-learning プログラムを受講した。 薬学部 FD 講演会･研修会へ出席し、FD に関する見識を深めるよう努めている。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Steroidal glycosides from *Agave utahensis* and their cytotoxic activity	共著	平成 21 年 8 月	J Nat Prod 72: 1399-1404
（論文）Seven new triterpene	共著	平成 23 年 9 月	Pytochemistry Lett

glycosides from the pericarps of *Stryphnodendron fissuratum*			4: 259-266
（論文）Glaziovianin A prevents endosome maturation	共著	平成 25 年 5 月	ACS Chemical Biology 8: 884-889
（論文）Steroidal glycosides from the underground parts of *Yucca glauca* and their cytotoxic activities	共著	平成 26 年 5 月	Phytochemistry 101: 109-115
（論文）Steroidal glycosides from the underground parts of *Dracaena thalioides* and their cytotoxic activity	共著	平成 26 年 11 月	Phytochemistry 107: 102-110
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）*Thujopsis dolabrata* の化学成分と細胞毒性		平成 26 年 9 月	日本生薬学会 第 61 回年会
（演題名）コンズランゴの新規プレグナン配糖体について		平成 26 年 9 月	日本生薬学会 第 61 回年会
（演題名）リュウゼツラン科植物の化学成分（31）*Yucca filamentosa* の新規フロスタノール配糖体		平成 26 年 9 月	日本生薬学会 第 61 回年会
（演題名）抗腫瘍活性を中心とした新規生物活性天然物の探索研究		平成 26 年 10 月	第 58 回 日本薬学会関東支部大会
（演題名）リュウゼツラン科植物 *Yucca glauca* 地下部の化学成分と細胞毒性		平成 26 年 11 月	第 20 回 天然薬物の開発と応用シンポジウム
（演題名）コンズランゴの化学成分について		平成 27 年 3 月	日本薬学会 第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 医薬品安全管理学教室	職名　講師	氏名　中島　由紀

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 23 年 1 月 ～現在	最新状況を講義できるように毎年講義内容を見直している。色付きカードや SGD を取り入れ、学生が自分で考える参加型の授業を工夫している。また縦割りの知識を有機的に繋げて問題解決に当たれるよう、学生への指導を心がけている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 23 年 1 月 ～現在	講義で使用しているパワーポイントファイル
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 24 年 12 月 平成 25 年 7 月	日本臨床薬理学会で PBLT 演習について発表 日本医学教育学会でゼミナールについて発表
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 22 年 12 月 ～現在	大学における医療人養成推進プログラム主催の医療系学部教員による合同ワークショップに参加するなど、学内外の FD 研修に参加し、教育力向上に努めている。また、研究倫理の e-learning を受講し、自分自身が研究に対して真摯に向き合うとともに、学生に対する研究指導に役立てている。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）血中甲状腺刺激ホルモン濃度を指標とした乾燥甲状腺坐薬の適用	共著	平成 23 年 5 月	医療薬学 37(5)323-325
（論文）褥瘡治療中の過剰肉芽にグリテール含有デキサメタゾン軟膏加亜鉛華単軟膏が有効であった 3 症例	共著	平成 24 年 8 月	日本褥瘡学会誌 14(4)610-614
（論文）臨老式死生観尺度を使用した実務実習を終えた薬学生の死生観に関する意識調査	共著	平成 25 年 2 月	Palliative Care Research 8, 301-307

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ヘアレスラット角質障害皮膚を用いたクロベタゾールの先発医薬品と後発医薬品の皮膚透過量の比較	平成 26 年 9 月	日本医療薬学会
白内障手術クリニカルパスの経口抗生物質削除による感染発症頻度への影響	平成 26 年 9 月	日本医療薬学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成 25 年 5 月～	医療法人社団慶幸会ピーワンクリニックの設置する倫理審査委員

	会及び治験審査委員会の常任委員
平成 25 年 6 月～	学校法人杏林大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プランにおける非常勤講師

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 機能形態学教室	職名　助教	氏名　石橋　智子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度～現在	基本的な分子生物学、細胞生物、タンパク実験の技術を習得後、学生個々にテーマを与えて実験をし、卒業論文執筆の指導を行う。興味のある英語論文を学生が選び内容を紹介する。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年度～現在	基礎生物学実習実習書、基礎生物学実習参考資料
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成26年3月 平成26年3月	CITI Japan e-learning プログラム受講 第 10 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップを修了

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Leukemia inhibitory factor regulates the timing of oligodendrocyte development and myelination in the postnatal optic nerve.	共著	平成21年3月	J Neurosci Res 58:752-764.
（論文）Increased numbers of oligodendrocyte lineage cells in the optic nerves of cerebroside sulfotransferase knockout mice.	共著	平成23年4月	Proceedings of the Japan Academy, Series B, 87 (7): 415-424.
（論文）Unconventional myosin ID is expressed in myelinating oligodendrocytes.	共著	平成26年10月	J Neurosci Res. 92:1286-94.
（論文）Disruption of paranodal axo-glial interaction and/or absence of sulfatide causes irregular type I inositol 1,4,5-trisphosphate receptor deposition in cerebellar Purkinje neuron axons.	共著	平成27年1月	J Neurosci Res. 93:19-27.
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

（演題名） Axonal alterations in disruption of paranodal axo-glial junctions	平成 26 年 10 月	第 57 回日本神経化学会大会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
平成 21 年～現在	日本神経化学会	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病原微生物学教室	職名　助教	氏名　輪島 丈明

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 25 年 10 月～現在	（生物系ゼミナール） SGD 形式で，微生物・感染症・治療について調査を行い，パワーポイントで発表をさせた。微生物についてだけでなく，どうすれば印象に残る発表をできるかについても重点的に指導した。受講者アンケートでは，微生物に興味を持った学生が多かった。
	平成 26 年 4 月～現在	（微生物学 II） 微生物の理解を深めるために，写真や図を提示し，印象に残るような講義を目指した。また，講義資料は，学生が必要なときにダウンロードできるようにした。授業内容をまとめた問題を作成し、次回講義で学生に答えさせることで、知識の定着を図った。
	平成 26 年 9 月～現在	（微生物学 I） 微生物の理解を深めるために，写真や図を提示し，印象に残るような講義を目指した。また，講義資料は，学生が必要なときにダウンロードできるようにした。授業内容をまとめた問題を作成し、次回講義で学生に答えさせることで、知識の定着を図った。
2　作成した教科書、教材、参考書		講義で使用しているパワーポイントファイル
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 9 月 平成 25 年 12 月～現在 平成 26 年 4 月	指導薬剤師養成ワークショップ（学内）に参加 CITI Japan e-learning プログラム受講 指導薬剤師養成ワークショップ（関東地区調整機構）に参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称

（論文）Enterotoxigenic *Escherichia coli* CS6 gene products and their roles in CS6 structural protein assembly and cellular adherence	共著	平成 23 年 10 月	Microbial Pathogenesis vol. 51 No. 4
（論文）Entire sequence of the colonization factor coli surface antigen 6-encoding plasmid pCss165 from an enterotoxigenic *Escherichia coli* clinical isolate.	共著	平成 25 年 11 月	Plasmid vol. 70 No. 3
（論文）Associations of macrolide and fluoroquinolone resistance with molecular typing in *Streptococcus pyogenes* from invasive infections, 2010-2012	共著	平成 25 年 11 月	International Journal of Antimicrobial Agents vol. 42 No. 5
（論文）Marked Changes of Capsular Type and Genetic Antimicrobial Resistance in Isolates from Children Under 18 Years Old with Invasive Pneumococcal Diseases in Japan after Introduction of 7-Valent Conjugate Vaccine	共著	平成 26 年 7 月	Emerg Infect Dis vol. 20 No.7
（論文）Prevalence of Macrolide Resistance Among Group A Streptococci Isolated from Pharyngotonsillitis	共著	平成 26 年 10 月	Microbial Drug Resistance vol.20 No.5
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）2007 年から 2012 年における BLNAR の抗菌薬感受性の変化と新規変異獲得株の出現		平成 26 年 9 月	第 26 回微生物シンポジウム
（演題名）Rapid Changes in Serotype and Antimicrobial Resistant Profile of Penicillin-nonsusceptible Pneumococci by Introduction of PCV7		平成 26 年 10 月	International Conference on Antimicrobial Research 2014
（演題名）2007 年から 2012 年における BLNAR の抗菌薬感受性と耐性機構の関連		平成 26 年 10 月	第 61 回日本化学療法学会東日本支部総会
（演題名）HEp-2 細胞に対して特異な凝集接着を示す腸管毒素原性大腸菌 O169:H41 の接着因子		平成 26 年 11 月	第 67 回日本細菌学会関西支部総会
（演題名）侵襲性感染症由来 *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE)の分子疫学解析		平成 27 年 2 月	第 26 回日本臨床微生物学会総会・学術集会

（演題名）クラリスロマイシン低感受性 BLNAR 株の出現と低感受性化機構の解析	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）基質拡張型βラクタマーゼ（ESBL）産生菌の動向と遺伝学的特徴	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）7 価肺炎球菌結合型ワクチンの市販後における肺炎球菌の莢膜型の変化と薬剤感受性	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）臨床分離 *Haemophilus influenzae* の薬剤感受性と細胞侵入能	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）銀翹解毒丸製剤の抗菌活性の検討	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
平成 26 年 4 月から現在	東京医科大学八王子医療センター感染症対策委員会外部委員	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物代謝安全性学教室	職名　助教	氏名　大沼　友和

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 21 年 4 月 ～現在	病態生理学・薬物安全性学実習（3 年次実習）: C2-3、C12-1、C14-1 等を含む実習 薬剤師として必要な病態生理学および薬物・化学物質の安全性・毒性に関する基礎的な知識や技術を身につける。実習を通じて薬物代謝酵素の誘導・阻害ならびに薬毒物の中毒と解毒法について学ぶ。実習内容の補足資料としてスライドを作成し Web クラスに公開した。
	平成 21 年 4 月 以前～現在	卒論指導（4・5・6 年次実習）: E1-1、E1-2、E1-3 等を含む実習 実験研究および調査研究を通して、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得し、問題解決能力を養う。
	平成 21 年 4 月 ～平成 22 年 3 月	事前実務実習　補助（4 年次実習）: D1-4 等を含む実習 事前実務実習の補助を担当。担当した実習は無菌製剤と配合変化。クリーンベンチで行う実際の無菌操作の練習と「無菌について」というテーマで SGD を行い、班ごとにプロダクトを発表した。
	平成 21 年 4 月 ～現在	科別英語特論（4 年次必修）: 英文学術雑誌や薬学に関する基礎的な英文記事の読解により、科学英語の知識を身につける。また、社会的に認知度の高い TOEIC の模擬試験を行い、実用的な英語を身につける。
	平成 22 年 5 月 ～平成 25 年 5 月	薬学入門演習Ⅰ　ポスター作成（1 年次必修）: A-3、F-7 等を含む演習 ポスター作成演習の補助を担当した。早期体験実習で学んだことや感想をグループ討論し、その内容をポスターにまとめる。
	平成 23 年 4 月	4P80　衛生担当（5・6 年）:

	～現在	調査研究コースプログラムの一つとして、薬剤師国家試験について、演習問題の解法を中心とした授業を通して、薬学の知識と理解を深める。講義資料としてスライドを作成し学生に配布した。
	平成 24 年 4 月 ～現在	薬学入門演習Ⅰ　SGD(1)(2)(3)（1 年次必修）: B-2 等を含む演習 早期体験実習に能動的に参加し、実習施設で働く薬剤師の役割について理解を深めるため、アドバイジーと SGD を 3 回行う。
	平成 26 年 4 月 ～現在	健康・環境ゼミナール（3 年次ゼミナール）: A-2、A-3、E-1 等を含むゼミナール 数名からなるグループを構成し、グループごとに化学物質による事件を取り上げ、薬害や中毒事件の発生原因や経過を調べ、グループ内討論を経て、全体発表会を行う。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 4 月 ～現在	医療系実習Ⅰ実験書
	平成 23 年 4 月 ～現在	4P80　講義用スライド配布プリント
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 21 年 2 月	第 5 回認定実務実習指導薬剤師ワークショップ参加（受講）
	平成 21 年 12 月	第 2 回東京薬科大学長期実務実習ワークショップ参加（受講）
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 22 年 4 月 ～現在	実務実習コーディネーター: 実務実習先の施設へ出向いて訪問指導
	平成 21 年 12 月～現在	OSCE 評価者（学内）
	平成 24 年 12 月	CBT 試験監督者（学内）
	平成 25 年 8 月	学内 FD ワークショップ講演会（受講）: 山形大学　小田教授「大学改革の駆動力としての FD」
	平成 26 年 3 月	学内 FD ワークショップ講演会（受講）: 東京医科大学　荒井教授「学生が期待する良い授業

	平成26年1月 ～現在	とは」 CITI Japan e-learningプログラム（受講）: 責任ある研究行為:基礎編、人を対象として研究:基礎編	
Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Induction of phase 2 drug-metabolizing enzymes by falcarindiol isolated from Notopterygium incisum extract, which activates the Nrf2/ARE pathway, leads to cytoprotection against oxidative and electrophilic stress.	共著	平成21年6月	Arch. Biochem. Boiphys., 488, 34-41.
（論文）Activation of the Nrf2/ARE pathway via S-alkylation of cysteine 151 in the chemopreventive agent-sensor Keap1 by falcarindiol, a conjugated diacetylene compound.	共著	平成21年9月	Toxicol. Appl. Pharmacol., 244, 27-36.
（論文）Dietary diacetylene falcarindiol induces phase 2 drug-metabolizing enzymes and blocks carbon tetrachloride-induced hepatotoxicity in mice through suppression of lipid peroxidation	共著	平成23年3月	Biol. Pharm. Bull., 34, 371-378.
（論文）Enhanced sensitivity of A549 cells to the cytotoxic action of anticancer drugs via suppression of Nrf2 by procyanidins from Cinnamomi Cortex extract.	共著	平成23年9月	Biochem. Biophys. Commun., 413, 623-629.
（論文）Modulation of Nrf2-regulated cytoprotective enzymes by crude drugs: role of inducers and inhibitors of Nrf2 in chemoprevention and	共著	平成24年1月	J. Trad. Med., 30, 9-18.

anticancer therapy.			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）がん予防および抗がん剤治療における異物代謝酵素を制御する Nrf2 の誘導剤および阻害剤としての生薬エキス		平成 26 年 7 月	日本毒性学会
（演題名）A549 細胞における過剰発現転写因子 Nrf2 を抑制する桂皮エキス		平成 27 年 3 月	日本薬学会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物動態制御学教室	職名　助教	氏名　瀧沢　裕輔

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 24 年 4 月 ～現在	講義内容は、図表・絵を中心としたパワーポイントで提示し、ほぼ同じ内容を手元資料として配布している。また配布資料が教科書と容易にリンクできるように、試料中に教科書の対応ページを示しており、重要事項は資料に書きこむよう指示ししている。計算問題の解説は黒板を用い、学生には板書を指示している。	
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 24 年 4 月 ～現在	講義用スライド、講義用配布プリント	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 3 月	CITI Japan e-learning プログラム受講	

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Changes in Protein and mRNA Expression Levels of ClaudinFamily after Mucosal Lesion by Intestinal Ischemia/Reperfusion.	共著	平成 24 年 4 月	Int. J. Pharm., 426 (1-2): 82-89.
（論文）Changes in Absorption and Excretion of Rhodamine 123 by Sodium Nitroprusside.	共著	平成 25 年 6 月	Int. J. Pharm., 450 (1-2): 31-35.
（論文）Characteristics of Reversible Absorption-Enhancing Effect of Sodium Nitroprusside in Rat Small Intestine.	共著	平成 25 年 7 月	Eur. J. Pharm. Sci., 49(4): 664-670.
（論文）Effects of Pharmaceutical Excipients on Membrane Permeability in Rat Small Intestine.	共著	平成 25 年 9 月	Int. J. Pharm., 453(2): 363-370.
(著書)薬剤学実験法必携マニュアル	共著	平成 26 年 4 月	南江堂

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）薬物の小腸粘膜透過性に対する各種医薬品添加剤の影響	平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 年会
（演題名）Changes in drug absorption by pharmaceutical excipients in rat small intestine	平成 26 年 10 月	19th North American ISSX / 29th JSSX Meeting
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病態生理学教室	職名　助教	氏名　中村　真希子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 21 年 4 月 ～現在	医療薬学演習 I-i（臨床で活躍する薬剤師を目指して） 腎疾患を題材に、SGD 形式で適切な薬物治療を考察した。プレゼンテーションと教員を交えた討論を複数回行うことで、理解を深めるよう工夫した。
	平成 21 年 9 月 ～現在	病態生理学・薬物安全性学実習（医療系実習 I） 薬剤師として必要な病態生理学および薬物・化学物質の安全性・毒性に関する基礎的な知識や技術を身につける実習の一環として、血圧測定を習得し、自身の尿を用いて腎臓による体液調節機構および試験紙検査について学ぶ。毎回実習後に詳細な口頭試問を行い、理解度の確認を行った。
	平成 26 年 9 月 ～現在	疾病と薬物治療 I 疾病に伴う臨床検査値情報を取得し適正な薬物治療に参画できるよう、基本的知識を修得する。実際の症例や薬剤師国家試験出題例を用い、具体的な検査値推移を考察した。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年～現在 平成 26 年～現在	病態生理学・薬物安全性学実習書 疾病と薬物治療 I 講義資料(臨床検査)
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年 9 月 20・21 日 平成 22 年～現在 平成 24 年 2 月 11・12 日 平成 24 年 8 月 23・24 日 平成 25 年～現在	第 12 回東京ブロック指導薬剤師養成ワークショップ参加 実務実習施設における訪問指導 第 6 回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ参加 第 2 回東京薬科大学カリキュラムプランニングのためのワークショップ参加 e-learningプログラム受講(研究倫理)

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Visualization of flow-induced ATP release and triggering of Ca^{2+} waves at caveolae in vascular endothelial cells.	共著	平成 23 年 10 月	Journal of Cell Science, 124, 3477-83
（論文）Decreased extra-renal urate excretion is a common cause of hyperuricemia.	共著	平成 24 年 4 月	Nature Communications, 3, 764-770
（論文）Identification of a xanthinuria type I case with mutations of xanthine dehydrogenase in an Afghan child.	共著	平成 24 年 8 月	Clinica Chimica Acta, 414, 158-160
（論文）Novel allelic variants and evidence for a prevalent mutation in URAT1 causing renal hypouricemia: biochemical, genetics and functional analysis.	共著	平成 25 年 10 月	European Journal of Human Genetics, 21, 1067-1073
（論文）Effects of irbesartan on serum uric acid levels in patients with hypertension and diabetes.	共著	平成 26 年 1 月	Clinical Pharmacology: Advances and Applications, 6, 79-86
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） Construction of fluorescent uricase fusion protein for characterization of urate transporters		平成 26 年 4 月	5 th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress
（演題名）新規融合タンパク質プローブによる尿酸トランスポーター評価法の開発		平成 26 年 6 月	第 9 回トランスポーター研究会
（演題名）脳内 ZMP 増加のもたらす AMPK 活性化と神経症状発現の関連性に関する検討		平成 26 年 11 月	第 37 回日本分子生物学会
（演題名）ウリカーゼ融合タンパク質による尿酸トランスポーター阻害薬スクリーニング法の開発		平成 26 年 11 月	第 37 回日本分子生物学会
（演題名）尿酸トランスポーターURAT1 遺伝子重複変異モデルにおける尿酸輸送活性及び URAT1 発現局在の検討		平成 27 年 2 月	第 48 回日本痛風・核酸代謝学会
（演題名）尿酸トランスポーターURAT1 遺伝子の重複変異を持つ低尿酸血症例における URAT1 機能評価		平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
	なし

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病態生理学教室	職名　助教	氏名　吉岡　亘

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 24 年 4 月 ～現在	病態生理学実習（3 年次必修）: コ ア カ リ C8-3-3-1, C8-3-4-2, C14-2-2-4, C14-3-1-1,2,3,4 に関する実習。実習各日に口頭試問で理解を確かめ、実習後にレポートならびに筆記試験を実施した。
	平成 25 年 4 月 ～現在	疾病と薬物治療 III（3 年次必修）: コアカリ C14-3-1-1,4, C14-3-2-1,2,3 C8-1-8-1, C8-1-9-1, C14-5-7-1,2,3 に関する講義。パワーポイントスライドと配布用講義プリントを用意し、授業内で適宜練習問題を出題して理解させるよう務めた。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 25 年 4 月 ～現在	講義プリント、講義で使用しているパワーポイントファイル
	平成 26 年 2 月	「毒性の科学」(東京大学出版会)を分担執筆
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 6 月 ～現在	実務実習訪問指導（6 年生 5 年次）:実務実習先の病院へ出向いての訪問指導
	平成 26 年 5 月	早期体験実習引率（6 年生 1 年次）:病院での早期体験実習の引率
	平成 25 年 2 月 平成 26 年 12 月	研究倫理に関する e-learning（CITI Japan プロジェクトカリキュラム)を受講・修了

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Involvement of microRNAs in dioxin-induced liver damage in the mouse.	共著	平成 23 年 12 月	Toxicological sciences, 122:457-65.
（論文） Critical role of microsomal	共著	平成 24 年 6 月	Toxicological sciences,

prostaglandin E synthase-1 in the hydronephrosis caused by lactational exposure to dioxin in mice.			127:547-54.
（論文） Fluorescence laser microdissection reveals a distinct pattern of gene activation in the mouse hippocampal region.	共著	平成24年11月	Scientific reports, 2:783.
（論文） Predominant role of cytosolic phospholipase A2α in dioxin-induced neonatal hydronephrosis in mice.	共著	平成26年2月	Scientific reports, 4:4042.
（論文） A Mouse Strain Less Responsive to Dioxin-Induced Prostaglandin E2 Synthesis is Resistant to the Onset of Neonatal Hydronephrosis.	共著	平成26年7月	Toxicological sciences, 141:465-474
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）化学物質によるプロスタグランジン E2 産生増加が引き起こすマウス新生仔における水腎症発症		平成26年6月	日本毒性学会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成25年1月～	日本毒性学会評議員		
平成26年1月～	J. Toxicol. Sci.誌の Editorial Board		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬学教室	職名　助教	氏名　横川　彰朋

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年～現在	（講義：テーラーメイド医療、総合創薬演習） 教科書の確認問題や投与設計の例題・課題を用い、問題解決能力を養う。学会・学術論文および医療現場における最新情報を紹介して、実務実習に対応できるようにする。授業中のテストの実施あるいは宿題を課して実力を養成した。
	平成21年～現在	（ゼミナール：3年後期創薬系） 発表、ロールプレイ等を通じたグループ討論により、相手の意見を理解するとともに、自分の意見をわかりやすく説明し、コミュニケーション能力を高めることができるように指導した。また、現場で活躍する薬剤師の先生の講義を行い、チーム医療での薬剤師の役割を学べるようにした。
	平成21年～現在	（医療薬学演習 I-ii：4年前期） 薬物動態解析ソフトによる演習を行い、医薬品開発と臨床試験に精通した薬剤師としての知識を学べるようにした。
	平成21年～現在	（卒論教室での教育） 科別英語特論、ラボラトリー演習を通じ、教室配属の卒論生に対し、英語論文読解などの指導を行った。
	平成23年～現在	（4年後期総合演習、6年後期アドバンス演習） 過去5年分の国家試験を解析し、傾向と対策を講義した。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成22年8月26日	テーラーメイド医療 －薬物治療の個別化－（古田、柴崎、横川 著、京都廣川書店）
3　教育方法･教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成21年2月 平成23年8月 平成 26 年 11 月 平成27年3月	PBL-チュートリアルに関するワークショップ参加 第4回東京薬科大学学内ワークショップ参加 FD 特別セミナー（主体的な学習を促す勘所～カリキュラムデザインの要諦と参加型教育の具体的な手法～）参加 CITI Japan プロジェクト e-learning プログラム（研究倫理）受講

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Simultaneous determination of androstenedione, 11β-hydroxyandrostenedione, and testosterone in human plasma by stable isotope dilution mass	共著	平成21年3月	J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci,877, 621-626

spectrometry			
（論文）Separation and Quantitative Determination of 6α-hydroxycortisol and 6β-hydroxycortisol in Human Urine by High-performance Liquid Chromatography with Ultraviolet Absorption Detection	共著	平成 24 年 2 月	Anal Bioanal Chem, 402, 2945-2952
（論文）The effect of water loading on the urinary ratio of cortisone to cortisol in healthy subjects and a new approach to the evaluation of the ratio as an index for in vivo human 11β-hydroxysteroid dehydrogenase 2 activity	共著	平成 24 年 10 月	Steroids, 77, 1291-1297
（論文）Intraindividual and Interindividual Variabilities in Endogenous Cortisol 6β-Hydroxylation Clearance as an Index for In Vivo CYP3A Phenotyping in Humans	共著	平成 25 年 2 月	Drug Metab Dispos, 41, 475-479
（論文）Use of endogenous cortisol 6β-hydroxylation clearance for phenotyping in vivo CYP3A activity in women after sequential administration of an oral contraceptive (OC) containing ethinylestradiol and levonorgestrel as weak CYP3A inhibitors	共著	平成 26 年 9 月	Steroids, 87, 137-144
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）A novel index for assessing 3β-hydroxysteroid dehydrogenase activity in humans based on the measurement of dehydroepiandrosterone and androstenedione		平成 26 年 8 月	20th International Mass Spectrometry Conference (IMSC)
（演題名） In vivo cytochrome P450 3A activity in a pregnant woman as measured by endogenous cortisol 6β-hydroxylation clearance		平成 26 年 8 月	20th International Mass Spectrometry Conference (IMSC)
（演題名） HPLC-UV による EGFR チロシンキナーゼ阻害剤ゲフィチニブとエルロチニブの血中濃度測定法の開発		平成 27 年 3 月	日本薬学会 第 135 年会
（演題名）タキサン系抗悪性腫瘍剤パクリタキセルの HPLC 分析と体内動態解析		平成 27 年 3 月	日本薬学会 第 135 年会
（演題名）大豆イソフラボン摂取が血清エストラジオール濃度と月経周期へ及ぼす影響		平成 27 年 3 月	日本薬学会 第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 11 年～現在	日本薬学会　会員		
平成 19 年～現在	日本医用マススペクトル学会　会員		

平成 19 年～現在	日本 TDM 学会　会員
平成 21 年～現在	日本臨床化学会　会員
平成 25 年～現在	国際 TDM 学会　会員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬理学	職名　助教	氏名　恩田　健二

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年～現在	薬の効き方Ⅳに関する講義・演習 症例のシーンごとのシナリオ、処方せんを配布し、スモールグループ形式で問題点などを討議、発表する形式で実施。
	平成21年～現在	医療薬学演習 I-ii 薬害、薬物相互作用等に関するテーマについてグループ討議，調査，スライド作成，発表を行う形式で実施。
	平成21年～現在	事前実務実習 薬局、病棟での患者対応（初回面談、服薬指導）の場面でロールプレイ実習。疑義照会など
	平成22年～現在	疾病と薬物治療Ⅴ(免疫・アレルギー、膠原病、HIV感染症)講義プリントを毎回用意し、講義の冒頭でミニ問題を解かせている。分かりやすい講義を心がけている。
	平成 26 年 11 月	4P80（問題作成演習） 5 年次生を対象に国家試験問題の複合問題を作成し解答解説する演習を実施。
	平成21年～現在	科別英語特論 TOEIC 対策、医療に関する英語のビデオ上映などどを実施している。
	平成22年～現在	アドバンス英語 TOEIC 対策、英語論文ゼミなどを実施している。
	平成22年～現在	ラボラトリー演習 卒論研究に関係する各種ガイダンス、ゼミなどを実施している。
2　作成した教科書、教材、参考書		疾病と薬物治療Ⅴおよび薬の効き方Ⅳ講義プリント 国家試験対策講義プリント
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成21年2月	PBL－チュートリアルに関するワークショップ IN　TOYAKU 参加
	平成22年～平成24年9月	実務実習訪問指導 第7回長期実務実習のための学内ワークショッ

	平成26年8月 平成27年1月	プ参加 全学ワークショップ参加 研究倫理e-lerning受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Sofalcone, a gastric mucosa protective agent, increases vascular endothelial growth factor via the Nrf2-heme-oxygenase-1 dependent pathway in gastric epithelial cells.	共著	平成22年7月	Biochem Biophys Res Commun. 398:581-4.
（論文）Decitabine, a DNA methyltransferase inhibitor, reduces P-glycoprotein mRNA and protein expressions and increases drug sensitivity in drug-resistant MOLT4 and Jurkat cell lines.	共著	平成24年10月	Anticancer Res.32:4439-44
（論文）Soluble endoglin production is upregulated by oxysterols but not quenched by pravastatin in primary placental and endothelial cells.	共著	平成26年9月	Placenta.35:724-31.
（論文）Characterization of protocols for primary trophoblast purification, optimized for functional investigation of sFlt-1 and soluble endoglin.	共著	平成26年10月	Pregnancy Hypertens.4:287-95
（論文）Sofalcone up-regulates hemeoxygenase-1 via nuclear factor (erythroid-derived 2)-like 2, reduces sFlt-1 & quenches endothelial dysfunction: Potential therapeutic for preeclampsia	共著	平成27年4月	Hypertension in press
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
イソプレニルカルコン誘導体による Nrf2／ヘムオキシゲナーゼ経路の活性化と sFlt-1 産生抑制作用 （Heme Oxygenase Research Forum Award 受賞）		平成26年8月	第 10 回ヘムオキシゲナーゼ研究フォーラム　（京都）
HO-1 expression is not reduced in preeclamptic placenta, and does not regulate sFlt-1 or soluble		平成26年9月	2014 International Federation of Placenta

Endoglin secretion in either primary trophoblast or endothelial cells.		Associations (Paris)
Proton Pump Inhibitors significantly quench pathophysiological characteristics of preeclampsia in primary placental and endothelial models: a novel candidate therapeutic	平成 26 年 9 月	2014 International Federation of Placenta Associations (Paris)
Sofalcone upregulates heme-oxygenase-1, reduces sflt-1 and quenches endothelial dysfunction in primary human tissues: a potential therapeutic for preeclampsia	平成 26 年 10 月	The 8th International Conference on Heme Oxygenases, BioIron and Oxidative Stress (Sydney)
Proton pump inhibitors induce heme oxygenase-1 and decrease Sflt1 and Seng production in human placenta: a new candidate therapeutic for preeclampsia	平成 26 年 10 月	The 8th International Conference on Heme Oxygenases, BioIron and Oxidative Stress (Sydney)
ヒト胎盤においてプロトンポンプ阻害薬は Nrf2/ヘムオキシゲナーゼ１経路を活性化し，抗血管新生因子の産生を抑制する	平成 26 年 12 月	第 35 回日本臨床薬理学会学術総会（松山）
消化性潰瘍治療薬ソファルコンは妊娠高血圧腎症の指標を改善する	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会（神戸）

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 22 年 4 月～平成 25 年 3 月	日本薬学会　ファルマシアトピックス小委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬理学教室	職名　助教	氏名　田中　祥子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年度～現在	薬の効き方Ⅳ 症例のシナリオを配布し、Problem-based learningやSGDを中心とした演習および講義を行っている。形成的評価により、学習者主体の教育の実践に取り組んでいる。
	平成21年度～現在	事前実務実習 薬局での患者対応（初回面談、服薬指導）の場面でロールプレイ実習を行っている。
	平成21年度～現在	医療薬学演習Ⅰ-ii 薬害や相互作用をテーマにグループで討議し、調査内容を発表する。
2　作成した教科書、教材、参考書		パワーポイントファイルを作成している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年9月	日本社会薬学会第33年会 薬学生による地域交流に関するポスター発表を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成25、26年度 平成26年3月	学内長期実務実習のためのワークショップにタスクフォースとして参加した。 FD ワークショップおよび研究倫理に関するe-learningを受講した。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Clinical implications of the type 1/type 2 balance of helper T cells and P-glycoprotein function in peripheral T lymphocytes of myasthenia gravis patients	共著	平成22年2月	Eur J Pharmacol, 627: 325-331
Clinical implication of peripheral CD4+CD25+ regulatory T cells and Th17 cells in myasthenia gravis patients	共著	平成22年8月	J Neuroimmunol, 225: 123-131
Low-dose glucocorticoid therapy complements the pituitary -adrenocortical system and reduces anxiety and insomnia in	共著	平成24年2月	Clin Neuropharmacol, 35: 30-36

myasthenia gravis patients			
Influence of anticancer agents on cell survival, proliferation, and CD4+ CD25+ Foxp3+ regulatory T cell-frequency in human peripheral -blood mononuclear cells activated by T cell -mitogen	共著	平成 25 年 11 月	Int Immunopharmacol, 15: 160-166
Arsenic disulfide induced apoptosis and concurrently promoted erythroid differentiation in cytokine-dependent MDS-progressed leukemia cell line F-36p with complex karyotype including monosomy 7	共著	平成 26 年 3 月	Chin J Integrative Med, DOI: 10.1007/s 11655-013-1514-7.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Clinical implications of oxidized LDL in frequent relapse minimal change nephrotic syndrome patients		平成 26 年 4 月	5th FIP Pharmaceutical Science World Congress (PSWC) (Melbourne, Australia)
微小変化型ネフローゼ症候群患者における酸化 LDL と治療効果との関連		平成 26 年 6 月	医療薬学フォーラム 2014 第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 25 年 4 月～現在	東京薬科大学・八王子薬剤師会連携協議会委員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 一般用医薬品学教室	職名　助教	氏名　成井　浩二

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 薬学入門演習 II（介助 I） 車椅子で､介助される側､介助する側､1 人で運転する場合の 3 つの役割を体験させ､それぞれの立場で感じることが異なることを理解させる｡実際に生活している学内を走行することで､不自由さをより一層理解できるように心がけている。	平成 21 年 4 月 ～現在	車イスに乗って移動し、その不自由さやどのような介助が必要かを体験させる。それを通じて医療人として障がい者に対する介助の必要性や、その実施に関する問題点を理解させる。
事前実務実習 模擬患者と実薬（一般用医薬品）を用い､より現場に近い環境で学習させている。学生相互で評価をすることで、刺激と新たな気づきを与える様にしている。	平成 21 年 4 月 ～現在	模擬患者の症状等から適した一般用医薬品を選択し、基本的な服薬指導をさせる。
薬学入門演習 I グループで討議しプロダクトを作成する行程を始めて体験させる｡プレゼンテーション用のスライドや原稿を作成させ、相手に表現し、伝え、理解してもらうにはどのようにしたらより良いのか考えさせる。	平成 22 年 4 月 ～平成 26 年 3 月	早期体験実習で学んだことや、印象に残ったことなどをグループ討論し、その討論内容などをポスターにまとめさせる。ポスターの内容を口頭発表するために、プレゼンテーション用のスライド（パワーポイント）と発表原稿を作成させる。
PBLT 「一般用医薬品選択における論理的思考の実践」 患者の症状や病態から病因を推測する過程を論理的に推察できるように、段階を経ながら問題を出題している。	平成 22 年 4 月 ～現在	一般用医薬品の需要者との応需から適切な薬剤選択と服薬指導、受診勧奨をする上での考え方を学習させる。
ゼミナール 「薬局薬剤師業務の観察(中期体験実習)」(3 年生) 実際に現場出向き､薬剤師の仕事を肌で感じてもらえるような内容にしている。	平成 25 年 9 月 ～12 月	早期体験実習では、時間の都合上、施設内の紹介や業務の一部を見学するのみで、現実的な業務を時間をかけて見学（観察）することはできなかった。そこで、薬局薬剤師に焦点を絞り、時間をかけて薬剤師業務を観察する中で、業務に対する姿勢や工夫を感じ取ってもらうこと、また、4 年次

医療の最前線　医療コミュニケーション　一般用医薬品の相談対応 1年生に模擬患者役を、5年生に薬剤師役を演じさせ､一般用医薬品の薬剤選択と服薬指導を行わせている｡学生相互で評価をすることで､刺激と新たな気づきを与える様にしている。	平成26年4月 ～現在	事前実務実習および5年次実務自習の心構えを身につけることを目的としている。 一般用医薬品の需要者との応需から適切な薬剤選択と服薬指導、受診勧奨をする上での考え方を学習させる。
２　作成した教科書、教材、参考書		
薬学入門演習II（介助I）	平成21年4月	
ポートフォリオ	～現在	車椅子の構造と操作の諸注意、レポートなど
講義用スライド（パワーポイント）		車椅子の構造と操作の諸注意など
事前実務実習	平成21年4月	
事前実務実習テキスト	～現在	一般用医薬品、来局者接遇、使用医薬品情報など
講義用スライド（パワーポイント）		一般用医薬品、来局者接遇、使用医薬品情報など
来局者接遇ツール		外箱拡大写真、評価表など
薬学入門演習Ⅰ	平成22年4月	
ポートフォリオ	～平成25年3月	ポスター作成の手順など
PBLT	平成22年4月	
「一般用医薬品選択における論理的思考の実践」	～現在	
書き込み式のテキスト		一般用医薬品販売など
講義用スライド（パワーポイント）		各日の問題、解説など
ゼミナール	平成25年9月	
「薬局薬剤師業務の観察(中期体験実習)」(3年生)	～12月	
講義用スライド（パワーポイント）		薬局業務など
医療の最前線　医療コミュニケーション　一般用医薬品の相談対応	平成26年4月 ～現在	
来局者接遇ツール		外箱拡大写真など
説明用プリント		スケジュール、作業手順など
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「米国臨床薬学研修の活動内容と教育システム」	平成25年9月	米国臨床薬学研修内容と教育手法に関する知見を第23回日本医療薬学会年会にて発表した。
「大学内で展開する系統的なセルフメディケーション教育」	平成27年3月	セルフメディケーション教育に関する知見を日本薬学会第 135 年会のシンポジウムにて発表した。

４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）			
第二回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 21 年 12 月	タスクフォース	
第三回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 22 年 7 月	タスクフォース	
第四回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 23 年 1 月	タスクフォース	
第五回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 23 年 8 月	タスクフォース	
東京薬科大学 FD 研修会 教育法に関するミニワークショップ	平成 23 年 12 月	タスクフォース	
平成 24 年度 第 17 回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成 24 年 1 月	タスクフォース	
第七回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 24 年 9 月	タスクフォース	
第八回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 25 年 2 月	タスクフォース	
第 3 回 東京薬科大学 カリキュラムプランニング FD ワークショップ	平成 25 年 8 月	タスクフォース	
第十回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 26 年 3 月	タスクフォース	
研究倫理の e-learning	平成 26 年 3 月	受講	
第 1 回 東京薬科大学 指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ	平成 26 年 7 月	タスクフォース	
第十一回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ	平成 26 年 8 月	タスクフォース	
CITI Japan e-learning プログラム	平成 27 年 3 月	受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）図解入門メディカルワークスシリーズ　よくわかる OTC 薬の服薬指導　第 3 版	共著	平成 22 年 4 月	株式会社　秀和システム
（著書）基礎化学と生命化学	共著	平成 26 年 3 月	株式会社　光生館
（論文）改正薬事法施行以前における一般用医薬品とセルフメディケーションに関する一般消費者の意識調査	共著	平成 22 年 4 月	医療薬学（第 36 巻 240-251）
（論文）改正薬事法施行後における一	共著	平成 25 年 2 月	医薬品情報学（第 14 巻 161-

般用医薬品とセルフメディケーションに関する一般消費者の意識調査			169)
(論文)スイッチ OTC 医薬品に対する一般生活者の意識調査	共著	平成 25 年 12 月	医療薬学（第 39 巻 726-732）
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）生活習慣病患者のスイッチ OTC 医薬品に対する意識調査		平成 26 年 7 月	第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会
（演題名）東日本大震災後の一般消費者の一般用医薬品等の備蓄に関する意識調査		平成 26 年 7 月	第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会
（演題名）一般用医薬品の購入・販売についての一般消費者及び登録販売者に対する意識調査		平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
（演題名）スイッチ OTC 医薬品の使用に関する生活習慣病患者の意識調査		平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
（演題名）タブレット端末を用いた一般用医薬品のお薬選択支援ツールの開発		平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
（演題名）漢方薬についての一般消費者に対する意識調査		平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
（演題名）OTC 医薬品普及啓発イベントの有用性に関する意識調査		平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
（演題名）一般用医薬品のインターネット等販売に対する消費者意識に関する研究		平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
（演題名）東京都台東区における一般生活者を対象としたお薬講座の試み		平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
（演題名）大学内で展開する系統的なセルフメディケーション教育		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 21 年 4 月～10 月	第 2 回 OTC 医薬品普及啓発イベント実行委員
平成 21 年 4 月～10 月	第 7 回日本セルフメディケーション学会実行委員
平成 21 年 8 月	八王子未来学　小中学生のための「未来スクールはちおうじ」講師
平成 22 年 2 月	八王子未来学　まるごとキャンパス八王子「誰でもできる衛生管理」講師
平成 22 年 8 月	八王子未来学　小中学生のための「未来スクールはちおうじ」講師
平成 22 年 11 月～平成 23 年 10 月	第 9 回日本セルフメディケーション学会事務局長
平成 22 年 4 月～10 月	第 3 回 OTC 医薬品普及啓発イベント実行委員
平成 23 年 4 月～10 月	第 4 回 OTC 医薬品普及啓発イベント実行委員
平成 23 年 7 月	第 1 回夏休み子どもいちょう塾 「お薬の体内での道のりと工夫」講師
平成 23 年 9 月	白梅学園大学・白梅学園短期大学保健センター講演 「お薬の体内での道のりと工夫」講師

平成 24 年 4 月～10 月	第 5 回 OTC 医薬品普及啓発イベント実行委員
平成 24 年 9 月	平成 24 年度 第 3 回登録販売者生涯学習研修会 講師
平成 24 年 11 月～12 月	平成 24 年度 第 4 回登録販売者生涯学習研修会 講師
平成 25 年 1 月～2 月	平成 24 年度 第 5 回登録販売者生涯学習研修会 講師
平成 25 年 4 月～10 月	第 6 回 OTC 医薬品普及啓発イベント実行委員
平成 25 年 4 月	平成 25 年度 第 1 回登録販売者生涯学習研修会 講師
平成 25 年 6 月～7 月	平成 25 年度 第 2 回登録販売者生涯学習研修会 講師
平成 25 年 9 月	平成 25 年度 第 3 回登録販売者生涯学習研修会 講師
平成 25 年 11 月	全日本医薬品登録販売者協会　生涯学習研修会　平成 25 年度　B 第 2 講座 講師
平成 26 年 1 月	全日本医薬品登録販売者協会　生涯学習研修会　平成 25 年度　A 第 4 講座 講師
平成 26 年 2 月	全日本医薬品登録販売者協会　生涯学習研修会　平成 25 年度　A 第 6 講座 講師
平成 26 年 3 月	平成 25 年度 第 4 回登録販売者生涯学習研修会 講師
平成 26 年 4 月～10 月	第 7 回 OTC 医薬品普及啓発イベント実行委員
平成 26 年 4 月～現在	日本臨床腫瘍薬学会広報出版委員
平成 26 年 5 月	平成 26 年度 第 1 回登録販売者生涯学習研修会 講師
平成 26 年 8 月	平成 26 年度 第 2 回登録販売者生涯学習研修会 講師
平成 27 年 2 月～3 月	平成 26 年度 第 4 回登録販売者生涯学習研修会 講師

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 総合医療薬学講座	職名　助教	氏名　大友　隆之

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年前期 ～現在	医療薬学科科別演習Ⅰ－ｉ（4 年次医療薬学科前期） 慢性疾患症例を題材に、SGD 形式で症例検討を行なった。チューターとして議論が活発になるように努めた。
	平成21年前期 ～現在	科別英語特論（4 年次卒論生前期） 臨床研究論文を題材に、英語論文の読み方を指導した。
	平成21年前期 ～現在	事前実務実習（4 年次医療薬学科前期） 実務実習を控えた 4 年生に対し、実践に即した学内環境において薬剤師業務や心得を指導した。
	平成21年前期 平成22年前期 ～平成23年前期 平成24年前期 ～現在	薬の効き方 IV（4 年次前期） 糖尿病、脂質異常症、脳・心血管疾患などの Common disease を題材に、SGD 形式で症例検討を行なった。 同様の題材を用いながらも、患者背景ならびに時間経過を意識した課題に修正した。 上記の課題に加え、処方解析を行なった。
	平成21年前期 ～現在	課題研究（4, 5, 6 年次卒論生通年） 糖尿病、脂質異常症、高血圧等のメタボリックシンドロームを対象に、基礎医学的・臨床医学的手法を駆使して研究に取り組んだ。6 年次生には課題研究論文の作成方法について指導した。
	平成22年4月 ～現在	アドバンス英語（5 年次卒論生通年） Annals of Internal Medicine, JAMA, The LANCET などの臨床研究論文を中心に抄読会を行った。
	平成22年4月 ～現在	医療薬学科科別演習 II-i（5,6 年次医療薬学科通年） 課題研究で得られた結果の整理、評価、解釈等の方法について指導した。
	平成22年4月 ～現在	医療薬学科科別演習 II-ii（5,6 年次医療薬学科通年） 課題研究で得られた結果を発表するための準備

		（発表スライド作成方法や質疑応答対策）などを指導し、学会での発表を支援した。
	平成 22 年 4 月 ～現在	疾病・薬ゼミナール（3 年次前期選択） 慢性疾患の薬物治療における問題点をテーマに、SGD 形式で討論を行った。学生に「自己の健康」を管理する課題を与えることで、長期服薬や長期治療の問題点を考える機会を提供した。
	平成 22 年後期 ～現在	4P80（5 年次調査研究コース） 薬剤師国家試験問題および類題を使用して、国家試験対応能力を高めるための講義を行った。小テストで学生の理解度を確認し、講義に反映させた。
	平成 24 年 1 月 ～現在	病院実務実習（5 年次通年） 病院実務実習のコーディネータとして、学生指導を行った。特に、学生の精神的変化を注視して指導した。
	平成 24 年 9 月 ～現在	疾病と薬物治療Ⅱ（2 年次後期） 代表的な内分泌疾患、骨・関節疾患について、教科を中心にして講義を行なった。講義後に関連問題（薬剤師国家試験や定期試験の過去問など）の解法を示すことで、学生の理解を助けるように努めた。
	平成 25 年 4 月 ～現在	薬学入門Ⅰ（1 年次前期） 薬剤師（医療従事者）として求められる知識、技能、精神について自由討論を通じて指導した。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年前期 ～現在	教科書、参考者の作成は無し。 講義ごとにパワーポイントファイルを作成し、学生の理解を深めるための資料として利用した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年～現在 平成 26 年 3 月 平成 26 年 8 月 平成 26 年 11 月	東京薬科大学 FD 講演会には積極的に出席し、FD に関する参加諸問題への見識を高めた。 CTIT Japan プロジェクトの e-learning プログラム（責任ある研究行為：基礎編，Stage 1、人を対象とした研究：基礎編，Stage 1）を受講した。 2014 年度全学 FD ワークッショプに参加した。 CTIT Japan プロジェクトの e-learning プログラム（責任ある研究行為：基盤編，Stage 1、人を対象とした研究：基盤編，Stage 1）を受講した。
Ⅱ　研究活動		

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）CD44 is critical for airway accumulation of antigen-specific Th2, but not Th1, cells induced by antigen challenge in mice.	共著	平成 23 年 9 月	European Journal of Immunology vol. 41 Issue 11
（著書）Hypoglycemic effects of clove (Syzygium aromaticum flower buds) on genetically diabetic KK-Ay mice and identification of the active ingredients.	共著	平成 24 年 4 月	Journal of Natural Medicines vol. 66 Issue 2.
（論文）Murine T cell-derived contractile activity for bronchial smooth muscle cells.	共著	平成 24 年 4 月	International Archives of Allergy and Immunology vol. 158 Suppl. 1.
（論文）Identification of acyl-CoA thioesterase in mouse mesenteric lymph nodes.	共著	平成 25 年 2 月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol. 36 No.5.
（論文）Expression and distribution of acyl-CoA thioesterases in the white adipose tissue of rats.	共著	平成 25 年 8 月	Histochemistry and Cell Biology vol. 140 Issue 2.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）褐色脂肪組織の脂肪燃焼系の及ぼす肥満の影響		平成 26 年 6 月	第 72 回西東京内分泌代謝研究会
（演題名）褐色脂肪組織の脂肪燃焼系に及す食餌誘導性肥満の影響		平成 26 年 10 月	第 35 回日本肥満学会学術大会
（演題名）脂肪細胞におけるアシル CoA チオエステラーゼの発現解析		平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 19 年 4 月～現在	日本生化学会　一般会員		
平成 22 年 1 月～現在	日本薬学会　一般会員		
平成 22 年 1 月～現在	日本肥満学会　一般会員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学基礎実習センター	職名　助教	氏名　高橋　浩司

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成24年度～ 平成25年度	1. 分析化学　（1年後期・必修・EFGHクラス） 教育内容と特徴：試料中に存在する物質の種類及び濃度を正確に知るために、代表的な医薬品、その他の化学物質の滴定を含む各種の定量分析法の基本的知識と技能を取得する。 教育方法の工夫：滴定では、滴定の各段階（滴定前、当量点前、当量点、当量点後）で、溶液内にはどのような化学種が存在しているのかをイメージできることが重要であると考え、反応を反応式だけではなく、溶液内に存在する化学種の割合の変化を表す図も併用することで学生の理解を深めるようにした。また、沈殿滴定の終点決定法や酸化還元電位などわかりにくい事柄は身近な例に例えることで印象に残るような授業を行うことを心掛けた。 授業評価：授業後に行ったアンケートでは授業は楽しかったなど概ね好評であったが、分析化学自体に苦手意識を持っている学生も多く見受けられた。
	平成21年度～ 現在	2. 分析化学実習，2年前期 教育内容と特徴：分析化学に必要な基本的知識や技術をより良く修得できるようにするために、容量分析に必要な溶液濃度の計算や試料調製、滴定操作、得られた実験値からのファクターや目的成分含量の計算、分析法バリデーションに基づいた分析結果の客観的評価を各個人で行う。 教育方法の工夫：実習レポートを質問形式に改め、学生に設問について調査・考察させることとした。 授業評価：実習試験に書かせた感想によると実習内容・形式など概ね好評であるが、有効数字など数字の取り扱いについて理解できない学生が多く見受けられた。

	平成21年度～ 平成25年度	3. 科別特論演習　医療衛生薬学演習Ⅰ-ⅰ　セルフメディケーション：薬剤師の関わり方「セルフメディケーションのための簡易計測」 教育内容と特徴：「セルフメディケーション」への薬剤師の関わり方についての調査と実際に用いての試料の測定を行い、簡易計測の測定目的、測定原理、測定方法、測定上の注意点などの知識、試料の取り扱いや測定の技術、測定方法や注意点を説明する際の態度を身に付ける。 教育方法の工夫：外部講師として現役の薬局薬剤師の先生と医療機器メーカーテルモの社員さんを招いて講義を行ってもらった。現場で働く薬剤師の話を聞くことができ、また実際にテルモ社製品を用いた血糖値測定を行うことができた。学生の評判も良く満足のいく内容であったと思われる。 授業評価：演習後に書かせた感想によると、内容・形式など好評であった。
	平成26年度～ 現在	4. 分析化学・物理化学実習 教育内容と特徴：薬学分野における数量的な取り扱いの基本の修得と機器分析の基本的な原理、測定法を理解するために、単位、有効数字、濃度計算、機器分析法などに関する演習問題を行う。更に、薬学に関連する題材をとりあげた物理化学実習を通して、物質の化学変化や変化の過程、反応速度、エネルギー変化などの物理化学的諸現象の理解を深める。 教育方法の工夫：分析化学演習では、演習問題を先ず各自が考えて解答し、そこで生じた問題点をグループで協議しながら解答を導き、それをまとめたレポートをもとに職員が評価・フィードバックを行っている。また、緩衝液に関しては実験も併用して行っている。物理化学実習では、毎回の実習終了後に少人数での口頭試問を行い、解答の是非について教員を中心として討論を行っている。 授業評価：内容が難しいとの意見もあるが、いつもよりも深く考えることが出来て理解できたとの意見も多かった。

２　作成した教科書、教材、参考書		物理系実習Ⅰテキスト 物理系実習Ⅱテキスト	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年度～現在 平成 26 年 3 月 平成 26 年 8 月	東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ タスクフォース CITI Japan e-learning プログラム受講 第 4 回全学 FD ワークショップ参加（東京薬科大学）	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Real time measurement of concentration ratio at an electrode/solution interface by calculating the inverse Laplace transform of SOWG spectroscopy.	共著	平成 21 年 4 月	J. Electroanal. Chem., **628(1-2)**, 1-6 (2009).
（論文） Column switching high-performance liquid chromatography with two channels electrochemical detection for high-sensitive determination of isoflavones	共著	平成 22 年 3 月	J. Chromatogr. A, **1217(17)**, 2986-2989 (2010)
（論文） Development of an electric charge-tunable micro-column for capillary liquid chromatography	共著	平成 24 年 9 月	Anal. Sci. **28(9)**, 853-859 (2012)
（論文） Determination of Nobiletin in Rat Plasma after Ingestion of Citrus depressa Juice by Capillary Liquid Chromatography with Electrochemical Detection Using Boron-doped Diamond Electrode	共著	in press	Electrochemistry
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）基礎実習の際の学生管理簿の電子化による共有効果について		平成 26 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学実務実習教育センター	職名　助教	氏名　濱田　真向

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 21 年 4 月以降～現在 平成 25 年 9 月以降	実務実習事前学習（D1）カリキュラムの約 230 コマ（1 コマ 70 分、合計約 16000 分／前期 3.5 ヶ月間）を担当し、以下の工夫で実施している。１）カリキュラムでは、方略構造を独自に設計し、実習時間の時間管理、参加型学習の実践、学生自身によるプロダクト作製、自己振り返り、全員に対する教員側からのミニマムな実技評価を確立して実施している。２）このためには、ＩＴＣの活用が不可欠で、表データベース、画像・ビデオ収録と編集、教材編集をＰＣ上で作製し管理している。３）シミュレーション効果を高めるため、ｉＰａｄなどの携帯端末を導入して、教員のプレゼンテーションと実習内での学生実習に活用している。これらは、センター内で紹介しプログラム方針と方法を組織的実施するよう情報共有して、教育ノウハウの蓄積に努めている。 ２５名の選択実習としてＰＢＬＴを担当し、実践に近いシナリオでシミュレーションをプログラミングした実習を実施した。特に褥瘡に関連する製剤、褥瘡モデルの活用した参加実習、ｉＰａｄを利用した自己記録とプロダクト作製を実施し、より効果的な実習モデルを実践している。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 4 月以降～現在	東京薬科大学　事前実務実習テキスト、教材用動画集（デモンストレーションビデオ）（サーバー保管型）、教材用写真集（サーバー保管）、説明用スライド集、演習テキスト 以上の関連コンテンツ全てをサーバー（http://donner.ps.toyaku.ac.jp/）に保管している。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 20 年 10 月以降	OSCE 実施委員会：本学ＯＳＣＥ実施のための、企画・検討・準備の全般と、分担作業部分の実施 SP 育成推進委員会：Ｄ１実習で活用するＳＰの養

	平成 21 年 1 月 24 日～25 日 平成 23 年 1 月 24 日～28 日 平成 24 年 7 月以降 平成 24 年 10 月 26 日～28 日 平成 25 年 1 月 25 日～1 月 27 日 平成 25 年 2 月 25 日～3 月 15 日 平成 26 年 8 月	成と養成のための企画 第 31 回 医学教育セミナーとワークショップ 東海大学病院薬剤部研修 長期実務実習のためのＷＳタスクフォース 国際交流委員会 第 46 回 医学教育セミナーとワークショップ 第 47 回 医学教育セミナーとワークショップ in 沖縄 共催：琉球大学 東京医科大学病院　薬剤部で３週間の臨床研修 東京薬科大学 2014（平成 26）年度全学 FD ワークショップ　タスクフォース

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
クラスター分析による構造類似性と薬効･薬理情報の相関性の検討と副作用予測.	共著	平成 21 年 10 月	医薬品情報学（第 10 巻第 4 号）
薬理作用表現コードと構造類似による医薬品情報検索システムモデルの検討	共著	平成 21 年 11 月	医薬品情報学（第 11 巻第 1 号）
医療安全を指向したプレフィルドシリンジ化によるブスルフェクス注の混合調製方法の開発	共著	平成 21 年 12 月	薬学雑誌（第 129 巻第 6 号）
医薬品情報のための化学構造を用いた情報検索に関する研究	単著	平成 24 年 7 月	東京薬科大学　博士（薬学）
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
医療用医薬品添付文書の情報構造の分析とそれに対応する学習マップの作成		平成 26 年 3 月	日本薬学会 134 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 天然医薬品化学教室	職名　助教	氏名　蓮田　知代

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月以前～現在	3年次実習「天然医薬品化学実習」;口頭試問を行い、実習内容をその日のうちにフィードバックできるよう配慮している。口頭試問、レポート、実習試験、実習態度により評価を行う。
	平成21年4月以前～現在	4年次演習「科別英語特論」;英語テキストを薬学の内容に沿うような課題を選択し、英語力と共に薬学的知識を再学習する。受講態度、和訳発表にて評価を行う。
	平成21年4月以前～現在	5年次演習「アドバンス英語」;英語論文を講読し論文内容の解説を行う。発表、受講態度により評価を行う。
	平成21年4月以前～現在	5･6年次演習「医療薬学演習II-iラボラトリー演習(1)」;卒業論文実験に関する報告を行い、問題点、課題点等の討論、質疑応答を行う。受講態度、発表にて評価を行う。
	平成21年4月以前～現在	5･6年次演習「医療薬学演習II-ⅱラボラトリー演習(2)」;英語論文を講読し論文の解説を行う。論文発表、受講態度により評価を行う。
	平成24年7月～平成25年7月	大学院講義「生薬学特論」;免疫学的検出方法を用いた生薬成分の検出方法にて講義を担当。テスト、受講態度にて評価を行う。
	平成24年12月～現在	2年次演習「化学系ゼミナール」;NMR, IR, MS等各種スペクトルに関する練習問題を解き、その解答及び解説を学生が行う。問題解説の際に重要ポイントの解説も併せて行う。小テスト及び受講態度により評価を行う。
	平成25年4月～現在	4年次科別特論、演習「医療薬物薬学演習Ⅰ-ⅰ」;機器スペクトルに関する演習問題を行い、その解答及び解説を学生が行う。重要ポイントの解説も併せて行う。発表、受講態度にて評価を行う。
	平成25年4月～現在	1年次演習「薬学入門演習I」;早期体験実習事前、事後学習指導。SGD及び発表、討論により評価。
	平成25年4月～現在	2年次必修「植物薬品学」;講義内容を、写真、構造式、教科書ページ数等視覚的なものを中心にパワーポイントで提示し、学生には穴埋め形式のプ

		リントとして配布。テスト及び受講態度により評価を行う。	
２　作成した教科書、教材、参考書	平成21年4月以前～現在 平成21年4月以前～現在 平成24年7月～平成25年7月 平成24年12月～現在 平成25年4月～現在 平成25年4月～現在	3年次実習「天然医薬品化学実習」;実習書の作成 4年次演習「科別英語特論」;英語教材の作成 大学院講義「生薬学特論」;講義で使用しているパワーポイントファイルの作成 2年次演習「化学系ゼミナール」;演習用問題、教材の作成 4年次科別特論、演習「医療薬物薬学演習Ⅰ－ｉ」;演習用問題、教材の作成 2年次必修「植物薬品学」;講義で使用しているパワーポイントファイル、学生配布用授業プリントの作成	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成21年～現在 平成23年8月 平成24年8月 平成24年～現在 平成25年～現在 平成25年～現在 平成25年～現在	OSCE；OSCE評価者として参加 実務実習指導薬剤師養成ワークショップ参加 カリキュラムプランニングのためのワークショップ参加 実務実習；薬局に出向いての実務実習訪問指導 CBT；CBT実施委員会委員 研究倫理のe-learning受講 生薬関連資料整備委員会;学内に展示及び保存されている生薬類の整備。春、秋に行われる植物園公開講座の運営	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Production of monoclonal antibodies against antitumor cyclohexapeptide RA-VII from *Rubia cordifolia* and their characterization	共著	平成23年7月	Journal of natural medicines, 65, 588-593.
（論文）Monoclonal antibodies from Rubia cordifolia against antitumor	共著	平成24年1月	Hybridoma, 31, 20-24.

cyclohexapeptide deoxybouvardin and their use in immunoassay			
（論文）Synthesis of [Tyr-5-Ψ(CH_2NMe)-Tyr-6]RA-VII, a reduced peptide bond analogue of RA-VII, an antitumor bicyclic hexapeptide	共著	平成24年4月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, 22, 2757-2759.
(論文) Abietane Diterpenoids and a Sesquiterpene Pyridine Alkaloid from *Euonymus lutchuensis*	共著	平成25年6月	Journal of natural products, 76, 1085-1090.
（論文）Synthesis of sunitinib-metastin conjugate, a novel esterase-sensitive prodrug system based on lactonization reaction	共著	平成26年7月	Heterocycles, 89, 1860-1876.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成21年以前～現在	日本薬学会会員		
平成21年以前～現在	日本生薬学会会員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬化学教室	職名　助教	氏名　平島　真一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 25 年 8 月 ～現在	基礎有機化学実習（１年次後期） 有機化学の学習に必要な基礎的実験を行い，有機化合物の取り扱い方法，分離法，精製法，物性値の測定法，構造確認法などについて，原理を理解して基本的な技能を習得する。
	平成 25 年 8 月 ～現在	医薬品合成実習（３年次後期） 有機化学および医薬品化学講義で修得する知識を基礎として，有機化学反応を組み合わせて医薬品を合成し，医薬品合成法の基礎的知識と技能を取得する。
２　作成した教科書、教材、参考書		なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年～現在 平成 26 年 3 月 平成 26 年 4 月	OSCE 本試験評価者 CITI Japan e-learning プログラム受講 新入教員のためのミニ教育ワークショップ（東京薬科大学）に参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Direct Aerobic Photo-oxidative Synthesis of Aromatic Methyl Esters from Methyl Aromatics via Dimethyl Acetals	共著	平成 22 年 7 月	Org. Lett., 12 (16), 3645-3647.
（論文）One-Pot Metal-Free Syntheses of Acetophenones from Styrenes through Aerobic Photo-oxidation and Deiodination with Iodine.	共著	平成 23 年 4 月	Org. Lett., 13 (10), 2576-2579.
（総説）Development of New Chiral Brønsted Acid Catalysis.	共著	平成 25 年 11 月	J. Synth. Org. Chem. Jpn., 71, 1116-1125

（論文） Solvent-free Asymmetric Conjugate Addition of Malonates to Enones Using a Diaminomethylene-malononitrile Organocatalyst	共著	平成 26 年 6 月	Tetrahedron Lett., 55 (31), 4334-4337
(論文)Cinchona-Diaminomethylene-malononitrile Organocatalyst for Asym- metric Michael Addition of 1,3-Diketone to Nitroalkene	共著	平成 26 年 7 月	Tetrahedron Lett., 55 (33), 4619-4622
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ジアミノメチレンマロノニトリル型有機触媒を用いたケトンとアルデヒドとの立体選択的アルドール反応		平成 26 年 7 月	創薬懇話会 2014
（演題名）新規フルオラス有機分子触媒を用いた立体的炭素-炭素結合形成反応の開発		平成 26 年 9 月	フルオラス科学研究会第 7 回シンポジウム
（演題名）ピロリジン-ジアミノメチレンマロノニトリル型有機触媒を用いた不斉反応		平成 26 年 11 月	第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム
（演題名）ジアミノメチレンインデンジオン触媒を用いたケトンのマレイミドへの不斉共役付加反応		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）有機分子触媒を用いる不斉 direct vinylogous aldol 反応の開発		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）有機分子触媒を用いる不斉 Pudovik 反応の開発		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）*tert*-ブタンスルホニル基を有するプロピンアミド誘導体のエンイン閉環メタセシスによるラクタム環の構築		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病態生化学教室	職名　助教	氏名　片桐　文彦

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月 ～現在	担当科目：細胞生物学、生化学演習、基礎生物学実習、生物系ゼミナール（隔年）、課題研究他 習得すべき内容を分かりやすくまとめた授業ノートを作成・販売し、講義では時間内での学習効果を高めるために、スライド、補助プリント等を用いて視覚的・直感的に理解できるように工夫している。 実習科目においては、実習書を作成・配布し、実際の操作を通じて学生に講義内容を再確認させると共に、口頭試問やアドバイス等を実施して学生の理解力を養っている。 また、課題研究においては 4～6 年次の学生に対して、研究の流れ、実験、卒業論文の作成を指導している。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年4月 ～現在	授業で提示するスライド内容を編集した授業ノートを独自に作成し、毎年更新している。本ノートには直接書き込めるようになっており、授業の流れ、要点を確認しやすいように、かつ、予習復習がしやすいように工夫している。 実習書は、作業手順だけでなく、実習の目的や参考資料を掲載し、実習課題も直接書き込めるようにしている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成22年4月 ～平成23年3月 平成23年4月 ～平成24年3月 平成26年3月 ～現在 平成26年4月 ～現在	国試対策委員会委員 卒試委員会委員 CITI Japan e-learning プログラム受講 OSCE 実施委員会委員

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Structural requirement of fibrogenic laminin-derived peptide A119 (LSNIDYILIKAS) for amyloid-like fibril formation and cellular activity.	共著	平成 24 年 10 月	Biochemistry, Vol.51, No.41, 8218-8225.
（論文）Screening of integrin-binding peptides in a laminin peptide library derived from the mouse laminin β chain short arm regions.	共著	平成 26 年 5 月	Arch. Biochem. Biophys., Vol.550-551, 33-41.
（論文）Significant decrease in plasma N-acetyl-seryl-aspartyl-lysyl-proline level in patients with end stage renal disease after kidney transplantation.	共著	平成 26 年 6 月	Biol. Pharm. Bull., Vol.37, No.6, 1075-1079.
（論文）Biological activities of the homologous loop regions in the laminin α chain LG modules.	共著	平成 26 年 6 月	Biochemistry, Vol.53, No.22, 3699-3708.
（論文）Plasma kisspeptin levels in male cases with hypogonadism.	共著	平成 26 年 8 月	Endocr. J., Vol.51, No.11, 1137-1140.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Structure-activity relationship study for integrin α6β1-binding peptide A2G10 derived from mouse laminin α2 chain sequence		平成 26 年 12 月	米国細胞生物学会 2014
（演題名）Identification of integrin-binding sites on short arm region of laminin α5 chain by screening in synthetic peptide library		平成 26 年 9 月	第 33 回欧州ペプチド討論会
（演題名）インテグリンα6β1 結合ペプチド A2G10 の構造活性相関研究		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 製剤設計学教室	職名　助教	氏名　金沢　貴憲

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ① 創薬実習「薬剤学実習（製剤工学)」（3 年後期）	・平成 21 年以前～平成 25 年	医薬品や製剤の調製や適切な使用方法、製剤化の意義と方法を学ぶ。 様々な製剤機械に触れ、薬局方の製剤に関する試験法を実習することで製剤学、製剤機械、試験法についての知識を身につけることが出来る。 演習問題、口頭試問等を毎回行い、学生の理解定着に努めている。 出席、実習態度、レポート、実習試験から作成した資料をもとに総合的に成績を評価している。
② 事前実務実習(院内製剤)(4 年)	平成 21 年	病院、薬局への実務実習に行く前の事前教育であり、実務実習に必要な、知識、技能、態度を身につける。院内製剤は実際に病院で調製されている製剤と同じものを調製、評価することで、病院薬剤師について学ぶ。 本学実習書、実習スライドを作成した。 製剤処方について SGD を行った。
③ 製剤工学（3 年前期）	平成 23 年および平成 25 年	製剤の特徴、製造方法等の製剤工学に関する基礎的知識を学習する。 補助プリント、講義スライドを作成し、学生の理解定着に努めている。 定期試験の成績から作成した資料をもとに総合的に成績を評価している。
④ 創薬ゼミナール（3 年前期）	平成 23 年～平成 25 年	最新の DDS 研究について知る。 DDS のベンチャー企業を調査し、その内容についてパワーポイントにまとめ発表する。 ゼミナール終了後 A4 1 枚のレポートを提出する。 補助プリント、講義スライドを作成し、学生の理解定着に努めている。 授業態度、出席、発表内容、レポートをもとに総合的に成績を評価している。
⑤ 医療薬物薬学演習Ⅰ-iii; 創薬演習（4 年）	平成 21 年以前～平成 25 年	薬剤学や DDS に関する最新の論文を探索調査し、スライドに分かりやすくまとめて発表し、教室全体で討論する。

		発表スライド内容、発表態度、討論態度を総合的に評価している。
⑥ 科別英語特論（4 年）	平成 21 年以前～平成 25 年	薬剤学や DDS に関する最新の英語論文を探索調査し、スライドに分かりやすくまとめて発表し、教室全体で討論する。 英語論文読解力、発表スライド内容、発表態度、討論態度を総合的に評価している。
⑦ アドバンス英語（5 年）	平成 23 年～平成 25 年	薬剤学や DDS に関する最新の英語論文を探索調査し、スライドに分かりやすくまとめて発表し、教室全体で討論する。さらに、外国からの招待セミナーや薬剤学会が主催する英語セミナーへ参加し英語で議論する機会を設けた。 英語論文読解力、発表スライド内容、発表態度、討論態度を総合的に評価している。
⑧ 医療薬物薬学演習Ⅱ-i；ラボラトリー演習	平成 23 年～平成 25 年	研究室で行われている研究報告会に参加し、研究の進捗状況について討議する。コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を培う。 発表態度、発表資料、討論態度を総合的に評価する。
⑨ 医療薬物薬学演習Ⅱ-ii；学術論文演習	平成 23 年～平成 25 年	薬剤学や DDS に関する最新の研究内容を探索調査し、その代表的な論文や研究内容をスライドに分かりやすくまとめて発表し、教室全体で討論する。 発表態度、発表資料、討論態度を総合的に評価する。
⑩ 4 年総合演習（4 年後期、薬剤）	平成 25 年	3 年前期に行った、製剤の特徴、製造方法、試験法等の製剤工学に関する基礎的知識を総合的に学習する。 講義用の補助プリントを作成した。 4 年総合演習試験を作問した。
⑪ 5 年 4P80（5 年後期、薬剤）	平成 25 年	3 年前期に行った、製剤の特徴、製造方法、試験法等の製剤工学に関する基礎的知識を総合的に学習する。 講義用の補助プリントを作成した。 4P80 総括試験を作問した。
⑫ 6 年 4P80（6 年前期、薬剤）	平成 25 年	3 年前期に行った、製剤の特徴、製造方法、試験法等の製剤工学に関する基礎的知識を総合的に学習する。 講義用の補助プリントを作成した。 4P80 総括試験を作問した。

⑬ アドバンス演習（6 年後期、薬剤）	平成 23 年～平成 25 年	3 年前期に行った、製剤工学に関する基礎的知識ならびに放出制御製剤、粘膜投与製剤、経皮吸収製剤、標的化製剤など DDS に関する基礎的知識ならびに最新の知識を総合的に学習する。 補助スライド・プリントを作成した。 アドバンス演習試験を作問した。	
⑭ 卒論課題研究指導	平成 21 年以前～平成 26 年	これまで「siRNA の製剤化（経皮、注射剤、経眼）に関する研究」、「難溶性薬物の評価法構築」、「SMEDDS の固形製剤化」、「経鼻投与型脳腫瘍標的化ナノ粒子の設計」をテーマに卒論研究指導を行った。	
⑮ 総合薬学総合試験作問	平成 23 年～平成 25 年	薬剤系分野の一部を作問した。	
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年以前～平成 25 年	①東京薬科大学薬学部薬学基礎実習教育センター　創薬学実習実験書（薬剤学実習、製剤工学） ②講義・実習で使用しているパワーポイントファイル	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	①平成 23 年 1 月 22-23 日 ②平成 26 年 2 月～現在	第 4 回 東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップに参加 研究倫理の e-learning を受講	
Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）細胞質感受性核酸 DDS	共著	平成 24 年 3 月	永井恒司、岡田弘晃監修、シーエムシー出版、「ドラッグデリバリーシステムの新展開 II ―核酸医薬・抗体医薬・ワクチン医療を支える DDS 技術―」
(著書)機能性ペプチドを用いた細胞質応答性 siRNA キャリア	共著	平成 24 年 6 月	秋吉一成、石原一彦、山岡哲二監修、シーエムシー出版、「先端バイオマテリアルハンドブック」
（論文） Cytoplasm-responsive nanocarriers conjugated with a functional cell-penetrating peptide for systemic siRNA	共著	平成 25 年 10 月	International Journal of Pharmaceutics, 455 (1-2), 40-47

delivery.			
（論文） Delivery of siRNA to the brain using a combination of nose-to-brain delivery and cell-penetrating peptide-modified nano-micelles.	共著	平成 25 年 12 月	Biomaterials, 34 (36), 9220-9226
（論文） Prolongation of life in rats with malignant glioma by intranasal siRNA/drug co-delivery to the brain with cell-penetrating peptide-modified micelles.	共著	平成 26 年 5 月	Molecular Pharmaceutics, 11 (5), 1471-1478
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）細胞透過性ナノキャリアと経鼻投与を利用した脳への核酸デリバリー		平成 26 年 5 月	第 31 回日本薬剤学会
（演題名）機能性ペプチドキャリアを用いた樹状細胞への抗原導入と免疫活性		平成 26 年 5 月	第 31 回日本薬剤学会
（演題名）自己乳化型マイクロエマルション（SMEDDS）含有粉末製剤の調製ならびにラット 経口投与後の in vivo 吸収特性		平成 26 年 5 月	第 31 回日本薬剤学会
（演題名）難溶性薬物シンプルフォーミュレーションの in vitro 溶出性評価におけるフロース ルーセル（FTC）法の適用		平成 26 年 5 月	第 31 回日本薬剤学会
（演題名） Intradermal RNAi therapeutic system by novel class of RNAi agents and functional peptide for atopic dermatitis		平成 26 年 7 月	41th CRS
（演題名）抗 NF-κB siRNA/多機能性高分子ナノミセル複合体静脈投与後の関節炎治療		平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会
（演題名）PEG 修飾ならびに表面電荷の異なるリポソームの炎症部位集積性評価		平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会
（演題名）機能性ペプチド修飾高分子ミセル/抗 NF-κB siRNA 複合体静脈投与後の大腸集積性ならびに潰瘍性大腸炎治療効果		平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会
（演題名）多機能性ペプチドによる鼻から脳への薬物移行性の向上		平成 26 年 7 月	第 30 回日本 DDS 学会
（演題名）経鼻投与と細胞透過性ペプチド修飾高分子ミセルによる脳への核酸送達と脳腫瘍治療効果		平成 26 年 11 月	第 20 回創剤フォーラム若手研究会
（演題名）機能性ペプチド修飾高分子ミセルによる抗 NF-κB siRNA 静脈投与後の関節炎治療		平成 26 年 11 月	第 20 回創剤フォーラム若手研究会
（演題名）多機能性ペプチド修飾高分子ミセルによる抗 NF-κB siRNA 静脈投与後の炎症大腸への集積性な		平成 26 年 11 月	第 20 回創剤フォーラム若手研究会

らびに潰瘍性大腸炎治療効果		
（演題名）新規機能性オリゴペプチドによる核酸の細胞内取り込みおよび鼻から脳への移行性の向上	平成 26 年 11 月	第 20 回創剤フォーラム若手研究会
（演題名）機能性ペプチド修飾ナノミセルによるモデル抗原皮下免疫後の免疫活性の向上	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 中央分析センター	職名　助教	氏名　佐久間　千勢子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		なし
２　作成した教科書、教材、参考書		なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 3 月	CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Antiviral Effect of Pyridinium Formate, a Novel Component of Coffee Extracts	共著	平成 22 年	International Journal of Molecular Medicine (Vol.25(3))
（論文）Characterization of Tea Cultivated at Four Different Altitudes Using ^{1}H NMR Analysis Coupled with Multivariate Statistics	共著	平成 23 年 4 月	Journal of Agricultural and Food Chemstry (Vol.59)
（論文）Dopamine Cannot Promote Oligomerization of Unoxidized α-Synuclein	共著	平成 25 年 7 月	Journal of Biophysical Chemistry (Vol.4(3))
（論文）Enzymatic Synthesis of Novel Oligosaccharides from N-Acetylsucrosamine Using β-Fructofuranosidase from Aspergillus oryzaes	共著	平成 25 年 10 月	Carbohydrate Research (Vol.382)
（論文）Analysis of Weak Affinity of b-D-Fructfuranosyl-(2↔1)-2-acetamido-2-deoxy-a-D-glucopyranoside for Yeast b-Fructofuranosidase Using NMR Spectroscopy	共著	平成 26 年 10 月	Journal of Carbohydrate Chemistry (Vol.33)

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
WET 法の新しい応用測定-Broad Band WET 法とその応用について	平成 26 年 11 月	第 53 回 NMR 討論会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

なし	

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬学教育推進センター	職名　助教	氏名　吉田　君成

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成25年度～	**学習相談受付**において 毎週月曜と水曜の16:30～18:00に2110自習室に待機し、主に化学系科目の学習相談を受け付けている。実際には、2110自習室待機時以外も常時受け付けており、また、物理学関連、物理化学関連、分析化学関連、ときに数学や薬剤学関連などの学習相談にも応じた。１名ずつかまたは少人数グループに対してのきめ細やかな指導が可能であり、これらの学生が他の学生にも教授内容を広拡散することも期待される。学習相談に来ている学生に関して言えば下位層の底上げと上位層の更なる成長の助力となった。平成 25 年度の学習相談受付は 508 名（のべ数）であり、特待生を 2 名輩出した。平成 26 年度の学習相談受付数は１月２９日時点で814名（のべ数）である。また、他の学習相談担当教員のスケジュール表や月間予定表を作成し、学生ポータルや掲示で学生に周知した。
	平成26年度～	**入学直後実力チェックテスト**において 化学のテスト問題と解答のチェックを行った。
	平成26年度～	**新入生の情報リテラシー教育と校内におけるパソコン設定**において 土橋朗教授が主導となり、新入生が校内でパソコンを使用したり、学生ポータルや Webclass を使用するための設定を指導した。
	平成26年度～	**基礎物理集中講義**において 化学の授業と物理の補講を担当した。授業では、高校化学の中でも特に大学の化学系科目を学ぶために重要な基礎事項の一つである「分子量とモル濃度」をテーマとして選び、授業を行った。計算問題の解説時に有効数字の考え方についても説明を行った。これらは重要事項であるにもか

		かわらず、基本的すぎて通常は大学で教える機会が無い。解説内容およびパワーポイントによるスライドと練習問題はすべて難易度が低く解りやすいものとした。講義後の物理の補講では、小谷先生が作成した物理の問題プリントを学生が解き、これを採点して返却するという行為を学生が満点を取るまで繰り返した。原則的に学生が自分で調べて解答する、というスタイルで行っていたが、どうしても解らないという学生にはその箇所についての説明を行った。テスト問題に関しては、担当箇所についての問題を作成した。
	平成 25 年度～	**5 年 4P80 のコーディネーター** 第１ターム、第２ターム、第４ターム、第５ターム、第６タームを実施しており、これらの調整を行っている。講義用資料がある場合には前もって受付け、印刷および講義当日の配布の段取りの調整などを行った。講義出席マーク用紙を学生一人ずつに手渡しして回収し、出欠を確実に把握した。チェックテスト、総括試験、追再試験の問題作成を担当教員に PESS にて依頼し、提出された問題を編集し、特に化学系科目についてはチェックも行った。必要なら問題作成者に問い合わせて問題の手直しをお願いするなど、廃問が出ないように努めた。テスト終了後には採点し、データを整理し、問題作成者に結果を周知した。
	平成 26 年度～	**5 年 4P80 問題作成演習** 平成 26 年度より 5 年 4P80 の第５タームに組み込まれた問題作成演習を担当した。基礎系の講義として化学の領域から特に実務との関連が深いテーマを選んで２コマ×２の講義を行った。また、学生が作成した問題でテストを行う際には試験監督を担当した。
	平成 26 年度～	**薬学入門**において 土橋朗教授が行った薬学入門の第４回講義で主担当となり、司会進行役を担当した。その他の回においても副担当を合計二回受け持った。
	平成 26 年度～	**薬学入門演習Ⅰ**において

		早期体験学習のポスター作製演習を担当した。最初に簡単な講義を行い、学生に対してポスターを作成するときの注意点などを伝えた。ポスター作製時には教室内を巡回し、ポスター作製に関する質問を受け付けた。また、大山元特任教授が置いて行ったプリンターを使用することで、学生が作成したポスターをその場で印刷して改善点を指摘し、すぐに作り直させることで作業の効率を上げることができた。また、早期体験学習感想文の査読を委員で分担して行い、問題のある表現などは前もって修正した。
	平成 26 年度～	**科別英語特論**において 薬学教育推進センターの教員全員で担当したが、特に吉田は化学系論文についての２コマを担当した。有機合成系の論文を学生に読ませ、内容について解説した。科学英語に触れると同時に、一般の薬学生が普段触れる機会が無いであろう有機合成化学の研究例について学ぶことを目標とした。
	平成 26 年度～	**薬学教育推進センター6 年生調査研究**において 調査研究指導と研究発表指導を行った。
	平成 25 年度～	**4 年総合演習**において 講義用資料がある場合には前もって受付け、印刷および講義当日の配布の段取りの調整などを行った。チェックテストの試験監督を行った。平成 25 年度は自習時間の監督業務が無かったため講義出席マーク用紙を学生一人ずつに手渡しして回収し、出欠を確実に把握した。自習時間の補助プリント（物理系、化学系の問題プリント）を作成し、参考として配布し、平成 26 年度からは自習時間の監督を務めた。放課後には成績下位の学生を週に２回程度集めて補講を行った。この際に用いる問題のプリント（物理系、化学系）を作成し、回答した順に採点して返却し、満点になるまでこれを繰り返した。平成 25 年度には大山特任教授（当時）とともに、各担当教員が PESS にて作成したチェック試験、総合演習試験、総括試験、追再試験の問題を編集し、特に化学系科目に

		ついてはチェックも行った。必要なら問題作成者に問い合わせて問題の手直しをお願いするなど、廃問が出ないように調整した。ただし、これらの業務は平成 26 年度の時点で三浦（典）先生の担当となっている。平成 25 年度で自分が講義を担当した際には合成反応に関する国家試験過去問をいくつかピックアップして掘り下げた解説を行った。丸暗記を避けて本質を理解することが重要であることを学生に訴えた。
	平成 25 年度	**（選択）専門科目 II** において 薬学部最終学年の夏休み明けの講義（２コマ）ということで、酸塩基の定義、国家試験で出題された合成反応について国家試験レベル以上に掘り下げて解説するなど、比較的実験的な試みを行った。医薬品確認試験についても薬局方に基づいて深く掘り下げて解説した。ただ深いだけではなく、国家試験勉強に活かせるような内容で講義を構成した。化学系基礎学力とその応用について、東京薬科大学卒業生に見合うだけの実力を学生に身につけてもらう事を目標とした。
	平成 25 年度～	**薬学総合演習試験**において 両年とも再試験問題の必須問６～１０を担当した。平成 25 年度では各教員の作成した問題を査読・チェックし、訂正箇所の指摘を行った。特に化学系科目、物理系科目、薬剤学系科目の問題を重点的にチェックした。平成 26 年度では同じ分野の科目担当教員同士で問題を確認し合うため、有機化学系の問題の一部の査読を受け持った。
	平成 25 年度～	**化学系ゼミナール**において 一年次の有機化学の基礎を見直し、二年次からの有機化学の学習がスムーズに行えるようになることを目標として講義を行った。平成 26 年度においては、ミニテスト１～３を実施後解説を行い、持ち帰らせて最終試験の勉強のための資料とした。最終試験の後、解説を行うことで学生の理解・知識の定着に努めた。

	平成26年度～	**医療の最前線**において 1/27 14:30-16:50 のクリッカーを用いた双方向性の授業「医療コミュニケーション演習」と、これに用いたファイル作成を分担した。また、2/3, 10, 17 ではミニ WS にファシリテータとして参加予定（1/30 現在）。
	平成25年度～	**推薦試験合格者入学前教育**において 高校化学の範囲からテスト形式で問題を出題し、合格者から郵送されてきた解答用紙を採点して解答・解説と併せて返却し、学習資料として用いてもらう。採点する際には単に〇×をつけるだけではなく、必要と思われる場合には間違えた箇所の理解を促すためにコメントを記入した。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成25年度～	**学習相談受付** 適宜用いる資料、月間予定表、週間予定表
	平成26年度～	**基礎物理学集中講義** 講義用スライド、配布プリント、掲示用の問題解答解説プリント
	平成26年度～	**薬学入門** 第４回薬学入門ワークシート
	平成26年度～	**科別英語特論** 読解用の有機合成論文写し、解説プリント
	平成25年度～	**４年総合演習** 自習時間用の問題プリント、放課後の補講用問題プリント、自分が担当した講義の資料
	平成25年度	**（選択）専門科目 II** 講義用配布プリント
	平成26年度～	**５年次調査研究コース問題作成演習** 講義用スライド
	平成25年度	**化学系ゼミナール** 配布プリント（ミニテスト 1,2,3)、最終試験
	平成26年度～	**医療の最前線**

	平成25年度～	講義用のクリッカーファイル **推薦試験合格者入学前教育** 問題と解答、および解説文のチェック
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成25年4月6日 平成26年1月12.13日 平成26年2月28日～3月2日 平成26年3月17日 平成26年8月20.21日 平成26年8月29～31日 平成26年12月3日 平成27年2月13～15日	新入教職員ワークショップ（参加者） 平成25年度 第18回 関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（参加者） 第10回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ（ミニレクチャー担当、タスクフォース） 薬学部 ミニFD研修会「SGD教育入門」（参加者） 第4回 東京薬科大学 全学FDワークショップ(参加者） 第11回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ（タスクフォース） FD研修会「英国ケンブリッジ大学の学識、教育および研究」（参加者） 第12回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ（タスクフォース）

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Quinolone Analogs 16: A Facile D-H Exchange for 3-H Proton of 2-Substituted 4-Quinolones in Acidic Media	共著	平成26年	Journal of Heterocyclic Chemistry, 51(6), 1821-1829, (2014)
（論文）Quinolone Analogues 15: Synthesis and Antimalarial Activity of 4-Phenyl-1-(1-triazolylmethyl-4-	共著	平成26年	Journal of Heterocyclic Chemistry, 51(S1), E249-E254, (2014)

quinolon-3-ylcarbonyl) semicarbazide and Related Compound			
（論文） Quinolone Analogs 14: Synthesis of Antimalarial 1-Aryl-3-(4-quinolon-2-yl)ureas and Related Compounds	共著	平成 26 年	Journal of Heterocyclic Chemistry, 51(S1), E241-E248, (2014)
（論文） Quinolone Analogs 13: Synthesis of Novel1,1’-(2-Methylenepropane-1,3-diyl) di(4-quinolone-3-carboxylate) and Related Compounds	共著	平成 26 年	Journal of Heterocyclic Chemistry, 51(6), 1720-1726, (2014)
（論文） Quinolone Analogues 12: Synthesis and Tautomers of 2-Substituted 4-quinolone and Related Compounds	共著	平成 24 年	Journal of Heterocyclic Chemistry, 49(6), 1323-1331, (2012)
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	めじろ台二丁目１地区地区委員		
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	めじろ台二丁目町内会防災隊（書記）		

［注］１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬品化学教室	職名　助教	氏名　薬師寺　文華

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 21 年～ 現在	化学系実習および総合化学演習において、該当資料の説明に加え、復習問題を問いかけることで学生参加型の講義となるよう工夫した。
２　作成した教科書、教材、参考書		なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 3 月	研究倫理に関する CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（総説）温故知新：アミド結合形成の新展開	単著	平成 23 年 6 月	有機合成化学協会、有機合成化学協会誌 69, 715-716.
（論文） Water-soluble Prodrug of Anti-microtubule Agent Plinabulin: Effective Strategy with Click Chemistry	共著	平成 23 年 11 月	Chem. Eur. J. 17, 12587-12590.
（論文） Synthesis and Structure-Activity Relationship Study of Anti-Microtubule Agents Phenylahistin Derivatives with a Didehydropiperazine-2,5-dione Structure	共著	平成 23 年 12 月	J. Med. Chem. 55, 1056-1071.
（論文） Novel Hybrid-Type Antimicrobial Agents Targeting the Switch Region of Bacterial RNA Polymerase	共著	平成 25 年 2 月	ACS, Med. Chem. Lett. 4, 220-224.
（論文） Palladium-catalyzed C3-selective mono-arylation of 4-hydroxycoumarin	共著	平成 26 年 4 月	Tetrahedron Lett. 55, 3316-3318.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
なし		

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 25 年 5 月～現在	ハーバード大学・the Broad Institute of Harvard and MIT へ留学
平成 25 年 6 月～現在	文部科学省　科学技術・学術政策研究所　科学技術動向研究センター　専門調査委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
東京薬科大学	薬品化学教室	職名　助教	氏名　　高山　健太郎

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 24 年 4 月 ～現在	教科書を踏まえた内容に加えて、実学的な要素を盛り込み、講義内で学生自身が考えて学習できるような内容としている。この応用問題を試験に出題し身に付いているか評価している。	
２　作成した教科書、教材、参考書		なし	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 12 月～現在	CITI Japan e-learning プログラム受講	

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）Development of an oligoarginine peptide displaying rapid cell penetration for improved intestinal absorption.	単著	平成 26 年 1 月	YAKUGAKU ZASSHI 134, 55-61.
（著書）ペプチドとくすり、ペプチド医薬の最前線（向井秀仁、木曽良明編）	共著	平成 24 年 11 月	シーエムシー出版
（論文）Discovery of selective hexapeptide agonists to human neuromedin U receptors types 1 and 2.	共著	平成 26 年 7 月	J. Med. Chem. (57,6583-6593)
（論文）Discovery of natural products possessing selective eukaryotic readthrough activity: 3-epi-deoxy- negamycin and its leucine adduct.	共著	平成 26 年 7 月	ChemMedChem (9,2233-2237)
（論文）Development of A New Benzophenone-Diketopiperazine-Type Potent Anti-Microtubule Agent Possessing a 2-Pyridine Structure.	共著	平成 26 年 7 月	ACS Med. Chem. Lett.(5, 1094-1098)
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Discovery of selective hexapeptide		平成 26 年 9 月	The Conference on Bioactive

agonists to human neuromedin U receptor type 2.		Peptides for Cell-Cell Communication 2014 - The 30th Anniversary of ANP (Atrial Natriuretic Peptide) Discovery - (Kyoto, Japan)
（演題名） Identification of Small Myostatin Inhibitory Peptides.	平成 26 年 9 月	33rd European Peptide Symposium (Sofia, Bulgaria)
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬品化学教室	職名　助教	氏名　田口　晃弘

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 25 年 4 月 ～現在	卒論指導（4～6 年）
	平成 25 年 4 月 ～現在	アドバンス英語（5 年）
	平成 25 年 4 月 ～現在	科別演習特論（4 年）
	平成 25 年 5 月	化学系実習Ⅱ（有機化学実習：2 年）
	平成 25 年 10 月	化学系実習Ⅰ（基礎有機化学実習：１年）
	平成 26 年 5、6 月	化学系実習Ⅱ（有機化学実習：2 年）
	平成 26 年 5 月	化学系実習Ⅲ（医薬品合成実習：3 年）
2　作成した教科書、教材、参考書		実習講義の際、実習書の補足資料としてパワーポイントファイルを使用した
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 4 月	平成 25 年度東京薬科大学新入教員のためのミニ教育ワークショップ受講
	平成 26 年 3 月	CITI Japan e-learning プログラム受講
	平成 26 年 7 月 20、21 日	平成 26 年度第 5 回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称

（論文）Total Synthesis of (+)-Negamycin and Its 5-epi-derivative	共著	平成22年1月	Tetrahedron, 66, 314-320
（論文）Negamycin Analogue with Readthrough-Promoting Activity as a Potential Drug Candidate for Duchenne Muscular Dystrophy	共著	平成24年1月	ACS Medicinal Chemistry Letters, 3, 118-122
（論文）Discovery of natural products possessing selective eukaryotic readthrough activity: 3-epi-deoxynegamycin and its leucine adduct.	共著	平成26年7月	ChemMedChem, 9, 2233-2237
（著書）リードスルー機能に着目した遺伝性疾患治療薬の創製研究	共著	平成26年10月	日本薬学会、ファルマシア (Vol.50 No.10 2014)
（論文）3-Nitro-2-pyridinesulfenyl-mediated Solid-phase Disulfide Ligation in the Synthesis of Disulfide Bond-containing Cyclic Peptides	共著	平成27年1月	Organic & Biomolecular Chemistry, accepted
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
STRUCTURE ACTIVITY RELATIONSHIP STUDY OF (+)-NEGAMYCIN FOR READTHROUGH ACTIVITY AT DUCHENNE MUSCULAR DYSTROPHY		平成26年8、9月	33rd European Peptide Symposium
EFFICIENT METHOD OF SYNTHESIZING DISULFIDE PEPTIDES USING 3-NITRO-2-PYRIDINESULFENYL (NPYS) RESIN		平成26年10月	第51回ペプチド討論会
リードスルー作用を有するネガマイシン誘導体のC末端部位における構造活性相関研究		平成26年11月	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 生化学教室	職名　助教	氏名　秋元　賀子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
生化学実習(3 年生)	平成 9 年～現在	生化学Ⅰ、ⅡおよびⅢで学んだことを踏まえ、酵素活性、核酸の構造、薬の効き方を解析する生化学的な実験技術を修得するための実習を行った。
薬剤師の職能と自己将来展望(4 年生)	平成21年～現在	自分が希望する将来の進路を考える機会を与え、実際の進路活動において想定される適性検査、自己 PR 作成、面接などを模擬体験し、現時点における希望進路への準備到達度を確認した。学生は各自ポートフォーリオを作成した。
生物系ゼミナール(2 年生)	平成25年～現在	4～5 人のグループで 1 テーマを調査・討議をし、資料の作成および発表を行った。また、化粧品関連検定に向けて取り組んだ。
アドバンス英語	平成21年～現在	教室員で担当者を決め、週 1 回英語論文について発表し、知見を深めた。
卒論指導	平成 9 年～現在	学生が積極的に研究を行える環境を整え、学会で発表をする機会をつくった。その結果、学生は一層自分の研究内容に興味を持ち、今後の研究に向けて意欲を高めた。
2　作成した教科書、教材、参考書		生物系ゼミナールにおいて、講義資料としてパワーポイントファイルを作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成23年9月	関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ
	平成25年8月	平成 25 年度サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）
	平成26年3月	東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ
	平成26年3月	CITI Japan e-learning プログラム受講
	平成26年8月	東京薬科大学全学 FD ワークショップ
	平成27年3月	CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Augmentation of gene expression and production of promatrix metalloproteinase 2 by Propionibacterium acnes-derived factors in hamster sebocytes and dermal fibroblasts: A possible mechanism for acne scarring.	共著	平成 23 年 2 月	Biol. Pharm. Bull. 34(2), 295-299 (2011)
（論文） Adiponectin resides in mouse skin and upregulates hyaluronan synthesis in dermal fibroblasts.	共著	平成 23 年 8 月	Connective Tissue Res. 52 (4), 322-328 (2011)
（論文） Identification and characterization of ABCB1-mediated and non-apoptotic sebum secretion in differentiated hamster sebocytes.	共著	平成 23 年 12 月	Biochim. Biophys. Acta 1811(12), 1090-1096 (2011)
（論文） Differentiated hamster sebocytes exhibit apoptosis-resistant phenotype by the augmentation of intracellular calcium level in vitro.	共著	平成 25 年 1 月	Exp Dermatol. 22 (1), 57-59 (2013)
（論文） Adapalene suppresses sebum accumulation via the inhibition of triacylglycerol biosynthesis and perilipin expression in differentiated hamster sebocytes in vitro.	共著	平成 25 年 6 月	J. Dermatol. Sci. 70(3), 204-210 (2013)
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ヒト脂腺細胞の培養法の開発とその細胞特性の解析		平成 26 年 5 月	第 113 回日本皮膚科学会総会
（演題名）新規に開発した照射装置を用いた近赤外線の皮膚に対する影響の基礎検討		平成 26 年 6 月	第 39 回日本香粧品学会
（演題名）ハムスター脂腺細胞における黄岑由来フラボノイド，baicalin による皮脂産生抑制作用		平成 26 年 6 月	第 39 回日本香粧品学会
（演題名）ヒト子宮頚部ガン細胞 SKG-Ⅱにおける微小胞を介したガン転移促進因子 EMMPRIN 分泌のホルモン調節		平成 26 年 6 月	第 72 回西東京内分泌代謝研究会
（演題名）新規に開発した照射装置を用いた近赤外線の皮膚に対する影響の基礎検討		平成 26 年 7 月	第 32 回日本美容皮膚科学会

（演題名） The Effect of Near-infrared Radiation on the Skin, using Newly Developed Apparatus	平成 26 年 9 月	3rd Eastern Asia Dermatology Congress
（演題名）Inflammatory Actions of Near-infrared Radiation by Increasing MMP-1 and IL-8 Production in Human Dermal Fibroblasts	平成 26 年 12 月	日本研究皮膚科学会第 39 回年次学術大会・総会
（演題名）抗悪性腫瘍薬ゲフィチニブによるざ瘡様皮疹の発症機構	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）ハムスター脂腺細胞の皮脂産生・蓄積に対しリゾホスファチジン酸および環状ホスファチジン酸は異なる作用を示す	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
該当なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 免疫学教室	職名　助教	氏名　石橋　健一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （屋根瓦式講義）	平成 25 年 4 月 ～現在	グループ討議を通して，自分達で考え解答までの過程を考えること．発表することで理解を深める参加型講義行った．屋根瓦式講義によってスムーズにグループ学習への導入ができた．
（学生による授業アンケート評価）	平成 23 年 10 月～現在	授業終了後に，選択式，自習記述式の授業評価アンケートを行い，講義の改善に利用している．
（Webclass の活用）	平成 20 年 4 月 ～現在	講義の予習，復習を効率的に行うために，Web に講義資料をアップしている．
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 22 年８月	免疫学概説（第３版）宿前利郎，大野尚仁編，大野尚仁，安達禎之，三浦典子，石橋健一著，廣川書店
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 20 年 7 月 平成 21 年 5 月 平成 24 年 9 月 平成 26 年 3 月	第 6 回かながわ実務実習指導薬剤師養成 WS 修了 第 2 回東京薬科大学病院・薬局薬剤師研修会修了 第 7 回長期実務実習のための学内 WS 修了 CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Diagnostic potential of antibody titers against Candida cell wall β-glucan in Kawasaki disease.	共著	平成 26 年 7 月	Clin Exp Immunol., 177(1):161-7.
（著書）目で見る真菌と真菌症 亀井克彦編	共著	平成 26 年 6 月	医薬ジャーナル社
（論文）Analysis of the titer and reactivity of antibody/ies against fungal cell wall β-glucans in human sera.	共著	平成 25 年 4 月	Int. J. Med. Mushrooms. 15, 115-26
（総説）カンジタと免疫・アレルギー	共著	平成 24 年 7 月	アレルギーの臨床 431, 22-7
（論文）Characterization of blood beta-1,3-glucan and anti-beta-glucan antibody in	共著	平成 23 年 4 月	Int. J. Med. Mushrooms. 13, 101-7

hemodialysis patients using culinary-medicinal Royal Sun Agaricus, Agaricus brasiliensis S. Wasser et al. (Agaricomycetideae).			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）外因性β-glucan の *Aspergillus fumigates* 抗真菌薬感受性への影響		平成 26 年 5 月	第 35 回関東医真菌懇話会
（演題名）全身性血管炎患者における抗β-グルカン抗体価と反応性		平成 26 年 6 月	第 91 回東京医科大学，東京薬科大学免疫アレルギー研究会
（演題名）β-glucan 添加培養による *Aspergillus fumigatus* 菌体の構造変化と生物活性の特徴		平成 26 年 9 月	第 26 回微生物シンポジウム
（演題名）真菌細胞壁β-glucan 刺激好中球による NETs 形成の検討		平成 26 年 11 月	第 58 回日本医真菌学会総会・学術集会
（演題名）抗β-glucan 抗体のβ-glucan 刺激マクロファージの活性酸素産生に与える影響		平成 27 年 2 月	真菌症フォーラム第 16 回学術集会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 21 年 12 月～現在	日本医真菌学会　用語委員会　委員		
平成 26 年 8 月～現在	日本医真菌学会　代議員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 免疫学教室	職名　助教	氏名　山中　大輔

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		なし
2　作成した教科書、教材、参考書		なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 4 月 4 日、5 日	平成 26 年度 東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ受講
	平成 26 年 8 月	CITI Japan e-learning プログラム受講
	平成 26 年 11 月 29 日-30 日	平成 26 年度 第 15 回関東地区調整機構認定実務実習薬剤師養成ワークショップ受講

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
機能性食品素材のためのヒト評価	共著	平成 25 年 4 月	シーエムシー出版
The effect of enzymatically polymerised polyphenols on CD4 binding and cytokine production in murine splenocytes	共著	平成 24 年 4 月	PLoS ONE, 7:e36025.
Agaricus brasiliensis-derived β-glucans exert immunoenhancing effects via a dectin-1-dependent pathway	共著	同　　年 11 月	International Immunopharmacology, 14:311-19.
Modulation of interferon-γ synthesis by the effects of lignin-like enzymatically polymerized polyphenols on antigen-presenting cell activation and the subsequent cell-to-cell interactions	共著	平成 25 年 12 月	Food Chemistry, 141:4073-80.
Effect of polymeric caffeic acid on antitumour activity and natural killer cell activity in mice	共著	平成 26 年 1 月	Journal of Functional Foods, 6:513-22.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
マウス白血球におけるリグニンポリマー認識ならびに自然免疫応答	平成 26 年 7 月	第 25 回日本生体防御学会学術総会
マウス白血球のリグニンポリマーに対する応答性の系統間格差	平成 26 年 10 月	日本食品免疫学会　設立 10 周年記念大会
薬用茸アガリクスによるヒト血中抗β-グルカン抗体価の上昇とカンジダ菌貪食における抗体の影響	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
なし	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 衛生化学教室	職名　助教	氏名　藤野　智史

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月 ～現在	衛生化学・公衆衛生学実習（4年前期）:出席状況、実習態度、レポート、及び実習試験にて評価。
	平成21年4月 ～現在	4年生対象科別英語（4年前期）: 取り組む態度、難解な口語英語（実用英会話の根幹をなす）を平易かつ適切な日本語に咀嚼解説する技能および出席状況を評価。
	平成21年4月 ～現在	アドバンス英語（5年前期）: TOEICの受験対策を行い、受験させ、その間の取り組む態度および出席状況で評価。
	平成21年4月 ～現在	科別演習「職能」（4 年前期）: キャリアデザインのため、基礎知識を講義し、各種業界の実情を現役業界人講師による講演・討論を通じて学ばせる。仕上げとして就職試験模擬面接を実施。出席状況、受講態度、討論および面接における技能を評価。
	平成22年9月 ～現在	健康・環境ゼミナール（3年後期）: 健康・環境に関する諸問題について数人ずつのグループに分かれ討論し、最終日にプレゼンを行う。討論に取り組む姿勢、プレゼン内容、出席状況を評価。
	平成23年4月 ～現在	調査研究コース対象4P80（5・6年次）: 国家試験対策の一環として過去問を中心に問題演習を行い、関連内容を講義する。受講態度および出席状況で評価。
	平成25年4月 ～現在	卒論指導（4年前期～6年前期）: 取り組む態度、教員や他の学生とのディスカッションの技能、出席状況、態度、および発表会における内容で評価。
2　作成した教科書、教材、参考書		衛生化学・公衆衛生学実習:健康・環境実習　実験書

		4 年生対象科別英語（4 年前期）: ONE PIECE 英語版 科別演習「職能」: 演習全体の概略をしるした Power point 資料、外部講師講演 Power point 資料 調査研究コース対象 4P80 : 講義 Power point 資料	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 2 月 平成 26 年 8 月	CITI Japan e-learning プログラム受講 2014（平成 26）年度 全学 FD ワークショップ（平成 26 年 8 月 20 日（水）・21 日（木）、本学）に参加。	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Hypoxia downregulates farnesoid X receptor via a hypoxia-inducible factor-independent but p38 mitogen-activated protein kinase-dependent pathway.	共著	平成 21 年 5 月	FEBS J. 276(5):1319-32.
（論文） Proline-rich domain plays a crucial role in extracellular stimuli-responsive translocation of a Cdc42 guanine nucleotide exchange factor, FGD1.	共著	平成 22 年 1 月	Biol Pharm Bull. 233(1):35-9.
（論文） Role of FGD1, a Cdc42 guanine nucleotide exchange factor, in epidermal growth factor-stimulated c-Jun NH2-terminal kinase activation and cell migration.	共著	平成 23 年 1 月	Biol Pharm Bull. 34(1):54-60.
（論文） Critical role of farnesoid X receptor for hepatocellular carcinoma cell proliferation.	共著	平成 24 年 12 月	J Biochem. 152(6):577-86.
（論文）New cardenolide glycosides from the seeds of Digitalis	共著	平成 25 年 6 月	Biosci Biotechnol Biochem. 77(6):1186-92.

purpurea and their cytotoxic activity.			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Carcinoma-specific inhibition of cell proliferation by down-regulating farnesoid x receptor expression		平成 26 年 12 月	2014 ASCB/IFCB meeting
Thevetia neriifolia 種子のカルデノリド配糖体と腫瘍細胞毒性		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物送達学教室	職名　助教	氏名　多田 塁

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 24 年 9 月 ～現在	担当のゼミ・実習等では、授業の終わりに全員に対し口頭試問をしている。その際、質問を繰り返すことにより、内容を理解しているか或いは理解できるように誘導するようにしている。終了後も全員が帰宅するまでその場に居ることによって質問をし易い環境を作ることにしている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 24 年 9 月 ～現在	1)、担当している物理薬剤実習では、基礎知識の講義に動画を織り交ぜたパワーポイントファイルを作成して用いている。 2)、4 年次の CBT 前に行っている講義では、詳細な解説を記したパワーポイントファイルおよび演習問題を作成して用いている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 24 年 5 月 ～現在	薬学部 FD ワークショップに積極的に参加し、教育についての見識を高めている。平成 25 年 8 月には「大学改革の駆動力としての FD」、平成 26 年 3 月には「学生が期待する良い授業とは」、平成 26 年 8 月には「ポートフォリオ評価」、平成 26 年 12 月には「Scholarship, teaching and research: the heart of Cambridge University と題したケンブリッジ大学の教育の現状の勉強会」等に参加した。また、研究倫理に関する e-learning プログラムを平成 25 年 12 月および平成 26 年 8 月に受講し、修了している。さらに、認定薬剤師育成ワークショップに参加し、認定薬剤師の資格を得た。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論　文）　Barley-derived beta-D-glucan induces immunostimulation via a dectin-1-mediated pathway	共著	平成 21 年 4 月	Immunol Lett, vol. 123, 144-148

（論文） Induction of IFN-gamma by a highly branched 1,3-beta-D-glucan from *Aureobasidium pullulans* in mouse-derived splenocytes	共著	平成 23 年 1 月	Biochem Biophys Res Commun. Vol. 404, 1105-1110
（論文） Undressing the fungal cell wall/cell membrane – the antifungal drug targets	共著	平成 25 年 1 月	Curr Pharm Des, vol. 19, 3738-3747
（論文） Pathway of Glycine Betaine Biosynthesis in *Aspergillus fumigatus*	共著	平成 25 年 6 月	Eukaryot Cell, vol. 12, 853-863
（論文） Maleylated-BSA suppresses lipopolysaccharide-induced IL-6 production by activating the ERK-signaling pathway in murine RAW264.7 macrophage	共著	平成 26 年 1 月	International Immunopharmacology, vol. 19, 5-9.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）感染症克服に向けた経鼻投与型リポソームワクチンの開発		平成 26 年 6 月	第 91 回 東京医科大学・東京薬科大学・免疫アレルギー研究会
（演題名）CpG ODN 搭載カチオニックリポソームによる粘膜アジュバント作用		平成 26 年 6 月	第 30 回 日本 DDS 学会学術集会
（演題名）正電荷リポソームの経鼻投与による粘膜アジュバント活性		平成 26 年 6 月	第 30 回 日本 DDS 学会学術集会
（演題名）経鼻投与型リポソームワクチン開発へ向けた基盤構築		平成 26 年 10 月	第 58 回 日本薬学会関東支部大会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物送達学教室	職名　助教	氏名　髙橋　葉子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年～現在 平成25年～現在	創薬学実習（3年後期） 実習操作を通じて、物理薬剤学で学んだ講義内容を再確認させ、レポートの演習問題や口頭試問により、学生の理解の定着を図っている。 創薬ゼミナール（3年前期） 受講生をグループ分けし、SGD形式でプロダクトの作成および発表を行うことで、情報収集およびコミュニケーション能力の向上を図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		講義で使用しているパワーポイントファイル 創薬学実習実験書（薬剤学実習　物理薬剤学）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成21年1月 平成21年～現在 平成21年～25年 平成22年5月 平成23年5月 平成23年8月 平成24年5月 平成25年8月 平成25年11月 平成26年3月 平成26年12月 平成26年2月 平成26年12月	第8回かながわ実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加 本学OSCEに評価者として参加 本学CBT（トライアル・本試験）試験監督 （平成25年度　CBT実施委員会委員） 1年生早期体験実習で実習施設へ引率 1年生早期体験実習で実習施設へ引率 第5回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップに参加 1年生早期体験実習で実習施設へ引率 下記の各講演会を受講 本学FD講演会「大学改革の駆動力としてのFD」 本学ミニFD研修会「Outcome Based Educationならびにパフォーマンス評価について」 本学FD講演会「学生が期待する良い授業とは」 本学FDセミナー「Scholarship, teaching and research: the heart of Cambridge University」 CITI Japan e-learningプログラム 基本コース受講 CITI Japan e-learningプログラム 平成25年度受講完了者コース受講

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書)バブルリポソームによる超音波核酸デリバリーシステム	共著	平成 24 年 3 月	シーエムシー出版､ドラッグデリバリーシステムの新展開Ⅱ,54-61
（論文）Efficient siRNA delivery using novel siRNA-loaded Bubble liposomes and ultrasound	共著	平成 24 年 1 月	Int.J.Pharm.,vol.422,504-509
（論文）Systemic delivery systems of angiogenic gene by novel bubble liposomes containing cationic lipid and ultrasound exposure	共著	平成 24 年 6 月	Mol.Pharm.,vol.9 1834-1840
（論文）pDNA-loaded Bubble liposomes as potential ultrasound imaging and gene delivery agents	共著	平成 25 年 4 月	Biomaterials,vol.34,2807-2813
（論文）Systemic delivery of miR-126 by miRNA-loaded Bubble liposomes for the treatment of hindlimb ischemia	共著	平成 26 年 1 月	Sci.Rep.,vol.4,3883
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
脳標的指向性ペプチド修飾バブルリポソームの調製と基礎的検討		平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 年会
脳標的指向性ペプチド修飾バブルリポソームの調製と組織内分布評価		平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

[注]　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 内分泌・神経薬理学教室	職名　助教	氏名　吉江　幹浩

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成25年4月 ～現在	薬学入門演習Ⅰ（1年次前期必修）： 1年生のアドバイジーに対して、学内共通の演習プログラムに加えて、大学生活大学で薬学を学ぶ意義や学習方法についてもSGDを行い、アドバイスしている。
	平成21年4月 ～現在	生理活性物質概論（2年次前期必修）： 薬理学概論を担当している。講義内容をSBOにて提示し、理解度を高めるため、講義補助資料を活用し、また、講義後に復習できるように教科書の内容に沿って講義を進めている。講義資料は、事前にWeb公開（WebClass）し、予習できるようにしている。
	平成22年9月	薬の効き方Ⅰ（2年次後期必修）： 内分泌系関連薬の講義を担当した。講義資料は、事前にWeb公開し、効率的に予習・復習ができるようにしている。
	平成22年～ 現在	薬・疾病ゼミナール（2年次後期必修）： 本ゼミナールでは、2年前期の「生理活性物質概論」で学んだ薬理学の基礎を再度時間を掛けて講義して復習するとともに、薬理学に関連した課題を設定し、SGD形式を取り入れながら、2年後期で学ぶ「薬の効き方」の予習を行っている。調査内容を資料にまとめ、発表することで自ら学ぶ力とプレゼンテーション能力を身につけるように工夫している。
	平成21年4月 以前～現在	薬理学実習（4年次前期必修）： 実習を通して実験動物を適切に使用する心構えと正確なデータ取得のための技能を身につけ、臓器・個体レベルで薬物の効果が発揮されるのかを理解できるように、実習結果とその考察、さらに関連薬物やその作用機序についてレポートにまとめている。試験に加え、実習内容の理解度を向上するため、実習中に口頭試問を行っている。
	平成21年4月 以前～現在	科別英語特論（4年次前期必修）： 薬理学・内分泌学に関連した英文雑誌（論文）を

		読み、その内容を理解するための力を養うため、学生・教員で論文内容の発表・討論を実施した。
	平成21年4月以前～現在	医療衛生薬学演習I（4年次前期必修）： 「慢性・難治性疾患の薬物療法」（H21年まで）と「臨床応用薬学への課題研究チュートリアル」を担当した。慢性・難治性疾患の調査課題を行い、資料の作成と発表を行った。また、薬理学シミュレーターを用いてパソコン上で薬物の作用の理解し、本ソフトの未知薬物の同定を行った。
	平成24年5月～現在	課題研究4P80（5年次前期必修）： 薬剤師国家試験に出題される内分泌関連薬物と抗悪性腫瘍薬薬物の薬理作用について解説し、そのポイントを資料にまとめて講義した。
	平成21年4月以前～現在	アドバンス英語（5年次通年必修）： 薬理学・内分泌学に関連した国際科学雑誌（論文）を読み、その内容を十分に理解した上で、資料を作成し、発表・討議を行った。
	平成21年4月以前～現在	医療衛生薬学演習II-i、II-iiラボラトリー演習（5、6年次通年必修）： 課題研究の結果（進捗状況）とそれに関連した文献調査を資料にまとめて発表・討論した。また、薬理学会関東部会や西東京内分泌代謝研究会に参加し、その成果を発表した。
	平成25年10月～現在	アドバンス演習（6年次後期必修） 性ホルモン代用薬及び拮抗薬、生殖器系に作用する薬、炎症・アレルギーと薬（抗炎症薬、アレルギーの治療薬、免疫系に作用する薬物、関節リウマチ）に重点を絞り、そのポイントを総復習するための講義を演習問題の解説を含めて行った。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成22年3月	最新　薬の効き方　愛智出版（共著） 薬理学実習テキスト 講義で使用しているパワーポイントファイル
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成22年10月～現在	学内FD委員会主催の講演会に毎回出席している。
	平成24年9月	第7回 東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ（学内認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ）に参加した。
	平成26年3月～現在	研究倫理に関するe-learning

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Stathmin, a microtubule regulatory protein is associated with hypoxia-inducible factor-1・ levels in human endometrial and endothelial cells.	共著	平成 21 年 5 月	Endocrinology, 150(5):2413-2418
（論文）Possible role of the exchange protein directly activated by cyclic AMP (Epac) in the cyclic AMP-dependent functional differentiation and syncytialization of human placental BeWo cells.	共著	平成 22 年 9 月	Human Reproduction, 25(9):2229-2238
（論文）Regulation of decidualization in human endometrial stromal cells through exchange protein directly activated by cyclic AMP (Epac).	共著	平成 25 年 3 月	Placenta, 34(3):212-221
（著書）産婦人科の実際, 胎盤 -生理から病態へ- 絨毛細胞の分化機序	共著	平成 25 年 8 月	金原出版 62(8):1033-1039
（論文） The role of exchange protein directly activated by cyclic AMP 2-mediated calreticulin expression in the decidualization of human endometrial stromal cells.	共著	平成 26 年 1 月	Endocrinology, 155(1):240-248
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ヒト子宮内膜間質細胞の機能に及ぼすα_1-アンチトリプシン発現抑制の効果		平成 26 年 6 月	第 72 回 西東京内分泌代謝研究会
（演題名）ラット妊娠子宮の脱落膜化における Epac シグナル関連因子の役割		平成 26 年 6 月	第 72 回 西東京内分泌代謝研究会
（演題名）Inhibitory action of alpha1-antitrypsin on proinflammatory mediators expression in human endometrial stromal cells		平成 26 年 6 月	The 16th International Congress of Endocrinology & The Endocrine Society’s 96th Annual Meeting & Expo (ICE/ENDO2014)
（演題名）Involvement of cAMP signaling mediators, Epac1, Epac2 and Rap1 in decidualization of rat uterus		平成 26 年 6 月	The 16th International Congress of Endocrinology & The Endocrine Society’s 96th Annual Meeting & Expo

		(ICE/ENDO2014)
（演題名）副腎皮質細胞のコルチゾル産生に対するリンゴ葉成分の影響	平成 26 年 7 月	第 130 回 日本薬理学会関東部会
（演題名）副腎細胞からのホルモン分泌に対するリンゴ葉成分の影響	平成 26 年 8 月	生体機能と創薬シンポジウム 2014
（演題名）栄養膜細胞のホルモン産生における cAMP と Ca^{2+}の関係	平成 26 年 10 月	第 22 回日本胎盤学会学術集会
（演題名）敗血症モデルにおける脂肪組織内マクロファージ動向とピオグリタゾン投与の影響	平成 26 年 10 月	第 131 回日本薬理学会関東部会
（演題名）子宮内膜間質細胞の脱落膜化と腺の成熟における cAMP シグナル仲介因子 EPAC の役割	平成 26 年 12 月	第 59 回日本生殖医学会学術講演会・総会
（演題名）副腎髄質細胞からのカテコールアミン分泌に対するリンゴ葉成分ネロリドールの影響	平成 26 年 12 月	第 73 回西東京内分泌代謝研究会
（演題名）ラット妊娠初期子宮における Calreticulin の発現と脱落膜化との関係	平成 27 年 1 月	第 19 回 日本生殖内分泌学会
（演題名）ヒト胎盤栄養膜細胞の分化における細胞内 Ca^{2+}イオンの役割	平成 27 年 3 月	第 88 回 日本薬理学会年会
（演題名）ウシ副腎皮質細胞のコルチゾル産生に対するリンゴ葉成分フロレチンの作用	平成 27 年 3 月	第 88 回 日本薬理学会年会
（演題名）ラットの着床周辺期子宮におけるカルレチキュリンの発現と脱落膜化における役割	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
（演題名）ヒト子宮内膜間質細胞における EPAC シグナルによる C/EBPβを介したプロラクチンの発現上昇	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 21 年 4 月～現在	日本薬理学会・学術評議員
平成 26 年 4 月～現在	日本胎盤学会・評議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 公衆衛生学教室	職名　助教	氏名　三木　雄一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 21 年 4 月 ～現在	卒論教室生 4 年次必修科目科別英語特論において、学生個人によるプレゼンテーションと質疑応答を伴う SGD により、参加型学習で学習効果の向上を試みた。
	平成 21 年 4 月 ～現在	卒論教室生 5, 6 年次必修科目医療衛生薬学演習 II-i 及び ii においては、学生本人により題材を決め、プレゼンテーション行い、さらに質疑応答を伴う SGD により、参加型学習で学習効果の向上を試みた。
	平成 26 年 7 月	医療衛生薬学科 4 年次必修科目「薬剤師の職能と自己将来展望」において、日経 HR と連携し、実際の就職活動と同じ状況で模擬就活体験を行った(エントリーシートの作成、web での SPI 受験等)。
(学生による授業評価)	平成 26 年 6 月	衛生･環境衛生実習において、実習後の学生アンケートを実施した。授業評価は好評であった(4 点中 3.3 前後)。また、授業改善につながるコメントが得られた。
	平成 26 年 7 月	4年次必修科目 「環境と健康I」において、全講義終了後の学生アンケートを実施した。授業評価は平均3.3前後(5点中)。また、授業改善につながるコメントが得られた。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 12 月～現在	衛生･環境衛生実習で使用する実習書を実習担当教員と作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし

４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む） (他学との交流)	平成26年8月	本学、東京理科大学、東邦大学の各薬学部所属研究室と研究会(第一回東京環境健康薬学研究会)を立ち上げ、学生に発表、質疑応答、懇親会を通して、見聞と切磋琢磨できる環境を提供した。
(実務実習)	平成24年1月	本学で開催された一般社団法人薬学教育協議会認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加した。
	平成 21 年 10 月	本学で開催された第一回 学内認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加した
	平成 26 年 3 月	本学で開催された第十回 学内認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加した
	平成 21 年 4 月～現在	本学コーディネーターとして、日本メディカルシステム株式会社及び株式会社アイセイ薬局を担当し、実習前中後に指導薬剤師及び学生と相談や指導等を行っている。
(OSCE)	平成 21 年から毎 10 月	本学で開催された「OSCE評価者講習会」に参加した。
	平成 21 年から毎 12 月	本学で実施された「OSCE」に評価者として参加した。
(FD活動)	平成26年3月	本学開催のFD 講演会に出席し、FDに関する諸問題についての見識を深めた。
	平成 26 年 3 月	CITI Japan e-learningプログラムを受講した。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）　Shuttling Protein Nucleolin Is a Microglia Receptor for Amyloid Beta Peptide 1-42	共著	平成 25 年 10 月	Biol. Pharm. Bull., vol. 36:1587-1593
（論文）Macrophage recognition of toxic advanced glycosylation end	共著	平成 26 年 4 月	Biol. Pharm. Bull., vol. 37:588-596

products through the macrophage surface-receptor nucleolin			
（論文） Concomitant treatment with temozolomide enhances apoptotic cell death in glioma cells induced by photodynamic therapy with talaporfin sodium	共著	平成 26 年 12 月	Photodiagnosis Photodyn Ther, vol. 11:556-564
（論文） Effect of talaporfin sodium-mediated photodynamic therapy on cell death modalities in human glioblastoma T98G cells	共著	平成 26 年 12 月	J Toxicol Sci, vol. 39:821-827
（論文）Nucleolin is a receptor for maleylated-bovine serum albumin on macrophages	共著	平成 27 年 1 月	Biol. Pharm. Bull., vol. 38:116-121
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）タラポルフィンナトリウムを用いた光線力学療法により脳腫瘍細胞に誘導される細胞死形態の検討		平成 26 年 9 月	フォーラム 1014 衛生薬学･環境トキシコロジー
（演題名）タラポルフィンナトリウムを用いた光線力学療法における適切なレーザー照射条件の検討		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 回年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成 15 年 4 月～平成 21 年 3 月	日本中央競馬会 禁止薬物再検査制度立会人
平成 21 年 4 月～平成 26 年 3 月	地方競馬全国協会 禁止薬物再検査制度立会人
平成 26 年 7 月～現在	Fundamental Toxicological Sciences: Editorial Board

[注] １ 各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２ 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３ 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４ 「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 漢方資源応用学教室	職名　助教	氏名　松尾　侑希子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月以前～現在	漢方薬物学実習では毎回の実習終了時に口頭試問を行い，知識と疑問点を確認する．4～6年次課題研究では個人の能力に応じた指導で研究力と発表力を養う．
	平成22年4月～現在	4年次科別英語特論では化学英語のリスニングにより専門性の高い英語に触れる機会を作った．5年次アドバンス英語ではTOEIC対策の講義を行った．
	平成26年11月	2年次後期化学系ゼミナールではCBT・国家試験対応スペクトル解析演習を行い，多くの問題演習を通して基礎から応用まで復習した．最終回でアンケートを実施した．
2　作成した教科書、教材、参考書	平成26年11月	2年次後期化学系ゼミナールで使用したパワーポイントファイル
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成21年5月	第9回東京ブロック指導薬剤師養成ワークショップ受講
	平成21年～現在	CBT実施委員会
	平成23年1月	第4回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ受講
	平成23年8月	入試広報体験実習実施W.G.
	平成24年5月	1年生早期体験実習で実習施設へ引率した．
	平成24年7月～現在	生薬関係資料整備委員会
	平成25年5月	薬学入門演習Ⅰ早期体験演習のポスター作成演習を指導した．
	平成26年3月	CITI Japan e-learningプログラム 受講

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
α-Santalol derivatives from *Santalum album* and their cytotoxic activities.	共著	平成 24 年 3 月	Phytochemistry, **77**, 304-311 (2012)
Steroidal glycosides from the bulbs of *Fritillaria meleagris* and their cytotoxic activities.	共著	平成 25 年 3 月	Steroids, **78**, 670-682 (2013)
Steroidal glycosides from the bulbs of *Bessera elegans* and their cytotoxic activities.	共著	平成 25 年 10 月	Phytochemistry, **96**, 244-256 (2013)
A rare type of sesquiterpene and β-santalol derivatives from *Santalum album* and their cytotoxic activities.	共著	平成 26 年 9 月	Chem. Pharm. Bull., **62**, 1192-1199 (2014).
Two new homoisoflavonoids from the bulbs of *Besssera elegans*	共著	平成 26 年 10 月	Nat Prod Commun, **9**, 1725-1727 (2014).
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
・白芷の化学成分に関する研究(1) ・*Convallaria majalis* の化学成分と細胞毒性について ・*Vetiveria zizanioides* の化学成分に関する研究(2) ・ユリ科植物の化学成分 (81)*Ornithogalum saundersiae* 鱗茎の化学成分と腫瘍細胞毒性		平成 26 年 9 月	第 61 回日本生薬学会
Vetiveria zizanioides 根の化学成分と腫瘍細胞毒性		平成 26 年 9 月	第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会
ユリ科 *Bessera elegans* 鱗茎の化学成分と腫瘍細胞毒性		平成 26 年 11 月	第 20 回天然薬物の開発と応用シンポジウム
ユリ科植物の化学成分 (83)*Lilium pumilum* の化学成分と細胞毒性について (2)		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 21 年以前～現在	日本薬学会一般会員		
平成 21 年以前～現在	日本生薬学会一般会員		
	日本がん分子標的治療学会会員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 分子機能解析学教室	職名　助教	氏名　伊集院　良祐

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 26 年 4 月 ～現在	〈化学結合論〉 学期終盤で確認テストを実施し、学習到達度を学生に認識させるようにした。 〈アドバンス英語〉 研究系の論文を教材として、翻訳を行うのではなく文献から得られる情報を英語で理解することに重点を置き行った。 〈科別英語特論〉 英語で書かれた化学の教科書を教材とし、低学年次に学習した内容を英語で記載するとどのようになるかを理解するように行った。 〈科別特論演習・医療衛生薬学演習Ⅰ〉 実際の症例を含む疾病に対する調査研究を行うにあたっての基礎的な学習を行った。 〈物理化学実習〉 1,2 年生で行っている物理化学系の教科に沿った実験を行い、その理解を深めるように行った。また、口頭試問を行い個別に知識を深めるようにしている。 〈物理系ゼミナール〉 科目的に苦手意識を持ちやすいので、基礎教育が薬学的な臨床にどのように生かされているのかを理解させるゼミナールを行った。	
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 26 年 12 月	物理系ゼミナール資料	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年 7 月 14-15 日 平成 26 年 8 月 21 日 平成 26 年 8 月 30-31 日	第 6 回 関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成 WS 研究倫理 e-learning　受講 第 11 回 東京薬科大学長期実務実習のための WS	

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称

（論文）Synthesis of [^{11}C]dehydropravastatin, a PET probe potentially useful for studying OATP1B1 and MRP2 transporters in the liver	共著	平成24年4月	Bioorg. Med. Chem., 20, 3703-3709
（論文）Pd^0-mediated rapid coupling of methyl iodide with excess amounts of benzyl- and cinnamylboronic acid esters: efficient method for incorporation of positron-emitting ^{11}C radionuclide into organic frameworks by coupling between two sp^3-hybridized carbons	共著	平成25年3月	RSC Adv., 3, 9391-9401
（論文）Novel strategy for synthesis of substituted benzimidazo[1,2-*a*]quinolones	共著	平成25年6月	Org. Lett., 14, 3794-3797
(論文)Evaluation of Oatp and Mrp2 activities in hepatobiliary excretion using newly developed positron emission tomography (PET) tracer, [^{11}C]dehydropravastatin, in rats	共著	平成25年8月	J. Pharmacol. Exp. Ther., 347, 193-202
（論文）Synthesis of poly-substituted pyrazolo[1,5-*a*]quinolines through one-pot two component cascade reaction	共著	平成26年2月	Tetrahedron, 70, 2766-2775
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬剤学教室	職名　嘱託助教	氏名　田所　弘子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成26年4月 ～現在	4年生、5年生を対象に英語ゼミを行いました。薬剤師として臨床を意識することが出来るよう、臨床現場で良く読まれている The new england journal of medicine の case records of the massachusetts general hospital を一人一人に課題として与え、英語だけではなく臨床を意識することで薬剤師として働くイメージを植え付けることを工夫しました。 また、4年生、5年生の授業「医療の最前線」で出された課題に対して査読を行いました。6年生になったときに卒業論文がしっかり書けるよう表記の仕方などを一人一人に指導いたしました。 6年生の卒論指導では、学生一人一人が3年間書けて調べ上げてきた内容に対し、理論的にまとめられるよう指導いたしました。発表においては、ポスター形式を用いたため、人間の視線の動きや発表時の人の立つ位置などを意識して、図や文章を配置するよう指導いたしました。
2　作成した教科書、教材、参考書		なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成26年4月 平成27年1月	東京薬科大学　新入教員のためのミニ教育ワークショップ　参加 CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）　Antiproliferative and anti-invasive effects of inorganic and organic arsenic compounds on human and murine melanoma cells in vitro.	共著	平成23年9月	Journal of Pharmacy and Pharmacology Vol. 63, Issue 9,
（論文）　Exosomes derived from	共著	平成25年11月	Journal of Biological

hypoxic leukemia cells enhance tube formation in endothelial cells.			Chemistry Vol. 288, No. 4
（論文） Effects of vitamin K3 and K5 on proliferation, cytokine production, and regulatory T cell-frequency in human peripheral-blood mononuclear cells.	共著	平成 26 年 3 月	Life Sciences Vol. 99, Issues 1-2
（論文） Relation between the tissue structure and protein permeability of decellularized porcine aorta	共著	平成 26 年 6 月	Materials Science and Engineering C, 43, 465-471
（論文） Exosomal miR-135b shed from hypoxic multiple myeloma cells enhances angiogenesis by targeting factor-inhibiting HIF-1	共著	平成 26 年 8 月	BLOOD, 124, 3748-3757
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 病原微生物学教室	職名　助手	氏名　中瀬　恵亮

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 22 年～現在	卒論指導 4 年～6 年通年 配属学生に対して､卒論研究に関する指導を行った。
	平成 22 年～現在	英語ゼミナール 4 年、5 年通年 学生が各自の研究テーマに関連する英語論文を選定し、発表を行った。調べる能力や研究に対する知識をさらに身に着けられるように指導した。
	平成 22 年～現在	医療薬学科別演習 I-i「臨床で活躍する薬剤師を目指して」4 年前期 疾患の系統別小テーマを設け、症例検討などの課題に沿った演習を、PBL のゼミナール方式で行った。スムーズな進行ができ、活発な質疑応答があった。
	平成 22 年～現在	微生物・免疫学実習、2 年後期 基礎的な細菌、細菌ウイルスの取り扱いからスタートし、抗生物質の効力測定などを習得した後、免疫学に関する凝集反応、抗菌反応、アレルギー反応などについて実習を行った。日々の実習終了時に必ず各班の各学生に口頭試問することで、実習の習得を確認、指導している。
	平成 26 年～	1 年生物系ゼミナール、1 年後期 薬学の基礎となる生物学を積極的に学修してもらうために、身近な微生物を課題に SGD およびプレゼンを行った。自由度の高い課題を設定することで調査能力・プレゼン力の向上を図った。
2　作成した教科書、教材、参考書		なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 24 年～現在	本学における OSCE 評価者。

	平成 25 年 2 月	本学における実務実習指導薬剤師養成 WS に参加。
	平成 25 年 5 月	帝京大学における実務実習指導薬剤師養成 WS に参加。
	平成 25 年～現在	実務実習訪問指導 担当病院へ出向いての学生指導
	平成 25 年～現在	研究倫理に関する e-learning を受講。
	平成 26 年 8 月	本学における FD-WS に参加。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Characterization of *Enterococcus* Strains Contained in Probiotic Products	共著	平成 23 年	Biol. Pharm. Bull.34.1469-73
細菌性皮膚感染症に使用されている抗菌薬の抗菌活性の比較ー最小発育阻止濃度(MIC)と最小殺菌濃度(MBC)ー	共著	平成 24 年	臨床医薬 28 巻 65-72
First report of high levels of clindamycin-resistant *Propionibacterium acnes* carrying *erm*(X) in Japanese patients with acne vulgaris	共著	平成 24 年	Journal of Dermatology, 794-6
抗菌薬存在下における活性生菌製剤ビオスリーを構成する菌株の *in vitro* および *in vivo* での生残性	共著	平成 25 年	臨床医薬 29 巻 803-9
Relationship between the severity of acne vulgaris and antimicrobial resistance of bacteria isolated from acne lesions in a hospital in Japan	共著	平成 26 年	Journal of Medical Microbiology,63,721-8

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
浴室環境中の細菌数と細菌種に関する研究	平成 26 年 9 月	日本防菌防黴学会第 41 回年次大会
Rapid Changes in Serotype and Antimicrobial Resistant Profile of Penicillin-nonsusceptible Pneumococci by Introduction of PCV7	平成 26 年 10 月	International Conference on Antimicrobial Research 2014

Trend of bacteria isolated from patients with acne vulgaris in a Japanese university hospital	平成 26 年 10 月	International Conference on Antimicrobial Research 2014
Propionibacterium acnes の新規キノロン低感受性機構の解析	平成 26 年 10 月	第 61 回日本化学療法学会東日本支部大会
健常者およびニキビ患者由来皮膚細菌の薬剤感受性の比較	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
銀翹解毒丸製剤の抗菌活性の検討	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬物動態制御学	職名　助手	氏名　岸本　久直

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成25年9月 ～現在	講義内容は、図表・絵を中心としたパワーポイントで提示し、重要事項は資料に書きこむよう指示ししている。	
2　作成した教科書、教材、参考書		なし	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成26年3月 平成26年4月 4.5日	CITI Japan e-learning プログラム受講 平成 26 年度　東京薬科大学　新入教員のためのミニ教育ワークショップ	

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Effects of Pharmaceutical Excipients on Membrane Permeability in Rat Small Intestine.	共著	平成25年9月	Int. J. Pharm., 453 (2): 363-370.
（論文）Characteristics of Reversible Absorption-Enhancing Effect of Sodium Nitroprusside in Rat Small Intestine.	共著	平成25年7月	Eur. J. Pharm. Sci., 49 (4): 664-670.
（論文）Changes in Absorption and Excretion of Rhodamine 123 by Sodium Nitroprusside.	共著	平成25年6月	Int. J. Pharm., 450 (1-2): 31-35.
（論文）Changes in Protein and mRNA Expression Levels of Claudin Family after Mucosal Lesion by Intestinal Ischemia/Reperfusion.	共著	平成24年4月	Int. J. Pharm., 426 (1-2): 82-89.
（論文）Effects of Pharmaceutical Excipients on Membrane Permeability in Rat Small Intestine.	共著	平成25年9月	Int. J. Pharm., 453 (2): 363-370.
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Changes in drug absorption by		平成26年10月	19th North American ISSX /

pharmaceutical excipients in rat small intestine		29th JSSX Meeting
（演題名）薬物の小腸粘膜透過性に対する各種医薬品添加剤の影響	平成 26 年 5 月	日本薬剤学会第 29 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 臨床薬効解析学教室	職名　助手	氏名　木村　耕二

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成24年～現在 平成24年～現在 平成24年～現在	「医療情報実習」では、医薬品情報ならびに患者から得られる情報の収集、評価、加工などを習得することを目標とし、模擬症例を挙げ、デモンストレーションや実習書、スライドおよびワークシート等の資料を用いて実習を行った。 「医療薬学演習Ⅰ－ⅰ」では、薬剤師の活動に必要な知識、考え方および発表能力を習得することを目標とし、特に眼疾患の薬物療法をテーマとしたグループでの調査・発表形式の演習を行った。 「科別英語特論」では、薬を適正に使用する際に必要となる情報に関する英語論文を読み解く能力を習得することを目標とし、論文の和訳および文中の用語に関して、グループでの調査・発表形式の授業を行った。また、発表の際には随時フィードバックを行い、それを基に修正された資料をまとめた。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成24年～現在	「医療情報実習」: 実習書、説明用のスライド、ワークシート 「医療薬学演習Ⅰ－ⅰ」: 説明用のスライド・プリント 「科別英語特論」: 説明用のプリント、グループで作成した資料のまとめ
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成24年 9月1日、2日 平成24年～現在 平成24年～現在 平成24年～現	第7回東京薬科大学　長期実務実習のためのワークショップ（学内認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ）参加（受講） 実務実習訪問指導：実習先の病院に出向いての訪問指導 薬学共用試験OSCE評価者:本学で実施されたOSCEに評価者として参加 本学主催の FD プログラムおよび教職員セミナー

	在 平成25年～現在 平成25年 6月8日、9日	に積極的に参加した 「CITI Japan e-learningプログラム」受講 平成25年度第3回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）参加（受講）	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Theory-based analysis of anti-inflammatory effect of infliximab on Crohn’s disease and rheumatoid arthritis	共著	平成24年1月	Rheumatol. Int. (vol.32(1))
（論文）Theory-based Analysis of the Anti-inflammatory Effect of TNF Inhibitors on Rheumatoid Arthritis	共著	平成26年6月	Drug Metab. Pharmacokinet. (vol.29(3))
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）TNF・遺伝子 5’-上流領域-857C/T 多型がTNF・の発現に及ぼす影響の検討		平成26年6月	第22回クリニカルファーマシーシンポジウム/医療薬学フォーラム2014
（演題名）片頭痛治療におけるトリプタン系薬剤の頭痛再発抑制に関する理論的評価		平成26年6月	第22回クリニカルファーマシーシンポジウム/医療薬学フォーラム2014
（演題名）非ステロイド性抗炎症薬の臨床用量における血小板凝集抑制作用の定量的評価		平成26年7月	第17回日本医薬品情報学会総会・学術大会
（演題名）スガマデクスナトリウムの作用機序を考慮したロクロニウムおよびベクロニウムへの作用に関する解析		平成26年9月	第24回日本医療薬学会年会
（演題名）新規過活動膀胱治療薬ミラベグロンのβ_3受容体結合占有に基づいた臨床薬効解析		平成26年9月	第24回日本医療薬学会年会
（演題名）プレガバリンの中枢系有害作用の発現に関する理論的解析		平成27年3月	日本薬学会第135年会
（演題名）不眠症治療薬ラメルテオンの理論的解析に基づく臨床薬効評価		平成27年3月	日本薬学会第135年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 医療実務薬学教室	職名　助手	氏名　川口　崇

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年～現在 平成21年～現在 平成22年～現在 平成24年～現在	薬の効き方 IV グループ形式で行なう症例検討の症例作成など 事前実務実習 病棟での初回面談のロールプレイ実習 PBLT 医療における「不確かさ」と「倫理」について症例を用いた PBL にて実施した。Audience response system を使用するなどした。 ゼミナール 一般的な症候や風邪の考え方を複数の症例を用いて実施
2　作成した教科書、教材、参考書	平成25年 その他	薬剤師のための臨床推論（じほう） 薬の効き方 IV、PBLT、ゼミナール資料作成
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成25年9月 平成26年3月 平成26年 平成26年～	医療薬学会にて臨床推論に関するシンポジウム 日本臨床腫瘍学会にて臨床推論に関するシンポジウム 平成 26 年度病院診療所薬剤師研修会における臨床推論に関する講演および資料作成 臨床推論に関する講演（複数）
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成24年8月 平成 25 年 12 月～現在 平成26年～	カリキュラムプランニングのための FD ワークショップ（東京薬科大学）に参加 CITI Japan e-learning プログラム受講 東京都病院薬剤師会　臨床推論推進特別委員会にて臨床推論教育コンテンツ作成と実施

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Preferences for pharmacist counselling in patients with breast cancer: a discrete choice experiment	共著	平成26年 in press	Biological and Pharmaceutical Bulletin
（論文）Oral Nutritional Support Can Shorten the Duration of	共著	平成26年 in press	Nutrition and Cancer: An International Journal

Parenteral Hydration in End-of-Life Cancer Patients: A Randomized Controlled Trial			
（論文）Development and validation of the Japanese version of the Decisional Conflict Scale to investigate the value of pharmacists' information: a before and after study.	共著	平成 25 年 4 月	BMC Med Inform Decis Mak. 2013 Apr 17;13:50
（論文）Determinants affecting quality of life: implications for pharmacist counseling for patients with breast cancer in Japan.	共著	平成 24 年 1 月	Biological and Pharmaceutical Bulletin Vol. 35 (2012) No. 1 P 59-64
（論文） Phase II Trial of Preoperative Chemotherapy for Breast Cancer: Japan Breast Cancer Research Network (JBCRN)-02 Trial	共著	平成 23 年 4 月	ANTICANCER RESEARCH31: 1483-1488 (2011)
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Patient preference trial comparing capecitabine and S-1 in metastatic breast cancer patients.		平成 26 年 5 月	2014 American Society of Clinical Oncology Annual meeting
がん患者の倦怠感と疼痛、QOL に関する観察研究		平成 26 年 6 月	第 19 回日本緩和医療学会学術大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成 21 年～現在	東京腎と薬剤研究会　世話人
平成 24 年～現在	日本病院薬剤師会　診療所委員会　特別委員
平成 25 年～現在	日本腎臓病薬物療法学会　評議員
平成 26 年～現在	東京都病院薬剤師会　臨床推論特別委員会　委員
平成 26 年～現在	日本医薬品安全性学会　評議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 情報教育研究センター	職名　助手	氏名　倉田　香織

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月 ～現在	情報リテラシー演習 医療情報基礎と位置づけ、計算処理能力の向上と文書の取扱い能力の向上の双方向から課題を設定し、医療実務での工夫を毎回紹介している。PCを用いた演習ではTAを配し、2名体制で指導を行っている。授業はWebClass（LMS）を用いて運営している。加えて、演習課題ごとに手順書をプリントで配布するとともに画面遷移がわかるようパワーポイントスライドを参考資料として、WebClass(LMS）にアップしている。初回および最終回に自己評価を実施し、演習における獲得目標の明確化を図っている。提出課題は印刷し、全て赤ペンをいれて返却することで各自のポートフォリオとなるようにしている。質問や感想が記載されている場合には、コメントを返して個々の能力にあわせた指導を行っている。採点結果を参考にして修正したものの再提出を認め、継続的な能力の向上と定着を図っている。最終回には独自に授業評価アンケートを行っている。
	平成21年4月 ～現在	医療情報演習（医療情報実習） シナリオを用いてSGD形式による演習（実習）を行っている。プロダクトはWebClass(LMS）上で公開し、ポートフォリオとしている。 医療薬学科別演習 I-ii 「日本市場から撤退した医薬品を追う」と題して、医薬品の開発から撤退までの情報を網羅的に収集し、分析する授業を実施している。SGDにより進め、必要に応じて情報検索技術を指導するとともに、プレゼンテーション能力の向上をはかっている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年8月 平成21年3月 平成22年3月	医療情報評価学 医療情報リテラシー　演習編（改訂版） 医療情報リテラシー　演習編（上巻）

		医療情報リテラシー　演習編（下巻）	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 22 年 3 月	日本薬学会第 130 年会において「地域社会での体験が学生の人間知を高める（東京薬科大学学生支援 GP 地域交流プロジェクト活動報告)」を報告した。	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年 10 月～現在 平成 21 年 12 月 平成 24 年 4 月～現在 平成 26 年 3 月～現在	学生支援 GP および学生支援委員会委員として小学校との連携授業を実施している。 実務実習指導薬剤師養成 WS に参加 実務実習訪問指導（神奈川県立汐見台病院） CITI Japan e-learning プログラム受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書)チーム医療を円滑に進めるための CDTM ハンドブックー問題解決のための手順書ー	共著	平成 22 年 10 月	日本薬剤師会
（著書）食物アレルギーA to Z―医学的基礎知識から代替食献立まで	共著	平成 22 年 10 月	第一出版
（論文） Automatic Extraction of Drug Interactions in the Cytochrome P-450 Enzyme System from Prescription Drug Labels and Preparation of Database	共著	平成 23 年 3 月	薬局薬学　vol.3. No.1
（論文） Survey of the Actual Conditions of Prescription and Adverse Events of Benzodiazepin Hypnotics (2000 - 2009)	共著	平成 23 年 9 月	薬局薬学　vol. 3. No.2
（論文） Design of assessment tools for health literacy available to pharmaceutical care in community pharmacy	共著	平成 25 年 4 月	薬局薬学　vol. 5. No.1
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） OTC 医薬品購入のための薬局でのアドバイスに関するアンケート調査		平成 26 年 6 月	第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム
（演題名）OTC 医薬品説明文書の理解度に影響を及ぼす要因の検討		平成 26 年 6 月	第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム

（演題名）一般用医薬品の適正使用を指向した一般生活者のヘルスリテラシーの調査研究	平成 26 年 7 月	第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会
（演題名）地域薬局分布と年齢別人口構成に関する小学校区レベルでの GIS 解析	平成 26 年 11 月	第 12 回日本セルフメディケーション学会
（演題名）医療機関、地域薬剤師会、大学との地域連携による 禁煙治療 CDTM(共同薬物治療管理)	平成 26 年 11 月	第 8 回日本禁煙学会学術総会
わが国における地域薬局分布と高齢化率との相関に関する GIS 解析	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
（演題名）地域の医師と薬剤師の文書合意に基づく薬物治療管理 : 第 2 報　CDTM/J 笠間モ デルの実践	平成 27 年 3 月	日本薬学会　第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬化学教室	職名　助手	氏名　中島　康介

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 25 年 4 月 ～現在	基礎有機化学実習（1 年次後期） 有機化学の学習に必要な基礎的実験を行い，有機化合物の取り扱い方法，分離法，精製法，物性値の測定法，構造確認法などについて，原理を理解して基本的な技能を習得する。
	平成 25 年 4 月 ～現在	医薬品合成実習（3 年次後期） 有機化学および医薬品化学講義で修得する知識を基礎として，有機化学反応を組み合わせて医薬品を合成し，医薬品合成法の基礎的知識と技能を習得する。
	平成 25 年 4 月 ～現在	ラボラトリー演習（5～6 年次） まず，数週間の実験結果をまとめて発表するリサーチセミナーを定期的に実施すし，さらに，卒業論文発表会に向けた中間発表会を開催し，学生自身の卒業論文作成のためのスキルを習得する。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 25 年 4 月 ～現在	基礎有機化学実習（1 年次後期） 講義資料(パワーポイントファイル)
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 3 月 平成 26 年 4 月	CITI Japan e-learning プログラム受講 新入教員のためのミニ教育ワークショップ（東京薬科大学）に参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Perfluoroalkanesulfonamide Organocatalyst for Asymmetric Conjugate Additions of Branched Aldehydes to Vinyl	共著	平成 25 年 10 月	Molecules, 18, 14529-14542 (2013).

Sulfone.			
（論文）Pyrrolidine-diaminomethylenemalononitrile organocatalyst for Michael additions of carbonyl compounds to nitroalkenes under solvent-free conditions.	共著	平成 26 年 4 月	Tetrahedron Lett., 55, 2703-2706 (2014).
（論文）Solvent-free asymmetric conjugate addition of malonates to enones using a diaminomethylenemalononitrile organocatalyst.	共著	平成 26 年 6 月	Tetrahedron Lett., 55, 4334-4337 (2014).
（論文）Asymmetric Conjugate Addition of Malonate to α,β-Unsaturated Ketones in Water Using Sulfonamide Organocatalyst.	共著	平成 26 年 7 月	Tetrahedron: Asymmetry, 25, 974-979 (2014).
（論文）Cinchona-Diaminomethylenemalononitrile Organocatalyst for Asymmetric Michael Addition of 1,3-Diketone to Nitroalkene.	共著	平成 26 年 7 月	Tetrahedron Lett., 55, 4619-4622 (2014).
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ジアミノメチレンマロノニトリル型有機触媒を用いたケトンとアルデヒドとの立体選択的アルドール反応		平成 26 年 7 月	創薬懇話会 2014
（演題名）新規フルオラス有機分子触媒を用いた立体的炭素-炭素結合形成反応の開発		平成 26 年 9 月	フルオラス科学研究会第７回シンポジウム
（演題名）ピロリジン-ジアミノメチレンマロノニトリル型有機触媒を用いた不斉反応		平成 26 年 11 月	第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム
（演題名）ジアミノメチレンインデンジオン触媒を用いたケトンのマレイミドへの不斉共役付加反応		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）有機分子触媒を用いる不斉 direct		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会

vinylogous aldol 反応の開発		
（演題名）有機分子触媒を用いる不斉 Pudovik 反応の開発	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
（演題名）tert-ブタンスルホニル基を有するプロピンアミド誘導体のエンイン閉環メタセシスによるラクタム環の構築	平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 分子細胞病態薬理学教室	職名　助手	氏名　丸ノ内　徹郎

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 21 年 4 月～現在	医療系実習Ⅱ　薬理学実習（4 年次前期） 実験動物を用いて臓器レベルあるいは個体レベルでどのような機序を介して薬物の効果が発揮されるのかを態度および技能の点から理解し，講義・演習で得た知識と効果的に連動させることを目的としている．実習後アンケートを実施し，指導内容の改善に努めている．
	平成 23 年 4 月～現在	科別特論・演習 科別英語特論 当研究室で過去に執筆された英語論文を用いて，英文の読解および内容の理解ができるように輪読あるいは発表などを繰り返し行った．
	平成 23 年 4 月～現在	アドバンス英語 研究で必要とされる実用的英語力を身に付けるために，教員および卒論生が，科学の最新原著論文を紹介し，その内容や創薬研究の動向について検討した．
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 4 月～現在	医療系実習Ⅱ　薬理学実習（4 年次前期） 薬理学実習書を用いた．補足資料および講義用プリントを別に準備した．
	平成 23 年 4 月～現在	科別特論・演習 科別英語特論 アドバンス英語 最新の原著論文とそれをもとに作成した補助プリントを用いた．
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 21 年度～現在	OSCE 評価者
	平成 26 年 3 月～現在	CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Phenotype of cardiomyopathy in cardiac-specific heat shock	共著	平成 24 年 3 月	J. Biol. Chem., 288 (13)

protein B8 K141N transgenic mouse.			
（論文） Possible involvement of HSP90-HSF1 multichaperone complex in impairment of HSP72 induction in the failing heart following myocardial infarction in rats.	共著	平成 24 年 11 月	J. Pharmacol. Sci., 123 (4)
（論文） Possible involvement of phosphorylated heat-shock factor-1 in changes in heat shock protein 72 induction in the failing rat heart following myocardial infarction.	共著	平成 24 年	Biol. Pharm. Bull., 36 (8)
（論文） Changes in small heat shock proteins HSPB1, HSPB5 and HSPB8 in mitochondria of the failing heart following myocardial infarction in rats.	共著	平成 24 年	Biol. Pharm. Bull., 36 (4)
（論文） Protective effect of geranylgeranylacetone via enhanced induction of HSPB1 and HSPB8 in mitochondria of the failing heart following myocardial infarction in rats.	共著	平成 25 年 3 月	Eur. J. Pharmacol., 730
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ラット梗塞心でのミトコンドリア呼吸能低下への stem cell antigen-1 陽性心筋前駆細胞移植の効果		平成 27 年 3 月	日本薬理学会
（演題名）ラット梗塞心への cardiosphere 由来細胞移植の効果とその作用機序		平成 27 年 3 月	日本薬理学会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］ １　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 分子細胞病態薬理学教室	職名　嘱託助手	氏名　永尾　暢子

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 25 年～現在	薬理学実習	
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 25 年～現在	薬の効き方Ⅲ教材作成補助 薬理学実習用教材作成補助	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 25 年度 10 月 平成 25 年度 12 月 平成 25 年 12 月～ 平成 26 年 12 月	OSCE 評価者養成講習会 OSCE 評価者 研究倫理の e-learning 受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月 （和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
なし			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 製剤設計学教室	職名　助手	氏名　茨木　ひさ子

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 26 年	創薬学実習（3 年後期） 演習問題、口頭試問等を毎回行い、学生の理解定着に努めている。 出席、実習態度、レポート、実習試験から作成した資料をもとに総合的に成績を評価している。	
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 26 年	平成 26 年度　東京薬科大学薬学部薬学基礎実習教育センター　創薬学実習実験書	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 4 月 平成 27 年 2 月	東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ受講 第 12 回 東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
なし			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）機能性ペプチド AT1002 修飾リポソームによる siRNA 皮内透過性向上及び透過経路の解明		平成 26 年 11 月	第 20 回創剤フォーラム 若手研究会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 薬品製造学教室	職名　助手	氏名　山口 悟

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 26 年 7 月 ～現在	医療薬物薬学科演習Ⅱ－ｉラボラトリー演習 （５・６年教室所属卒論生） 有機合成化学の専門知識向上と研究遂行力の向上を目指し，各人の最新研究成果のプレゼンテーションと討論を行なった。説明能力向上のため，学会等への参加機会を増やすよう心掛けている。 医療薬物薬学科演習Ⅱ－ii 学術論文演習 （5・6 年教室所属卒論生） 有機化学分野の基礎学力向上を目指し，ウォーレン有機化学の輪読およびその内容の議論を行った。学生間での学力差大きく，可能な範囲で個別に対応するよう努めている。 科別英語特論（4 年教室所属卒論生） 有機化学の基礎学力および英文読解力の向上を目指し，基礎有機化学の英文教科書の輪読を行なった。英語力の養成には時間をかけて取り組む必要があり，卒論生には日々研究を進めていく中で英語文献の調査をしてもらっている。 アドバンス英語（5 年教室所属卒論生） 有機合成に関する専門的学力および英文力の向上を目指し，イギリス化学会出版の有機立体化学に関する英文教科書の輪読を行なった。英語力の養成には時間をかけて取り組む必要があり，卒論生には日々研究を進めていく中で英語文献の調査をしてもらっている。 卒論研究指導 4 年生 A コース学生（実験系）については，3 年生の 3 月上旬から，B コース学生（非実験系）は共用試験終了後の平成 27 年 1 月から本格的な卒論活動を開始した。5 年生 A コース（実験系）については実務実習期間（5 ヶ月間）を除いた期間

	平成 26 年 9～10 月	を研究室での研究活動とした。5 年生 B コース（非実験系）については実務実習期間（5 ヶ月間）および講義を除いた期間を原則として研究室での研究活動とし，卒論指導担当教員の直接的な個別指導を展開している。A コース生は実験研究活動が中心で，さらにアドバンス英語のセミナーや実験報告を行う。B コース生は卒論テーマに関連した文献の調査とまとめ作業が中心である。 基礎有機化学実習（１年次後期必修） 基本的な実験操作（ガラス細工，薄層クロマトグラフィーによる分離分析，蒸留や分液ロート，カラムクロマトグラフィーによる分離）を学習した後，有機化合物の合成実験を行った。	
２　作成した教科書、教材、参考書		なし	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 10 月 平成 26 年 12 月	研究倫理の e-learning 受講 OSCE 評価者	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
なし			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
アトロプジアステレオ選択的ラクトン化反応による軸不斉ビフェニルの立体選択的合成法		平成 26 年 10 月	第 58 回日本薬学会関東支部大会
ゴミシン類の合成を指向した光学活性ジベンゾシクロオクタジエン誘導体の立体選択的合成法		平成 26 年 11 月	第 68 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム
ラクトン架橋鎖に第３級アルコール由来の不斉中心を含む軸不斉ビフェニルの立体選択的合成法の開発		平成 27 年 3 月	日本化学会第 95 回春季年会
アトロプジアステレオ選択的ラクトン化反応の開発		平成 27 年 3 月	日本化学会第 95 回春季年会
ゴミシン類の合成を指向したジベンゾシクロオクタジエン誘導体のエナンチオ選択的合成法		平成 27 年 3 月	日本化学会第 95 回春季年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
	なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 生物分子有機化学教室	職名　助手	氏名　太田　浩一朗

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成20年～現在	[化学系実習Ⅰ]基礎有機化学実習(1 年次後期)基礎的実験を行い有機化合物の取扱、分離、精製法等について学ぶ [化学系実習Ⅱ]有機化学実習(2 年次前期)種々の官能基を有する化合物の多様な性質と反応性について学ぶ [化学系実習Ⅲ]医薬品合成実習(3 年次前期)講義で習得した知識を基礎として、医薬品合成法の基本的知識について学ぶ
２　作成した教科書、教材、参考書		なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成26年～現在	研究倫理の CITI Japan e-learning プログラム受講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Stereocontrolled One-pot Synthesis of Cycloalkane Derivatives Possessing a Quaternary Carbon Using Allyl Phenyl Sulfone	共著	平成21年10月	Tetrahedron, **65**, 8668-8676
（論文）Total Synthesis and Absolute Configuration of the Marine Norditerpenoid Xestenone	共著	平成21年11月	Mar. Drugs, **7**, 654-671
（論文）Briaroxalides: Novel Diepoxybriarane Diterpenes from an Okinawan Gorgonian*Briareum* Sp.	共著	平成24年12月	Heterocycles, **85**, 135-145
（論文）Total Synthesis of Marine Eicosanoid (-)-Hybridalactone	共著	平成24年9月	Chem. Eur. J., **18**, 13531-13537

（論文）First total synthesis of (-)-sinularianin B	共著	平成 25 年 7 月	Chem. Commun., **49**, 8148-8150
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
沖縄産海綿由来の新規ジテルペンイソシアニドの単離，構造および合成		平成 26 年 9 月	第 58 回香料・テルペンおよび精油に関する討論会
三環性ポリケチド Ascospiroketal の合成研究		平成 26 年 11 月	第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム
海産ペンタノルジテルペノイド Elisabethin H の合成研究		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
南シナ海産軟体サンゴ由来の三環性トリノルジテルペノイド Chabrolol C の合成研究		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
遺伝情報制御化合物としてイミダゾールポリアミドを含むオリゴヌクレオチドの合成と評価		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
ナフタレンジイミド誘導体で修飾されたオリゴヌクレオチドの合成と評価		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
三環性ポリケチド Ascospiroketal B の合成研究		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 中央分析センター	職名　助手	氏名　深谷　晴彦

Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		なし	
２　作成した教科書、教材、参考書		なし	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 2 月 ～現在	CITI Japan e-learning プログラム受講	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）　Cluster composition distributions of pure ethanol: influence of water and ion-molecule reactions revealed by liquid-ionization tandem mass spectrometry	共著	平成 25 年 1 月	Mass Spectrometry, 2, A0015/1-A0015/8
（論文）　Structures of stemona-amine B and stemona-lactams M-R	共著	平成 25 年 7 月	Tetrahedron, 69, 6297-6304
（論文）　structures of stemona-lactam S and tuberostemospiroline, alkaloids from Stemona tuberosa	共著	平成 25 年 10 月	Chem. Pharm. Bull., 61, 1085-1089
（論文）　A New Bis-seco-abietane Diterpenoid from Hyptis crenata Pohl ex Benth	共著	平成 26 年 11 月	Org. Lett., 16, 6188-6191
（論文）　Identification of N,N-bis(1-pentylindol-3-yl-carboxy)naphthylamine (BiPICANA) found in an herbal blend product in the Tokyo metropolitan area and its cannabimimetic effects evaluated by in vitro [35S]GTPγS	共著	平成 27 年 1 月	Forensic Toxicol., 33, 84-92

binding assays			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ビャクブコンより得られた新規 stemoninoamide 型アルカロイドの絶対構造について		平成 26 年 9 月	日本生薬学会 第 61 回年会
（演題名）危険ドラッグに含まれる合成カンナビノイド 5-Fluoro AMB のＸ線		平成 27 年 3 月	日本薬学会 第 135 回年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成 17 年 4 月～平成 24 年 3 月	有機微量分析研究懇談会標準試料検定小委員会委員		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 中国医学研究室	職名　助手	氏名　山田　哲也

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 25 年 9 月～現在 平成 26 年 6 月	東洋医学概論(3 年次選択) スライドを中心に、中医学の基礎理論や診断学、方剤学などを行う講義の補助。 総合ゼミナール(2 年次選択) 中医学理論に基づき体質を考え、自己健康管理への結びつきを問う授業を行う。体質を見るために舌の観察は、学生から高評価である。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成 25 年 9 月～現在	教材：東洋医学概論講義テキスト、講義用パワーポイントを作成
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 26 年 9 月	第９回関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ参加(受講)
４　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成25年～現在 平成25年～現在 平成25年～現在 平成25年～現在 平成25年～現在 平成25年～現在 平成 26 年 8 月	薬学共用試験 OSCE 評価者 実務実習コーディネーター(5 年次)：実務実習先の指導薬剤師と教育内容について意見交換、学生への実習への指導を行った。 研究倫理の e-learning への受講 薬学部 FD 活動への参加 NHK 学園通信講座(漢方薬膳講座)添削指導評価者 NHK 学園通信講座(経絡ツボ講座)添削指導評価者 中国医学研修：4 年次・5 年次の学生を対象に中国長春中医薬大学への短期留学研修を行った。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
なし			

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
銀翹解毒丸製剤の抗菌活性の検討	平成 27 年·3 月	日本薬学会 第 135 年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成 25 年 11 月～平成 26 年 3 月	日本社会薬学会 選挙管理委員会 委員長
平成 26 年 4 月～現在	東京薬科大学附属社会医療研究所 中国医学実践講座 講師

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 内分泌・神経薬理学教室	職名　助手	氏名　桑原　直子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 26 年～	薬理学実習（4 年前期） 鎮痛薬の作用について実習と演習を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書		なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 26 年 4 月 平成 26 年 6 月 平成 26 年 6 月 ～ 平成 26 年～ 平成 26 年～	平成 26 年度 東京薬科大学 新入職員のためのミニ教育ワークショップ参加 薬学入門演習Ⅰ 早期体験学習のポスター作成指導 実務実習先（関東労災病院および大船中央病院）訪問指導 CBT 実施委員会委員 OSCE 評価者（学内）

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Simple column-switching HPLC method for determining levels of the antifungal agent micafungin in human plasma and application to patient samples.	共著	平成 24 年 8 月	Biomedical Chromatography, 27(5), 551～555
（論文）選択的固相抽出法を用いるイソペンテニルピロリン酸とジメチルアリルピロリン酸との合量の LC/MS/MS 定量	共著	平成 25 年 5 月	分析化学、62(8)、731～735
（論文）Detection of CYP2C19 gene polymorphism from noninvasive samples by cycling probe technology.	共著	平成 23 年 2 月	Annals of Clinical Biochemistry, 51(Pt 2), 298～300

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）ヒト子宮内膜間質細胞の機能に及ぼす α_1-アンチトリプシン発現抑制の効果	平成 26 年 6 月	第 72 回西東京内分泌代謝研究会

（演題名）ラット妊娠子宮の脱落膜化における Epac シグナル関連因子の役割	平成 26 年 6 月	第 72 回西東京内分泌代謝研究会
（演題名）副腎皮質細胞のコルチゾル産生に対するリンゴ葉成分の影響	平成 26 年 7 月	第 130 回日本薬理学会関東部会
（演題名）副腎細胞からのホルモン分泌に対するリンゴ葉成分の影響	平成 26 年 8 月	生体機能と創薬シンポジウム 2014
（演題名）栄養膜細胞のホルモン産生における cAMP と Ca^{2+}の関係	平成 26 年 10 月	第 22 回日本胎盤学会学術集会
（演題名）ヒト胎盤栄養膜細胞の分化における細胞内 Ca^{2+}イオンの役割	平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会
（演題名）ウシ副腎皮質細胞のコルチゾル産生に対するリンゴ葉成分フロレチンの作用	平成 27 年 3 月	第 88 回日本薬理学会年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室・研究室名 分子機能解析学	職名　助手	氏名　加藤　淳也

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成 24 年～25 年 平成 26 年～現在	分析化学・物理化学実習：物理化学実習担当 分析化学・物理化学実習：物理化学実習担当
2　作成した教科書、教材、参考書	平成 24 年～25 年 平成 26 年～現在	物理化学実習書 物理化学実習書
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む）	平成 24 年～現在 平成 24 年 5 月 平成 25 年 9 月 平成 26 年 1 月～現在	研究室配属学生に対して，研究指導を行っていることはもとより、不定期に薬剤師国家試験対策を行っている。 第1回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（受講） 第9回学内実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(受講) 研究倫理 CITI Japan e-learning（受講）

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月（和暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Development of a new cascade reaction for convergent synthesis of pyrazolo[1,5-*a*]quinoline derivatives under transition-metal free conditions	共著	平成 24 年 12 月	Org. Biomol. Chem., vol. 11, No. 7, 1171-1178.
（論文）A catalyst-free, three-component decarboxylative coupling of amino acids with aldehydes and *H*-dialkylphosphites for the synthesis of α-aminophosphonates.	共著	平成 25 年 6 月	Tetrahedron Lett., vol. 54, 4872-4875.
（論文）Novel Strategy for Synthesis of Substituted Benzimidazo[1,2-*a*]quinolines	共著	平成 25 年 7 月	Org. Lett., vol. 15, 3794-3797.
（論文）Synthesis of poly-substituted pyrazolo[1,5-	共著	平成 26 年 4 月	Tetrahedron, vol 70, 2766-2775.

a]quinolines through one-pot two component cascade reaction			
（論文）Design and synthesis of 5-[(2-chloro-6-fluorophenyl)acetylamino]-3-(4-fluorophenyl)-4-(4-pyrimidinyl)isoxazole (AKP-001), a novel inhibitor of p38 MAP kinase with reduced side effects based on the antedrug concept	共著	平成 26 年 6 月	Bioorg. Med. Chem., vol.22, 4162-4176.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）多置換[1,2,4]トリアゾロ[1,5-*a*]キノリン類の新規合成法の開発		平成 26 年 9 月	複素環化学討論会（第 44 回）
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
なし			

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。